は尚二女巻子（大一一、一生）あり（東京、小石川、原町三一）

大槻　正人　從五位勳五等、陸軍教授、陸軍士官學校教官、東京府在籍

妻　たか　明三二、六生、東京、川上重次妹
男　太郎　大一〇、一一生
女　愛枝　明四三、三生

君は宮城縣人大槻靖の二男にして明治十五年一月を以て生る同三十六年東京外國語學校獨語科を卒業し東京府立第一中學校教諭を經て大正二年陸軍教授に任じ大阪地方幼年學校附士官學校豫科附等に歴補し大正十四年現職に補せられ現在に至る家族は尚ほ弟謹人（明三〇、一生）同妻その子（同三四、一二生、東京、宮本菊之助養子）及其一女亡兄壽人妻時子（同二三、七生、高知、別役良顯二女）同長女千鶴子（大元、一二生、現戸主）同二女壽子（同三、一二生）あり（東京、牛込、若松町五八）

大槻滿次郎　正五位勳五等、醫學博士、醫院醫官、關東廳大連婦人醫院長、京都府在籍

妻　たつ　明二五、一生、山梨、小野實六女
男　茂雄　大三、一生
女　利　大元、一二生
女　昌　大四、九生

君は京都府人安達牛次郎の弟にして明治八年十月を以て生れ後大槻理右衛門の養子となり大正六年養兄常吉方より分れて一家を創立し前名萬次郎を改む明治三十年京都府立醫學校を卒業し北海道函館藤野病院醫員を經て北海道渡島に醫を開業し同三十九年東京醫學校講師となり獨逸來文部省醫術開業試驗附屬病院醫員關東都督府醫院醫務囑託日本赤十字社關東州病院醫員囑託關東都督府醫院醫員を經て現に前記の職にあり大正十一年醫學博士の學位を受け同年在外研究員となり歐米に留學を命ぜらる家族は尚二男雄次（大七、一生）四女富（同一〇、一〇生）あり（大連、清水町一電七三二八）

大築　佛郎　麹町高等女學校主、東京府在籍

妻　初枝　明二〇、五生、岡山、士、森敎樹
姉　邦雄　明四四、一二生
女　尚子　明四三、五生

大坪　米藏　大坪酒造資代表社員、福岡縣在籍

妻　トク　明元、一一生、長崎、佐藤春濤二女
男　駒三郎　明二一、一一生
婦　靜江　明二五、三生、長男駒三郎妻、福岡、小川常助長女
養子　嘉市　明二八、一生、二女トミ夫、福岡木下熊五郎三男
トミ　明三〇、四生、養子嘉市妻

君は福岡縣人川原駒藏の二男にして文久元年九月を以て生れ先代清作の養子となり明治十八年家督を相續す現時大坪酒造會社代表社員たり家族は尚孫藏雄（大三七生、長男駒三郎長男）同優（同六、七生、同二男）同トシヱ（同九、三生、同二女）同浩（同一一、一生、同三男）同文子（同一四、三生、同三女）同力（昭三、二生、同四男）同清二（大九、三生、養子嘉市長男）同得二（同一〇、六生、同二男）同淳二（同一二、一生、同三男）あり長女ミト（明二四、八生）は靜岡縣人杉山愛一に嫁し孫縫子（同四五、二生、長男駒三郎長女）は長崎縣人久田新吉の養子となれり（福岡、山門、瀦高町）

大寺　純藏　正五位勳三等、男爵、貴族院議員、白耳義協會々頭、東京府華族

當家は先々代安純より顯る安純は舊鹿兒島藩士にして戊辰の役鳥羽伏見より東北の野に轉戦して功あり明治四年陸軍少尉に任じ陸軍少將に累進す齊彌征討西南の役並に從軍し日清の役には第十一旅團長として出征し名譽の戦死を遂ぐ先代千代太郎其後を享け同二十八年父の勳功に依り華族に列し男爵を授けらる君其後を嗣ぐ君實は伯爵川村鐵太郎の弟にして明治五年六月を以て生れ大正十二年選定に因り先代の家督を相續し爵位を襲す彙に内閣總理大臣祕書官日本勸業銀行理事等に擢げられ現時貴族院議員にして公正會に屬す先代千代太郎姉譜子（明九、一二生）は長野縣士族和田連次郎に同浪花（同一二、六生）は三重縣士族小坂平に嫁せり（東京、麹町、永田町二ノ六〇電銀座八七五）

參照＝伯爵川村鐵太郎、小坂平家伯爵柳原義光家男爵大久保光野家男爵西竹一家三井守之助家阪本彰之助の項

大土井　源　從五位勳六等、金澤高等工業學校教授、生徒主事、岡山縣在籍

妻　こと　明二六、五生、宮城、小林運一郎姉、宮城縣立第一高女出身

君は岡山縣人大土井晉孜郎の長男にして明治十七年六月を以て生れ大正十四年家督を相續す明治十二年青山學院高等科卒業大正四年東京帝國大學文科大學英文科を卒業し愛知一中東京三中横濱二中宮津中學の教諭を經て同十年金澤高等工業學校教授に任じ同十二年英米獨佛に留學し同十四年歸朝し昭和四年生徒主事に補せらる家族は尚長女壽美（大六、八生）二女睦（同八、四生）三女昌子（同一二、二生）四女玉枝（昭三、一生）五女瑠枝（同四、七生）弟由之（明二九、一生）同妻まさの（同三九、六生）及其二子あり（金澤、上石引町一〇二）

大歳　榮次　亞細亞林業燕常務取締役、北海道在籍

妻　ますゑ　明二八、九生、穴田寅吉二女
養子　榮一　大四、三生、兵庫、大歳榮藏四男
庶子　マサ　大五、五生、生母、田中チヨ

君は兵庫縣人大歳安次郎の四男にして明治十七年十一月を以て生れ大正四年兄榮藏方より分れて一家を創立す現時前記會社の重役たり（東京市外中野町八九八）

大友　赤松　丸屋、質商、東京府在籍

妻　小富　明一五、七生、東京、一栄勇進姉
男　仁三郎　明二二、八生
婦　美彌　明二三、七生、二男仁三郎妻、東京、鳥海榮助姉
孫　喜代子　明四四、三生、二男仁三郎長女
孫　富美子　大二、五生、二男仁三郎二女

大鳥富士太郎　從三位勳三等、男爵、貴族院議員、東京府華族

妻　ヨシ　明八、一一生、東京、士、齋藤力姉、御茶の水高女出身
男　圭三　明三六、九生、從五位
男　隣三郎　明四一、三生
男　豐彦　明四二、一〇生
女　ユリ　明四五、六生
女　スミ　大三、五生

當家は先代圭介より顯る圭介は播州の人にして江川太郎左衛門に兵學を學び更に佛人に洋式訓練を受け幕臣

女　登美子　大四、八生
養子　八重　明三六、一一生、男爵田中龍夫養姉

君は故陸軍中將大築尚志の四男にして故工學博士大築千里の弟なり明治十二年二月を以て生れ同三十九年分れて一家を創立す同三十五年東京帝國大學理科大學地質學科を卒業し東洋大學に教鞭を執る同三十八年麹町高等女學校を創立し校主として現在に至る家族は尚三女澄江（大七、一二生）四女美枝子（同一一、七生）五女典子（昭三、八生）あり姉とら（慶應二、六生）は東京府人三浦荒次郎に同すわ（同九、一二生）は第一火災海上保險會社々長御莊太郎に妹やつは前京城高等女學校長坪内孝に嫁し姉ステ（同七、八生）は男爵田中龍夫の母たり（東京、四谷、右京町一四ノ五號電四谷二四三〇）

參照＝男爵田中龍夫、森敎樹、御莊太郎家片山繁雄家橋本勝太郎家森彦三の項

大坪　岩次郎　鹿兒島縣商店整取締役、百四十七銀行整監査役、米穀商、鹿兒島縣在籍

妻　サト　明二、五生
養子　俊雄　昭四、一生、鹿兒島、德田岩次郎孫
女　ハル　明二九、六生

君は鹿兒島縣人大坪嘉次郎の弟にして安政六年二月を以て生れ明治二十一年分れて一家を創立す米穀商を營み鹿兒島縣多額納稅者にして現時前記銀行會社の重役ネ（明三三、四生）は鹿兒島商工會議所常議員たり家を鹿兒島市汐見町五七）

參照＝家林平作の項

大坪　俊次郎　十五銀行整人形町支店長、宮崎縣士族

養母　ユキ　明三、三生、宮崎、士、田中東穂三女、現戸主
妻　八重　明三四、二生、青森、對馬好道妹
男　宣雄　香陽女學校出身　昭二、一生

君は宮崎縣人山下虎雄の二男同祥一郎の弟にして明治二十六年十月を以て生れ大正九年叔母大坪ユキの養子となる同六年東京帝國大學法科大學法律學科を卒業し十五銀行に入り同十年銀行業務研究の爲英米兩國に出張を命ぜられ同十二年歸朝し現時同行人形町支店長たり家族は尚四男孝雄（昭三、一二生）あり（東京、芝、白金今里町八九電高輪一七〇三）

參照＝山下祥一郎の項

大坪　宗一郎　飛驒縣行整取締役、岐阜縣士族

男　省一　明一七、五生、現戸主
婦　よね　明二二、六生、長男省一妻、岐阜川島專治郎長女
孫　稲子　明四四、二生、長男省一長女、梅花高女出身

君は岐阜縣士族大坪寛近の長男にして安政四年七月を以て生れ後家督を相續し大正十二年退隱す現時飛驒銀行取締役たり家族は尚孫稔（大二、九生、長男省一長男）同收（同八、二生、同二男）同早苗（同一二、一〇生、同二女）同倉子（同一五、一二生、同三女）同登（昭五、八生、同三男）あり（岐阜、大野、大名田町）

大坪　武門　正七位、權中敎正、皇典講究所評議員、東京府在籍

妻　きよい　明二六、三生、富山、清水清一郎長女、淑德高女出身
男　藤齊　明四五、四生
女　槙子　明四三、一生、雙葉高女出身

當家は累代富山縣の素封家にして遠く清原賴業に出で畠山管頭に仕へ畠山氏能登の守護職となるや共に能登に下れり君は先代縣會議員大坪三郎の長男にして明治十六年二月を以て生れ大正五年家督を相續し前名藤朔を改む先是明治四十四年日本大學法科を卒業し宮内省に奉職して大正三年大喪使祭官補となり同四年先帝御即位禮當時京都行幸に供奉して大禮記念章を下賜せらる同九年神宮神部署主事に任ぜられ同十三年官を辭し現時富山縣に於て耕地整理組合申請の代表者たり彙に氷見銀行取締役神宮奉齋會講師東京第二地區劃整理委員たりし事あり歌文に秀いで齋藤彌九郎傳前田利家公傳等の著作あり家族は尚二男芳臣（大四、七生）三男威臣（同七、一〇生）四男斐彦（同一三、一生）二女楷子（昭二、一生）三女淑子（同四、七生）あり（東京、麹町、飯田町五ノ一二電九段一二三三）

大坪　正吉　財團法人日本美術協會評議員及第一部委員、官幣大社春日神社總代、日本書家、東京府士族

妻　俊榮　明一二、一生、奈良、士、大東延慶三女

に列し戊辰の役復本武揚と共に函館五稜廓に據り聽名を驍す歸順の後獄に在ること二年赦されて官途に就き爾來工部大書記官工部大學校長元老院議官學習院長兼華族女學校長清國朝鮮國各駐割特命全權公使樞密顧問官等に歷任し明治三十三年勳功に依り華族に列し男爵を授けらる君は其長男にして慶應元年十二月を以て生れ明治四十四年襲爵す同二十三年帝國大學法科大學英法科を卒業し翌年外交官及領事官試驗に及第臺灣總督府民政局參事官兼臺北支廳長同總督祕書官總領事外務書記官外務省參事官墨國駐割特別全權公使等に歷任す現時貴族院議員にして公正會に屬す二女アヤ（明三四、五生、聖心女子學院出身）は山口縣人河上邦彦長男徹太郎に異母妹鴻（同二九、五生）は神奈川縣人田中善三郎に同玉枝（同三五、二生、東洋英和女學校出身）は東京府人柳谷午郎に嫁せり（神奈川、足柄下、國府津町、東京、牛込、市谷加賀町二ノ一三電牛込二二四七）

參照＝河上邦彦、齋藤力の項

大中道克彌

從五位勳六等、營林局技師、大阪營林局計畫課長、三重縣在籍

妻　さえ　明二五、四生、三重、福永友諒妹　奈良女高師地歷科出身

君は三重縣人大中道莊太郎の三男にして明治十六年十月を以て生れ同三十七年分れて一家を創立す同四十四年東京帝國大學農科大學林學科を卒業し林務技手に任じ爾來山林技手同技師等を經て大正十四年營林局技師となり秋田高知各營林局利用課長熊本營林局計畫課長等に歷補し現に前記の職に在り家族は尚ほ長女美江子（大六、六生）あり（大阪市大阪營林局內）

大仲齋之助

三越呉本店通信販賣係長　三重縣在籍

妻　ヤスヱ　明二七、四生、東京、中村武治妹

男　一太郎　大八、六生

女　光　大五、九生

君は三重縣人大仲卯市の二男にして明治十八年四月を以て生れ同三十九年家督を相續す現時三越本店通信販賣係長たり家族は尚ほ男貞吉（大一二、一生）三女靜江（同一四、一生）あり姉さい（明一〇、七生）は三重縣人廣垣辰吉に妹こさい（同二五、一生）は同縣人大仲政治郎に嫁し弟齋太郎（同二一、一〇生、電氣化學工業會社商務課長）は分家せり（東京、赤坂、新坂町六九）

大繩久勝

國光生命保險（互）東京支部長　秋田縣士族

養母　タミ　慶應元、四生、秋田、士、秋山直孫

妻　ヒサ　明一七、七生、養父久雄長女

君は北海道人烟江直勝の二男にして明治十六年十二月を以て生れ先代久雄の養子となり昭和三年家督を相續す現時國光生命保險會社東京支部長たり先代久雄は佐竹侯爵家家宰として盡す事三十年其間實業界に入り京濱電氣鐵道國光生命日本倉庫等幾多會社に歷任す現時貴族院議員にして公正會に屬す二女千惠（同九、七生）あり（東京、牛込、市谷八幡町五電九段三八七四）

大中一三

鹽水港製糖㈱常務取締役、花蓮港木材㈱取締役、臺灣生藥、安部幸商店各㈱監査役、兵庫縣在籍

妻　ツル　明二六、五生、東京、安村喜富四女

君は大阪府人吉田多三郎の長男にして明治二十三年一月を以て生れ同四十三年姉ユキエの後を承け家督を相續す大正五年聯合國經濟會議委員附書記を拜命し阪谷男に隨ひて歐米各國を巡り同六年より九年まで倫敦臺灣銀行に勤務し現時前記諸會社の重役たり家族は尚ほ長女愛子（昭二、一一生）叔父得五郎（元治元、九生）あり弟一義（明二八、九生）は大阪府人前澤富子の入夫となれりA二六〇（東京市外世田ヶ谷町代田中原七二〇電四谷一七八）

參照＝前澤一義の項

大西一郎

從五位勳六等、香川縣在籍

父　三千兒　元治元、二生

妻　政子　明三二、一二生、東京、士、高野濱藤三女

男　達雄　大五、七生

君は香川縣人大西三千兒の長男にして明治二十年六月を以て生れ同四十五年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し官界に入り朝鮮督府事務官兼參事官復興局書記官東京市助役等を歷任し昭和四年横濱市助役に就ほ長女俊子（大一一、一生）あり二男浩（同七、一〇生）は東京府人高野濱藤の養子となれり（横濱、中、老松町市長公舍電長著町一二二〇）

參照＝冰吉田八十綱の項

大西榮三郎

三菱銀行㈱參事、名古屋支店長　愛媛縣在籍

妻　久米野　明三二、七生、法學博士馬場愿治三女、東京府立第三高女出身

男　育　大一一、八生

君は愛媛縣人大西積次郎の四男にして明治二十年十二月を以て生れ大正七年分れて一家を創立す明治四十四年東京高等商業學校を卒業し直に三菱本社に入り大正二年三菱銀行に轉じ英米兩國に在勤すること五年にして歸朝爾來同行丸之內支店長大阪支店副長を經て現に名古屋支店長たり家族は尚ほ長女マスヨ（大一三、五生）二男和男（昭六、一生）ありA三五八（名古屋、東、大曾根町二四六電東七八三三）

參照＝馬場愿治、冰渡邊豐日子の項

大西榮次

岩尾㈱代表取締役、岩尾商店㈱取締役、兵庫縣在籍

繼母　よれ　慶應元、四生、兵庫、高橋榮太郎姉

妻　ナチ　明三〇、五生、佐賀、森忠藏四女

養子　ひさ　明三一、三生、父甚藏長女

君は兵庫縣人大西甚藏の長男にして明治二十七年四月を以て生れ大正十一年家督を相續す現時岩尾會社代表取締役にして前記會社の重役たり（神戸、宮本通二ノ一九電葺合二九〇六）

大西乙次郎

星製藥㈱自助會㈱專務取締役、星製藥㈱取締役、戰友共濟生命保險㈱監査役、奈良縣在籍

妻　キヌエ　明三〇、二生、奈良、岡本一生妹

男　寛　大六、一生

君は奈良縣人大西眞三郎の四男にして明治二十一年十二月を以て生れ兄廣吉方より分れて一家を創立す現時前記各會社の重役たり（東京市外大崎町桐ヶ谷二六五）

大西覺太郎

大西商店㈱代表取締役、廣島乘合自動車㈱取締役、廣島瓦斯電氣㈱監査役、廣島縣在籍

妻　クマ　明一三、九生、香川、森里キノ妹

男　恒太郎　明四五、一生、横濱市立商業專門學校在學

君は廣島縣人大西定助の長男にして明治七年十二月を以て生れ大正七年家督を相續す現に前記各會社の重役たり家族は尚ほ二男得夫（大三、一〇生）三男重任（同七、七生）四女洵子（同一〇、六生）あり長女靜江（明三五、三生）は香川縣人原田貫に二女マサヨ（同三九、一〇生）は廣島縣人柳奥都郎に三女ヨシ子（同四二、三生）は廣島縣人倉本俊三に嫁せりA九九四（廣島市堺町二ノ九ノ二）

大西龜吉

琴平急行電鐵、日本食鹽廻送各㈱取締役、香川縣在籍

妻　イワ　明一七、六生、香川、原政子養母

養子　章　大五、八生、大西義衛二男

君は香川縣人大西佐四郎の長男にして文久三年十月を以て生れ明治二十年家督を相續す現時前記各會社の重役たり（香川、綾歌、坂出町）

大西龜次郎

正四位勳二等功四級、退役陸軍々醫總監、兵庫縣在籍

女　龜美　大二、五生

君は兵庫縣人東保右衛門の二男にして文久三年十一月を以て生れ大西權平の養子となり昭和五年養子賤雄方より分れて一家を創立す明治十八年陸軍三等軍醫に任じ醫務局衛生課長朝鮮駐割軍々醫部長第三師團軍醫部長等に歷補し大正四年軍醫總監に累進す現時退役たり（兵庫、加古、平岡村）

大西喜一

內外綿㈱取締役　愛媛縣在籍

妻　壽可尼　明二五、八生、愛媛、大本喜一郎長女

君は愛媛縣人大西卯三郎の三男にして明治十四年三月を以て生れ同三十九年京都帝國大學理工科大學機械科を卒業し內外綿會社に入り技師長を經て現時同社取締役たり家族は尚ほ妹キク（明一六、一〇生）姪文子（同三六、二生、亡兄作五郎長女）同夫弘（同二九、一一生、愛媛、大本喜一郎二男、現戶主）及其一子あり（松山、唐人町二ノ三〇）

大西鍛

正六位、醫師　三重縣士族

母　きよ　天保一三、一〇生、組父才右衛門長女

妻　うた　明八、一一生、東京、荒井郁之助二女

君は三重縣士族大西眞平の長男にして文久元年四月を以て生れ明治二十二年家督を相續す同二十一年帝國大學醫科大學を卒業し歐洲に留學し直に同大學助手拜命同二十二年大阪府立醫學校に出頭を命ぜられ大阪府立高等醫學校教授兼同校病院精神科醫長同副院長大阪府再度留學歸朝後現住所に開業し腦脊髓神經系病を專門として電氣治療の研究に沒頭す長女花子（明三一、五生、山脇高女出身）は東京府人船越達に二女千代子（同三三、五生、田身校同上）は同府人法學士宮藤武五郎に三女綾子（同二一、九生、田身校同上）は宮城縣人岡崎貞伍長男英城に妹かね（同一六、五生）は三重縣人鈴木庄次郎養子英吉に嫁し弟鐵造（同三、一〇生）は同縣人殿村佐五平の養子となれりA一七五〇（大阪、東、高麗橋詰町四〇）

參照＝岡崎貞伍、船越達の項

大西孝次

大西商店㈱社長　兵庫縣在籍

妻　よれ　明三二、七生、兵庫、淺田和治長女

養子　吉三　大七、三生、兵庫、大西常三郎三男

君は兵庫縣人大西壽吉の四男にして明治十六年八月を以て生れ大正三郎方より分れて一家を創立す現時大西商店社長たり家族は尚ほ長女孝子（昭二、八生）あり（大阪、西、立賣堀北通七ノ一七電新町四四六）

大西孝次郎

王子製紙㈱法律顧問、辯護士　兵庫縣在籍

妻　ぬい　明一五、九生、京都、的場勝秀長女

男　勝三　明四一、一生

女　ケイ　明三九、一二生

男　美郎　明四三、六生

省吾　明四四、九生

君は兵庫縣人大西多一郎の長男にして明治七年十二月を以て生れ大正九年家督を相續す明治三十一年早稻田大學邦語行政科を卒業し辯護士にして王子製紙會社法律顧問たり家族は尚ほ六男睦雄（大二、八生）七男七郎（同五、二生）八男八郎（同七、一生）九男久雄（同一一、五生）十男孝壽（同一四、二生）あり長女ユキ（明三七、一生）は東京府人酒匂常仲に嫁し父多一郎（嘉永元、一〇生）母ゆく（同五、一〇生、兵庫、辻周助長女）は弟俊（明二七、八生）同妻富美惠（同三三、一生、兵庫、大西定次郎長女）及其二子を伴ひ分家せりA一〇六〇（東京、麴町、富士見町一ノ三〇電九段一六三一）

參照＝冰進藤隆一冰的場鐵哉の項

大西修一郎

丹後產業銀行㈱專務取締役　京都府在籍

妻　チヱ　明一三、一二生、京都、村井治三郎二女

男　道太郎　明二二、三生

男　節三　明四一、三生

男　芳介　明四四、一生

君は京都府人大西兩三郎の長男にして慶應二年一月を以て生れ明治三十七年家督を相續す少壯の頃京都府及大藏省に奉職し退官後居村の村長たりしが大正九年丹後產業銀行を創立し現時同行專務取締役たり長女たれ（明一九、四生）は京都府人中島長三郎長男茂三郎に二女萬喜（同二四、一二生）は同府人黑田清太郎に四女かね（同三三、一一生）は同府人大西忠治に嫁し五女しげ（同三六、一一生）は同府人大西喜助の養子となれり（京都、興謝、栗田村）

參照＝大西道太郎の項

大西眞平

北海道會議員、紋別運送社㈱取締役、北海道在籍

妻　千代　明二五、一〇生、北海道、古屋憲英二女

男　洋平　大一二、八生

晉　明三四、一〇生、北海道、木脇吉之助三男、中大出身

婦　キミ　明三九、八生、養子晉妻、栃木、小栗只三二女

君は新湯縣人大西久平の長男にして明治九年十一月を以て生れ同二十八年分れて一家を創立す現時紋別運送社取締役にして推されて北海道會議員たり家族は尚ほ長女千惠（大九、一〇生）二男公平（昭四、一〇生）孫理津子（同四、一一生、養子晉長女）あり（北海道、紋別、紋別町）

大西甚一平

上湊川土地、上莊銀行各㈱取締役　兵庫縣在籍

母　じゆん　明一二、八生、兵庫、衣川榮太郎
妹　明四二、六生、子爵脇坂安之三女

君は兵庫縣人先代茜一平の長男にして明治三十六年七月を以て生れ大正十二年家督を相續し前名禹一郎を改め襲名す現時前記銀行の重役たり父茜一平は夙に實業界に入り大西銀行國包銀行の外幾多の銀行會社の重役として重きを爲せり家族は尚長女一女（昭四、七生）弟肇（明三八、三生）同正雄（大元、一二生）妹靜（同三、一生）同末（同八、八生）同美代（同一一、九生）孫和夫（同一〇、四生、亡養子義爾長男）亡伯父茜長衛妻ふつ（文久二、一生、兵庫、亡大西大治郎姉）あり姉芳子（明三一、四生）は分家し從姉繁野（同二四、七生、伯母よゑ二女）同尖茜佐久（同一六、八生、兵庫、田中藤太郎弟）も亦其子女を伴ひ分家せり（兵庫、印南、上莊村電國包一）

參照＝子爵脇坂安之家長部文治郎の項

大西太郎兵衛

妻　ツル　京都市參事會員、廣濟無盡㈱取締役、京都府在籍
女　明二七、一生、京都、大野千吉長男　勝太郎　八八、八生
女　雪子　大五、七生

君は大西太四郎の三男にして明治二十五年八月を以て生れ同四十四年分れて一家を創立す現時前記會社の重役にして京都市參事會員に擧げらるゝ家族は尚二女千鶴子（大七、二生）三男貞明（同一〇、一二生）五男常雄（同一五、二生）三女ミヨ子（昭三、一生）六男史郎（同五、一生）あり（京都、下京、堀川通四條下ル四條堀川町二七二電上一六三八）

大西藤七

妻　ヒサ　山城屋、質商　大阪府在籍
女　明八、一〇生、大阪、富永六兵衛三女　藤藏　明三七、三生

君は大阪府人先代藤七の長男にして明治元年三月を以て生れ同二十六年家督を相續し前名猶吉を改め襲名す山城屋と稱し質商を營む家族は尚三男正三（大元、七生）あり（大阪、北、堂心町一ノ四四電北二四八九）

大西篤示

富山縣會議長、灘浦漁業㈱取締役
富山縣在籍

大西虎之介

母　タツ　貴族院議員、屋島登山鐵道、香川縣多額納稅者、代表取締役、琴平電鐵㈱專務取締役、高松十四銀行、瀧泉鐵道各㈱取締役、四國水力電業、八栗登山鐵道、神戸有馬電氣鐵道各㈱取締役、香川縣士族、神戸市在籍

大西友太

母　トヨ　從五位、横濱高等工業學校教授、生徒主事、愛媛縣在籍
妹　明一六、一生、大阪、薩埵眞道長女　政六、三生、愛媛、頭師源太郎

君は富山縣人大西篤平の長男にして明治十七年一月を以て生れ同二十八年家督を相續す現時前記會社の重役にして推されて富山縣會議長たり家族は尚弟謙三（明三八、一〇生）あり長女敏子（同四〇、一生）は石川縣人中辻吉一朗に二女朗子（同四二、一一生）あり長女敏子（同四〇、一生）は富山縣人高橋順吉に妹あつい（同一九、九生）は富山縣人堀楚與右衛門二男豐作に同きみ（同二七、六生）は同縣人森本作兵衛長男孫作に同とみ（同三一、二生）は同縣人北鹿渡逢明長男一無に同芳（同三六、一生）は同縣人佐伯庄治の養吉に嫁し四女尚子（大八、七生）は同縣人佐伯庄治の養子となり妹かず（明三〇、二生）は分家せり（富山、氷見、女良村）

大西友太

妻　和榮　從五位、横濱高等工業學校教授、生徒主事、愛媛縣在籍
女　きよ子　安政六、三生、愛媛、頭師源太郎

君は愛媛縣大西神社に紀らるゝ大西偉勢吉の長男にして當家は愛媛縣人大西神社に先代大西偉勢吉の長男にして治十四年四月を以て生れ同四十一年家督を相續す同四十二年京都帝國大學文科大學哲學科を卒業し以來高野十三年四月を以て生れ同四十一年家督を相續し前名直次郎と改む家主にして大阪府多額納稅者たり後前名直次郎と改む家主にして大阪府多額納稅者たり家族は尚三女美惠子（大九、三生）あり長女時子（明三四、一生）は岡山縣人野々上大多郎弟好太郎に嫁せり（大阪、此花、上福島中二ノ一五六九電福島三七八）

參照＝㈱伊藤由太郎㈱西村資次郎の項

大西冬藏

妻　靜　從五位、特許局技師、抗告審判官、琴審查官、京都府在籍
女　明三三、一二生、奈良、植村喜六二女

妻　梅代　明三二、一生、愛媛、仲田傳之瑯長女　大一四、二生
男　潤甫

君は香川縣士族大西行禮の長男にして明治二十三年二月を以て生れ昭和五年家督を相續す大正五年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し現時前記銀行會社の重役にして香川縣多額納稅者に列し現時前記銀行會社の重役推さる家族は尚長女三千（大九、四生）二女桃子（同一五、三生）三男諦三郎（昭三、二生）三女多惠子（同四、一一生）弟修吉（明三八、三生）あり妹ノブ（同二八、一生）は大阪府士族鈴木仁十郎に同萬壽（同三四、五生）は岡山縣人大森尚則に同節（同三六、一〇生）は廣島縣人橋本龍一に叔母ふい（同七、三生）は兵庫縣人伊藤長次郎に嫁し弟徹吉（同四〇、一一生）は前記鈴木仁十郎の養子となり同續夫（同三一、九生）は分家せり（香川、木田、氷上村）

參照＝伊藤長次郎、鈴木仁十郎、仲田傳之瑯、橋本龍一㈱多賀義三郎㈱仲田久太郎㈱橋本吉次郎㈱橋本陽三郎の項

大西直孝

妻　アイ　大阪府多額納稅者、家主　大阪府在籍
男　直幸　明一六、七生、大阪、京谷政治郎三女
婿　英子　明三六、六生
男　直之助　明四二、五生、長男直幸妻、京都福田市十郎姉
男　庶子　明四〇、一一生
三郎　明四三、一一生
君は大阪府人清水恒造の兄にして明治十四年三月を以て生れ先代直孝の養子となり同二十七年家督を相續し後前名直次郎を改む家主にして大阪府多額納稅者たり家族は尚三女美惠子（大九、三生）あり長女時子（明三四、一生）は岡山縣人野々上大多郎弟好太郎に嫁せり（大阪、此花、上福島中二ノ一五六九電福島三七八）

參照＝㈱伊藤由太郎㈱西村資次郎の項

大西冬藏

妻　ヨネ　明三三、一生、愛媛、仲田傳之瑯長女　大一四、二生
男　研一　大一三、三生

君は愛媛縣士族大西克育の二男にして慶應元年一月を以て生れ明治八年分れて一家を創立す同十七年東京大學豫備門に學び同十九年獨逸ハルレ大學に入り理科及醫學を修め同二十一年同國チユービンゲン大學に轉じ眼科を研究しドクトル・メヂチーネの學位を受く同二十三年歸朝し第三高等學校教授に任じ同三十二年醫學博士の學位を受け同三十八年京都帝國大學福岡醫科大學教授に任ぜられ同大學附屬醫院長に補せらる大正九年陸米各國に出張し現に九州帝國大學名譽教授たり長女スミ（明二五、一二生）は醫學博士稻田進に二女キヨ（同三〇、一生）は醫學博士大野六郎に三女良子（同三二、一二生）は醫學博士乘松和政に嫁せり（福岡市田輔町三二電一三〇五）

參照＝稻田進、菅虎雄㈱越智貞見の項

大西良輔

養母　さと　從六位勳四等功四級、海軍少佐、神奈川縣多額納稅者、帝國大理事、石桜社長、大安生命保險㈱取締役、東海綿業、大日本自轉車各㈱監査役、地主、神奈川縣士族
妻　さく　嘉永二、八生、群馬、士、山崎玄三郎妹
男　市　大三、六生
君は東京府人大西正生の四男にして明治十三年八月を以て生れ大正八年叔父正雄の養子となり家督を相續す夙に海軍に投じ累進して少佐に陞り豫備役に編入するや支那に渡り揚子江河口水先案内會社を經營せし外現時地主にして直接國稅三千四十圓を納め縣下の多額納稅者に列し傍ら前記各會社の重役たり彙に日露の役に際し旅順閉塞隊に加はりて功あり勳四等功四級を賜はる家族は尚二男勇（大七、一一生）三男正三（同一一、一生）あり長女博子（明四二、三生）は絶家大西氏を再興し男正治（同二九、九生、明大專門部高等科出身）は分家し姪滿壽枝（同二〇、九生）は神奈川縣士族深澤惠吉に嫁せり（横濱、中、南太田町一九〇四電長者町一〇二〇）

大西義一

母　ウタ　正五位勳五等、大阪鑛山監督局長
妻　光　愛媛縣士族、安政二、九生、大西盛鑛長女　明三一、九生、愛媛、渡部明綱三女、松山高女出身
男　克保　明四二、五生、九大醫科在學

君は京都府人藤田巽三の四男にして明治二十五年十二月を以て生れ姉大西キサの家籍に入り大正五年家督を相續す同六年京都帝國大學工科大學電氣工學科を卒業し同十一年特許局技師に任じ現に抗告審判官審査官を兼任す家族は尚長女郁子（大一一、二生）二男俊次（同一四、一〇生）二女敏子（昭四、一〇生）あり（東京市外淀橋町柏木三八五）

大西文治郎

高坂總糸、倉庫精練各㈱取締役
石川縣在籍
妻　直　明一五、八生、石川、野本安朝長女

君は石川縣人大西孫治郎の長男にして明治七年五月を以て生れ同四十一年家督を相續す現時前記各會社の重役たり弟重太郎（明一五、九生）は分家し父孫治郎（嘉永二、一二生）は其家籍に入れり（大九七五B一五三（金澤、長町二番町電一七七五）

大西正幹

妻　加壽惠　衆議院議員（高知縣選出）、辯護士　高知縣在籍
女　明二二、二生、高知、小串瀧吾三男　正　明四三、一〇生

君は高知縣人大西嘉助の二男にして明治十二年三月を以て生れ先代鶴野の養子となり同三十四年家督を相續す夙に高知縣師範學校を卒業し小學校教員在職中判檢事試驗に合格し司法官試補に任ぜられ尋で官を辭し辯護士を開業す蠡に高知市會議員同議長高知縣會議員同議長等に擧げられ昭和三年以來引續き衆議院議員に當選す立憲民政黨に屬し議員總會副會長に推さる養母鶴野（明八、五生）は高知縣人近藤嘉治馬に嫁せり（高知市升形）

大西松之助

母　とめ　かくまつや、帽子洋傘商　大阪府在籍
三女　元治元、一〇生、大阪、奥野吉造

君は大阪府人大西仁右衛門の二男にして明治十五年六月を以て生れ同三十九年家督を相續すかくまつやと稱し帽子洋傘商を營み老舗を以て知らる家族は尚弟正一（明二二、九生）同妻イヨ（同三四、一一生、北海道、田鍋鶴治愛子）及其子女あり妹シゲ（同二〇、一生）は大阪府人中川久太郎長男幸四郎に同シヤ（同二五、七生）は奈良縣人島本戒善養子澄善に同花（同三〇、九生）は愛知縣人高木鐵次郎に嫁せり（大阪、南、心齋橋

筋二ノ六電南一〇四六）

大西道太郎

父　修一郎　從五位勳六等、判事、大阪控訴院判事、京都府在籍
妻　せい　慶應二、一生、現戸主
長女　三、生、青森、士、小林巖
男　正文　大一三、一二生

君は京都府人大西修一郎の長男にして明治二十二年三月を以て生る大正四年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し同六年檢事に任じ同年五月判事となり爾來奈良地方豫同區大阪區豫同地方各裁判所判事大阪控訴院判事大阪地方裁判所長等に歷補し昭和四年再び前記現職に轉ず家族は尚長女久子（大一五、一二生）二女良子（昭三、一二生）あり（大阪、西成、松原通二ノ四九）

參照＝大西修一郎の項

大西由三郎

妻　セキ　大西ふくすけや、呉服商　大阪府在籍
母　芳之助　明三、四生、大阪、大西麻治郎叔
男　明三八、一二生
婦　カツ　明三一、七生、長男芳之助妻、大阪、敬野孫三郎二女、市岡高女出身
女　貞子　明四一、二生、相愛高女出身
市太郎　明四二、七生
男　常雄　明四四、九生

君は兵庫縣人佃仁兵衛の弟にして明治十二年先代セキ生る幼にして大西衣類店に奉公し同三十二年先代セキの入夫となり家督を相續す大西ふくすけやと稱し同三十二年家督を相續し傍ら前記各會社の重役たり彙に日露の役に際し旅順閉塞隊に加はりて功あり勳四等功四級を賜はる家族は尚二男房三（明三二、五生）は分家し長女幸子（同三八、一生、梅田高女出身）は大阪府人大川由明に二女道江（同四〇、一生、相愛高女出身）は同府人佐竹弘藏に嫁せり（大阪、東、瓦町五ノ五五電本局二七七六）

參照＝大川由明㈱高木百行の項

大西克知

妻　克治　從三位勳二等、醫學博士、九州帝國大學名譽教授、愛媛縣在籍
男　明五、一生、福岡、士、菅虎雄妹婿
克和　明三六、四生、北大眼科教室勤務醫學士
文學士　明三八、八生、東大大學院在學、

大西克育

男　克保　明四二、五生、九大醫科在學

君は愛媛縣士族大西克育の二男にして慶應元年一月を以て生れ明治八年分れて一家を創立す同十七年東京大學豫備門に學び同十九年獨逸ハルレ大學に入り理科及醫學を修め同二十一年同國チユービンゲン大學に轉じ眼科を研究しドクトル・メヂチーネの學位を受く同二十三年歸朝し第三高等學校教授に任じ同三十二年醫學博士の學位を受け同三十八年京都帝國大學福岡醫科大學教授に任ぜられ同大學附屬醫院長に補せらる大正九年陸米各國に出張し現に九州帝國大學名譽教授たり長女スミ（明二五、一二生）は醫學博士稻田進に二女キヨ（同三〇、一生）は醫學博士大野六郎に三女良子（同三二、一二生）は醫學博士乘松和政に嫁せり（福岡市田輔町三二電一三〇五）

參照＝稻田進、菅虎雄㈱越智貞見の項

大西良輔

養母　さと　從六位勳四等功四級、海軍少佐、神奈川縣多額納稅者、帝國大理事、石桜社長、大安生命保險㈱取締役、東海綿業、大日本自轉車各㈱監査役、地主、神奈川縣士族
妻　さく　嘉永二、八生、群馬、士、山崎玄三郎妹
男　市　大三、六生
君は東京府人大西正生の四男にして明治十三年八月を以て生れ大正八年叔父正雄の養子となり家督を相續す夙に海軍に投じ累進して少佐に陞り豫備役に編入するや支那に渡り揚子江河口水先案内會社を經營せし外現時地主にして直接國稅三千四十圓を納め縣下の多額納稅者に列し傍ら前記各會社の重役たり彙に日露の役に際し旅順閉塞隊に加はりて功あり勳四等功四級を賜はる家族は尚二男勇（大七、一一生）三男正三（同一一、一生）あり長女博子（明四二、三生）は絶家大西氏を再興し男正治（同二九、九生、明大專門部高等科出身）は分家し姪滿壽枝（同二〇、九生）は神奈川縣士族深澤惠吉に嫁せり（横濱、中、南太田町一九〇四電長者町一〇二〇）

大西義一

母　ウタ　正五位勳五等、大阪鑛山監督局長
妻　光　愛媛縣士族、安政二、九生、大西盛鑛長女　明三一、九生、愛媛、渡部明綱三女、松山高女出身
男　克保　明四二、五生、九大醫科在學

君は愛媛縣士族大西盛英の長男にして明治十七年八月を以て生れ大正九年家督を相續す明治四十年文官高等試驗及判檢事登用試驗に合格し山林屬林務官補山林事務官等を經て大正十三年鑛山監督局長に任ぜられ仙臺鑛山監督局長を經て昭和五年大阪鑛山監督局長に任ぜられ今日に至る家族は尙長女豐子（大六、四生）二男義英（同一〇、一〇生）二女咲子（同一二、一一生）三女久子（昭二、二生）弟直英（明二九、三生）同妻直子（同三八、一生、愛媛、玉井靜次妹）あり弟朝英（同三三、四生）は愛媛縣人世良作藏の養子となれり（大阪、東成、勝山通鑛山監督局）

大貫安三

妻　フミ　明一四、八生、栃木、青柳平與妹
男　信之　明四三、一〇生
女　桃江　大三、三生
　　トシ子　大五、三生

君は栃木縣人大貫與市の四男にして明治十年六月を以て生れ同三十一年醫術開業免狀を下附され海軍少軍醫候補生を命ぜらる同三十三年少軍醫に任じ昭和二年海軍々醫中將に累進す其間旅順要港部軍醫長横須賀海軍工廠軍醫長海軍々醫學校教官兼監事吳海軍病院第二部長軍艦學校教頭兼教官佐世保海軍病院長兼同鎭守府軍醫長横須賀海軍病院長兼横須賀鎭守府醫長醫務局長軍令部出仕等に歷任し昭和五年豫備役に入り現時閑地にあり大正十年歐米各國に出張を命ぜらる家族は尙二男敬之（大元、九生）三男成之（同七、八生）五女英子（同一〇、九生）四男壽衞（同一二、三生）兄國平（明五、五生、現戸主）及其子女あり（東京、小石川、小日向臺町三ノ六四電小石川六二二〇）

大沼吉平

母　その　文久二、四生
妻　せつ　明二二、六生、靜岡、足立誠一三

君は靜岡縣人大沼吉兵衞の孫にして明治九年七月を以て生れ同二十五年家督を相續す同二十六年東京專門學校英語專修科を經て同三十五年同校英語政治科を卒業し現時前記銀行會社の重役にして直接國稅九百八十九圓を納め靜岡縣多額納稅者たり家族は尙長女綾子（大九、一〇生）あり叔母ひさ（靜岡、田方、野田八郎平に嫁せり（靜岡、田方、三島町）

參照＝※緒明圭造の項

大沼惟隆

妻　ヨシ　玄女郎　明四五、三生
男　谷川直義長女

君は北海道士族大沼惟義の男にして明治十四年十二月を以て生る同四十一年東京帝國大學法科大學を卒業し同四十三年判事に任じ甲府區同地方札幌區同地方旭川地方各裁判所判事に歷補し大正九年朝鮮總督府檢事に轉じ海州地方法院平壤覆審法院檢事清津地方法院檢事正を經て昭和四年現職大邱覆審法院檢事に補せらる家族は尙二男典二（大四、九生）二女和子（同一一、四生）男興三（同一二、一一生）の外叔父惟義（文久二、四生、現戸主）同妻富江（明六、三生、山形、長谷川民作三女）及其子女あり妹リウ（同三〇、一二生）は北海道人田中豐に從妹琴（同三四、一生、叔父惟義長女）は同道人笠原平三に嫁せり（大邱覆審法院檢事局內）

參照＝長谷川直義の項

大沼盾雄

妻　珪子　明五、三生、子爵大鵬增輝大叔母
孫　靖　大一四、二生、亡長男帶刀長男

當家は先代渉の起す所なり渉は舊野戊辰の役官軍に屬して功あり維新後同藩權大參事宇都宮權典事となり明治七年陸軍少佐に任じ陸軍少將に累進す日清の役留守步兵第十一旅團長兼第六師團長事務取扱を命ぜられ同三十二年特旨を以て華族に列し男爵を授けらる君は其長男にして慶應三年八月を以て生れ明治三十二年家督を相續し襲爵す夙に軍籍に入り陸軍步兵少佐に累進し豫備役に編入せらる家族は尙養弟泰山（明八、一生、栃木、高原泰溫長男）あり長女喜見（同三一、一〇生）は分家し妹ヌマ（同二〇、九生）は滋賀縣人複智梁に嫁せり（東京市外代々木町代々木二三三）

參照＝子爵大鵬增輝家伯爵渡邊昭家男爵青山忠敏家男爵平野長祥家男爵三浦英太郎家一戸兵衞家岡野健三の項

大沼忠吉

妻　せん　仙南銀行、大所各種取締役、仙南溫泉電氣種監査役、宮城縣在籍
男　忠一郎　明一五、一二生、宮城、大沼ひて長女
　　明三三、一二生
嬶　はる　明四一、二生、長男忠一郎妻、宮城、結城彙藏孫
女　はる　大五、一生

君は宮城縣人大沼萬兵衞の弟にして明治九年七月を以て生れ後大沼所左衞門の養子となり大正四年分れて一家を創立す現に仙南銀行取締役たる外前記各會社の重役たり家族は尙孫忠（昭二、一〇生、長男忠一郎長男）同米子（同四、一一生、同長女）あり長女まつ（明三六、一生）は宮城縣人田山專之丞長男專之助に嫁し二男忠二（同四一、一一生）は同縣人大沼所左衞門の養子となれり（宮城、柴田、村田町）

參照＝大沼ひて、田山專之丞家鈴木清之輔家升敏之助の項

大沼ひて

男　所左衞門　大所種代表取締役、宮城縣在籍
嬶　富二　明二一、一〇生、現戸主
孫　靜子　明二九、五生、長男所左衞門妻、群馬、管讓三二女
　　忠二　大五、一生、長男所左衞門長女
　　明四一、一生、長男所左衞門養子、大沼忠吉二男

君は宮城縣人先々代大沼養之丞の長女當主養之丞の叔母にして慶應元年十二月を以て生れ明治十五年大沼家に綠す現時前記會社の重役たり長女せん（明一五、一二生）同夫忠吉（同九、七生、宮城、大沼萬兵衞二男）義兄宗吉（文久三、一一生）同妻しけ（明五、五生、宮城、山家傳藏四女）は各其子女を伴ひ分家し弟清（同二五、一〇生）も亦分家し二女ふみ（同一八、一二生）は宮城縣人渡邊喜吉長男柳助に嫁せり（宮城、柴田、村田町）

參照＝大沼忠吉、大沼養之丞の項

大沼平五郎

妻　春　北海道多額納稅者、金融業
男　文雄　明四一、八生、長男文雄妻、北海道士族、高橋清治妹
嬶　タケヱ　明六、一二生、山形、大瀧七兵衞長女

君は山形縣人大沼平蔵定藏の二男にして明治六年二月を以て生れ同縣人大沼金治の養子になり同三十九年分れて一家を創立す釀造業を營み山形縣多額納稅者にして山形商工會議所副會頭に推さる義に羽前炭礦會社山形殖產無盡會社各監査役たりし事あり家族は尙二男義之助（大四、三生）三男勘四郎（同六、一一生）孫英一（昭四、九生、長男勘四郎長男）同貞雄（大一四、一〇生、養子貞藏長男）同靜子（昭二、七生、同長女）同寛子（同四、五生、同二女）あり三女リヨウ（明四二、一〇生）は山形縣人吉田禮藏に嫁せり（山形市七日町四六八）

大沼養之丞

母　みつ　仙南銀行、大所各種取締役、宮城縣在籍
妻　さき　明二、二生、宮城、大沼忠吉養叔母
男　善朗　明三四、一生、宮城、渡邊喜長衞長女
　　大一〇、五生

君は宮城縣人先代養之丞の弟大沼ひての甥にして明治二十六年十月を以て生れ大正六年家督を相續し前名善治郎を改め襲名す現時前記銀行會社の重役たり家族は尙二男逵夫（大一二、九生）三男愼三（同一四、八生）長女明子（昭三、二生）二女美枝子（同五、四生）弟豐治（明三二、九生）同妻コハル（同三九、一〇生、宮城、大橋卯八二女）及其子女あり妹かう（同三〇、三生）は東京府士族山崎茜八郎に同なお（同三五、一生）は宮城縣人大沼宗吉六男芳吉に嫁し叔母ひて（慶應元、一二生）は同縣人大沼忠吉の養母たり（宮城、柴田、村田町）

參照＝大沼ひての項

大野篤雄

妻　葛子　横濱正金銀行種奉天支店支配人、京都府在籍
男　一雄　明二七、四生、京都、井上俊雄姉日本女大出身
　　昭三、三生

君は京都府人大野政忠の長男にして明治十四年十一月を以て生れ大正十年家督を相續す先是明治四十年京都帝國大學法科大學を卒業し同年横濱正金銀行に入り本店大阪天津支店勤務アデエス・アイレス支店副支配人リオ・デ・ジヤネイロ支店支配人大阪支店副支配人濟南支店支配人を經て現に同行奉天支店支配人たり家族は尙長女滿里子（大一二、一一生）二女百合子（同一五、一生）三女みどり（昭五、一生）あり（奉天、横濱正金銀行支店內）

參照＝井上俊雄の項

大野市太郎

繼母　ケシ　明治紡績種取締役、日本アスベスト、帝國堅紙各種監査役
　　嘉永六、六生、千葉、滿田長九郎長女
妻　クミ　明一〇、五生、愛知、士、渡邊至長女
男　義男　明二九、四生、慶大理財科出身
　　東京府士族

君は福岡縣士族大野十一の長男にして元治元年十一月を以て生れ明治二十四年家督を相續す同十七年東京商法講習所を卒業し現に前記諸會社の重役たり家族は尙孫愛子（昭三、三生、二男義男長女）あり弟仁助（明元、一〇生）は同妻チヨ（同八、一一生、福岡、士、渡邊守人二女）と共に其子女を伴ひ分家し弟三郎（同一一、一〇生）も亦同妻小ずへ（同二〇、六生、岐阜、大野豐左衞門三女）と共に其子女を伴ひ分家し弟安（同二七、三生）は其の家籍に入り妹ヨシ（同一五、三生）は岐阜縣人大野賢治弟德三郎に嫁し長女サヨ（大一三、一生）は新潟縣人岡田彌作の養子となれり（東京、麻布、龍土町七一電青山三一五一）

參照＝大野德三郎、堀江專一郎の項

大野宇八

妻　ミツヱ　泉陽紡績種常務取締役、大阪府在籍
男　宇一　明一〇、五生、大阪、阪口治郎左衞門二女
　　明三二、二生
嬶　チノヱ　明三四、一〇生、二男宇一妻、大阪、田中藁治郎長女
男　宇三　明四〇、七生
男　叔晴　明四二、六生
女　綾子　明四四、一二生

君は大阪府人先代宇八の二男にして明治九年十一月を以て生れ同三十五年家督を相續し前名福松を改め襲名す現時前記會社の重役たり家族は尙六男昭昌（大二、一一生）孫宇太郎（同一〇、九生、二男宇一長男）あり二女愛子（明三八、九生）は和歌山縣人岩崎勘七二男數馬に嫁せり（大阪、泉南、北中通村）

大野惠眼

妻　みさを　正五位勳四等、判事、姫路區裁判所監督判事兼神戸地方姫路支部々長、石川縣在籍
　　孝　明四三、八生
男　明二三、三生、石川、水谷篤次妹

君は石川縣人大野惠了の二男にして明治十三年二月を以て生れ同四十二年分れて一家を創立す同三十五年和佛法律學校を卒業し同三十八年判檢事登用試驗に合格同四十年判事に任じ爾來横濱地方同區德島區堺區奈良區各裁判所判事並に監督和歌山地方裁判所部長京都區裁判所監督判事兼同地方裁判所判事等に歷補し昭和五年現職に轉ず家族は尙二男徹（大三、二生）長女和榮（同一四、九生）あり（姫路、區裁判所內）

大野英治

妻　すみ　十六銀行種頭取、岐阜信託種取締役、岐阜縣在籍
男　茂　明一七、五生、愛知、河邑泰朗妹
　　明三七、八生
嬶　民子　明四四、二生、長男茂妻、岐阜、堀茂木長女
　　明四三、三生、生母、岐阜、石坂くに
庶子　波留

君は岐阜縣人大野茂助の二男にして明治六年十一月を以て生れ同三十一年家督を相續す現時十六銀行頭取の外前記各會社の重役たり妹ひて（明一五、一〇生）は京

郡府人中道默翁に同よれ（同一七、一生）は愛知縣人宮田松三郎長男松治郎に同さた（同一九、七生）は同縣人坪井常右衛門長男庸太郎に嫁し姉まさ（元治元、一〇生）は分家せり（岐阜、稻葉、長良村鬱一八三）

參照＝河邑泰朗の項

大野榮三

日本勸業銀行穂參事、山口支店長
兼下關支店長、埼玉縣在籍

妻　秋　明二五、九生、富山、士、杉坂昆
男　健一　大五、七生

君は埼玉縣人大野新六の弟兼一郎の兄にして明治十五年十二月を以て生れ大正十三年明治四十二年東京帝國大學法科大學佛法科を卒業し日本勸業銀行に入り甲府支店長同行公共貸付課長を經て現時同行參事にして山口支店長兼下關支店長たり家族は尙ほ二男二郎（大六、九生、長女叡子（同八、一二生）二女英子（同一四、二生）弟弘（明一八、一生、上海、漢冶萍公司勤務）同妻愛（同三四、八生、故外務省政務局長阿部守太郎二女）及其子女あり（山口市後河原七七）

參照＝大野錄一郎宗藤井健一の項

大野開藏

相愛女子專門學校長
島根縣在籍

妻　ふく　明一五、一二生、山形、士、柘植
女　敬子　笪次郎長女、明治女學校出身
　　大四、三生、大阪府立大手前高女在學

君は島根縣人大野秀吉の長男にして明治六年四月を以て生れ大正元年弟秀太方より分れて一家を創立す明治二十六年京都本願寺文學寮高等科を卒業し同三十三年同學林本科を同三十二年同高等科を同廿八年本願寺大田楓山佛教中學教頭に任じ同三十五年彦根第三佛教中學監事兼教員に任ぜられ同三十六年本山の命を受け布教のため渡米加州桑港及フレスノ市に滞在すること八年隙米印度を漫遊して同四十四年一月歸朝第四教團賛事及賛事長探訪使等に歷任同年六月より學校教育に從事し現時相愛女子專門學校長にして相愛高等女學校長大阪女子音樂學校長及相愛學校長を兼ね二女顯子（大七、二生）は山形縣人柘植直忠の死跡を繼げり（大阪、東、本町四ノ二七電本町六四〇）

大野寛

正五位勳三等、海軍少將、海軍砲術學校長、愛知縣士族

大野啓市郎

蘇原銀行穂取締役、大野病院長、醫師、岐阜縣在籍

繼母　かしく　文久元、一一生、愛知、小出鐵藏
妻　ヒデ　明一八、六生、東京、佐野渡長女
　　五女
　　玄郷　大三、五生
男　小雷　明二五、一二生、東京、松田啓藏
　　二女　大四、四生
女　淑子　大五、四生
女　晴子

君は愛知縣士族大野魯太郎の長男にして明治十六年三月を以て生れ同四十五年家督を相續す同三十七年海軍兵學校を卒業し翌年海軍少尉に任ぜられ昭和四年海軍水雷學校高等科を卒業し海軍砲術學校教官第二水雷戰隊參謀横須賀鎮守府參謀長門砲術長兼海軍砲術學校教官室戸特務艦長海軍砲術學校教頭兼海軍艦政本部技術會議々員横須賀鎮守府附球磨艦長比叡艦長日向艦長等を經て昭和四年前記の職に補せられ今日に及ぶ家族は尙ほ三女乃富子（大七、三生）四女發美子（同九、一生）五女順子（同一三、六生）六女瀧州子（昭二、五生）七女利子（同四、七生）あり（東京市外和田堀町和泉一八三）

大野譽吾

大野銀行穂頭取
愛媛縣在籍

妻　澄子　明三九、九生、香川、十河權三郎
男　勉　大一三、一二生

君は愛媛縣人大野熊太郎の二男にして明治三十三年三月を以て生れ同四十二年家督を相續す現時大野銀行穂取締役、大野病院長、醫師、岐阜縣在籍

君は愛知縣士族大野魯太郎の長男にして明治十六年三月を以て生れ同四十五年家督を相續す同三十七年海軍兵學校を卒業し翌年海軍少尉に任ぜられ昭和四年海軍水雷學校同四十四年水雷學校高等科を卒業し海軍砲術學校教官第二水雷戰隊參謀横須賀鎮守府參謀長門砲術長兼海軍砲術學校教官室戸特務艦長海軍砲術學校教頭兼海軍艦政本部技術會議々員横須賀鎮守府附球磨艦長比叡艦長日向艦長等を經て昭和四年前記の職に補せられ今日に及ぶ家族は尙ほ三女乃富子（大七、三生）四女發美子（同九、一生）五女順子（同一三、六生）六女瀧州子（昭二、五生）七女利子（同四、七生）あり（東京市外和田堀町和泉一八三）

大野健藏

日本綿花穂青島支店長
大阪府在籍

父　豐次郎　文久元、三生、現戸主
妻　萬壽惠　明二四、一一生、岡山、小倉友康
　　二女
男　健一　大五、二生

君は大阪府人大野豐次郎の長男にして明治二十年十月を以て生れ同四十三年大阪高等商業學校を卒業し日本綿花會社に入り神戸東京上海孟買各古屋各地支店勤務を經て現時同社青島支店長たり家族は尙ほ二男敬郎（大一一、一生）三男豐（同一二、一〇生）四男惠介（同一五、一生）二女和子（昭五、八生）妹寺（明二七、五生）あり（青島、日本綿花會社支店內）

大野健明

正五位勳四等、陸軍技師、陸軍造兵廠火工廠附、愛知縣在籍

父　勝次郎　安政三、九生
繼母　ひろ　明四、四生、愛知、岩野直吉姉
妻　さは　明二四、一一生、愛知、士、田邊宮五郎長女

君は愛知縣人大野勝次郎の長男にして明治二十年一月を以て生れ同三十一年家督を相續す同四十五年東京帝國大學工科大學土木工學科を卒業し大正三年陸軍技師に任じ爾來砲兵工廠附を經て同十二年現職に轉ず曩に佛英米各國に出張す家族は尙ほ三女佐紀子（昭二、三生）弟學（明二五、九生）及其一女あり同重國（同二二、九生）は母方堀家を相續し同禮本（同二八、九生）は愛知縣人高橋梅吉の養子となり姉ゆう（同一七、九生）は同縣士族日比野堅吉長男肇に嫁せり（東京市外練馬町三六二八）

大野譽一

正六位、朝鮮總督府道事務官、慶尙北道警察部長、山口縣在籍

妻　敏　明三五、七生、山梨、齋藤芳治妹
　　男　淑子　大四、四生
　　女　晴子　大五、四生

君は愛知縣士族大野魯太郎の長男にして明治十六年三月を以て生れ同四十五年家督を相續す同三十七年海軍兵學校を卒業し翌年海軍少尉に任ぜられ昭和四年海軍水雷學校高等科を卒業し海軍砲術學校教官第二水雷戰隊參謀横須賀鎮守府參謀長門砲術長兼海軍砲術學校教官室戸特務艦長海軍砲術學校教頭兼海軍艦政本部技術會議々員横須賀鎮守府附球磨艦長比叡艦長日向艦長等を經て昭和四年前記の職に補せられ今日に及ぶ家族は尙ほ三女乃富子（大七、三生）四女發美子（同九、一生）五女順子（同一三、六生）六女瀧州子（昭二、五生）七女利子（同四、七生）あり（東京市外和田堀町和泉一八三）

大野清次郎

朝日商工穂代表取締役、大阪毛絲紡績穂取締役、大阪府在籍

妻　モヨ　明二〇、六生、養父治良左衞門長女
男　寺男　大四、四生

君は奈良縣人足達保治郎の三男同重右衞門の弟にして明治十六年十月を以て生れ大野治良左衞門の養子となり大正十一年家督を相續し前名重藏を改む資產家にして家主たり家族は尙ほ二女良子（大八、一二生）三女英子（同一〇、一〇生）あり（大阪、東淀川、豐崎西通五ノ七）

參照＝家川野宗太郎の項

大野善三郎

名古屋商工會議所議員、名古屋米穀取引所取引員、岐阜縣在籍

妻　小雷　明二五、一二生、東京、松田啓藏
　　二女
女　淑子　大四、四生
女　晴子　大五、四生

君は愛知縣士族大野魯太郎の長男にして明治十六年三月を以て生れ同四十五年家督を相續す同三十七年海軍兵學校を卒業し翌年海軍少尉に任ぜられ昭和四年海軍水雷學校高等科を卒業し海軍砲術學校教官第二水雷戰隊參謀横須賀鎮守府參謀長門砲術長兼海軍砲術學校教官室戸特務艦長海軍砲術學校教頭兼海軍艦政本部技術會議々員横須賀鎮守府附球磨艦長比叡艦長日向艦長等を經て昭和四年前記の職に補せられ今日に及ぶ家族は尙ほ三女乃富子（大七、三生）四女發美子（同九、一生）五女順子（同一三、六生）六女瀧州子（昭二、五生）七女利子（同四、七生）あり（東京市外和田堀町和泉一八三）

男　觀　大一五、一生

君は由日縣人大野謙彌の長男にして明治三十年四月を以て生れ同三十四年家督を相續す大正十年高等試驗に合格し翌十一年朝鮮總督府江原道屬同年道理事官同十五年府事務官昭和二年道事務官に任じ現時慶尙北道警察部長たり家族は尙妹フジ（明四一、一二生）同ヒサヨ（大三、三生）あり母ヌイ（明六、八生、山口、江藤茂助二女）は山口縣人久保フジの家督を繼ぎ二男乾（昭三、二生）は其養子となり姉ヌケヨ（明二八、五生）は愛知縣人武藤吉太郎に妹シチ（同三八、七生）は山口縣人砂田又一に嫁せり（大邱、慶尙北道廳警察部內電二二一）

大野謙三

飯能銀行、東亞化學工藝各穂取締役、武藏野鐵道、東京セメント各穂監査役、埼玉縣在籍

妻　タケ　明一一、七生、埼玉、原作藏妹
養子　傳十郎　明三四、六生、長女ふく夫、埼玉黑澤勝郎次三男
女　ふく　明三五、九生、養子傳十郎妻

君は埼玉縣人大野半次郎の長男にして明治七年七月を以て生れ同二十四年家督を相續す現時飯能銀行取締役の外前記各會社の重役たり家族は尙孫義男（大一一、一一生、養子傳十郎長男）同富美子（同一三、八生、同長女）同益子（同一五、七生、同二女）同勝男（昭五、八生、同二男）あり姉美彌（明元、一生）は埼玉縣人坂本喜一に同けい（同四、一一生）は同縣人齋藤熊吉に養姉ムラ（元治元、一二生、父半次郎養子）は東京府士族栗原信次郎に嫁し弟奧三郎（同一四、八生）は滋賀縣士族松下貞雄の養子となれり（埼玉、入間、東吾野村）

大野源五郎

從五位勳六等、營林署技師、福岡營林署長、長崎縣士族

母　チセ　明元、一生、長崎、士、柏原其內長女
妻　マス　明二〇、八生、長崎、高原久姉
男　喬　大四、八生
女　千鶴　明四四、一〇生

君は長崎縣士族大野良太郎の長男にして明治十七年十月を以て生れ大正八年家督を相續し明治四十五年東京帝國大學農科大學林學科を卒業し大正元年林務技手となり爾來山林技手鹿兒島大林區署本莊小林林區署長高知大林區署大栃小林林區署長山林技師營林局技師等を經て同十五年營林署技師に轉じ現に福岡營林署長たり家族は尙二女胖（大六、一一生）二男明（同一三、三生）四女アイ（昭二、七生）三男正（同五、四生）弟定亮（明二一、三生）同妻シチ（同三〇、四生、長崎、小佐々スガ妹）及其二子弟彪弱（同三二、七生）同妻キヌヱ（同三八、六生、北海道、岸田熊三郎長女）及其一子弟龍（同三八、三生）妹千穗（同四二、一生）あり同浩介（同三〇、一生）は長崎縣人木戸稱吉の養子となれり（福岡市因幡町營林署官舍電二一六六）

大野作左衞門

三重縣參事會員、三重縣多額納稅者、工業、三重縣在籍

妻　しすゑ　明三七、五生
男　正た　明三八、八生
男　正平　明三四、五生
女　喜代　明四三、五生

君は三重縣人大野庄七の長男にして明治元年七月を以て生れ同十七年家督を相續し前名弟吉を改む工業に從事し直接國稅二千三百七十六圓を納め縣下の多額納稅者に列し又同縣參事會員に擧げらる三女くに（明二七、一一生）は愛知縣士族水谷貞雄に妹いふ（同一〇、二生）は愛知縣士族大野彌治郎に同かね（同一五、九生）は同縣人水谷熊次郎に嫁し五女千枝（同四一、三生）は同浩介（同三〇、一生）あり同清介（同三〇、一生）は長崎縣人木戸稱吉の養子となれり（福岡市因幡町營林署官舍電二一六六）

大野治右衞門

家主
大阪府在籍

養父治良左衞門萬延元、五生
養母　サク　明一〇、八生、大阪、松本淺次郎
　　二女
妻　モヨ　明二〇、六生、養父治良左衞門長女
男　寺男　大四、四生

君は奈良縣人足達保治郎の三男同重右衞門の弟にして明治十六年十月を以て生れ大野治良左衞門の養子となり大正十一年家督を相續し前名重藏を改む資產家にして家主たり家族は尙二女良子（大八、一二生）三女英子（同一〇、一〇生）あり（大阪、東淀川、豐崎西通五ノ七）

參照＝家川野宗太郎の項

大野順末

大泊商工會議所會頭、山九大野商事各穂代表社員、石川縣在籍

養母　スキ　萬延元、一二生、石川、石野清平
　　二女
男　九郎　大三、三生

君は石川縣人本谷惣次郎の四男にして明治十年十月を以て生れ先代九平の養子となり大正七年家督を相續す明治三十年大阪高等商業學校を卒業し現時山九大野商事會社代表社員にして傍ら大泊商工會議所會頭に推さる長女順子（明四二、一二生）は北海道人井坂圭朽長男圭一良に嫁し養弟與三松（同二〇、一一生）は其妻子を伴ひ分家し亡叔父長太郎妻トク（同六、八生、北海道、士、山田藤次郎妹）も亦其子女を伴ひ分家せり（樺太、大泊町）

大野新一郎

從五位勳六等、判事、大阪地方裁判所豫審判事、愛知縣在籍

母　つた　慶應三、一生、愛知、森儀右衞門
　　二女
妻　千東　明三〇、四生、愛知、淺見峯次郎
　　二女
女　靜枝　大五、七生

君は三重縣人大野庄七の長男にして明治元年七月を以て生れ同十七年家督を相續し前名弟吉を改む工業に從事し直接國稅二千三百七十六圓を納め縣下の多額納稅者に列し又同縣參事會員に擧げらる三女くに（同一〇、二生）は愛知縣士族水谷貞雄に妹いふ（同一五、九生）は同縣人水谷熊次郎に嫁し五女千枝（同四一、三生）は同浩介（同三〇、一生）あり同清介（同三〇、一生）は長崎縣人木戸稱吉の養子となれり（福岡市因幡町營林署官舍電二一六六）

大野清次郎

朝日商工穂代表取締役、大阪毛絲紡績穂取締役、大阪府在籍

妻　フク　明二四、三生、宮崎、疋田伊助妹
男　寺男　大四、四生

君は奈良縣人足達保治郎の三男同重右衞門の弟にして明治十六年十月を以て生れ大野治良左衞門の養子となり大正十一年家督を相續し前名重藏を改む資產家にして家主たり家族は尙二女良子（大八、一二生）三女英子（同一〇、一〇生）あり（大阪、東淀川、豐崎西通五ノ七）

參照＝家川野宗太郎の項

大野善三郎

名古屋商工會議所議員、名古屋米穀取引所取引員、岐阜縣在籍

妻　敏　明三五、七生、山梨、齋藤芳治妹
　　男　淑子　大四、四生
　　女　晴子　大五、四生

君は愛知縣士族大野魯太郎の長男にして明治十六年三月を以て生れ同四十五年家督を相續す同三十七年海軍兵學校を卒業し翌年海軍少尉に任ぜられ昭和四年海軍水雷學校高等科を卒業し海軍砲術學校教官第二水雷戰隊參謀横須賀鎮守府參謀長門砲術長兼海軍砲術學校教官室戸特務艦長海軍砲術學校教頭兼海軍艦政本部技術會議々員横須賀鎮守府附球磨艦長比叡艦長日向艦長等を經て昭和四年前記の職に補せられ今日に及ぶ家族は尙ほ三女乃富子（大七、三生）四女發美子（同九、一生）五女順子（同一三、六生）六女瀧州子（昭二、五生）七女利子（同四、七生）あり（東京市外和田堀町和泉一八三）

大野健藏

日本綿花穂青島支店長
大阪府在籍

父　豐次郎　文久元、三生、現戸主
妻　萬壽惠　明二四、一一生、岡山、小倉友康
　　二女
男　健一　大五、二生

君は大阪府人大野豐次郎の長男にして明治二十年十月を以て生れ同四十三年大阪高等商業學校を卒業し日本綿花會社に入り神戸東京上海孟買各古屋各地支店勤務を經て現時同社青島支店長たり家族は尙二男敬郎（大一一、一生）三男豐（同一二、一〇生）四男惠介（同一五、一生）二女和子（昭五、八生）妹寺（明二七、五生）あり（青島、日本綿花會社支店內）

妻　そと　明一五、三生、岐阜、郷阮吾二女
男　正　明四一、八生
女　とよ　明三九、一二生

君は岐阜縣人大野善三郎の三男にして明治十一年七月を以て生れ大正十三年先代善一郎の後を承け家督を相續し前名佳三を改む現時名古屋米穀取引所取引員にして名古屋商工會議所議員に推さる家族は尙二男善次郎（大元、一〇生）三男銅三（同五、三生）あり長女釵（明三七、一一生）は三重縣人小菅劍之助長男弘に嫁せりA九二六（名古屋、中、米濱町一六電昌南三八〇一）
參照＝小菅劍之助＝平田政十郎の項

大野宗太郎　銅鐵商　東京府在籍

養母　ハル　嘉永元、一生、東京、高橋國太郎妹
妻　チヨ　明一四、三生、神奈川、浪川彌助妹
男　喜一　明三九、一二生
養子　邦光　明二七、九生、長女靜子六、東京那須初見四男
女　靜子　明三三、四生、養子邦光妻
女　鐵子　明三七、一生
女　珠子　明三八、一〇生
女　繁子　明四三、一〇生

君は神奈川縣人安藝源長衞の兄にして明治八年四月を以て生れ先代辰雄の養子となり同四十四年家督を相續す夙に銅鐵業に從ひ刻苦家業に努め遂に今日の基礎を作る家族は尙三男宗彌（大二、一生）四男謹之助（同四、六生）五男淳司（同六、一一生）六男滋雄（同九、六生）孫富枝（同一〇、一〇生、養子邦光長女）同宗治（同一三、一生、同長男）同義光（同一五、一二生、同二男）あり二女幾代（明三四、一二生）は和歌山縣人織戸孫之丞五男健三に嫁せり（東京、京橋、本材木河岸四一號電昌京橋三六三四）
參照＝氣尾島頑宵の項

大野宗平　溝口銀行毛織頭取　兵庫縣在籍

妻　こと　萬延元、七生、兵庫、三木佐一郎妹
男　宗治　明二一、二生
婦　靜江　明三一、四生、長男宗治妻、兵庫小林善太郎從妹
男　宗一　明二二、一〇生
婦　マサノ　明二九、三生、二男宗一妻、兵庫鎌谷清次三女

君は兵庫縣人大野惣平の二男にして安政六年一月を以て生れ明治二十二年家督を相續す現時溝口銀行頭取り家族は尙孫宗清（大四、三生、長男宗治、養子、弟宗一長男）同和子（同八、五生、二男宗一長女）同宗明（同一一、二生、同三男）同正彦（同一三、五生、同四男）同幸（昭四、七生、同五男）同正子（同一五、五生、同四男）同妻いし（明八、六生、兵庫、神崎、中寺村）は共に分家せり（兵庫、神崎、中寺村）
參照＝小林善太郎の項

大野　赴　正五位勳四等、商工技師兼東京鐵山監督局分析課長、東京府士族

妻　ミナ　明二、五生、秋田、近利左衞門妹
男　清一郎　大二、五生
女　菊子　明四四、一〇生
女　照子　大三、一一生

君は千葉縣士族大野清助の長男にして明治十六年八月を以て生れ同三十三年家督を繼ぎ同四十年東京帝國大學工科大學應用化學科を卒業し農商務技師鑛務技師鑛山監督局技師等に歷任し技師兼農商務技師現に商工技師に任じ東京鑛山監督局分析課長を兼ぬ家族は尙四女榮子（大七、一〇生）二男謙二郎（同一一、七生）あり同四女榮子、東京、牛込、新小川町二ノ三電牛込二六六九）
參照＝近利左衞門＝尾留川安彦＝近權内の項

大野　悌　伊豫相互貯蓄銀行、愛媛縣農工銀行、松山染織各種監査役、愛媛縣在籍

妻　サキ　明二五、四生、香川、黒瀨與重郎三女
男　侗矣　大一二、六生

君は愛媛縣人大野侗吉の六男にして明治二十年九月を以て生れ大正五年家督を相續す現時前記銀行會社の重役たり家族は尙長女康（大九、二生）二女順子（同一三、姉ジヤ（明一七、一生）は愛媛縣人近藤正平に嫁せり（松山、湊町二ノ一〇）
參照＝黒瀨與重郎、近藤正平＝鎌田憲夫の項

大野傳吉　東京市會議員、大正毛織物市場社長、大野屋、洋服商　東京府在籍

妻　わか　明六、一生、埼玉、山田新吉養子
養子　重市　明三五、七生、愛媛、中川長吉二男

婦　久子　明四一、一一生、養子重市妻、愛媛、山内正二妹

君は東京府人大野惣平衞門の二男にして明治三年七月を以て生れ同四十年家督を相續す大野屋と稱し洋服商を營み傍ら大正毛織物市場會社長にして東京市會議員たり家族は尙孫ヤエ（大一五、一一生、養子重市長女）同利男（昭五、一生、同長男）あり養子シヂミ（明三七、六生、愛媛、中川長吉三女）は東京府人藤倉誠之助に同シゲコ（同四〇、八生、同四女）は同府人中島豐實長男武夫に嫁せりA一〇〇四B一六四（東京、牛込、市谷八幡町一三電牛込一二三五）

大野德三郎　日本アスベスト㈱社長　東京府在籍

妻　ヨシ　明一五、三生、東京、士、大野市太郎妹
養子　清一　明三七、七生、岐阜、大野賢治弟

君は岐阜縣人大野惣右衞門の二男にして明治四年六月を以て生れ大正六年兄賢治より分れて一家を創立す現時日本アスベスト會社長たり（東京、芝、芝公園五號地一三電芝二四七四）
參照＝大野市太郎＝堀江專一郎の項

大野伴睦　衆議院議員（岐阜縣選出）、著述業　岐阜縣在籍

母　くにゑ　慶應二、四生、白井牛四郎二女
妻　きみ　明二三、七生、海老名金兵衞二女
男　直　大九、四生

君は岐阜縣人現戸主大野富之助の弟にして明治二十三年九月を以て生る夙に政界に入り著述業の傍ら東京市會議員貴族院交友クラブ書記長に就任せしも昭和五年岐阜縣第一區より推されて衆議院議員に當選す現に立憲民政黨所屬たり家族は尙二男成生（大一二、一〇生）三男伴雄（同一五、六生）四男明（昭三、一一生）あり（東京、芝、白金今里町三九）

大野豐四　從三位勳二等功四級、陸軍中將、佐賀縣士族

妻　さく　明一六、九生、東京、佐本壽人二女、日本女子大出身
男　武城　明三二、一生、正七位、陸軍歩兵大尉
婦　咲子　明三八、九生、長男武城妻、京城府立第一高女出身

女　榮子　明四二、七生、實踐女學校出身
女　和子　大二、六生、東京府立第三高女出身
女　晃子　大三、七生、女子學習院在學

君は佐賀縣士族大野有禎の四男にして明治四年十二月を以て生る夙に陸軍士官學校を卒業し同二十六年陸軍歩兵少尉に任じ大正十年陸軍中將に累進す其間陸軍大學校を卒業し獨逸來戸山學校教官臺灣總督府陸軍參謀第一師團參謀參謀本部々員第十一師團參謀長陸軍士官學校令官歩兵第十五聯隊長第十四師團參謀長陸軍士官學校生徒隊長近衞歩兵第一旅團長朝鮮軍參謀長第十七師團長等に歷補し大正十四年豫備役に編入せらる家族は尙五女澄子（大一一、一〇生）兄禎一（安政四、三生、現戸主）同妻タヾ（文久三、二生、熊本、受樂院篤圓二女）及其子女竝弟要（明七、二生）同妻穗積（同二一、三生、山形、士、前田精厚妹）及其子女あり同虎六（同一〇、一〇生）は其子女を伴ひ分家し長女香（同四〇、五生）は東京府人橋本卯太郎二男宙二に姪ツタ（同一六、一生、兄禎一長女）は熊本縣人古莊嘉三郎長男英太に同キヨ（同二四、三生、同四女）は同縣人竹中太郎七三男又喜に同綾子（同三八、四生、弟要長女）は佐賀縣人野口勝三に同千歲（同三九、一二生、同二女）は熊本縣人立川鴻一に同鶴代（同四一、九生、同三女）は福岡縣人安島保男に同松代（同四一、九生、同四女）は北海道人柴垣留雄に嫁せり（東京市外代々幡町代々木一五一一）
參照＝橋本卯太郎の項

大野　秀和　富士生命保險㈱常務取締役、大阪朝日新聞社員、秋田縣士族

妻　ツヤ　明二一、一生、秋田、小堀弟二四女
男　秀信　明四三、七生
男　俊雄　明四四、一〇生

君は秋田縣士族大野秀正の二男にして明治九年六月を以て生れ大正六年家督を相續す明治三十三年日本大學法律科を卒業し現に大阪朝日新聞社員にして傍ら富士生命保險會社常務取締役たり義に大北火災保險會社專務取締役北都運送會社取締役に擧げられしことあり家族は尙三男寛（大四、一生）三女マサ（同一〇、九生）五女ノブ（同一二、一生）四男四郎（同一四、三生）五男五郎（同一五、八生）あり長女美代子（明三八、九生）は秋田縣人菅吉之助に二女鈴子（同四〇、八生）は山口縣人田邊一に嫁せり（大阪、豐能、豐中町吉野通一ノ二九

大野　英夫　京都府多額納稅者、地主　京都府在籍

母　キヤウノ　明三、七生、大阪、島田政邦二女
妻　アヤ　明三七、一生、大阪、林信次郎二女、京都府立第一高女出身

君は京都府人大野啓介の長男にして明治二十七年十月を以て生れ大正九年家督を相續す同七年同志社大學經濟科を卒業し地主として知られ直接國稅二千三百六十六圓を納め京都府多額納稅者たり家族は尙長女澄子（大一四、一一生）あり姉チイ（明二〇、三生）は大阪府人齊藤房次郎に同鑒（同三三、一二生）は同府人小寺傳治に妹美都（同三三、一二生、出身校同上）は法學士今田知二に同八重（同三五、一二生、出身校同上）は和歌山縣人井上吉次郎に嫁し弟美稻（同二九、七生）は分家せりA四八七（京都、上京、室町夷川上ル鏡屋町電上四三七一）
參照＝齊藤房次郎の項

大野　豹吾　正五位勳四等、檢事、長岡區裁判所檢事兼新潟地方裁判所檢事　宮城縣在籍

妻　ちよ　明三〇、一一生、宮城、矢内彌一郎二女
男　雄　大八、六生

君は宮城縣人大野重藏の二男にして明治十六年十二月を以て生る同三十六年明治法律學校を卒業し判檢事登用試驗に合格し同四十二年檢事に任じ爾來栃木區新潟區同地方相川新發田村上酒田米澤一關谷村各區裁判所新發田區裁判所兼新潟地方裁判所新發田支部各檢事に歷補し現時長岡區裁判所檢事兼新潟地方裁判所檢事たり家族は尙四男正武（大一一、八生）兄虎十郎（明一一、一一生、現戸主）同妻とめよ（同一〇、一二生、宮城、小關一郎妹）及其子女弟慶止（同二九、七生）同妻磐井（同三六、四生、宮城、小關一郎姪）及其子女弟誇昌（同三四、六生）あり叔父幸一（同五、六生）は分家し再從兄清治（文久元、一二生）は宮城縣人佐藤男八の養子となり養姉はな（明一三、五生、宮城、大野善八二女）は同縣人大野萬藏の家籍に入り妹あき（同一九、九生）は福島縣人中村彌平次長男顯宜に同とめ（同二五、一一生）は宮城縣人高橋熊松に同ヨネ（同三一、一一生）は福島縣人中野海元に養姉きく（慶應二、九生、宮城、大

大野　政吉　旭硝子㈱取締役、工場課長　東京府在籍

妻　キミエ　明二一、七生、大阪、知藥友治郎長女

君は東京府人大野二藏の二男にして明治十七年四月を以て生れ大正七年家督を相續す明治三十九年東京高等工業學校を卒業し直ちに旭硝子會社に入り三度歐米を視察す義に同社各工場長たりしも現時取締役にして工場課長の職に在り曾て母校及明治專門學校九州帝國大學工學部の講師として硝子講義を擔當せりA一四五八（東京市外馬込町中井一三三六電大森二三九六）

大野　萬三　家主　大阪府在籍

母　ヨネ　明七、三生、大阪、北山米藏妹
妻　靜子　明三、一二生、兵庫、小林竹太郎二女
男　尙一　昭二、一生

君は大阪府人大野萬五郎の孫にして明治三十一年十一月を以て生れ大正十一年家督を相續す家主として知られる家族は尙長女輝子（昭四、九生）妹文江（大三、一〇生）あり（大阪、此花、玉川町二ノ一四九三電福島八六六）

大野　孫平　東京瓦斯㈱專務取締役、大東衛生監査役、東京府在籍

父　金太郎　安政二、九生
姉　元治　元、三生、新潟、中川幾太郎
母　サウ　明二〇、六生、新潟、角屋貞造長女
妻　佐嘉逸　大五、二生
男　義光　明四一、一二生、跡見女學校出身
女　春子　明四三、一〇生、家政學院出身
女　ふじ　大二、八生
養子　光　明四一、一二生、跡見女學校出身

君は東京府人大野金太郎の長男にして明治十二年十二月を以て生れ昭和三年家督を相續す現時東京瓦斯專務取締役たる外前記會社の重役たり家族は尙二男正孝（大七、八生）五女千鶴子（同一一、九生）あり妹マサ（明二八、一生）は茨城縣人土田富三に嫁せり（東京、本郷、駒込西片町一〇電小石川三二八九）

大野　萬三　家主　大阪府在籍

母　ヨネ　明七、三生、大阪、北山米藏妹
妻　靜子　明三、一二生、兵庫、小林竹太郎二女
男　尙一　昭二、一生

君は大阪府人大野萬五郎の孫にして明治三十一年十一月を以て生れ大正十一年家督を相續す家主として知られる家族は尙長女輝子（昭四、九生）妹文江（大三、一〇生）あり（大阪、此花、玉川町二ノ一四九三電福島八六六）

大野守衛　從四位勳三等、特命全權公使
山口縣士族
妻　セイ　明一八、八生、山口、亡六鄰和三郎三女

君は山口縣士族大野直輔の二男にして明治十二年三月を以て生る同三十七年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し大學院に於て國際公法を專攻し同四十年外交官及領事官試驗に合格す爾來外交官補大使館三等書記官同二等書記官等に任ぜられ獨墺伊各國に在勤す大正六年外務書記官に任ぜられ通商局第二課長となり農商務書記官を兼任す同八年漢堡駐在總領事より在獨大使館參事官となり同十五年特命全權公使に陞り墺國駐劄兼洪牙利國駐劄仰付られ昭和五年五月壽府手形法統一會議帝國代表被仰付同年十月歸朝外務省條約局勤務中たり家族は尙亡兄理學博士直枝妻アヤノ（明一七、一〇生、山口、河上謹一長女）同長男直一郎（同四二、九四四、六生）同長女美代（同三八、一生）同二女壽子（同四四、六生）同三女正子（大二、四生）あり（東京、本郷駒込西片町一〇ノ二四號電小石川四四五八）
參照＝河上謹一※河上謹の項

大野盛郁　日本製布㈱社長、新京阪鐵道、相互運輸倉庫㈱取締役、鹿兒島縣士族
母　エイ　弘化元、一一生、鹿兒島、士、川上箭七郎三女
妻　ノフ　明九、六生、鹿兒島、士、松崎貞長女
男　憲吉　明三〇、五生
婿　壽子　明三七、一二生、長男憲吉妻、鹿兒島、白石愛介六女
男　宏　明三三、九生
男　實　明三七、二生
男　幸　明四四、三生

君は鹿兒島縣士族大野盛器の長男にして應應二年四月を以て生れ明治六年家督を相續す同三十一年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し現時日本製布會社々長たる外前記會社の重役たり家族は尙六男富士郎（大二、三生）七男寮（同四、八生）八男徳（同九、九生）孫綺彦（昭三、一二生、長男憲吉長男）の外弟盛貞（明四、一一生）同妻誉（同一四、六生、鹿兒島、士、上田當芳長女及其子女あり姉ナチ（文久三、九生）は鹿兒島縣士族山内弘に妹ツネ（明八、六生）は同縣士族花田伸之助に姪チル（同三七、一一生）は岐阜縣人青木主計に嫁せり（京都、左京、聖護院中町一〇電上二五四三）

大野彌一郎　紀陽染工㈱取締役、洋反物綿布商
東京府在籍
妻　タケ　明一八、五生、東京、小松太助妹
男　統一郎　明四二、六生
女　和　明四四、六生
女　弘　大四、四生

君は大阪府人大崎忠三郎の長男にして明治十四年二月を以て生れ先代八重の養子となり同二十年家督を相續す洋反物綿布商を營み傍ら前記會社の重役たり家族は尙姉ヤナ（嘉永四、一二生）あり（東京、日本橋、濱町三ノ一五）

大野勇次郎　森永製茶販賣㈱專務取締役
栃木縣在籍
妻　タケ　明一二、八生、栃木、大橋捨吉妹
男　房次郎　明三二、八生
婿　ミヨ　栃木、宮本金藏二女

君は栃木縣人大野惣吉の長男にして明治四年四月を以て生れ同二十年家督を相續す現時森永製茶販賣會社專務取締役にして籌に森永製品關東販賣森永相互保證各會社の重役たり家族は尙三女惠子（大六、一〇生）孫誠司（昭二、六生、二男房次郎長男）同義夫（同四、九生、同二男）あり長女光（明三六、七生）は栃木縣人豐島榮吉に嫁し弟吉次郎（同九、三生）は分家せり（字都宮、新宿町）

大野龍太　從五位勳六等、大藏書記官兼銀行檢査官、銀行局特別銀行課長
兵庫縣在籍
父　輝吉　元治元、四生、現戸主
妻　明子　明三〇、一〇生、前司法大臣原嘉道二女
男　公男　大一五、六生

君は兵庫縣人大野輝吉の長男にして明治二十五年十一月を以て生る大正六年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し大藏屬となり次で財務書記として英國に駐在し歐米各國に出張す大正九年司稅官に任ぜられ稅務監督局事務官銀行局事務官等に歷任昭和二年大藏書記官になり現時前記の職にあり家族は尙長女敦子（大八、五生、二女智子（同一一、四生）二男正男（昭二、九生）妹和子（明四二、一〇生）あり同鶴江（同二九、一二生）は陸學博士星野貞次に同靜枝（同三四、七生）は京都府人大原萬千百に嫁せり（東京、麹町、四番町三電九段一四三五）
參照＝原嘉道※林田敏義の項

大野良藏　外科大野病院、木津川病院、港病院各院長、醫師、福岡縣在籍
妻　美喜乃　明三一、一〇生、福岡、鳥越密三郎二女
男　良雄　大九、七生

君は福岡縣人大野良作の長男にして明治二十三年十二月を以て生れ同三十六年家督を相續す醫師にして前記各病院長たり家族は尙二女壽美子（大一一、五生）三女寺子（同一四、一生）ありA八九四〇（大阪、住吉、阿部野相生通二電櫻川一六五五）
參照＝鳥越密三郎の項

大野綠一郎　從四位勳三等、社會局社會部長
埼玉縣在籍
妻　テル　明二七、一生、廣島、多綱尾篤吉長女
男　一郎　大四、九生

君は埼玉縣人大野榮三の弟にして明治二十年十月を以て生る同四十五年東京帝國大學法科大學を卒業し文官高等試驗に合格す秋田香川各縣理事官內務書記官を經て社會局書記官に任じ第二部第一課長兼第二課長となり大正十二年歐米各國に出張す歸朝後社會部職業課長に補せられ次で德島縣知事岐阜縣知事となり現時社會局社會部長中央職業紹介事務局長たり靜府に開催の第十五回國際勞働總會に政府代表委員として差遣せらる家族は尙長女春（大六、一〇生）二男雄二郎（同九、一生）二女靜（同一一、八生）三男徹三（同一四、二生）あり（東京市外武藏野町吉祥寺二八三一電吉祥寺四六八）
參照＝大野榮三※下田次郎の項

大野林太郎　燕樂軒㈱取締役、大野屋、牛豚肉商、埼玉縣在籍
妻　コウ　明一八、二生、養父良之助二女
男　儀重　明四二、九生
男　喜祐　明四四、五生
男　筆　明四四、五生

君は埼玉縣人田島源造の二男にして明治十二年十一月を以て生れ大野良之助の養子となり大正四年分れて一家を創立す大野屋と稱し牛豚肉商を營み傍ら前記會社

の重役たりA六二一B七九（東京、神田、雉子町一六電神田一四一六）

大野木代次郎　濱松商工會議所副會頭、濱松委託運送、濱松倉庫各㈱社長、濱松委託、濱松合同運送各㈱取締役、濱松銀行、遠州電氣鐵道、濱松電氣鐵道各㈱監査役、靜岡縣在籍
男　藤吉　明二五、六生
婿　とよ　明三〇、一生、長男藤吉妻、靜岡、木俣文次郎妹

君は靜岡縣人大野木岩三郎の長男にして安政六年一月を以て生れ明治二十七年養兄夏藏方より分れて一家を創立す現時前記銀行會社の重役にして濱松商工會議所副會頭に推さる家族は尙孫さよこ（大一五、四生、長男藤吉長女）同なか（昭三、二生、同二女）あり二男武次（明二八、五生）は大阪府人八代麻三郎の養子となり四女きん（同三八、一一生、山脇高女出身）は靜岡縣人井上剛一二男洋之助に嫁せり（濱松、木戸町）
參照＝井上剛一、八代武次の項

大葉久吉　賣文館㈱社長、歌舞伎座、やまと工業、日本書籍、旭製紙、大阪製電氣、中外印刷、鐵道勝間計器、鐵道鐵道製造、北海道鐵道、日本ノート學用品各㈱取締役、㈱監査役、圖書出版業、岐阜縣在籍
母　たみの　嘉永五、二生、岐阜、吉岡久右衛門三女
妻　へう　明一三、七生、兵庫、士、八田稔二女、賣文館㈱取締役
男　久治　明四一、三生
女　紀美子　明四三、二生

君は岐阜縣人大葉久三郎の長男にして明治六年五月を以て生れ同四十三年家督を相續す夙に大阪府人吉岡平助に就きて出版業に從事し現に賣文館主にして圖書出版業を營み傍ら前揚諸會社の重役たり家族は尙亡弟弘吉妻かね（明一六、三生、岐阜、片桐一郎姉）あり長女久子（同三四、七生）は新潟縣人出塚助衛弟祐助に妹ふさ（同二七、一生）は兵庫縣人小寺杉松弟重太郎に嫁し弟久次郎（同一四、一二生）は岐阜縣人大葉吉次郎の養子となり同久四郎（同八、九生）は其妻とめ（同二〇、四生、岐阜、小川政次郎長女）と共に其二男を伴ひ分家せり（東京、日本橋、本銀町三ノ一八電日本橋二六二二六）

大庭士郎　正五位、醫學博士、名古屋醫科大學教授、東京府士族
妻　惠　明三〇、六生、滋賀、猪狩義友四女
男　隆　昭三、三生

君は佐賀縣士族大庭景龍の四男にして明治十七年十一月を以て生る同四十五年東京帝國大學醫科大學內科學科を經て昭和六年五月前記現職に任ぜらる家族は尙長女龍子（大八、三生）兄景臣（明九、一生、現戸主）同妻と（同一一、八生）同妻まさ（同二二、二生、大阪、高田銀造妹）弟榮（同二二、一生）同妻敏子（同三七、三生、奈良、中津忠義長女）との間に各子女あり兄茂（同一六、五生）は分家せり（名古屋、中、彌生町一ノ一六）

大庭二郎　從二位勳一等功二級、陸軍大將、山口縣士族
妻　すめ　明一三、四生、岐阜、猶林之助二女
男　三郎　明三五、九生
男　小二郎　明三六、一一生
男　雄　明四二、二生
男　春　明四四、三生
女　正　明四三、三生
女　富美子　明四五、五生

君は山口縣士族大庭此面の長男にして元治元年六月を以て生れ明治二十七年家督を相續す夙に陸軍に志し同十九年步兵少尉に任じ進んで陸軍大學校を卒業し參謀本部に出仕し同二十八年獨逸に留學を命ぜられ歸朝後陸軍大學校教官兼砲隊長戸山學校長步兵第二聯隊長戸山學校長步兵第十一旅團長等に歷補し同九年陸軍大將に陞り同十一年教育總監兼軍事參議官に補せられ大正十五年營陸軍參謀として功を樹て勳三等に敍せられ功三級を賜り後勳一等功二級に陞敍せらる家族は尙五男英（大二、九生）あり長女操（明三九、八生、三輪田高女出身）は茨城縣人小岡井邦雄に妹サヨ（同三、四生）は山日縣士族波多野毛三郎に嫁せり（東京市外落合町下落合四〇五電大塚三二一〇）

大庭竹四郎　金光温泉㈱社長、日本農具製造㈱取締役、大庭商會、火山灰商
兵庫縣士族
男　靜夫　明三一、一〇生
養子　茂登　明一六、九生、長女ちよ夫、兵庫、竹本喬人弟
女　ちよ　明一八、八生、養子茂登妻
孫　敏夫　明四〇、三生、養子茂登長男
孫　二郎　明四一、九生、養子茂登二男
孫　三郎　明四三、一生、養子茂登三男
孫　千鶴子　大五、六生、養子茂登長女

君は兵庫縣士族大庭助左衛門の二男にして安政六年三月を以て生れ姪養子の跡を承けて大正十年家督を相續す大庭商會と稱し火山灰商を營み傍ら前記會社の重役たり家族は尙三男悌平（明四五、一生）孫五郎（大三、七生、養子茂登五男）同六郎（同六、八生、同六男）同未七男（同八、一生、同七男）同八郎（同一〇、三生、同八男）同九郎（同一二、一生、同九男）同まき子（同一四、二生、同二女）あり二女秀（明二〇、九生）は福岡縣人豐田喜三に三女賀代（同二六、一生）は大阪府人吉田長祥養子厚に五女こと（同三七、一生）は兵庫縣人直木榮に妹まつの（文久三、五生）は兵庫縣人鈴木晃輔に姪愛子（同三三、二生、七兄鉞庶子）は京都府人白波瀨梅三郎に嫁せり（神戸、相生町四ノ五〇電元町一四五三）
參照＝鈴木晃輔※高橋榮の項

大庭經之輔　宮城縣多賀納稅者、七十七銀行㈱取締役、仙臺信託㈱監査役、金融業、宮城縣在籍
妻　りん　萬延元、四生、養父長九郎長女
男　彥六郎　明一四、一二生

君は宮城縣人小山與治右衛門の二男にして安政五年四月を以て生れ先代長九郎の養子となり明治二十九年家督を相續す金融業を營み傍ら前記銀行會社の重役にして直接國稅一萬二千七百八十八圓を納め宮城縣多賀納稅者たり二男彥七郎（明一七、一〇生）は宮城縣人佐藤よしふの入夫となり二女チヱ（同二六、一一生）は同縣人千田敬一に嫁し養弟長三郎（同八、一一生）三男彥八郎（同二一、二生）は各分家し長女とみ（同一二、五生）も亦其子女を伴ひ分家せり（宮城、栗原、志波姫村）
參照＝大庭彥六郎、千田敬一の項

大庭彥平　酒卸商
石川縣在籍
妻　はつ　慶應元、一二生、石川、有代太郎次郎長女

男　彦市　明三一、七生
婦　喜見　明三三、五生、三男彦市妻、北海道、小森良吉長女

君は石川縣人大庭彦市の二男にして文久三年一月を以て生れ明治三十二年家督を相續し前名長太郎を改め襲名す酒卸商を營む蠣に函館商船會社取締役たりし事あり家族は尙孫彦衞（大一〇、一一生、三男彦市長男）同彦二（同一四、一生、同三男）同佐喜（昭二、三生、同長女）あり長女しな（明二〇、一生）は石川縣人姉川五左衞門長男權三郎に嫁し二女きく（同二八、一二生）五男彦二（同三六、一〇生）妹ショ（同二五、八生）同チヲ（同二七、五生）養弟外松（同一二、二生、石川、有代大次右衞門四男）は各分家し弟彦吉（同二八、七生）は石川縣人東要藏の養子となれりA一二五一五B一二五（函館、大町三七電三〇九）

大庭彦六郎

父　經之輔　東北電實業貯蓄銀行、仙北鐵道各取締役、東北電實業銀行株監査役
妻　ちとせ　安政五、四生、現戸主
妹　宮城縣在籍
男　彦太郎　明四二、九生、宮城、士、大内諒

君は宮城縣人大庭經之輔の長男にして明治十四年十二月を以て生る同四十一年早稻田大學政治經濟學科を卒業し現時前記各銀行會社の重役たり家族は尙二男正彦（大三、一生）三男實（同六、六生）四男明（同九、一〇生）五男廣（同一二、二生）六男隆（同一五、一生）あり長女泰（明四〇、三生）は分家せり（宮城、栗原、志波姫村）

參照＝大庭經之輔家千田敬一家高橋文五郎の項

大庭與市

天龍木材、天龍製鋸各株取締役
靜岡縣在籍

妻　てる　明一五、三生、靜岡、西藤吉平二女
男　吉太郎　明三四、九生
婦　しつ子　明三八、四生、長男吉太郎妻、靜岡、田中午二姨妹
姨子　あき子　大二、一一生、靜岡、門奈甚八四女

君は靜岡縣人九鬼市郎平の二男にして明治十六年十月を以て生れ先代秀太郎の養子となり同四十二年家督を相續す夙に實業界に入り現時天龍木材會社天龍製鋸會社各取締役たり家族は尙孫太郎長男、三男彦市妻、北海濱名、中ノ町村中野町電六八）

大場鑑次郎

養父　德太郎　正五位勳四等、臺灣總督府文教局長、山形縣在籍
養母　カマ　明元、六生、現戸主
妻　トヨ　明五、二生、故法學博士大場茂馬妹
男　維一郎　明二四、六生、養父德太郎長女
女　和子　大四、七生
　　明四四、一生

君は山形縣人金子慶治の三男にして明治二十一年二月を以て生れ同三十九年當主德太郎の養子となる同四十四年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し文官高等試驗に合格愛媛縣試補同警視北海道廳理事官高知縣理事官等を經て大正十年關東廳事務官に任じ警務局保安課長同高等警察課長警務課長福岡縣內務部長等に補せられ昭和六年五月前記現職に轉ず大正十二年歐米各國に出張を命ぜらる家族は尙二女倭文子（大七、二生）三女佐枝子（同九、一一生）四女蒼生子（同一二、二生）二男雄二郎（昭四、二生）あり（臺灣總督府文教局）

大場義助

濱松銀行株取締役兼支配人、遠江合同貯蓄銀行株取締役
靜岡縣在籍

妻　こまつ　明二六、二生、靜岡、杉浦代十吉二女
男　大四郎　大四、一〇生
　　しづへ　明四四、一二生
女　よしへ　大二、一一生

君は靜岡縣人大場彦三郎の長男にして明治二十四年一月を以て生れ大正五年家督を相續す現時濱松銀行取締役兼支配人にして傍ら前記銀行の重役たり家族は尙二一〇生）あり弟庄三郎（明三三、一生）同八、一〇生、靜岡、町田惣作二女は共に妻眞智（同三六、一二生）は靜岡縣人大家一衞に分家し妹ふじ（同三五、一二生）は靜岡縣人大場謙造（福岡縣多額納稅者、筑肥銀行株取締役、酒造業、福岡縣在籍）

妻　ふく　明一六、四生、京都、士、出口順姉
男　次郎　大元、九生
女　みち　大五、二生

君は東京府人大橋仙太郎の長男にして明治十二年一月を以て生れ同四十四年家督を相續す同三十五年東京外國語學校英語本科を卒業し京都府立第一中學校教諭に任じ同四十年英米に留學し歸朝後大正十年明治專門學校教授に進み現に東京外國語學校教授たり家族は尙二女まさ（大七、二生）三女みさ（同一〇、四生）あり（東京、北豐島、中新井村中七六七電練馬一六七）

大橋勘八郎

從五位勳六等、製鐵所技師、二瀨出張所勤務、愛媛縣在籍

養父　圓三郎　明六、二生、現戸主
妻　ヒサ　明二四、九生、愛媛、西井久八二女
男　正夫　大二、九生

君は愛媛縣人米子數太郎の四男にして明治二十二年七月を以て生れ同四十一年現戸主圓三郎の養子となる同四十四年東京高等工業學校電氣科を卒業し製鐵所技手となり大正九年同技師に任じ現時二瀨出張所勤務たり家族は尙三男齊（大八、一生）長女富美子（同一一、一生）二女登志子（同一四、三生）あり（福岡、嘉穗、穗波村中央官舍）

大橋謙二

從六位、陸軍二等軍醫、衞生技師、兵庫縣警察部勤務、大阪府在籍

養母　キク　慶應二、一二生、大阪、志摩みさ姉
妻　ひさ　明二七、一一生、兵庫、畑重吉四女
男　虎夫　大三、一生
女　喜久江　大五、三生

君は山口縣士族賀屋鐵三郎の二男にして明治十七年三月を以て生れ先代虎松の養子となり大正七年家督を相續す先是明治四十四年愛知醫學專門學校を卒業し二等軍醫に任ず衞生技師として現に兵庫縣警察部に勤務す

生）あり長女千代（明二五、七生）は富山縣士族山崎定義に二女いき（同二八、七生）は福島縣人佐藤祐之進長男理德に嫁せり（東京、本郷、駒込西片町一〇ろノ二電小石川七七〇）

參照＝山崎定義の項

大場彦三郎

富山縣多額納稅者
富山縣在籍

妻　マサ　明五、三生、富山、馬場久藏三女
婦　節　明三三、九生、亡長男勝太郎妻、富山、堀二作孫
孫　敏郎　大八、一一生、亡長男勝太郎長男
女　ことし　大元、八生

君は富山縣人先代彦三郎の長男にして慶應三年七月を以て生れ明治二十七年家督を相續し前名爲太郎を改め襲名す蠣中銀行頭取富山米穀取引所理事富山商業會議所議員等に舉げられしが現時是を辭す富山縣多額納稅者にして直接國稅二千四百八十八圓を納む家族は尙三男清三郎（大四、三生）孫千枝子（同七、一生、亡長男勝太郎長女）同和子（同一一、六生、同二女）の外伯母トヨ（文政五、五生）あり長女シゲ（明二六、五生）は富山縣人若松重五郎四男善次郎に八女きみ（同四〇）九生）は同縣人今井榮之に九女はな（同四二、二生）は同縣人小川善一郎に妹ヤス（同一四、八生）は同縣人奥野德平長男鐵次郎に同キク（同一七、一生）は同縣人高橋清重二男梅治に嫁し五女フジ（同三二、九生）は同縣人古土辰雄の養子となり弟政一郎（同七、一生）は分家し妹テル（同一一、二生）同夫松次郎（同六、二生、富山、藤島宗十郎三男）も亦其一男一女を伴ひ分家せり（富山市一番町三二）

參照＝馬場久藏、堀二作家金田眉丈家松長榮次の項

大橋永萬

東京少年裁判所少年保護司、昭和工業株取締役、池田工業株相談役
大橋商會、機械金物商
東京府在籍

妻　節　明二二、一二生、養父金作長女
男　勝巳　大三、五生

君は宮崎縣人尾崎良次郎の三男にして明治十九年八月を以て生れ福島縣人大橋金作の養子となり大正三年分れて一家を創立す大橋商會と稱し機械金物商を營み前記會社の重役にして東京少年審判所少年保護司たり家族は尙二男萬輔（大六、九生）三男公威（同八、六生）長女富子（同一〇、三生）四男時起（同一二、三生）二女幸子（昭四、九生）ありA一二五三B一三八一（東京、牛込、東五軒町一電牛込六三〇、九段二六六〇）

大橋榮三

從五位、東京外國語學校教授
東京府在籍

妻　みよ　安政四、五生、大橋榮七長女
男　ふく　明一六、四生、京都、士、出口順姉
女　次郎　大元、九生
　　みち　大五、二生

君は東京府人大橋仙太郎の長男にして明治十二年一月を以て生れ同四十四年家督を相續す同三十五年東京外國語學校英語本科を卒業し京都府立第一中學校教諭に任じ同四十年英米に留學し歸朝後大正十年明治專門學校教授に進み現に東京外國語學校教授たり家族は尙二女まさ（大七、二生）三女みさ（同一〇、四生）あり（東京、北豐島、中新井村中七六七電練馬一六七）

大橋勘八郎

從五位勳六等、製鐵所技師、二瀨出張所勤務、愛媛縣在籍

養父　圓三郎　明六、二生、現戸主
妻　ヒサ　明二四、九生、愛媛、西井久八二女
男　正夫　大二、九生

君は愛媛縣人米子數太郎の四男にして明治二十二年七月を以て生れ同四十一年現戸主圓三郎の養子となる同四十四年東京高等工業學校電氣科を卒業し製鐵所技手となり大正九年同技師に任じ現時二瀨出張所勤務たり家族は尙三男齊（大八、一生）長女富美子（同一一、一生）二女登志子（同一四、三生）あり（福岡、嘉穗、穗波村中央官舍）

大橋謙二

從六位、陸軍二等軍醫、衞生技師、兵庫縣警察部勤務、大阪府在籍

養母　キク　慶應二、一二生、大阪、志摩みさ姉
妻　ひさ　明二七、一一生、兵庫、畑重吉四女
男　虎夫　大三、一生
女　喜久江　大五、三生

君は山口縣士族賀屋鐵三郎の二男にして明治十七年三月を以て生れ先代虎松の養子となり大正七年家督を相續す先是明治四十四年愛知醫學專門學校を卒業し二等軍醫に任ず衞生技師として現に兵庫縣警察部に勤務す

大橋謙造

福岡縣多額納稅者、筑肥銀行株取締役、酒造業、福岡縣在籍

妻　ミカ　安政元、四生、福岡、矢野太三郎長女
アサケ　明二一、六生、福岡、佐藤榮太二女
男　榮蔵　明四二、一生
女　佳壽　明四四、五生

君は福岡縣人大場太藏の長男にして明治十六年三月を以て生れ同四十一年家督を相續す酒造業を營み傍ら前記銀行の重役にして直接國稅三千九百四十七圓を納め縣下の多額納稅者たり家族は尙三男九明（大二、一生）二女喜美（同九、一二生）三女照代（同一二、一生）弟謙太（明二三、一二生）同妻靜子（同三四、一二生、福岡、古林喜太郎二女）及其子女あり姉マスヨ（同一三、一生）は福岡縣人平田惣六長男千代松に妹シカヱ（同二六、二生）は福岡縣人佐藤軍太に同トラヱ（同二八、一一生）は同縣人橋本嘉平に嫁せり（福岡、三井、善導寺村）

大場成實

從四位勳三等、米澤高等工業學校長、新潟縣在籍

妻　キイ　明二〇、一一生、新潟、星富太郎妹
男　慎吾　明四三、五生
女　シヅ　明四五、三生

君は新潟縣人大場當路の長男にして明治十一年一月を以て生れ同四十四年家督を相續す同三十四年東京帝國大學理科大學物理學科を卒業し陸軍教授海軍教授九州帝國大學工科大學助教授明治專門學校教授同校長等に歷任し其間物理學研究の爲英獨兩國に留學す現時米澤高等工業學校長たり家族は尙三女チヅ（大一一、八生）二男克巳（同一五、九生）あり養妹ミキ（明二五、九生、新潟、時岡春臺庶子）は新潟縣人岩佐嘉榮に嫁せり（米澤、米澤高等工業學校內）

大場多市

共立鑛業株取締役
東京府士族

妻　きよ　明六、一生、神奈川、岡本喜太郎妹
男　義人　明三二、一二生
婦　千代　明四一、九生、長男義人妻、東京菱谷廣司長女
男　不二　明三九、八生
男　春夫　明四二、一生

君は東京府士族大橋十左衞門の四男にして文久元年八月を以て生れ明治九年家督を相續す夙に日本興業銀行に入り累進して鑛査役に舉げられしも後之を辭し現時共立鑛業會社取締役たり家族は尙四男士朗（大四、六

なれり（高知市南與力町一〇七電一三八一）
参照＝京牧田清之助の項

大橋光吉

妻　こう
男　松雄　明一四、四生、東京、大橋新太郎妹、跡見女學校及築地語學校出身
男　芳雄　明三七、三生、早大出身
男　貞雄　明三八、四生、共同印刷㈱技師、東京高等工藝學校出身
男　喜美子　明四一、三生、東京商大在學
女　出身　大元、一一生、東京府立第二高女

君は長庫縣人森垣治右衛門の四男にして明治八年八月を以て生れ先代博文館主大橋佐平の養子となる大橋新太郎の養弟同進一同勇吉同隆太郎の養叔父なり明治三十二年分れて一家を創立す株式會社精美堂を起し社長たりしが大正十五年株式會社博文館印刷所と合し共同印刷會社と爲り現に其社長の外東京インキ會社長を初め前掲各會社の重役たり大正十四年印刷事業視察の爲歐米を漫遊す家族は尚五男實（大三、五生）四女智惠子（同六、一一生）五女愛子（同八、二生）あり二女靜（明四〇、三生、日本女大出身）は石川縣人藤岡淨吉長男一に嫁せりA一八四一一（東京、小石川、久堅町七四電小石川九三九）
参照＝大橋新太郎、大橋進一、大橋勇吉、大橋隆太郎、藤岡淨吉家子爵金子堅太郎家伊藤欣二家大橋省吾家窪田惣八家山本留次の項

大橋定次郎

妻　きん　茨城縣多賀郡納稅者、醬油釀造業
姉　一二、一〇生、埼玉、耶崎長庫
男　武太郎　明一三、八生
婦　きよ　埼玉、綱野豐次郎長女
孫　武　明四一、一生、長男武太郎長男
孫　富喜子　大四、二生、長男武太郎長女

君は埼玉縣人石川安右衛門の三男にして文久二年九月を以て生れ先代齊助の養子となり明治十八年家督を相續す醬油釀造業を營み縣下の多額納稅者にして直接國稅五千五百十九圓を納む家族は尚孫勇（明四五、一生、長男武太郎二男）同わか（大六、七生、同二女）同きく（同一〇、八生、同三女）あり二男治輔（明一五、一生）は茨城縣人奥澤源太郎父庄平に四男篤吾（同二四、一生）は同縣人古屋文八郎に六男弘治（同三二、五生）は同縣人松浦治右衛門に各養子となり長女よし（同一七、四生）は栃木縣人長谷川調七に二女さく（同二〇、六生）は同縣人荒川伊平長男惣平に三女花（同二七、一〇生）は茨城縣人飯田憲之助に四女美子（同二九、八生）は埼玉縣人關日豐に嫁し三男嘉司（同二二、二生）は同縣人石井とよの入夫となれり（茨城、猿島、寺島村）
参照＝綱野豐次郎の項

大橋四郎

大橋農場經營務取締役
岐阜縣在籍
妻　けな子　明三六、九生、愛知、三輪鶴長衛五女、愛知縣立第一高女出身
男　義郎　大一一、三生

君は岐阜縣人現戸主大橋與市の弟にして明治二十八年十一月を以て生る大正十一年北海道帝國大學農學部農學科を卒業し現に大橋農場當務取締役たり義に大橋銀行社員を兼ぬ家族は尚長女美與子（大一四、一生）あり二男和彌（昭二、四生）は前記三輪喜兵衛の養子となれり（大垣、郭町電五七四）
参照＝大橋與市、三輪喜兵衛家川西清司家三輪彰の項

大橋正太郎

妻　かつ
男　清孝　明二四、一〇生、三男征次妻、栃木、葛貫石藏二女
孫　彌　大二一、一〇生、三男征次長女
孫　明一八、七生

君は栃木縣人大橋銓藏の長男にして弘化四年三月を以て生れ後家督を相續す現時鹿沼産業銀行專務取締役にして栃木縣多額納稅者に列し直接國稅一千二百九十四圓を納む養に下毛肥料會社長たり家族は尚孫松（大九、一一生、三男征次三女）あり長男百作（明六、八生）は長女アキ（同一〇、一生、栃木、參木三次二女）を伴ひ栃木、湧井彦太郎弟）は其三女と共に各分家し三女綾（同二四、四生）は栃木縣人館野豊三郎長男四方七に嫁せり（栃木、上都賀、鹿沼町）
参照＝京堀江松五郎の項

大橋省

正四位勲二等功四級、海軍中將
愛知縣在籍

大橋正之助

父　忠孝　角大、京染吳服卸商、京都府在籍
母　ひさ　安政元、一一生、京都、飯田儀左衛門三男、元治元、一一生、京都、藤本久兵衛二女
妻　操　明二五、八生、愛知、六鹿清太郎長女
男　正忠　大三、三生

君は京都府人大橋忠孝の長男にして明治二十年四月を以て生れ大正十五年家督を相續し前名正太郎を改む代々京染吳服問屋を業とし角大と稱して知らる家族は尚長女久枝（大六、九生）三男輝二（同九、五生）弟正雄（明三七、三生）あり同久次郎（同二八、一二生）同良三（同三〇、一一生）は各分家せりA一一七四B二一〇（京都、下京、烏丸佛光寺下ル大政所町六七八電下一八九五）
参照＝六鹿清太郎の項

大橋正松

栃木縣多額納稅者、鹿沼産業銀行專務取締役、栃木縣在籍
男　征次　明二四、一〇生、三男征次妻、栃木、葛貫石藏二女
婦　タイ　明二八、七生
男　顯　明二一、一〇生、三男征次長女
孫　彌　大二一、一〇生、三男征次長女

君は栃木縣人大橋銓藏の長男にして弘化四年三月を以て生れ後家督を相續す現時鹿沼産業銀行專務取締役にして栃木縣多額納稅者に列し直接國稅一千二百九十四圓を納む養に下毛肥料會社長たり家族は尚孫松（大九、一一生、三男征次三女）あり長男百作（明六、八生）は長女アキ（同一〇、一生、栃木、參木三次二女）を伴ひ栃木、湧井彦太郎弟）は其三女と共に各分家し三女綾（同二四、四生）は栃木縣人館野豊三郎長男四方七に嫁せり（栃木、上都賀、鹿沼町）
参照＝京堀江松五郎の項

大橋省

正四位勲二等功四級、海軍中將
愛知縣在籍

妻　すま　明一九、九生、愛知、横地賢亮三女
男　誠　明三三、一一生
男　駿　明三九、四生
女　壽子　明四一、一生

君は愛知縣人大橋信藏の三男にして明治三年十月を以て生れ同二十四年家督を相續す夙に海軍少機關士に任じ大正九年海軍機關中將に累進す其間吳鎮守府機關長第一艦隊機關長吳海軍工廠廣島支廠長等に歷補す家族は尚三男洸（大九、六生）あり二女愛子（同三八、三生）は愛知縣人横井俊之に嫁せり（東京市外中野町中野朝日丘一五）

大橋省吾

東京堂經社長、書籍商
東京府在籍
妻　母　かう　明三、九生、新潟、高橋新一郎長女
妻　幸子　明二八、七生、廣島、西松謙二女

君は東京府人先代省吾の長男にして大橋新太郎の甥なり明治二十一年八月を以て生れ同四十四年家督を相續し前名英太郎を改む書籍商を營み現に東京堂社長たり家族は尚長女良江（大一〇、五生）二女美智子（同一四、二生）三女多惠子（昭二、一生）あり（東京、小石川、戸崎町六五電小石川八一一五）
参照＝大橋新太郎家大橋光吉家大橋進一家山本留次の項

大橋信吉

日本勤業銀行專務理事、支店課長事務取扱、岡山縣在籍
妻　伴　明一八、八生、岡山、大橋平右衛門長女
女　松子　大四、一生

君は岡山縣人大橋五郎の二男にして明治十六年二月を以て生れ大正四年先代伴の入夫となり家督を相續す明治四十四年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し現時日本勤業銀行理事にして支店課長事務取扱たり家族は尚二女武子（昭二、三生）あり A三七六二（東京、小石川、丸山町一電大塚五五三）

大橋信二

大垣商工會議所常議員、電氣器具商、岐阜縣在籍
妻　はつ　明二八、一〇生、岐阜、萩野吉六長女

君は岐阜縣人大橋元次郎の長男にして明治二十六年三月を以て生れ大正十二年家督を相續す電氣器具商を營み現に推されて大垣商工會議所常議員たり家族は尚二女てる子（大八、一生）三女愛子（同一四、一〇生）あり母あい（明元、四生）四女秋子（同一四、一〇生）あり母あい（明元、一生、岐阜、後藤彌兵衛妹）は妹かつ（同三八、一生）弟勇（同四二、八生）と共に分家せり（大垣、俵町三〇一）

大橋進一

博文館經營取締役社長、日本書籍、各種取締役、共同印刷、大同電氣、鑑査役
東京府在籍
父　新太郎　文久三、七生、現戸主
男　太郎　同四一、一二生
男　新平　同四四、一二生

君は實業家大橋新太郎の長男にして同勇吉の兄同光吉の甥同隆太郎の從兄なり明治十八年七月を以て生る現時株式會社博文館取締役社長たる外前記各會社の重役たり家族は尚男恒雄（大五、一一二生）女まさ（同七、一一生）男貞雄（同九、九生）あり（東京、牛込、若宮町三八電牛込四〇九八）
参照＝大橋新太郎、大橋勇吉、大橋隆太郎家伊藤欣二家大橋省吾家窪田惣八家山本留次の項

大橋新太郎

從五位、貴族院議員、東京商工會議所顧問、日本經濟會長、東京商工會、日本書籍頭取、朝鮮興業、日本石油、日本製紙、帝國製麻、日本科學、東洋製鐵、電氣化學工業、南滿興業、南滿鐵業、白木屋、足利紡績、日本鐵道、朝鮮鐵道、東京電氣、日本興業、朝鮮殖産、日本郵船、復興建築助成、三共、東京理化學研究所、理事、日本勤業銀行專務取締役、第一生命保險、參與、東京建物、三井鑛山、東京瓦斯、日本製鐵、明治製糖、新興毛織、明治製鹽、日本醋造、工業、東京煉瓦、北越製紙、各種相談役、東京府在籍

君は越後長岡の人大橋佐平の長男にして光吉の養兄同省吾同隆太郎の伯父山本留次の從兄なり文久三年七月を以て生れ明治三十四年家督を相續す父佐平は立志傳中の人にして出版業に依りて博文館今日の基礎を成せり君曾て同人社に學び同十四年父と共に北越新聞の創身たる越佐毎日新聞を發刊す同二十年六月博文館を創立し日に隆盛を來し今や出版界の覇王を以て稱せらる同三十四年亡父の遺志を繼ぎ五賚を投じて大橋圖書館を設立し社會に貢獻するところ多し是れ本邦に於ける私立圖書館の嚆矢なり尚大橋育英會を起し多くの貧豊生を養生しつゝ常に有爲の人材を世に出さんと努む同三十五年衆議院議員總選擧に際し最高點を以て東京市より當選す大正十年英米訪問實業團を組織し歐米各國を巡遊して歸朝し同十五年十二月勅選に依り貴族院議員となり又東京商業會議所特別議員に推され現時東京商工會議所顧問に擧げられ朝鮮興業會社會長大橋本店株式會社頭取の外前記各會社の重役を兼ね實業界の重鎭たり大正四年十一月特旨を以て從五位に敍せられ又曾て東京市會議員日本橋區會議員たりし事あり三男勇吉（明三二、五生）同妻綾子（同三四、二生、山梨、石原光三妹）は共に分家し四男正雄（同三六、三生）同妻文子（同四一、一二生、東京、永田政吉四女）五男武雄（同三七、三生、博文館專務取締役）同妻富貴（同四〇、六生、東京、坪谷善四郎養子）も亦各分家し弟邦之介（同二六、二生）も又分家し三女文（同二八、二生）は東京府士族伊藤欣二に五女豊子（同三四、七生）は子爵金子堅太郎長男武齊に妹房（同三一、七生）は廣島縣人石原契行に嫁し弟善八郎（同三二、八生）は東京府人窪田惣八の養子となれり（東京、麹町、上六番町四三電九段四二一、四二二）
参照＝子爵金子堅太郎、伊藤欣二、石原光三、大橋光吉、大橋省吾、大橋勇吉、大橋進一、大橋隆太郎、窪田惣八、中村孝吉、水田政吉、山本留次家小林八右衛門家藤岡淨吉の項

大橋清吉

栃木縣多額納稅者、樺太製麻㈱社長、栃木縣人、酒造㈱醸造代表、取締役、下野中央銀行、農商務省各㈱取締役、下野貯蓄銀行、黒羽商業銀行㈱監査役、醸造業、栃木縣在籍
妻　イネ　明九、一二生、茨城、石田市左衛門長女

男　清之丞　明二八、一一生
婿　愛　明三六、三生、長男清之丞妻、茨城、河崎利市長女

大橋家は數百年來栃木縣下塙村に土着せる地主農なり先代清吉に至り醬油釀造業を始め大橋家今日の基礎をなせり君は其長男にして明治八年四月を以て生れ同三十一年家督を相續し前名を鐵之助と改め襲名す遺業を繼承して釀造業を營み前記各銀行會社の重役を兼ね現に直接國稅千三百六十一圓を納め茨城縣多額納稅者たり家族は尙弟清三郎（明一二、六生）及其子女あり二男善次（同三二、三生）は分家し妹チイ（同一一、二生）同夫秀次（同八、一二生、茨城、藤田新太郎弟）は其一子を伴ひ分家し妻妹サダ（同一一、九生、栃木、杉田忠五郎妹）は茨城縣人長岡菊次に嫁せり（栃木、那須、塙村）
參照＝河崎利市の項

大橋清太郎

東京府會議員、品川町長、材木商並建築請負業、東京府在籍
明二〇、四生、東京、士、加古信齊養子

妻　てう　明四三、四生
男　一郎

君は東京府人大橋嘉七の長男にして明治十五年十一月を以て生れ同三十八年家督を相續す材木商並建築請負業を營み推されて東京府會議員たり姉登羅（明四、九生）は東京府人大橋奉三郎に嫁し長女成子（大三、一〇生）は其養子となれりA一四三二B七五（東京市外品川町歩行新宿五四電高輪四四六）
參照＝大橋登羅の項

大橋多吉

從四位勳四等、商工技師、鑛山局勤務、鹿兒島縣在籍
嘉永二、一二生、現戸主、鹿兒島縣多額納稅者

父　太平次
妻　乙類　明二五、七生、鹿兒島、川崎一二妹、鹿兒島縣立第一高女出身
男　渡　大元、八生
女　妙子　大三、五生
女　田鶴子　大五、二生

君は鹿兒島縣人大橋太平次の長男にして明治十二年七月を以て生る同三十六年東京帝國大學工科大學採鑛冶金科を卒業し鑛山監督官補農商務技師鑛山監督局技師を經て熊本高等工業學校教授に任じ同三十九年英獨米に留學を命ぜらる大正八年官を辭し大倉鑛業會社に入り同十年再び農商務技師に任じ現に商工技師にして鑛山局勤務たり家族は尙三女京子（大七、三生）二男勳川村等々力六本松三五三九）

大橋退治

東京レコード石鹼㈱取締役、日東石鹼、東京硬化脂販賣、合同油脂グリセリン各㈱取締役
岡山縣在籍
慶應元、二生、岡山、中山太兵衛
姪　明三三、一生、東京、大森房吉長女

母　嘉與
妻　幸　大一三、三生
男　良房

君は岡山縣人大橋良平の二男にして明治二十二年一月を以て生る現時合同油脂グリセリン會社取締役兼大阪の外兄藤一郎（明二〇、一生、現戸主、倉敷瓦斯會社監査役）同妻ゑた（同二八、一生、大阪、中野太右衛門營業所長個工場長たる外前掲各會社の重役たり家族は尙二男平吉（大一五、一二生）三男祐造（昭四、九生）

妻　よれ　大一一、一〇生
男　一朗　明二八、一一生、長女孝子夫、滋賀、長田仁與茂弟
姪子　義一　明三八、一二生、姪子義一妻
女　孝子　明四一、六生
女　君子　明四四、二生
女　文子　大五、二生
千賀子

君は滋賀縣人大橋德次の二男にして明治五年七月を以て生れ同三十四年分家して一家を創立す現時前記各會社の重役たり家族は尙五女溫子（大九、一生）孫昌子（同一五、一生、姪子義一長女）同淳一（昭三、五生、同長男）あり（滋賀、大上、彦根町）

大橋常次郎

大橋本店、東京寡絲紡績各㈱取締役、大橋源一郎商店㈱監査役
滋賀縣在籍
明一五、一一生、滋賀、西川庄五郎二女

第一銀行㈱釜山支店長
富山縣在籍

大橋悌

君は實業家大橋新太郎の姪明同隆太郎の從兄なり明治大學法學部を卒業し同四十二年五月を以て生れ昭和四年家督を相續す現時倉敷瓦斯會社取締役にして岡山縣人大橋八郎（從四位勳三等、遞信省經理局長、富山縣在籍、文久三、一二生、富山、田中權次長女、明二五、二生、長野、小澤倪二長女）

妻　ちせ　大四、九生
男　周治　大二、六生
女　英子

君は富山縣人大橋八三郎の長男にして明治十八年十二月を以て生れ同三十八年家督を相續す同四十三年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し同年文官高等試驗に合格し郵便貯金局事務官遞信局副事務官を經て歐米各國に出張を命ぜられ歸朝後遞信書記官兼遞信大臣祕書官大臣官房祕書課長遞信省參事官大臣官房文書課長遞信省郵務局長等を經て昭和三年現職に轉ず家族は尙二男亮治（大七、三生）あり（東京、小石川、林町九二電小石川一二九）

大橋平右衛門

岡山縣多額納稅者、倉敷瓦斯㈱取締役、岡山縣在籍
明二、八生、岡山、士、龜山九一郎二女

母　佐和
妻　千代子　明三一、一二生、兵庫、廣田傳左衛門妹
貞吉　大一五、五生
男

君は岡山縣人先代平右衛門の二男にして明治二十八年一月を以て生れ大正十一年家督を相續し前名剛吉を改め襲名す現時倉敷瓦斯會社取締役にして岡山縣多額納稅者として知られ直接國稅一萬六百四十五圓を納む蠶に倉敷大橋銀行頭取吉備貯蓄銀行監査役たりしことあり家族は尙長女敏（大一三、八生）二男恒藏（昭二、九生）三男榮藏（同四、七生）あり姉睦（明二四、一〇生）は廣島縣人林牛助に妹悦（同三五、一一生）は岡山縣人武藤壽太郎長男孝太郎に嫁し弟祥介（同二八、八生）は分家せり（倉敷、倉敷三八五）
參照＝林牛助、廣田傳左衛門、武藤壽太郎の項

大橋松太郎

動七等功六級、朝鮮土地興業㈱社長、土地信託業、愛媛縣在籍
明一六、四生、大阪、佐々木太四郎庶子

妻　ムメノエ　明四五、一生
男　太郎
女　トシ　明四二、七生

君は愛媛縣人大橋市三郎の長男にして明治八年六月を以て生れ同四十年家督を相續す夙に明治大學法學部を卒業し同四十二年渡鮮し土地信託業に從事し現に朝鮮土地興業會社長たり曩に朝鮮土地調査地方委員大邱南龍岡町郵便局長大邱精米會社專務取締役東洋地鄙會社長朝鮮產業合名會社理事等に就任す家族は尙二男次郎（大三、一生）四男大郎（同八、一一生）三女廣子（同一二、三生）五男高明（昭二、七生）弟長太郎（明一九、五生）同妻ミネ（同一四、九生、大分、白井ユカ私生子）及其子女弟牛太郎（同二一、一生）同妻マコト（同二八、五生、愛媛、平井晉吉二女）あり弟法龍（同二二、一二生）は分家せり（大邱、南龍岡町五六ノ一電長一〇一）

大橋勇吉

博文館㈱社長
東京府在籍
明三四、二生、山梨、石原光三妹
縣立第一高女出身

妻　綾子

君は實業家大橋新太郎の三男にして同逸一の弟同光吉の養嗣同隆太郎の從兄なり明治三十二年五月を以て生れ同三十四年東京帝國大學經濟學部商學科を卒業し現時博文館社長に就任すA一二三〇（神奈川、鎌倉、鎌倉町長谷鶴岡二五四）
參照＝石原光三、大橋光吉、大橋逸一、大橋新太郎、大橋隆太郎家大橋省吾家藤岡淨吉の項

大橋與市

大橋銀行㈱代表社員
岐阜縣在籍
明三、六生、岐阜、後藤吉太郎妹
大橋農場㈱鑑査役

母　つね　明三一、七生、岐阜、荒原松之助養子、日本女大出身
妻　しげ　大一四、四生
男　市郎

君は岐阜縣人先代與市の長男にして同四郎の兄なり明治二十三年十二月を以て生れ昭和四年家督を相續し前名三郎を改め襲名す先代與市は獨力大橋銀行を創設し又朝鮮全羅北道に大橋農場を興し後株式組織に改む君は大正五年京都帝國大學法科大學政治學科を卒業し遺業を繼ぎ現に大橋銀行代表社員たり曩に大橋農場取締役社長に就任し又大垣商工會議所副會頭に擧げらる家族は尙二女絢子（昭二、八生）三女貞子（同五、五生）妹靜子（明四〇、一一生、縣立大垣高女出身、大橋農場取締役）あり同つや（同三七、二生、出身校同上）は千葉縣人武田七郎に嫁せり（大垣、本町電三〇七）
參照＝大橋四郎家野川弘の項

大橋米三郎

茨城縣郡是製絲㈱取締役、第百二十銀行㈱監査役、茨城縣在籍
明七、四生、茨城、村澤常藏長女

妻　たみ　明三三、一一生
男　彌一郎
壽　すみ　明三三、四生、長男彌一郎妻、茨城、堀江藤彌二女
孫　倉一　明四二、一二生、長男彌一郎長男
孫　ふみ　大二、八生、長男彌一郎長女
孫　よれ　大五、四生、長男彌一郎二女
孫　登久　大五、六生、離縁養子次郎吉長女

君は茨城縣人大橋力藏の長男にして明治元年一月を以て生れ同四十五年家督を相續す現時前記銀行會社の重役たり家族は尙孫才次郎（大一〇、一〇生、長男彌一郎二男）同渡（同一二、七生、同三男）同哲子（昭五、一生、同三女）あり（茨城、猿島、古河町）

大橋理一郎

生絲商
京都府在籍
文久元、四生、兵庫、足立志道四男
明二九、一〇生、京都、井上治兵衛妹

父　理左衛門
妻　タカ　大七、八生
男　秀一郎

君は兵庫縣人大橋理左衛門の長男にして明治二十二年十月を以て生れ大正十年家督を相續し前名理之助を改め襲名す生絲商を營む家族は尙二男塗夫（大一〇、五生）あり姉ラク（明二〇、一一生）は京都府人宮井傳之助の養母にして妹チカ（同二五、二生）は同府人吉田茂左衛門長男茂三郎に同タミ（同三一、二生）は同府人本田芳之助に嫁せりA一三九六B三九二（京都、上京、大宮五辻上ル芝大宮町八電長西陣六五二）
參照＝宮井傳之助の項

養父　牛七郎　文久三、一〇生、東京、士、服部百祿姉
養母　けい
妻　ミノ　明一七、五生、松田周次三女
男　恒　明四四、八生
女　三重　大三、一一生

君は東京府人三角方平の二男にして明治十五年三月を以て生れ大正元年大橋牛七郎の養子となる明治四十二年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し第一銀行に入り現時釜山支店長たり家族は尙二女雪（大七、一生）あり（釜山、本町二ノ四二電五二一）

大橋登羅

尾張屋、吳服商
東京府在籍
大三、一〇生、品川町長弟清太郎長女

妻　成子

君は東京府人大橋嘉七の長女にして同清太郎の姉なり明治四年九月を以て生れ分家して春三郎を迎へ同三十七年亡夫の跡を承けて家督を相續す尾張屋と稱し吳服商を營むA一八四五B三五〇（東京市外品川町北品川宿九電高輪二六二）
參照＝大橋清太郎の項

大橋敏

從五位、北海道鑛技師、土木部勤務、北海道在籍
慶應二、二生、青森、小島於吾妹

母　キク　明二九、七生、北海道、酒井菊次郎長女
妻　ノブ
男　儁作　大一四、三生

君は北海道人大橋東悟の長男にして明治二十二年九月を以て生れ昭和五年家督を相續す大正二年北海道帝國大學農科大學農藝化學科を卒業し南滿洲鐵道會社農員たりしが大正八年北海道鑛技師に任じ土木部に勤務し今日に至る昭和三年歐米各國へ出張す家族は尙長女要子（大九、三生）二女澤子（同一二、一生）三女擴子（昭三、二生）二男輝彦（同四、一二生）弟護（明三〇、一生）あり（札幌、南二條西十四丁目）

大橋長行

從五位、鐵道局參事、仙臺鐵道局經理課長、東京府士族
明三、五生、岐阜、北村鑒三二女

母　とせ
男　宏行　大一五、三生

君は舊美濃大垣藩士大橋榮三の長男にして明治二十一年五月を以て生れ同四十一年家督を相續す大正二年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し現時鐵道局勤務たり家族は尙三女京子（大七、三生）二男勳川村等々力六本松三五三九）

大橋退治

東京レコード石鹼㈱取締役、日東石鹼、東京硬化脂販賣、合同油脂グリセリン各㈱取締役
岡山縣在籍
慶應元、二生、岡山、中山太兵衛姪　明三三、一生、東京、大森房吉長女

母　嘉與
妻　幸　大一三、三生
男　良房

君は岡山縣人大橋良平の二男にして明治二十二年一月を以て生る現時合同油脂グリセリン會社取締役兼大阪の外兄藤一郎（明二〇、一生、現戸主、倉敷瓦斯會社監査役）同妻ゑた（同二八、一生、大阪、中野太右衛門四女）及其子女弟喜久三（同二五、八生、甲石社、理化工業會社各取締役）同妻ほる（同三二、二生、大阪、天木繁二郎長女）及其子女あり姉廣（同一五、三生）は分家せり（大阪、豐能、麻田村一二八八電岡町五六五）
參照＝中野太右衛門家岩崎清次郎家中野嘉三郎家山川一郎の項

大橋常次郎

大橋本店、東京寡絲紡績各㈱取締役、大橋源一郎商店㈱監査役
滋賀縣在籍
明一五、一一生、滋賀、西川庄五郎二女

第一銀行㈱釜山支店長
富山縣在籍

大橋悌

君は實業家大橋新太郎の三男にして同逸一の弟同光吉の養嗣同隆太郎の從兄なり明治大學法學部を卒業し同四十二年五月を以て生れ同三十四年東京帝國大學經濟學部商學科を卒業し現時博文館社長に就任すA一二三〇（神奈川、鎌倉、鎌倉町長谷鶴岡二五四）
參照＝石原光三、大橋光吉、大橋逸一、大橋新太郎、大橋隆太郎家大橋省吾家藤岡淨吉の項

大橋與市

大橋銀行㈱代表社員
岐阜縣在籍
明三、六生、岐阜、後藤吉太郎妹
大橋農場㈱鑑査役

母　つね　明三一、七生、岐阜、荒原松之助養子、日本女大出身
妻　しげ　大一四、四生
男　市郎

君は岐阜縣人先代與市の長男にして同四郎の兄なり明治二十三年十二月を以て生れ昭和四年家督を相續し前名三郎を改め襲名す先代與市は獨力大橋銀行を創設し又朝鮮全羅北道に大橋農場を興し後株式組織に改む君は大正五年京都帝國大學法科大學政治學科を卒業し遺業を繼ぎ現に大橋銀行代表社員たり曩に大橋農場取締役社長に就任し又大垣商工會議所副會頭に擧げらる家族は尙二女絢子（昭二、八生）三女貞子（同五、五生）妹靜子（明四〇、一一生、縣立大垣高女出身、大橋農場取締役）あり同つや（同三七、二生、出身校同上）は千葉縣人武田七郎に嫁せり（大垣、本町電三〇七）
參照＝大橋四郎家野川弘の項

大橋米三郎

茨城縣郡是製絲㈱取締役、第百二十銀行㈱監査役、茨城縣在籍
明七、四生、茨城、村澤常藏長女

妻　たみ　明三三、一一生
男　彌一郎
壽　すみ　明三三、四生、長男彌一郎妻、茨城、堀江藤彌二女
孫　倉一　明四二、一二生、長男彌一郎長男
孫　ふみ　大二、八生、長男彌一郎長女
孫　よれ　大五、四生、長男彌一郎二女
孫　登久　大五、六生、離縁養子次郎吉長女

君は茨城縣人大橋力藏の長男にして明治元年一月を以て生れ同四十五年家督を相續す現時前記銀行會社の重役たり家族は尙孫才次郎（大一〇、一〇生、長男彌一郎二男）同渡（同一二、七生、同三男）同哲子（昭五、一生、同三女）あり（茨城、猿島、古河町）

大橋理一郎

生絲商
京都府在籍
文久元、四生、兵庫、足立志道四男
明二九、一〇生、京都、井上治兵衛妹

父　理左衛門
妻　タカ　大七、八生
男　秀一郎

君は兵庫縣人大橋理左衛門の長男にして明治二十二年十月を以て生れ大正十年家督を相續し前名理之助を改め襲名す生絲商を營む家族は尙二男塗夫（大一〇、五生）あり姉ラク（明二〇、一一生）は京都府人宮井傳之助の養母にして妹チカ（同二五、二生）は同府人吉田茂左衛門長男茂三郎に同タミ（同三一、二生）は同府人本田芳之助に嫁せりA一三九六B三九二（京都、上京、大宮五辻上ル芝大宮町八電長西陣六五二）
參照＝宮井傳之助の項

大橋理祐　正八位、陸軍歩兵少尉、繰理、西陣織物製造業、京都府在籍

父　理八　慶應元、二生、京都、小島權兵衛三男

母　きぬ　明一一、一一生、祖父理右衛門長女

妻　モリ　明三一、二生、京都、佐々木從敬姉、京都市立高女出身

君は京都府人大橋理八の二男にして明治三十二年十月を以て生れ大正十四年家督を相續し前名理三を改め襲名す同志社大學に學び家業を繼ぎ西陣織物製造業を督み蝶理と稱す金剛流謠曲茶道を嗜み美術工藝品に趣味を有す家族は尚長女博子（大一一、七生）二女操（同一四、一生）三女昭子（昭三、一二生）弟政之祐（明四二、一〇生）同芳造（大元、八生）同正三郎（同三、四生）妹ふみ（同八、四生）あり同すて（明三九、一一生）は京都府人山下彌兵衛二男彌次郎に嫁せりA一二三五B三三六（京都、上京、小川寺之内下ル射場町五五二電西陣七七七）

大橋隆太郎　東京堂書店員　東京府在籍

妻　きふ　明三四、一二生、新潟、希場愼吾姉

君は東京府人大橋幹二の長男にして貴族院議員大橋新太郎の甥同光吉の養甥同進一同勇吉の從弟なり明治三十三年二月を以て生れ昭和三年家督を相續す大正十三年早稲田大學專門部商科を卒業し現時株式會社東京堂に勤務しエスペラント部長たり先代幹二は博通社主にして東京堂監査役として知られたり家族は尚二女美惠子（昭三、九生）あり妹綾子（明四〇、一生、跡見女學校出身）は博文館員高橋藤麿に嫁し弟秀雄（同三七、五生）は分家し母きくの（同一四、八生、東京、田川柳助二女）妹花子（同四二、一生、三輪田高女出身）弟勉（同四三、八生）妹百合子（大二、九生）同雪枝（同五、七生）弟駒雄（同七、二生）同明（同九、九生）同茂（同一二、五生）は其家籍に入れり（東京、小石川、原町一二六電小石川八六一）

參照＝大橋光吉、大橋進一、大橋新太郎、大橋勇吉＝大橋省吾＝藤岡淨吉の項

大橋良一　正五位勳六等、秋田鑛山專門學校教授、東京府士族

繼母　榮

君は三重縣人先代吉一を以て生れ大正十一年家督を相續す現時前記銀行會社の重役たり家族は尚長女芳（同九、二生）四女薫一（同一一、七生）四男公明（同一四、一生、三重、井本由次郎三女）あり姉しづえ（同一六、七生）は三重縣人齋藤敬一長男廷一に嫁せり（三重、南牟婁、神川村）

參照＝齋藤敬一＝大畑吉三郎の項

大畑源一郎　日本電氣㈱專務取締役、住友電線製造所㈱取締役、靜岡縣在籍

妻　ゆう　明一九、一生、靜岡、中村虎吉長女

男　一應　明四一、六生

女子　大五、一一生

君は靜岡縣人大畑源作の長男にして明治十七年三月を以て生れ同四十二年家督を相續し同四十一年東京帝國大學工科大學を卒業し遞信局技師となり通信局技師選信技師早稲田大學講師を經て現に前記各會社の重役たり家族は尚長女文子（大六、四生）二男芳郎（同七、四生）二女敏子（同一〇、六生）あり（兵庫、武庫、御影町都家庄之元二四七ノ三電御影五八三）

參照＝大林義雄＝大林幸吉＝神戸發動機製作所㈱專務取締役兵庫縣在籍

妻　ユキ　明二四、三生、三谷他人之丞長女

男　正雄　大四、五生

養子　登　明三二、四生、長女ヨシエ夫、神奈川、青木英彦三男、養子登妻

女　ヨシエ　大二、七生

女　アヤ子　明四一、三生、養子登妻

君は兵庫縣人大林松左衛門の三男にして明治十六年一月を以て生れ同四十一年甥愛次郎方より分れて一家を創立す現時神戸發動機製作所專務取締役たり家族は尚三女キヨ子（大六、五生）孫淑子（昭四、六生）養子登長女あり（神戸、西須磨上今池二三ノ二電須磨八一四）

參照＝＝＝＝大林義雄

大畑吉一郎　紀新銀行、三芳柔道、三重無盡各㈱取締役、三重縣在籍

妻　静江　明二〇、一生、三重、齋藤敬一妹

男　二郎　明四一、一生

女　富美　明四四、九生

女　充　大四、五生

君は三重縣人先代吉一の二男にして明治十八年十月を以て生れ大正十一年家督を相續し前名種彦を改め襲名す現時前記銀行會社の重役たり家族は尚三男寛（大六、一二生）三女芳（同九、二生）四女薫一（同一一、七生）四男公明（同一四、一生）五女稔（昭二、一生）養妹てるえ（明三五、一生、三重、井本由次郎三女）あり姉しづえ（同一六、七生）は三重縣人齋藤敬一長男廷一に嫁せり（三重、南牟婁、神川村）

參照＝齋藤敬一＝大畑源一郎の項

大畑源一郎　日本電氣㈱專務取締役、住友電線製造所㈱取締役、靜岡縣在籍

妻　ゆう　明一九、一生、靜岡、中村虎吉長女

男　一應　明四一、六生

女子　大五、一一生

君は靜岡縣人大畑源作の長男にして明治十七年三月を以て生れ同四十二年家督を相續し同四十一年東京帝國大學工科大學を卒業し遞信局技師となり遞信局技師選信技師早稲田大學講師を經て現に前記各會社の重役たり家族は尚長女文子（大六、四生）二男芳郎（同七、四生）二女敏子（同一〇、六生）あり（兵庫、武庫、御影町都家庄之元二四七ノ三電御影五八三）

參照＝大林義雄＝大林幸吉＝神戸發動機製作所㈱專務取締役兵庫縣在籍

妻　ユキ　明二四、三生、三谷他人之丞長女

男　正雄　大四、五生

養子　登　明三二、四生、長女ヨシエ夫、神奈川、青木英彦三男、養子登妻

女　ヨシエ　大二、七生

女　アヤ子　明四一、三生、養子登妻

君は兵庫縣人大林松左衛門の三男にして明治十六年一月を以て生れ同四十一年甥愛次郎方より分れて一家を創立す現時神戸發動機製作所專務取締役たり家族は尚三女キヨ子（大六、五生）孫淑子（昭四、六生）養子登長女あり（神戸、西須磨上今池二三ノ二電須磨八一四）

參照＝＝＝＝大林義雄

大畑源一郎　日本電氣㈱專務取締役、住友電線製造所㈱取締役、靜岡縣在籍

妻　ゆう　明一九、一生、靜岡、中村虎吉長女

男　一應　明四一、六生

女子　大五、一一生

君は靜岡縣人大畑源作の長男にして明治十七年三月を以て生れ同四十二年家督を相續し同四十一年東京帝國大學工科大學を卒業し遞信局技師となり遞信局技師選信技師早稲田大學講師を經て現に前記各會社の重役たり家族は尚長女文子（大六、四生）二男芳郎（同七、四生）二女敏子（同一〇、六生）あり（兵庫、武庫、御影町都家庄之元二四七ノ三電御影五八三）

參照＝大林義雄＝大林幸吉＝神戸發動機製作所㈱專務取締役兵庫縣在籍

妻　ユキ　明二四、三生、三谷他人之丞長女

男　正雄　大四、五生

養子　登　明三二、四生、長女ヨシエ夫、神奈川、青木英彦三男、養子登妻

女　ヨシエ　大二、七生

女　アヤ子　明四一、三生、養子登妻

君は兵庫縣人大林松左衛門の三男にして明治十六年一月を以て生れ同四十一年甥愛次郎方より分れて一家を創立す現時神戸發動機製作所專務取締役たり家族は尚三女キヨ子（大六、五生）孫淑子（昭四、六生）養子登長女あり（神戸、西須磨上今池二三ノ二電須磨八一四）

參照＝＝＝＝大林義雄

大畑吉一郎　紀新銀行、三芳柔道、三重無盡各㈱取締役、三重縣在籍

妻　静江　明二〇、一生、三重、齋藤敬一妹

男　二郎　明四一、一生

女　富美　明四四、九生

女　充　大四、五生

君は三重縣人先代吉一の二男にして明治十八年十月を以て生れ大正十一年家督を相續し前名種彦を改め襲名す現時前記銀行會社の重役たり家族は尚三男寛（大六、一二生）三女芳（同九、二生）四女薫一（同一一、七生）四男公明（同一四、一生）五女稔（昭二、一生）養妹てるえ（明三五、一生、三重、井本由次郎三女）あり姉しづえ（同一六、七生）は三重縣人齋藤敬一長男廷一に嫁せり（三重、南牟婁、神川村）

參照＝齋藤敬一＝大畑源一郎の項

將榮顯の後なり四世を經て從二位重德に至る重德夙に皇室の式微を慨き力を王事に盡す其子重實亦王事に勤む先代重朝は其長男にして明治十七年子爵を授けられ同二十一年祖父重德の勳功に依り伯爵に陞さる外務省式部職各御用掛被仰付貴族院議員となる君は重朝の長男にして明治十六年十二月を以て生れ大正七年襲爵す明治四十年東京帝國大學文科大學國文科を卒業し義に貴族院議員に擧げられしも現時御歌所參候たり家族は尙養妹慶子（明三六、一二生、庶兄故岩倉定二女）あり弟重季（同一九、一〇生）は子爵秋田映季の養子となり襲爵し同義質（同二二、三生）は伯爵柳原義光の養子となり名を博光と改む（東京、牛込、藥王寺町七四**電牛込五〇三**）

參照＝伯爵柳原義光、子爵秋田重季、子爵裏松友光子爵藤堂高寛系子爵大島陸太郎系子爵水無瀨忠政の項

大原庄太郎

大原帳簿製造所、印刷及帳簿製造業、大阪府在籍

妻　たま　明治二二、三生、愛知、日比野寺次郎二女

男　庄之祐　明四四二、一〇生

女　正子　大元、一〇生

君は愛知縣人大原藤左衛門の長男にして明治十四年三月を以て生れ大正十年家督を相續す大原帳簿製造所を經營し印刷及帳簿製造業を營む家族は尙ほ二男英二郎（大四、七生）三男幹三郎（同七、五生）四男伸行（同九、一一生）の外弟喜作（明三四、八生）ありA一四八四四B七八三（大阪、西、京町堀上通二ノ一五ノ一**電土佐堀七五〇**）

大原甚之助

奥服商　宮城縣在籍

君は宮城縣人先代甚之助の二男にして明治三十七年二月を以て生れ昭和四年家督を相續し前名甚二郎を改め襲名す奥服商を營む家族は尙妹すげ（明四二、八生）弟兵次郎（大元、一〇生）あり妹まさ（明四〇、一一生）は宮城縣人龜田兵治に嫁せりA三〇〇〇B八二六（仙臺、東一番丁二七**電九二**）

參照＝龜田兵治の項

大原坦

伊東溫泉旅館組合長、伊東館、旅館業、靜岡縣在籍

妻　いわ　慶應三、七生、靜岡、山川壽作三女

男　完吾　明治二三、一一生

壽　ひさ子　明治三一、二生、二男完吾妻、靜岡野村菊次郎三女

女　好子　明三三、一〇生

君は伊豆伊東の舊家下田新左衛門の四男にして文久元年一月を以て生れ大原七兵衛の養子となり明治二十一年大原隆平方より分れて一家を創立す伊東館と稱し旅館業を營み伊東溫泉旅館組合長に擧げらる曩に伊東水力電氣會社長伊豆水力電氣東海自動車各會社の重役たり家族は尙孫大八（大九、七生、二男完吾長男）同康男（同一二、三生、同二男）同達也（同一五、二生、同三男）同久代（昭三、四生、同長女）あり養子盛枝（明一八、四生、靜岡、大原眞平四男、東京高商出身）同妻まき（同二四、七生、東京、仙石たけ妹）は其子女を伴ひ分家し三女さを（同三六、二生）は岩手縣士族柴田兵右衛門孫兵一郎に嫁せり（靜岡、田方、伊東町）

大原利文

正五位勳四等、判事、奈良地方裁判所判事、岡山縣士族

妻　末子　明二四、八生、岡山、入澤賢治妹

君は岡山縣士族大原利謙の三男にして明治十四年一月を以て生れ前名敏三を改む同三十八年京都帝國大學法科大學を卒業し同四十年判事に任じ爾來福岡地方中津區廣島地方肇同區玉島區岡山區兼同地方米子區山口地方各裁判所判事に歷補し大正九年廣島控訴院判事に轉ず大正十五年昭和三年同部長に進み同五年現職に轉ず大正十五年歐米に出張を命ぜらる家族は尙兄利武（明八、一一生、現戸主）同妻喜與野（同一九、一〇生、岡山、北川親太郎長女）及其一子あり（奈良市地方裁判所內）

大原昇

從五位勳六等、檢事兼司法書記官、司法大臣官房保護課長、兵庫縣士族

妻　賤　明三二、一一生、長野、大工原銀太郎長女、日本女子大出身

君は兵庫縣士族大原順之助の長男にして明治二十三年四月を以て生れ同四十二年福父源右衛門の後を承けて家督を相續す大正三年東京帝國大學法科大學法律學科を卒業し司法官試補となり次いで判事に任じ東京地方彙同區各裁判所判事東京地方裁判所部長等に歷補し同十二年檢事に轉じ司法省參事官を兼ね後司法書記官となり現に大臣官房保護課長の職に在り昭和二年歐米各國に出張す家族は尙二女春子（大一一、三生）三女芳子（同一二、四生）あり叔父晴雄（明一二、二生）同妻敏子は共に分家せり（東京市外入新井町新井宿二一六四**電大森一五一〇**）

參照＝大工原銀太郎系土屋正三系武藤虎太の項

大原博夫

廣島縣會郡部會議長、醫師

母　キミヨ　廣島縣在籍

女　廣島、一二生、廣島、馬場清安長男

妻　トシ　明二九、一一生、廣島、木村徹量二女、縣立廣島高女出身

男　康生　昭五、七生

君は廣島縣人大原彌八の長男にして明治二十七年三月を以て生れ大正八年家督を相續す大正九年三月東京慈惠會醫學專門學校を卒業し同十二年以來廣島縣會議員に當選引續き今日に及び現に廣島縣會郡部會議長たり家族は尙長女スミ子（大一一、六生）二女欣（同一五、三生）三女筍（昭三、三生）の外弟茂樹（明三〇、二生、明大出身、國際通運大阪支店助役）同妻昂（同三七、一二生、廣島、行友道麿姪、大連高女出身）及其一子あり（廣島豐田、田河町）

大原孫三郎

男　總一郎

大原家は備中倉敷の素封家として知られる先代孝四郎夙に地方育英事業に意を注ぎ倉敷學會を興し貧困兒童就學の途を開き不遇兒童の養育に資せる等其篤行普く世に知らるる君は其二男にして明治十三年七月を以て生れ同三十七年家督を相續す夙に實業界に入り現時前記銀行會社の重役にして關西實業界の雄となり縣下の多額納稅者に列し直接國稅三萬二千七百五十六圓を納む又私財を投じて大原社會問題研究所を設立し幾多新進の篤學者を聘し勞働年鑑大原社會問題研究等を發行し又繪畫の奬勵蒐集に力め美術家にして其被護を蒙れる者多き等文化の進運に貢獻するところ尠かからず姉卯野（慶應三、六生）は岡山縣人原澄治の養母たり（倉敷、倉敷一〇〇五）

岡山縣多額納稅者、中國銀行重頭取、中國信託重取締役會長、倉敷紡績重社長、倉敷同織、日本建業各重代表取締役、京阪電氣鐵道重取締役、岡山縣在籍

大原政吉

日本ペニア製材重代表取締役、神奈川縣在籍

妻　フク　明一五、八生、神奈川、久保田與吉妹

男　繁太郎　明四〇、二生

女　喜勢　明三七、四生

男　昌之助　明四二、七生

女　決　大三、五生

君は神奈川縣人大原清助の長男にして明治四年四月を以て生れ同十六年家督を相續す現時前記會社の重役たり家族は尙三男潤三（明四五、一生）四男秀夫（大七、三生）五男保亮（同九、八生）あり（横濱、中、本牧町八王子二九七一**電本局六五四**）

大原松之助

勳七等功七級、神東興產重取締役、大原造船鐵工所主、鐵工業、大阪府在籍

妻　フミ　明一三、四生、福岡、士、石川清二姪

男　文雄　明四〇、三生、大阪工業大學在學

男　義雄　明四一、七生、慶大經濟科在學

君は大阪府人大原儀助の長男にして明治十一年九月を以て生れ同二十四年家督を相續す鐵工業を營み大原造船鐵工所を主宰し前記會社の重役たり家族は尙三男貞雄（明四五、一生）四女つる（大六、一〇生）五女まつ（同八、八生）弟恒六郎（明三八、三生）あり姉ヤエ（同八、二生）同夫久治郎（同八、二生、兵庫、木內源助二男）は其一子を伴ひ分家し弟恒助（同一八、二生）從姉トラ（同八、二生）も亦各分家し妹津彌子（同三三、七生）は兵庫縣人廣田源太郎養子忠吉に嫁せりA五二〇B一四〇（大阪、西、本田町三番丁七一**電西二八二〇**）

大原萬壽雄

東洋生命保險重常務取締役、東京府士族

母　てる　嘉永四、三生、鳥取、山本善三郎二女

妻　萬壽　明一六、一二生、鳥取、福田正躬長女

男　壽人　明三七、七生

男　宏　明四三、二生

女　美智子　明四四、一二生

君は東京府士族大原直鑑の二男にして明治八年十一月を以て生れ同三十一年家督を相續す曩に東洋生命保險會社經理部長兼統計係長蒼馬碵黃會社取締役たりしが現時東洋生命保險會社常務取締役たり家族は尙四男直行（大四、一生）五男貞行（同六、八生）三女喜代（同九、四生）あり弟義雄（明二三、六生）同妻みね（同三三、七生、東京、大鉸鈺太郎長女）は其一男を伴ひ分家せり（東京市外淀橋町柏木一三一一電四谷一三一三）

參照＝大原義雄の項

大原與左衛門

兵庫縣多額納稅者、村津莫大小惣取締役、兵庫縣在籍

妻　ちう　明一七、二生、養父與左衛門長女

男　榮一　大二、二生

君は兵庫縣人村津甚平の三男にして明治十三年九月を以て生れ先代與左衛門の養子となり大正十年家督を相續し前名直次郎を改め襲名す現時村津莫大小會社取締役にして直接國稅三千二百六十三圓を納め縣下の多額納稅者たり家族は尙三女光子（大六、一一生）四女君子（同一〇、一一生）五女美佐子（同一三、一〇生）二男宏（昭三、六生）あり長女靜子（明四〇、七生）は兵庫縣人名田豐治に二女愛子（同四二、一生）同縣人萩原文次郎に嫁し妹ちか（同三五、一一生）同夫廣一（同二九、一〇生、兵庫、猿丸辨治三男）は其一子を伴ひ分家せり（神戸、西仲町三三**電兵庫三二一三**）

大原義雄

日之出商會重代表取締役、東京府在籍

妻　みね　明三三、七生、東京、大鉸鈺太郎長女

男　日出雄　大一〇、九生

君は鳥取縣人大原清壽雄の弟にして明治二十三年六月を以て生れ大正十三年分れて一家を創立す現時日之出商會代表取締役たり家族は尙二男峯雄（大一三、九生）あり（東京市外淀橋町柏木一三一一）

參照＝大原萬壽雄の項

大原龍三

從五位勳六等、朝鮮總督府檢事、大邱地方法院檢事、千葉縣在籍

父　錄太郎　安政四、五生、現戸主

妻　キヤツ　明二三、九生

女　美智子　明四三、二生

君は千葉縣人大原錄太郎の長男にして明治二十二年三月を以て生れ同四十年家督を相續す同三十五年東京高等商業學校を卒業し住友銀行に入り營業部副長倫敦支店支配人本店支配人を經て現時常務取締役に擧げられ傍ら試補檢事朝鮮總督府檢事に歷任し昭和四年大邱地方法院檢事に補せられ今日に至る姉よし（明一五、三生）は千葉縣人鈴木賢治郎長男郁朗に同か（同一八、四生）は同縣人土屋賢之輔長男操に嫁す母りう（同三、三生）は同縣人土屋源太郎に嫁し叔父錦三郎（元治元、一生）は分家せり（大邱、地方法院檢事局）

從七位勳六等、陸軍騎兵中尉、長野縣參事會員、百十七銀行重頭取、伊那電氣鐵道、富國園各重取締役、長野農工鐵行、松諏鐵道、鐵道電氣證券各重監査役、長野縣在籍

元治元、二生、長野、熊谷半七郎妹

大原與左衛門

兵庫縣多額納稅者、村津莫大小惣取締役、兵庫縣在籍

妻　いね　明一六、九生、長野、福澤岩夫長女

男　久治　明三九、一〇生

男　節藏　明四三、二生

女　睦惠　大二、六生

君は長野縣人大平新八郎の長男にして明治十年十一月を以て生れ大正十五年家督を相續す現に百十七銀行頭取たる外前記諸會社の重役にして推されて長野縣參事會員たり家族は尙妹のぶ（明三三、八生）あり弟衡平（同三一、一一生）は愛知縣人北村七郎平の養子となり姉しつゑ（同四、三生）は長野縣人上柳錄に同ちひろ（同七、九生）は同縣人太田實三に養妹ミメ（同二四、二生、長野、渡東妹）は同縣人林義男に嫁せり（長野、下伊那、千代村**電五**）

參照＝太田實三、上柳錄、福澤岩夫系伊原五郎兵衛系福澤憲和系百瀨義碩の項

大平豁郎

從七位勳六等、陸軍騎兵中尉、長野縣參事會員、百十七銀行重頭取、伊那電氣鐵道、富國園各重取締役、長野農工鐵行、松諏鐵道、鐵道電氣證券各重監査役、長野縣在籍

繼母　きさえ

妻　いね　明一六、九生、長野、福澤岩夫長女

男　久治　明三九、一〇生

男　節藏　明四三、二生

女　睦惠　大二、六生

君は長野縣人大平新八郎の長男にして明治十年十一月を以て生れ大正十五年家督を相續す現に百十七銀行頭取たる外前記諸會社の重役にして推されて長野縣參事會員たり家族は尙妹のぶ（明三三、八生）あり弟衡平（同三一、一一生）は愛知縣人北村七郎平の養子となり姉しつゑ（同四、三生）は長野縣人上柳錄に同ちひろ（同七、九生）は同縣人太田實三に養妹ミメ（同二四、二生、長野、渡東妹）は同縣人林義男に嫁せり（長野、下伊那、千代村**電五**）

大平賢作

住友銀行重常務取締役、昭和銀行和歌山倉庫銀行、傳賀百六銀行、住友電線製造所重監査役、新潟縣在籍

母　ユキ　安政四、一生、新潟、士、德增門二女

妻　マツ　明一九、一一生、新潟、士、德增猪三郎二女

男　太郎　明四三、三生

女　テル　大五、二生

君は新潟縣人大平桂作の長男にして明治十三年二月を以て生れ同四十年家督を相續す同三十五年東京高等商業學校を卒業し住友銀行に入り營業部副長倫敦支店支配人本店支配人を經て現時常務取締役に擧げられ傍ら

前記銀行會社の重役を兼ぬ家族は尙三女アイ（大六、八生）四女ケイ（同一二、一一生）の外弟玉治（明二一、四生）同妻ヒロ（同三〇、三生、新潟、久保田實藏妹）及其二子妹チヨ（同二三、一二生）同フミ（同三七、一一生）弟提司（同三五、九生）及其一子ありA三八七〇（大阪、住吉町八八三電弐一六八八）

大平駒槌

妻　綠　明一九、八生、岡山、西山元妹
男　新一郎　大四、二生
女　清子　大五、一〇生

從六位、南滿洲鐵道㈱副總裁、廣島縣人在籍

君は廣島縣人大平儀右衛門の三男にして明治二年十二月を以て生れ大正三年兄要太郎方より分れて一家を創立す同二十九年帝國大學法科大學政治學科を卒業し鐵山監督官補農商務屬鐵山監督官鐵山監督署事務官等に歷任し後之を辭す大正十三年南滿洲鐵道會社副社長となり昭和四年再び同社副總裁に擧げられ今日に至る嚢に住友合資會社理事兼別子鐵業所長土佐吉野川水力電氣會社常務取締役たりし事あり家族は尙二女金子（大九、二生）三女ミチ子（同一二、三生）二男恒二郎（昭三、一生）あり（京都、上京、寺町通今出川上ル五丁目電上二〇三四）

參照＝大平要太郎の項

大平武之助

伊賀屋、家主
大阪府在籍

母　さく　明九、一〇生、兵庫、綱盛彌兵衛三女

君は大阪府多額納稅者故大平武助の二男にして明治三十五年九月を以て生れ昭和四年家督を相續す祖業を受け伊賀屋と稱し家主たり家族は尙貴美子（明三九、一二生、樟蔭高女出身）弟武彥（同四二、四生）同武俊（大三、四生）同武正（同七、一〇生）あり妹富美子（明三八、四生、清水谷高女出身）は法學士中川種藏に嫁し同壽美子（同四一、三生）は大阪府人山田嘉助の養子となり養叔父千吉（同二四、五生）は分家せりA一〇一九〇（大阪、南、安堂寺橫通四ノ四六電船場四三二）

大平爲一

從五位勳六等、地方技師、鳥取縣內務部林務課長、鹿兒島縣士族

母　スマ　明二、八生、鹿兒島、士、綾部良左衛門二女

妻　タツ　明二五、五生、鹿兒島、佐々木虎雄妹
男　辰秋　大五、一生
女　鈴子　大二、六生

君は鹿兒島縣士族大平辰二の長男にして明治九年九月を以て生れ同三十九年家督を相續す同四十三年東京帝國大學農科大學林學科を卒業し林務技手に任じ爾來三重縣立農林學校敎諭秋田縣立農林學校長愛媛縣本各縣技師を歷任し地方技師に任じ福井新潟各縣勤務を經て昭和三年鳥取縣內務部林務課長を命ぜらる家族は尙二女秋子（大七、六生）三女愛子（同九、五生）同ヒデ（同一九、一生）及其一子あり弟信雄（同一三、一生）は岡山縣人萬代寺の入夫となれり（鳥取縣廳林務課）

大平得三

正五位勳四等、醫學博士、國大學敎授、醫學部勤務、九州帝山形縣在籍

母　はまじ　元治元、九生、靜岡、士、阿島清四女

妻　操　明二二、七生、東京、元良勇次郎長女
男　昌彥　大三、七生
女　弘子　明四四、一一生

君は山形縣人大平植作の長男にして明治十五年十月を以て生れ大正十年家督を相續す明治四十一年京都帝國大學福岡醫科大學を卒業し直ちに同大學助手に任じ大正二年九州帝國大學助敎授となり同四年米國に留學を命ぜられ同五年歸朝す同九年九月醫學博士の學位を授けられ同十四年十月九州帝國大學敎授に任じ現に醫學部勤務たり家族は尙二女和子（大六、六生）二男永郎（同八、一一生）弟植助（明三四、二生）同植吉（生年月同上）同妻みな（同三五、二生、東京、新坂愛之進三女）及其四子弟植七郎（同三九、一生）叔父孝三（慶應二、三生）あり弟祐次（明二二、二生）は同妻ゆう（同二〇、二生）と共に分家し妹繁（同三六、五生）は山口縣人內田忠直長男忠廣に嫁せり（福岡市下替固御所谷七一〇）

大平廣衛

從五位勳五等、檢事、德島地方裁判所檢事兼德島區裁判所檢事

妻　さつき　明二七、五生、岐阜、安藤守孝妹岐阜縣在籍
男　得三　國大學敎授、醫學博士、九州帝山形縣在籍

君は岐阜縣人大平善衛の長男にして明治十九年十月を以て生れ昭和三年家督を相續す大正二年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し同年司法官試補となり同四年檢事に任ぜられ爾來豫備檢事大阪區彙同地方高松地方彙同區丸龜區彙高松地方丸龜區京都地方彙同區伊丹區新宮寺區彙和歌山地方新宮女部彥根區大津地方彙同區各裁判所檢事を歷補し現に德島地方裁判所檢事彙德島區裁判所檢事たり家族は尙長女けい（大六、二生）弟俊三（明二二、二生）同妻かつ（同三五、五生、岐阜、三浦和三郎妹）及其一子あり（德島市地方裁判所檢事局）

參照＝安藤守孝の項

大平睦四郎

從五位勳六等、地方技師、鳥取縣內務部林務課長、鹿兒島縣士族

母　イノ　明一四、九生、奏父兵助二女
妻　マチイ　明三〇、二生、亡長男一郎妻、茨城、後藤善三郎三女
婿　やす　大八、六生、亡長男一郎長男
孫　兵一　大三、一生
女　ミツイ

君は福島縣人鷲又市の二男にして明治八年二月を以て生れ先代兵助の養子となり大正十五年家督を相續す酒類釀造業を營み傍ら前記銀行會社の重役にして直接國稅二千百九十六圓を納め縣下の多額納稅者に列し又推されて勿來町長たり家族は尙三男三郎（大六、八生）四男四郎（同九、一一生）五男五郎（同一二、七生）孫孝次郎（同一四、七生、亡長男一郎二男）あり二女ハナイ（明四〇、二生）は石川縣人板倉陽之助に嫁せり（福島、石城、勿來町）

大平要太郎

從五位勳四等、醫學博士、九州帝山形縣在籍

母　さく　明九、一〇生、兵庫、綱盛彌兵衛三女

君は大阪府多額納稅者故大平武助の二男にして明治三十五年九月を以て生れ昭和四年家督を相續す祖業を受け伊賀屋と稱し家主たり家族は尙貴美子（明三九、一二生、樟蔭高女出身）弟武彥（同四二、四生）同武俊（大三、四生）同武正（同七、一〇生）あり妹富美子（明三八、四生、清水谷高女出身）は法學士中川種藏に嫁し同壽美子（同四一、三生）は大阪府人山田嘉助の養子となり養叔父千吉（同二四、五生）は分家せりA一〇一九〇（大阪、南、安堂寺橫通四ノ四六電船場四三二）

大平爲一

從五位勳六等、地方技師、鳥取縣內務部林務課長、鹿兒島縣士族

母　スマ　明二、八生、鹿兒島、士、綾部良左衛門二女

妻　タツ　明二五、五生、鹿兒島、佐々木虎雄妹
男　辰秋　大五、一生
女　鈴子　大二、六生

君は鹿兒島縣士族大平辰二の長男にして明治九年九月を以て生れ同三十九年家督を相續す同四十三年東京帝國大學農科大學林學科を卒業し林務技手に任じ爾來三重縣立農林學校敎諭秋田縣立農林學校長愛媛熊本各縣技師を歷任し地方技師に任じ福井新潟各縣勤務を經て昭和三年鳥取縣內務部林務課長を命ぜらる家族は尙二女秋子（大七、六生）三女愛子（同九、五生）同ヒデ（同一九、一生）及其一子あり弟信雄（同一三、一生）は岡山縣人萬代寺の入夫となれり（鳥取縣廳林務課）

大平得三

國大學敎授、醫學博士、九州帝山形縣在籍

母　はまじ　元治元、九生、靜岡、士、阿島清四女

妻　操　明二二、七生、東京、元良勇次郎長女
男　昌彥　大三、七生
女　弘子　明四四、一一生

君は山形縣人大平植作の長男にして明治十五年十月を以て生れ大正十年家督を相續す明治四十一年京都帝國大學福岡醫科大學を卒業し直ちに同大學助手に任じ大正二年九州帝國大學助敎授となり同四年米國に留學を命ぜられ同五年歸朝す同九年九月醫學博士の學位を授けられ同十四年十月九州帝國大學敎授に任じ現に醫學部勤務たり家族は尙二女和子（大六、六生）二男永郎（同八、一一生）弟植助（明三四、二生）同植吉（生年月同上）同妻みな（同三五、二生、東京、新坂愛之進三女）及其四子弟植七郎（同三九、一生）叔父孝三（慶應二、三生）あり弟祐次（明二二、二生）は同妻ゆう（同二〇、二生）と共に分家し妹繁（同三六、五生）は山口縣人內田忠直長男忠廣に嫁せり（福岡市下替固御所谷七一〇）

大平廣衛

從五位勳五等、檢事、德島地方裁判所檢事兼德島區裁判所檢事

妻　さつき　明二七、五生、岐阜、安藤守孝妹岐阜縣在籍
男　得三　國大學敎授、醫學博士、九州帝山形縣在籍

君は岐阜縣人大平善衛の長男にして明治十九年十月を以て生れ昭和三年家督を相續す大正二年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し同年司法官試補となり同四年檢事に任ぜられ爾來豫備檢事大阪區彙同地方高松地方彙同區丸龜區彙高松地方丸龜區京都地方彙同區伊丹區新宮寺區彙和歌山地方新宮女部彥根區大津地方彙同區各裁判所檢事を歷補し現に德島地方裁判所檢事彙德島區裁判所檢事たり家族は尙長女けい（大六、二生）弟俊三（明二二、二生）同妻かつ（同三五、五生、岐阜、三浦和三郎妹）及其一子あり（德島市地方裁判所檢事局）

參照＝安藤守孝の項

大平睦四郎

從五位勳六等、地方技師、鳥取縣內務部林務課長、鹿兒島縣士族

母　イノ　明一四、九生、奏父兵助二女
妻　マチイ　明三〇、二生、亡長男一郎妻、茨城、後藤善三郎三女
婿　やす　大八、六生、亡長男一郎長男
孫　兵一　大三、一生
女　ミツイ

君は福島縣人鷲又市の二男にして明治八年二月を以て生れ先代兵助の養子となり大正十五年家督を相續す酒類釀造業を營み傍ら前記銀行會社の重役にして直接國稅二千百九十六圓を納め縣下の多額納稅者に列し又推されて勿來町長たり家族は尙三男三郎（大六、八生）四男四郎（同九、一一生）五男五郎（同一二、七生）孫孝次郎（同一四、七生、亡長男一郎二男）あり二女ハナイ（明四〇、二生）は石川縣人板倉陽之助に嫁せり（福島、石城、勿來町）

大平要太郎

從五位勳四等、醫學博士、九州帝山形縣在籍

母　さく　明九、一〇生、兵庫、綱盛彌兵衛三女

君は大阪府多額納稅者故大平武助の二男にして明治三十五年九月を以て生れ昭和四年家督を相續す祖業を受け伊賀屋と稱し家主たり家族は尙貴美子（明三九、一二生、樟蔭高女出身）弟武彥（同四二、四生）同武俊（大三、四生）同武正（同七、一〇生）あり妹富美子（明三八、四生、清水谷高女出身）は法學士中川種藏に嫁し同壽美子（同四一、三生）は大阪府人山田嘉助の養子となり養叔父千吉（同二四、五生）は分家せりA一〇一九〇（大阪、南、安堂寺橫通四ノ四六電船場四三二）

大平爲一

從五位勳六等、地方技師、鳥取縣內務部林務課長、鹿兒島縣士族

母　スマ　明二、八生、鹿兒島、士、綾部良左衛門二女

妻　タツ　明二五、五生、鹿兒島、佐々木虎雄妹
男　辰秋　大五、一生
女　鈴子　大二、六生

君は鹿兒島縣士族大平辰二の長男にして明治九年九月を以て生れ同三十九年家督を相續す同四十三年東京帝國大學農科大學林學科を卒業し林務技手に任じ爾來三重縣立農林學校敎諭秋田縣立農林學校長愛媛熊本各縣技師を歷任し地方技師に任じ福井新潟各縣勤務を經て昭和三年鳥取縣內務部林務課長を命ぜらる家族は尙二女秋子（大七、六生）三女愛子（同九、五生）同ヒデ（同一九、一生）及其一子あり弟信雄（同一三、一生）は岡山縣人萬代寺の入夫となれり（鳥取縣廳林務課）

大平得三

國大學敎授、醫學博士、九州帝山形縣在籍

母　はまじ　元治元、九生、靜岡、士、阿島清四女

妻　操　明二二、七生、東京、元良勇次郎長女
男　昌彥　大三、七生
女　弘子　明四四、一一生

君は山形縣人大平植作の長男にして明治十五年十月を以て生れ大正十年家督を相續す明治四十一年京都帝國大學福岡醫科大學を卒業し直ちに同大學助手に任じ大正二年九州帝國大學助敎授となり同四年米國に留學を命ぜられ同五年歸朝す同九年九月醫學博士の學位を授けられ同十四年十月九州帝國大學敎授に任じ現に醫學部勤務たり家族は尙二女和子（大六、六生）二男永郎（同八、一一生）弟植助（明三四、二生）同植吉（生年月同上）同妻みな（同三五、二生、東京、新坂愛之進三女）及其四子弟植七郎（同三九、一生）叔父孝三（慶應二、三生）あり弟祐次（明二二、二生）は同妻ゆう（同二〇、二生）と共に分家し妹繁（同三六、五生）は山口縣人內田忠直長男忠廣に嫁せり（福岡市下替固御所谷七一〇）

大平廣衛

從五位勳五等、檢事、德島地方裁判所檢事兼德島區裁判所檢事

妻　さつき　明二七、五生、岐阜、安藤守孝妹岐阜縣在籍
男　得三　國大學敎授、醫學博士、九州帝山形縣在籍

君は岐阜縣人大平善衛の長男にして明治十九年十月を以て生れ昭和三年家督を相續す大正二年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し同年司法官試補となり同四年檢事に任ぜられ爾來豫備檢事大阪區彙同地方高松地方彙同區丸龜區彙高松地方丸龜區京都地方彙同區伊丹區新宮寺區彙和歌山地方新宮女部彥根區大津地方彙同區各裁判所檢事を歷補し現に德島地方裁判所檢事彙德島區裁判所檢事たり家族は尙長女けい（大六、二生）弟俊三（明二二、二生）同妻かつ（同三五、五生、岐阜、三浦和三郎妹）及其一子あり（德島市地方裁判所檢事局）

參照＝安藤守孝の項

大平睦四郎

從五位勳六等、地方技師、鳥取縣內務部林務課長、鹿兒島縣士族

母　イノ　明一四、九生、奏父兵助二女
妻　マチイ　明三〇、二生、亡長男一郎妻、茨城、後藤善三郎三女
婿　やす　大八、六生、亡長男一郎長男
孫　兵一　大三、一生
女　ミツイ

君は福島縣人鷲又市の二男にして明治八年二月を以て生れ先代兵助の養子となり大正十五年家督を相續す酒類釀造業を營み傍ら前記銀行會社の重役にして直接國稅二千百九十六圓を納め縣下の多額納稅者に列し又推されて勿來町長たり家族は尙三男三郎（大六、八生）四男四郎（同九、一一生）五男五郎（同一二、七生）孫孝次郎（同一四、七生、亡長男一郎二男）あり二女ハナイ（明四〇、二生）は石川縣人板倉陽之助に嫁せり（福島、石城、勿來町）

は其四男を伴ひ弟善市（同一〇、五生）は其妻てつ（同一八、一二生、京都、士、山脇正勝三女）と共に各分家し弟駒槌（福山、深津町一九）各分家せり

參照＝大平駒槌・深井上秀二・高卜部陸太の項

大平米七

武藏屋、厚司足袋類商
大阪府在籍

母　よね　慶應二、一〇生、祖父米七二女
妻　ハナ　明三七、一生、大阪、多田寺治郎長女
男　幸男　大一三、五生

君は大阪府人先代米七の二男にして明治三十三年六月を以て生れ大正八年家督相續と共に前名貞二郎を改め襲名す祖父米七は東京府下目黑村より出でゝ木綿商を營み傍ら土地家屋を買收し當家の基を築く現時武藏屋と稱し厚司足袋類商を營む家族は尙二男勝（大一四、八生）三男晉治（昭二、七生）四男隆（同四、三生）の外弟博三（明三六、一生）同妻德子（同四〇、七生、滋賀岸田杢五女）及其一女弟鐵五郎（同三八、一二生）同妻靜子（同四〇、一二生、大阪、磯田岩祿三女）及其一女あり姉靜（同三一、三生）は大阪府人原彌太郎に嫁し兄官一（同二四、五生）は分家し姉フク（同二六、八生）は叔母トミの養子となり後大阪府人庭山耕園に嫁し弟貴藏（同三七、一〇生）は叔母大平ラクの養子となれり（大阪、東、平野町四ノ五電本局一三六〇）

參照＝岸田杢の項

大藤庄兵衛

ひろたや、チクス商
大阪府在籍

妻　ミネ　元治元、一〇生、大阪、伊藤武助妹
男　常次郎　明一七、一一生
婿　タカ　明二一、四生、長男常次郎妻、大阪、安居佐七二女
男　重雄　明三四、六生
婿　千代子　明四一、七生、三男重雄妻、大阪高岡庄七妹
男　誼五郎　明三九、二生
孫　證次郎　明四四、八生、長男常次郎二男
孫　美津　大三、七生、長男常次郎長女

君は奈良縣人木村藤五郎の三男にして安政五年五月を以て生れ先代庄兵衛の養子となり明治十七年家督を相續すひろたやと稱しチクス商を營む家族は尙孫弘（昭一八、一二生、京都、士、山脇正勝三女）と共に各分家し弟駒槌（同二、一一生）同彥市（同七、一一生）も亦各分家せり

參照＝大平駒槌・深井上秀二・高卜部陸太の項

大藤高彥

正三位勳二等、工學博士、京都帝國大學名譽敎授、京都府在籍

母　れい　明一七、六生、愛知、士、丹羽忠行長女
妻　萬里子　明三五、九生、亡長男高英妻、法學博士栗津清亮長女
孫　文一郎　大一二、一生、亡長男高英長男
婦　高　大一二、一生、亡長男高英長男

君は京都府人高田彌二郎の二男にして慶應三年十一月を以て生れ先代高敏の養子となり前名字之助を改め明治四十二年家督を相續す同二十七年帝國大學工科大學土木工學科を卒業し大學院に入り爾來第三高等學校敎授京都帝國大學理工科大學助敎授等に歷任し同三十六年八月工學博士の學位を受け大正三年同大學工科大學長となり現時同大學名譽敎授たり明治三十二年歐米各國に出張土木學研究の傍獨逸に留學し大正五年歸朝し現に商務省技師を命ぜらる家族は尙萬喜子（大一〇、五生、亡長男高英長女）同美紗子（同一二、九生、同二女）同高昭（昭二、八生、同二男）同高典（同四、一生、同三男）あり

參照＝伊藤武助の項

大藤武助

正三位勳二等、工學博士、京都帝國大學名譽敎授、京都府在籍

妻　れい　明一七、六生、愛知、士、丹羽忠行長女
婿　萬里子　明三五、九生、亡長男高英妻、法學博士栗津清亮長女
孫　文一郎　大一二、一生、亡長男高英長男
婦　高　大一二、一生、亡長男高英長男

君は京都府人高田彌二郎の二男にして慶應三年十一月を以て生れ先代高敏の養子となり前名字之助を改め明治四十二年家督を相續す同二十七年帝國大學工科大學土木工學科を卒業し大學院に入り爾來第三高等學校敎授京都帝國大學理工科大學助敎授等に歷任し同三十六年八月工學博士の學位を受け大正三年同大學工科大學長となり現時同大學名譽敎授たり明治三十二年歐米各國に出張土木學研究の傍獨逸に留學し大正五年歸朝し現に商務省技師を命ぜらる家族は尙萬喜子（大一〇、五生、亡長男高英長女）同美紗子（同一二、九生、同二女）同高昭（昭二、八生、同二男）同高典（同四、一生、同三男）あり

參照＝伊藤武助の項

大藤高彥

正三位勳二等、工學博士、京都帝國大學名譽敎授、京都府在籍

妻　れい　明一七、六生、愛知、士、丹羽忠行長女
婿　萬里子　明三五、九生、亡長男高英妻、法學博士栗津清亮長女
孫　文一郎　大一二、一生、亡長男高英長男
婦　高　大一二、一生、亡長男高英長男

君は京都府人高田彌二郎の二男にして慶應三年十一月を以て生れ先代高敏の養子となり前名字之助を改め明治四十二年家督を相續す同二十七年帝國大學工科大學土木工學科を卒業し大學院に入り爾來第三高等學校敎授京都帝國大學理工科大學助敎授等に歷任し同三十六年八月工學博士の學位を受け大正三年同大學工科大學長となり現時同大學名譽敎授たり明治三十二年歐米各國に出張土木學研究の傍獨逸に留學し大正五年歸朝し現に商務省技師を命ぜらる家族は尙萬喜子（大一〇、五生、亡長男高英長女）同美紗子（同一二、九生、同二女）同高昭（昭二、八生、同二男）同高典（同四、一生、同三男）同綾（同三四、六生）は共に其養妹壽鶴（明三三、一生）同高室ツヤの家籍に入れり（京都、上京、大阪府人萬室ツヤの項）

參照＝栗津清亮の項

大淵善吉

駿々堂、出版業
安政三、四生、滋賀、士、田中勝富二女

妻　ナチ　明三二、一一生、養父傳次郎庶子
男　雄　明四四、七生、長男孝二女
孫　公子　明四四、七生、長男孝二女

君は奈良縣人上田由松の三男にして明治二十五年七月を以て生れ先代傳次郎の養子となり大正八年家督を相續す駿々堂と稱し出版業を營む家族は尙ほ二女喜代子（大一一、一二生）養妹ミチ（明三九、一一生）あり（大阪南、東淸水町二九電船南二八〇六）

大淵三樹

南滿洲鐵道㈱東京支店長
東京府在籍

妻　壽　明三一、一〇生、東京、篠澤牛五郎四女
男　隼男　大一四、一〇生

君は福岡縣人大淵龍太郎の三男にして明治十八年八月を以て生れ後大正十三年兄朴方より分れて一家を創立す先是明治四十四年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し直ちに南滿洲鐵道會社に入り大正二年滿三ヶ年間歐米に留學を命ぜられ其後本社支社等に勤務して現に同社東京支店長たり昭和三年再び歐米を視察せり家族は尙長女道子（大一一、一生）四男勝男（昭四、一二生）あり（東京、麴町、平河町五ノ二電九段三八一八）

大部鋭太郎

日立銀行㈱頭取
茨城縣士族

妻　てい　明一三、六生、茨城、大高新一郎二女
養子　七郎　明一九、七生、長女さた夫、茨城鯉淵平八郎弟
女　さた　明二一、一生、養子七郎妻
孫　よれ　大二、一〇生、養子七郎二女
孫　とみ　大五、一生、養子六郎三女

君は茨城縣士族大部助八の長男にして慶應三年十一月を以て生れ明治四十三年帝銳次郎の跡を承け家督を相續す現時日立銀行頭取たり家族は尙孫猛次郎（明四五一生、養子七郎長男）同つる（大七、九生、同四女）同眞（同一一、八生、同二男）同うた（同一二、一一生、同五女）同みち（同一四、一一生、同六女）同昭三郎（昭二、五生、同三男）同たか（同四、二生、同七女）あり妹いち（明六、一生）は茨城縣人木內德蔵に嫁せり（茨城、多賀、松原町）

參照＝鯉淵平八郎の項

大堀楠之丞

和歌山紡織㈱取締役
和歌山縣士族

妻　孝　明一三、七生、現戶主
男　憲　明四二、四生、長男孝長女
孫　公子　明四四、七生、長男孝二女

君は和歌山縣士族佐津川源九郎の三男にして男爵外松龜太郎の養叔父なり安政三年十月を以て生れ先々代太右衛門の養子となり後家督を相續し明治二十三年家督を長男孝に讓り退隱す現時和歌山紡織會社取締役たり家族は尙孫弘（大二、五生、長男孝長男）同欣子（同一五、五生、同三女）あり長女麻枝（明一五、一一生）三

女ゆき子（同二〇、三生）は各分家し二女政惠（同一七一〇生）は和歌山縣人今井玄道二男信雄に四女かすゑ（同二一、一一生）は兵庫縣人神田權四郎二男松蔵に六女知（同三二、七生）は長野縣人北澤貞治郎に庶子はつ子（同三九、一二生、生母、和歌山、森はな）は和歌山縣人鹿崎政雄に嫁せり（和歌山市東長町七ノ三）

参照＝男爵外松愈太郎の項

大堀佐内

本所區長
千葉縣在籍

父　央　萬延元、三生
母　たみ　慶應元、一〇生、千葉、久保木喜兵衛長女
妻　まん　明一六、三生、千葉、可兒擠蔵長女
男　佐一　明三五、一生

君は千葉縣人大堀央の長男にして明治十四年五月を以て生れ大正十五年家督を相續す夙に東京市役所に入り水道局庶務課長を經て現時本所區長たり家族は尚弟五郎（明二九、四生）同妻よし（同三四、五生、千葉、士、香取憲章四女）及弟須知郎（同三四、一一生）あり妹くら（同三九、七生）は茨城縣人根本庸七郎に嫁せり（東京、小石川、大塚窪町四）

大間清六

佐賀縣多額納稅者
佐賀縣在籍

妻　シナ　明一六、三生、佐賀、士、森德太妹
男　清一　明三九、九生
男　清助　明四〇、八生
男　清三郎　明四一、一〇生
女　エイ　大二、九生
女　ツキ　大四、三生

君は佐賀縣人大間清藏の長男にして明治十三年一月を以て生れ大正八年家督を相續す佐賀縣多額納稅者たり家族は尚四男清吉（大七、七生）五男清八（同八、八生）六男清次（同一〇、一二生）七男清太郎（同一二、一〇生）あり二女キヨ（明四三、一〇生）は大分縣人今倉佐吉に妹イチ（同三三、一生）は佐賀縣人大島嘉一長男敏雄に嫁し弟治作（同一四、一一生）は同妻タミ（同二四、一生、佐賀、士、原文碩四女）及三子を伴ひ分家せり（佐賀市巡池町四八）

大間知圓兵衛

富山商工會議所理事、小杉銀行、富山信託各重取締役、富山縣在籍

大間知喜一郎

富山縣多額納稅者、富山商工會議所議員、富山信託重取締役社長、呉服商、富山縣在籍

母　ノリ　安政五、二生、富山、岡崎藤十郎五女
妻　眞知子　明三二、六生、富山、山田正年長女
男　喜一　大一一、七生

君は富山縣人先代喜一郎の二男にして明治二十四年一月を以て生れ同三十九年家督を相續し前名義太郎を改め襲名す大正三年神戸高等商業學校を卒業し呉服商を營み傍ら前記會社の重役にして直接國稅一千八百九十九圓を納め富山縣多額納稅者に列し推されて富山商工會議所議員たり家族は尚長女まさ子（大一二、一生）四男則道（同一五、八生）五男眞（昭四、五生）あり姉モトエッ（同二、二生）弟信平（同二六、一〇生）は各分家し妹せり（富山市衣服町一電二七）

参照、山田正年、山野政太郎、家南日實の項

大前光太郎

地主
兵庫縣在籍

妻　たね　明一三、一〇生、兵庫、大前茂三良二女
男　治雄　明三四、九生
男　治雄　明四一、三生、二男治雄妻、兵庫窪田長左衛門姉

繼母　キク　明二、一一生、富山、片口安太郎姉
妻　スヾ　明二一、三生、富山、士、田上道貞四女
男　俊一　明四〇、九生
男　幹夫　明四二、一〇生

君は富山縣人先代陶兵衛の長男にして明治十七年六月を以て生れ同三十九年家督を相續し前名昌太郎を改め襲名す同四十二年京都帝國大學法科大學英法科を卒業し富山縣農工銀行支配人富山銀行常務取締役等に就任し現時前記銀行會社の重役にして富山商工會議所理事たり家族は尚四男欽四郎（大二、五生）五男守雄（同五、七生）弟篤三（明三三、四生）あり長女英子（同三九、一〇一）は富山縣人加藤哲太郎に嫁せり（富山市愛宕町二

参照＝片口安太郎の項

大町大作

廣島株式取引所懇理事長
廣島縣士族

妻　チカ　明八、七生、廣島、士、松林又一二女
男　茂　明二八、三生
男　治三　明三三、一一生、二男茂妻、愛知白石竹治長女
男　篤　明四〇、二生

君は廣島縣士族大町榮介の長男にして慶應三年二月を以て生れ明治二十八年家督を相續す現時廣島株式取引所理事長たり家族は尚孫通（大一五、八生、二男茂二男）同恭子（昭三、六生、同長女）妹トラ（明九、二生）あり三男清（同三一、八生）は分家し弟孝作（同四、一一生）は其妻さき（同一〇、六生、京都、松村得兵衛二女）を伴ひ弟岩雄（同一四、五生）も亦其妻元（同二三、二生、廣島、士、中村和義長女）を伴ひ各分家し長女勝子（同三六、一〇生）は廣島縣人島一郎に二女信子（同四三、一生）は廣島高等學校教授渡邊清彦に妹ヨシ（同二、七生）は東京府人原田政吉に嫁し四男誠（同三四、一〇生）は山口縣士族折下八郎叔父勝造の養子となれり（廣島市上柳町四八）

大湊直太郎

從四位勳二等功四級、海軍中將、海軍兵學校長、山形縣士族

妻　てい　明二三、六生、山形、島良知妹
養子　又郎　大二、六生

君は山形縣士族大湊準助の長男にして明治十二年七月を以て生れ同四十四年家督を相續す同三十四年海軍兵學校を卒業し海軍少尉に任じ昭和四年海軍中將に累進す其間山城艦長第一艦隊參謀長兼聯合艦隊參謀長海軍砲術學校長第三戰隊司令官海軍省教育局長等に歷補し昭和五年海軍兵學校長に補せらる（廣島、安藝、江田

男　勤太郎　明三六、一二生
女　千惠子　明四一、九生
女　てる子　明四四、八生
女　政子　大四、四生

君は兵庫縣人鷲尾文左衛門の二男にして明治九年十一月を以て生れ後大前家に入り大正三年養弟正一の死跡を相續す財團法人野田奬學會理事長私立野田香盛幼稚園主にして地主たり蘊に神戸市會議員に推されし事あり家族は尚孫治敏（昭五、五生、二男治雄長男）ありA四三一八（神戸、野田七ノ一五電須磨四八四）

大町大作

廣島株式取引所懇理事長
廣島縣士族

妻　チカ　明八、七生、廣島、士、松林又一二女
男　茂　明二八、三生
男　治三　明三三、一一生、二男茂妻、愛知白石竹治長女
男　篤　明四〇、二生

君は廣島縣士族大町榮介の長男にして慶應三年二月を以て生れ明治二十八年家督を相續す現時廣島株式取引所理事長たり家族は尚孫通（大一五、八生、二男茂二男）同恭子（昭三、六生、同長女）妹トラ（明九、二生）あり三男清（同三一、八生）は分家し弟孝作（同四、一一生）は其妻さき（同一〇、六生、京都、松村得兵衛二女）を伴ひ弟岩雄（同一四、五生）も亦其妻元（同二三、二生、廣島、士、中村和義長女）を伴ひ各分家し長女勝子（同三六、一〇生）は廣島縣人島一郎に二女信子（同四三、一生）は廣島高等學校教授渡邊清彦に妹ヨシ（同二、七生）は東京府人原田政吉に嫁し四男誠（同三四、一〇生）は山口縣士族折下八郎叔父勝造の養子となれり（廣島市上柳町四八）

島村海軍兵學校官舍

大宮庫吉

寶酒造專常務取締役
京都府在籍

妻　トヨ　明二三、八生、愛媛、黑田孝太郎養子
養子　一良　大一三、二生、東京、井上友太郎三男

君は愛媛縣人井上友太郎の弟にして明治十九年四月を以て生れ先代新吉の養子となり後家督を相續す現時寶酒造會社常務取締役たり（伏見、指物五五七）

大宮以季

從二位勳三等、子爵
舊公卿家

養子　公孝　明四一、八生、子爵小倉義季弟
女　智榮　明一八、六生

當家は內大臣西園寺公益の次男右中將季光の後なり季光別に一家をなし大宮と稱すそれより七世を經て先代公典に至る君は其長男にして安政五年一月を以て生れ明治十七年子爵を授けらる同三十年以來貴族院議員に當選すること四回又曩に明宮御用掛侍從たりしことあり家族は尚庶子正二（大元、八生、生母、滋賀、下川久）あり二女知子（明一六、一一生）は奈良縣人北恕太郎に嫁せり（京都、葛野、花園村春日八）

参照＝子爵小倉義秀次男子爵北大路實信の項

大村有隣

正四位勳二等功五級、陸軍中將
愛知縣士族

妻　よし　明一七、七生、東京、士、師岡一夫妹
男　善彦　明四二、一〇生
男　二郎　明四三、一二生

君は大阪府士族大村屯の長男にして明治十一年八月を以て生れ大正二年家督を相續す明治三十三年陸軍歩兵少尉に任じ昭和四年陸軍中將に累進す其間歩兵第七十八聯隊長同第四十旅團長陸軍歩兵學校附獨國在勤大使館附武官由良要塞司令官等に歷補し昭和六年豫備役編入被仰付家族は尚男逸雄（大二、一生）弟直道（明三一、三生）あり四男誼一（大四、一二生）は山口縣人片山眞五郎の養子となれり（名古屋、東、神樂町三〇二八）

参照＝片山誼五郎の項

大村一藏

日本石油鹿鑛山部地質課長
鳥取縣在籍

妻　よし　明二五、八生、福岡、里見恭次郎長女
女　セツ　大一二、一〇生
女　健二　大五、九生

君は鳥取縣人大村治の四男にして明治十七年二月を以て生れ大正三年兄甲一郎方より分れて一家を創立す明治四十五年東京帝國大學理科大學地質學科を卒業し現時日本石油會社鑛山部地質課長たり運動に趣味を有す家族は尚二女きみ（大一〇、八生）三女ミツエ（同一三、一一生）あり（東京、芝、二本榎本町二二電高輪三四八四）

大村市太郎

大村組鑛代表取締役
靜岡縣在籍

妻　ちゑ　明一四、二生、愛父隆平長女

君は靜岡縣人望月莊藏の三男にして明治十年四月を以て生れ大村隆平の養子となり同三十五年分れて一家を創立す現時大村組代表取締役たり（横濱、中、本町六ノ五一）

大村岩吉

下關市會議員、下關商工會議所議員、村木商、山口縣在籍

妻　フシ　明一〇、九生、島田浮松三女
養子　秀平　明二四、一二生、長女エイ夫、大分、藤田善五郎三男
養子　茂雄　明二九、二生、養子秀平妻
女　エイ　明二五、八生、二女キクエ夫、福岡、安增友三郎弟
養子　茂雄　明三一、九生、養子茂雄妻
女　キクエ　明三一、九生、愛父隆平長女

君は山口縣人福田市次郎の長男にして明治八年一月を以て生れ大村庄藏の養子となり同三十六年分れて一家を創立す村木商を營み推されて下關市會議員下關商工會議所議員たり家族は尚孫昌子（大六、一生、養子秀平同長女）同雄三（昭三、二生、同長男）同浩子（大一一、五生、養子茂雄長女）同房子（同一四、九生、同二女）同健二（昭二、九生、同長男）同尚久（同四四、六生、同二男）ありA六七六B二三三（下關、西細江町一六ノ九電五九三）

大村金治

從五位、京畿商業學校長兼教諭
岡山縣在籍

養母　高子　明二五、四生、岡山、古市重吉姉
妻　善子　大四、二生
男　慶應元、三生、岡山、古市重吉長女
男　密　明二五、四生、養父其吉長女

大村五左衛門

東京調帶、大村五左衛門商店各種社長、東京山中銀行、東京護謨工業各種取締役、銃子替油種鹽査役
大野屋、船具塗料商
東京府在籍

妻　きく　明元、二生、東京、濱口吉右衛門養叔母
男　養之助　明三四、七生、早稻田大學商科出身
婦　美代　明三七、一二生、四男養之助妻、東京、桶八十兵衛長女、跡見女學校出身

君は東京府人先代五左衛門の二男にして安政六年十一月を以て生れ明治三十一年家督を相續し襲名して前名源太郎を改む大野屋と稱し船具塗料商を營み現時前記銀行會社の重役たり家族は尚孫嬰太郎（大一四、六生、四男養之助長男）同喜代子（同一五、六生、同長女）同富美子（昭二、六生、同二女）あり長女錄（明二九、七生、東京女學館出身）は千葉縣人深井吉長衛に二女時（同三六、一二生、出身校同上）は實業家大川平三郎長男義雄に叔母つげ（文久二、二生）は群馬縣人大塚安治郎先代久右衛門に錄し五男益之助（明四〇、六生）は東京府人大村ちかの養子となれり（東京、京橋、東湊町一ノ一〇電麴京櫻八二九）

参照＝大川義雄、大塚安治郎、楠八十兵衛、濱口吉右衛門、深井吉長衛家相川又五郎家木村平右衛門家蓮蛾實勝家遠山市郎兵衛家濱口吉兵衛家濱口正一家濱口麟藏家濱口錄之助の項

大村鋼太郎

神戸有馬電氣鐵道、東京時計電氣各種取締役、東京府在籍

妻　慧　明一六、四生、子爵北條爲八從姉
男　清　明四一、一生

女　百合子　大二、五生

君は岡山縣人朝倉廣太郎の二男にして明治十六年七月を以て生れ先代其吉の養子となり昭和五年家督を相續す明治四十四年京都帝國大學法科大學法律科を卒業し翌四十五年私立天城中學校教師囑託となり爾來佐賀縣伊萬里商業學校岡山縣笠岡商業學校各校長等に歷任し大正十二年京畿公立商業學校長兼教諭に任じ今日に至る家族は尚二男久（大八、三生）二女康子（同一〇、二生）三男裕（同一四、一生）五男定（昭五、九生）あり（朝鮮、京畿道、京畿商業學校）

大湊直太郎

從四位勳二等功四級、海軍中將、海軍兵學校長、山形縣士族

妻　てい　明二三、六生、山形、島良知妹
養子　又郎　大二、六生

君は山形縣士族大湊準助の長男にして明治十二年七月を以て生れ同四十四年家督を相續す同三十四年海軍兵學校を卒業し海軍少尉に任じ昭和四年海軍中將に累進す其間山城艦長第一艦隊參謀長兼聯合艦隊參謀長海軍砲術學校長第三戰隊司令官海軍省教育局長等に歷補し昭和五年海軍兵學校長に補せらる（廣島、安藝、江田

女　茂　明三八、一一生
女　隆　明四三、一生
女　豐　明四五、一生
女　康　大三、三生
女　秀　大五、八生

君は長野縣士族大村金太郎の長男にして明治四年六月を以て生れ同十二年家督を相續す同二十九年東京帝國大學工科大學を卒業し大學院に入り後阪鶴鐵道會社三田建設事務所長鐵道技師帝國鐵道廳技師京濱改良工事主任鐵道院技師鐵道省建設局長工務局建設課長鐵道監察官等に歷任し現時前記各會社の重役たり叙勲に清國政府の招聘に應じ歐米に出張せり家族は尙二男章（大八、三生）六女照子（同一一、三生）七女和子（同一四、八生）八女佐多（昭二、二生）あり弟國雄（明二〇、九生）は東京府人高木秋雄の家籍に入り妹ハマ（同九、五生）は陸軍中將若見虎治に同まさを（同二三、一生）は東京府士族横山政二に嫁せり（東京市外淀橋町角筈八五四電四谷三五八）

參照＝男爵北條篤八、横山政二、若見虎治※公爵侯伊達宗彰※子爵堀田正治※渡邊寺公弘※侯爵伊達宗彰※子爵堀田正治※渡邊直逢の項

大村純英

從三位勳三等功五級、伯爵、陸軍少將、舊肥前大村藩主
嘉永四、四生、正二位勳四等
安政六、五生、先々代純熙四女
計鮮　明一五、一二生、伯爵眞田幸治※母
妻　田鶴子　明三六、四生、從五位勳六等、陸軍砲兵中尉、野戰重砲兵第二聯隊附
男　純毅　明四一、八生、長男純毅妻、子爵松平保男長女、女子學習院出身
婿　芳　子　明四四、五生
女　照　子　大二、一〇生
女　光　子　大四、一生
女　千惠子

當家は藤原鎌足の孫權大納言長良の末葉大村丹波守忠澄の後なり忠澄肥前の二郡を領し久原城に至る夫より十一世を經て丹波守喜前に至り豐臣氏に從ひ後德川氏に屬し肥前國大村五萬七千九百石を領す後十代を經て先々代純熙に至り戊辰の役功あり先代純雄島津伯爵家より入りて其後を承け明治十七年子爵を授けられ同二十四年伯爵に陞さる式部官に任じ貴族院議員に當選し又育英事業に盡す所尠からず君實は男爵大村純之の伯父にして明治五年一月を以て生れ先代從兄純雄の養子となり昭和二年襲爵被仰付夙に軍籍に入り累進して陸軍少將に陞り後獨備役に編入せらる昭和六年紺綬褒章を賜ふ家族は尙二男近純（大元、九生）孫正子（昭三、八生、長男純毅長女）同直子（同四、一一生、同二女）あり長女喜代子（明二九、一一生、女子學習院出身）は子爵竹內惟斌に嫁し女武純（嘉永二、八生）は男爵を授けられ別に一家を創立し養甥孫之當主にして大叔母知久子（萬延元、一〇生）は子爵長岡護孝の養母たり（東京市外大崎町上大崎六三九電高輪一六七四）

參照＝伯爵眞田幸治、子爵松平保男、子爵竹內惟斌※子爵長岡護孝、男爵大村純之※伯爵清棲孝保※伯爵島津久範※伯爵藤堂高紹※伯爵山田英子爵長岡護孝、男爵大村純之※伯爵清棲孝保※伯爵眞田幸治、子爵松平保男、子爵竹內惟斌※伯爵島津久範※伯爵藤堂高紹※伯爵山田英夫※子爵本多忠昭※松平恒雄の項

大村純之

男爵
大村伯爵家分家

當家は先代武純の立つる所なり武純は舊肥前大村藩主大村純顯の三男にして夙に勤王の志を懷き維新の際國事に奔走して功あり明治四十二年男爵を授ひ又別に一家を創立し特旨を以て華族に列し男爵を授けらる君は其養子純久の長男にして大正二年四月を以て生れ昭和五年祖父武純の家督を相續し舉爵被仰付伯父純英（明五、一生）は宗家伯爵家の當主たり（長崎、東彼杵、大村町）

參照＝伯爵大村純英※子爵竹內惟斌※子爵長岡護孝の項

大村清次

靜岡商工會議所議員、日本軍需工廠監査役、靜岡縣在籍
妻　てる　明一五、二生、靜岡、榊原源三郎妹
養子　敏朗　大九、六生、靜岡、山本隆弟

君は靜岡縣人新村巳之助の弟にして明治五年三月を以て生れ先代はつの入夫となり同二十九年家督を相續す現時日本軍需商工會社監査役にして推されて靜岡商工會議所議員たり長女とみ（明二七、一生）は靜岡縣人山本半兵衛四男四郎に嫁し女きよ（同三五、二生）は同縣人鹽澤林藏に嫁し亡妻はつ妹さく（同一三、七生）も亦他に嫁せり（靜岡市馬場町六）

大村卓一

正四位勳二等、朝鮮總督府鐵道局長、福井縣士族
妻　ゆき　明一四、二生、東京、櫛部信一妹

當家は先代武純の立つる所なり武純は舊肥前大村藩主大村純顯の三男にして夙に勤王の志を懷き維新の際國事に奔走して功あり明治四十二年男爵を授けられ別に一家を創立し特旨を以て華族に列し男爵を授けらる君は其養子純久の長男にして大正二年四月を以て生れ昭和五年祖父武純の家督を相續し舉爵被仰付父純英（明五、一生）は宗家伯爵家の當主たり（長崎、東彼杵、大村町）

參照＝伯爵大村純英※子爵竹內惟斌※子爵長岡護孝の項

大村純之

男爵
大村伯爵家分家

當家は先代武純の立つる所なり武純は舊肥前大村藩主大村純顯の三男にして夙に勤王の志を懷き維新の際國事に奔走して功あり明治四十二年男爵を授ひ又別に一家を創立し特旨を以て華族に列し男爵を授けらる君は其養子純久の長男にして大正二年四月を以て生れ昭和五年祖父武純の家督を相續し舉爵被仰付父純英（明五、一生）は宗家伯爵家の當主たり（長崎、東彼杵、大村町）

參照＝伯爵大村純英※子爵竹內惟斌※子爵長岡護孝の項

大村卓一

正四位勳二等、朝鮮總督府鐵道局長、福井縣士族
妻　ゆき　明一四、二生、東京、櫛部信一妹
養母　キチ
妻　セン　明七、一〇生、養父喜十長女
男　義雄　明二五、七生
婿　直子　明三四、九生、長男義雄妻、山口富村武雄二女
女　田鶴子　大元、一一生
女　萬喜子　大四、一二生

當家は千家國造家と緣故深く杵築町に於ける舊家たり君は島根縣人勝部仙太郎の九男にして明治三年七月を以て生れ先代キチの養子となり同二十九年家督を相續す同二十八年東京法學院を卒業し農業を替み傍ら松江銀行鑑査役にして直接國稅一千三百三十七円を納め島根縣多額納稅者たり家族は尙孫通雄（昭二、三生、長男義雄長男）同浩司（同四、一〇生、同一男）あり長女幸子（明二七、七生）は島根縣人安田來藏二男恭平に二女富壽子（同二九、一一生）は同縣人木佐德三郎三男德之助（明三、一生、男爵鴻池善右衞門叔母、京都府在籍）

參照＝奥田亀造、木佐德三郎※宍戸嘉惠次の項

大村信行

從四位勳三等功四級、後備陸軍中將、山口縣在籍
妻　キミ　明七、九生、山口、國弘彦市長女
男　敏風　明二九、一二生
婦　富美子　明四〇、四生、長男敏風妻、山口士、吉武唯一二女

君は山口縣人大村久兵衞の二男にして元治元年十二月を以て生れ明治二十三年分れて一家を創立す夙に陸軍士官學校を卒業し同二十二年陸軍少尉に任じ大正七年陸軍中將に累進す其間陸軍大學校を卒業し參謀本部出仕參謀本部部員第八師團參謀長歩兵第十四同第三十七各旅團長等に歷補し昭和二年後備役に編入せらる家族は尙孫敏子（昭二、四生、長男敏風長女）あり二女貞子（明三六、九生）は東京府人酒井直次に三女武子（同三八、八生）は山口縣人藤田立二に四女清子（同四一、一生）は同縣人柏木直市に養子タツヨ（同二六、一一生、山口、町田源三郎二女）は同縣人大村豐輔に嫁し三男正風（同四〇、二生）は同縣人中村イヨの死跡を相續せり（山口、佐波、防府町）

參照＝※片山正雄の項

大村信善

北海道採炭㈱常務取締役、有隣生命保險㈱取締役兼支配人、鬪們鐵道㈱鑛業所、鳥取縣士族
父　千次郎　文久二、八生、滋賀、士、芳賀津右衞門二男、現戸主
母　ミネ　慶應元、一〇生、組父德十郎二女
妻　俊子　明一九、一〇生、鳥取、士、井上廉治長女
男　英明　明四二、九生

君は鳥取縣士族大村千次郎の長男にして明治十八年六月を以て生れ同三十八年其名信喜を改む同四十年東京高等商業學校を卒業し現時前揭諸會社の重役たり家族は尙二男正治（大二、一生）あり弟芳德（明二一、九生）は京都府人垣谷りようの入夫となり妹よし（同三四、五生）は東京府士族土岐二十八に嫁せり（東京市外中野町一六〇六電中野五二）

參照＝※山田七藏の項

大村彦一郎

白木屋㈱社長、大村保全名代表社員、京都府在籍
母　ダイ　明三一、一生、男爵鴻池善右衞門叔母
妻　茂子　明三一、一二生、男爵三井壽太郎妹

當家は其養祖大村彦太郎近江より出で白木屋呉服店を開業してより二百餘年に及ぶ連綿たる老舗なり先代彦太郎夙に歐米各國に滯留する事八年歸來家業を株式組織に改め同社長に就任し傍ら諸會社の重役に擧げられ大正七年貴族院議員に當選す君は其長男にして明治三十一年五月を以て生れ昭和二年家督を相續す現時前記各會社の重役たり家族は尙長女澄子（同一二、八生）三女登喜子（同一二、五生）の外弟武雄（明三二、八生、大村保全社員）同妻綾子（同三五、一一生、東京、宏達彌妹）及其一女弟和之助（同三九、一二生、東京女學館出身）あり同當子（同四一、三生）あり同文子（同三五、九生）は子爵牧野康熙に同文子（同三五、九生）は同府人大村保全社員）妹コズエ（同四一、三生）は子爵牧野康熙に同文子（同三五、九生）は同府人中川高貞に叔母さく（同三、九生）は同府人中田彦三郎に嫁せりA三二六（京都、中京、堺町二條上ル龜屋町一六九電上六四八）

參照＝子爵牧野康熙、男爵鴻池善右衞門、男爵三井壽太郎※子爵鳥居忠一※子爵牧野忠良※男爵三井八郎右衞門※土井高禮※三井高親※和田久左衞門の項

大村秀太郎

紅染商
京都府在籍
繼母　ゆき　明二三、一〇生、京都、柾市兵衞二女

君は京都府人大村正太郎の長男にして明治四十四年一月を以て生れ大正十四年家督を相續す紅染商を營む家族は尙弟正之助（大九、五生）妹德子（同一〇、九生）弟孝三郎（同一一、一〇生）同四郎（同一三、一生）あり叔母きぬ（明一五、一〇生）は京都府人井上庄太郎に同ふみ（同二三、九生）は同府人木村表齊養子幸二郎に嫁し叔父直二郎（同二二、三生）は分家せりA一五九四B一九六（京都、中京、室町丸太町下ル道場町八電上四一一〇）

大村齊

正四位勳二等功三級、後備陸軍中將、東京府在籍
母　タツ　萬延元、三生、岡田雅翁五女
妻　初枝　明一九、九生、東京、山田文太郎長女
男　進　明四四、三生

君は北海道人大村欣一の長男にして明治九年二月を以て生れ同三十三年分れて一家を創立す同三十年陸軍士官學校を卒業し同三十一年陸軍工兵少尉に任じ昭和四年陸軍中將に陞進す其間陸地測量部班長參謀本部附工兵第九大隊長陸地測量部長測地學委員會委員等に歷補し昭和四年豫備役に編入被仰付義に獨逸に留學し滿洲朝鮮等に派遣せられ又歐洲大戰の間佛國に出張せり家族は尙二男保（大九、七生）三男稔（同一二、一生）あり（東京市外大久保町西大久保四一六電四谷二〇五〇）

大村泰敏

從五位、子爵
東京府華族
母　ウメ　明一二、二生、男爵鴻原俊丸妹

當家は贈從二位大村益二郎より顯る益二郎は舊山口藩士にして幕府征長の役藩員を率ゐて大に幕軍を破り戊辰の役官兵を督して向ふ所皆克つ平定後兵部大輔に任ぜられしも明治二年賊手に斃る其孫寛人組父の功に依り明治十七年華族に列し子爵を授けらる先代德敏毛利公爵家より入りて其後を享け社會事業に貢獻する所尠からず君は德敏の長男にして公爵毛利元昭男爵小早川四郎西園寺八郎の甥男爵毛利元良の從弟なり明治四十一年一月を以て生れ大正十二年家督を相續し襲爵仰付けらるA一〇二九（神奈川、鎌倉、鎌倉町長谷一九一）

參照＝公爵毛利元昭、男爵小早川四郎、男爵鴻原俊丸、男爵毛利元良、西園寺八郎※山田鐵作の項

大本貞太郎

愛媛縣參事會員、伊豫鐵道電氣、松山商事各㈱取締役、愛媛縣在籍
妻　スガチ　明三〇、一一生、愛媛、清水利吉長女
母　スエ　明四五、一生
男　俊平

君は愛媛縣人先代貞太郎の二男にして明治十七年四月を以て生れ大正三年年家督を相續し前名廣治郎を改め襲名す現時前記各會社の重役にして愛媛縣參事會員に推され曩に同縣會副議長たり家族は尙二男良平（大四、二生）三男莊平（同一三、一生）長女喜美代（昭四、五

生）弟勝利（明二八、五生）同妻たまを（同三三、八生、愛媛、久保儀平二女）及其二子あり妹花代（同二四、四生）は靜岡縣人田中昌司に嫁し弟演一（同三五、一一生）は分家せり（松山、本町三ノ二八）

大本利一　従五位、山口高等商業學校生徒主事兼教授、岡山縣在籍

妻　靖子　明三〇、五生、岡山、中原寛四女

君は岡山縣人大本久錄の長男にして明治二十三年十一月を以て生れ大正元年家督を相續す同八年京都帝國大學法科を卒業し直に山口高等商業學校講師を囑託せられ同校教授に任ぜられ同十四年英米佛獨各國に留學を命ぜらる昭和三年山口高等商業學校生徒主事兼教授となり今日に至る家族は尚長女冬（大一三、一生）二女雪（昭四、二生）三女梅（同六、二生）あり妹小幾（明二八、六生）弟嘉市（同三五、一〇生）は共に其生母岡山縣人小野比左の家籍に入れり（山口、吉敷、大内村）

大森斌彦　醫學博士、大森醫院長、醫師

父　健八郎　慶應三、一二生、岡山、士、山本勇七郎弟、現戸主

母　富　明九、三生、岡山、花房寺吉長女

妻　ナツ子　明二八、九生、京都、中川勘之祐妹

君は岡山縣士族大森健八郎の長男にして明治二十二年二月を以て生る大正三年京都帝國大學醫科大學を卒業し同八年臺灣總督府醫學專門學校教授となり同十年醫學博士の學位を受け同十一年官を辭し現時堂島ビルデングに於て内科大森醫院を經營し其院長たり家族は尚弟輝雄（明二六、六生）同妻ハル（同三六、三生、北海道、朝山和一郎五女）及其三子弟留郎（同三二、三生）同義宮（同四〇、二生）の外亡弟次彦の一子あり妹愛子（同二八、一〇生）は東京府人山田康太郎に嫁せりA三〇〇（大阪、住吉、天神森一ノ五一電天下茶屋二二三三）

參照＝山田康太郎の項

大森偉一郎　従四位勳三等、熊本高等工業學校教授、熊本縣在籍

父　權作　嘉永四、一一生

母　ウエ　萬延元、一生、熊本、坂本喜平太二女

男　泰一　大四、一二生

君は熊本縣人大森權作の長男にして明治十二年四月を以て生れ大正六年家督を相續す明治三十七年東京帝國大學工科大學採鑛冶金科を卒業し同三十七年鹿兒島縣姶良郡公爵島津家鑛業館に聘せられ同三十九年熊本高等工業學校教授となり現在に至る大正九年冶金學研究の爲英米獨佛に留學せり家族は尚二男尚（大九、二生）長女昌（同一三、一生）あり（熊本市新屋敷町三九〇電一四七）

大森榮介　大森回漕店經社長、運送業

妻　つる　兵庫縣在籍

男　千代三　明二、三生、大阪、前川しゅん私生子

男　輝子　明二六、五生

婦　セツ　明三二、一〇生、三男千代三妻、兵庫、山本龜太郎長女

男　多滿四郎　明三一、三生

男　博五郎　明三六、二生

婦　香川、植松寛次長女　明四一、一〇生、五男博五郎妻、

君は岡山縣人草信藤治郎の長男にして慶應二年七月を以て生れ先代榮介の養子となり明治三十年家督を相續し前石多平治を改め襲名す運送業を營み大森回漕店社長たり家族は尚孫宏平（大九、一〇生、三男千代三長男）同節三（同一〇、一〇生、同二男）同安子（同一四、二生、同長女）同まち子（昭四、八生、五男博五郎長女）あり長女壽美（明三〇、一生）は東京府人富士良吉に二女さよ（同四二、三生）は兵庫縣人小島信夫に嫁せり（神戸、北野町三ノ七電蓬合二三三二）

大森佳一　従四位勳三等、男爵、島根縣知事

靜岡縣華族

繼母　齡　従六位、大正六生、東京、士、長壽吉姉

妻　愛　明二七、五生、東京、士、野村龍太郎姪、學習院女學部出身

男　俊一　大一一、一生

女　恭子　大二、一二生

當家は先代從二位勳一等鐘一より家名を揚ぐ鐘一は舊幕臣にして夙に造兵司陸軍省司法省等に出仕し爾來太政官書記官參議院議官補内務少書記官内務大臣祕書官内務書記官同縣治局長崎兵庫各縣知事内務總務長官歴任し後皇后宮大夫に任ぜられ在職十年餘大正四年勳功に依り華族に列し男爵を授けられ昭和元年十二月先帝崩御と共に皇太后宮大夫に轉じ楓密顧問官を兼ぬ君は其長男にして明治十六年八月を以て生れ昭和二年家督を相續し襲爵被仰付明治四十二年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し文官高等試驗に合格す千葉群馬各縣屬澁賀縣理事官滋賀栃木各縣警察部長岩手山形茨城群馬各縣内務部長群馬縣知事に歴任し現時島根縣知事たり義に歐米各國に出張を命ぜらる家族は尚二女敬子（大一三、八生）二男英三（昭四、一〇生）あり妹貞子（明一九、四生）は宮城縣士族中川望に同幸子（同三六、一生）は伯爵兒玉秀雄弟法學士九一に同みつ（同三八、一生）は廣島縣士族法學士永井浩に同明（同三九、一一生、女子學習院出身）は岡山縣人重成格に嫁し弟雅助（同二四、九生）は千葉縣士族伏谷しげに叔父銑三郎（同元、一生）は東京府士族富士重本に各養子となれり（松江市島根縣知事官舍）

參照＝伯爵兒玉秀雄、中川望、野村龍太郎、永赤星鐵馬、永五代龍作、永野村驥吉の項

大森喜右衛門　埼玉縣多額納稅者、秩父銀行頭取、秩父鐵道、秩父自動車各經取締役、織物商、埼玉縣在籍

妻　トヨ　明一六、六生、埼玉、新井市三郎長女

男　丹次郎　明四〇、六生、慶大經濟學部出身

男　恒三郎　明四三、一生、慶大經濟學部在學

女　美代子　大元、一一生、三輪田高女出身

女　千代子　大四、一一生、三輪田高女在學

大森家は代々秩父に住し始め機業を營みしが後織物仲次業に轉ず地方の素封家たり君は先代喜右衛門の長男にして明治十四年七月を以て生れ大正十五年家督を相續し前名長次郎を改め襲名す織物商を營み傍ら秩父銀行頭取たる外前記各會社の重役にして直接國稅一萬九千四十九圓を納め埼玉縣多額納稅者に列す家族は尚三男彌之助（大七、一生）四女房子（同九、八生）の外弟彦八（明一六、一一生）同妻ヌヾ（同二二、八生、埼玉、羅島七兵衛長女）及其五男一女あり（埼玉、秩父、秩父町）

大森喜作　帝國信榮社長、冥途アルミニューム工業經取締役、兵庫縣在籍

妻　ナツ　明三、六生、岡山、鈴木多作長女

男　裕　明三四、六生、現戸主

婦　清子　明四一、一二生、長男裕妻、兵庫澤田小一郎三女

女　貞子　明四〇、七生

君は岡山縣人大森新太郎の弟にして文久三年三月を以て生れ後家督を相續し昭和四年退隱す明治二十六年長崎醫學專門學校藥學校を卒業し後實業界に入り現に帝國信榮會社長の外前記會社の重役にして義に大森商店取締役たり事あり長女繁子（明二八、二生）は高知縣人清岡虎吉長男直に三女昌子（同三二、三生）は岡山縣人石野謹二郎に四女貴美子（同三六、二生）は兵庫縣人高田幾次に嫁せり（神戸、二宮町一ノ七電蓬合九三四）

參照＝澤田小一郎の項

大森吉兵衛　奈良縣多額納稅者、農業

奈良縣在籍

妻　ヨシ　安政六、八生、和歌山、豐島嘉市郎妹

男　吉秋　明一二、八生、法學士、現戸主

婦　久爾　明二三、五生、長男吉秋妻、京都

婦　繩口覺太郎三女

男　博直　明三二、七生

婦　多賀尼　明三九、三生、六男博直妻、岐阜玉木仁作妹

孫　健三　明四四、七生、長男吉秋長男

君は奈良縣人大森吉治の二男にして嘉永五年七月を以て生れ後家督を相續し大正十五年退隱す農業を營み奈良縣多額納稅者たり家族は尚孫篤三（大五、七生、長男吉秋二男）同圭三（同九、一生、同三男）あり二男良三（明一五、一〇生）は和歌山縣人柳瀨フキの入夫となり三男保國（同一七、一一生）は奈良縣人大森琴の死跡を相續し長女アイ（同二〇、六生）は大阪府人大谷竹三郎二男信太郎に二女テイ（同三〇、三生）は同府人田中象太郎長男義基に嫁し四男辰之進（同二五、三生）は大阪府人柴田寛三の養子となれり（奈良市大森町二九四）

參照＝柴田辰之進の項

大森矯次　貴產家

東京府在籍

母　章子　明二七、三生、子爵山本公富姉

君は東京府人大森喜一の二男にして大正七年九月を以て生れ同十五年家督を相續す貴產家たり家族は尚弟喜則（大八、一〇生）妹節子（同一〇、二生）弟敏直（同一一、二生）同興國（同一二、九生）妹壽惠子（同一四、二生）あり（東京、四谷、右京町一六電四谷三九三〇）

參照＝子爵山本公富の項

大森國平　甲府商工會議所副會頭、大森銀行副頭取、山梨縣在籍

妻　ひさよ　明一六、一〇生、山梨、依田道長三女

男　俊一郎　明三七、六生、高千穗高商出身

君は山梨縣人大森嘉四郎の二男にして明治八年十一月を以て生れ同二十九年家督を相續す同二十六年早稻田大學の前身たる東京專門學校文學科を卒業し農業を營み大森銀行頭取に擧げられ直接國稅三千三百六十二圓を納め縣下の多額納稅者に列す又貴族院議員に互選せらる弟國平（明八、一一生）は分家せり（山梨、東八代、南八代村）

參照＝大森國平の項

大森慶次郎　山梨縣多額納稅者、大森銀行經頭取、農業、山梨縣在籍

孝　明一五、五生、山梨、岩間壽是三女

君は山梨縣人大森嘉四郎の長男にして明治四年六月を以て生れ同二十九年家督を相續す同二十六年早稻田大學の前身たる東京專門學校文學科を卒業し農業を營み大森銀行頭取に擧げられ直接國稅三千三百六十二圓を納め縣下の多額納稅者に列す又貴族院議員に互選せらる弟國平（明八、一一生）は分家せり（山梨、東八代、南八代村）

參照＝大森慶次郎の項

大森研造　従五位、九州帝國大學教授、法文學部勤務、香川縣在籍

父　貞貴　文久二、五生、香川、武部新十郎三男、現戸主

妻　靜子　明三〇、一〇生、福岡、士、平賀義美二女

男　愼一　大一〇、八生

君は香川縣人大森貞貴の二男にして明治二十一年十一月を以て生る大正三年京都帝國大學法科大學政治科を卒業し直ちに住友銀行本店に入る同八年母校の講師を囑託せられ同九年五月助教授に任ぜられ同十二年獨英米に留學を命ぜらる歸朝後九州帝國大學教授に任じ學生監を兼ぬ家族は尚二女壽子（同五、九生）あり（福岡市春吉上四十川一二三）

參照＝平賀義美永岩村榮次郎の項

大森洪太　正五位勳四等、判事、大審院判事

母　よし　明元、二生、三重、惠村保造妹

妻　きぬ　明二四、四生、三重、蛭澤亦三郎二女

男　羊太　明四三、八生

君は三重縣人大森要太郎の長男にして明治二十年六月を以て生れ大正五年家督を相續す明治四十五年東京帝國大學法科大學法律科を卒業し大正三年東京地方裁判所判事に任じ爾來同部長司法省參事官に歴補し同十一年混合仲裁々判所日本政府代理人及同審判官に任ぜられ倫敦に駐在其間ジュネーブに於ける國際聯盟總會帝國代表顧員を命ぜらる帶歐四年歸朝後檢事兼司法書記官を經て昭和三年前記現職に轉ず家族は尚ほ二男東太（大二、一一生）三男牧太（同五、七生）四男言太（同九、一〇生）あり（東京、本郷、駒込西片町一〇はノ一八電小石川三四七〇）

參照＝蛭澤亦三郎の項

大森佐吉　岡山縣多額納稅者、山陽板紙、岡山書籍各經取締役、中國製紙、廣福製紙各經監査役、岡山縣書籍雜誌商組合長、岡山縣在籍

母　槇野　嘉永五、五生、岡山、祝部滿信長女

妻　千代　明一五、三生、岡山、外山平藏二女

男　慶太郎　明三八、六生、神戸高等商業學校出身

君は岡山縣人先代佐吉の長男にして明治八年三月を以て生れ同三十七年家督を相續し前名藤次郎を改め襲名す現時前記各會社の重役にして岡山縣多額納稅者に列し直接國稅一千二百五十二圓を納む家族は尚二男英男（大二、一二生）三男敏男（同六、三生）あり長女淑子（明四一、七生）は兵庫縣人三木良定に妹勝野（同二四、一生）は岡山縣人赤木儀平長男樵三に同政子（同二六、一二生）は兵庫縣人岡田康之助長男重義に嫁し同朝（同一九、五生）は分家せり（岡山、上道、西大寺町）

參照＝岡田重義の項

大森新太郎　新潟市會議員、大森無盡商行、大森商店各經代表取締役

妻　チノ　明一五、八生、新潟、山岸喜三郎五女

養子　健治　明三五、三生、長女初枝夫、埼玉山岸種三郎弟、法學士

女　初枝　明三八、四生、養子健治妻

女　ムツ　大二、八生

君は新潟縣人大森寅吉の四男にして明治十年二月を以て生れ同三十年分れて一家を創立す現時大森無盡商行大森商店各代表取締役にして選ばれて新潟市會議員たり蠶に新潟商工會議所議員たりしことあり家族は尚四女ヒデ（大八、一一生）孫玲子（同一三、一生、養子健治長女）同龍太郎（昭三、一生、同長男）あり二女キヤウ（明四二、三生）同夫欽二（同三四、四生、新潟、吉川兵四郎弟、大森商店監査役）は其一男を伴ひ弟基治（同一九、二生、新潟商工會議所議員、大森商店取締役）は其妻スカ（同二三、一〇生、新潟、苅部長藏長女）と共に弟雄太郎（同二一、六生、大森商店取締役）同妻クラ（同二四、一〇生、新潟、保科榮吉五女）は其一男二女を伴ひ各分家せりA一七〇〇（新潟市本町通三番町三〇三電七五八）

大森宅二

妻　操

男　崇　男　大一二、一生

君は東京府人大森直輔の二男にして明治二十四年十月を以て生れ後分れて一家を創立す大正六年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し司法官界命後辯護士名簿に登錄す辯護士を業とし傍ら前記各會社の重役にして數年前より朝鮮に於て數炭坑を經營し朝鮮炭界の牛耳を握れり家族は尚長女周子（大九、八生）二女智子（昭四一生）あり（東京、四谷、右京町一六電四谷三九三〇）

參照＝加藤爲二郎の項

大森辰三郎　隅田川合同運送㈱社長、合同運送㈱專務取締役、小名木川茨城縣士族

妻　なみ

養子　丈夫

明一三、三生、養父熊吉長女

明四三、四生、茨城、大友永之介二男、東大在學

君は茨城縣人佐川兵七の三男にして明治十三年九月を以て生れ先代熊吉の養子となり昭和二年家督を相續す現時隅田川合同運送會社長の外前記會社の重役たりA二五〇（東京市外南千住町三ノ二八電淺草八五六）

大森鎮平　熱海埋立㈱取締役、福島縣在籍

養母　ツネ

妻　トメ

文久三、八生、福島、松本豐重妹

明九、一生、福島、鈴木己之佐妹

男　義一　明二七、九生

婦　アサ　明三一、一二生、長男義一妻、福島、松崎松治三女

女　絹子　明四三、一〇生

女　カツ子　大四、六生

君は福島縣人白井遠平の二男にして同博之の弟同五郎近藤利兵衛の兄なり明治七年二月を以て生れ先代長右衛門の養子となり同二十七年家督を相續す現時熱海埋立會社取締役たり家族は尚孫文子（大六、一〇生、長男義一長女）同靜江（同八、一〇生、同二女）同義仁（同一一、一生、同長男）同英子（同一三、九生、同三女）あり長女キヨノ（明二五、五生）は大阪府人弊城六郎に養妹マツ（同八、一〇生、福島、鈴木多四郎二女）は福島縣人坂本豐太郎叔父卯之吉に同チヨ（同三四、四生）は同縣人鈴木源與に嫁し四女滿喜子（大元、一一生）は茨城縣人木内スカに庶子タキ子（明三四、八生）は福島縣人草野善吉養子末藏に六男敏臣（大一〇、三生）六女恭子（同一四、九生）は共に分家養妹てるに各養子となり二男義夫（明三三、一〇生）養妹てる（同三六、三生）は北海道、宮形彪妹）は各分家せり（東京市外西巢鴨町池袋一〇五八）

參照＝近藤利兵衛、白井五郎、白井博之の項

大森德次郎　膽振織道、函館運送㈱社長、海產物商、北海道在籍㈱取締役

妻　まん　明一三、三生、茨城、鈴木久治郎

男　德太郎　明二八、一一生

女　元　大元、八生

君は宮城縣人大森德治の二男にして明治元年九月を以て生れ同十八年分れて一家を創立す海產物商を營み傍ら前記各會社の重役たり家族は尚三男喜八（大四、八生）四男德從（同六、一〇生）孫德一（同八、一一生、長男德太郎長男）ありA五三五B一〇六（函館、東濱町四九電一二〇七）

大森德兵衛　大日本製墨㈱代表取締役、奈良縣在籍

妻　コウ　明二〇、一一生、東京、牧野彦八三女

男　泰之助　明三八、九生

婦　みち子　明四二、三生、長男泰之助妻、奈良、西浦知治郎長女

養子　久司　明三四、八生、長女京夫、奈良、岸井猶三郎弟

女　京　明四〇、一一生、養子久司妻

君は京都府人飯田喜三郎の二男にして明治十五年九月を以て生れ後先代德兵衛の養子となり大正五年家督を相續し前名幾松を改め襲名す現時大日本製墨會社代表取締役たり家族は尚孫美代子（昭四、三生、養子久司長女）ありA五三四B九六（奈良市今辻子町三六）

大森廣治　姫路市參事會員、山陽商事㈱取締役、中國日々新聞社、姫路倉庫各㈱監査役、兵庫縣在籍

妻　多美惠　明二九、三生、養父與三次二女

男　與秋　大七、八生

君は兵庫縣人須原實太郎の弟にして明治二十二年二月を以て生れ先代與三次の養子となり大正十一年家督を相續す現時山陽商事會社取締役の外前記各會社の重役にして姫路市參事會員たり家族は尚二男與重（大九、一〇生）四男惠（同一四、一〇生）長女惠子（昭三、三生）あり（姫路、鳥井町一四）

大森丙　正五位勳五等、遞信技師、工務局勤務、福岡縣士族

妻　とき　明二八、三生、熊本、岡本武平長女

男　陽　大一五、五生

女　幸子　大五、三生

君は福岡縣人野口茂平の五男にして明治十九年五月を以て生れ先代治豐の養子となり同四十五年家督を相續す同四十四年京都帝國大學理工科大學電氣工學科を卒業し遞信管理局技手通信技師特許局技師遞信技師等に歷任し其間長崎郵便局電話課長九州遞信局工務部機械課長特許局審査官等を經て現に工務局勤務たり蠶に大正十一年英米兩國に出張を命ぜらる（東京、小石川、宮下町二七）

大森康守　香川縣會議員、島電氣、各㈱取締役、香川縣在籍

母　ヒサ　慶應二、一二生、香川、中川千代太妹

妻　フミコ　明二六、一〇生、廣島、林繁之助長女

男　包博　大五、一一生

君は香川縣人大森弗藏の二男にして明治二十三年二月を以て生れ同四十二年家督を相續し前名財藏を改む現

時前記各會社の重役にして香川縣會議員たり蠶に同縣參事會員に擧げらる妹ヌイ（明二四、九生）は分家せり（香川、小豆、土庄町）

大八木義雄　名古屋銀行、福陽各㈱取締役、愛知縣在籍

妻　栗子　明一四、二生、東京、龍岸頼三二女

養子　義彥　大五、一生、愛媛、野田藤馬七男

君は京都府士族大八木常正の二男にして明治六年四月を以て生れ大正五年分れて一家を創立す明治二十八年慶應義塾理財科を卒業し現時前記銀行會社の重役にして蠶に名古屋貯蓄銀行取締役兼支配人たり（名古屋、東、千種町字丸田一一五）

參照＝龍居頼三の項

大矢馬太郎　岩手縣多額納稅者、岩手縣農工銀行、岩手日報社、岩手輕便鐵道、東北鐵道鑛業、花卷温泉電氣鐵道、花卷温泉、盛岡電燈各㈱取締役、岩手縣士族、盛岡士地建物㈱監査役、農業

男　富太郎　明四三、八生

女　コウ　明一一、一生

君は岩手縣士族中村俊太郎の伯父にして明治三年六月を以て生れ先代五藏の養子となり同二十八年家督を相續す蠶を業とし傍ら前揭銀行會社の重役にして同縣多額納稅者たり同三十四年以來岩手縣會議員同議長同參事會員盛岡市長同市會議長同參事會員盛岡商工會議所副會頭等に擧げられ又蠶に貴族院議員衆議院議員に選ばれし事あり家族は尚二男富二郎（大二、一一生）三男宗（同五、九生）四男勳（同九、六生）五男力（同一二、六生）あり長女サク（明三二、一一生）は同夫牛次郎（同二五、一生、岩手、佐々木安太郎弟）と共に養妹イト（同一七、五生、養父五藏長女）は同夫四郎（同一一、七生、岩手、士、桐原眞臥四男）と共に各分家し四女ミツ（同三九、八生）も亦分家し二女フサ（同三四、二生）は岩手縣人鳥崎壽太郎長男謙に三女アイ（同三六、八生）は同縣人及川古志郎弟理學士奥郎に嫁せり（盛岡、加賀町七）

參照＝及川古德郎、大矢牛次郎の項

大矢幸二　地家主、大阪府在籍

祖母　ウノ　明元、七生、奈良、椿本アヤ長女

母　コト　明一三、四生、大阪、尾崎清七姉

君は大阪府人大矢幸八の三男にして明治四十年一月を以て生れ大正七年家督を相續す地家主として知らる家族は尚妹良（明四一、九生）弟六郎（同三、三生）從姉ヒラ（明二九、一生）あり叔母仲（同九、二生）は大阪府人服部牛兵衛先代牛次郎に嫁し叔父源三郎（同二六、一一生）は分家せり（大阪、西、江戸堀北通二ノ三〇電土佐堀一〇六）

參照＝尾崎清七、服部牛兵衛の項

大矢忠助　愛知縣多額納稅者、カネキ、名古屋米穀取引所取引員、愛知縣在籍

妻　つね　慶應二、五生、愛知、士、岩田文四郎養子

養子　史朗　明二六、一生、愛知、恒川彦九郎二男

婦　愛子　明三四、一生、養子史朗妻、岐阜、遠藤理助三女

君は愛知縣人先代忠助の長男にして萬延元年三月を以て生れ明治二十二年家督を相續し前名忠左衛門を改め襲名すカネキと稱し名古屋米穀取引所取引員にして愛知縣多額納稅者に列す家族は尚孫文子（大九、三生、養子史朗長女）同光子（同一一、三生、同二女）同忠人（同一四、一〇生、同長男）あり妹こう（慶應二、四生）は愛知縣人恒川彦九郎に嫁し養子梅次郎（明一七、一生、愛知、愛知、大矢太藏庶子）と共に分家せり（名古屋、中、米野町中田一五一電西一二四三）

大矢長左衛門　柏崎銀行㈱取締役、新潟縣在籍

養母　サク　安政二、三生、新潟、前川嘉三右衛門長女

妻　千　明二五、三生、新潟、高橋義孝妹

男　長衛　明四〇、一生、長男長衛妻、新潟村山雅榮妹

婦　端枝　明四一、一〇生

男　治雅　明四四、二生

女　喜代乃　大五、六生

君は新潟縣人水巻長平の三男にして明治七年十一月を以て生れ先代長左衛門の養子となり大正十一年家督を相續し前名長治を改め襲名す現時柏崎銀行取締役たりA九六三〇（新潟、刈羽、柏崎町）

大矢奈良吉　大矢組㈱社長、貿易商、大阪府在籍

妻　みね　明二三、一一生、大阪、安田菩三郎四女

男　良未　大一四、二生

庶子　麻次郎　明一一、八生、生徒、大阪、山村クニ、大矢組㈱取締役

婦　ふさ　明一二、一二生、庶子麻次郎妻、京都、井上勇助長女

庶子　良吉　明四三、二生、生徒、大阪、湯川カメ

庶子　なか子　明四四、一生、生徒、大阪、湯川カメ

女　キク子　大四、五生

孫　奈良造　明三〇、七生、庶子麻次郎長男、大矢組㈱專務取締役

孫妻　ヤス　明三二、三生、孫奈良造妻、大阪和田澤次郎四女

君は奈良縣人大矢平六の二男にして嘉永六年二月を以て生れ明治五年分れて一家を創立す貿易商を營み傍ら株式會社大矢組社長たり家族は尚庶子良太郎（大五、六生、生母、大阪、岡チル）二女喜美子（同六、九生）三女勢喜子（同九、六生）四女喜代子（同一一、九生）孫露子（同一四、四生、庶子麻次郎庶子）曾孫直子（同七、二生、孫奈良造長女）同良子（同一〇、六生、同二女）同良吾（同一五、一生、同長男）あり孫奈良次郎（明三三、五生、庶子麻次郎二男）は大阪府人高津きんの養子となり同アサ（同二九、八生、同庶子）は和歌山縣士族石井要四男五郎に嫁せり（南滿洲、鐵嶺北三條通六ノ一二）

大矢寧明　阪神國道自動車㈱常務取締役、大阪乘合自動車㈱取締役、大阪府在籍

妻　英彥　明二七、二生、岡山、日下安太郎三女

男　龍　大七、四生

君は大阪府人大矢通の二男にして明治二十年一月を以て生れ同三十一年兄楠右馬の後を享け家督を相續す現時前記諸會社の重役たり家族は尚二女明子（大一一、九生）ありA九八二（大阪、東、寺山町四九三電東四〇一四）

大矢半次郎　從五位、銀行檢査官　岩手縣在籍

妻　サク　明三一、一生、養父馬太郎長女

男　泰　男　大一〇、一生

君は岩手縣人佐々木定吉の三男にして明治二十五年一月を以て生れ大矢馬太郎の養子となり大正七年分れて一家を創立す大正六年文官高等試驗に合格し同七年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し大藏屬となり副司稅官司稅官稅務監督局事務官稅務監督局書記官に歷任し昭和四年前記現職に任じ今日に至る家族は尙長女エイ（大一二、一二生）二女トシ（昭四、一生）あり（東京、本郷、駒込西片町一〇ほノ八號電小石川四二六一）

參照＝大矢馬太郎家及川吉志郎の項

大矢要藏　川崎第百銀行臺手形交換係主任　千葉縣在籍

妻　なをゑ　明二一、六生、山梨、岩間庄内長女、甲府高女出身

男　恒　子　明三六、六生、東京、有賀長文長女

男　健　昭五、七生

君は千葉縣人大矢平兵衛の長男にして明治十四年七月學を以て生れ同三十七年家督を相續す同三十五年法政大學を卒業し川崎銀行に入り現時川崎第百銀行手形交換係主任たり香城と號し漢詩を嗜む妹らん（明一八、三生）は宮城縣人佐々木五右衛門に嫁し弟貞治（同二〇、四生）同妻つき（同二六、一生、千葉、染田吉平二女）は其子女を伴ひ分家し弟智之助（同三三、一〇生）も亦同妻ツキチ（同三五、八生、宮城、佐々木德三郎四女）と共に分家せりA一一二（東京、小石川、丸山町三四）

大矢知昇　三井銀行臺外國課長代理　三重縣在籍

母　いな　明七、四生、三重、伊藤平九郎長女

妻　恒　子　明三六、六生、東京、有賀長文長女

男　健　昭五、七生

君は三重縣人大矢知友右衛門の長男にして明治二十六年十一月を以て生れ昭和四年家督を相續す現時三井銀行外國課長代理たり家族は尙長女文子（大一三、一一生）二女美子（同一五、五生）三女兼子（昭三、一〇生）ありA三八三（東京、麻布、狸穴町四一電赤坂一八四六）

參照＝有賀長文の項

大屋敦　日米板硝子、九州瓦電、東洋窯業工業、日本ビクター蓄音器各臺取締役、住友資總務部長兼經理部長　東京府士族

妻　葉　明二八、一生、貴族院議員石渡敏一之女、學習院女學部出身

男　宏　大四、四生

君は東京府士族氷井嚴之丞の六男にして同亨同啓同繁の弟なり明治十八年九月を以て生れ先代勧三郎の養子となり同二八年家督を相續す同四十三年東京帝國大學工科大學電氣科を卒業し直に遞信省に入り電氣局技師に任ぜらる後官を辭し住友合資會社に入り現時同社總務部長兼經理部長にして傍ら前記會社の重役たり家族は尙長女純子（大七、一生）三女美知子（昭二、二生）ありA一八一九（兵庫、武庫、御影町城ノ前一四四七電御影二七九二）

參照＝石渡敏一、永井啓、永井繁家石渡莊太郎家木村德兵衛家辰澤延次郎家横山英太郎家渡邊盛作の項

大屋雄三　陸軍歩兵中尉、鳥海電力、鶴岡水力電氣各臺取締役、山形縣士族　紺

妻　文久元、二生、山形、渡會家之七二女

男　眞造　大三、一〇生

君は京都府人大柳吉兵衛の長男にして明治二十年十月を以て生れ大正十年家督を相續す伊勢吉と稱し油商を營む家族は尙長女ヨシ（大六、七生）二女チカ（同八、二生）二男益二（同一〇、一二生）三女奈美（同一四、七生）三男茂（昭二、八生）弟芳造（明三二、一生）ありB九九（京都、中京、夷川通寺町東入ル橋柳町一四八電上一六二七）

大柳吉二　伊勢吉、油商　京都府在籍

妻　ツネ　明二七、二生、滋賀、德本龜吉四女

男　眞造　大三、一〇生

君は京都府人大柳吉兵衛の長男にして明治二十年十月を以て生れ先代勧三郎の養子となり同二八年家督を相續す同四十三年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し大藏屬となり副司稅官司稅官稅務監督局事務官稅務監督局書記官に歷任し昭和四年前記現職に任じ今日に至る家族は尙長女エイ（大一二、一二生）二女トシ（昭四、一生）あり（東京、本郷、駒込西片町一〇ほノ八號電小石川四二六一）

參照＝大矢馬太郎家及川吉志郎の項

大宅善基　熊本縣多額納稅者　熊本縣在籍

養母　りモ　安政元、九生、熊本、士、中山市郎二女

妻　サツ　明三一、三生、熊本、士、渡邊米喜二女

男　善之助　明四三、四生

女　マサ子　大元、一二生

女　貞　子　大四、八生

君は熊本縣人大宅善次の長男にして明治十六年九月を以て生れ先代嘉一郎の養子となり大正十年家督を相續し直接國稅三千三百三十七圓を納め縣下の多額納稅者たり家族は尙二男啓二郎（大一〇、七生）三女信子（同一三、五生）四女晨子（昭二、四生）五女慶子（同四、五生）あり妹ミヨ（明二一、一生）は熊本縣人西良吉に嫁せり（熊本、宇土、松合町）

大藪兼藏　服部紙店臺專務取締役　三重縣在籍

養母　れい　安政六、五生、山梨、小林七朗繼母

妻　靜　明二六、一二生、埼玉、武政鉦太郎姪

養子　俊　典　大一二、四生、兄服部善藏六男

君は三重縣人服部重吉の三男にして明治十六年十一月を以て生れ先代儀三の養子となり大正五年家督を相續す現に服部紙店專務取締役たり（東京、牛込、市谷甲良町四〇電牛込三八七）

參照＝家青地四郎の項

大藪金次郎　材木商　京都府在籍

妻　カツエ　明三四、一二生、京都、服部信造長女

男　榮　司　大一二、四生

君は京都府人大藪常次郎の二男にして同太三の養兄なり明治二十六年十一月を以て生れ大正五年家督を相續す現時前記各會社の重役たり家族は尙長女ヨシ（大一四、一生）三男碁士（昭二、二生）二男順士（同九、一一生）四女秀子（大一三、一一生）三男碁士（昭二、二生）あり長女秀子は其子女を伴ひ分家し弟智之助（同三三、一〇生）も亦同妻ツキチ（同三五、八生、宮城、佐々木德三郎四女）と共に分家せりA一一二（東京、小石川、丸山町三四）

大矢知昇　三井銀行臺外國課長代理　三重縣在籍

母　いな　明七、四生、三重、伊藤平九郎長女

妻　恒　子　明三六、六生、東京、有賀長文長女

男　健　昭五、七生

君は三重縣人大矢知友右衛門の長男にして明治二十六年十一月を以て生れ昭和四年家督を相續す現時三井銀行外國課長代理たり家族は尙長女文子（大一三、一一生）二女美子（同一五、五生）三女兼子（昭三、一〇生）ありA三八三（東京、麻布、狸穴町四一電赤坂一八四六）

參照＝有賀長文の項

大藪重太郎　京都大內銀行臺取締役、地家主　京都府在籍

母　ちよ　安政元、六生、京都、石井九郎右衛門長女

妻　せい　明九、二生、京都、久保田正平二女

男　正　克　明三三、九生、第一銀行京都支店員、大阪高商出身

婦　綾　子　明四〇、七生、二男正克妻、京都久保田庄左衛門二女、京都市立堀川高女出身

男　賢　三　明三六、一〇生、三十四銀行京都支店員

女　芳　枝　明四二、五生、京都市立堀川高女出身

大藪家は土地の素封家にして先代重左衛門に至る君は其長男にして明治七年九月を以て生れ同三十八年家督を相續す夙に東京專門學校に學び地家主として知られ傍ら京都大內銀行取締役たり昭和三年紺綬褒章を賜はる長女和枝（明三一、一〇生、京都府立第一高女出身）は京都府人田中和一郎に二女芳枝（同四二、五生、堀川高女出身）は同府人奥田增四郎長男增雄に嫁し弟虎之助（同一四、一二生、辯護士、法學士）は分家し同英（同二二、八生、法學士）は京都府人田井治平の養子となれりA三三二五〇（京都、下京、唐橋平垣町五一電下二七〇三）

參照＝奥田增四郎、田中和一郎の項

大藪千太郎　櫻田機械製造所、日本洗染、阪堺電鐵各臺取締役、クレーム商　兵庫縣在籍

妻　トミ　明九、八生、長崎、田中卯市長女

養子　幸太郎　明二一、一生、長崎、松林要五郎二男

女　ハナ　明二九、四生、養子幸太郎妻

君は長崎縣人大藪末藏の二男にして明治四年十月を以て生れ同二十四年家督を相續すクレーム商を營み傍ら前記各會社の重役たり家族は尙孫金一（大六、一生、養子幸太郎長男）同俊（同七、三生、同長女）同健次（同九、一生、同二男）同靜子（同一一、七生、同二女）あり妹キン（明七、五生）は長崎縣人松林七次郎三男要次郎に同シチ（同一一、九生）は同縣人前田畳次郎長男辰一に嫁せりA二一八〇B二三五（神戸、北長狹通五ノ七五電元町二九〇八）

大藪常次郎　京都府多額納稅者、京都木材臺代表取締役、京都大內銀行臺取締役　家主、京都府在籍

男　利　一　明二四、四生

男　末　明三一、六生、長男利一妻、京都阿窪寅之助三女

婦　恒　三　明三六、四生

婦　千　代　明四二、四生、四男恒三妻、京都山田好次郎一生、妹

女　文　大二、六生

君は京都府人村田利三郎の長男にして明治三年二月を以て生れ先代マサの入夫となり同二十四年家督を相續す家主にして前記銀行會社の重役に擧げられ京都府多額納稅者にして直接國稅三千八百七十六圓を納む養に京都木材運輸商事會社代表取締役たりしことあり家族は尙孫虎一（大八、七生、長男利一長男）同利夫（同一〇、二生、同二男）同美津（同一一、一一生、同長女）同昌三（同一三、六生、同三男）同繁（同一五、四生、同四男）同田鶴子（昭三、五生、同二女）同定子（同五、三生、同三女）あり二男金次郎（明二六、一一生）は分家し同英家し長女金枝（同二九、一一生）は同夫太三（同二一、六生）と共に亦分家し三女良枝（同三八、一〇生）も亦分家し二女操（同三四、三生）は京都府人檜垣源兵衛長男源一に嫁せり（京都、中京、西ノ京樋口町三九電西陣二四〇二）

參照＝大藪金次郎家檜垣與一郎の項

大藪守治　福岡縣多額納稅者、久留米商工會議所顧問、杖立川水力電氣、九州水力電氣、筑後電氣、昭和電燈、九州保全各臺取締役、福岡縣在籍

妻　ツタ　明二二、五生、熊本、澤井元貴長女

男　禮　治　大一〇、四生

女　スミ　大元、一〇生

女　マサ　大四、九生

君は福岡縣人大藪房次郎の三男にして明治十六年十月を以て生れ同三十四年家督を相續す同三十八年早稻田大學政治經濟學科を卒業し直ちに遞信省に入り電氣局技師に任ぜらる後官を辭し住友合資會社に入り現時同社總務部長兼經理部長にして傍ら前記會社の重役たり家族は尙長女純子（大七、一生）三女美知子（昭二、二生）あり（東京、御影町城ノ前一四四七電御影二七九二）

參照＝石渡敏一、永井啓、永井繁家石渡莊太郎家木村德兵衛家辰澤延次郎家横山英太郎家渡邊盛作の項

大屋雄三　陸軍歩兵中尉、鳥海電力、鶴岡水力電氣各臺取締役、山形縣士族　紺

妻　文久元、二生、山形、渡會家之七二女

男　眞造　大三、一〇生

君は山形縣士族大屋元章の三男にして明治十八年三月を以て生れ大正十四年家督を相續す夙に東京高等工業學校應用化學科を卒業し現時前記各會社の重役たり家族は尙三女恒（大七、一生）三男碁士（昭二、二生）四女淑（同一四、一生）三男碁士（昭二、二生）あり長女秀（明四五、二生）は山形縣人大井篤に嫁せりA六四〇（山形、西田川、加茂町）

參照＝青塚恒治の項

大柳吉二　伊勢吉、油商　京都府在籍

妻　ツネ　明二七、二生、滋賀、德本龜吉四女

男　眞造　大三、一〇生

君は京都府人大柳吉兵衛の長男にして明治二十年十月を以て生れ先代勧三郎の養子となり同二八年家督を相續す伊勢吉と稱し油商を營む家族は尙長女ヨシ（大六、七生）二女チカ（同八、二生）二男益二（同一〇、一二生）三女奈美（同一四、七生）三男茂（昭二、八生）弟芳造（明三二、一生）あり同竹之助（同二九、一〇生）同妻たみ（同三五、一二生、兵庫、三木甚太郎妹）は共に分家し弟安造（同三五、一〇生）は京都府人上田たかのの養子となれりA八二四B九九（京都、中京、夷川通寺町東入ル橋柳町一四八電上一六二七）

大宅善基　熊本縣多額納稅者　熊本縣在籍

養母　りモ　安政元、九生、熊本、士、中山市郎二女

妻　サツ　明三一、三生、熊本、士、渡邊米喜二女

男　善之助　明四三、四生

女　マサ子　大元、一二生

女　貞　子　大四、八生

君は熊本縣人大宅善次の長男にして明治十六年九月を以て生れ先代嘉一郎の養子となり大正十年家督を相續し直接國稅三千三百三十七圓を納め縣下の多額納稅者たり家族は尙二男啓二郎（大一〇、七生）三女信子（同一三、五生）四女晨子（昭二、四生）五女慶子（同四、五生）あり妹ミヨ（明二一、一生）は熊本縣人西良吉に嫁せり（熊本、宇土、松合町）

大藪兼藏　服部紙店臺專務取締役　三重縣在籍

養母　れい　安政六、五生、山梨、小林七朗繼母

妻　靜　明二六、一二生、埼玉、武政鉦太郎姪

養子　俊　典　大一二、四生、兄服部善藏六男

君は三重縣人服部重吉の三男にして明治十六年十一月を以て生れ先代儀三の養子となり大正五年家督を相續す現に服部紙店專務取締役たり（東京、牛込、市谷甲良町四〇電牛込三八七）

參照＝家青地四郎の項

大藪金次郎　材木商　京都府在籍

妻　カツエ　明三四、一二生、京都、服部信造長女

男　榮　司　大一二、四生

君は京都府人大藪常次郎の二男にして同太三の養兄なり明治二十六年十一月を以て生れ大正五年家督を相續す現時前記各會社の重役たり家族は尙長女ヨシ（大一四、一生）三男碁士（昭二、二生）二男順士（同九、一一生）四女秀子（大一三、一一生）三男碁士（昭二、二生）あり長女秀子は其子女を伴ひ分家し弟智之助（同三三、一〇生）も亦同妻ツキチ（同三五、八生、宮城、佐々木德三郎四女）と共に分家せりA一一二（東京、小石川、丸山町三四）

大矢知昇　三井銀行臺外國課長代理　三重縣在籍

母　いな　明七、四生、三重、伊藤平九郎長女

妻　恒　子　明三六、六生、東京、有賀長文長女

男　健　昭五、七生

君は三重縣人大矢知友右衛門の長男にして明治二十六年十一月を以て生れ昭和四年家督を相續す現時三井銀行外國課長代理たり家族は尙長女文子（大一三、一一生）二女美子（同一五、五生）三女兼子（昭三、一〇生）ありA三八三（東京、麻布、狸穴町四一電赤坂一八四六）

參照＝有賀長文の項

大藪重太郎　京都大內銀行臺取締役、地家主　京都府在籍

母　ちよ　安政元、六生、京都、石井九郎右衛門長女

妻　せい　明九、二生、京都、久保田正平二女

男　正　克　明三三、九生、第一銀行京都支店員、大阪高商出身

婦　綾　子　明四〇、七生、二男正克妻、京都久保田庄左衛門二女、京都市立堀川高女出身

男　賢　三　明三六、一〇生、三十四銀行京都支店員

女　芳　枝　明四二、五生、京都市立堀川高女出身

大藪家は土地の素封家にして先代重左衛門に至る君は其長男にして明治七年九月を以て生れ同三十八年家督を相續す夙に東京專門學校に學び地家主として知られ傍ら京都大內銀行取締役たり昭和三年紺綬褒章を賜はる長女和枝（明三一、一〇生、京都府立第一高女出身）は京都府人田中和一郎に二女芳枝（同四二、五生、堀川高女出身）は同府人奥田增四郎長男增雄に嫁し弟虎之助（同一四、一二生、辯護士、法學士）は分家し同英（同二二、八生、法學士）は京都府人田井治平の養子となれりA三三二五〇（京都、下京、唐橋平垣町五一電下二七〇三）

參照＝奥田增四郎、田中和一郎の項

大藪千太郎　櫻田機械製造所、日本洗染、阪堺電鐵各臺取締役、クレーム商　兵庫縣在籍

妻　トミ　明九、八生、長崎、田中卯市長女

養子　幸太郎　明二一、一生、長崎、松林要五郎二男

女　ハナ　明二九、四生、養子幸太郎妻

君は長崎縣人大藪末藏の二男にして明治四年十月を以て生れ同二十四年家督を相續すクレーム商を營み傍ら前記各會社の重役たり家族は尙孫金一（大六、一生、養子幸太郎長男）同俊（同七、三生、同長女）同健次（同九、一生、同二男）同靜子（同一一、七生、同二女）あり妹キン（明七、五生）は長崎縣人松林七次郎三男要次郎に同シチ（同一一、九生）は同縣人前田畳次郎長男辰一に嫁せりA二一八〇B二三五（神戸、北長狹通五ノ七五電元町二九〇八）

大藪常次郎　京都府多額納稅者、京都木材臺代表取締役、京都大內銀行臺取締役　家主、京都府在籍

男　利　一　明二四、四生

男　末　明三一、六生、長男利一妻、京都阿窪寅之助三女

婦　恒　三　明三六、四生

婦　千　代　明四二、四生、四男恒三妻、京都山田好次郎一生、妹

女　文　大二、六生

君は京都府人村田利三郎の長男にして明治三年二月を以て生れ先代マサの入夫となり同二十四年家督を相續す家主にして前記銀行會社の重役に擧げられ京都府多額納稅者にして直接國稅三千八百七十六圓を納む養に京都木材運輸商事會社代表取締役たりしことあり家族は尙孫虎一（大八、七生、長男利一長男）同利夫（同一〇、二生、同二男）同美津（同一一、一一生、同長女）同昌三（同一三、六生、同三男）同繁（同一五、四生、同四男）同田鶴子（昭三、五生、同二女）同定子（同五、三生、同三女）あり二男金次郎（明二六、一一生）は分家し同英家し長女金枝（同二九、一一生）は同夫太三（同二一、六生）と共に亦分家し三女良枝（同三八、一〇生）も亦分家し二女操（同三四、三生）は京都府人檜垣源兵衛長男源一に嫁せり（京都、中京、西ノ京樋口町三九電西陣二四〇二）

參照＝大藪金次郎家檜垣與一郎の項

大藪守治　福岡縣多額納稅者、久留米商工會議所顧問、杖立川水力電氣、九州水力電氣、筑後電氣、昭和電燈、九州保全各臺取締役、福岡縣在籍

妻　ツタ　明二二、五生、熊本、澤井元貴長女

男　禮　治　大一〇、四生

女　スミ　大元、一〇生

女　マサ　大四、九生

君は福岡縣人大藪房次郎の三男にして明治十六年十月を以て生れ同三十四年家督を相續す同三十八年早稻田大學政治經濟學科を卒業し直ち

大宅善基　熊本縣多額納稅者　熊本縣在籍

養母　りモ　安政元、九生、熊本、士、中山市郎二女

妻　サツ　明三一、三生、熊本、士、渡邊米喜二女

男　善之助　明四三、四生

女　マサ子　大元、一二生

女　貞　子　大四、八生

君は熊本縣人大宅善次の長男にして明治十六年九月を以て生れ先代嘉一郎の養子となり大正十年家督を相續し直接國稅三千三百三十七圓を納め縣下の多額納稅者たり家族は尙二男啓二郎（大一〇、七生）三女信子（同一三、五生）四女晨子（昭二、四生）五女慶子（同四、五生）あり妹ミヨ（明二一、一生）は熊本縣人西良吉に嫁せり（熊本、宇土、松合町）

大藪兼藏　服部紙店臺專務取締役　三重縣在籍

養母　れい　安政六、五生、山梨、小林七朗繼母

妻　靜　明二六、一二生、埼玉、武政鉦太郎姪

養子　俊　典　大一二、四生、兄服部善藏六男

君は三重縣人服部重吉の三男にして明治十六年十一月を以て生れ先代儀三の養子となり大正五年家督を相續す現に服部紙店專務取締役たり（東京、牛込、市谷甲良町四〇電牛込三八七）

參照＝家青地四郎の項

大藪金次郎　材木商　京都府在籍

妻　カツエ　明三四、一二生、京都、服部信造長女

男　榮　司　大一二、四生

君は京都府人大藪常次郎の二男にして同太三の養兄なり明治二十六年十一月を以て生れ大正五年家督を相續す現時前記各會社の重役たり家族は尙長女ヨシ（大一四、一生）三男碁士（昭二、二生）二男順士（同九、一一生）四女秀子（大一三、一一生）三男碁士（昭二、二生）あり長女秀子は其子女を伴ひ分家し弟智之助（同三三、一〇生）も亦同妻ツキチ（同三五、八生、宮城、佐々木德三郎四女）と共に分家せりA一一二（東京、小石川、丸山町三四）

大矢知昇　三井銀行臺外國課長代理　三重縣在籍

母　いな　明七、四生、三重、伊藤平九郎長女

妻　恒　子　明三六、六生、東京、有賀長文長女

男　健　昭五、七生

君は三重縣人大矢知友右衛門の長男にして明治二十六年十一月を以て生れ昭和四年家督を相續す現時三井銀行外國課長代理たり家族は尙長女文子（大一三、一一生）二女美子（同一五、五生）三女兼子（昭三、一〇生）ありA三八三（東京、麻布、狸穴町四一電赤坂一八四六）

參照＝有賀長文の項

大藪重太郎　京都大內銀行臺取締役、地家主　京都府在籍

母　ちよ　安政元、六生、京都、石井九郎右衛門長女

妻　せい　明九、二生、京都、久保田正平二女

男　正　克　明三三、九生、第一銀行京都支店員、大阪高商出身

婦　綾　子　明四〇、七生、二男正克妻、京都久保田庄左衛門二女、京都市立堀川高女出身

男　賢　三　明三六、一〇生、三十四銀行京都支店員

女　芳　枝　明四二、五生、京都市立堀川高女出身

大藪家は土地の素封家にして先代重左衛門に至る君は其長男にして明治七年九月を以て生れ同三十八年家督を相續す夙に東京專門學校に學び地家主として知られ傍ら京都大內銀行取締役たり昭和三年紺綬褒章を賜はる長女和枝（明三一、一〇生、京都府立第一高女出身）は京都府人田中和一郎に二女芳枝（同四二、五生、堀川高女出身）は同府人奥田增四郎長男增雄に嫁し弟虎之助（同一四、一二生、辯護士、法學士）は分家し同英（同二二、八生、法學士）は京都府人田井治平の養子となれりA三三二五〇（京都、下京、唐橋平垣町五一電下二七〇三）

參照＝奥田增四郎、田中和一郎の項

大藪千太郎　櫻田機械製造所、日本洗染、阪堺電鐵各臺取締役、クレーム商　兵庫縣在籍

妻　トミ　明九、八生、長崎、田中卯市長女

養子　幸太郎　明二一、一生、長崎、松林要五郎二男

女　ハナ　明二九、四生、養子幸太郎妻

君は長崎縣人大藪末藏の二男にして明治四年十月を以て生れ同二十四年家督を相續すクレーム商を營み傍ら前記各會社の重役たり家族は尙孫金一（大六、一生、養子幸太郎長男）同俊（同七、三生、同長女）同健次（同九、一生、同二男）同靜子（同一一、七生、同二女）あり妹キン（明七、五生）は長崎縣人松林七次郎三男要次郎に同シチ（同一一、九生）は同縣人前田畳次郎長男辰一に嫁せりA二一八〇B二三五（神戸、北長狹通五ノ七五電元町二九〇八）

大藪常次郎　京都府多額納稅者、京都木材臺代表取締役、京都大內銀行臺取締役　家主、京都府在籍

男　利　一　明二四、四生

男　末　明三一、六生、長男利一妻、京都阿窪寅之助三女

婦　恒　三　明三六、四生

婦　千　代　明四二、四生、四男恒三妻、京都山田好次郎一生、妹

女　文　大二、六生

君は京都府人村田利三郎の長男にして明治三年二月を以て生れ先代マサの入夫となり同二十四年家督を相續す家主にして前記銀行會社の重役に擧げられ京都府多額納稅者にして直接國稅三千八百七十六圓を納む養に京都木材運輸商事會社代表取締役たりしことあり家族は尙孫虎一（大八、七生、長男利一長男）同利夫（同一〇、二生、同二男）同美津（同一一、一一生、同長女）同昌三（同一三、六生、同三男）同繁（同一五、四生、同四男）同田鶴子（昭三、五生、同二女）同定子（同五、三生、同三女）あり二男金次郎（明二六、一一生）は分家し同英家し長女金枝（同二九、一一生）は同夫太三（同二一、六生）と共に亦分家し三女良枝（同三八、一〇生）も亦分家し二女操（同三四、三生）は京都府人檜垣源兵衛長男源一に嫁せり（京都、中京、西ノ京樋口町三九電西陣二四〇二）

參照＝大藪金次郎家檜垣與一郎の項

大藪守治　福岡縣多額納稅者、久留米商工會議所顧問、杖立川水力電氣、九州水力電氣、筑後電氣、昭和電燈、九州保全各臺取締役、福岡縣在籍

妻　ツタ　明二二、五生、熊本、澤井元貴長女

男　禮　治　大一〇、四生

女　スミ　大元、一〇生

女　マサ　大四、九生

君は福岡縣人大藪房次郎の三男にして明治十六年十月を以て生れ同三十四年家督を相續す同三十八年早稻田大學政治經濟學科を卒業し直ち

大山文雄　正五位勳三等、陸軍法務官兼陸軍司法事務官、陸軍監獄長、關東軍々法會議法務官、關東軍法務部長、關東衞戍刑務所長、岡山縣在籍

母　房　興　文久元、九生、廣島、武田虎市長女

妻　豐　明二二、五生、島根、高橋錄次郎養子

男　正　雄　大三、九生

女　貞　子　大元、一〇生、京都府立桃山高女出身

女　昭　子　大五、九生

君は岡山縣人大山邦一の長男にして明治十六年一月を以て生れ同四十一年家督を相續す同三十七年日本大學法律科を卒業し同年判檢事登用試驗に合格し同三十八年陸軍法務官に進み爾來第十一第五各師團樺太守備隊第七第十各師團關東總督府陸軍部第十八師團各法務部員第二〇、二生、同二男）同美津（同一一、一一生、同長女）同昌三（同一三、六生、同三男）同繁（同一五、四生、同四男）同田鶴子（昭三、五生、同二女）同定子（同五、三生、同三女）あり二男金次郎（明二六、一一生）は分家し同英家し長女金枝（同二九、一一生）は同夫太三（同二一、六生）と共に亦分家し三女良枝（同三八、一〇生）も亦分家し二女操（同三四、三生）は京都府人檜垣源兵衛長男源一に嫁せり（京都、中京、西ノ京樋口町三九電西陣二四〇二）

參照＝大藪金次郎家檜垣與一郎の項

大藪守治　福岡縣多額納稅者、久留米商工會議所顧問、杖立川水力電氣、九州水力電氣、筑後電氣、昭和電燈、九州保全各臺取締役、福岡縣在籍

妻　ツタ　明二二、五生、熊本、澤井元貴長女

男　禮　治　大一〇、四生

女　スミ　大元、一〇生

女　マサ　大四、九生

君は福岡縣人大藪房次郎の三男にして明治十六年十月を以て生れ同三十四年家督を相續す同三十八年早稻田大學政治經濟學科を卒業し直ち

大山文雄　正五位勳三等、陸軍法務官兼陸軍司法事務官、陸軍監獄長、關東軍々法會議法務官、關東軍法務部長、關東衞戍刑務所長、岡山縣在籍

母　房　興　文久元、九生、廣島、武田虎市長女

妻　豐　明二二、五生、島根、高橋錄次郎養子

男　正　雄　大三、九生

女　貞　子　大元、一〇生、京都府立桃山高女出身

女　昭　子　大五、九生

君は岡山縣人大山邦一の長男にして明治十六年一月を以て生れ同四十一年家督を相續す同三十七年日本大學法律科を卒業し同年判檢事登用試驗に合格し同三十八年陸軍法務官に進み爾來第十一第五各師團樺太守備隊第七第十各師團關東總督府陸軍部第十八師團各法務部員第二師團薩哈連州派遣軍第十六師團各法務部長京都衞戍拘禁所長等に歷補し現時前記の職に在り謙曲圓碁を嗜む著書に陸軍刑法講義あり家族は尙二男隆（大八、一二生）三男泰之（同一一、七生）三女信子（昭二、五生）弟榮雄（明三六、五生、醫學士）あり姉チヨは廣島縣人森原陽三に妹タキヨ（同二一、四生）は岡山縣人貞田文六三男正一郎に同慶子（同三三、四生）は同縣人片山信雄に嫁せり（旅順、鎭遠町陸軍官舍電二八八）

大山郁夫　衆議院議員（東京府選出）、勞農黨中央執行委員長、兵庫縣士族　妻　りゆう　明二〇、九生、兵庫、水野正巳養妹

男　聰　大四、九生

君は兵庫縣人福本剛策の二男にして明治十三年九月を以て生れ先代晨一郎の養子となり同四十三年家督を相續す同三十八年早稻田大學政治經濟學科を卒業し直ち

に同校講師となり後留學生として米國その他に遊學し歸朝後同校教授に任ぜられ大正六年大阪朝日新聞社に入社す後同社を退き再び早稻田大學教授たりしが機運に乘じ同十五年勞働農民黨の結成せらるゝや中央執行委員長に擧げられ黨務を統轄し昭和五年推されて衆議院議員に當選す曩に政治研究執行委員長に擧げらる政治の社會的基礎外著書數種あり（東京市外戸塚町上ノ臺六九九一）

大山柏　從三位勳四等、公爵、陸軍歩兵少佐、貴族院議員、東京府華族

妻　武子　明三〇、二生、公爵近衛文麿妹

男　梓　大五、九生

當家は先代巖より家名を揚ぐ巖は舊鹿兒島藩士にして維新の際國事に奔走して功あり明治四年陸軍大佐に任じ累進して陸軍大將に陞り元帥府に列せらる其間留學又は視察の爲め歐洲に航すること三回熊本鎭臺司令長官征討別働第一旅團司令官陸軍少輔陸軍卿代理參東京鎭臺司令長官參謀本部次長陸軍士官學校長內務大輔大審院議定官參議陸軍卿參謀本部長陸軍大臣兼海軍大臣監軍文部大臣樞密顧問官參謀總長內大臣等に歷任し同十七年華族に列し伯爵を授けらる日清戰役には第二軍司令官として勳功あり侯爵に陞され功三級を賜ひ爾で正二位大勳位に敍せられ日露戰役には滿洲軍總司令官として偉勳を奏し公爵に陞され功一級を賜ふ君は巖の二男にして明治二十二年六月を以て生れ大正五年襲爵す明治四十三年陸軍歩兵少尉に任じ昭和二年同少佐に累進し其間參謀本部附近衛歩兵第三聯隊附等に歷補し同三年豫備役となり慶應義塾大學に教鞭を執る現時貴族院議員たり趣味廣く就中史前學に造詣深し家族ほ尙二男桂（大六、一〇生）三男檀（同八、六生）長女咲子（同一〇、三生）あり姉芙蓉子（明一三、八生）は男爵細川一之助に同留子（同一五、七生）は伯爵渡邊昭先代千春（東京市外千駄ヶ谷町穩田九電青山一二五）に嫁せり

參照＝公爵近衛文麿、伯爵渡邊昭、男爵井田磐楠、男爵細川一之助家公爵德川家達家子爵近衛秀麿家男爵常盤井堯猷家男爵木谷川忠麿の項

大山喜四郎　正五位勳四等、遞信技師兼遞信局技師、東京遞信局工務課長山形縣在籍

妻　秀子　明二三、五生、宮城、丹羽敬太郎長女、日本女大出身

女　操　大二、二生、日本女大在學

君は山形縣人大山利兵衛の六男にして明治十八年十一月を以て生れ大正十五年分れて一家を創立す先是明治四十二年東京帝國大學工科大學電氣工學科を卒業し同局技師臨時電信管理局技師に任ぜられ爾來遞信技師遞信局工務課長等に歷任し昭和五年東京遞信局工務課長に轉じ今日に至る曩に電信電話建設局技師仙臺名古屋大阪各遞信國に留學次で昭和四年電信電話事業視察の爲歐米に出張す（東京市外荏原町小山四九九電高輪二九〇〇）

大山久次郎　㊥宮崎縣多額納稅者、日向中央銀行㊥監査役、宮崎縣在籍

妻　ハル　明四、一生、宮崎、新名萬藏三女

養子　政一　明三〇、五生、養子タマヱ夫、宮崎、古川敬一弟

養子　タマヱ　明二九、一〇生、養子政一妻、弟滿太郎長女

君は宮崎縣人先代久次郎の長男にして明治二年八月を以て生れ大正三年家督を相續し前名久三郎を改め襲名す現時日向中央銀行監査役にして直接國稅三千三百二十八圓を納め縣下の多額納稅者たり家族は尙養子久八郎（大五、三生、養子政一長男）同律子（同一三、九生、同長女）同滿郎（同一五、一一生、同二男）同千春（昭四、一生、同二女）あり弟滿太郎（明六、一一生）同妻シン（同一一生、黑木與五郎三女）は共に其二女を伴ひ分家せり（宮崎、兒湯、高鍋町）

大山清　從五位勳六等、朝鮮總督府專賣局技師、朱安出張所長、福島縣在籍

妻　カツ　明二七、一〇生、福島、渡部圓藏長女、第六臨時救員養成所家事科出身

男　正夫　昭二、五生

女　タカ子　大五、一二生、京城第一高女在學

君は福島縣人大山勝三の五男にして明治二十年六月を以て生れ昭和二年兄松造方より分れて一家を創立す大正三年東京帝國大學水產學科を卒業し爾來同校副手專賣局技手同技師專賣局三田尻試驗場長專賣局中央研究所鹽腦研究部主任を經て大正十五年三月朝鮮總督府專賣局に轉任昭和三年二月專賣局朱安出張所長に補せ

妻　ハル　明三〇、五生、宮崎、古川敬一弟

養子　政一　明二九、一〇生、養子タマヱ夫、宮崎、古川敬一弟

養子　タマヱ　明二九、一〇生、養子政一妻、弟滿太郎長女

君は宮崎縣人先代久次郎の長男にして明治二年八月を以て生れ大正三年家督を相續し前名久三郎を改め襲名す現時日向中央銀行監査役にして直接國稅三千三百二十八圓を納め縣下の多額納稅者たり家族は尙養子久八郎（大五、三生、養子タマヱ私生子）孫久德（同一一、一二生、養子政一長男）同律子（同一三、九生、同長女）同滿郎（同一五、一一生、同二男）同千春（昭四、一生、同二女）あり弟滿太郎（明六、一一生）同妻シン（同一一生、黑木與五郎三女）は共に其二女を伴ひ分家せり（宮崎、兒湯、高鍋町）

大山清　從五位勳六等、朝鮮總督府專賣局技師、朱安出張所長、福島縣在籍

妻　カツ　明二七、一〇生、福島、渡部圓藏長女、第六臨時救員養成所家事科出身

男　正夫　昭二、五生

女　タカ子　大五、一二生、京城第一高女在學

君は福島縣人大山勝三の五男にして明治二十年六月を以て生れ昭和二年兄松造方より分れて一家を創立す大正三年東京帝國大學水產學科を卒業し爾來同校副手專賣局技手同技師專賣局三田尻試驗場長專賣局中央研究所鹽腦研究部主任を經て大正十五年三月朝鮮總督府專賣局に轉任昭和三年二月專賣局朱安出張所長に補せ

妻　サツ　明二三、五生、宮城、丹羽敬太郎長女、日本女大出身

女　操　大二、二生、日本女大在學

君は山形縣人大山利兵衛の六男にして明治十八年十一月を以て生れ大正十五年分れて一家を創立す先是明治四十二年東京帝國大學工科大學電氣工學科を卒業し同局技師臨時電信管理局技師に任ぜられ爾來遞信技師遞信局工務課長等に歷任し昭和五年東京遞信局工務課長に轉じ今日に至る曩に電信電話線路材料研究の爲英米各國に留學次で昭和四年電信電話事業視察の爲歐米に出張す（東京市外荏原町小山四九九電高輪二九〇〇）

大山久次郎　㊥宮崎縣多額納稅者、日向中央銀行㊥監査役、宮崎縣在籍

妻　ハル　明四、一生、宮崎、新名萬藏三女

養子　政一　明三〇、五生、養子タマヱ夫、宮崎、古川敬一弟

養子　タマヱ　明二九、一〇生、養子政一妻、弟滿太郎長女

君は宮崎縣人先代久次郎の長男にして明治二年八月を以て生れ大正三年家督を相續し前名久三郎を改め襲名す現時日向中央銀行監査役にして直接國稅三千三百二十八圓を納め縣下の多額納稅者たり家族は尙養子久八郎（大五、三生、養子タマヱ私生子）孫久德（同一一、一二生、養子政一長男）同律子（同一三、九生、同長女）同滿郎（同一五、一一生、同二男）同千春（昭四、一生、同二女）あり弟滿太郎（明六、一一生）同妻シン（同一一生、黑木與五郎三女）は共に其二女を伴ひ分家せり（宮崎、兒湯、高鍋町）

大山清　從五位勳六等、朝鮮總督府專賣局技師、朱安出張所長、福島縣在籍

妻　カツ　明二七、一〇生、福島、渡部圓藏長女、第六臨時救員養成所家事科出身

男　正夫　昭二、五生

女　タカ子　大五、一二生、京城第一高女在學

君は福島縣人大山勝三の五男にして明治二十年六月を以て生れ昭和二年兄松造方より分れて一家を創立す大正三年東京帝國大學水產學科を卒業し爾來同校副手專賣局技手同技師專賣局三田尻試驗場長專賣局中央研究所鹽腦研究部主任を經て大正十五年三月朝鮮總督府專賣局に轉任昭和三年二月專賣局朱安出張所長に補せ

大山喜四郎　正五位勳四等、遞信技師兼遞信局技師、東京遞信局工務課長山形縣在籍

妻　秀子　明二三、五生、宮城、丹羽敬太郎長女、日本女大出身

女　操　大二、二生、日本女大在學

君は山形縣人大山利兵衛の六男にして明治十八年十一月を以て生れ大正十五年分れて一家を創立す先是明治四十二年東京帝國大學工科大學電氣工學科を卒業し同局技師に任ぜられ爾來遞信技師遞信局工務課長等に歷任し昭和五年東京遞信局工務課長に轉じ今日に至る曩に電信電話線路材料研究の爲英米各國に留學次で昭和四年電信電話事業視察の爲歐米に出張す（東京市外荏原町小山四九九電高輪二九〇〇）

大山久次郎　㊥宮崎縣多額納稅者、日向中央銀行㊥監査役、宮崎縣在籍

妻　ハル　明四、一生、宮崎、新名萬藏三女

養子　政一　明三〇、五生、養子タマヱ夫、宮崎、古川敬一弟

養子　タマヱ　明二九、一〇生、養子政一妻、弟滿太郎長女

君は宮崎縣人先代久次郎の長男にして明治二年八月を以て生れ大正三年家督を相續し前名久三郎を改め襲名す現時日向中央銀行監査役にして直接國稅三千三百二十八圓を納め縣下の多額納稅者たり家族は尙養子久八郎（大五、三生、養子タマヱ私生子）孫久德（同一一、一二生、養子政一長男）同律子（同一三、九生、同長女）同滿郎（同一五、一一生、同二男）同千春（昭四、一生、同二女）あり弟滿太郎（明六、一一生）同妻シン（同一一生、黑木與五郎三女）は共に其二女を伴ひ分家せり（宮崎、兒湯、高鍋町）

大山清　從五位勳六等、朝鮮總督府專賣局技師、朱安出張所長、福島縣在籍

妻　カツ　明二七、一〇生、福島、渡部圓藏長女、第六臨時救員養成所家事科出身

男　正夫　昭二、五生

女　タカ子　大五、一二生、京城第一高女在學

君は福島縣人大山勝三の五男にして明治二十年六月を以て生れ昭和二年兄松造方より分れて一家を創立す大正三年東京帝國大學水產學科を卒業し爾來同校副手專賣局技手同技師專賣局三田尻試驗場長專賣局中央研究所鹽腦研究部主任を經て大正十五年三月朝鮮總督府專賣局に轉任昭和三年二月專賣局朱安出張所長に補せ

女　富久　明三九、一生、雙葉高女出身
女　田鶴子　明四一、三生、雙葉高女出身
男　紀彦　明四二、七生、法大在學
女　富美子　明四四、四生、雙葉高女出身

君は和歌山縣士族後藤榮藏の長男大和田金之助の養甥同正吉の養子となり大正十二年分れて一家を創立す明治三十三年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し横濱原合名會社祕書日本興業銀行助役南滿洲鐵道會社東京支社經理課長等を歴任して現時大和田銀行取締役たりA一四八（東京、麻布、本村町三九電高輪五二二四）

参照＝大和田金之助、大和田正吉、大和田莊七※山田歛※吉田忠吉の項

大和田市郎

父　傳藏
妻　チトミ
女　フミ

君は宮崎縣士族大和田傳藏の二男にして明治十二年十月を以て生れ大正元年家督を相續す現時前記銀行會社の重役たり家族は尙二女エイ（大八、九生）あり伯母フジ（嘉永元、六生）は宮崎縣鳥波家に入れり（宮崎市江平町二ノ七九）

参照＝遠山克太郎の項

大和田久兵衛

敦賀商工會議所常議員
福井縣在籍

妻　てる　明一一、三生、福井、大和田莊太郎長女
女　富美子　大二、三生

君は福井縣人大西萬助の弟にして明治四年十二月を以て生れ先代久兵衛の養子となり同二十七年家督を相續し襲名す現時敦賀商工會議所常議員に推さる養に大和田銀行大和田貯蓄銀行の重役たり二女静（明二八、二生）は福井縣人大西萬三に三女フジ（同三三、七生）は大分縣人法學士遞信書記官上ノ畑悌二に四女壽滿（同三六、七生）は石川縣人法學士名古屋稅務監督局間稅部長武部弘成に五女喜美子（同三八、七生）は千葉縣人法學士東京地方裁判所檢事丸才司に嫁し弟與吉（同二三、三生）は福井縣人杉田源助の養子となれり（福井敦賀、敦賀町）

参照＝上ノ畑悌二※若宮貞夫の項

大和田金之助

大和田貯蓄銀行㈱常務取締役
福井縣在籍

養子　敏治　明二五、三生、養子敏治妻
女　こう　明一五、九生、長女こう夫、大阪亘市郎右衛門弟、慶應義塾法科出身

君は滋賀縣人大橋嘉兵衛の二男にして大和田莊七の養子となり慶應二年八月を以て生れ大正十三年分れて一家を創立す明治四十三年家督を相續し現時大和田銀行常務取締役にして義に大和田銀行和田家の養子となり明治四十三年分れて一家を創立す弟同勇同正吉の養叔父なり慶應二年八月を以て生れ大現時大和田貯蓄銀行常務取締役にして義に大和田銀行監査役に擧げらる家族は尙孫正（大二、一〇生、養子敏治長男）同賢（同五、七生、同二男）同千代（同一〇、二生、同長女）同美代（同一二、一〇生、同三女）あり五女とめ（明三四、四生）は大阪府士族阿部直躬二男清巳に嫁せり（福井、敦賀、敦賀町電四一）

参照＝阿部直躬、大和田勇、大和田正吉、大和田莊七※山田歛※吉田忠吉の項

大和田健三郎

茨城縣多額納稅者、石岡電氣㈱取締役、酒造業、茨城縣在籍

妻　文子　明二五、九生、養父三郎左衛門長女
男　誠一　明四四、一二生
女　君子　大二、九生

君は茨城縣人渡邊盛作の三男にして明治十七年十二月を以て生れ大和田三郎左衛門の養子となり大正六年養弟一男方より分れて一家を創立す酒造業を營み傍ら前記會社の重役にして茨城縣多額納稅者に列し直接國稅一千三百二十圓を納む家族は尙孫正（大二、一〇生、養子敏治妻）あり（茨城、新治、石岡町）

参照＝渡邊盛作※中山忠三郎の項

大和田三治

從五位勳四等、判事、宮城控訴院判事、秋田縣士族

繼母　ヌイ　安政二、六生、秋田、石川定之進女
妻　セツ　明一四、一生、養父清心長女
男　春郎　明四一、一生

君は秋田縣士族金澤中作の弟にして明治十年三月を以て生れ同三十四年先代清心の養子となり大正八年家督を相續す同三十八年日本大學高等專攻科を卒業し判檢事登用試驗に合格判事に任ぜられ爾來新庄山形米澤各區裁判所判事仙臺地方秋田青森各區※同地方各裁判所判事青森山形各地方裁判所部長等に歴補し昭和三年現職に轉ず家族は尙養妹ミノル（明四〇、三生）あり（仙臺、北三番丁三〇）

参照＝金澤中作の項

大和田正吉

大和田銀行㈱專務取締役、大和田貯蓄銀行㈱取締役、敦賀倉庫㈱監査役、福井縣在籍

父　莊七　明二四、二生、現戸主
妻　タマ　安政四、一一生、佐賀、士、川原義太郎二女、學習院女學部出身
男　博　明四五、三生
女　鑑子　明四四、三生

君は福井縣人大和田莊七の長男同勇の養弟同金之助の養甥にして明治十四年五月を以て生る大阪高等商業學校を卒業し現時大和田銀行專務取締役にして前記銀行會社の重役を兼ぬ家族は尙二男聰（大六、一生）二女朗子（同一〇、九生）あり（福井、敦賀、松原村）

参照＝大和田勇、大和田金之助、大和田莊七※阿部直躬※吉田忠吉※山田歛の項

大和田莊七

福井縣多額納稅者、大和田銀行、大和田貯蓄銀行㈱取締役、敦賀築港倉庫㈱代表取締役、船舶代辨業並重要輸出入品委託賣買業
福井縣在籍

男　正吉　明一四、五生
立　吉　明二五、一一生

君は福井縣人山本九郎左衛門の弟にして安政四年二月を以て生れ先代豐方の養子となり明治十二年家督を相續し後前名龜次郎を改む現時大和田銀行大和田貯蓄銀行各頭取にして前記各會社の重役を兼ね内地及朝鮮に於て數萬町歩の大造林事業を經營し縣下の多額納稅者たり尙敦賀港の修築事業及敦賀浦鹽朝鮮間定期航路開始を始めとし同港の發展に多大の貢獻をなせり明治二十二年海防獻金の爲め黃綬褒章を大正五年公益に盡したるを以て藍綬褒章を同八年紺綬褒章を昭和二年同飾版を拜受せり明治四十年敦賀商業會議所を創立し會頭の職を十九年間繼續就任せり長女とみ（明一七、五生）同夫勇（同八、五生、和歌山、士、後藤榮藏長男、法學士）養妹たか（同二、一生）同夫金之助（慶應二、八生、滋賀、大橋辨次郎兄）は各其子女を伴ひ二男信吉（明一六、四生）同妻三千代（同二四、四生、福井、藤井五郎兵衛三女）は其子女を伴ひ各分家し四男繁次郎（同二七、二生）も亦各分家し四女繼（同二三、五生）は福井縣士族山田歛長男市に嫁し孫つれ（大一二、五生、三男立吉長女）は同縣人吉田忠吉に姪しげ（明三二、九生、養弟之助四女）は同縣人西部利三右衛門に各養子となれり（福井、敦賀、敦賀町）

参照＝大和田勇、大和田金之助、大和田正吉、山田歛、吉田忠吉※阿部直躬の項

大脇策市

從五位、熊本高等工業學校教授
大分縣在籍

妻　壽美枝　明三四、一一生、東京、綾井忠彦三女

君は大分縣人大脇彌市の二男にして明治二十九年三月を以て生れ昭和三年明弘方より分れて一家を創立す大正八年九州帝國大學工科大學機械工學科を卒業し同九年熊本高等工業學校教授に任じ同十一年米英獨各國に留學し同十三年歸朝し引續き同校教授として今日に至る（熊本市新屋敷町七九）

参照＝綾井忠彦※小野寺恕の項

大脇順路

高知縣納稅者、土佐貯蓄銀行㈱頭取、高知瓦斯㈱社長、四國銀行㈱常務取締役、土佐倉庫㈱監査役、高知縣士族

妻　秋　明三二、九生、高知、士、土屋可成二女
男　順則　大一二、三生

君は高知縣士族大脇順若の孫にして明治二十六年十二月を以て生れ同三十一年家督を相續す現時前記銀行會社の重役にして縣下の多額納稅者たり義に土佐銀行頭取大脇商事會社社長たり家族は尙長女滿里（大九、八生）二女由里（同一一、四生）三男順英（昭四、四生）あり姉春井（明二四、三生）は高知縣人行宗貞隆に養妹義（同三七、二生、高知、大脇幾司二女）は同縣人中澤好英に嫁し弟順喜（同二九、一〇生）は同妻道（同三五、四生、東京、船尾桂一妹）を伴ひ分家せり（高知市大川筋九九）

参照＝船尾桂一の項

大脇康德

三井銀行㈱大阪堂島支店長
東京府士族

君は高知縣士族大脇康德大阪堂島支店長を以て生れ大正十年家督を相續す現時前記銀行會社の重役にして縣下の多額納稅者たり義に土佐銀行頭取大脇商事會社社長たり家族は尙長女滿里（大九、八生）二女由里（同一一、四生）三男順英（昭四、四生）あり姉春井（明二四、三生）は高知縣人行宗貞隆に養妹義（同三七、二生、高知、大脇幾司二女）は同縣人中澤好英に嫁し弟順喜（同二九、一〇生）は同妻道（同三五、四生、東京、船尾桂一妹）を伴ひ分家せり（高知市大川筋九九）

参照＝船尾桂一の項

大渡熊次

從五位、佐賀縣會議員、嬉野銀行㈱頭取、佐賀縣在籍

母　マサ　文久元、五生、佐賀、士、江下壯三郎妹
妻　ミユキ　明二七、七生、佐賀、士、坂本源治二女
男　敏行　大六、一一生
女　志郎子　大三、一二生

君は佐賀縣人大渡勇三郎の長男にして明治二十五年五月を以て生れ大正四年家督を相續す現時嬉野銀行頭取にして佐賀縣會議員に擧げらる家族は尙二男鐵郎（大八、八生）二女邦子（同一三、六生）あり（佐賀、藤津、吉田村）

参照＝※光岡正行の項

太池百治

新見町長、岡山縣會議員、岡山縣多額納稅者、岡山縣在籍

妻　可祝　明四一、一生、東京、林賢村養姉
男　登美治　明四四、一生、埼玉、池田正雄姉
男　直明　大一三、一二生

君は石川縣士族大脇康直の長男にして明治二十三年一月を以て生れ大正八年家督を相續す同三年東京帝國大學法科大學經濟學科を卒業し同七年米瑞に留學し同十一年歸朝し同十年北海道帝國大學教授に任ぜられ今日に至る家族は尙長女和子（大一一、六生）二女芳子（同一四、一二生）あり妹久子（明二六、八生）は廣島縣人武内サダ養子武四郎に嫁せり（札幌、北十一條西三丁目）

太田晃

會津銀行㈱取締役兼支配人
東京府在籍

妻　ウタ　明二〇、一一生、福島、森川善兵衛從姪
男　雄吉　明四〇、四生

君は茨城縣士族太田贊雄の二男にして明治九年十一月を以て生れ同二十八年分れて一家を創立す現時會津銀行取締役たり（福島縣若松市大町一之町一電一三）

参照＝※宇佐川濟※金古久次の項

太田一平

大日本化學工業㈱社長、東京山手急行電鐵㈱副社長、兵庫縣士族

妻　ケイ　明一八、八生、奈良、西尾小五郎長女
男　清文　明四一、二生
女　セン　明四四、八生
男　良平　明四四、七生
女　トシ　大二、七生
女　ヨシ　大四、七生

君は兵庫縣士族太田文太郎の長男にして明治十年八月を以て生れ昭和四年家督を相續す明治三十六年京都帝國大學法科大學政治科を卒業し清國政府の招聘を受け在留六年の後三十四銀行常務取締役となり又東京山手急行電鐵會社の創立と共に其副社長に擧げられ大日本化學工業會社長たり家族は尙四女タカ（大八、一一生）ありA四五九八（東京、赤坂、青山高樹町一七電青山三三四）

参照＝西尾小五郎の項

太田宇兵衛

大阪府多額納稅者、履物商
大阪府在籍

妻　ひろ　慶應三、三生、大阪、田中圭兵衛三女
養子　唯吉　明一六、一〇生、長女テル夫、京都、三上助兵衛弟
女　テル　明一九、七生、養子唯吉妻

太黒薫

從五位、北海道帝國大學教授、醫學部勤務、廣島縣在籍

父　玄一　慶應二、一二生、現戸主
妻　マチルド　明三五、二生、佛國、クレー・ニユー・パスカル長女

女　ア　明二一、一一生
女　せい　明二六、一一生

君は大阪府人太田卯兵衛の長男にして文久元年十二月を以て生れ明治十六年家督を相續す履物商を營み大阪府多額納稅者たり家族は尙孫武男（大六、九生、養子唯吉長男）あり妹たき（明五、一一生）は大阪府人伏見伊兵衛に嫁し弟巳喜三（同一四、一一生）は分家し同忠三郎（同八、七生）は大阪府人村井庄七の養子となれり（大阪、東、南本町四ノ二七**電船場二三七二**）

參照＝家清瀧寺次郎の項

太田馬太郎

日本書籍㊫取締役兼支配人、共同印刷㊫監査役、東京府士族

妻　チ　イ　明一六、一二生、新潟、名達半十郎二女
男　勤　之　大二、四生
女　教　子　明四三、三生

君は東京府士族太田眞三郎の長男にして明治二年九月を以て生れ同二十三年家督を相續す夙に博文館に入り購買係主事となり琴で博進社工場支配人國定教科書共同販賣所倉庫課長東亞公司主事及び博文館印刷所取締役精美堂監査役等に就任し現に日本書籍會社取締役兼支配人共同印刷會社監査役たり家族は尙二男種穗（大三、一〇生）四女多惠子（同九、三生）三男新八郎（同一三、一一生）あり二女正枝（明四〇、六生）は東京府人小林榮吉二男吉次に嫁せりA一〇〇八（東京、牛込、拂方町二〇**電牛込四九〇九**）

太田收

山一證券㊫常務取締役
岡山縣在籍

妻　利　子　明三七、一二生、東京、藤嶋太麻二女

君は岡山縣人太田始三郎の三男にして明治二十三年十一月を以て生れ後家督を相續す大正五年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し現時山一證券會社常務取締役たり家族は尙長女貞子（大一四、六生）養子直子（同一五、二生、神奈川、岡田三次郎孫）同照子（昭四、一生、同上）あり妹登米子（明二七、一一生）は岡山縣人渡邊彦士に嫁せりA四三一五（東京市外澁谷町豐分一**電麻布青山四二五〇**）

參照＝渡邊彦士の項

太田嘉太郎

從四位勳三等、營繕管財局理事、總務部長、山口縣在籍

妻　ナカ　明一四、六生、山口、世良源八妹
男　嘉　英　大六、七生
女　國　子　明四二、一一生
女　妙　子　明四四、一〇生
女　文　子　大三、二生

君は山口縣人太田信太郎の長男にして明治十五年四月を以て生れ大正六年家督を相續す明治四十一年東京帝國大學法科大學獨逸法律學科を卒業し文官高等試驗に合格す同四十二年稅務監督官補となり京都稅務監督局經理部長を命ぜらる大正五年英國に出張し同六年英佛駐在員となり歸朝後前記の官職に在り家族は尙五女晶子（大九、四生）あり弟惟一（明一九、三生）は分家せり（東京、小石川、茗荷谷町五六**電小石川四〇五六**）

太田確造

太田商事㊫監査役、製絲業
愛知縣在籍

妻　や　の　明三、七生、愛知、本多純護長女
男　忠　造　明四三、二生、三男忠造妻、愛知、深谷保之助四女
婦　あ　や　明四一、一生
女　ち　よ　明四一、一生

君は愛知縣人太田平右衛門の四男にして文久二年十一月を以て生れ先代耕造の養子となり明治十年家督を相續す製絲業を營み又太田商事會社監査役たり長男正造（明二二、五生）は愛知縣人太田平右衛門の養子となり長女なを（同二三、五生）は同縣人永田清三郎に二女あさ（同二八、五生）は廣島縣人宮實藏に四女ミヱ（同三二、三生）は愛知縣人黑田雄一郎に嫁せりA一九三一B三六九（名古屋、東、主稅町四ノ二三**電東一一三**）

參照＝深谷保之助の項

太田龜太郎

從五位勳四等、稅務監督局書記官
大阪稅務監督局總務部長
長野縣在籍

妻　文　久　元、八生、長野、新谷正藏長女
女　タ　キ　明一九、九生、養父治郎吉長女、日本女子大學校家政科出身

君は福岡縣人中村清次郎の五男にして明治十七年五月を以て生れ同三十七年太田清藏の養子となり同新吉同辨次郎は君の養弟たり現時東京起業會社代表取締役たる外前記銀行會社の重役を兼ぬ家族は尙三女道子（大九、五生）あり（福岡市住吉一七三三）

參照＝太田新吉、太田清藏、太田辨次郎家西原連三家濱口儀兵衛の項

太田儀右衛門

和歌山皮革、福德無盡各㊫社長、松田綿布㊫取締役、和歌山縣在籍

妻　喜代乃　明一一、八生、和歌山、田中安右衛門三女
男　保　夫　明二九、一〇生
婦　美代子　明三六、二生、長男保夫妻、和歌山、前田勇姉
男　儀一郎　明三六、四生
婦　は　る　明四二、二生、二男儀一郎妻、和歌山、柏木市郎長女
女　千代子　大二、一生

君は和歌山縣人先代儀右衛門の四男にして明治七年三月を以て生れ同三十六年朔正信方より分れて一家を創立す夙に實業界に入り現に和歌山皮革會社長たる外前記各會社の重役たり家族は尙四女郁子（大六、八生）孫百合子（同九、二生、長男保夫長女）同初雄（同一二、三生、同長男）同八重子（同一五、一〇生、同二女）同玲子（昭二、九生、二男儀一郎長女）あり長女富代（明三二、六生）は奈良縣人北岡宗一郎に嫁せり（和歌山市五番丁一）

參照＝太田正信の項

太田儀兵衛

太田製油場賣社員、製油業
大阪府在籍

妻　コ　ト　明一三、一一生、大阪、中谷傘三郎長女
男　重　雄　明三七、一〇生、慶大出身
養子　武　壽　明三三、一一生、二女房子夫、大阪、喜多武昌二男、慶大出身
女　房　子　明四〇、九生、養子武壽妻、樟蔭高女高等科出身

君は大阪府人先代儀兵衛の二男にして明治七年六月を以て生れ同三十三年家督を相續し製油業を營み合資會社太田製油場出資社員たり弟信三（明二六、三生）同芳太郎（同一四、一〇生）は各分家せり（大阪、住吉、住吉町三三**電住吉二四三七**）

太田久七

東京府多額納稅者、萬久、味噌醬油商、東京府在籍

妻　む　め　明二五、二生、埼玉、平林朝之助妹
男　儉　一　明四二、二生

君は東京府人先代久七の四男にして明治十二年九月を以て生れ大正七年家督を相續し前名益之輔を改め襲名す萬久と稱し淺草區馬道町四丁目二十二番地に於て味噌醬油商を營み東京府多額納稅者たり家族は尙四男善治（大二、八生）五男益造（同五、一二生）長女てい（同一〇、三生）あり（東京、本所、向島須崎町一七七**電墨田六〇一**）

太田金彌

昭和銀行㊫檢査役
栃木縣士族

妻　き　く　明二一、一生、群馬、早川喜平二女
男　松　吉　明四一、一二生
女　百合子　大二、八生

君は栃木縣士族太田鍊治郎の長男にして明治六年八月を以て生れ大正十年家督を相續す明治二十八年慶應義塾正科を卒業し直に山陽鐵道會社に入り建設係社長附書記文書係長と昇り同三十九年同鐵道の國有に歸するや鐵道作業局山陽鐵道出張所庶務課長に任じ同四十一年豐國銀行に入り文書課長となり曩に木鄕淺草三田京橋各支店長たりしが現時昭和銀行檢査役たり家族は尙四男逢雄（大五、五生）五男健治（同七、一生）六女智惠子（同九、一生）七女まり子（同一〇、一二生）あり長女その子（明三三、一生）は栃木縣人長田鐵哉に三女友子（同三（同三六、一生）は東京府人細井擇而に二女みよ八、一〇生）は同縣人荒井詮吉に妹タマ（同一二、六生）は高知縣士族武田八藏長男信吉に同アイ（同一九、一生）は愛知縣士族松井定克に妹タマ（同一二、六生）は二生）は千葉縣人伊藤喜一郎二男卓に嫁し弟純一（同三七、一〇生）同芳雄（同三九、九生）妹靜江（同四二、三生）弟穗郎（同四三、三生）同正治（大元、九生）同寬逸（同九、三生）は同母トヨ（明一五、七生）と共に分家せり（東京、麻布、霞町二二**青山六七二八**）

太田國馨

鬼怒川水力電氣㊫取締役兼技師長
愛知縣在籍

妻　ひ　さ　明二〇、八生、愛知、服部富三郎長女、現戸主、名古屋市立第一高女出身
男　馨　明四四、二生、高知高校在學

君は愛知縣士族松井武閻の五男にして明治九年三月を以て生れ同三十五年太田ひさの入夫となる同三十六年東京帝國大學工科大學電氣工學科を卒業し安藝電氣多治見電燈日本窯業肥料名古屋電燈各會社技師長を經て大正六年鬼怒川水力電氣會社技師長となり現時同社取締役兼技師長にして工政會電氣學會照明學會電氣協會の各會員に擧げられ日蓮宗を奉ず家族は尙二男偉（大二、五生、曉星中學在學）三男茂（同五、七生、慶應義塾普通部在學）四女せつ子（同一二、二生）あり二男（明四一、六生、御茶水高女專攻科出身）は愛知縣人醫學士鈴木正夫に嫁せりA六四二（東京市外千駄ヶ谷亀山恭平の項

太田圭助

東京起業㊫代表取締役、九州勸業各㊫取締役、第一徵兵保險㊫監査役、福岡縣在籍

妻　チヨ　明二七、九生、長女タキ夫、福岡高木信吉五男
女　タ　キ　明二八、九生、養子六郎妻
養子　六　郎　大五、三生
男　嘉一郎　明二七、九生、長女タキ夫、福岡

君は福岡縣人太田與三郎の長男にして明治七年六月を以て生れ同二十五年家督を相續す醬油醸造業を營み傍ら前記各會社の重役にして直接國稅千六百六十三圓を納め縣下の多額納稅者に列し推されて福岡市會議長博多商工會議所會頭たり家族は尙二女千惠子（大六、九生）二男次郎（同八、一二生）三男賢三（同一〇、五生）四男浩四郎（同一一、四生）五男二三夫（同一四、五生）孫正太郎（同四、三生、養子六郎長男）同カヨ子（同六三生、同長女）同富美子（同九、八生、同二女）同隆二（同一一、一二生、同二男）同きよ子（昭四、三生、同三女）あり父與三郎（嘉永四、一一生）母ヤエ（安政元、一一生、祖父清吉二女）は共に分家し妹トモ（明一六、一二生）も亦分家し同チヲ（同一九、三生）は福岡縣人舟津則之長男禾郎に嫁せり（福岡市藏本町二一**電五八**）

太田儀右衛門

福岡市會議長、福岡縣多額納稅者博多商工會議所會頭、福岡縣醫油同業組合長、八幡海陸物產市場㊫監査役、九州勸業㊫取締役、醬油釀造業、福岡縣在籍

妻　ヤエ　明一一、八生、福岡、藤井隆太郎姉
男　嘉一郎　大五、三生
養子　六　郎　明二七、九生、長女タキ夫、福岡高木信吉五男
女　タ　キ　明二八、九生、養子六郎妻

君は福岡縣人太田與三郎の長男にして明治七年六月を以て生れ同二十五年家督を相續す醬油釀造業を營み傍ら前記各會社の重役にして直接國稅千六百六十三圓を納め縣下の多額納稅者に列し推されて福岡市會議長博多商工會議所會頭たり家族は尙二女千惠子（大六、九生）二男次郎（同八、一二生）三男賢三（同一〇、五生）四男浩四郎（同一一、四生）五男二三夫（同一四、五生）孫正太郎（同四、三生、養子六郎長男）同カヨ子（同六三生、同長女）同富美子（同九、八生、同二女）同隆二（同一一、一二生、同二男）同きよ子（昭四、三生、同三女）あり父與三郎（嘉永四、一一生）母ヤエ（安政元、一一生、祖父清吉二女）は共に分家し妹トモ（明一六、一二生）も亦分家し同チヲ（同一九、三生）は福岡縣人舟津則之長男禾郎に嫁せり（福岡市藏本町二一**電五八**）

太田勘太郎

福岡市會議長、福岡縣多額納稅者博多商工會議所會頭、福岡縣醫油同業組合長、八幡海陸物產市場㊫監査役、九州勸業㊫取締役、醬油釀造業、福岡縣在籍

妻　チヨ　明一七、一生、福岡、藤井隆太郎姉
男　嘉一郎　大五、三生
養子　六　郎　明二七、九生、長女タキ夫、福岡高木信吉五男
女　タ　キ　明二八、九生、養子六郎妻

君は福岡縣人太田與三郎の長男にして明治七年六月を以て生れ同二十五年家督を相續す醬油釀造業を營み傍ら前記各會社の重役にして直接國稅千六百六十三圓を納め縣下の多額納稅者に列し推されて福岡市會議長博多商工會議所會頭たり家族は尙二女千惠子（大六、九生）二男次郎（同八、一二生）三男賢三（同一〇、五生）四男浩四郎（同一一、四生）五男二三夫（同一四、五生）孫正太郎（同四、三生、養子六郎長男）同カヨ子（同六三生、同長女）同富美子（同九、八生、同二女）同隆二（同一一、一二生、同二男）同きよ子（昭四、三生、同三女）あり父與三郎（嘉永四、一一生）母ヤエ（安政元、一一生、祖父清吉二女）は共に分家し妹トモ（明一六、一二生）も亦分家し同チヲ（同一九、三生）は福岡縣人舟津則之長男禾郎に嫁せり（福岡市藏本町二一**電五八**）

太田健司

從五位勳四等、臺中州知事
靜岡縣在籍

妻　千　世　明二一、一生、靜岡、松村源次郎四女
男　純　一　大三、三生
女　靜　明四五、六生

君は靜岡縣人太田五平の三男にして明治十八年七月を以て生る同四十三年東京帝國大學法科大學法律學科を卒業し文部屬となり大正二年文官高等試驗に合格す爾來靜岡縣小笠周智各郡長臺北州內務部教育課長新竹州監督局事務官仙臺京橋各稅務署長大阪稅務監督局經理部長仙臺稅務監督局直稅部長廣島稅務監督局經理部長稅務取扱名古屋稅務監督局稅務監督官等に歷任し昭和五年稅務監督局書記官に任じ現に大阪稅務監督局總務部長たり家族は尙二女淳子（大一〇、二生）あり（大阪、天王寺、北堀河町一〇三）

養父　清　藏　文久三、八生、現戸主
妻　シ　マ　明一九、七生、養父清藏長女
男　敬　次　大一〇、一一生
女　フ　ジ　大五、五生

君は福岡縣人中村清次郎の五男にして明治十七年五月を以て生れ同三十七年太田清藏の養子となる同新吉同辨次郎は君の養弟たり現時東京起業會社代表取締役たる外前記銀行會社の重役を兼ぬ家族は尙三女道子（大九、五生）あり（福岡市住吉一七三三）

參照＝太田新吉、太田清藏、太田辨次郎家西原連三家濱口儀兵衛の項

太田健司

太田屋、貿商
東京府在籍

繼母　ふ　つ　文久元、一一生、茨城、森田文左衛門妹
妻　ヤ　エ　明一一、四生、神奈川、平戶久治郎長女
養子　千代司　明二一、三生、養子千代夫、長野大日向正司弟
養子　千　代　明三四、一二生、養子千代司妻、神奈川、太田信平長女

君は東京府人太田治兵衛の長男にして明治七年九月を以て生れ大正十一年家督を相續す太田屋と稱し貿商を營む家族は尙孫美子代（大一四、九生、養子千代司長女）同和子（同一五、一二生、同二女）同茂子（昭三、一生、同三女）あり養子保三（同二四、六生、岡山、朝原藤作三男）同妻利（同三七、一生、神奈川、太田信平二女）は其一男を伴ひ分家し妹タマ（同二四、八生）も其夫廉平（同一九、八生、靜岡、殿岡寺次郎二男）と共に分家し姉コウ（同五、一〇生）は其の家籍に入り妹アイ（同一三、二生）は茨城縣人高橋榮三の養子となれり（東京市外品川町北品川宿一〇六**電高輪四八〇**）

太田吾一

正五位勳四等、臺中州知事
靜岡縣在籍

妻　千　世　明二一、一生、靜岡、松村源次郎四女
男　純　一　大三、三生
女　靜　明四五、六生

君は靜岡縣人太田五平の三男にして明治十八年七月を以て生る同四十三年東京帝國大學法科大學法律學科を卒業し文部屬となり大正二年文官高等試驗に合格す爾來靜岡縣小笠周智各郡長臺北州內務部教育課長新竹州

警務部長臺北市尹高雄州知事等に歴任し昭和六年臺中州知事に任ぜられ現に其の任に在り家族は尚二男正二（大五、六生）三女英子（同九、二生）三男良三（同一一、六生）三女康子（同一三、七生）兄勉三（明一五、八生、現戸主）同妻なつ（同二一、四生、静岡、鈴木忠三郎六女）及其子女あり姉てい（同八、三生）は静岡縣人齋田儀勘二男政平に同ぶん（同一二、七生）は同縣人丸井圓次郎に妹みち（同二二、三生）は同縣人杉田彌治郎長男松一郎に嫁せり（臺中、知事官舍）

太田孝一郎

太田商事㈱代表取締役、泉資代表社員、愛知縣在籍

妻　經　明三〇、七生、愛知、平松慶太郎五女

男　統一　大七、五生

君は愛知縣人太田俊造の長男にして明治二十五年十二月を以て生れ昭和二年家督を相續す現時前記各會社の重役たり家族は尚二男等（大八、一一生）長女ふさ（同一一、五生）三男守（同一四、七生）二女久（昭三、一生）あり姉のぶ（明二三、一二生）は愛知縣人篠田恒四郎に妹せつ（同四〇、一一生）は同縣人竹内寅三に嫁し弟悌二（同三四、九生）は分家せり（愛知、碧海、刈谷町）

太田孝之

従五位、醫學博士、泉橋慈善病院小兒科部長、東京帝國大學醫學部講師、醫師、東京府在籍

妻　雪　明二八、九生、貴族院議員上郎清助二女

男　樹之　昭三、九生

君は萬久の名によつて知られたる醸造業の老舗太田家より分れて一家を創立せる先代忠三郎の長男にして明治十二年五月を以て生れ前名を孝之助と云ふ同四十四年家督を相續す先是同三十九年東京帝國大學醫科大學を卒業し母校に助手たりしが同四十三年自費を以て獨逸に留學し主として小兒科を研究す大正三年歸朝同五年醫學博士の學位を授けらる義に千葉醫學專門學校教授たりしも現時母校たる東京帝國大學醫學部講師並に泉橋慈善病院小兒科部長の職にあり趣味として和洋音樂及劇を好む家族は尚長女道子（大一一、二生）あり妹田鶴子（明三二、一生、跡見女學校出身）は福島縣人太田健次郎長男義雄に嫁せり（東京、麻布、市兵衛町二ノ六五電赤坂一〇三七）

参照＝上郎清助の項

太田孝太郎

妻　サダ　明一九、八生、岩手、士、坂本三郎姉

君は岩手縣人實業家太田小二郎の長男にして明治十四年七月を以て生れ大正十三年家督を相續す明治三十九年早稻田大學政治經濟科を卒業し横濱正金銀行に入りて本店及海外支店に勤務し現時前掲各銀行會社の重役たり金石文に造詣深く夢庵藏印外數種の著述あり家族は尚弟第二郎（明二七、三生、早大政治經濟科出身、盛岡信託會社支配人）同妻早苗（同三六、六生、東京、菊池第三に同信（同二四、四生）は第三高等學校教授岩手縣人一戸隆次郎に同静（同二九、一〇生）は東京市建築課長小野二郎に嫁せり（盛岡、志家第六地割内加賀野小路九電一三三）

岩手縣多額納稅者、日本勸業銀行穂岩手縣地方顧問、岩手縣是製絲穂相談役、農業、岩手縣在籍

明一三、一生、宮城、菅原新作三女

妻　むら　明三二、五生、三井信託會社員、早大文學部社會學科出身

男　幸郎　明四〇、一〇生、長男幸郎妻、長崎、牧山耕藏長女

朝子　明三五、八生

教　明三九、二生、日本勸業銀行員、慶大經濟學部出身

幸兵衛　明四三、四生、慶大經濟學部豫科在學

男　幸彌　明三九、二生、日本勸業銀行員、慶大經濟學部出身

君は岩手縣人太田幸藏の長男にして明治元年十二月を以て生れ同三十八年家督を相續す直接國稅三千二十圓を納め岩手縣多額納稅者たり蠶に岩手縣農工銀行頭取其他各銀行會社の重役たりしが農工銀行の勸業編行合併せらるゝや現時前記の職にあり家族は尚長男幸郎（昭五、二一生、長男幸郎長女）あり四女德（明三六、八生）は東京府人松本三千雄に嫁せりA二八〇〇B一五〇（岩手、膽澤、前澤町）

参照＝牧山耕藏の項

太田佐兵衛

神奈川縣多額納稅者、呉服商神奈川縣在籍

妻　カウ　明二〇、四生、養父佐兵衛長女

男　佐喜造　明四四、二生

女　清佐子　大元、八生

女　佐登子　大三、一二生

君は神奈川縣人井田清吉の二男にして明治十五年七月を以て生れ先代佐兵衛の養子となり大正十二年家督を相續し前名政吉を改め襲名す家業を繼ぎ呉服商を營み茅木屋と稱し直接國稅千八百九十五圓を納め縣下の多額納稅者に列す蠶に横濱商工會議所議員に推さる家族は尚四女佐多子（大八、三生）五女喜美子（同一〇、九生）二男政次郎（同一三、二生）三男幸三郎（同一五、三生）あり長女佐代子（明四二、四生）養叔母セン（文久二、八生）は各分家せり（横濱、神奈川、青木町三三電本局六六五）

太田作兵衛

父　應清　安城合同運送穂監査役

妻　しげ　愛知縣在籍

男　民雄　明四二、二生

男　保雄　明四四、一生

女　静枝　大元、一二生

女　喜久代　大四、一一生

君は愛知縣人先代應清の二男にして明治八年十一月を以て生れ大正七年家督を相續し前名三郎を改め襲名す現時碧海銀行頭取の外前記銀行會社の重役たり家族は尚五男正三（大三、八生）三女美枝（同七、六生）四女澄江（同九、一一生）七男七郎（同一四、四生）八男八郎（同一五、八生）あり姉はなゑ（慶應二、二生）は愛知縣人太田德九郎に嫁せり（愛知、碧海、櫻井村）

参照＝冰須田萬右衛門の項

太田貞巳

大福海上火災保險穂取締役兼支配人、埼玉縣士族

母　みき　元治元、六生、埼玉、士、石原久姉

妻　こま　明二三、五生、東京、士、小柳津邦太妹、東京府立第一高女出身

男　敬　大五、三生

君は埼玉縣士族太田元章の長男にして明治十五年三月を以て生れ大正七年家督を相續す明治四十年慶應義塾政治科を卒業し現時大福海上火災保險會社取締役兼支配人たり趣味にラグビー登山等あり家族は尚長女繁子（大一〇、一生）弟文治（明二七、七生）同淡（同三二、一二生、慶大出身、大同電力會社員）同泉（同三三、一二生、長崎醫大出身）同修治（同四〇、二生、慶大出身）あり同齊（同二四、一〇生、新潟醫大出身）同妻しげ（同三四、七生、北海道、石原正彦子）は其一子を伴ひ分家し弟廣（同三〇、一二生）も亦分家し妹千嘉（同三八、四生）は東京府人王子製紙會社員岡野長二に嫁せりA二九二（兵庫、武庫、御影町郡家千本田一二〇ノ一電御影五一八九）

参照＝石原久、小柳津邦太冰室田武隣の項

太田三郎

妻　マキ　明三三、九生、亡長男默妻、大阪山口彌三郎二女

孫　たき　大一二、九生、亡長男默長男

婦　一　明三三、八生、亡二男淳妻、福島

婦　カツ　菊池貞往四女

女　緑　大四、七生

子　薫　大四、七生

當家は二階堂造江守の家臣にして三百年來須賀川に住し代々里正たり君は先代太田虎三の長男にして慶應二年十月を以て生れ明治四十四年家督を相續す夙に福島縣立病院醫學東京醫科大學助手日本赤十字社病院醫員となり日本赤十字社救護員として日清日露の兩戰役に從軍し勳六等單光旭日章を賜はる明治二十八年八月郡山市に太田病院を創立し目下各科專門の博士學士等十餘名看護婦三十四名縣下私立病院中屈指の評あり現時前記諸會社の重役にして推されて福島縣會議長其他前記の名譽職にあり書畫及盆栽に趣味を有す家族は尚孫輝子（大一四、一二生、亡二男淳長女）あり四女博子（明三八、一生）は福島縣人醫學博士東京帝國大學眞鍋内科勤務三澤敬義に嫁し弟干城（同九、八生）同妻たみ（同一九、一一生、福島、鈴木治郎平妹）は其子女を伴ひ分家せり（郡山、中町三八）

太田贊平

一色町長、中部電力穂監査役　愛知縣在籍

繼母　ちか　慶應二、四生、愛知、士、大藤正義長女

妻　いし　明一八、三生、愛知、中島平左衛門三女

同　衡平　明四三、二生

男　量平　明四四、一一生

女　いつ　大五、一生

君は愛知縣人太田善四郎の二男にして明治十八年十月を以て生れ昭和四年家督を相續す現時中部電力會社監査役にして推されて一色町長郡農會長同水產會長たり家族は尚三男欣平（大二、一〇生）四男錄平（同六、一二生）二女ふみ（同一五、六生）七男寄平（同一一、一〇生）五男從平（同一〇、一生）六男順平（昭三、一二生）ありA八〇〇（愛知、碧豆、一色町）

太田茂滿

鳥取縣多額納稅者、醫師　鳥取縣在籍

繼母　千世　明八、四生、鳥取、長尾隆暉姉

妻　かれ　明三一、一二生、鳥取、加藤賢三長女

男　勇　大五、一生

君は鳥取縣人太田勇昌の四男にして明治二十四年二月を以て生れ大正十一年家督を相續す醫師にして同縣多額納稅者に列し直接國稅千四百四十二圓を納む家族は尚長女都子（大八、三生）三女眞智（同一四、八生）四男卓伯（昭二、一生）四女皓子（同三、六生）五男壽彦（同五、一生）及妹貞子（明三五、六生）あり同正子（同二五、一生）は鳥取縣人細川利太郎に嫁せり（鳥取、八頭、國英村電一一）

太田重雄

從五位勳六等、陸軍教授、陸軍士官學校教官、熊本縣士族

妻　シゲ　明二〇、三生、熊本、緒形喜三郎長女

君は熊本縣士族太田敬藏の庶子にして明治十三年十月を以て生れ同二十年家督を相續す夙に第五高等學校を卒業し中等學校教諭を歴任し大正十年陸軍教授に任じ熊本幼年學校在職中大正十三年高等教員檢定試驗化學科に合格昭和二年現職に補せらる養子ミツ（明一八、八生）は熊本縣人鍵田辰人に嫁せり（東京市外杉並町高圓寺二〇七）

太田質平

正五位勳三等、海軍少將、佐世保海軍艦船部長、東京府在籍

妻　テル　明二四、八生、故海軍中將野元綱

男　一夫　明三女

君は舊長岡藩士太田門造の四男にして明治十六年六月を以て生れ同四十一年兄慎太郎方より分れて一家を創立す同三十七年海軍兵學校を卒業し海軍少尉に任じ昭和四年同少將に累進す其間鎮守府參謀海軍大學校教官大泊尻矢朝日富士各特務艦長春日艦長を歴補し歐洲に出張し昭和四年佐世保海軍艦船部長に補せらる家族は尚二男明（大一一、一生）あり（東京市外入新井町木原山一六二一電大森一一八〇）

参照＝冰釜屋六郎の項

太田實三

勳八等、百十七銀行穂取締役　長野縣在籍

妻　ちひろ　明七、九生、長野、大平豁郎姉

男　正夫　明二九、三生、現戸主

婦　かほる　明三四、一生、長男正夫妻、長野濱島仙藏二女

君は長野縣人太田傳藏の二男にして明治六年十二月を以て生れ後家督を相續し昭和五年退隱す現時百十七銀行取締役にして蠶に飯田貯蓄銀行重役山本郵便局長たりし事あり家族は尚庶子州三（大一三、四生、生母、長野、前田みち）孫米子（同一〇、六生、長男正夫長女）同增美（同一二、九生、同二女）同光穂（同一四、七生、同長男）同照夫（昭三、同二生）同千代子（同五、一生、同三女）あり二男節治（明三一、一一生）は長野縣人手塚萬右衛門に庶子泰惠（大三、一二生、同民穂（同六、一〇生）同貫司（同九、一二生、）は共に生母前田みちの養子となれり（長野、下伊那、飯田町）

参照＝大平豁郎冰上柳條の項

太田壽太郎

甲子銀行穂專務取締役、大阪府在籍　製糖穂取締役、大阪紙器

養父市右衛門　慶應元、四生、現戸主
養母　ヤス　明一一、七生、大阪、織田柳之助長女

妻　笹子　明二七、一生、大阪、織田三郎妹

君は奈良縣人榊太三郎の二男にして明治二十二年五月を以て生れ大正六年太田市右衛門の養子となる現時前記各銀行會社の重役たり家族は尚養妹市子（大五、一生、大阪、織田三郎長女）あり（大阪、港、八幡屋室町一ノ二九二**電西一二一八**）

太田正太郎

太田屋、料理業
東京府在籍

妻　タネ　明二七、五生、栃木、石川長右衛門姪

女　美代　大四、一一生

君は東京府人太田政太郎の長男にして明治二十六年六月を以て生れ同三十三年家督を相續す太田屋と稱し牛鳥肉料理業を營む家族は尚二女春子（大八、四生）三女登代子（同一一、一生）四女榮子（同一三、八生）あり養兄平造（明一三、一一生、神奈川、竹野鐵五郎長男）弟德之助（同三〇、七生）は各分家し叔父伊之助（同七、三生）も亦其妻光（同一六、九生、東京、前田龜吉二女）及其二男を伴ひ分家し妹たま（同二九、二生）は東京府人牧野收三に嫁せり（東京、芝、芝口二ノ一〇**電銀座三六六四**）

太田正兵衛

大阪電島米穀取引所取引員
京都府在籍

養子　宗輔　明一九、一二生、二女八重夫、京都、安達健造弟

女　八重　明二三、一〇生、養子宗輔妻

君は京都府人眞下芳藏の兄にして明治元年五月を以て生れ先代シホの養子となり同二十四年家督を相續し前名久吉を改む現時大阪電島米穀取引所正米部清算部取引員たり家族は尚孫正（大元、八生、養子宗輔長男）同妙子（同九、一生、同四女）同悅子（同一一、一一生、同五女）同陽子（同一四、九生、同六女）あり同栁子（明四三、一〇生、同長女）同夫芳雄（同四〇、一〇生、京都、盛谷民之助弟）は共に京都府人矢谷つるの養子となり孫文江（大六、九生、養子宗輔三女）は同府人太田喜七の死跡を相續せりA二五八二B七〇六（大阪、北、電島濱通一ノ二八**電昌北二七五**）

太田新吉

太田商事、九州勸業各株式會社長、第一徵兵保險取締役、福岡縣在籍

父　清藏　文久三、八生、現戸主
妻　淑子　明三五、三生、東京、武田恭作二女、東京女學館出身
男　新太郎　大一四、一二生

君は福岡縣人太田清藏の長男にして同主助の養弟同辨次郎の實兄なり明治二十六年八月を以て生る大正八年東京帝國大學法科大學經濟學科を卒業し直ちに三井銀行に入社せしが後辭して金融事業研究の爲米國紐育に赴き研鑽を遂げて後歐洲各國視察の上歸朝現時太田商事會社長にして前記各會社の重役たり家族は尚長女文子（同四子（大一一、一二生）二女寛子（同一三、五生）二男元次郎（昭三、一生）あり（東京市外千駄ヶ谷町穩田一六四**電青山二六四**）

參照＝太田圭助、太田清藏、太田辨次郎、武田恭作（冰淺野良三冰西原連三冰濱口儀兵衛の項

太田新五郎

豐原商工會議所會頭、豐原町會議員、樺太在籍

妻　ハン　明一六、一二生、北海道、神山瀧次郎姪

男　三郎　大九、七生
女　トリ　明四二、一生、東洋音樂學校出身
女　フユ　校出身　明四二、一二生、共立女子專門學校出身
女　サマ　大元、八生、共立女子專門學校在學

君は靜岡縣人太田平次郎の二男にして明治十六年五月を以て生れ後分れて一家を創立す北洋材移出商を營み製材工場を經營し又前記會社の重役にして昭和六年一月豐原商工會議所會頭に推され又豐原町會議員たり家族は尚六女ウメ（大七、二生）あり二男新吉（同三、一二生）は實兄太田平助の養嗣子となれり

太田資業

正四位、子爵
舊上總松尾藩

妻　樣子　明一九、一一生、子爵戸田忠雄妹
男　資博　大二、一生
女　松子　明四三、一生
女　竹子　明四三、六生
女　芳子　大五、八生

當家は源三位頼政五世の孫太田摂津守資國の後なり四世を經て備中守持資に至る即ち有名なる道灌なり後五世備中守資宗初めて德川氏に仕へ遠州濱松五萬三千石を領し後代更に同國掛川に移り九世を經て先代資美に至る資美維新の際上總國に移され柴山藩と稱し後松尾と改む宮中祇候被仰付明治十七年子爵を授けらる君は其三男にして明治十五年十月を以て生れ大正二年家督を繼ぎ襲爵仰付けらる能書を以て著聞す家族は尚二男資基（大四、一生）四男資敬（同七、九生）五女郁子（同九、三生）妹種子（明三五、一〇生）弟總次郎（同四一、四生）同安郎（同四三、一生）あり養妹美繭（同九、九生、千葉、士、甲賀秀實二女）は東京府士族鶴田乙丑に妹倉子（同一七、八生）は子爵成瀨正雄に長女文子（同四一、一〇生、女子學習院出身）は前記正雄長男正勝に嫁し大叔父寛次郎（嘉永三、五生）は子爵内藤家を繼ぎ政舉と改名し其子政道當主たり（東京、本郷、駒込千駄木町五〇**電小石川二〇七三**）

參照＝子爵内藤政道、子爵成瀨正雄、子爵戸田忠雄、鶴田乙丑冰子爵福羽昌城冰男爵島津備愛の項

太田清藏

正六位、貴族院議員、福岡商工會議所會頭、博多灣鐵道汽船、第一徵兵保險會社長、蓬萊生命保險（互）社長、日本銅管、大村灣筆珠筑前參宮鐵道、雨龍炭礦、東京灣埋立、日本共立火災保險、東京灣埋立、日本麥酒鑛泉、日本綿織紡織、東京瓦斯電、昭和絹絲各株取締役、北支部理事、家主、福岡縣在籍

妻　シナ　明二六、八生
男　新吉　明一七、五生
養子　圭助　明三一、四生
男　辯次郎　明四二、一一生
男　凱夫　明四二、一生
男　清之助　明四二、一生

君は福岡縣人太田儀平の二男にして文久三年八月を以て生れ先代清藏の養子となり明治十三年家督を相續し前名を改め襲名す代々醬油釀造業を營み太田屋と稱す曾て福岡市會議員に擧げられ又博多電燈會社長筑紫銀行頭取等に就任し明治二十九年福岡貯蓄銀行を設立し自ら其頭取となれり又養に衆議院議員博多商工會議所會頭に選ばる現時貴族院議員博多商工會議所議員にして前記各銀行會社の重役として名聲あり二女テイ（明二四、四生）は福岡縣人西原連三に三女房子（同四五、

一生）は千葉縣人濱口儀兵衛長男勉太に姪キク（同三〇一生、弟大次郎長女）は大阪府人池永孝二郎に嫁し庶子龜久（同四四、九生）は京都府人松井チカの養子となり弟大次郎（同八、一二生）は分家せりA二三四八六（福岡市藏本町五〇ノ一**電二四一**）

參照＝太田新吉、太田圭助、太田辨次郎、西原連三濱口儀兵衛冰末松清一の項

太田宗助

日本鉛筆取締役、鉛筆刷子貿易商
大阪府在籍

母　壽榮　嘉永四、九生、近井五兵衛長女
妻　よれ　明八、三生、兵庫、淺井嘉藏二女
男　和一　明三一、一二生、大阪高商出身
婦　郁子　明三五、二生、二男和一妻、大阪豐田武太郎姉、大谷高女出身
男　孝治　明三三、九生、關西大學豫科修學

君は大阪府人先代宗助の長男にして明治四年十二月を以て生れ同三十七年家督を相續し前名米太郎を改め襲名す鉛筆刷子貿易商を營み現に前記會社の重役たり家族は尚孫正規（大一二、一二生、二男和一長男）同宗子（昭三、九生、同長女）同和春（同五、四生、同二男）あり長女千代（明三〇、三生）は福井縣人芝原道信に嫁し弟定之助（同二一、四生）は分家せりA一八〇〇B七〇〇（大阪、東、北久寶寺町五ノ二六**電船場一八四**）

參照＝冰淺井虎之助冰吉川市三の項

太田惣七

鈴木商店經營
東京府在籍

妻　ひさ　明七、四生、大阪、和田芳松二女
男　秀雄　明三三、一一生
婦　美江　明三六、一一生、長男秀雄妻、東京石渡福松長女
男　清　明三八、八生
男　武夫　明四四、八生

君は岐阜縣人小野木助次郎の弟にして明治十年二月を以て生れ同三十二年先代ひさの入夫となり家督を相續し前名泰次郎を改む現に鈴木商店監査役にして養に大日本醸造會社取締役たり家族は尚二女富美子（大一〇、一〇生）孫泰弘（昭五、三生、長男秀雄長男）あり（東京、小石川、竹早町三五**電小石川六〇八七**）

太田竹松

秋田縣多額納稅者、農業
秋田縣在籍

父　倉之助　嘉永元、一二生、秋田、齊藤與八郎長男、現戸主、秋田縣多額納稅者、農業

男　至孝　明三二、一生
婦　榮　明三六、三生、長男至孝妻、秋田山崎久治三女

君は秋田縣人太田倉之助の長男にして明治五年六月を以て生る農業を營み直接國稅六千五百六十九圓を納め縣下の多額納稅者たり父倉之助夙に山林の整理植栽及荒蕪地の開拓桑園の經營蠶業奬勵等公共事業に盡す所多し家族は尚庶子純介（大四、四生、生母同上）同俊子（同七、六生、生母同上）同三吉（同一〇、六生、生母同上）同孝長男（同一三、一生、長男至孝長男）同時子（昭二、七生、同長女）同節子（同一一、一生、同二男）同時男（明一〇、一二生）同キナ（同五、五生、同三男）妹キセ（明一〇、一三、七生）及其子女弟德治（同一九、三生）同ツヤ（同三一、四生、福井、士、鈴木敏長女）及其子女あり

君は秋田縣人田口伊右衛門の長男にして慶應二年三月を以て生れ明治三十一年分れて一家を創立す酒醬油商を營み縣下の多額納稅者にして直接國稅千三十九圓を納む家族は尚孫憲造（大一五、九生、養子多喜男長男）同泰子（昭四、三生、同長女）あり弟鶴太郎（明一四、一〇生）同妻トウ（同一九、五生、神奈川、中丸桃太郎妹）は共に分家せり（横濱、中、長者町五ノ五〇**電長者町三四〇二**）

太田恒麿

太田眼療院主、醫師
大阪府在籍

妻　雄　明一〇、一二生、東京、太田雄寧長女
男　恒雄　明二九、七生、長男恒雄妻、福島縣人小野木助次郎の弟にして明治六年七月を以て生れ同三十九年家督を相續す夙に高等師範學校を卒業し熊本縣立八代中學校三重縣師範學校各教諭愛媛縣女子師範學校鹿兒島縣女子師範學校同縣立第二高等女學校各校長を經て現職に任じ今日に至る家族は尚三男弘（明四五、一生）弟喜平（同九、一〇生）同妻恒（同二一、一二生、男爵安東貞美四女）あり弟藤四郎（同二三、六生）は靜岡縣人中津川ふいの入夫となり同喜一郎（同二七、一一生）孫安雄（昭二、二生、長男恒雄長男）

婦　喜代　明三九、四生
男　善磨　明四二、四生
女　良貞　大四、一〇生

君は福島縣人會田帝雄の二男にして慶應二年九月を以て生れ先代雄の入夫となり明治二十六年家督を相續す太田眼療院を開設し眼科醫として知らる家族は尚四男二三、六生）は靜岡縣人中津川ふいの入夫となり同喜一郎（同二七、一一生）孫安雄（昭二、二生、長男恒雄長男）

同昭子（同三、四生、同長女）同恒清（同四、五生、同二男）あり長女晴子（明二七、八生）は福島縣人内藤隆一に二女貞子（同三六、一二生）は東京府人大島盛一に三女ゆう子（同三八、五生）は岡山縣人池田彦藏二男吉雄に養子直（同三六、八生、東京、柳川梅次郎四女）は福島縣人大高禎二弟藤藏に嫁せり（東京、芝、新堀河岸三七**電三田三七〇二**）

參照＝冰織田經二の項

太田鐵次郎

神奈川縣多額納稅者、酒醬油商
神奈川縣在籍

妻　トラ　明五、三生、神奈川、桐ヶ谷源七妹
養子　多喜男　明三二、三生、東京、野村秀雄弟
婦　信　明三六、一生、養子多喜男妻、神奈川、村上直吉二女

君は愛知縣人太田銀左衛門の長男にして慶應二年三月を以て生れ明治三十一年分れて一家を創立す酒醬油商を營み縣下の多額納稅者にして直接國稅千三十九圓を納む家族は尚孫憲造（大一五、九生、養子多喜男長男）同泰子（昭四、三生、同長女）あり弟鶴太郎（明一四、一〇生）同妻トウ（同一九、五生、神奈川、中丸桃太郎妹）は共に分家せり（横濱、中、長者町五ノ五〇**電長者町三四〇二**）

太田藤一郎

正五位勳四等、熊本縣女子師範學校長、熊本縣立第二高等女學校長
靜岡縣在籍

母　まつ　安政元、六生、靜岡、大杉治郎右衛門三女
妻　けん　明九、八生、靜岡、大杉治郎作養妹
男　喜久雄　明三七、一二生
男　實　明四三、六生

君は靜岡縣人太田喜七の長男にして明治六年七月を以て生れ同三十九年家督を相續す夙に高等師範學校を卒業し熊本縣立八代中學校三重縣師範學校各教諭愛媛縣女子師範學校鹿兒島縣女子師範學校同縣立第二高等女學校各校長を經て現職に任じ今日に至る家族は尚三男弘（明四五、一生）弟喜平（同九、一〇生）同妻恒（同二一、一二生、男爵安東貞美四女）あり弟藤四郎（同二三、六生）は靜岡縣人中津川ふいの入夫となり同喜一郎（同二七、一一生）は廣島縣人奥田穣の養子となり

妹ゑし（同一五、七生）は静岡縣人鈴木鹿一の家籍に入れり（熊本市内坪井町一二一電七七六）
參照＝男爵安東貞美、高桑太蔵、吉田悳の項

太田道一　三井生命保險㈱會計課長
東京府士族
妻　アサ　明二〇、一一生、和歌山、士、武内鉞平四女
男　友一　明四二、二生、慶大經濟學部在學
女　八千代　明四三、八生、東洋英和高女出身
君は舊紀州藩士太田宗輔の二男にして明治十一年十二月を以て生れ同三十一年家督を相續す三井物產會社に入り累進して會計課長代理營業部長代理となり現時三井生命保險會社會計課長たり家族は尚二男正二（大元、八生）二女小千代（同六、六生）四男三四郎（同八、一〇生）五男五郎（同一〇、八生）四女喜千代（同一三、一生）姉こと（安政元、七生）ありA三一九（東京、赤坂、榎町六電青山五一二七）

太田德次郎　横濱食品市場㈱專務取締役、東神冷藏製氷㈱監査役、鮮魚問屋業
神奈川縣在籍
男　庄太郎　明四、一〇生
孫夫　金之介　明二二、七生、孫トク夫、茨城、澤島淺次郎弟
孫　トク　明三四、三生、孫金之介妻、長男庄太郎長女
聟孫　傳三郎　明二六、二生、長男庄太郎聟子、神奈川、大木喜一郎三男
孫妻　ヤシ　明二六、八生、聟孫傳三郎妻、神奈川、飯島千代私生子
曾孫　富美代　大五、一一生、孫傳三郎長女
君は神奈川縣人太田林之助の四男にして嘉永二年十一月を以て生れ慶應三年家督を相續す鮮魚問屋業を營み現時前記各會社の重役たり家族は尚曾孫村雄（大八、一二生、孫傳三郎長男）同順吉（同一三、一二生、同二男）同香（昭四、五生、同四女）同博（同元、一二生、孫金之介二男）あり長女千壽（明二、五生）は神奈川縣人太田己之助に嫁し三男三吉（同一〇、三生）四男忠次郎（同一二、一二生）同妻キヨ（同一八、九生、神奈川、山口久次郎姉）は共に各分家せりA一七七B一三四（横濱中、本牧町天德寺）

太田富三郎　岩井商店㈱常務取締役、大阪鐵板製造㈱取締役、大阪府在籍
父　勝次郎　慶應元、一二生、現戸主
母　タキ　文久三、一〇生、大阪、直木久兵衛二女　明二〇、一二生、大阪、田中みち二女
妻　かめゑ　明四一、一〇生
男　勝郎　明四三、一生
女　ふき子　大四、三生
女　和佐子
君は大阪府人太田勝次郎の長男にして明治十七年四月を以て生る現時前記各會社の重役にして義に日本曹達工業關西ペイント各會社取締役たりしことあり家族は尚養妹ウノ（明一七、二生、大阪、岡本長二郎娘）ありA三一九（東京、赤坂、榎町四）

太田信治郎
妻　とよ　明一二、五生、東京、水野忠義姉
養子　悅之助　明三六、七生、東京、高橋金太郎二男
養子　美須　大二、四生、東京、佐野小兵衛三女
君は元北面の武士にして其祖襲德太子に仕へ太田の姓を賜はる後代々三河國に住す父重吉は夙に尊王の大義を唱へ維新の際國事に奔走し又佛教を崇ずる事篤し當家は元北面の武士にして其祖襲德太子に仕へ太田の姓を賜はる後代々三河國に住す父重吉は夙に尊王の大義を唱へ維新の際國事に奔走し又佛教を崇ずる事篤し君は其長男にして明治六年二月を以て生る父祖の業を繼ぎ材木商を營み傍ら社會公共の事業に力を致し同三十八年本所區若宮町に無料宿泊所を創設す是本邦に於ける無料宿泊所の嚆矢なり材木商を營み萬信材木店取締役にして日本林業會社代表取締役の外前記各銀行會社の重役たり又東京製材組合長に推され衆議院議員に當選する事三回に及び義に立憲民政黨に屬せしも現時中立にして嘗て東京市會議員たり（東京、深川、久永町五電本所二七二）

太田信義　衆議院議員（東京府選出）、日本林業㈱代表取締役、春日銀行、日本漁業、萬信材木店各㈱取締役、東京製材組合長、材木商
東京府在籍
妻　とよ　明一二、五生、東京、水野忠義姉
養子　悅之助　明三六、七生、東京、高橋金太郎二男
養子　美須　大二、四生、東京、佐野小兵衛三女
君は大阪府人太田信義の長男にして明治十七年四月を以て生る現時前記各會社の重役にして義に日本曹達工業關西ペイント各會社取締役たりしことあり家族は尚養妹ウノ（明一七、二生、大阪、岡本長二郎娘）ありA三一九（東京、赤坂、榎町四）

太田彦右衛門　東京煉瓦㈱取締役兼支配人
妻　靜　愛知縣在籍
女　澄子　明三六、五生、愛知、森菊次郎長女
君は愛知縣人太田宗右衛門の五男にして明治二十八年六月を以て生れ大正十四年家督を相續す現時東京煉瓦會社取締役兼支配人たり家族は尚長女弘子（大一四、三生）姉たけ（明一九、五生）及其一子あり（東京、南足立、江北村）

養子　壽男　明二、三、五生、養子菊夫、父信義四男、太田信義藥房㈱取締役
養子　菊　明二三、八生、養子壽男妻、東京瀧口東次郎妹
孫　唄　大五、一生、養子壽男長女
君は東京府人先代信義の長男にして明治六年八月を以て生れ同三十年家督を相續し前名信を改め襲名す藥種商を營み太田胃散の本師にして前記各會社の重役たり義に日本纖維機械製造會社取締役たりしことあり家族は尚長女橋子（大八、一生）孫淘一（同六、三生、養子壽男長男）同滉（同七、五生、同二女）同昭（同一〇、三生、同三男）あり二男陸之助（同一五、五生）は東京府人瀧口すみに弟五十八（明二七、三生）は同府人吉田ヌイに各養子となり妹フサ（同二一、五生）は山口縣士族坂田泰之助に同ツヤ（同一七、八生）は工學博士參木錄郎に嫁し二女桃子（大一一、三生）は東京府人隅田千代松の死跡を相續せり（東京、小石川、氷川下町五九電大塚四三四）
參照＝參木錄郎の項

太田半六　東京瓦斯㈱副產㈱社長、北海道瓦斯㈱專務取締役、帝國火藥㈱取締役、横濱工作所、東洋耐火煉瓦、東京瓦斯、平和海上火災保險各㈱取締役、東京回漕㈱相談役、千葉縣士族
太田名代表社員
妻　光　明一〇、八生、東京、山本惣五郎長女
君は千葉縣士族太田滿直の二男にして明治七年九月を以て生れ同三十年兄源三郎の後を承け家督を相續す現時東京瓦斯副產會社長たる外前記諸會社の重役たり弟健吉（明一四、一生）甥源一（同二七、一生、亡兄源三郎長男）は各分家せりA二三七七（東京市外千駄ヶ谷町四九六電青山三一八）

太田牛六　東京瓦斯㈱副產㈱社長、北海道瓦斯㈱專務取締役、帝國火藥㈱取締役、横濱工作所、東洋耐火煉瓦、東京瓦斯、平和海上火災保險各㈱取締役、東京回漕㈱相談役、千葉縣士族
太田名代表社員
妻　フク　明三二、一二生、東京、鈴木正光養母
男　正文　大六、一生
女　澄子　大二、一一生
君は靜岡縣人太田萬吉の三男にして明治十九年十一月を以て生れ大正十年分れて一家を創立し前名庄吉を改む先是明治四十五年東京帝國大學法科大學經濟科を卒業し大正十三年經濟學博士の學位を授けらる著述業を營み保稅制度論經濟續本を始め其他著書多し昭年五年靜岡縣より推されて衆議院議員に當選し立憲政友會所屬たり義に報知新聞社副社長に擧げられ又商工審議會委員たり家族は尚二男孝（大八、七生）三女博子（同一〇、一一生）四女澤子（同一四、二生）五女長子（同一五、一〇生）あり三男正光（同一三、五生）は母フクの實家鈴木家に入れりA一二五（東京市外入新井町新井宿山王二六一六電大森五七八）

太田正隆　醫學博士、太田醫院長、醫師
東京府士族
安政四、九生、東京、田中鐵五郎長女
養母　しま　明三二、一一生、醫學博士阿久津三郎二女
妻　きく　隆　大一三、二生
君は群馬縣人書上イトの孫にして明治二十一年十二月を以て生れ先代正隆の養子となり大正八年家督を相續し前名子太郎を改め襲名す同七年東京帝國大學醫科大學を卒業し太田醫院を經營し其院長たり義に醫學博士の學位を授けらる家族は尚長女正子（大一〇、五生）二男養（同一五、七生）あり（東京、赤坂、新町一ノ一五電青山五四一二）
參照＝阿久津三郎の項

太田正信　和歌山縣多額納稅者、福德無盡㈱取締役、農業、和歌山縣在籍
母　こう　明五、九生、和歌山、田中安右衛門二女
妻　正子　明二七、九生、和歌山、田中孫次郎三女
君は和歌山縣人太田正兵衛の二男にして明治二十五年十二月を以て生れ同三十二年家督を相續す農を營み福德無盡會社取締役にして直接國稅千百四十六圓を納め縣下の多額納稅者に列す妹ひさ（明二九、九生）は和歌山縣人米田亨一に叔母マン（同一七、一生）は同縣人野

太田壽之助　但馬銀行㈱常務取締役、北木電氣㈱監査役、兵庫縣在籍
慶應二、六生、兵庫、士、井上藤平長女
男　剛太郎　明一八、九生
婦　多喜枝　明二四、八生、長男剛太郎妻、兵庫、福田正三妹
孫　完　明四三、六生、長男剛太郎長男
孫　了二　明四四、一一生、長男剛太郎二男
孫　美子　大二、八生、長男剛太郎長女
孫　登久　大五、一二生、長男剛太郎二女
君は兵庫縣人太田治右衛門の長男にして慶應二年四月を以て生れ明治十九年家督を相續す現時前記各會社の重役にして義に甲子銀行專務取締役たり家族は尚孫集三（大四、一生、長男剛太郎三男）同潤子（同八、六生、同三女）同澄子（同一〇、七生、同四女）同晴野（同一二、四生、同五女）同節子（昭二、一生、同七女）同廣（同四、三生、同四男）あり妹りう（明元、七生）は兵庫縣人山田都夫に嫁し弟新太郎（同六、一生）は京都府人吉村伊助の婿養子となれり（兵庫、城崎、日高町）

太田秀穗　從四位勳四等、矯正院教官、多摩少年院長、茨城縣在籍
妻　とよ　明一四、一二生、靜岡、內田又市郎孫
男　一郎　明三五、六生、正七位、法學士、領事
男　三郎　明三八、四生、從七位、法學士、外交官補
男　七郎　明三九、一一生、早稻田大學院在學
女　百合子　明四二、三生、日本女子大家政科出身
女　さくら子　明四五、一生、日本女子大英文科在學
君は茨城縣人太田茂兵衛の四男にして明治七年十二月を以て生れ同四十年家督を相續す同三十一年東京帝國大學文科大學哲學科を卒業し山梨縣師範學校長新潟縣高田師範學校長野縣師範學校長朝鮮總督府視學官京城女子高等普通學校長滋賀縣師範學校長臺灣總督府師範學校長兼臺灣總督府視學官等を歷任し大正十二年現職に轉ず倫理學說批判の著書あり同七年支那に出張す家族は尚四男十一郎（大四、一二生）五男九州男（同六、九生）六男正巳（同九、一一生）七男孝（同一五、二生）あり（八王子市外田井村少年院官舍）

太田丙子郎　勳六等、大阪商船㈱專務取締役、大阪海上火災保險㈱取締役、東京屑物市場各㈱取締役、愛知縣士族
妻母　つれ　安政四、四生、愛知、前田立庵長女
妻　晩稻　明一九、九生、愛知、士、太田瑞穗長女
男　邦夫　大二、二生
君は茨城縣人小田倉伊豫之助の長男にして明治九年二月を以て生れ同三十五年先代晩稻の入夫となり家督を相續す同三十三年商船學校航海科を卒業し直に大阪商船會社に入り船長海務監督海務課長等を經て大正九年專務取締役に就任し今日に至る義に萬國勞働會議政府委員囑託として渡米せし事あり現に日本海事檢定協會理事海員協會相談役日本海員披濟會理事海事協同會委員港灣協會監事等に選ばれ又船員職業紹介所委員會港灣調査會勞働保險調査會海事法令調査委員會等の各委員を仰付けられ其任にあり家族は尚三女貞子（大九、一生）四女民子（同一二、一生）あり長女直子（明四一、五生）は東京府人大島秀夫に二女淑子（同四三、一生）は同府人山口由美に嫁し養兄稔（同一七、四生）は分家せりA二五七三（兵庫、武庫、本庄村青木五九二電御影一二八）

太田辨次郎　九州勸業、第一徵兵保險各㈱取締役、福岡縣在籍
父　清藏　文久三、八生、現戸主
妻　良子　明四〇、一〇生、佐賀、船津辰一郎長女、東京女學館出身
男　和郎　昭五、七生
君は福岡縣人太田清藏の二男にして同主助の養弟同新吉の實弟なり明治三十一年四月を以て生る大正十三年東京帝國大學經濟學部經濟學科を卒業し博多灣鐵道汽船會社に入り同社副支配人を經て現時前記各會社の重役たり圖藝寫眞洋畫を趣味とす家族は尚長女敦子（昭四、一生）ありA五〇四（東京市外東調布町下沼部七電田園調布三一八）
參照＝太田圭助、太田新吉、太田清藏、高西原連三、濱口儀兵衛の項

太田正孝　經濟學博士、衆議院議員（靜岡縣選出）、著述業、靜岡縣在籍
妻　フク　明三二、一二生、東京、鈴木正光養母
男　正文　大六、一生
女　澄子　大二、一一生
君は靜岡縣人太田萬吉の三男にして明治十九年十一月を以て生れ大正十年分れて一家を創立し前名庄吉を改む先是明治四十五年東京帝國大學法科大學經濟科を卒業し大正十三年經濟學博士の學位を授けらる著述業を營み保稅制度論經濟續本を始め其他著書多し昭年五年靜岡縣より推されて衆議院議員に當選し立憲政友會所屬たり義に報知新聞社副社長に擧げられ又商工審議會委員たり家族は尚二男孝（大八、七生）三女博子（同一〇、一一生）四女澤子（同一四、二生）五女長子（同一五、一〇生）あり三男正光（同一三、五生）は母フクの實家鈴木家に入れりA一二五（東京市外入新井町新井宿山王二六一六電大森五七八）

太田正隆　醫學博士、太田醫院長、醫師
東京府士族
安政四、九生、東京、田中鐵五郎長女
養母　しま　明三二、一一生、醫學博士阿久津三郎二女
妻　きく　隆　大一三、二生
君は群馬縣人書上イトの孫にして明治二十一年十二月を以て生れ先代正隆の養子となり大正八年家督を相續し前名子太郎を改め襲名す同七年東京帝國大學醫科大學を卒業し太田醫院を經營し其院長たり義に醫學博士の學位を授けらる家族は尚長女正子（大一〇、五生）二男養（同一五、七生）あり（東京、赤坂、新町一ノ一五電青山五四一二）
參照＝阿久津三郎の項

太田正信　和歌山縣多額納稅者、福德無盡㈱取締役、農業、和歌山縣在籍
母　こう　明五、九生、和歌山、田中安右衛門二女
妻　正子　明二七、九生、和歌山、田中孫次郎三女
君は和歌山縣人太田正兵衛の二男にして明治二十五年十二月を以て生れ同三十二年家督を相續す農を營み福德無盡會社取締役にして直接國稅千百四十六圓を納め縣下の多額納稅者に列す妹ひさ（明二九、九生）は和歌山縣人米田亨一に叔母マン（同一七、一生）は同縣人野

口鹿助長男源之進に嫁し叔父正右衛門（同元、七生）は同妻ふじゑ（同二、一二生、和歌山、土橋幸助長女）と共に叔父儀右衛門（同七、三生）同妻喜代乃（同一一、八生、和歌山、田中安右衛門三女）は共に各其子女を伴ひ分家し叔父儀三郎（同一九、一二生）従妹よれ（嘉永三、二生）も亦各分家し叔母ことめ（明二三、二生）は叔父儀三郎の家籍に入れり（和歌山、那賀、西貴志村）

参照＝太田儀右衛門の項

太田政弘　従三位勲二等、貴族院議員、臺灣總督、山形縣士族

母　もと　嘉永五、一生、山形、庄司久三郎三女

妻　タミエ　明二二、三生、秋田、士、小田部家貞妹

男　政明　明四〇、七生

君は山形縣士族太田政道の長男にして明治三年十月を以て生れ同六年家督を相續す同三十一年東京帝國大學法科大學を卒業し文官高等試驗に合格す三重縣參事官宮崎島根愛媛各縣警察部長警視廳官房主事内務省警保局長廳島石川熊本新潟愛知各縣知事等に歴任し大正三年警視總監に任ぜられ後之を辭す昭和四年關東長官に勅選ぜらる家族は尚四男政知（大二、九生）五男政信（同七、一〇生）七女久仁子（同九、九生）あり長女千枝子（同三二、一〇生）は山形縣人横山賢道養子正に二女道子（同三八、一生）は高知縣人島田左右弟昌勢に妹あやめ（同一五、六生）は海軍中將岡崎貞伍に同やゑ（同二一、八生）は山口縣人松村忠治弟才知に同さかゑ（同一三、二生）は三重縣人平賀正文に嫁せり（臺北、臺灣總督官舍）

参照＝岡崎貞伍、横山正の項

太田光熙　従六位勲五等、京阪電氣鐵道、合同電氣各穂社長、大同電力穂副社長國東鐵道、東洋電機製造、新阪神土地、阪和電氣鐵道各穂取締役、東洋車輛、大同土地興業、奈良電氣鐵道、昭和電力、澱勢電力、東京手急行電鐵、日本映畫劇場各穂監査役、鞍馬電氣鐵道穂顧問

妻　ノブ　明一四、二生、東京、士、山形俊信長女

男　重光　明三六、八生

女　高子　明四二、一二生

君は山口縣士族大庭景明の二男にして明治七年十月を以て生れ先代小三郎の養子となり大正五年家督を相續す明治三十一年東京帝國大學を卒業し文官高等試驗に合格す三重縣參事官を歴任し後實業界に投じ現に京阪電氣鐵道會社長の外前掲諸會社の重役として知られ蠶に鐵道會議々員たり家族は尚三男顯光（明四五、二生）四男定光（大四、一生）あり二男貴光（明三九、一〇生）は福岡縣人鷹羽サクの養子となれり（大阪、北河内、川越村）

太田保太郎　東田鐵工所、摩耶鋼索鐵道各穂社長、川崎汽船、阪神國道自動車各穂監査役、辯護士、兵庫縣士族

妻　そと　明一一、八生、兵庫、福岡まさ養母

男　稠夫　明二四、六生

男　たか　明二九、一一生、長男稠夫妻、京都、小林太一妹

男　輝夫　明三八、七生

女　鈴子　明四三、五生

君は新潟縣士族太田環の長男にして安政六年三月を以て生れ明治十八年家督を相續す同年東京大學法學部を卒業し檢事となり後辭して辯護士を業とし傍ら前記諸會社の重役たり家族は尚孫サヨ子（大六、七生、長男稠夫長女）同秀男（昭二、九生、同長男）あり妹ミキ（明元、三生）は兵庫縣人福田俊夫に嫁せり（神戸、中山手通六ノ二八電話元町六六）

太田康治　従五位勲六等、農林技師、水産局勤務、東京府在籍

妻　ワサ　明二八、五生、秋田、江畑省三妹

男　隆治　大九、一生

君は東京府人太田卯兵衛の男にして明治二十三年七月を以て生れ大正四年家督を相續す同三年東京帝國大學農科大學水産學科を卒業し同副手同助手農商務技手兼水産講習所技師農商務技師を歴任し同十四年農林技師に任ぜられ水産局に勤務す昭和五年隊米各國出張を命ぜらるる家族は尚長女きぬゑ（大七、一生）二女すみゑ（同一五、七生）二男賢治（同一二、八生）三女ふみゑ（同一五、七生）二男稠（昭三、八生）あり（留守宅東京、北多摩、保谷村下保谷四二五）

太田勇治郎　従五位勲六等、農林技師、山林局勤務、宮城縣在籍

妻　美和子　明三四、三生、富山、鷲尾源治郎長女

男　研太郎　大八、一二生

君は宮城縣人太田勇助の二男にして明治二十三年十二月を以て生れ大正四年東京帝國大學農科大學林學科を卒業し山林技手山林技師となり同十二年農林技師に任ぜられ山林局に勤務し今日に至る昭和三年歐米各國に出張同五年歸朝す（農林省山林局林務課内）

太田興市　神奈川縣多額納稅者、越前屋穂社長、吳服商、神奈川縣在籍

男　幸治郎　明四二、七生

養子　美之助　明二九、一二生、長女コウ夫、東京、小川長治郎二男

女　コウ　明三三、四生、養子美之助妻

女　好　明三五、九生

女　喜久　明三七、八生

君は岐阜縣人小川長治郎の弟にして慶應二年五月を以て生れ先代興市の養子となり明治三十七年家督を相續し前名留彌を改む吳服商を替み越前屋社長にして直接國稅三千五百五十八圓を納め神奈川縣多額納稅者たり蠶に横濱商工會議所議員たり家族は尚孫幸市（大二一、一一生、養子美之助長男）同次郎（同一四、一二生、同二男）あり養妹ミキ（明一二、一一生）は東京府人松井市太郎に嫁せり（横濱、中、伊勢佐木町二ノ二二電長者町二三〇）

太田利兵衛　遠利商店、東京精米各穂取締役、磐城セメント穂監査役、東京府在籍

妻　まさよ　明一三、五生、靜岡、村上保郎姉

男　利一郎　明三四、三生

男　竹二郎　明三五、九生

女　佐芳子　大三、八生

君は東京府人先代利兵衛の二男にして明治十一年三月を以て生れ同三十七年家督を相續し前名新七を改む現時前記諸會社の重役たり長女喜代（明四一、五生、東京府立第三高女出身）は東京府人片岡孔一に嫁せり（東京、日本橋、飯島町一ノ二一電茅場町一七五〇）

参照＝村上保郎の項

太田良輔　新潟縣多額納稅者、百三十九銀行穂監査役、農業、新潟縣在籍

男　誠治　明三六、一〇生

婦　ト　明四四、一生、長男誠治妻、新潟高橋進長女

女　龍　明四一、五生

男　直治　明四三、八生

君は新潟縣人太田孫次右衛門の長男にして明治七年二月を以て生れ同四十四年家督を相續す同二十七年早稻田大學英語普通科を卒業し農業を替み百三十九銀行監査役にして直接國稅二千百八十三圓を納め縣下の多額納稅者たり家族は尚三男修次（大五、三生）五女チイ（同八、一一生）妹フジ（明二四、二生）あり長女トミ（同三四、八生）は新潟縣人池田泰治に二女よし（同三九、三生）は同縣人内山寛に嫁し弟恭治（同一七、二生）は長野縣人福澤泰江の養子となれり（新潟、中甄城美守村）

太田代唯六　正五位勲六等、理學博士、桐生高等工業學校教授、岩手縣在籍

養父　小兵衛　安政四、一〇生、岩手、白畑幸助弟、現戸主

妻　エミコ　明二三、五生、養父小兵衛長女

男　元彦　明四一、三生

女　テル　大五、四生

君は三重縣人松井米市郎の弟にして明治十四年九月を以て生れ同三十三年現戸主小兵衛の養子となる同四十一年東京帝國大學理科大學實驗物理科を卒業し千葉縣立園藝專門學校教諭桐生高等染織學校教授宇都宮高等農林學校教授等に歴任し大正十五年理學博士の學位を受け現時桐生高等工業學校教授たり家族は尚ほ三男享（明四五、三生）二女タヅ（大八、三生）あり（桐生、安樂土）

太田原俊　東京市技師、電氣局技術長兼電氣研究所長、東京府在籍

妻　富佐　明二五、四生、岐阜、士、吉川三次郎長女

男　宏　大六、五生

女　園　明四五、三生

君は東京府人太田原則孝の二男にして明治十三年一月を以て生る同三十六年京都帝國大學理工科大學を卒業し現に東京市技師にして電氣局技術長兼電氣研究所長たり家族は尚三女富美（大八、一二生）兄逢（明九、一一生、現戸主）同妻シゲ（同一九、二生、東京、串田卯一妹）及其子女あり（東京、本郷、駒込西片町一〇ヘノ一二電小石川一八九九）

逢坂佐七　大日本紡績、日本レイヨン各穂取締役、德島縣在籍

男　弘邦　明四三、九生

君は德島縣人逢坂平次郎の三男にして林雄助の弟逢坂幸衛の兄なり明治十年十二月を以て生れ大正八年分れて一家を創立す現時大日本紡績會社取締役たる外前記會社の重役たり家族は尚四男五郎（大七、六生）あり（尾崎、竹谷町新田村）

参照＝逢坂幸衛、林雄助の項

逢坂幸衛　日本綿花穂甲谷陀支店長、德島縣在籍

妻　章子　明三〇、一〇生、兵庫、神戸俊次郎妹

男　昭二、五生

君は德島縣人逢坂平次郎の四男にして明治二十年六月を以て生る同四十一年長崎高等商樂學校を卒業し同四十四年日本綿花會社に入り漢口支店香港支店同支店長を經て同十四年甲谷陀心得を歴任し大正七年同支店長を經て同十四年甲谷陀支店長となり今日に至る家族は尚長女敏子（大一四、二生）二女久子（昭五、一生）兄平次郎（明四、四生、現戸主）同妻タニ（同六、九生、德島、城西米藏二女）あり兄雄助（同八、一生）は德島縣人林角次の養子となり當主にして同佐七（同一〇、一二生）は分家し姉ヒデエ（同一三、三生）は德島縣人由良利平長男種太郎に同ヤエ（同一六、三生）は同縣人青山市五郎二男惠貞に嫁せり（印度、甲谷陀、クライブ街日本綿花會社甲谷陀支店内）

参照＝逢坂佐七、林雄助の項

逢阪彌　興行主、大阪府在籍

妻　マサ　明四、六生、大阪、士、仲村一男長女

男　久　明二九、三生、大阪、荒木市松二女

女　大一四、八生

君は大阪興行界の雄たりし先代彌の三男にして明治二十三年五月を以て生れ大正八年家督相續と共に襲名し前名英夫を改む父業を繼承して興行界に飛躍す大阪市會議員綜波聯合學務委員に選ばれ蠶に大阪無盡會社（取締役たりしことあり家族は尚長女英子（大八、六生二女喜代子（同一二、二生）妹千代（明四二、五生、河原町實科女學校出身）あり姉貞子（同二〇、四生）は大阪府人前田治兵衛長男竹次郎に妹きぬ（同四〇、三生、夕陽丘高女出身）は兵庫縣人上山與作長男政治に嫁し同しな（同四一、一七生、清水谷高女出身）は大阪府人仲村ぬいの養子となれり（大阪、浪速、河原町一ノ一五一四ノ九電西三八八五）

参照＝上山與作の項

翁長良保　旭硝子穂總務課長、東京府在籍

妻　ツル　明二八、八生、東京、百名朝計二女

男　一彦　昭四、八生

君は沖縄縣士族翁長良茂の四男にして明治二十三年四月を以て生れ大正五年分れて一家を創立す同年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し旭硝子會社に入り大正十三年歐米各國外遊現時旭硝子會社總務課長たり家族は尚長女恭子（大八、一〇生）二女文子（同九、五生）三女幸子（同一一、八生）四女洋子（同一五、八生）あり A一六一（東京、芝、白金三光町二七六電高輪三七二四）

樗木航五郎　大阪株式取引所穂支配人、鹿兒島縣士族

母　和理　明三、二生、鹿兒島、橋本友右衛門四女

妻　ハル　明二九、四生、熊本、黒田重平養子

男　航三郎　大一〇、二生

君は鹿兒島縣人前原記實の長男にして明治二十七年三月を以て生れ先代スエの養子となり大正四年家督を相續す現時大阪株式取引所支配人たり家族は尚長女スミ（大六、五生）二女太喜（同八、二生）あり A四九八（兵庫、武庫、精道村打出折上一四電蘆屋二六四六）

扇眞助　家主、兵庫縣在籍

妻　コト　明二三、六生、大阪、酒井安太郎姉

男　直三郎　大一〇、一一生

君は大阪府人先代眞助の庶子にして明治二十二年九月を以て生れ大正五年家督を相續し前名直次郎を改め襲名す家主たり家族は尚三女尚子（大九、一生）あり長女喜代子（明四五、二生）は分家扇家を相續せり A九一二

（兵庫、武庫、住吉村畔倉一〇九四電御影五一四五）
参照＝酒井安太郎氏酒井新治郎氏酒井安之助の項

扇田彦助　森田商會、樟太合同運送各種取締役、樟太在籍
妻　ミヨ　明二一、九生、北海道、湊春松長女
男　彦一　明四四、四生
君は三重縣人扇田市兵衛の四男にして明治九年十二月を以て生れ大正十三年兄安之助方より分れて一家を創立す現時前記會社の重役にして養に大泊商業會議所會頭たりし事あり家族は尚二男正二（大二、七生）あり長女花（明四二、九生）は福岡縣人千藏牧造長男保臣に嫁せり（樟太、大泊、大泊町）

正親町公和　正四位、伯爵　舊公卿家
母　安政六、一二生、侯爵中山輔親大叔母
妻　兎美子　明二〇、九生、伯爵大谷光暢叔母
綾子　明四、一生
男　公秀　大四、一生
當家は太政大臣西園寺公經三代の孫實有より十代權大納言季秀の二男參議季俊の後なり世々樂通を掌り其邸正親町に在りしを以て家號とす五代公堇の長男にして明治十七年伯爵を授けられ侍從宮內省御用掛埼玉縣知事賞勳局總裁侍從長等に歷任し貴族院議員に當選すること四回に及ぶ君は其長男にして明治十四年十月を以て生れ大正十二年襲爵す明治三十九年學習院高等科を卒業東京帝國大學英文科に學ぶ養に八千代生命保險會社に勤務し後東京電工日本物產等諸會社の重役たりしことあり家族は尚三男實篤（大七、二生）四男公朋（同八、三生）妹輝子（明三四、八生）叔母鐘子（慶應二、一一生）あり妹靜子（明一七、二生）は公爵三條公輝に嫁し弟實慶（同二〇、六生、經濟學士）は分家し叔母春香（慶應元、一生）は子爵園池公致の母にして同彌榮子（文久元、二〇）は子爵牧野一成の母たり（東京市外淀橋町柏木一〇一一電四谷二五九一）
参照＝公爵三條公輝、侯爵中山輔親、伯爵大谷光暢子爵園池公致、子爵牧野一成氏公爵九條道實氏侯爵菊亭公長氏侯爵蜷川公勝氏子爵今城定政氏子爵錦織保親氏男爵渡邊修二氏小田久太郎氏大谷勝眞氏大谷瑩亮氏二條秀曉氏和田久左衛門氏森平藏の項

近江源兵衛　大阪府多額納稅者、豐國殖產㈱代表取締役、近江屋、地家主　大阪府在籍
男　源十郎　明二七、七生
婦　よね　明三二、六生、二男源十郎妻、大阪、山田利兵衛妹
男　春　明三九、五生
君は大阪府人先代源兵衛の長男にして明治三年七月を以て生れ同十六年家督を相續し前名永吉を改め襲名す地家主にして傍ら豐國殖產會社代表取締役たり又大阪府多額納稅者に列す家族は尚孫源一郎（大八、五生、二男源十郎長男）同永二郎（同九、六生、同二男）同健三郎（同一一、七生、同三男）同貞子（同一四、九生、同長女）同彦四郎（昭三、一生、同四男）同久子（同四、三生、同二女）あり二女タネ（明二八、一二生）は大阪府人小魚クラの養子となり五女マサ（同三五、一〇生）は同夫慶藏（同三一、九生、兵庫、筒井千太郎二男）に從ひ分家し四男德三（同四二、六生）は前記タネの相續人となり當主たり（大阪、南、高津町四番丁四七電戎二九〇四）
参照＝小魚德三の項

近江時五郎　臺灣水產㈱取締役社長、芦隆船渠㈱專務、取締役、臺北魚市場、太平洋炭礦、臺陽鑛業、各種取締役、臺灣炭礦、臺灣土地建物、木村商事、臺灣炭礦各種監査役、秋田縣在籍
妻　サワ　明七、二生、山梨、河野久兵衛長女
男　正　明三七、一生
君は秋田縣人近江四方吉の三男にして明治三年十二月を以て生れ後近江峯吉の養子となり同十五年家督を相續す現時臺灣水產會社取締役社長たる外前記諸會社の重役たり長女保子（明二五、一一生）は群馬縣人常見辨次郎に嫁せり（東京市外代々木幡町代々木初臺五六三）

丘淺次郎　從三位勳二等、理學博士、帝國學士院會員、東京高等師範學校名譽教授、日本動物學會長、東京府在籍
妻　つき　明七、一〇生、男爵岩村一木姉
男　英通　明三五、一〇生、理學士
婦　喜美子　明四二、三生、三男英通妻、理學博士山崎直方二女、第二高女出身
男　正通　明三八、一生、商學士
婦　梅　明四〇、二生、四男正通妻、東京士、安部成嘉三女
男　直通　明四二、一生
君は靜岡縣人丘秀興の二男にして明治元年十一月を以て生れ同十六年兄恒太郎の後を承け家督を相續す同二十二年東京帝國大學選科動物學科を修業し後獨逸フライブルグ、ライプチヒ各大學に於て動植物地質學を修めドクトル・デル・フイロソフイーの學位を得同二十七年歸朝し翌二十八年理學博士の學位を受け山口高等學校教授に任ぜられ同三十年東京高等師範學校教授に轉じ昭和四年同校名譽教授となる又帝國學士院會員にして日本動物學會長に擧げらる名著進化論講話其他生物學に關する著作多し長女ひさ（明四〇、八生）は文學博士佐々木信綱二男經濟學士文綱に嫁せり（東京、牛込、市ケ谷河田町一七電牛込四九六〇）
参照＝男爵岩村一木、安部成嘉、佐々木信綱氏男爵伊賀氏英氏男爵岩村博氏岩村俊武氏岩村通世の項

岡伊右衛門　滋賀縣多額納稅者、八幡銀行㈱取締役、醬油商、滋賀縣在籍
妻　はる　明二三、五生、滋賀、矢尾喜兵衛妹
男　一雄　大六、五生
女　きぬ　明四五、一生
女　千代　大四、九生
君は滋賀縣人先代伊右衛門の長男にして明治十九年九月を以て生れ同三十七年家督を相續し前名伊太郎を改め襲名す醬油商を營み傍ら八幡銀行取締役にして直接國稅千百四十四圓を納め縣下の多額納稅者に列す家族は尚二男博司（大一一、七生）あり（滋賀、蒲生、日野町電一二七）
参照＝矢尾喜兵衛氏田附竹治郎氏山中兵右衛門の項

岡伊作　石川縣多額納稅者、能作商店、漆商、石川縣在籍
妻　玉城　明四二、一〇生、石川、酢屋安吉
養子　きつ　明四、七生、父能作長女
男　宗作　明四〇、六生、早大商科出身
女　静子　大五、四生
君は石川縣人岡能作の庶子にして明治十四年三月を以て生れ先代きつの養子となり同三十九年家督を相續す屋號を能作商店と稱し漆商を營み代を重ること五代開業以來百十餘年に及ぶ直接國稅九百六十七圓を納め縣下の多額納稅者に列し二十餘年引續き金澤漆業組合長に推され現に其職に在る外各種の名譽職に擧げらる先々代能作は書畫骨董に趣味を有し藏器拂なからず家代々佛教を奉ずること厚く現に本願寺本山勸定たり家族は尚二男外喜雄（大二、八生）三男博（同六、一〇生）四男秀男（同一一、九生）五男昭治（昭二、一生）あり
A一一八八B二〇一（金澤、安江町六電四四三）

岡喜七郎　從三位勳一等、貴族院議員　東京府士族
妻　ゆう　明五、六生、養父敬孝二女
男　鐵　明三九、五生、松戸園藝學校出身
婦　玉　明三七、三生、長男鐵妻、兵庫、河野岩吉六女
岡家は舊幕臣にして旗本の家柄なり世々本所外手町に住す君は岡山縣人伊丹喜三郎の長男にして明治元年四月を以て生れ先代敬孝の養子となり同三十一年家督を相續す同二十四年帝國大學法科大學英法科を卒業し爾來內務省試補鳥取縣參事官青森縣內務省大阪府各書記官秋田鳥取各縣知事統監府警務總長同參與官內務省警保局長警視總監等に歷任し大正三年貴族院議員に勅任せらる（東京、赤坂、青山南町五ノ五三電青山一九五〇）
参照＝眞野文二氏石井銀彌の項

岡景助　宮島ホテル㈱監査役、大日本麥酒㈱大阪支店長、三重縣士族
妻　タツヘ　明一五、八生、奈良、藥師院保實姉
男　泰三　大五、六生
女　律　明四一、八生
女　潤　明三、七生
女　秀　大三、五生
君は三重縣士族岡詮の三男にして明治十一年三月を以て生れ同三十七年家督を相續す同三十四年東京專修學校理財科を卒業し大日本麥酒會社に入り同社調査部主事大阪支店經理課長等を經て現時同社大阪支店長にして傍ら前記會社の重役たりA九九一（大阪、三島、吹田町糸田三三四ノ一電吹田二六）

岡慶治　從四位勳三等、判事、和歌山地方裁判所長、岡山縣在籍
妻　寿治　明二〇、六生、岡山、本郷牛次郎長女
男　清隆　明四〇、九生
男　正廣　明四二、九生
君は岡山縣人岡壽郎の伯父にして明治七年四月を以て生れ同四十四年分れて一家を創立す同三十五年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し同三十七年判事に任じ東京地方同區各裁判所判事を歷任し大正三年再び判事に任じ爾來神戸地方裁判所部長大阪東京各地方裁判所判事浦和地方裁判所長宇都宮地方裁判所長等に歷補し昭和五年現職和歌山地方裁判所長に補せらる家族は尚三男信男（大二、四生）五男悅郎（同一五、三生）あり長女千代子（明三八、一〇生）は千葉縣人竹村義徹に嫁せり（和歌山市地方裁判所內）
参照＝本郷牛次郎氏菅澤武三郎の項

岡今朝雄　正四位勳三等、會計檢査院部長、第二部長、會計檢査官懲戒裁判所裁判官、佐賀縣士族
妻　タネ　明二一、三生、佐賀、士、川原善太郎二女
養子　次郎　明三五、五生、長女春子夫、佐賀、東馬一郎弟
女　春子　明四三、三生、養子次郎妻
君は佐賀縣士族岡新十郎の長男にして明治十二年五月を以て生れ大正十一年家督を相續す明治三十七年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し同年文官高等試驗に合格す直に稅務屬兼大藏屬に任じ爾來稅務監督局事務官兼廳務局事務官檢査官補副檢査官朝鮮總督府事務官同府警林廳長檢査官等に歷任し現時會計檢査院第二部長にして會計檢査官懲戒裁判所裁判官たり家族は尚孫正太郎（昭六、一生、養子次郎長男）弟英雄（明一五、一生）同妻ツシ（同二一、八生、佐賀、草村榮次郎養子）同二男（同三九、一〇生、弟英雄長女）及其子女あり姪千代子（同三九、一〇生、弟英雄長五女）は鳥取縣人大谷勇に嫁し同久子（大五、四生、同女）は佐賀縣人喜多儀一の養子となれり（東京市外巢鴨町三ノ二六電大塚二〇四一）

岡俊二　正五位、男爵　東京府華族
妻　春子　明三七、一生、東京、士、磯部正春二女、双葉高女出身
男　保正　大一四、五生
當家は先代玄卿より其名を揭ぐ玄卿は舊石州津和野藩士にして明治九年東京大學醫學部を卒業して獨逸に留學し歸朝後東京大學助教授侍醫寮頭侍醫寮御用掛宮中顧問官等に歷任し醫學博士の學位を受け同四十年勳功に依り華族に列し男爵を授けらる君は其長男にして明治三十二年八月を以て生れ大正十四年家督を相續し襲爵仰付けらる同十年學習院高等科を同十四年東京帝國大學經濟學部商業學科を卒業し現時第一生命保險相互會社に勤務す家族は尚長女芳子（昭五、二生）あり養兄清一（明一四、八生、東京、渡邊萬助庶子）は分家せり（神奈川、鎌倉、鎌倉町長谷二四）

岡昇平　東京飼料、松本米穀製粉各種取締役、東京米穀商品取引所正米部取引員、東京府在籍
妻　なみ　明二三、九生、埼玉、加賀崎喜代三郎二女
養子　金作　明三五、四生、養子菊代夫、東京福島傳助二男
養子　菊代　明三六、一〇生、養子金作妻、埼玉、岡眞平二女
君は埼玉縣人岡眞平の弟にして明治十三年一月を以て生れ昭和二年分れて一家を創立す東京米穀商品取引所正米部取引員にして傍ら前記各會社の重役たり家族は尚孫忠男（昭四、四生、養子金作長男）あり（東京、深川佐賀町二ノ五七電本所六一〇四）

岡善吉　京都瓦斯㈱取締役兼支配人　滋賀縣在籍
妻　勝　明二七、七生、滋賀、士、久村靜彌六女
男　健太郎　昭二、三生
君は滋賀縣人岡吉兵衛の三男にして明治二十年九月を以て生れ大正五年兄藤三方より分れて一家を創立す明治四十一年立命館大學を卒業し現時京都瓦斯會社取締役兼支配人たり家族は尚長女美江子（大一〇、六生）二女京子（同一四、五生）三女貞子（昭四、八生）ありA一六〇〇（京都、東山、東山通五條上ル電祇園三五一二）

岡宗一郎　滋賀縣多額納稅者、醬油釀造業　滋賀縣在籍
妻　くま　慶應二、三生、滋賀、士、林周吉姉
男　直三郎　明二五、七生、現戶主、滋賀縣多額納稅者

業以來百十餘年に及ぶ直接國稅九百六十七圓を納め縣下の多額納稅者に列し二十餘年引續き金澤漆業組合長に推され現に其職に在る外各種の名譽職に擧げらる先々代能作は書畫骨董に趣味を有し藏器拂なからず家代々佛教を奉ずること厚く現に本願寺本山勸定たり家族は尚二男外喜雄（大二、八生）三男博（同六、一〇生）四男秀男（同一一、九生）五男昭治（昭二、一生）あり
A一一八八B二〇一（金澤、安江町六電四四三）

岡喜七郎　從三位勳一等、貴族院議員　東京府士族
妻　ゆう　明五、六生、養父敬孝二女
嘉永元、七生、東京、士、眞野文二叔母
男　鐵　明三九、五生、松戸園藝學校出身
婦　玉　明三七、三生、長男鐵妻、兵庫、河野岩吉六女
岡家は舊幕臣にして旗本の家柄なり世々本所外手町に住す君は岡山縣人伊丹喜三郎の長男にして明治元年四月を以て生れ先代敬孝の養子となり同三十一年家督を相續す同二十四年帝國大學法科大學英法科を卒業し爾來內務省試補鳥取縣參事官青森縣內務省大阪府各書記官秋田鳥取各縣知事統監府警務總長同參與官內務省警保局長警視總監等に歷任し大正三年貴族院議員に勅任せらる（東京、赤坂、青山南町五ノ五三電青山一九五〇）
参照＝眞野文二氏石井銀彌の項

岡景助　宮島ホテル㈱監査役、大日本麥酒㈱大阪支店長、三重縣士族
妻　タツヘ　明一五、八生、奈良、藥師院保實姉
男　泰三　大五、六生
女　律　明四一、八生
女　潤　明三、七生
女　秀　大三、五生
君は三重縣士族岡詮の三男にして明治十一年三月を以て生れ同三十七年家督を相續す同三十四年東京專修學校理財科を卒業し大日本麥酒會社に入り同社調査部主事大阪支店經理課長等を經て現時同社大阪支店長にして傍ら前記會社の重役たりA九九一（大阪、三島、吹田町糸田三三四ノ一電吹田二六）

岡慶治　從四位勳三等、判事、和歌山地方裁判所長、岡山縣在籍
妻　寿治　明二〇、六生、岡山、本郷牛次郎長女
男　清隆　明四〇、九生
男　正廣　明四二、九生
君は岡山縣人岡壽郎の伯父にして明治七年四月を以て生れ同四十四年分れて一家を創立す同三十五年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し同三十七年判事に任じ東京地方同區各裁判所判事を歷任し大正三年再び判事に任じ爾來神戸地方裁判所部長大阪東京各地方裁判所判事浦和地方裁判所長宇都宮地方裁判所長等に歷補し昭和五年現職和歌山地方裁判所長に補せらる家族は尚三男信男（大二、四生）五男悅郎（同一五、三生）あり長女千代子（明三八、一〇生）は千葉縣人竹村義徹に嫁せり（和歌山市地方裁判所內）
参照＝本郷牛次郎氏菅澤武三郎の項

岡今朝雄　正四位勳三等、會計檢査院部長、第二部長、會計檢査官懲戒裁判所裁判官、佐賀縣士族
妻　タネ　明二一、三生、佐賀、士、川原善太郎二女
養子　次郎　明三五、五生、長女春子夫、佐賀、東馬一郎弟
女　春子　明四三、三生、養子次郎妻
君は佐賀縣士族岡新十郎の長男にして明治十二年五月を以て生れ大正十一年家督を相續す明治三十七年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し同年文官高等試驗に合格す直に稅務屬兼大藏屬に任じ爾來稅務監督局事務官兼廳務局事務官檢査官補副檢査官朝鮮總督府事務官同府警林廳長檢査官等に歷任し現時會計檢査院第二部長にして會計檢査官懲戒裁判所裁判官たり家族は尚孫正太郎（昭六、一生、養子次郎長男）弟英雄（明一五、一生）同妻ツシ（同二一、八生、佐賀、草村榮次郎養子）同二男（同三九、一〇生、弟英雄長女）及其子女あり姪千代子（同三九、一〇生、弟英雄長五女）は鳥取縣人大谷勇に嫁し同久子（大五、四生、同女）は佐賀縣人喜多儀一の養子となれり（東京市外巢鴨町三ノ二六電大塚二〇四一）

岡俊二　正五位、男爵　東京府華族
妻　春子　明三七、一生、東京、士、磯部正春二女、双葉高女出身
男　保正　大一四、五生
當家は先代玄卿より其名を揭ぐ玄卿は舊石州津和野藩士にして明治九年東京大學醫學部を卒業して獨逸に留學し歸朝後東京大學助教授侍醫寮頭侍醫寮御用掛宮中顧問官等に歷任し醫學博士の學位を受け同四十年勳功に依り華族に列し男爵を授けらる君は其長男にして明治三十二年八月を以て生れ大正十四年家督を相續し襲爵仰付けらる同十年學習院高等科を同十四年東京帝國大學經濟學部商業學科を卒業し現時第一生命保險相互會社に勤務す家族は尚長女芳子（昭五、二生）あり養兄清一（明一四、八生、東京、渡邊萬助庶子）は分家せり（神奈川、鎌倉、鎌倉町長谷二四）

岡昇平　東京飼料、松本米穀製粉各種取締役、東京米穀商品取引所正米部取引員、東京府在籍
妻　なみ　明二三、九生、埼玉、加賀崎喜代三郎二女
養子　金作　明三五、四生、養子菊代夫、東京福島傳助二男
養子　菊代　明三六、一〇生、養子金作妻、埼玉、岡眞平二女
君は埼玉縣人岡眞平の弟にして明治十三年一月を以て生れ昭和二年分れて一家を創立す東京米穀商品取引所正米部取引員にして傍ら前記各會社の重役たり家族は尚孫忠男（昭四、四生、養子金作長男）あり（東京、深川佐賀町二ノ五七電本所六一〇四）

岡善吉　京都瓦斯㈱取締役兼支配人　滋賀縣在籍
妻　勝　明二七、七生、滋賀、士、久村靜彌六女
男　健太郎　昭二、三生
君は滋賀縣人岡吉兵衛の三男にして明治二十年九月を以て生れ大正五年兄藤三方より分れて一家を創立す明治四十一年立命館大學を卒業し現時京都瓦斯會社取締役兼支配人たり家族は尚長女美江子（大一〇、六生）二女京子（同一四、五生）三女貞子（昭四、八生）ありA一六〇〇（京都、東山、東山通五條上ル電祇園三五一二）

岡宗一郎　滋賀縣多額納稅者、醬油釀造業　滋賀縣在籍
妻　くま　慶應二、三生、滋賀、士、林周吉姉
男　直三郎　明二五、七生、現戶主、滋賀縣多額納稅者

婦　ちい　明三二、三生、二男直三郎妻、滋賀、伊夫伎直一妹

女　花　明四一、五生、日野實科高女出身

君は滋賀縣人木本木利兵衛の四男にして安政五年十月を以て生れ先々代宗一郎の養子となり明治二十二年家督相續と共に前名直治郎を改め襲名し大正十五年退隠す醤油醸造業を營み直接國税五千六百四十一圓を納め縣下の多額納税者に列す家族は尙孫除子（大一〇、三生、二男直三郎長女）同愛子（同一二、一二生、同二女）同岡子（同一五、八生、同三女）同慶子（昭三、七生、同四女）あり二女さと（明三五、一生）は愛知縣人鈴木正七に嫁せり（滋賀、帶生、錄掛村電日野七〇）

岡　胤信

從五位勳五等、工學博士、大林組穢顧問、東京府士族

男　新　明二三、七生

婦　郁子　明三四、一一生、長男新妻、島根內垣實衛長女

男　千勝　明二七、一二生

君は東京府士族淺尾胤篤の二男にして安政六年十二月を以て生れ後先代昌輪の養子となり家督を相續す明治十三年東京帝國大學工科大學土木工學科を卒業し內務省御用掛同五等技師第六區第七區各土木監督署長大阪市築港事務所技師等に歷任す後官を辭し現に大林組顧問たり同三十二年工學博士の學位を受く家族は尙孫一郎（大一四、五生、長男新長男）同信子（昭四、八生、同二女）あり二女三枝（明二一、三生）は三重縣士族日比重明長男法學士重雅に嫁せり（東京、本郷、駒込上富士前町七三電小石川七六〇）

參照＝家秋山喜藏家淺野順一の項

岡　長平

津商工會議所常議員、三重人造絹絲穢社長、岡牛商事、津魚市場各穢取締役、三重縣在籍

養母　とく　慶應元、八生、三重、川嶋喜左衛門三女

妻　はる　明二五、一一生、三重、松浦高麗三三女

女　正子　大元、一一生

君は三重縣人笹野長生の甥にして明治十五年四月を以て生れ先代半右衛門の養子となり昭和三年家督を相續す現時三重人造絹絲會社長の外前記各會社の重役に擧げられ推されて津商工會議所常議員たり（津、北濱町八〇一）

岡　德治郎

從五位、上田蠶絲專門學校教授、三重縣在籍

妻　タカ　明三一、八生、三重、本居政章二女

君は三重縣人岡正榮の五男にして明治十八年を以て生れ大正五年兄善助方より分れて一家を創立す同三年東京帝國大學工科大學機械學科を卒業し同十年上田蠶絲專門學校教授に任じ昭和四年英獨米に留學す家族は尙長女綾子（大七、二生）二女きゐ子（同一一、二生）三女滿子（同一三、四生）あり（上田、上田五五五三）

岡　虎太郎

勳六等、南滿洲鐵道穢理事、岡山縣在籍

母　春　文久三、九生、岡山、太田要吉二女

妻　梅野　明二九、五生、愛媛、村上三郎二女

男　鐵太郎　大六、九生

女　雲子　大四、九生

君は岡山縣人岡圓太郎の長男にして明治六年十月を以て生れ大正十二年家督を相續す明治三十九年京都帝國大學法科大學を卒業し翌四十年南滿洲鐵道會社書記に任ぜられ同四十四年獨墺に留學し歸朝後大連管理局營業課長總務部監査課長鞍山製鐵所次長奉天役等に擧げられ大正十二年再び米國に出張し歸朝後同社興業部長となり同十四年同社理事に擧げられ現在に至る家族は尙二男健治郎（大九、一一生）二女靜子（同一二、三生）弟精二（明二一、一二生、岡山縣多額納税者、醤油釀造業）同妻ノリコ（同一五、一生、廣島、豐田芳郎四女）あり（大連、乃木町九）

參照＝豐田芳郎の項

岡　甫

愛國貯金銀行穢頭取、日本信託銀行穢明正社長、愛宕山鐵道各穢取締役、新大阪土地、新阪神土地各穢監査役、東京府士族

母　シン　文久元、七生、組父正甫長女

妻　トヨ　明三六、一二生、大阪、今澤彌七二女

君は東京府士族岡正矣の長男にして明治十七年十月を以て生れ大正六年家督を相續す現時愛國貯金銀行頭取たる外前記銀行會社の重役たり家族は尙妹つる（大五、二生）あり同高麗（明三九、一〇生）は東京府人高橋秀晴に嫁し現に弟正雄（同四三、一〇生）は分家せり（大阪、西、江戸堀南通一ノ三八電本局五〇一一）

岡　治光

諏訪銀行穢頭取、山梨縣在籍

母　もと　慶應元、一二生、山梨、竹居治三女

妻　さう　明二九、五生、山梨、矢澤覺三女

男　治保　大一〇、二生

君は山梨縣人岡源八の二男にして明治二十三年十一月を以て生れ大正八年家督を相續す夙に明治大學に學び先代の遺業たる諏訪銀行の經營に任じ現時同行頭取たり家族は尙長女治子（大六、一二生）二男治良（同一三、五生）妹鴻子（明三二、二生）あり姉はるの（同二一、九生）は山梨縣人山下虎馬雄に妹美好（同二七、一二生）は同縣人青柳欽一に叔母こゝの（同一〇、四生）は同縣人岡伊兵衛長男虎年に嫁し叔父大作（同三、九生）は同縣人和田彌次兵衛に同義角（同八、二生）は同縣人若尾保重郎に各養子となれり（山梨、東山梨、諏訪村）

參照＝若尾義角の項

岡　春雄

從四位、男爵、陸軍歩兵大尉、近衛歩兵第二聯隊中隊長、東京府華族

組母　ふい　慶應元、一二生、山梨、矢澤覺三女

母　登茂　明二、四生、京都、森治郎八二女

妻　元子　明三六、二生、文學博士松井簡治四女、三輪田高女出身

男　一郎　昭五、二生

當家は先代市之助より顯る市之助は京都府士族岡吉春の長男にして陸軍士官學校を卒業し明治十四年陸軍歩兵少尉に任じ同四十五年陸軍中將に累進す其間陸軍省軍務局軍事課長參謀本部々員歩兵第二十二第二十九各旅團長軍務局長陸軍次官第三師團長陸軍大臣等に歷任し大正五年勳功に依り華族に列し男爵を授けらる君は其長男にして明治三十一年二月を以て生れ大正五年襲爵す陸軍士官學校を卒業して同八年陸軍歩兵少尉に任じ同十一年同中尉に昭和五年同同大尉に陞る現時近衛歩兵第二聯隊中隊長たり姉はつ（明一八、七生）は山口縣士族津野一輔に同みち（同二〇、七生）は同縣士族飯原佳哉に妹房子（同三六、一一生、三輪田高女出身）は兵庫縣人森孫八郎に嫁し叔父五郎（同九、一生）同妻やす（同一六、一生、三重、水谷喜七二女）及叔父檢之助（同一八、五生）同妻くに（同二三、八生、千葉、鶴岡信包妹）は各分家せり（東京、四谷、須賀町一電四谷三四二四）

岡　正雄

從四位勳三等、兵庫縣知事、島根縣士族

妻　まつ　明二三、六生、東京、三枝秀太郎姉

女　ふみ　明四四、二生

女　敬子　大三、五生

君は島根縣士族岡政德の長男にして明治十五年十二月を以て生れ大正二年家督を相續す明治四十二年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し大學院に入り同年文官

參照＝福原佳哉、松井簡治家春山作樹の項

岡　遐

正五位勳四等、檢事、沼津區裁判所檢事兼靜岡地方裁判所沼津支部檢事、大阪府在籍

妻　まえ　明二二、四生、大阪、大出憲之養子

男　義俊　大二、二生

君は奈良縣人岡義抄の二男にして同實の弟なり明治九年二月を以て生れ同二十九年分れて一家を創立す同三十五年明治法律學校を卒業し判檢事登用試驗に合格同三十八年判事に任じ函館區同地方各裁判所判事を經て大正元年朝鮮總督府判事に轉じ大邱京城釜山各地方法院判事に歷補し同七年檢事に任じ下關區山口地方同區廣島地方同區水戸區同地方高田區靜岡地方同區新潟地方同區浦和地方各裁判所檢事を經て東京地方裁判所檢事に任じ昭和五年現職に轉ず長女籌（明四一、六生）は大分縣人浦川陸臣に二女昭子（同四三、一一生）は福岡縣人城戸又一に嫁せり（沼津、區裁判所內）

參照＝岡實家江口定條家小川善太郎の項

岡　文六

京都府多額納税者、萬足屋、西陣織物商、京都府在籍

母　ちか　明一二、四生、京都、寺村助右衛門妹

君は京都府人先代文六の二男にして明治三十八年三月を以て生れ大正十五年家督を相續し前名貞三を改め襲名す萬足屋と稱し西陣織物商として知られ京都府多額納税者に列し直接國税二千九百七圓を納む家族は尙弟龍吉（明四〇、七生）同善郎（大四、一二生）あり同順一（明四二、五生）は京都府人中川三次郎の養子となり同七郎（大一一、一生）は同府人大島ミチの死跡を相續し伯父常三郎（明五、五生）は分家せり（京都、中京、河原町三條下ル三丁目電本局二七四八）

岡　正路

正五位勳五等、檢査官、會計檢査院第三部第二課長、宮城縣士族

母　きく　慶應二、九生、宮城、士、小野源藏孫

妻　ハツノ　明二三、六生、新潟、山川彌長女

君は宮城縣士族岡濕の長男にして明治十七年四月を以て生れ昭和六年家督を相續す同十二年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し同年文官高等試驗に合格し專賣局書記同參事補同副參事同參事に歷任し昭和六年兵庫縣嘉永六、一一生、現戸主

父　濕　慶應二、九生、宮城、士、小野源藏孫

君は宮城縣士族岡濕の長男にして明治十七年四月を以て生れ昭和六年家督を相續す同十二年東京帝國大學法科大學を卒業し同年文官高等試驗に合格し專賣局書記同參事補同副參事同參事に歷任し昭和六年兵庫縣嘉永六、一一生、現戸主

助に嫁し三男義逢（大一〇、五生）は伯母久米ムメの家名を繼ぎ弟遐（明九、二生）は分家せり（東京、芝、白金三光町二七六電高輪五五四五）
参照＝江口定條、岡遐、佐々木勇之助氣佐々木讓一郎氣佐々木修二郎氣佐々木和三郎氣佐々木興一氣關原忠三氣鈴木重道氣立石信郎の項

岡百世

三井家同族會事務局第二部主事、三井文庫主任、東京府士族
妻　柳　明一六、八生、東京、酒井良明長女、普連土女學校出身
男　千秋　明三六、八生、明治學院高等科出身
婿　倭文子　明四三、八生、長男千秋妻、愛知西垣眞一二女
男　百壽　明四一、七生、東京美術學校建築裝飾科在學
女　武子　明四五、六生、東京女學館出身
女　藏子　大三、八生、東京女學館在學

君は宮城縣士族岡千俣の長男にして高橋本枝の兄なり明治七年四月を以て生れ大正三年家督を相續す先代千俣號を鹿門と稱し儒を以て鳴る仙臺藩に仕へ維新の際勤王の大義を唱へ國事に努むる所あり君は明治三十一年東京帝國大學文科大學を卒業し同三十五年三井家同族會事務局に入り現時第二部主事並に三井文庫主任たり家族は尚姉みやこ（慶應二、七生、東京女子高師出身）弟猛夫（明一八、一生、文學士）あり二男千里（同三八、九生）は外祖父酒井良明の養子となり二女千枝子（同四〇、四生、東京女學館出身）は遞信省技師海事官工學士宮川久雄に嫁し弟碩人（同一三、三生、豫備陸軍少將）は同妻美和（同二四、八生、石川、片山拓妹）及其四子を伴ひ分家せり（東京市外大崎町上大崎二三一電高輪三四八六）
参照＝片山拓、酒井良明、高橋本枝氣小林茂藤治氣鈴木一來氣本多忠之の項

岡義明

今津發電經取締役、神明自動車經營役、宇治川電氣經技師長大阪府在籍
妻　登美子　明二三、四生、兵庫、士、吉井良晃二女
男　義正　大二、三生

君は大阪府人岡信太郎の長男にして明治十七年十一月を以て生れ同四十四年家督を相續す同四十二年京都帝國大學理工科大學電氣工學科を卒業し宇治川電氣會社に入り同社工務部長兼土木課長を經て現時同社技師長にして傍ら前記諸會社の重役を兼ぬ家族は尚二男檜次（大一一、三、四生）四女菊子（同一四、一一生）あり（大阪、東成、鳴野町九八六電鶴江四八）

岡米吉

舟木炭礦經取締役、大阪堂島米穀取引所取引員、和歌山縣在籍
妻　安榮　明一一、一生、和歌山、角田豐二郎妹
養子　利裕　明二八、九生、長女信子夫、和歌山、中井助右衛門二男
女　信子　明三三、八生、養子利裕妻
男　吉右衛門　明三十、一生、東京、北村貞吉長女

君は和歌山縣人白井吉右衛門の二男にして明治十一年七月を以て生れ先代のふゐの養子となり同三十六年家督を相續す現時大阪堂島米穀取引所取引員にして傍ら舟木炭礦會社取締役たり家族は尚孫紀美子（大一一、九生、養子利裕長女）同一郎（同一四、二生、同長男）同和子（昭二、三生、同二女）同次郎（同四、五生、同二男）ありA六八七七B一五一五（大阪、北、堂島濱通一ノ八五電長北二六六）

岡里喜

日本海上保險經上海支店長
大分縣士族
妻　スカ　明二三、六生、佐賀、秋山六次妹
男　義一　明二七、一一生、東京、北村貞吉長女
男　義正　大二、三生

君は大分縣士族岡其男の二男にして明治十九年十一月を以て生れ昭和四年家督を相續す明治四十年日本海上保險會社に入り現時同社上海支店長たり家族は尚養子義一生（同三一、五生、長崎、近藤安平長女）及其子女あり（上海、南潯路第四一號）

岡和

長門起業炭礦經務取締役、宇部セメント經取締役、山口縣士族
妻　キイ　明二七、一一生、東京、北村貞吉長女

君は山口縣士族岡治助の二男にして明治五年六月を以て生れ同二十三年先代烈の後を襲ひ家督を相續し改名す現時長門起業炭礦會社專務取締役の外前記會社の重役たり（東京、赤坂、中ノ町二二電青山一九六七）

岡内重清

從四位、男爵、東京府華族
妻　京　明一八、三生、岡山、井上幹造妹

男　重壽　明四四、一生

當家は武田冠者義清の末信清の後なり信清土佐國岡内村に住し地名を以て氏とす六世重基山内家に仕へ數世を經て先代重俊に至る重俊明治二年刑法官に出仕し爾來司法大檢事長崎上等裁判所長大審院判事元老院議官貴族院議員等に歷任し同三十三年勳功に依り華族に列し男爵を授けらる君は重俊の長男にして明治十七年十月を以て生れ大正四年家督を相續し襲爵仰付けらる家族は尚二男重信（大三、一一生）長女俊子（同一〇、一生）あり姉壽（明一五、一二生）は前衆議院議員松本君平に嫁し同ふく（同三、四生）は神奈川縣人大濱忠の母たり（東京市外目黑町下目黑六七八）
参照＝大濱忠、松本君平の項

岡上晴重

辯護士
高知縣在籍
妻　喜久　明一四、一生、高知、關田可通長女
女　秀　明三六、四生
女　泰　明四三、九生
女　輝子　大二、一〇生

君は高知縣人岡上馬次郎の長男にして明治九年七月を以て生れ昭和三年家督を相續す明治二十九年明治大學を卒業し辯護士たり家族は尚四女毅子（大六、六生）弟美義（明一二、一二生）あり（大阪、東、今橋一ノ七電堂本局七七〇）

岡倉由三郎

正四位、勳三等、立教大學教授、著述業、東京府在籍
妻　直　明一一、四生、長野、士、山極吉哉三女
男　士朗　明四〇、九生

君は舊福井藩士岡倉勘右衛門の三男にして明治元年二月を以て生れ同二十四年兄覺三郎の家を創立す夙に英人サンマースに就き英語を學び一時高等商業學校に在學同二十年文科大學選科生となり專ら國文學と言語とを修む同二十三年朝鮮政府の聘に應じて日本語學校を監理經營す同二十七年鹿兒島造士館に教授となり同二十九年東京高等師範學校に轉任同三十四年英國に留學を命ぜられ歸朝後同校に育英の業に從ふこと前後三十年間に及ぶ現時立教大學教授にして又著述と放送とに從事す長女信（明三〇、一生、日本女大附屬高女出身）は長野縣人藤森忠四郎長男成吉に二女米子（同三三、二生、出身校同上）は東京市立二中教諭清水岬に三女文子（同三四、二生）は滿鐵技師狩谷忠齊に嫁せりA八〇〇（東京市外中新井村二二三〇電練馬一三六）
参照＝藤森成吉氣米山辰夫の項

岡坂政五郎

香川縣多額納稅者、醬油釀造業
香川縣在籍
養母　キク　安政三、九生、香川、寺島甚造長女
妻　マサ　明一七、一二生、養父政五郎長女
養子　仁　明三四、二生、長女保子夫、香川中村補吉五男
女　保子　明三五、四生、養子仁妻
養子　雄二郎　明三四、九生、二女嘉都子夫、香川、川崎保武弟
女　嘉都子　明三七、三生、養子雄二郎妻

君は香川縣人別所忠次郎の四男にして林恒三郎の弟なり明治十六年十二月を以て生れ先代政五郎の養子となり同三十九年年家督を相續し前名清三郎を改め襲名す醬油釀造業を替み直接國稅五千八十一圓を納め縣下の多額納稅者に列し地方の開發に貢獻する處多し家族は尚孫治子（大一二、二生、養子仁長女）同寺子（同一三、七生、同二女）同潤一（同一四、一二生、同長男）同惠二（昭三、三生、同二男）同敏晴（同五、二生、同三男）同良子（同三、四生、養子雄二郎長女）同茂彦（同四、一二生、同長男）あり（香川、木田、本禮村電一）
参照＝林恒三郎氣中村新太郎氣山田惠一の項

岡崎旭

臺灣銀行經東京支店頭取席秘書長
岡山縣在籍
妻　ちよこ　明三一、七生、醫學博士關場不二彥二女

君は岡山縣人岡崎久次郎の長男にして明治二十三年十月を以て生れ同四十年家督を相續す大正六年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し現時臺灣銀行東京支店頭取席秘書長たり家族は尚長女睦子（昭五、一〇生）養姉佐登（明元、八生、岡山、妹尾宮次郎二女）弟義次（同二七、三生）同妻美彌代（同二六、三生、岡山、今井伊三治姉）及其二子弟百幹（同三一、四生）あり姉米（同一八、七生）は岡山縣人片山藤作に同晴野（同二一、二生）は同縣人須々木林次郎長男重太郎に嫁せり（東京市外代々幡町代々木山谷三〇〇電四谷二四三四）

岡崎逸平

スタンダード靴經專務取締役、泰公司、野村東印度殖產、山形縣在籍
土地產業各經監査役、山形、岡崎茂助弟
父　清四郎　文久三、七生、山形、岡崎茂助弟
母　ちやう　慶應元、一二生、祖父代吉長女
妻　タツ　明三一、一〇生、宮城、菅野圓藏四女、宮城縣立第一高女出身
男　眞一郎　大一〇、一生

君は山形縣人岡崎清四郎の長男にして明治二十三年九月を以て生る大正六年慶應義塾理財科を卒業し現時前記諸會社の重役たり家族は尚長女美代子（大一一、四生）二男英夫（同一二、九生）弟仁平（明二七、一生）同妻いね（同三八、一生、山形、高橋守義妹）及其子女妹おこ（同三五、二生）あり弟運亨（明三二、一二生）叔父喜助（同六、六生）は各分家し妹ハル（同三八、四生）は山形縣人中井川爲助孫爲吉に叔母ます（同一〇、一生）は同縣人中井川種吉に嫁せり（東京、下谷、上野櫻木町四八電下谷五二〇一）

岡崎吉藏

兵庫縣多額納稅者、姫路莫大小、兵庫縣在籍
妻　かつ　明一八、五生、兵庫、瀧渡猛雄妹
庶子　よし子　大五、一生、生母、兵庫、池田もと

君は兵庫縣人岡崎九平の長男にして明治十八年一月を以て生れ大正七年家督を相續す現時前記各會社の重役にして縣下の多額納稅者に列し直接國稅一千九百八圓を納む（姫路、地内町五電五四八）

岡崎久左衛門

岡崎商店經取締役
福井縣在籍
男　保治郎　明二五、一〇生、現戸主
婿　トミ　明三一、三生、長男保治郎妻、福井、川村辰之助二女
女　ヨリエ　明四四、九生

君は福井縣人岡崎久治の長男にして文久二年一月を以て生れ明治十二年家督を相續し昭和五年退隱す夙に岡崎商店取締役に就任し現に共任に在り家族は尚ほ孫久（大八、九生、長男保治郎長男）同豐（同一〇、二生、同二男）同正（同一四、八生、同三男）同富久子（昭四、三生、同長女）あり二男恒次郎（明二九、八生）は分家し三男竹三郎（同三四、九生）は福井縣人森下ちよの養子となり弟常次郎（同四、一二生）は同縣人杉田源助の養子となり養父の名を襲ひ妹マツ（同八、三生）は同縣人田中長次郎に嫁せり（福井、遠敷、小濱町電一〇二）
参照＝田中長次郎の項

岡崎久次郎

妻　ふさ　勳四等、衆議院議員（神奈川縣選出）、日米商店、帝國蓄電池、大日本自轉車各經社長、東海鋼業、昭和絹靴下各經取締役、樺太工業、川崎取締役、樺太汽船、東京府在籍
男　俊郎　明九、八生、東京、守安瀧次郎姉
婿　明三三、六生、日米商店經取締役
妻　子　明三五、四生、長男俊郎妻、千葉伊藤善吉從妹
男　博　明三六、二生
男　進　明三七、一生、三進商會、三笠モーターズ各經代表取締役
女　桂子　明三八、四生

君は神奈川縣人先代安之助の長男にして明治七年一月を以て生れ同四十四年家督を相續す同二十二年東京高等商業學校を卒業し直に三井物產會社に入りしが後自立して自轉車業日米商店を創設し漸次發展して實業界に名を知らるゝに至る現時前記各會社の重役として實業界に重きを爲す夙に工業に盡瘁し又著述として東都數千の工場を指導し專心國產振興に努力す衆議院議員に當選する事四回に及び立憲民政黨所屬たり家族は尚四男鐵治（大六、一一生）孫俊哉（同一二、二生、長男俊郎長男）同道彥（同一四、二生、同二男）同周（同一五、七生、同三男）同美智子（同一四、九生、同二女）弟亡山口鐵彥長女）同美紺子（生年月同上、同二女）弟勝男（明三〇、七生、從七位、經濟學士、外交官補）同妻島子（同三九、三生、子爵前田利定二女、御茶の水高女出身）及其一子あり妹かよ（同一二、一〇生）は同府人鈴木柚藏に嫁し弟建吉（同一〇、四生、豫備海軍大佐）同妻はな（明一八、八生、東京、戶倉れい蘂子）は其二男一女を伴ひ分家し姉ひろ（同四、六生）は東京府人松本幸一の母たりA一九七二〇（東京、芝、白金今里町七七電長高輪一四一〇）
参照＝子爵前田利定、鈴木柚藏、松本幸一、守安瀧次郎の項

岡崎金次郎

中野組資代表社員、土木建築請負業、香川縣在籍
妻　ふさ　明四一、一生
男　士朗　明四〇、九生

君は武田冠者義清の末裔にして明治元年二月を以て生れ同二十四年兄覺三郎の家を創立す夙に英人サンマースに就き英語を學び一時高等商業學校に在學同二十年文科大學選科生となり專ら國文學と言語とを修む同二十三年朝鮮政府の聘に應じて日本語學校を監理經營す同二十七年鹿兒島造士館に教授となり同二十九年東京高等師範學校に轉任同三十四年英國に留學を命ぜられ歸朝後同校に育英の業に從ふこと前後三十年間に及ぶ現時立教大學教授にして又著述と放送とに從事す長女信（明三〇、一生、日本女大附屬高女出身）は長野縣人藤森忠四郎長男成吉に二女

妻　す ゑ　明二〇、三生、東京、鈴木照里四女
女　雅　子　明四五、二生

君は香川縣人岡崎角平の四男にして明治十三年六月を以て生れ昭和二年兄定太郎方より分れて家を創立す士木建築請負業を營み中野組代表社員たり家族は尙三女保子（大六、三生）四女美子（同一二、一生）ありA一五七〇B四二〇（東京、赤坂、溜池町三一電赤坂六三〇）

岡崎邦輔

正四位勳三等、貴族院議員
和歌山縣在籍

養子　端　夫　明二七、五生、養子和子夫、岐阜五斗貞吉弟
養子　和　子　明四〇、七生、養子端夫妻、大阪林政次郎長女

君は舊和歌山藩士長阪學爾の二男にして安政元年一月を以て生れ後岡崎氏を冒す夙に米國に留學し歸朝後明治二十四年衆議院補缺選擧に當選以來議員たる十回餘此間の事業としては古河鑛業會社理事京阪電氣鐵道大同電力新京阪鐵道等各會社の重役となり續て京阪新京阪兩會社の社長となり官歷としては義に選信省官房長となり又農林大臣に親任せられ昭和三年貴族院議員に勅選さる家族は尙孫俊彦（大一五、一生、養子端夫長男）同まさ子（昭三、三生、同長女）同久彦（同五、四生、同二男）あり義妹リン（明九、一生）は東京府人肥田金一郎に嫁せり（東京市外大井町鹿島谷三〇三四電大森二六四九）

參照＝肥田金一郎の項

岡崎國臣

從四位勳三等、島根縣多額納稅者
東京株式取引所理事長、第三銀行大社宮島鑛道千代田信託各種取締役、島根縣在籍

養母　シ　マ　文久二、九生、養祖父運兵衞長女
妻　ヨ　リ　明一四、七生、島根、高橋隆一妹
男　正　臣　大二、一生
女　玉　枝　明四三、五生

君は島根縣人勝郡又一郎の二男にして同本右衞門の兄なり明治七年六月を以て生れ故代議士先代運兵衞の養子となり大正八年家督を相續す明治三十三年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し同年文官高等試驗に合格爾來農商務省山林局事務官群馬縣井各縣事務官農商務省參事官同書記官大阪鑛務署長農商務大臣官房文書課長衆議院書記官長等に歷任し現時東京株式取引所理事長たる傍ら前記銀行會社の重役を兼ね島根縣多額納稅者たり家族は尙二男重臣（大四、三生）四女幸枝（同一〇、八生）五女壽美枝（同九、五生）六女靜枝（同一〇、一二生、聖心女子學院出身）あり長女佐佳枝（明三九、一二生）は新潟縣人三好忠一に二女文枝（同四一、一生、出身校同上）は島根縣人矢田淳二男恒久に嫁せり（東京市外大崎町下大崎六八電高輪八五〇）

參照＝勝部本右衞門、高橋隆一の項

岡崎慶次郎

岡崎共同運輸、同種取締役
岡山縣在籍

妻　嘉　明二二、四生、東京、內藤長嘉女、東京女學館出身
男　正　彥　明四二、六生、京都帝國大學法學部在學

君は岡山縣人岡崎紋三郎の二男にして同眞一郎同孝平の叔父なり明治七年一月を以て生れ同四十四年兄增太郎方より分れて一家を創立す同三十六年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し現時岡崎共同會社取締役たり養に岡崎同族會社取締役に擧げらるA一五一一五（東京、小石川、久堅町一八電小石川六四七一）

參照＝岡崎孝平、岡崎眞一郎家松原一雄の項

岡崎慶郎

東京農業大學教授兼專門部長
高知縣在籍

妻　雪　明一八、一生、高知、岩原熊藏孫

君は高知縣人岡崎善之助の三男にして明治十三生十月を以て生れ同三十二年家督を相續し後前名寅吉を改む同四十一年東京帝國大學農科大學農業化學科を卒業し現時東京農業大學教授にして專門部長を兼ね家族は尙養子慶子（大一一、四生、高知、坂本萬次孫）あり父善之助（安政元、六生）は絕家濱田氏を再興し妹茂代（明二六、八生）は高知縣人四本利助孫鐵馬に嫁せり（東京赤坂、青山高樹町一四ノ五）

岡崎孝平

中國製紙種常務取締役、山陽板紙、岡山瓦斯各種監査役、岡山縣在籍

君は岡山縣人岡崎增太郎の四男にして同慶次郎の甥なり明治二十九年十一月を以て生れ昭和五年兄眞一郎方より分れて一家を創立す大正十四年東京帝國大學法學部政治學科を卒業し現時中國製紙會社常務取締役たる外前記各會社の重役たり（岡崎市古京町一二七）

參照＝岡崎眞一郎、岡崎慶次郎家松原一雄の項

岡崎鴻吉

大阪毎日新聞社種東京日日新聞編輯總務、東京府在籍

妻　奈　美　明一九、九生、熊本、渡邊龜三郎長女
男　直　木　明四二、一二生
女　孝　明四四、七生

君は熊本縣人岡崎唯雄の長男にして明治十五年一月を以て生れ昭和二年家督を相續す明治三十八年早稻田大學政經科を卒業し現時前記の職にあり家族は尙三男建（大六、三生）ありA四〇四（東京市外落合下落合六〇四電大塚三七三六）

岡崎將次

麵町區會議員、日高電燈種社長、協立興業社責代表社員、電氣工業請負業、和歌山縣在籍

母　よ　し　安政四、六生、和歌山、寺地與平次三女
妻　イ　セ　明一九、五生、愛媛、小笠原鶴松長女
男　俊　彥　昭二、一生

君は和歌山縣人岡崎喜作の二男にして明治十九年二月を以て生れ同二十九年家督を相續す電氣工業請負業を營み傍ら日高電燈會社長の外前記會社の重役にして推されて麴町區會議員たり姉まさ（明八、九生）は和歌山縣人太田小三郎に同よれ（同一二、二生）は同縣人大谷孫作養子三郎に同みつ（同一五、一二生）は同縣人坂地五郎右衞門に嫁し弟八百三（同二四、四生）は其二女を伴ひ同縣人關常吉の養子となり姪さよ（同四三、一二生、弟八百三長女）は同縣人岡崎文作の死跡を相續せりA八二二（東京、麴町、有樂町一ノ四電銀座六五五）

岡崎眞一郎

岡崎共同、鷄林鐵業、中國釀造各種取締役、岡山縣在籍

母　波　留　明四、七生、岡山、神坂文太郎長女
妻　ツ　ネ　明三五、一二生、兵庫、梶原繁太郎長女、梅花高女出身

岡崎家は往時より岡山市に土着せる舊家なり先代增太郎に至りて家名頓に揚る增太郎夙に實業界に投じ永年岡山電燈會社長として其經營に任じ命名あり大正十四年同會社を山陽中央水力電氣會社に讓渡し鮮南漁業中國製紙各會社長外幾多會社の重役を兼ねたり君は其長男にして同孝平の兄なり明治二十三年九月を以て生れ昭和五年家督を相續す現時前記の職にあり家族は尙二男一雄（大四、二生）二女美枝（同一〇、八生）あり父善之助（安政元、六生）は絕家濱田氏を再興し妹茂代（明二六、八生）は高知縣人四本利助孫鐵馬に嫁せり（東京赤坂、青山高樹町一四ノ五）

參照＝岡崎眞一郎、岡崎慶次郎家松原一雄の項

昭和五年家督を相續す現時前記各會社の重役たり家族は尙弟邦彥（明三八、九生、東京帝大工學部在學）妹澤（同四一、三生、お茶水高女專攻科出身）同朝（同四三、八生、縣立岡山高女高等科出身）弟寬厚（大三、三生）妹壽惠子（同五、一生）あり弟賢二郎（明二六、六生、中國釀造會社取締役、鷄林鐵業會社監査役）同妻富子（同三七、一生、岡山、阿部太郎三女）は其二子を伴ひ分家し弟英三郎（同二八、八生、東京外語出身）同林平（同三五、三生、經濟學士）叔父慶次郎（同七、一生）も亦各分家し妹秀子（同三三、一生、山陽高女出身）は山口縣人梶山幾太郎に叔母與彌（同一六、一二生）は法學博士松原一雄に嫁せりA九八一四B一〇五（岡山市古京町一二七電一七）

參照＝岡崎慶次郎、岡崎孝平、梶原繁太郎、松原一雄家淺井彌兵衞の項

岡崎泰助

正五位勳六等、製鐵所技師、條鋼部鋼片課長兼大條課長
福岡縣士族

妻　高　子　明二九、一一生、福岡、林元喜二女

君は福岡縣士族先代尙彥の弟にして明治二十三年八月を以て生る大正三年東京帝國大學工科大學機械科を卒業し同年製鐵所研究員を拜命し翌年製鐵所技手同五年同技師に任ず其間米國に出張を命ぜられ同六年歸朝す家族は尙亡兄宗誼妻靜子（明三三、一〇生、福岡、伊藤廣衞姪）及其二子弟謙受（同一七、三生）同妻シズヱ（同三六、一生、福岡、久野國太郎二女）亡兄尙彥妻ヤス（同一九、一生、福岡、安河內多喜太四女）弟壽彥（同三七、一二生、亡兄尙彥長男、現戶主）及其弟妹あり（八幡、高見町六丁目官舍）

岡崎忠雄

兵庫縣多額納稅者、神戶商工會議所會頭、神戶岡崎汽船、神戶海上運送火災保險各種社長、兵庫大同信託、日伯拓殖各種取締役、山東鑛業、神戶海運集會所、日本紡績各種監査役、日本染工各種相談役、日本布紐組合、日本染工各種相談役

養母　つ　や　明七、九生、兵庫、岡田利右衞門長女
妻　と　よ　明一八、一一生、養父藤吉長女
男　眞　一　明四〇、五生、慶大在學
女　君　明四二、二生、日本女子大學校在學

當家は舊高知藩に仕へし士分なり先代藤吉氏に東京法科大學豫備門を卒業し海運業に志し巨利を博し後岡崎銀行を設立し關西方面の金融界に重きを爲し貴族院議員に推さる君は佐賀縣士族石丸忠英の二男にして同忠實の弟同英一の兄片野雄二の實兄なり明治十七年五月を以て生れ先代藤吉の養子となり昭和二年家督を相續す先是明治三十九年慶應義塾理財科を卒業し先代の遺業を承け岡崎銀行頭取たる傍ら前記諸會社の重役を兼ね縣下の多額納稅者に列し直接國稅一萬八百十九圓を納む趣味に圍碁ゴルフありA九五九〇〇（神戶、東須磨水野六七八電須磨三五）

參照＝石丸英一、石丸忠實、片野雄二の項

岡崎貞伍

正四位勳二等功四級、海軍中將
宮城縣在籍

妻　靜　枝　明三四、一生、長男英城妻、三重弘妹
男　英　城　明四二、九生、長男英城妻、三重
婦　綾　子　大西鍛三女、山脇高女出身
男　良　城　明四四、七生

君は宮城縣人岡崎七良太の三男にして明治四年九月を以て生れ同三十九年兄英城市郎兵衞方より分れて一家を創立す同二十八年海軍機關學校を卒業し同年機關士に任じ爾來巡進して大正十二年海軍中將に任ぜらる其間英米獨國に出張し日露戰役には目進分隊長として出征し勳功に依り功四級金鵄勳章を賜る爾來奉日富士各機關長吳海軍工廠檢査官軍令部出仕兼海軍大學校教官安藝機關長教育本部々員海軍艦政本部々員海軍省機關局第三第二各艦隊機關長佐世保鎭守府機關長教育本部第三部長舞鶴佐世保各海軍工廠長海軍機關學校長海軍軍令部出仕等に歷補し大正十四年豫備役に編入さる家族は尙三男邦城（大五、四生）あり長女貞子（明三六、二生、跡見女學校出身）は東京府士族工學士山田健吉に嫁し弟哲郎（同一八、五生）は分家せり（東京市外代々幡町代々木初臺五六二電四谷五八二一）

參照＝大西鍛、太田政弘、岡崎哲郎家横山正家船越逢の項

岡崎哲郎

正五位勳五等、朝鮮總督府山林部長、宮城縣在籍

妻　愛　子　明二八、一生、京都、市川廣助二女

君は宮城縣人岡崎貞伍の弟にして明治十八年五月を以て生れ大正十二年分れて一家を創立す明治四十五年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し大正二年文官高等試驗に合格す同五年栃木縣鹽谷郡長に任じ琴ゝで同縣理事官となり同八年朝鮮總督府道事務官に轉じ殖產局水產課長同山林課長を經て同十四年同府專賣局事務官を拜命し專賣局製造課長となる後朝鮮總督府殖產局水產課長同商工課長を經て鐵道參事に轉じ昭和三年朝鮮總督府事務官に任じ全羅南道內務部長慶尙北道內務部長等を經て現職に轉じ今日に至る家族は尙長女幸（大六、一生）あり（朝鮮總督府山林部內）

參照＝岡崎貞伍の項

岡崎襄

辯護士
岐阜縣在籍

妻　靜　枝　明二七、四生、石川、士、長屋義弘長女

君は岐阜縣人岡崎安の長男にして明治二十二年三月を以て生れ大正十五年家督を相續す同四年東京帝國大學を卒業し辯護士たり家族は尙弟義郎（明三五、五生、洋畫家）同猛郎（同三八、五生、文學士）妹行（同四三、二生）ありA一九三一（名古屋、東、武平町二ノ一五電東一六二三）

岡崎文夫

從五位、東北帝國大學教授、法文學部勤務、富山縣在籍

父　佐次郎　文久元、九生、現戶主
妻　コ　ト　明三〇、二生、富山、早川久太郎長女
男　卯　一　大四、二生

君は富山縣人岡崎佐次郎の長男にして明治二十一年二月を以て生る同四年東京帝國大學文科大學史學科を卒業し大正八年支那に留學し同十年歸朝後直に佛教大學教授となり同十三年東北帝國大學助教授に任じ翌年再び支那及英佛に留學し同十五年東北帝國大學教授に任じ法文學部に勤務す家族は尙長女美智子（大六、七生）二女むつ子（同八、一〇生）二男龜之助（同一一、六生）三男敦（同一四、三生）三女京（昭四、一〇生）弟武夫（明二三、一生）同妻鼎（同三四、八生、東京、杉村喜兵衞孫）及其子女弟益夫（同四一、六生）あり妹スヱ（同三六、四生）は富山縣人城石太一郎長男富信に嫁

し叔父光信（同一三、三生）は同縣人岡崎タミの養子となれり（仙臺、北六番丁七四）

岡崎正雄　正四位勳三等功五級、男爵、陸軍歩兵大佐、東京府華族　明二五、三生、子爵京極高修妹、上野高女出身

妻　政子　大四、四生

男　彰夫

當家は先代生三より家名を揚ぐ生三は舊高知藩士にして夙に軍籍に入り累進して陸軍中將に陞る其間東宮武官留守第四師團參謀長威海衛占領軍參謀長第二師團參謀長歩兵第十五第二十各旅團長第十三師團長等に歴補し日露の役には歩兵第十五旅團長として勇名を馳せ功二級を賜り明治四十年勳功に依り華族に列し男爵を授けらる君は其二男にして明治十四年九月を以て生れ同四十三年襲爵す陸軍士官學校を卒業し同三十六年陸軍歩兵少尉に任じ累進して昭和二年同大佐に陞る其間陸軍士官學校附陸軍大學校副官歩兵第五十七聯隊大隊長陸地測量部事務官近衛歩兵第四聯隊附第一師團司令部附立正大學配屬將校等に歴補し更に高田聯隊區司令官たりしが昭和五年豫備役に編入さる二女茂子（大二、二生）は高知縣士族弘田國太郎の養子となり妹芳枝（明一七、一〇生）は長野縣人千村長治郎に同静（同一九、四生）は静岡縣人伊藤長作に嫁せり（東京市外代々幡町代々木初臺四九三）

參照＝弘田國太郎の項

岡崎正也　貴産家　三重縣在籍

妻　きよ　明八、一〇生、東京、植木清吉二女

男　正彦　明三〇、一一生

婦　英子　明三五、三生、長男正彦妻、東京稲茂登三郎三女

當家は代々三重縣に住し農を業とせり君は先代藤十郎の長男にして元治元年八月を以て生れ明治十六年家督を相續し後前名源之助を改む夙に新潟英語學校に學び次で東京帝國大學英法科に入り同二十三年卒業す其より辯護士となり傍ら東京法學院東京專門學校講師を兼ね書て東京辯護士會の牛耳を執り斯界の民法家として知られ現在に至る曩に東京電燈會社監査役信越電力會社取締役たりしも昭和三年辯護士隠退と同時に諸會社の役員を辭す書畫謡曲を趣味とす家族は尚孫喜久子（昭三、一〇生、長男正彦二女）同守孝（同五、七生、同長男）あり三女ス子（明二九、四生、第三高女出身）は静岡縣人鈴木於用に四女信子（同三四、八生、出身校同上）は愛知縣人吉田初次郎に妹こふ（同一一、一二生）は故衆議院議員高木益太郎に嫁し同いし（同四、五生）は三重縣人岡崎とくの養子となれりA三九四七（東京、麻布、本村町一七四電話高輪九五）

參照＝稲茂登三郎の項

岡崎泰光　從四位、子爵、鐵道技師

祖母　忠子　鴉公卿家　嘉永五、一生、伯爵澤宣武大叔母

妻　榮子　明三四、七生、養父國良長女、女子學習院出身

男　國光　大一三、九生

當家は權大納言中御門尚良の次男宣時の後なり宣時分家して岡崎と稱すそれより七代を經て先代國良に至り明治十七年子爵を授けられ主猟官に任ず君其後を承く君實は子爵倉橋泰昌の叔父にして明治二十七年三月を以て生れ大正三年陸軍中將に陞る其間東宮武官襲爵す同十一年東京帝國大學工學部建築學科を卒業し鐵道技師に任じ現時鐵道省工務部建築課勤務たり家族は尚長女泰子（大九、九生）あり妹君子（明三七、五生、女子學習院出身）は京都府人倉内こう長男豐太郎に叔母綾子（同八、一〇生）は滋賀縣人多羅尾金之助に嫁せり（東京市外高田町雑司ヶ谷御嶽三一一）

參照＝伯爵澤宣武※公爵岩倉具榮※伯爵清棲幸保の項

岡崎善太　從四位勳四等、判事、高知地方裁判所長、岡山縣在籍

妻　ふち　明一八、三生、埼玉、持田長吉妹

男　秀太郎　明四四、二生

當家は代々岡崎柳平の二男にして明治十二年六月君は岡山縣士族岡崎柳平の二男にして明治十二年六月を以て生れ明治十六年家督を相續し後前名源之助を改む夙に新潟英語學校に學び次で東京帝國大學英法科に入り同二十三年卒業す其より辯護士となり傍ら東京法學院東京專門學校講師を兼ね書て東京辯護士會の牛耳を執り斯界の民法家として知られ現在に至る曩に東京電燈會社監査役信越電力會社取締役たりしも昭和三年辯護士隠退と同時に諸會社の役員を辭す書畫謡曲を趣味とす家族は尚孫喜久子（昭三、一〇生、長男正彦二女）同守孝（同五、七生、同長男）あり三女ス子（明二九、四生、第三高女出身）は静岡縣人鈴木於用に四女信子（同三四、八生、出身校同上）は愛知縣人吉田初次郎に妹こふ（同一一、一二生）は故衆議院議員高木益太郎に嫁し同いし（同四、五生）は三重縣人岡崎とくの養子となれりA三九四七（東京、麻布、本村町一七四電話高輪九五）

參照＝稲茂登三郎の項

岡崎泰光　從四位、子爵、鐵道技師

祖母　忠子　鴉公卿家　嘉永五、一生、伯爵澤宣武大叔母

妻　榮子　明三四、七生、養父國良長女、女子學習院出身

男　國光　大一三、九生

當家は權大納言中御門尚良の次男宣時の後なり宣時分家して岡崎と稱すそれより七代を經て先代國良に至り明治十七年子爵を授けられ主猟官に任ず君其後を承く君實は子爵倉橋泰昌の叔父にして明治二十七年三月を以て生れ大正三年陸軍中將に陞る其間東宮武官襲爵す同十一年東京帝國大學工學部建築學科を卒業し鐵道技師に任じ現時鐵道省工務部建築課勤務たり家族は尚長女泰子（大九、九生）あり妹君子（明三七、五生、女子學習院出身）は京都府人倉内こう長男豐太郎に叔母綾子（同八、一〇生）は滋賀縣人多羅尾金之助に嫁せり（東京市外高田町雑司ヶ谷御嶽三一一）

參照＝伯爵澤宣武※公爵岩倉具榮※伯爵清棲幸保

家せり（鹿兒島市上荒田町四六〇）
參照＝※高島茂平※野村勘左衛門※野村行一※布川豐の項

岡島　敬治　從六位勳五等功五級、醫學博士、陸軍三等軍醫、慶應義塾大學教授醫學部勤務、東京府在籍

妻　その　明二二、一生、富山、山秋彌平三女

男　光三　大五、一二生

女　禮子　大三、三生

君は富山縣人岡島やすの長男にして明治十五年四月を以て生れ同三十二年家督を相續す同三十四年金澤醫學專門學校を卒業し陸軍三等軍醫に任じ日清戰役に從軍し功により功五級金鵄勳章を賜はり同三十九年長崎醫學專門學校教授に任ぜられ同四十年京都帝國大學醫科大學助手となり大正二年醫學博士の學位を受く同三年京都府立醫學專門學校教諭に任じ同教授に進み現時慶應義塾大學教授にして醫學部に勤務す家族は尙三男道夫（大一三、一一生）二女明子（昭三、二生）あり（東京、牛込、余丁町四二）

岡島千代造　岡島商店（代表取締役、京都絹毛染工）、大阪府取締役、モスリン商大阪府在籍

妻　りウ　明一四、一一生、奈良、萩田元平妹

養子　源治　明三二、三生、長女房子夫、大阪木口恒吉二男

女　房子　明三七、二生、養子源治妻

君は大阪府人先代千代造の長男にして明治十年一月を以て生れ大正十年家督を相續し前名新三郎を改むモスリン商を營み現時岡島商店代表取締役の外前記會社の重役を兼ぬ家族は尙孫弘倫（昭二、一二生、養子源治長男）あり弟友五郎（明二六、一生）は分家し同寡造（同二一、一一生）は同妻キヌ（同二四、四生、大阪、福田喜兵衛二女）と共に弟健次郎（同二四、二生）は同妻富子（同二八、九生、兵庫、野間宗七妹）及其二子を伴ひ各分家せり（大阪、北、中之島四ノ一四電本局二九五五）

參照＝※市川龍太郎※田中弟稻の項

岡島　東助　資產家大阪府在籍

妻　きく　慶應二、九生、大阪、小林兵吉姉

男　誠太郎　明二八、二生、京都帝國大學文學部出身、龍谷大學講師

婦　篤子　明五、二生、長男誠太郎妻、德島、大出貫一長女、日本女女家政科出身

女　ひさ　明三二、二生

君は大阪府人岡田清助の二男にして元治元年九月を以て生れ先代東助の養子となり大正四年家督を相續し共に前名正次郎を改め襲名す義に洋燈硝子商を營む家族は尙孫汀子（昭三、七生、長男誠太郎長女）あり A二四七七（大阪、東、内本町二ノ四五電東三三三〇）

岡島　政藏　横濱取引所取引員、絹織物輸出商神奈川縣在籍

妻　よし　明三、一〇生、東京、佐藤喜助妹

男　政雄　明三五、一生

男　良夫　明四二、一生

君は神奈川縣人岡島忠五郎の長男にして慶應二年九月を以て生れ明治三十三年家督を相續す絹織物輸出商を營み横濱取引所取引員たり義に横濱丸仲會社取締役横濱取引所取引員組合長に擧げらる家族は尙三男三郎（大二一、一生）あり父忠五郎（文政一一、一生）母愛（天保四、三生、鳥取、淺野惣八長女）は共に分家し長女千歳（明三二、五生）は靜岡縣人福本嘉一に嫁し庶子龜助（同四三、一一生）同正二（大二、五生）は共に其生母神奈川縣人淺川テツの養子となれり A八四七B八九（横濱、中、南仲通四ノ四八電本局二一六）

岡島雅太郎　吳服太物商大阪府在籍

妻　ひさ　明二、二生、京都、山上佐七姉

男　嘉一郎　明二四、二生

婦　ナヲ　明二八、五生、長男嘉一郎妻、大阪、森田萬作妹

君は大阪府人岡島長兵衛の長男にして明治元年一月を以て生れ同十九年家督を相續す吳服太物商を營む家族は尙孫誠一（大六、三生、長男嘉一郎長男）同良（同七、一〇生、同長女）同ヤス（明二、三生、同二女）同清子（同四、四生、同三女）あり二男長次郎（明二七、一生）は分家せり（大阪、南、心齋橋筋二ノ四二）

岡島芳太郎　高島屋飯田（シドニー）支店長靜岡縣在籍

妻　アラディー　西歷一八九七、七生、英國、ロバートロッスオウコー五女

男　ピーター　明二二、一生、長男誠太郎妻、德島、大出貫一長女、日本女女家政科出身

女　ひさ　明三二、二生

君は大阪府人岡島清助の二男にして元治元年九月を以て生れ先代東助の養子となり大正四年家督を相續し共に前名正次郎を改め襲名す義に洋燈硝子商を營む家族は尙孫汀子（昭三、七生、長男誠太郎長女）あり A二四七七（大阪、東、内本町二ノ四五電東三三三〇）

岡島　政藏　横濱取引所取引員、絹織物輸出商神奈川縣在籍

妻　よし　明三、一〇生、東京、佐藤喜助妹

男　政雄　明三五、一生

男　良夫　明四二、一生

君は神奈川縣人岡島忠五郎の長男にして慶應二年九月を以て生れ明治三十三年家督を相續す絹織物輸出商を營み横濱取引所取引員たり義に横濱丸仲會社取締役横濱取引所取引員組合長に擧げらる家族は尙三男三郎（大二一、一生）あり父忠五郎（文政一一、一生）母愛（天保四、三生、鳥取、淺野惣八長女）は共に分家し長女千歳（明三二、五生）は靜岡縣人福本嘉一に嫁し庶子龜助（同四三、一一生）同正二（大二、五生）は共に其生母神奈川縣人淺川テツの養子となれり A八四七B八九（横濱、中、南仲通四ノ四八電本局二一六）

岡島雅太郎　吳服太物商大阪府在籍

妻　ひさ　明二、二生、京都、山上佐七姉

男　嘉一郎　明二四、二生

婦　ナヲ　明二八、五生、長男嘉一郎妻、大阪、森田萬作妹

君は大阪府人岡島長兵衛の長男にして明治元年一月を以て生れ同十九年家督を相續す吳服太物商を營む家族は尙孫誠一（大六、三生、長男嘉一郎長男）同良（同七、一〇生、同長女）同ヤス（明二、三生、同二女）同清子（同四、四生、同三女）あり二男長次郎（明二七、一生）は分家せり（大阪、南、心齋橋筋二ノ四二）

岡島芳太郎　高島屋飯田（シドニー）支店長靜岡縣在籍

妻　アラディー　西歷一八九七、七生、英國、ロバートロッスオウコー五女

男　誠太郎　明二八、二生、京都帝國大學文學部出身、龍谷大學講師

婦　篤子　明五、二生、長男誠太郎妻、德島、大出貫一長女、日本女女家政科出身

女　ひさ　明三二、二生

君は大阪府人岡島清助の二男にして元治元年九月を以て生れ先代東助の養子となり大正四年家督を相續し共に前名正次郎を改め襲名す義に洋燈硝子商を營む家族は尙孫汀子（昭三、七生、長男誠太郎長女）あり A二四七七（大阪、東、内本町二ノ四五電東三三三〇）

岡島　政藏　横濱取引所取引員、絹織物輸出商神奈川縣在籍

妻　よし　明三、一〇生、東京、佐藤喜助妹

男　政雄　明三五、一生

男　良夫　明四二、一生

君は神奈川縣人岡島忠五郎の長男にして慶應二年九月を以て生れ明治三十三年家督を相續す絹織物輸出商を營み横濱取引所取引員たり義に横濱丸仲會社取締役横濱取引所取引員組合長に擧げらる家族は尙三男三郎（大二一、一生）あり父忠五郎（文政一一、一生）母愛（天保四、三生、鳥取、淺野惣八長女）は共に分家し長女千歳（明三二、五生）は靜岡縣人福本嘉一に嫁し庶子龜助（同四三、一一生）同正二（大二、五生）は共に其生母神奈川縣人淺川テツの養子となれり A八四七B八九（横濱、中、南仲通四ノ四八電本局二一六

以て生れ先代時利の養子となり大正十五年家督を相續す現時大阪商船會社專務取締役兼東洋課長の外前記各會社の重役たりA二二〇〇（兵庫、武庫、住吉村西ノ口一七五ノ一電御影二六六九）

岡田音次郎

安川電機製作所專務取締役、明治紡績賣支配人、滋賀縣在籍

妻　かう　明一四、三生、大阪、松田善七四女

男　稔　明四三、三生

女　裕　明四五、一生

富佐子　大二、一二生

君は滋賀縣人今井彌治郎の四男にして明治六年十月を以て生れ先代義訓の養子となり同四十一年家督を相續し前名音治郎を改む現時明治紡績合資會社支配人にして安川電機製作所取締役たり家族は尙三男喬（大五、三生）三女美代子（同九、一二生）あり長女貞子（明四一、一一生）は德島縣人小林勇に嫁せり（戸畑、戸畑一五六五）

岡田勝男

正四位勳二等功五級、後備陸軍獸醫總監、東京府士族

養母　しん　文久三、四生、東京、生地誠意長女

妻　トミ　明七、七生、東京、士、山本龜光妹

男　貞一　明三二、一〇生、明治大學商學部出身

婿　よし　明三八、一〇生、長男貞一妻、埼玉、粕谷善一妹

男　平三　明四〇、三生、慶大在學

男　與四郎　明四一、四生、早稻田大學理工科在學

男　金五郎　明四二、一一生、明治藥學專門學校出身

君は東京府士族細谷清平の二男にして慶應二年十月を以て生れ先代貞三の養子となり大正十四年家督を相續す明治二十七年東京帝國大學農科大學獸醫學科を卒業し陸軍三等獸醫に任じ大正十五年獸醫總監に陞任す其間獸醫學校教官兼騎兵實施學校教官東京帝國大學農學部講師壜託次で獨逸に留學し歸朝後第八第三近衛第一各師團獸醫部長陸軍大學校教官陸軍獸醫學校長等に歷補し昭和四年後備役に編入仰付けらる日露戰役に從軍し功あり金鵄勳章を授けらる家族は尙孫和子（昭三、九生、長男貞一長女）同光子（同五、四生、同二女）あり二女靜子（明三六、一生）は東京府人厚木勝基弟酌三郎に嫁せりA一九二四（東京、四谷、仲町三ノ三五電四谷二八〇五）

參照＝厚木勝基、粕谷善一、山本龜光の項

岡田兼一

從五位勳五等、總領事兼朝鮮總督府事務官、間島在勤、山形縣士族

妻　春海　明二九、二生、福井、山田孫太郎二女

君は山形縣士族岡田兼信の長男にして明治十五年四月を以て生れ同四十二年家督を相續す夙に東京外國語學校東京專門學校等に學び大正五年外交官及領事官試驗に合格同年領事官補となり爾來廣東在勤外務省事務官通商局第二課勤務外務事務官區時平和條約事務局勤務大使館三等書記官英國在勤公使官三等書記官同二等書記官各瑞典在勤領事ストックホルム在勤領事牛莊在勤兼領事ストックホルム在勤朝鮮總督府事務官等に歷任し昭和四年總領事兼朝鮮總督府事務官に任ぜられ現に間島在勤たり大正九年及十一年ジュネーブ國際聯盟總領事第三回會議帝國代表隨員を命ぜらる家族は尙長女愛子（大一〇、五生）二女昭子（昭二、一生）あり長女（同二四、一〇生）は間島縣人上野勇に同秀（同二九、一生）は山形縣人秋保謹四郎に嫁せり（同九、一〇生、現戶主）同妻ウメノ（同三〇、三生、栃木、大貫庄次郎長女）及其子女の外弟妹あり（宮崎市栗山官舍內）

岡田喜久治

從五位、宮崎縣書記官、內務部長、栃木縣在籍

妻　テイ　明三〇、八生、佐賀、松永直吉妹

男　健久　大一一、三生

君は栃木縣人岡田周平の二男にして明治二十二年七月を以て生る大正三年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し文官高等試驗に合格同年宮城縣屬に任ず爾來宮城縣志田郡長北海道廳石川縣警視各理事官宮崎三重各縣書記官京都市助役岐阜縣書記官等を歷任し昭和五年宮崎縣書記官に任ぜられ內務部長に補せらる家族は尙長女節子（大六、八生）二女美惠子（同八、六生）兄啓一郎（明八、一〇生、現戶主）同妻ウメノ（同三〇、三生、栃木、大貫庄次郎長女）及其子女の外弟妹あり（宮崎市栗山官舍內）

岡田喜太郎

兵庫縣多額納稅者、地家主、兵庫縣在籍

妻　じよう　明一八、三生、兵庫、香川國太郎二女

男　勝也　明四五、二生

君は兵庫縣人岡田德三郎の長男にして明治十四年二月を以て生れ大正六年家督を相續す地家主にして縣下の多額納稅者たり（神戶、三川口町一ノ六六電兵庫二六九八）

岡田菊次郎

安城町長、愛知縣會議員、碧海電氣、帝國織布、愛三製絲各種取締役、愛知縣在籍、帝國製絲種監査役

妻　たれ　慶應三、一一生、愛知、頼永文吉長女

男　政一　明二八、三生

男　登美　明三三、九生、長男政一妻、愛知水越藤吉長女

養子　ぎん　明一六、一二生、東京、渡邊市太郎妹

君は愛知縣人岡田覺兵衛の長男にして慶應三年四月を以て生れ明治三十七年家督を相續す現時前記各會社の重役にして推されて安城町長愛知縣會議員に擧げらる家族は尙孫久男（大六、五生、長男政一庶子）あり長女よし（同二一、二生）は愛知縣人稻垣源次郎に二女ぎん（同二四、一〇生）は同縣人杉浦幸四郎二男幸重に養子美代（同四三、八生、愛知、篠田三造長女）は東京府人小幡勇三郎に嫁し妹つじ（同一九、二生）は分家せり（愛知、碧海、安城町）

參照＝渡邊市太郎の項

岡田菊治郎

銅鐵商、東京府在籍

妻　はま　明二一、九生、東京、尾關甚四郎妹

養子　好昭　昭三、一生、東京、尾關甚四郎二男

君は岐阜縣人岡田茂助の三男にして明治十四年十二月を以て生れ大正十五年甥榮一方より分れて一家を創立す明治四十一年甫めて東京に出京銅鐵商を營み爾來隆昌に赴き現時銅部カーバイト部工業藥品部容器部等を兼營す（營業所、東京、本所、東兩國一ノ二ノ一電本所七一七住所、東京、牛込、市ヶ谷加賀町二ノ二四電牛込二二八〇）

岡田菊松

金融業、大阪府在籍

妻　ヌイ　慶應元、一生、大阪、三宅清兵衛二女

養子　龜造　明二〇、七生、長女セイ夫、大阪、三宅虎吉弟

女　セイ　明二二、三生、養子龜造妻

孫　淳子　大二、九生、養子龜造長女

孫　清子　大五、八生、養子龜造二女

君は大阪府人岡田萬助の弟にして文久元年十二月を以て生れ明治十年分れて一家を創立す金融業を營む二女ウサ（明二四、三生）は大阪府人土井馬吉に七女フサ（同三五、四生）は同府人鵜池久太郎に八女よしえ（同三八、一二生）は同府人吉田元吉長男秀吉に養子貞子（同四一、一一生、大阪、川尻金造長女）は同府人村上仙次郎に各養子となり六女ウタ（同三四、四生）同夫安平（同二八、五生、石川、竹森清作弟）は其一女を伴ひ分家し養子ジウ（同三六、九生、大阪、鵜池久太郎二女）は同府人木下岩太郎長男幸太郎に嫁せりA四〇一八B三五二（大阪、南、瓦屋町二ノ六六電南八四三）

岡田金次郎

群馬縣多額納稅者、製絲業、群馬縣在籍

妻　こと　明一五、四生、群馬、茂木眞一郎二女

男　鐵一　明四一、八生

男　二二、一二生、長女サダ夫、群馬、茂木眞一郎二男

養子　銹象　明三二、一一生、養子銹象妻

女　サダ　明三二、一一生、養子銹象妻

君は群馬縣人岡田彥太郎の甥にして明治八年九月を以て生れ大正三年分れて一家を創立す製絲業を營み群馬縣多額納稅者たり家族は尙孫廣太（大八、三生、養子銹象長男）同正次郎（同一〇、一生、同二男）同千代子（同一一、一一生、同長女）同愛子（同一四、五生、同二女）同芳雄（昭三、四生、同三男）あり（前橋、國領町六五）

岡田金之助

大倉土木種常務取締役、東京府在籍

妻　ハル　明二一、八生、島根、松本愛重長女

男　潔　大四、一二生

女　喜久子　明四〇、八生

恭子　明四五、二生

女　もも子　大二、四生

女　壽子　大三、八生

君は島根縣人米井清之助の二男にして明治二年十一月を以て生れ先代作太郎の養子となり同十四年家督を相續す現時大倉土木會社常務取締役たり家族は尙三男益（大二、八生）ありA六九八（東京市外中野町氷川一六）

岡田啓介

正三位勳一等功三級、海軍大將、軍事參議官、議定官、東京府士族

母　波留　弘化元、一一生、岡田靜眠長女

男　貞外茂　明四一、三生

女　萬龜　明四二、二生

女　喜美子　大三、八生

君は福井縣士族岡田喜藤太の長男にして明治元年一月を以て生れ同十六年家督を相續す同二十二年海軍兵學校を卒業翌年海軍少尉に任じ大正十三年海軍大將に進む其間海軍大學校を卒業し軍令部第三局員兼海軍大學校教官千歲副長心得八重山千歲春日朝日各副長海軍水雷隊練習所教官兼海軍大學校教官海軍水雷學校長春日艦長海軍省人事局出仕鹿島艦長佐世保海軍工廠造兵部長第二艦隊第一水雷戰隊第三水雷戰隊司令官海軍技術本部第二部長兼第三部長海軍省人事局長佐世保海軍工廠長海軍將官會議議員海軍兼軍令艦隊司令長官橫須賀鎭守府司令長官兼將官會議々員等に歷補し海軍大臣に親任せらる現時軍事參議官議定官の要職に在り家族は尙二男貞寬（大六、一生）弟喜又（明七、一一生）同妻貞（同一九、三生、福井、士、加賀山學妹）及其一子孫登美穗（同一〇、四生）あり（東京市外淀橋町角筈八七五電四谷九五九）

參照＝加賀山學家石田嘉道家岡田豐の項

岡田健次郎

勳七等、蒙明長、武州銀行、武州貯蓄銀行各種監査役、埼玉縣在籍

妻　こう　慶應二、五生、埼玉、岡村保太郎妹

男　德輔　明一九、二生、東京高商出身

婿　こと　明二五、六生、長男德輔妻、埼玉北瓦茂重郎長女、日本女大附屬高女出身

孫　明子　大二、七生、長男德輔長女

君は埼玉縣人岡田平左衛門の長男にして安政五年一月を以て生れ明治十三年拾いつの後を承け家督を相續す當家は古くより武州蒙宿に住せる舊家にして住吉屋又は大住と號し世々商業を營みたり現時前記各銀行の重役に擧げらる又明治三十七年以來蒙町長に推され現に其職に在り養に多年埼玉縣會議員埼玉農工銀行監査役埼玉縣農會副會長に就任す二男義夫（明二四、一一生、東京高工出身）同妻よれ（同二六、一一生、埼玉、高橋新助姪）は其一子を伴ひ分家し三女錄子（同三七、九生、浦和高女出身）は兵庫縣人佐伯播一に嫁し養弟忠次郎（同九、一生、埼玉、木村龍太郎弟）は埼玉縣人高窪彌四郎の養子となれり（埼玉、北足立、蒙町）

參照＝家高橋新四郎の項

岡田顯三

藤倉電線、藤倉工業各種常務取締役、日本鑄銅、巴川製紙、南千住製作所各種取締役、弘電社、帝國聯合電球各種取締役、東京府在籍

妻　ヨシ　嘉永六、一二生、栃木、藤倉熊吉二女

母　ハナ　明一二、一二生、神奈川、關本常吉長女

男　泫一　大七、四生

女　靜子　明四二、一一生、雙葉高女出身

女　光子　明四三、一一生、雙葉高女出身

女　愛子　大二、一一生、雙葉高女在學

君は栃木縣人先代半平の長男にして松本留吉の甥同新太中內銹一郎の從兄なり明治七年一月を以て生れ同三十九年家督を相續す夙に上京し叔父善八を扶けて藤倉電線會社の創立に參畫し爾來社務一切を執掌し來り現に同社常務取締役にして傍ら前揭諸會社の重役を兼ぬ尙君の護謨事業に對する才能は天禀とも稱す可く其手腕技倆は普く學者間の推賞する處なり家族は尙七女敏子（大九、一一生）あり二女雅子（明三八、九生、雙葉高女出身）は東京府人商學士平井章に三女清子（同四〇八生、出身校同上）は同府人商學士秋田逵三に嫁せりA一二三一三（東京市外千駄ヶ谷町八九五電四谷三五三）

參照＝中內銹一郎、松本新太、松本留吉家高橋武美の項

岡田玄良

神戶商工會議所議員、神榮生絲種取締役、神戶取引所取引員、兵庫縣士族

妻　はな　明八、二生、兵庫、中村服太郎養子
養子　亥三　明一九、一一生、東京、水野誠一二男
婦　澂　明二二、一生、養子亥三妻、岡山浅野圓次郎長女

君は兵庫縣士族岡田敬之の長男にして元治元年一月を以て生れ後家督を相續す夙に東京高等商業學校を卒業し現に神戸取引所議員の外前記會社の重役にして神戸商工會議所議員たり家族は尙孫玄一（大五、八生、養子亥三長男）同元（同七、一〇生、同長女）あり養子愛（明二三、一生、東京、水野誠一三女）は大阪府人熊口保藏に嫁せり（神戸、中山手通六ノ八電元町二九七六）

岡田源吉

日本郵船㈱取締役、原色支配人
神奈川縣在籍

妻　民　明一六、五生、東京、河野鯱雄長女
男　隆一　明三七、七生、農學士、三井合名會社員

君は福井縣人杉本市郎右衛門の二男にして明治四年二月を以て生れ先代元助の養子となり同四十二年家督を相續す同二十六年東京高等商業學校を卒業し海外研究生として派遣せられ歸朝後原合名會社輸出部副支配人となり次で支配人となり今日に及び傍ら前記會社の重役たり此の間歐米に渡航する事數回に及べり（横濱、中、本牧町和田山一三三九電本局三一二二）

岡田源吾

兵庫縣多額納稅者、農並製鹽業
兵庫縣在籍

妻　百合子　明四二、五生、岡山、土居通憲長女
男　忠典　昭五、四生

君は兵庫縣人岡田源市郎の長男にして明治四十年四月を以て生れ昭和二年家督を相續す農並に製鹽業を營み兵庫縣多額納稅者として知らる家族は尙妹常喜子（明四二、八生）同幾久子（同四四、一生）同實枝子（大五三生）叔父要（明二四、八生、理學博士、京都帝大教授）あり同壽吉（同二〇、一生、法學士、三菱長崎造船所兵器製作所總務部長）は妹鈴子を伴ひ分家せりA五三六六（兵庫、赤穗、那波村電相生一一六）

參照＝土居通憲の項

岡田源太郎

内外綿㈱取締役
山口縣在籍

妻　幾　明二三、二生、南眞助二女
男　令　明四三、三生

君は島根縣士族岡田令高の長男にして明治十四年七月を以て生れ大正三年從兄令恭方より分れて一家を創立す現時内外綿會社取締役たり家族は尙二男和夫（大二七生）三男除雄（同四、九生）長女裕子（同八、二生）あり（兵庫、武庫、良元村寶塚）

岡田源之助

松山市會議員、愛媛縣多額納稅者
松山商工會議所副會頭、松山土地建物㈱監査役、愛媛縣在籍

養子　思愧三　明三五、三生、長女町子夫、愛媛岸四郎三男
女　町子　明四一、二生、養子思愧三妻
女　富美　明四四、六生
女　千鶴　大三、一生

君は愛媛縣人岡田岩吉の長男にして明治十五年八月を以て生れ同四十三年家督を相續す現時松山土地建物會社監査役にして縣下の多額納稅者に列し直接國稅一千三百二十八圓を納推されて松山市會議員松山商工會議所副會頭たり家族は尙四女久子（大七、四生）孫昌子（昭二、四生、養子思愧三長女）同京子（同四、四生、同二女）庶子雄一郎（同四、八生、生母、愛媛、一色信子）あり五女武子（大九、六生）は愛媛縣人山下半次郎に六女都留（同一〇、九生）は同縣人道原百助に各養子となれり（松山、出淵町二ノ二）

岡田鉉一郎

明治銀行㈱大阪支店長
愛知縣在籍

父　源助　慶應元、一二生、現戸主
母　くに　明二二、七生、川合滑惠三女
妻　りやう　明二三、八生、愛知、横井彌七妹
男　一來　大七、二生
女　彌生　大四、四生

君は愛知縣人岡田源助の長男にして明治二十年三月を以て生る夙に明治銀行に入り營業部長を經て現時同行大阪支店長たり家族は尙二女麗子（大一〇、九生）三女錦子（同一四、一生）弟保平（明二二、一生）同勇（同三九、一生）、住吉、天王寺町四〇六電茂二二七）

岡田甲次郎

呉服太物商
兵庫縣在籍

妻　房　明一二、九生、大阪、小西定七二女
男　博司　明四四、七生
女　喜代子　明四二、五生

君は兵庫縣人岡田實太郎の弟にして明治十年十月を以て生れ同三十五年分れて一家を創立す呉服太物商を營む家族は尙二男隆治（大三、九生）あり長女きみゑ（明三六、三生）は父家し三男甲子男（大一三、一生）は大阪府人岡田信男の養子となれり（神戸、御幸通七ノ一四電葺合二二九四）

岡田光治

電氣化學工業㈱常務取締役
神奈川縣在籍

妻　厚子　明二八、八生、新潟、渡邊文治二女
男　顯　明三八、二生、藥學士、東大醫學部副手
男　逸　明四三、八生、慶大豫科在學

君は東京府士族中澤房則の弟にして明治八年十一月を以て生れ先代ユキの養子となり同三十七年家督を相續す同年東京帝國大學法科大學を卒業し三井銀行に入り東京本店各地支店に轉勤し最近横濱支店長たりしが昭和五年十一月退職し同年十二月電氣化學工業會社常務取締役に就任す家族は尙三男敏男（大四、一二生）四男光生（同一一、六生）あり長女恭（明四二、二生、香蘭女學校出身）は三井銀行員木村秀儀に嫁せりA二五〇〇（東京市外品川町南品川宿淺間臺一四六電高輪二六五一）

參照＝家佐上信一の項

岡田孝雅

能州銀行㈱取締役
石川縣在籍

妻　すい　明三、二生、石川、高島小右衛門三女
男　保　明三二、七生、關西大學出身、陸軍造兵廠勤務
婦　豐子　明四一、一生、長男保妻、石川、井上民雄長女
男　稔　明三四、一二生、能州銀行員

君は石川縣人岡田茂松の長男にして明治二年三月を以て生れ同二十九年家督を相續す現時能州銀行取締役たり四女よしの（明三七、二生）は石川縣人山本岩二に嫁せり（石川、鹿島、金ケ崎村）

岡田幸三郎

鹽業製品販賣㈱取締役、鹽水港製糖㈱營業部長、東京府在籍

妻　隆子　明三〇、九生、福島、士、鈴木寅彦長女
男　英一　大一〇、一一生

君は千葉縣人岡田幸吉の三男にして明治二十一年四月を以て生れ大正八年分れて一家を創立す現時鹽水港製糖會社營業部長にして前記會社の重役たり家族は尙二男幸彦（大一三、一〇生）長女順子（昭二、八生）二女正子（同四、三生）ありA六四九（東京市外東調布町下沼部四八五電田園調布四一四）

參照＝鈴木寅彦の項

岡田佐七

愛知縣多額納稅者、昭和土地㈱取締役、糸佐商店、呉服商
愛知縣在籍

妻　てつ　明二七、一生
男　保次郎　明三二、四生、二男保次郎妻、愛知、青山理三郎妹
婦　とめ　明四、六生、愛知、石川茂兵衛二女

君は愛知縣人岡田嘉右衛門の三男にして文久二年十二月を以て生れ明治二十二年兄繼太郎方より分れて一家を創立し前名常吉を改む糸佐商店と稱し呉服商を營み傍ら前記會社の重役にして擧げられて愛知縣多額納稅者たり家族は尙孫作市（大八、八生、二男保次郎長男）同智惠子（同一〇、九生、同長女）同恒雄（同一二、六生、同二男）同信子（同一五、一生、同二女）同重夫（昭四、五生、同三男）あり（名古屋、中、鐵砲町一ノ一九電中一二九三）

岡田才一

日本銀行㈱神戸支店長
三重縣在籍

父　藤吉　元治元、九生、現戸主
妻　榮子　明二七、一一生、三重、士、小西功三女
男　太郎　大七、二生
女　富士子　大五、九生

君は三重縣人岡田藤吉の長男にして明治二十一年十二月を以て生る夙に東京高等商業學校を卒業し日本銀行に入り同行調査役同行特別融通整理部主事を經て現時神戸支店長たり家族は尙二男二郎（大一三、一〇生）あり（神戸、日本銀行神戸支店内）

參照＝岡田藤吉家古川與四吉の項

岡田定治郎

大津商工會議所會頭、近江倉庫土地㈱代表取締役、滋賀縣在籍

妻　かな　明一三、九生、滋賀、中村五市郎妹
男　庶子　大二、四生、生母、滋賀、井川よれ
男　英雄　生母、滋賀、

君は滋賀縣人馬場多助の二男にして明治七年二月を以て生れ先代和助の養子となり同四十二年家督を相續す現時前記會社の重役にして推されて大津商工會議所會頭たり（大津、白玉町三七）

岡田定信

神戸日々新聞社㈱社長
兵庫縣在籍

妻　富士野　明一九、九生、兵庫、川端藤兵衛三女
男　利秋　大九、四生

君は滋賀縣人岡田余吉の三男にして明治十七年八月を以て生れ大正十年兄惣吉方より分れて一家を創立す夙に早稻田大學を卒業し神戸新聞社に入り大正六年神港日報を發行し同十一年株式組織に變更と共に神戸日々新聞と改稱其社長となり今日に至る長女富美子（明四三、一生）は茨城縣人河野正一に嫁せり（神戸、西須磨下今池一五電須磨五〇三）

岡田三郎助

從四位勳三等、帝國美術院會員、東京美術學校教授、女子美術學校講師、洋畫家、東京府在籍

妻　やちよ　明一六、一二生、故劇作家小山内薫妹
男　薫　明二六、一二生、岡山、故劇作家小山内薫妹

君は佐賀縣士族石尾孝基の四男にして明治二年一月を以て生れ同二十年先代政藏の養子となり家督を相續す夙に二松學舍成立學校東洋英和學校に學ぶ尋で大野幸彦に師事し後大幸館に入り西洋風繪畫を專修せり同二十八年黑田清輝久米桂一郎等に就き專ら油畫を研究す同二十九年東京美術學校教授に任じ同三十年西洋畫研究の爲佛國に留學し同三十五年歸朝し同校教授に任じ現在に至る同四十一年文部省美術展覽會開設以來常に審査員に擧げられ本邦洋畫の巨匠にして帝國美術院會員に擧げらる夫人やちよは芹影と號し閨秀作家にして著作多し（東京市外澁谷町伊達九六電高輪六三三二）

岡田重久

正四位勳二等功四級、陸軍中將、高知縣士族

妻　正美　明一七、九生、高知、士、森下直樹二女
男　重一　明三一、六生、從七位勳六等、陸軍歩兵大尉
婦　淑　明四一、一二生、長男重一妻、山形、梅澤力助長女
男　重美　明三四、二生、陸軍砲兵中尉

君は高知縣士族岡田重行の長男にして明治三年十一月を以て生れ同三十二年家督を相續す夙に陸軍士官學校を卒業し同二十七年陸軍歩兵少尉に任じ同三十四年陸軍大學校を卒業し大正十一年陸軍中將に累進す其間參謀本部々員大本營陸軍參謀滿洲軍參謀第十師團參謀靜岡聯隊區司令官歩兵第四十聯隊長第十二師團參謀長臺灣第一守備隊司令官第一旅團長等に歷補し大正十二年豫備役に編入仰付けらる家族は尙三男重直（大五、一二生）二女美（同八、一生）孫信（昭三、三生、長男重一長女）弟重忠（明九、六生）同妻ミツイ（同二五、九生、東京、大澤榮太郎妹）及其子女あり長女靜（大二、三生）は外祖父森下直樹に弟重光（明一八、二生）は和歌山縣人貴志彌次郎に各養子となり姪綾子（大八、六生、弟重忠三女）も亦鳥島縣人小久保倉松の養子となれり（東京、四谷、大番町八〇）

參照＝梅澤力助、貴志彌次郎の項

岡田重義

兵庫縣多額納稅者、神戸商工會議所議員、地家管理㈱取締役、岡田屋、質商、兵庫縣在籍

妻　政子　明二六、一二生、岡山、大森佐吉妹、岡山縣立西大寺高等女學校出身
婦　禧彌　大二、三生、神戸女學院高等部在學

君は兵庫縣人岡田康之助の長男にして明治十九年六月を以て生れ明治四十五年慶應大學理財科を卒業し大正十四年家督を相續す同年岡屋商店と稱し質商を營み前記會社の重役にして縣下の多額納稅者たり又神戸商工會議所議員神戸稅務署所得調査委員神戸質屋組合聯合會々長に推さる家族は尙二女美榮子（大六、九生、神戸高等女學校在學）三女義子（同八、八生）四女聰子（同一一、二生）弟重尙（明三三、六生）同重勝（同三八、一生、醫學士）ありA七七二五B一三五七（神戸、兵庫橋通四ノ一七五電元町三一〇）

參照＝大森佐吉の項

岡田實麿　正五位勳五等、明治大學豫科教授
父　酔十郎　廣島縣在籍
母　ミナ　嘉永六、一〇生、現戸主
妻　直　安政六、二生、廣島、佐々木清三郎長女
男　宗三　明一九、六生、岡山、士、土居通博妹
女　都子　大六、六生
女　定子　明四四、一生
大四、三生

君は廣島縣人岡田酔十郎の長男にして明治十一年二月を以て生る同三十年同志社を卒へ翌年慶應義塾高等科を卒業し直ちに時事新報社に入り尋で米國に遊びオハイオ州オバリン大學を卒業して歸朝す同三十九年神戸高等商業學校教授に任じ翌四十年第一高等學校教授に轉ず現に明治大學豫科教授にして傍ら公私立大學に英語の教鞭を執りつゝあり著書數十種あり家族は尙四女富士子（大九、一一生）弟三米（明一二、二生）同妻三知（同二七、一〇生、岡山、尾谷半三郎妹）及其二子あり同東稻（同一四、一二生）は廣島縣人岡田義淵の養子となり妹ミチヨ（同一八、四生）は兵庫縣人永代靜雄に同萬壽代（同三一、九生）は廣島縣人八谷正義に嫁せりA六三五（東京市外中野町氷川三六電中野二〇四五）
參照＝尾谷半三郎、土居通博、嘉納文治、土居通憲、山中義貞、結城安次の項

岡田周二　商海運業、代表取締役
妻　スミエ　德島縣在籍
男　周三　明一一、一〇生、赤澤時太郎姉
女　壽子　明三八、八生
大四、七生

君は德島縣人岡田織太郎の長男にして明治七年六月を以て生れ大正十一年家督を相續す現時商記會社の重役たり弟爲三郎（明一二、五生）は分家し同義雄（同一四、一生）は德島縣人岩野竹史に四男恰（同二四、三生）は奈良縣人平野竹史に四女信子（同二六、九生）は德島縣人天羽幸三郎に各養子となり妹イトエ（同一六、四生）は大阪府人小林利三郎に同マサエ（同一八、二一生）は德島縣人矢部當太郎長男源左衛門に嫁せり（德島、板野、大津村）

岡田周造　從五位勳六等、內務書記官、地方局財務課長、東京府在籍

妻　ヌイ　明二七、四生、栃木、岡田良次郎女、三輪田高女出身
男　健一　大七、一二生
女　和子　大三、一一生

君は栃木縣人見目龍造の二男にして明治十九年十一月を以て生れ大正三年先代ヌイの入夫となり家督を相續す同年東京帝國大學法科大學を卒業し文官高等試驗に合格す爾來警視廳警部兼內務屬東京府屬靜岡愛知各縣理事官復興局書記官內務事務官等を經て昭和三年內務書記官に任じ復興局書記官を兼ねしが現時商記の職に在り家族は尙二女節子（大一〇、一二、一生）五女淑子（同五、六生）妻姉ゆき（慶應三、一二生、東京、野田幸吉長女）あり（東京市外大井町山中四二二七電大森一一七〇）

岡田重次郎　旭川商工會議所副會頭、合同酒精北海木材、丸旭川肥料、北海雑穀、北海屋商店各種監査役、野口賣代表社員、北海道在籍
妻　こと　安政五、一生、東京、土井樂永二女
男　フサ　明三三、四生、亡養子正平妻
孫　正雄　大八、九生、亡養子正平長男

君は北海道人岡田重平の二男にして同市松の弟なり明治八年十一月を以て生れ同三十三年分れて一家を創立す現に前記各會社の重役にして推されて旭川商工會議所副會頭たり家族は尙孫富美子（大一〇、三生、同二男）あり（旭川五條通一五左一〇）
參照＝岡田市松の項

岡田正吉　岡正資代表社員、木綿問屋業
母　マツ　東京府在籍
妻　とん　安政五、一生、東京、土井樂永二女
妹　ミツ　明三三、六生、富山、廣川豐太郎

君は東京府人岡田正次郎の庶子にして明治三十二年一月を以て生れ同四十四年家督を相續す現時岡正合資會社代表社員にして木綿問屋業を營む家族は尙父國太郎（明一〇、九生）は其妻ふじ（同一二、五生、浦野金藏二女）及其二男を伴ひ分家せり（東京、日本橋、富澤町四電日濱花八七五）

岡田正平　三井工業㈱副社長、十日町銀行、魚沼水力電氣、寺內海陸運輸各㈱取締役、名古屋鐵筋プロツク、長岡鐵道各㈱監査役
機母　カネ　新潟縣在籍
妻　ツカ　萬延元、九生、新潟、士、磯邊逸藤太三女
男　榮松　明一七、九生、新潟、五十嵐哲太郎妹
婦　富美　明三五、一〇生
女　ハル　明四二、二生、長男榮松妻、新潟松木弘二女
女　モト　明四一、一生
大元、八生

君は新潟縣人岡田龍松の二男にして明治十一年十月を以て生れ大正二年家督を相續す夙に實業界に入り現時三井工業會社副社長の外前記銀行會社の重役を兼ぬ家族は尙三男正光（大三、四生）四男榮三（同五、一生）五男正之助（同七、一生）六男龍平（同八、六生）孫榮子（昭四、八生、長男榮松長女）あり長女カツ（明三七、一〇生）同夫保逸（同二九、一生、新潟、阿部新吉弟）は分家し四女セツ（大一一、二生）は東京府人岡田かすゑに弟賢治郎（明二九、八生）同妻みやこ（同三一、五生、長野、竹內卷太郎二女）は共に新潟縣人岡田きしに各養子となれり（新潟、中魚沼、中條村）
參照＝松木弘二鍵富健作の項

岡田庄作　鳥取縣多額納稅者、岡田物產、境港合同運送各㈱社長、岡田ネオセメント合同汽船各㈱取締役、海運業、鳥取縣在籍
妻　さきゑ　明一六、一〇生、鳥取、松下伊作三女
男　洲二　明四二、三生、旅順工科大學在學
女　幸代　大五、八生、米子高女在學

君は鳥取縣人先代庄作の二男にして明治十三年十月を以て生れ同三十一年家督を相續し前名泰助を改め襲名す夙に神戸商業學校に學ぶ海運業を營み前記各會社の重役並に境商工會頭たり曩に西伯郡會議員境港灣修築期成會長等に擧げらる家族は尙三男洋三（大三、三生、松江中學在學）四女淑代（同七、一一生、米子高女在學）あり二女壽子（明三八、一二生）は鳥取縣人松下道藏に嫁し弟信吉（同一六、七生）同妻なきよ（同二四、二生、鳥取、門永榮太郎長女）は其一子を伴

ひ分家せりA八一五B一五四（鳥取、西伯、境町電三五）

岡田庄作　法學博士、明治大學教授、辯護士
妻　マトイ　東京府在籍
男　正登　明一四、六生、熊本、士、西村覺藏長女
女　ヒサ　明四一、三生
大五、二生

君は福岡縣人岡田宗三郎の三男にして明治六年三月を以て生れ同四十年兄卯吉方より分れて一家を創立す同三十五年明治大學を卒業し現時明治大學教授にして辯護士を開業す大正十三年法學博士の學位を受く家族は尙二男正世（大元、一〇生）あり（東京市外瀧野川町上中里六二電小石川二四五一）

岡田庄太郎　京都府多額納稅者、地金商　京都府在籍
養子　瀞　小林市兵衛二男、長女よれ夫、石川明一七、二生
女　よれ　明二二、三生、養子瀞妻
孫　直子　大四、一生、養子瀞長女

君は京都府人岡田庄兵衛の長男にして元治元年十一月を以て生れ明治十七年家督を相續す地金商を營み京都府多額納稅者にして直接國稅三千四百六十三圓を納む家族は尙孫正夫（大二、六生、養子瀞長男）同久夫（同五、九生、同二男）同晴夫（同七、一〇生、同三男）同良夫（同九、一二生、同四男）弟清次郎（明一〇、二生）あり妹さき（同五、二生）は京都府人廣瀨吉兵衛に同とめ（同一四、一一生）は同府人大久保吉良兵衛長男幸太郎に嫁し弟岩治郎（同一二、九生）は分家し甥榮太郎（同三四、二生、弟清次郎長男）は大阪府人阪根武兵衛の家籍に入れり（京都、左京、孫橋新高倉西入ル電上二六八二）

岡田省胤　東洋倉庫建物㈱取締役、松島炭礦東京府士族　東洋レーヨン各㈱監査役
妻　とせ　明一〇、一一生、靜岡、士、千田耕作妹
男　幸胤　明三三、八生
婦　かつ　明三八、四生、長男幸胤妻、千葉大熊仲次郎六女

君は東京府士族岡田泰胤の長男にして明治三年十月を以て生れ同四十年家督を相續す曾て三井物產長崎支店長たりし事ありしも現時商記各會社の重役たり家族は尙孫さよ子（大一四、九生、長男幸胤長女）同富美子（同四、九生、同三女）あり長女こう（明三六、八生）は福島縣人武藤美一に二女豐門（同三七、一二生）は兵庫縣人石關趙夫四男信助に妹八萬（同二七、三生）は愛媛縣士族山內正瞭に嫁せり（長崎市常磐町三）
參照＝山內正瞭の項

岡田信　從四位勳四等、陸軍三等主計、鴻巢公司、朝鮮鐵道、東省實業各㈱監査役、同寫美子　滋賀縣在籍
妻　のぶ　明三〇、六生、靜岡、馬場駿左衛門長女

君は滋賀縣人岡田逸治郎の五男にして明治十八年三月を以て生れ大正二年兄國太郎方より分れて一家を創立す明治四十二年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し文官高等試驗に合格す專賣局書記官銀行局副參事大藏事務官大藏書記官銀行局特別銀行課長兼任臺灣總督府事務官等に歷任し大正十四年東洋拓殖會社理事に轉じ今日に至る尙前記各會社の重役を兼ぬ（東京市外西巢鴨町池袋四四三電大塚五三六）
參照＝馬場駿左衛門の項

岡田信一郎　正五位、東京美術學校教授、早稻田大學理工學部教授、東京府在籍
妻　靜　明二七、七生、東京、田向初太郎二女

君は東京府人岡田讃吉の二男にして明治十六年十一月を以て生れ同三十六年兄阿蘇男方より分れて一家を創立す同三十九年東京帝國大學工科大學建築科を卒業し獨逸留學後明治四十二年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し文官高等試驗に合格す專賣局書記同試補同主事補同參事大藏事務官大藏書記官銀行局特別銀行課長兼任臺灣總督府事務官等に歷任し同四十四年早稻田大學理工科講師を囑託せられ大正十二年東京美術學校教授に任じ現時商記の職を兼ぬ家族は尙弟孝吉（明二二、六生、東京商科醫專出身）同妻カン（同二四、五生、東京、村川榮太郎妹）及其一男二女弟捷五郎（同二七、一一生、東京美術學校圖案科出身）同妻春（同三七、一生、東京、伊庭秀榮四女）あり弟復三郎（同一九、一一生）は分家せり（東京、牛込、神樂町二ノ二三電牛込三五九二）
參照＝冨熊谷巖の項

岡田捨次郎　昭和銀行㈱下谷支店長　石川縣在籍
妻　すみ　明三三、一一生、石川、吉田與四松妹
男　宏一　大一〇、三生

君は石川縣人森田德左衛門の三男にして明治二十三年一月を以て生れ先代ことの養子となり昭和二年家督を相續す現時昭和銀行下谷支店長たり尙長女洋子（大一一五、四生）あり（東京市外杉並町天沼七六二）

岡田壯四郎　日新染布㈱社長、南洋貿易㈱代表取締役、東京搾油㈱專務取締役、日清紡績、東京モスリン紡績各㈱取締役、東亞製麻、東京アルカリ工業各㈱監査役
妻　ふじ　東京府在籍
男　正衛　明一二、五生、東京、浦野仁兵衛妹
男　弘　明三九、九生

君は栃木縣人小倉太一郎の大叔父にして明治十年九月を以て生れ後岡田正次郎の養子となり大正八年分れて一家を創立す現時日新染布會社長の外前記各會社の重役たり（東京市外巢鴨町一三〇七電大塚一四七三）

岡田太郎　岡田毛織㈱代表社員、集雅堂、書畫骨董商、大阪府在籍
妻　雪子　明九、九生、三重、渡邊貞治郎妹
女　雪子　明四二、三生、清水谷高女出身
女　君子　大四、一生

君は愛知縣人岡田九左衛門の長男にして明治十年四月を以て生れ同十九年家督を相續す夙に大阪に出でゝ骨董商若山商店に入り後獨立同業を開業し集雅堂と稱す傍ら岡田毛織會社代表社員たり勤王志士の遺墨を愛好す家族は尙孫百合子（大一三、三生、七三女愛子私生子）あり（大阪、東、代見町四ノ二九電本局八六〇〇）

岡田武松　正四位勳二等、理學博士、土院會員、氣象臺技師兼東京帝國學大學教授、中央氣象臺長兼海洋氣象臺長、地震研究所々員　千葉縣在籍
妻　みつ　明一六、二生、茨城、海老原精一長女

君は千葉縣人岡田由之助の二男にして明治七年八月を以て生れ大正二年兄金太郎方より分れ一家を創立す同三十二年東京帝國大學理學科を卒業し氣象臺技師に任じ現に東京帝國大學教授を兼ね中央氣象臺長

兼海洋氣象臺長の職に在り地震研究所々員にして昭和六年帝國學士院會員に擧げらる長女易（明三七、二生）は東京帝國大學助教授拔山大三に嫁せり（東京、麹町、元衞町中央氣象臺長官舍**電九ノ内八一二**）

参照＝拔山大三の項

岡田忠彦

母　多嘉惠　安政五、七生、祖父包幹長女
妻　しづ　明一八、六生、東京、秋山有文姉
男　武彦　明四一、七生

君は岡山藩一門池田伊賀守家臣岡田唫平の長男にして明治十一年三月を以て生れ大正四年家督を相續す明治三十六年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し文官高等試驗に合格す同三十九年靜岡縣事務官に任ぜられ爾來大分奈良山口熊本各縣事務官内務書記官警保局警務課長長崎縣内務部長埼玉長野熊本各縣知事内務省警保局長東京市助役等に歷任す鄕里岡山市より推されて衆議院議員となり當選する事三回立憲政友會所屬たり家族は尙弟包義（明三三、四生、法學士）同妻百合子（同三八、五生、栃木、小平浪平長女）及其二子あり長女ふじ（同三九、三生、東京女學館出身）は京都府人原田繼之助三男源之助に妹琴（同三〇、七生）は岡山縣士族菊山嘉男に嫁し弟淵秀（同一二、九生）は其二男を伴ひ分家し甥次郎（大三、三生、弟淵秀二男）は岡山縣人鳥越茂穗の養子となれり（東京、麹町、永田町二ノ三一**電銀座三二一〇**）

参照＝菊山嘉男、小平浪平、原田繼之助の項

岡田爲三

妻　しん　明二九、二生、滋賀、神馬六郎兵衞七女

君は大阪府人望月孫二郎の三男にして明治二十年十一月を以て生れ先代仙三の養子となり大正六年家督を相續す現時大阪時事新報社營業局長にして廣告部長を兼ね家族は尙長女光子（大八、五生）二女美幸（同一〇、一生）三女都（同一二、七生）あり四女操（同一五、二生）は滋賀縣人諸歌ふゆの死跡を相續せり（大阪、天王寺、松ヶ鼻町一五**電南七六五〇**）

岡田恒輔

大阪時事新報社經營業局長兼廣告部長、滋賀縣在籍

正五位勳六等、陸軍歩兵少尉、第一高等學校生徒主事兼教授
埼玉縣在籍

父　治平　天保一〇、一生
繼母　せき　安政元、九生、埼玉、中村兼吉二女
妻　トキ　明三〇、一一生、東京、小宮彌三郎長女
男　在輔　明四二、一一生
女　敏　大元、一二生

君は埼玉縣人岡田治平の長男にして明治十六年四月を以て生れ同四十五年家督を相續す同四十三年東京帝國大學文科大學哲學科を卒業し熊本縣立熊本埼玉縣立熊谷各中學校教諭埼玉縣立川越中學校長兼教諭名古屋高等商業學校第一高等學校各教授等に歷任し現時第一高等學校教授の任に在り家族は尙ほ三男倶輔（大八、三生、生徒主事兼教授）二女教（同一二、六生）五男良輔（昭四、九生）二女智（同一四、四生）あり（東京、本郷、駒込東片町一二八**電小石川一〇〇三**）

岡田常次郎

足立屋、公債債券賣買業
東京府在籍

母　ふい　明五、一〇生、東京、岩崎重職養子
妻　信　明二七、一〇生、東京、高橋金七三女
男　豪太　大七、五生

君は東京府人先代常次郎の長男にして明治二十年十一月を以て生れ大正九年家督を相續し前名喜兵衞を改め襲名す足立屋と稱し公債債券賣買業を營む家族は尙二男憲二（大八、九生）長女登美子（昭三、三生）あり養姉いそ（明四、八生、東京、高木清藏長女）は東京府人雨宮長兵衞次郎に嫁し姉保（同一五、八生）妹衣（同一九、一〇生）弟英吾（同三五、七生）は各分家し妹節（同二七、二生）も亦其夫金四郎（同二六、二生、埼玉、川田町二**電牛込二一一〇**）

参照＝川田長兵衞次郎の項

岡田哲藏

從三位勳二等、青山學院教授
東京府士族

妻　千重　明八、五生、青山學院高等學部長藪内敬之助妹
男　光世　明三五、六生、理學士、水產講習所教授

君は滋賀縣人岡田常造の長男にして明治二十二年三月を以て生れ大正十五年家督を相續す義に丸紅商店取締役に擧げられ明治四十年伊藤忠合名會社に勤務し又歐米に遊ぶ現時新興毛織株式會社取締役兼營業部長たり家族は尙弟包義（明三三、四生、法學士）同妻百合子（同三八、五生、栃木、小平浪平長女）及其二子あり長女ふじ（同三九、三生、東京女學館出身）は京都府人原田繼之助三男源之助に妹琴（同三〇、七生）は岡山縣士族菊山嘉男に嫁し弟淵秀（同一二、九生）は其二男を伴ひ分家し甥次郎（大三、三生、弟淵秀二男）は岡山縣人鳥越茂穗の養子となれり（東京、麹町、永田町二ノ三一**電銀座三二一〇**）

参照＝菊山嘉男、小平浪平、原田繼之助の項

岡田爲三

大阪時事新報社經營業局長兼廣告部長、滋賀縣在籍

妻　しん　明二九、二生、滋賀、神馬六郎兵衞七女

君は大阪府人望月孫二郎の三男にして明治二十年十一月を以て生れ先代仙三の養子となり大正六年家督を相續す現時大阪時事新報社營業局長にして廣告部長を兼ね家族は尙長女光子（大八、五生）二女美幸（同一〇、一生）三女都（同一二、七生）あり四女操（同一五、二生）は滋賀縣人諸歌ふゆの死跡を相續せり（大阪、天王寺、松ヶ鼻町一五**電南七六五〇**）

岡田恒輔

正五位勳六等、陸軍歩兵少尉、第一高等學校生徒主事兼教授
埼玉縣在籍

岡田常次郎

足立屋、公債債券賣買業
東京府在籍

母　ふい　明五、一〇生、東京、岩崎重職養子
妻　信　明二七、一〇生、東京、高橋金七三女
男　豪太　大七、五生

君は東京府人先代常次郎の長男にして明治二十年十一月を以て生れ大正九年家督を相續す前名喜兵衞を改め襲名す足立屋と稱し公債債券賣買業を營む家族は尙二男憲二（大八、九生）長女登美子（昭三、三生）あり養姉いそ（明四、八生、東京、高木清藏長女）は東京府人雨宮長兵衞次郎に嫁し姉保（同一五、八生）妹衣（同一九、一〇生）弟英吾（同三五、七生）は各分家し妹節（同二七、二生）も亦其夫金四郎（同二六、二生、埼玉、川田町二**電牛込二一一〇**）

参照＝川田長兵衞次郎の項

岡田哲藏

從三位勳二等、青山學院教授
東京府士族

妻　千重　明八、五生、青山學院高等學部長藪内敬之助妹
男　光世　明三五、六生、理學士、水產講習所教授

君は三重縣人青木惣右衞門の弟にして元治元年九月を以て生れ後先代セキの養子となり明治三十二年家督を相續す現時前記各銀行會社の重役たり家族は尙孫美津子（大八、三生、二男完二郎長女）同新一（同一三、二生、同長男）同昭二（昭二、四生、同二男）同好子（大一五、八生、三男逢三郎長女）あり二女いく（明三二、四生）は三重縣人須知元直に三女あき（同三五、七生）は奈良縣人石澤命知に五女あき（同四一、九生）は愛知縣人下出重喜に嫁せり（津、西新町津一九三二）

参照＝岡田才一、佐々木清麿、下出民義氣下出義雄氣鎭川喜之輔氣草深六治郎の項

岡田德右衞門

愛知縣多額納稅者、家主
愛知縣在籍

妻　すゑ　明二五、四生、愛知、岡田良右衞門妹、名古屋市立第一高女出身
男　春三　明四四、二生
女　ふさ子　大三、一〇生

君は愛知縣人先代穗右衞門の長男にして明治十七年七月を以て生れ同年家督を相續し襲名す家主にして愛知縣多額納稅者たり家族は尙三男芳三（大八、二生）四男重之（同九、一二生）あり（名古屋、東、伊勢町四ノ一三五**電東三〇〇**）

参照＝岡田良右衞門氣生田治助氣佐藤明治郎氣杉本新左衞門の項

岡田虎三郎

岡田織布穗代表取締役、菊池織布穗取締役、愛媛縣在籍

妻子　正夫　明三三、一〇生、愛媛、馬場八十七男
婦　久子　明三九、二生、妻子正夫妻、愛媛阿部滿長女

君は愛媛縣人岡田儀三郎の三男にして明治元年五月を以て生れ同二十八年兄貞市方より分れて一家を創立す現時前記諸會社の重役たり家族は尙妻子艷子（大六、五生、兄貞市孫）同愛子（同七、一一生、愛媛、兵頭君太郎四女）あり（愛媛、西宇和、八幡濱町）

参照＝氣宇都宮壯十郎の項

岡田春夫

衆議院議員（北海道選出）、農業
北海道在籍

妻　マサヱ　明二七、五生、北海道、士、櫻井良三長女
男　穰　大三、六生
女　千惠子　大五、一生

君は兵庫縣士族岡田豐八の五男にして明治二十年三月を以て生れ大正二年兄次雄方より分れて一家を創立す夙に早稻田大學政治科を卒業し農業を營み昭和五年北海道より推されて衆議院議員に當選し立憲民政黨所屬たり蟲に北海道參事會員に擧げらる家族は尙二男晃（大七、一生）三男豐（同一一、一一生）あり（北海道、空知、美唄町）

岡田彦治郎

新興毛織穗取締役兼營業部長
滋賀縣在籍

妻　小枝　明三四、三生、滋賀、增田長治郎長女、大津高女出身

君は滋賀縣人岡田常造の長男にして明治二十二年三月を以て生れ大正十五年家督を相續す義に丸紅商店取締役に擧げられ明治四十年伊藤忠合名會社に勤務し又歐米に遊ぶ現時新興毛織株式會社取締役兼營業部長たり家族は尙弟包義（明三三、四生、法學士）同妻百合子（同三八、五生、栃木、小平浪平長女）及其二子あり長女ふじ（同三九、三生、東京女學館出身）は京都府人原田繼之助三男源之助に妹琴（同三〇、七生）は岡山縣士族菊山嘉男に嫁し弟淵秀（同一二、九生）は其二男を伴ひ分家し甥次郎（大三、三生、弟淵秀二男）は岡山縣人鳥越茂穗の養子となれり（東京、麹町、永田町二ノ三一**電銀座三二一〇**）

参照＝菊山嘉男、小平浪平、原田繼之助の項

岡田文次

從四位勳二等、貴族院議員
新潟縣在籍

妻　しう　明一〇、三生、**養父義質**二女
男　文雄　明三一、三生、大連海關在勤
婦　孝子　明三九、三生、**長男文雄妻**、兵庫安藤正敬姉
男　敬雄　明四〇、二生
女　藤枝　明四二、五生
男　晃雄　明四四、一〇生

君は山形縣士族濱田長之助の長男にして明治七年一月を以て生れ後岡田義質の養子となり同三十二年分れて一家を創立す同三十一年東京帝國大學法科大學を卒業し同年文官高等試驗に合格す爾來沖繩縣參事官山梨千葉各縣參事官警視總監等に歷任し大正七年栃木縣知事樺太廳長官警視總監等に歷任し貴族院議員に勅任せら寺内内閣瓦解と同時に官を辭し貴族院議員に勅任せらる家族は尙孫敬昭（昭二、六生、長男文雄長男）同敬和（同三、一〇生、同二男）あり義妹つね（明一四、三生）は山形縣士族秋山武三郎に嫁せり（東京市外落合町下落合中原五九二**電牛込一六八〇**）

参照＝秋山武三郎の項

岡田文太郎

中央殖產穗社長、美含銀行穗取締役、羅紗商、兵庫縣在籍

妻　りの　明二四、四生、兵庫、倉橋彌左衞門三女
女　文惠　明四四、三生
女　文子　大二、四生

君は兵庫縣人岡田市郎兵衞の二男にして明治十六年二月を以て生れ同四十四年分れて一家を創立す羅紗商を營み傍ら中央殖產會社々長にして美含銀行取締役たり家族は尙四女久子（大一〇、九生）あり（神戸、相生町一ノ一一**電元町三〇二五**）

岡田文秀

從五位、內務書記官、土木局河川課長、兵庫縣在籍

養父　宇之助　明五、一一生、兵庫、原藤七郎三男、現戸主
養母　と　明一〇、七生、岡田重弘四女
妻　みち　明三四、一生、養父宇之助養子
男　光子　大八、九生
男　純夫　大八、九生

君は島根縣人吉岡謙太郎の三男にして明治二十五年十一月を以て生れ大正二年岡田宇之助の養子となる同五年文官高等試驗に合格し翌年東京帝國大學法科大學法律學科を卒業し東京府屬となり爾來東京府南葛飾郡長岐阜縣東京府各理事官內務書記官都市計畫局庶務課長內務事務官等を經て同十四年內務書記官土木局河川課長に任じ今日に至る家族は尙二男稔（大一〇、一〇生）三男紀三男（同一三、二生）長女晶子（同一五、八生）養叔母妹季（明一二、九生）あり（東京市外荏原町中延一〇七一**電高輪一六三八**）

岡田平次郎

勳七等、鳥取縣參事會員、但陽電鐵穗社長、山陰日日新聞社穗監査役、鳥取縣在籍

繼母　ますの　安政元、一二生、鳥取、清水芸三郎長女
妻　くら　明八、一二生、鳥取、松村吉太郎長女
男　泰藏　明三七、四生
婦　まつ子　明四〇、一〇生、長男泰藏妻、鳥取、松井熊次郎孫
男　昂　明三九、四生
女　やへ子　明四一、四生
婦　玉枝　明三七、九生、長男光世妻、東京日野道之助長女
女　高根　明四一、一生、御茶水高女專攻科出身
男　清見　明四三、五生、府立高等學校在學
男　豐日　明四四、九生、自由學園在學
女　定慧　明四四、九生、自由學園在學
女　言子　大五、一一生、自由學園在學

君は舊下總佐倉藩士岡田盛寬の長男にして明治二年十月を以て生れ同三十五年家督を相續す夙に青山學院高等學部及東京帝國大學文科大學選科を卒業し蟲に陸軍教授陸軍大學校教官たりしも現時青山學院教授たり著書數卷あり長女萬里（明三四、三生）は群馬縣人山崎守正に妹サク（同六、八生）は東京府人中村竹藏に同つぎ（同一二、一一生）は新潟縣人田宮官次郎長男準一郎に嫁し弟具（同八、一〇生）同妻キヨ（同一七、一二生、東京、士、池端イト長女）は其子女を伴ひ分家せり（東京、麻布、笄町一七三）

参照＝中村竹藏の項

岡田藤吉

百五銀行穗常務取締役、河藝銀行穗取締役、相互商事穗監査役
三重縣在籍

妻　ユキ　明元、二生、三重、士、長谷部一二女
男　才一　明二一、一二生
男　完二郎　明二四、一〇生
婦　初子　明三一、八生、二男完二郎妻、三重、佐々木清麿長女
男　逢三郎　明二九、八生、三男逢三郎妻、愛知、下出民義二女
婦　磯子

君は三重縣人青木惣右衞門の弟にして元治元年九月を以て生れ後先代セキの養子となり明治三十二年家督を相續す現時前記各銀行會社の重役たり家族は尙孫美津子（大八、三生、二男完二郎長女）同新一（同一三、二生、同長男）同昭二（昭二、四生、同二男）同好子（大一五、八生、三男逢三郎長女）あり二女いく（明三二、四生）は三重縣人須知元直に三女あき（同三五、七生）は奈良縣人石澤命知に五女あき（同四一、九生）は愛知縣人下出重喜に嫁せり（津、西新町津一九三二）

参照＝岡田才一、佐々木清麿、下出民義氣下出義雄氣鎭川喜之輔氣草深六治郎の項

君は鳥取縣人岡田忠次郎の長男にして明治五年六月を以て生れ同三十二年家督を相續す現時但陽電鐵會社長の外前記會社の重役にして拂されて鳥取縣參事會員たり家族は尙孫龍平（大一五、一一生、長男泰藏長男）同允克（昭五、二生、同二男）あり弟芳次郎（明一四、四生）其妻ゆきの（同二一、一二生、鳥取、森政太郎妹）は共に分家せり（鳥取、西伯、賀野村）

岡田昌吉

妻　せつ　高砂企業㊫社長、高砂ゴム工業、高砂鐵工、高砂煖房工事、南米土地各㊫取締役、愛國生命、高砂工業各㊫常任監査役、甲子製紙㊫監査役、東京府士族

女　まさ子　明一九、九生、東京、加納春三長女、渡邊裁縫女學校出身　明四二、一生、日本女大英文學科出身

君は東京府士族岡田昌治の長男にして明治九年四月を以て生れ同二十八年家督を相續す同二十八年東京商業學校卒業後渡米し同三十三年紐育イーストマンカレッヂを卒業し日本興業銀行に入り副支配人に進む現時高砂企業會社長の外前記諸會社の重役にして曩に京濱土地山陽無煙炭礦各會社の監査役たりし事ありA一九八〇（東京、小石川、駕籠町八二）電大塚一六三九

岡田又一郎

大和屋賣代表社員、土地建物有價證券賣買業、地主、東京府在籍　安政四、四生、東京、岡田又兵衛長女

祖母　てう

母　さわ　明一六、一二生、埼玉、池田仲次郎二女

君は東京府人岡田銀次郎の長男にして明治三十八年十一月を以て生れ大正十四年家督を相續す大和屋合資會社代表社員にして土地建物有價證券賣買業を營み地主たり家族は尙弟又三郎（大三、八生）妹政子（同六、七生）弟又四郎（同一〇、四生）あり同利夫（明四四、二生、父銀次郎庶子）同末夫（大三、三生、同上）妹近子（同六、九生、同上）同實子（同九、四生、同上）弟宮夫（同一二、四生、同上）は共に其生母東京府人渡邊はなの家籍に入れり（東京、京橋、築地一ノ二六）

岡田美津

從四位勳三等、東京女子高等師範學校教授、東京府在籍　嘉永六、一二生、東京、渡邊正七女史は東京府人岡田英之助の長女にして明治八年九月を以て生れ大正元年家督を相續す先是明治三十一年東京女子高等師範學校を卒業し同校助教諭となり同三十五年二月米國に留學を命ぜられ同三十八年十月歸朝直ちに同校教授に任ぜられ今日に及ぶ又大正十年同校生徒監に補せられ昭和二年之を辭す（東京、牛込、新小川町二ノ三）

母　ろく

岡田實

從五位、陸軍工兵少尉、鐵道技師建設局工事課勤務㊫東京鐵道局教習所講師、岐阜縣在籍　明六、六生、現戸主

父　二郎　明三二、三生、岐阜、飯田草妹、大垣高女出身

妻　ハル

君は岐阜縣人岡田二郎の長男にして明治二十二年七月を以て生る大正五年京都帝國大學理工科大學土木工學科を卒業し鐵道院技手に任じ同技師を經て鐵道技師となり北海道米子岡山各建設事務所勤務を經て大正十四年建設局工事課勤務となり昭和三年東京鐵道局教習所講師を兼ね現在に至る曩に在外研究員として二ヶ年間米獨兩國に留學を命ぜらる家族は尙長女昌子（大一四、一生）妹靜子（同四一、七生）あり弟清（同二九、七生）は岐阜縣士族日比野久雄に同勇（同三二、八生）は同縣人池田文藏養子桂次郎に各養子となり同徹（同二六、七生）は同縣人田畑宇市長女八重の婿養子となり同勉（同三四、一生）は愛知縣人石原光太郎の死跡を相續せり（東京、本郷、駒込曙町一三）

岡田素臣

衆議院議員（岐阜縣選出）、醫師　岐阜縣在籍

父　才次郎　安政四、七生、現戸主

繼母　はつ　明二〇、二生、岐阜、赤尾國次姉

君は岐阜縣人岡田才次郎の長男にして明治十八年四月を以て生る夙に東京慈惠會醫院附屬醫學專門學校を卒業し醫師にして岐阜縣より推されて衆議院議員に當選す曩に大垣市會議員岐阜縣會議員たりし事あり立憲民政黨所屬たり家族は尙弟秀雄（明三八、二生）同和夫（同四四、七生）あり（大垣市）

岡田紋治郎

川紋、乾物食料品商　東京府在籍

妻　あさ　明一六、一二生、先々代紋治郎長女

君は島根縣人稻垣了齊の二男にして明治十四年三月を以て生れ先代鴻三郎の養子となり大正十五年家督を相續す明治三十九年京都帝國大學理工科大學電氣工學科を卒業し現時明工社々長川合電氣會社長たり家族は尙三男全（大二、三生）ありA二〇七九（東京市外代々幡町代々木一二五）電長四谷二八〇

參照＝加賀山學氣石田嘉隨氣岡田啓介の項

岡田陽一

從四位勳三等、工學博士、九州帝國大學教授、工學部勤務、東京府在籍

父　一三　萬延元、八生、山口、士、長谷川方省二女

母　タキ

妻　薫　明二七、一生、男爵前田直行二女

男　健次　大一三、一二生

岡田家は代々金澤藩士にして藩主前田家に仕へて今聞あり君は現戸主一三の長男にして明治十四年十一月を以て生る同四十年東京帝國大學工科大學採鑛冶金學科を卒業し同四十二年文部省留學生に選ばれ三ヶ年間獨逸に留學を命ぜられ彼地に在りて採鑛學を研究す同四十五年歸朝するや直ちに九州帝國大學教授に任ぜられ工學部勤務にして今日に至る大正七年工學博士の學位を授けらる家族は尙二女直子（大一五、一〇生）あり（福岡市藥院瀧ノ本二六）電二八一五

參照＝男爵前田直行の項

岡田良光

松山工業、松山染織各㊫社長　愛媛縣在籍

妻　タキ　明一九、九生、愛媛、三神嘉十郎長女

男　賀之　昭二、七生

女　綾子　明四一、六生

女　美惠子　大二、一生

庶子　光子　明三九、七生、生母、山口タニ

君は愛媛縣人岡田周次の二男にして明治十三年七月を以て生れ大正四年家督を相續す現時前記各會社長たり家族は尙三女千壽子（大一〇、一生）あり弟隆茂（明二四、六生）同妻ヌイ（同二八、九生、愛媛、相原利平次二女）は其子女を伴ひ分家せり（松山、小坂二四四）

岡田善知

熱帶興業㊫取締役社長　愛知縣在籍

父　萬太郎　明五、八生、京都、大平清吉弟、現戸主

繼母　すま　明二四、三生、愛知、今枝松次郎妹

君は埼玉縣人朝田巳之吉の弟にして明治七年三月を以て生れ同三十三年先代あさの入夫となり家督を相續し前名孝吉を改む川紋と稱し乾物食料品商を營む從弟吉藏（明二五、二生、亡叔父新藏長男）は分家し從妹はま（同三〇、八生、同二女）同さい（同三二、一生、同三女）同さの（同三八、三生、同四女）從弟忠次郎（同四一、二生、同三男）は共に其家籍に入れりA一〇〇〇B一三〇（東京、神田、松富町九）電下谷三六一）

岡田勇次郎

從五位勳五等、檢事、田邊區裁判所檢事㊫和歌山地方裁判所田邊支部檢事、京都府在籍　明二、五生、京都、山口德兵衛長女

養母　コマ

妻　トク　明二八、一二生

女　夫佐子　明四四、四生

女　芳子　大三、二生

君は京都府人山口德兵衛の二男にして明治十五年三月を以て生れ先代武一郎の養子となり大正六年家督を相續す明治四十二年京都帝國大學法科大學法律科を卒業し司法官試補となり次で檢事に任じ爾來小樽區松江區㊫同地方高梁區岡山區㊫同地方倉吉區㊫鳥取地方柳河區長崎地方㊫同區長崎區㊫同地方各裁判所檢事小倉區裁判所㊫區岡地方裁判所小倉支部豐岡區㊫神戸地方豐岡支部各檢事新宮區裁判所檢事㊫和歌山地方裁判所新宮支部檢事等に歷補し昭和四年現職に轉じ今日に至る家族は尙四女美都子（大八、一二生）あり姪スヱ（明二八、九生）は京都府人島津忠幹に嫁せり（和歌山、西牟婁、田邊町）

岡田豐

川合電氣㊫社長、アミノ製劑㊫取締役、明工社々長、千葉縣士族　弘化三、七生、福井、士、岡田新兵衛長女

養母　ち

養祖母　や

養父　鴻三郎　文久元、九生、福井、士、加賀山學叔父

養母　ひて　明四、三生、福岡、河井清三郎妹

妻　みき　明一七、一二生、養父鴻三郎長女

男　實　尙　明四〇、一〇生

男　倚　明四二、九生

女　ゆき　明四四、八生

君は島根縣人稻垣了齊の二男にして明治十四年三月を以て生れ先代鴻三郎の養子となり同三十二年家督を相續し前名浪之助を改む現時前記銀行會社の重役にして曩に尾陽土地經營會社取締役たりしことあり書畫茶事及謠曲を好む家族は尙五男大治（大元、八生）孫その（昭四、四生、二男登間雄長女）あり長女フミ（明二八、一二生、愛知縣立第一高女出身）は愛知縣人生田治助弟治信に三女つぎ（同三二、八生、出身校同上）は岐阜縣人大野鈴七に四女登喜（同三六、五生、出身校同上）は京都府人齋藤貞一郎に養妹する（同二五、四生、第一市立高女出身）は宗家の當主岡田德右衛門に同キミ（同二八、九生、出身校同上）は愛知縣人佐藤明治郎に同サダ（同二九、一〇生、出身校同上）は京都府人杉本新左衛門に養弟榮藏（同三〇、二生）は外祖父鬼頭興三兵衛に各養子となれり（名古屋、東、伊勢町四ノ六）電東一一二三）

參照＝生田治助、岡田德右衛門、佐藤明治郎、杉本新左衛門の項

岡田良一

從五位勳五等、地方技師㊫移民牧容所醫官、兵庫縣警察部衛生課長　新潟縣士族

母　シマ　安政四、五生、新潟、新居恒藏長女

妻　トシ　明一五、一生、新潟、山縣正外長女

男　孝平　明四二、七生

女　千代　明四五、三生

君は新潟縣士族岡田稻尾の長男にして明治十一年十二月を以て生れ大正十一年家督を相續す明治三十五年醫術開業試驗に合格し同三十六年新潟縣檢疫委員を命ぜられ次で新潟縣技手同醫齋藤貞秋田埼玉各縣技師防疫官㊫兵庫縣技師に歷任し大正十三年滿洲に出張す現時前掲の官職にあり移民收容所長を兼ぬ長女靜（明三九、一一生）は京都府人山田清一に嫁せり（神戸、中山手通）

岡田良右衛門

愛知銀行、大成、自德商店各㊫監査役、愛知縣在籍　萬延元、六生、愛知、鬼頭與三兵衛四女

養母　キヌ

妻　しん　明九、一一生、養父良右衛門長女

男　登間雄　明三四、一一生、法學士、安田貯蓄銀行員

男　一男　明三九、二生、名古屋高商出身

女　あさ　明四二、八生、愛知縣立第一高女出身

男　良平　明四四、二生

當家は先代良右衛門士地の豪商岡田德右衛門方より分れて一家を創立したるに創まる君實は愛知縣人伊都の純平の兄に方り元治元年五月を以て生れ明治三十六年三男にして明治六年一月を以て生れ先代良右衛門の養子となり同三十二年家督を相續す明治三十一年東京女子高等師範學校を卒業し同校助教諭となり同三十五年二月米國に留學を命ぜられ同三十八年十月歸朝直ちに同校教授に任ぜられ今日に及ぶ大正十年同校生徒監に補せられ昭和二年之を辭す（東京、牛込、新小川町二ノ三）

岡田良平

正三位勳一等、樞密顧問官、靜岡縣多額納稅者、產業組合中央會々頭、靜岡縣在籍

妻　操　明七、七生、滋賀、士、石黑務二女

養子　分平　明二〇、一生、父良一郎五男

婦　きよ　明二九、八生、貴族院議員尼崎元次郎長女

君は靜岡縣人岡田良一郎の長男にして一木喜德郎竹山純平の兄に方り元治元年五月を以て生れ明治三十六年

家督を相續す同二十二年帝國大學文科大學哲學科を卒業し第一高等學校教諭同校教授文部省視學官同參事官山口高等中學校長文部書記官高等教育會議員文部參與官文部省實業學務局長文部總務長官宮內省御用掛錦鶏間祗候東京都帝國大學總長文部總務長官同三十七年貴族院議員に勅選せられ現時樞密顧問官にして縣下の多額納稅者に列し產業組合中央會々頭に推さる家族は尙孫佐太郎（大五、七生、養子分平長男）同曾二郎（同六、九生、同二男）同雅子（同八、一一生、同長女）同讓三郎（昭二、六生、同三男）あり弟繩平（明一四、七生）養妹たつ（同二四、九生）は各分家し同きむ（同一七、三生）は醫學博士杉村七太郎に嫁せり（東京、小石川、原町一二五電小石川九八五）

參照＝一木喜德郎、尾崎元次郎、杉村七太郎、竹山純平家一戶二郎家高橋鍊家塚本小四郎の項

岡田和一郎

妻　トク　正三位勳二等、醫學博士、東京帝國大學名譽教授、醫學博士、東京市會議員、東京帝國大學名譽教授、醫學博士、東京帝國大學教授、昭和醫學專門學校長、東京聾啞學校講師、同會長、根岸養生院主、醫師、東京府在籍

養子　清三郎　慶應元、四生、醫學博士、榊保三郎姉、女子、高等師範學校出身、長女和子夫、埼玉、横田市太郎弟、醫學博士、千葉醫科大學教授

女　和子　明二五、六生、養子清三郎妻、學習院女學部專攻科出身

孫　壽々子　大三、四生、養子清三郎長女

君は愛媛縣人岡田喜愈太の長男にして元治元年一月を以て生れ明治十六年家督を相續す同二十二年帝國大學醫科大學を卒業し同校助手となり次で助教授に任じ同二十九年耳鼻咽喉科學研究の爲め獨逸に留學を命ぜられ同三十三年醫學博士の學位を授けらる同三十五年東京帝國大學教授に進み大正五年歐米に出張を命ぜらる現時同大學名譽教授昭和醫學專門學校長にして根岸養生院を經營し又前記の職に在り傍ら推されて東京市會議員たり家族は尙孫武雄（大七、四生、養子清三郎長男）あり妹コヒデ（慶應元、一一生）は愛媛縣人青野勇三郎に嫁し弟絹雄（明一四、八生）は分家せり（東京、麹町、三番町三六電九段一二四〇）

參照＝家時政梅吉家榊順次郎の項

岡出幸生

正五位勳六等、農林技師、農務局勤務、東京府在籍

妻　とし　明三〇、九生、三重、別所由次郎長女

男　和生　昭五、一〇生

養子　チヅ　明四、一生、三重、前田嚴生妹

君は三重縣人岡出勝定の三男にして明治二十一年二月を以て生れ大正十五年蜊鉦吉方より分れて一家を創立す同三年東京帝國大學農學科を卒業し福島縣技師鶴島縣農事試驗場長農商務技師に歷任し同十一年支那に出張す同十四年農林技師に任ぜられ歐米各國に出張を命ぜらる現に農林技師にして農務局勤務たり（東京市外大崎町谷山二三七）

岡西行雄

妻　イク　島商店㈱取締役、日新自動車㈱監査役、岡西商店賣代表社員

男　俊博　奈良縣在籍　大一二、七生

君は奈良縣人岡西勝三郎の五男にして明治二十五年一月を以て生れ大正七年分れて一家を創立す明治四十五年大阪高等商業學校を卒業し現に島商店會社取締役たる外前記會社の重役たり家族は尙養女敏子（大七、一二生）二女笑子（同一一、一生）あり（神戶、八軒友田二二）

參照＝越ヶ谷伊太郎の項

岡西芳三

養產家　兵庫縣在籍

養母　いそ　明一六、四生、兵庫、牟田藤吉姉

妻　廣子　明四〇、二生、京都、永江伊三郎妹

岡西家は神戶市に於ける舊家にして養產家なり君は兵庫縣人牟田藤吉の弟にして明治三十年一月を以て生れ後先代與四郎の養子となり大正十二年家督を相續す同五年縣立神戶商業學校を卒業し專ら養產の管理に當る家族は尙養妹マチ（大六、八生、大阪、阪上宗一郎二女）あり A四五七五（神戶、山本通五ノ五二ノ三電元町七三九）

岡野榮三

三井銀行㈱京都支店次長　東京府士族

妻　慶應三、一二生、埼玉、武笠幸息二女

明二六、二生、東京、菱田厚介姉

妻　とし　明三〇、九生、三重、別所由次郎長女

男　和生　昭五、一〇生

養子　チヅ　明四、一生、三重、前田嚴生妹

君は三重縣人岡出勝定の三男にして明治二十一年二月を以て生れ大正十五年蜊鉦吉方より分れて一家を創立す同三年東京帝國大學農學科を卒業し福島縣技師鶴島縣農商務技師に歷任し同十一年支那に出張す同十四年農林技師に任ぜられ歐米各國に出張を命ぜらる現に農林技師にして農務局勤務たり（東京市外大崎町谷山二三七）

岡西行雄

妻　イク　島商店㈱取締役、日新自動車㈱監査役、岡西商店賣代表社員

男　俊博　奈良縣在籍　大一二、七生

君は奈良縣人岡西勝三郎の五男にして明治二十五年一月を以て生れ大正七年分れて一家を創立す明治四十五年大阪高等商業學校を卒業し現に島商店會社取締役たる外前記會社の重役たり家族は尙養女敏子（大七、一二生）二女笑子（同一一、一生）あり（神戶、八軒友田二二）

參照＝越ヶ谷伊太郎の項

岡西芳三

養產家　兵庫縣在籍

養母　うた　明一六、四生、兵庫、牟田藤吉姉

妻　廣子　明四〇、二生、京都、永江伊三郎妹

岡西家は神戶市に於ける舊家にして養產家なり君は兵庫縣人牟田藤吉の弟にして明治三十年一月を以て生れ後先代與四郎の養子となり大正十二年家督を相續す同五年縣立神戶商業學校を卒業し專ら養產の管理に當る家族は尙養妹マチ（大六、八生、大阪、阪上宗一郎二女）あり A四五七五（神戶、山本通五ノ五二ノ三電元町七三九）

岡野榮三

三井銀行㈱京都支店次長　東京府士族

妻　慶應三、一二生、埼玉、武笠幸息二女

明二六、二生、東京、菱田厚介姉

君は茨城縣人柏正の三男にして明治十六年十一月を以て生れ先代貞の養子となり大正十四年家督を相續す明治四十一年慶應義塾理財科を卒業し現時三井銀行京都支店次長たり A五二〇（京都、左京、北白川小倉町五〇電上二四八一）

岡野喜太郎

妻　イシ　明一五、一生、佐賀、士、池田儀太二女

男　豪夫　明二三、二生

男　文彌　明三六、一一生

男　彌平　明四二、一生

君は靜岡縣人岡野彌平太の長男にして元治元年四月を以て生れ明治十六年家督を相續す現時駿河銀行頭取たる外前記銀行會社の重役を兼ね直接國稅千八百二十六圓を納め縣下の多額納稅者たり長女容（明一九、二生）は靜岡縣人關本文作に二女柳子（同二二、五生）は同縣人島田宅二郎に三女博（同二五、二〇生）は實業家穴水熊雄に四女充（同二八、三生）は靜岡縣人依田久軌之助に五女礎（同三〇、六生）は神奈川縣人田邊幸七養子大藏に六女貞（同三三、一一生）は靜岡縣人三宅敏三に妹てる（慶應三、一生）は同縣人澤田雪藏に嫁し同すみ（明二、七生）は同縣人岡野平八郎の養子となれり（沼津、白銀町電二一一）

參照＝岡野豪夫、依田久軌之助の項

岡野義三郎

正四位勳二等、第六高等學校長　大阪府在籍

妻　敏雄　明一〇、六生、大阪、士、館野延吉妹

男　恭一　明三三、一一生

男　銑　明四四、一二生

君は大阪府人岡野儀助の長男にして明治七年三月を以て生れ同二十七年家督を相續す同三十年東京帝國大學文科大學哲學科を卒業し高知縣岐阜縣各師範中學校教諭第六高等學校教授第八第二各高等學校長等に歷任し昭和三年第六高等學校長に任ぜられ今日に至る家族は尙男惠四郎（大三、九生）五男義文（同七、一生）あり長女信子（明三九、六生）は岩手縣人下斗米常直孫直昌に嫁し弟常二郎（同一一、九生）は分家し儀助を襲名し父業を繼ぎ二男寛次（同三五、一二生）は其養子となれり（岡山市國富四八九電一〇六）

岡野敬胤

角丸商會㈱取締役　東京府在籍

妻　りへ　明三、二生、靜岡、藤田熊太郎妹

男　馨　明二六、二生

婿　美枝　明三三、四生、長男馨妻、東京、赤倉助三郎長女

君は東京府士族木川照胤の四男にして萬延元年二月を以て生れ明治十一年絕家岡野家を再興す現時角丸商會取締役たり家族は尙孫誠一郎（大九、四生、長男馨長男）同幸子（同一〇、九生、同長女）同二郎（同一三、一二生、同二男）同昭子（昭二、八生、同二女）あり三女知惠子（明三九、七生）は東京府人河內信敬に嫁し五男靜一（大三、二生）は同府人藤田英次郎の養子となれり（東京、下谷、中根岸町四七電下谷三三〇六）

參照＝藤田英次郎の項

岡野健三

神中鐵道㈱監査役、地主　神奈川縣在籍

妻　マサ　慶應三、八生、神奈川、石渡謹三郎長女

男　雄子　明三三、八生、子爵大關增輝妹

一彥　昭二、九生

當家は代々保土ヶ谷町に住し開えたる舊家なり君は神奈川縣多額納稅者岡野欣之助の三男にして明治二十四年七月を以て生れ昭和四年家督を相續す地主にして神中鐵道會社監査役たり家族に尙長女綾子（大一五、四生）あり姉多滿子（明一九、三生）は神奈川縣人堀田鼎亡兄貢に妹ミドリ（同三〇、一二生、東京女學館出身）は靜岡縣人赤松小寅に同二葉（同三三、八生）は兵庫縣人西村實造に嫁し弟省吾（同三二、七生）は分家せり A三五九一（橫濱、保土ヶ谷、帷子町三二三四）

參照＝子爵大關增輝、堀田鼎家伯爵渡邊昭家子爵青山忠敏家男爵大沼盾雄家男爵平野長祥家男爵三浦英太郎家石渡信太郎家一戶兵衛の項

岡野五兵衛

加田村、酒類商　東京府在籍

母　あき　明七、八生、東京、小磯善兵衛長女

妻　カホル　明三六、七生、山形、工藤安吉姪

君は東京府人先代五兵衛の長男にして明治二十八年三月を以て生れ同四十年家督を相續し前名鍵吉を改め襲名す加田村と稱し酒類商を營む家族は尙弟新吉（明三三、一二生）同妻ヤヱ（同三八、一〇生、東京、廣井要吉妹）及其一男一女あり妹ゆき（同三七、二生）は山形縣人神谷健治弟貞三に嫁し叔父周作（同八、一〇生、岐阜、淺野忠次郎弟）同妻嬉美（同一〇、五生、亡祖父五兵衛長女）は其一男一女を伴ひ分家せり A一七四〇B七二二（東京、芝、車町四〇電高輪一三五三）

岡野庄平

長野縣多額納稅者、松本商工會議所常議員、藥品商、長野縣在籍

妻　ふしえ　明三、一〇生、長野、內川藤一郎長女

女　篤江　明二二、三生、養父庄平長女

女　恒子　大三、五生

君は長野縣人竹內定一郎の三男にして明治十七年十一月を以て生れ先代庄平の養子となり大正九年家督を相續し前名眞を改め襲名す藥品商を營み長野縣多額納稅者にして直接國稅一千三百七十五圓を納め推されて松本商工會議所常議員たり家族は尙二女光子（大八、一一生）あり養妹琴江（明一二八、七生）は長野縣人矢ヶ崎連に嫁せり（松本、南深志博勞町二二七）

岡野誠三郎

東京府多額納稅者、岡埜榮泉、菓子商、東京府在籍

養母　はま　萬延元、一生、東京、岡野平十郎從妹

妻　きみ　明一九、一一生、東京、岡野平十郎姪

男　隆太郎　明三七、二生

男　總　明四一、三生、長男隆太郎妻、東京、河原正長女

婿　仙之助　明四一、六生

女　花子　明四四、一生

君は埼玉縣人高田菊三郎の二男にして明治十二年七月を以て生れ先代はまの養子となり大正十二年家督を相續す岡埜榮泉と稱し菓子商を營み東京府多額納稅者たり家族は尙三男信次郎（明四五、五生）五男友三郎（大八、七生）孫美奈子（昭三、二生、長男隆太郎長女）同壽美子（同四、一生、同二女）あり A七五一七B八四〇（東京、下谷、下谷町二ノ七電下谷七六八）

岡野節

男爵　東京府華族

母　たか　明一一、七生、東京、藤林德松妹

當家は先代敬次郎より顯る敬次郎は舊幕臣にして明治十九年帝國大學法科大學英法科を卒業して獨逸に留學し歸朝後帝國大學法科大學教授農商務參與官同官房長法制局參事官法制局長官兼內閣恩給局長官中顧問官貴族院議員行政裁判所長官司法大臣文部大臣兼農商務大臣樞密院副議長等に歷任し法學博士の學位を受け又東京帝國大學名譽教授帝國學士院長中央大學長たり大正十四年勳功に依り華族に列し男爵を授けらる君は其三男にして岡野昇の甥なり大正六年五月を以て生れ同十五年襲爵仰付けらる現時武藏高等學校在學中たり家族は尙姉澤子（明四三、一一生、女子學習院出身）あり同尙子（明四一、七生、御茶の水高女出身）は大阪府人菊井維大に嫁せり（東京、牛込、中町一一電牛込六二六一）

參照＝岡野昇、藤林德松の項

岡野豪夫

沼津市會議員、沼津商工會議所議員、駿河銀行㈱取締役兼營業部長　靜岡縣在籍

父　喜太郎　元治元、四生、現戶主

妻　みね　明二七、一〇生、靜岡、乾伊右衛門長女

男　喜一郎　大六、二生

君は靜岡縣人岡野喜太郎の長男にして明治二十三年二月を以て生る同四十五年慶應義塾理財科を卒業し現時前記銀行の重役にして推されて沼津市會議員沼津商工會議所議員たり義に同商工會議所副會頭に擧げらる家族は尙二女利江（大一二、八生）三男喜久麿（同一四、一〇生）あり（沼津、本宇白銀町一六九電二一一）

參照＝岡野喜太郎家藤卷重右衛門家依田久軌之助の項

岡野辰次郎

男爵　隆馬　明二三、八生

婿　サト　明三〇、六生、長男隆馬妻、岡野萬次郎長女

男　里治　明三七、七生

養子　ミノ　明一一、二生、新潟、山後乙次郎姉

君は福島縣人岡野藤左衛門の長男にして明治元年十月を以て生れ同十八年家督を相續す現時前記銀行會社の

重役にして推されて奥川村長たり家族は尚三男萬吉（大二、三生）孫藤左衛門（同八、五生、長男隆馬長男）同次郎（同一一、六生、同二男）同四郎（昭三、四生、同三男）弟萬次郎妻サヲ（明一一、一二生、福島、井上常太妹）あり養子ミセ（同三八、一一生、新潟、津田彌八郎妹）は福島縣人逢坂禮吉二男一三に嫁せり（福島、耶麻、奥川村）

岡野悌二

妻　つや　明一四、一一生、海軍中將小倉鉞一郎長女
男　武　明三五、八生、上智大學出身、三井物産會社員
嬶　三保子　明四二、一生、長男武妻、東京、川田豐吉三女
男　次郎　明三八、八生、上智大學出身、三菱鑛業會社員

君は舊江州彦根藩士岡野志外の二男にして明治三年九月を以て生れ大正十年兄小三郎の後を襲ひ家督を相續す明治二十一年大阪高等商業學校を卒業し直に三井物産會社に入り大阪倫敦本店に勤務し果進して名古屋支店長に擧げられしも大正四年同社を辭し爾來野州鑛山越路鑛山日蘭貿易各會社長大日本炭鑛名古屋織布豐田織機日支紡織名古屋製陶所東京羅紗各會社取締役たりしが現時前記諸會社の重役たり謠曲を好み又書畫骨董を愛好す家族は尚三男護（大四、八生）あり（東京、麻布、霞町一電青山五七四三）

參照＝川田豐吉、森村茂樹の項

岡野昇

妻　トミ　明三八、三生
男　宏　明四二、六生
男　祐

君は男爵岡野節の叔父にして明治九年六月を以て生れ大正十五年分れて一家を創立す明治三十二年東京帝國大學工科大學土木工學科を卒業し日本鐵道會社技師となり水戸保線事務所長たりしが同三十九年鐵道作業員に轉じ爾來帝國鐵道廳技師鐵道院工務局長鐵道省工務局長鐵道次官等に歷任し現時西武鐵道會社長の外前記會社の重役たり曩に鐵道事業研究の爲歐米各國に留學し大正八年工學博士の學位を受く家族は尚三男穣（大元、一〇生）四男逵（同三、一二生）五男道（同六、二生）六男翠（同九、三生）あり（東京市外王子町上十條一五二〇電小石川四七四二）

參照＝男爵岡野節の項

岡野文三郎

妻　とし子　明三一、九生、埼玉、藤村悠重二女、浦和高女出身
男　光子　明四二、九生
嬶　麗子　明四二、九生
女

君は東京府人近松與吾藏の三男にして明治二十一年十一月を以て生れ埼玉縣人岡野茂八郎の養子となり同二十五年分れて一家を創立す同四十四年東京高等商業學校を卒業し直に日清汽船會社に入り上海支店詰同助役本社詰を經て大正十一年同社庶務課長兼計理課長に昇進し現在に至る家族は尚長女和子（大一〇、三生）二女治子（昭三、四生）あり（東京、四谷、簞笥町四九電四谷三八四七）

岡野養之助

妻　たづ　明一六、二生、兵庫、福島吉雄長女
男　武彦　明三九、一一生
女　麗子　明四一、四生、長男武彦妻、大阪長谷川義郎三女

君は岡野武平の長男にして明治十一年八月を以て生れ同二十九年家督を相續す同三十四年早稻田大學文學科を卒業し朝日新聞社に入り現に同社取締役にして大阪朝日新聞編輯顧問を兼ね又前記の要職に在りA七六二（兵庫、武庫、御影町郡家下り二〇八電御影五三二一）

岡野利兵衛

妻　トク　明一七、二生、神奈川、新田操母
嬶　まん　明一六、一二生、長女しげ夫、靜岡、後藤松太郎弟
養子　茂作　明一五、一生、養子茂作妻
女　しげ　明一六、一生、養子茂作妻
養子　德次郎　明二一、一生、養子德次郎妻
女　壽美　明二九、一生
孫　英二　明四〇、一〇生、養子茂作長男

君は東京府人先代榮藏の長男にして萬延元年六月を以て生れ明治二十八年家督を相續し前名榮次郎を改め襲名す榮子商を營み榮泉堂と稱す家族は尚孫眞（大七、三生、養子茂作四男）同篤（同九、三生、同五男）同涼一（同一三、九生、二男榮一郎長男）同琴春（昭三、三生、同二男）あり姉津類（安政二、一二生）は其夫吉藏（慶應二、三生、兵庫、宮崎富太郎弟）及其子女を伴ひ弟留吉（同二、一〇生）は其妻みね（明元、五生、東京、岡埜德三郎長女）を伴ひ各分家せり（東京、淺草、駒形町三六電淺草二〇七〇）

參照＝岡埜德之助、岡埜留吉の項

岡埜德之助

妻　タカ　明四〇、一生、東大經濟學部在學
男　繁　明四四、二生
男　拓

君は東京府人先代德之助の四男にして明治十二年十一月を以て生れ同三十二年家督を相續し前名悅次郎を改む榮子商を營み榮泉堂岡埜として知らる家族は尚三男耕（大三、六生）弟榮一（明一九、八生）あり同興之助（同二一、一〇生）は東京府人岡埜留吉に同德次郎（同一六、一一生）は同府人岡埜榮藏に各養子となれりA一八六一B一〇二（東京、下谷、坂本町二ノ一九電下谷一三八六）

參照＝岡埜榮藏、岡埜留吉京金須しげの項

岡埜留吉

妻　八重　明二一、一〇生、東京、岡埜德之助弟
養子　興之助　明三六、一一生、養子興之助妻、東京、大西博一姉
嬶　奈良江　明四三、九生
女　登喜子

君は東京府人岡埜榮藏の三男にして慶應二年十月を以て生れ同三十年兄榮藏方より分れて一家を創立す榮子商を營み岡埜榮泉堂として知らる家族は尚孫佳根子（昭二、四生、養子興之助長女）あり（東京、本郷、本郷三ノ一一電小石川六〇七）

參照＝岡埜榮藏、岡埜德之助の項

岡橋治助

妻　養產家　大阪府在籍
男　芳太郎　明二三、一二生

君は大阪府人岡橋久兵衛の長男にして明治三年三月を以て生れ先代治助の養子となり同四十一年家督を相續し前名恒三を改め襲名す資產家として知らる（大阪、東、船越町二ノ三二電東三三三三）

參照＝岡橋芳太郎の項

岡橋清左衛門

養母　勝惠　安政元、八生、奈良、岡橋清市郎長女
養子　琥　明四、六生、奈良、岡橋清市郎長女

君は奈良縣人下村忠平の長男にして明治四年六月を以て生れ先代清三の養子となり同三十三年家督を相續し前名敬藏を改む農林業を營み傍ら前記銀行會社の重役にして直接國稅一萬七千七百三圓を納め縣下の多額納稅者に列す養妹ナチ（明一二、二生）は奈良縣人谷萬四郎に嫁せり（奈良、高市、眞菅村電八木六三三）

參照＝谷萬四郎の項

岡橋芳太郎

父　治助　明三、三生、現戶主
妻　るい　明二九、九生、大阪、和田半兵衛長女
男　泰一　大六、四生

君は大阪府人岡橋治助の長男にして明治二十三年十二月を以て生る現時岡橋株式會社長にして業に大東貿易會社長たりしことあり家族は尚三男節三（大一二、一生）四男主四郎（同一四、一〇生）ありA一三四七（兵庫、武庫、住吉村九郎右衛門新田三四三ノ一電御影一〇四九）

參照＝岡橋治助、和田半兵衛、志方勢七、山田卯助の項

岡橋林

妻　キクエ　住友銀行（極）取締役、福岡縣在籍
男　純　明二六、七生、熊本、菊池新三女
男　大六、六生

君は福岡縣人岡橋憲作の三男にして明治十六年十二月を以て生れ同三十九年兄順二方より分れて一家を創立す同三十九年東京高等商業學校を卒業し住友銀行に入り下關名古屋東京各支店支配人を經て現に同行常務取締役に擧げられ傍ら前記銀行の重役たり家族は尚長男洋子（大一五、二生）二女恭子（昭二、二生）ありA一五〇五（大阪、天王寺、茶臼山町七九ノ一電天王寺九六三）

岡林秀一

父　彌三郎　從四位勳三等、醫學博士、京都帝國大學教授、醫學部勤務
母　カツ　萬延元、四生、現戶主
妻　益子　文久元、一二生、大阪、釜木彌七郎長女
女　美彌子　明二一、九生、京都、士、中澤岩太二女
養子　琥　大三、八生

君は奈良縣人岡林彌三郎の長男にして明治十七年九月を以て生る同四十一年京都帝國大學醫科大學を卒業し岡山醫學專門學校教授となり大正三年京都帝國大學醫科大學助教授に任じ同七年醫學博士の學位を受け同十一年京都帝國大學教授となり今日に至る家族は尚二女八千代（大八、八生）三女美都子（同一三、一〇生）弟彌五郎（明三一、七生）あり姉トミエ（同一五、七生）は大阪府人山口仲七二男安吉に妹ユウ（同二九、八生）は奈良縣人植平清一に同靜子（同三三、七生）は同縣人福井政憑に叔母イト（慶應元、一一生）は同縣人釜本勝造に嫁し妹アイ（同一九、一一生）弟四郎（同二七、八生）は共に同縣人釜本房造の養子となり同辰二（同二五、八生）は大阪府人池田ヒサの入夫となり同彌二郎（同二一、一一生）同妻ウタ（同二六、一〇生、奈良、植田由太郎妹）は共に分家せり（京都、左京、下鴨泉川町五三ノ三〇電上七五一）

參照＝中澤岩太、中澤良夫、永田盛三の項

岡部久四郎

妻　コウ　栃木縣多額納稅者、呉服商
女　茨城、奥村龜三郎三女
養子　完介　明二八、七生、亡父久四郎二男、經濟學士、日本農民組合執行委員
嬶　ヨシエ　明二四、一一生、養子完介妻、東京、佐々木本支三女

君は栃木縣人先代久四郎の長男にして明治三年八月を以て生れ同四十五年家督を相續し前名長四郎を改め襲名す呉服商を營み直接國稅三千百三十八圓を納め栃木縣多額納稅者たり家族は尚孫蘭子（大一四、三生、養子完介長女）あり繼母ハマ（文久元、二生、栃木、矢野藤一叔母）は妹佳（明三三、三生）弟先介（同三五、四生）

同宗介（同三六、一一生）を伴ひ分家せり（栃木、芳賀、眞岡町）

岡部欽二　從五位、長岡高等工業學校教授、應用化學科長、山口縣士族

養母　トシ　明七、五生、山口、士、船越沙長

妻　トク　明二二、一生、山口高女出身

女　佐知子　明四三、五生、日本女子大出身

女　京子　大三、二生、長岡高女出身

女　慶子　大四、八生、長岡高女在學

君は山口縣士族磯部太作の二男にして明治十九年九月を以て生れ先代官太郎の養子となり昭和五年家督を相續す大正二年東京帝國大學理工科大學製造化學科を卒業し直に日本化學工業會社技師に任じ同十年英獨米に留學し同十三年歸朝し長岡高等工業學校に任じ今日に至る家族は尙四女洋子（大一四、五生）五女千惠子（昭二、一生）六女友子（同四、一〇生）あり（長岡、上中島町三一八）

岡部繁　池龜酒造㈱取締役、岡部鐵工所㊫社員、鐵工業、福岡縣在籍

父　謙吉　文久元、一〇生、現戸主

妻　綾子　明二九、四生、福岡、蒲地籤妹

男　繁久　大七、一生

君は福岡縣人岡部謙吉の長男にして明治二十一年二月を以て生る鐵工業を營み岡部鐵工所社員池龜酒造會社取締役たり家族は尙長女康子（大九、二生）二男繁正（同一一、一生）二女房子（同一五、九生）弟鐵雄（明三一、一一生）同妻堀（同三九、一一生、福岡、服部春夫妹）及其子女あり妹トキヨ（同二四、二生）は大分縣士族益田多米彦弟清に嫁せり（福岡市髮粕一二八六）

參照＝蒲池籤の項

岡部正次郎　京都府多額納稅者、半襟服裝品商

京都府在籍

母　いと　文久三、八生、京都、川尻喜代八長女

妻　ツネ　明二六、一生、京都、駒井常次郎三女

男　正　大六、一生

君は京都府人先代正次郎の長男にして明治十七年六月を以て生れ大正五年家督を相續し前名政次郎を改め襲名す半襟服裝品商を營み直接國稅二千三十一圓を納め京都府多額納稅者に列す家族は尙長女照子（昭四、一〇生）弟鉉四郎（明二六、一〇生）あり同米三郎（同二二、七生）は同妻ハル（同三〇、四生、京都、西村忠一郎姉）は其一男一女を伴ひ分家せり（京都、下京、佛光寺烏丸東入ル電下一三三五）

岡部新太郎　木津川土地建物、安治川興業各㊫取締役、安治川土地、安治川興業各㊫取締役、貿商

大阪府在籍

妻　よか　安政五、六生、岡山、岡部三右衛門三女

男　大吉　明一二、二生

男　カヨ　鷲野龜吉妹　明三七、七生、長男大吉長男

孫　忠男　明四一、一一生、孫忠男妻、大阪岡部役五郎妻

孫妻　啓子　明三九、一一生、長男大吉二男

孫　新次　大元、一〇生、長男大吉長女

孫　靜子　大四、一生、長男大吉長女

君は大阪府人岡部新次郎の長男にして嘉永六年六月を以て生れ明治二十三年家督を相續す貿商を營み傍ら前記各會社の重役たり家族は尙曾孫伐余子（昭四、一一生、孫忠男長女）あり二女ミエ（明一四、一三生）は其一子と共に大阪府人松岡市右衛門に孫タミ（同三五、五なり三女トリ（同一八、四生）同夫役五郎（同一一、八生、岡山、雜波國太郎三男）は其二子と共に分家し妹モト（文久元、一二生）も亦分家し姪フユ（明一八、一一生、亡父離緣養子綱太郎長女）は大阪府人辻次三郎に嫁せりA一三六〇B一二〇（大阪、港、八幡屋町三ノ一三六ノ一電西七五八）

參照＝岡部役五郎の項

岡部卓治　愛國生命保險㈱東京支店長

東京府士族

母　ハツ　安政五、六生、石川、紙尾ユカ母

妻　コウ　明二七、七生、栃木、小川兼三郎長女

男　樹良　大三、一一生

女　外世子　大二、四生

君は東京府士族岡部外世吉の長男にして明治二十三年五月を以て生れ大正十五年家督を相續す同四年慶應義塾理財科を卒業し現時愛國生命保險會社東京支店長たり家族は尙二女志摩子（大六、八生）三女千耶子（同一一、九生）あり弟此助（明二六年生）は木村家に養子となり同伸平（同二九、五生）は分家し妹澄子（同三七年生）は實生重英に嫁せりA二八〇〇（東京市外入新井町新井宿一八〇五電大森九一四）

岡部忠敏　正五位勳三等、特許局技師、陳列館長審判官兼抗告審判官

兵庫縣士族

妻　保子　明二二、五生、故農學博士酒匂常明長女

男　忠和　大元、一二生

君は兵庫縣士族岡部忠世の長男にして明治九年二月を以て生れ同年家督を相續す同三十三年京都帝國大學理工科大學機械工學科を卒業し九州鐵道會社技師となり同四十年自費を以て歐洲に留學す歸朝後大日本製糖會社技師に轉じ同四十二年特許局審査官に任ぜらる現時特許局技師にして陳列館長審判官兼抗告審判官の職に在り家族は尙二女咲子（大七、三生）三女照子（昭二、一生）あり（東京、赤坂、青山南町三ノ四九電青山六五七五）

岡部恒　石川縣多額納稅者、小田製糸㈱取締役、農業、石川縣在籍

母　きく　文久三、三生、石川、辻本吉左衛門三女

妻　文　明二一、三生、石川、室木彌次郎妹

男　幸雄　明四三、二生

男　友夫　明四四、三生

君は石川縣人岡部勇作の長男にして明治十三年五月を以て生れ同三十二年家督を相續す農業を營み傍ら前記會社の重役にして直接國稅千九百六十七圓を納め縣下の多額納稅者に列す長女春枝（明四〇、三生）は石川縣人延命順作に二女信子（同四一、五生）は福井縣人齊藤鼎に妹喜宗（同一七、九生）は石川縣人近岡九郎平長男公平に嫁せり（石川、羽咋、樋川村）

參照＝※室木隆三郎の項

岡部常　從五位勳六等、典獄兼司法書記官

小菅刑務所並行刑局勤務

東京府在籍

妻　英子　明三五、五生、香川、西山彰長女

君は大分縣人岡部伊三郎の三男にして明治二十一年八月を以て生れ同縣人岡部春吉の養子となり大正五年家督を相續す同三年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し文官高等試驗に合格司法屬看守長典獄補を經て典獄に昇任膳所監獄勤務滋賀千葉各刑務所長を歷補し同十三年小菅刑務所勤務を命ぜられ同時に司法書記官に兼任せられ現に行刑局勤務たり曩に歐米各國に出張を命ぜらる家族は尙長女幸枝（大七、一二生）二女尙子（昭三、三生）あり（東京市外溫谷町猿樂二電青山四一八九）

岡部常太郎　ジヨホール護謨栽培㈱社長

福岡縣士族

母　シゲキ　慶應二、五生、秦傳長女

妻　ミツ　明二三、七生、東京、淺田繁太郎長女

男　太郎　大元、九生

女　妙子　大四、一生

女　綾子　大五、六生

君は福岡縣士族岡部覺の長男にして明治十七年五月を以て生れ同四十四年家督を相續す同四十年東京高等商業學校を卒業し現時ジヨホール護謨栽培會社々長たり家族は尙二男二郎（大八、七生）三女照子（同一一、三生）弟覺之助（明四一、九生）あり同岩吉（同二二、一一生）は分家せり（東京、京橋、銀座、西八ノ三ノ一電銀座一二八四）

岡部貞助　岡部保全㊫出資社員、辻村屋商店

資無限責任社員、材木商

東京府在籍

妻　せん　明六、五生、埼玉、原田喜左衛門長女

男　廣太郎　明二九、一〇生

婦　福子　明三四、九生、長男廣太郎妻、埼玉、久下榮次郎二女

養子　英一　明三、六、八生、長女喜代子夫、千葉、八角良輔二男

女　喜代子　明三六、一一生、養子英一妻、中村高女出身

君は埼玉縣人木崎順藏の二男にして慶應三年九月を以て生れ先代貞助の養子となり明治二十六年家督を相續し前名廣吉を改め襲名す材木商を營み辻村屋商店無限責任社員にして前記の職を兼ぬ家族は尙孫トシ子（大一〇、八生、長男廣太郎長女）あり二男傳次郎（明三四三生）養妹愛子（同二一、一二生）は各分家し三男豐（同四一、九生）は東京府人原田たみに養弟貞次郎（同二七五生）は同府人鹽野稻太郎に各養子となれりA五〇六九（東京、本所、柳原町三ノ一六電本所五六八）

岡部亨藏　若松市參事會員、福岡縣多額納稅者、土木建築請負業、福岡縣在籍

母　カツ　弘化元、三生、福岡、白石九平四女

妻　タマ　明一二、二生、福岡、松本秋藏二女

男　武男　大一二、二生

養子　宏輔　明三九、一二生、兄實太郎二男

婦　トシコ　明四二、九生、養子宏輔妻、佐賀吉田小市二女

女　道子　大五、三生

君は福岡縣人岡部嘉三郎の三男にして明治十二年十二月を以て生れ同二十八年兄實太郎の後を承け家督を相續す土木建築請負業を營み直接國稅千七百五十五圓を納め縣下の多額納稅者に列し推されて若松市參事會員たり家族は尙弟龜吉（明一五、八生）及其一女あり兄實太郎（明四四、一二生）は福岡縣人岡部幸吉の養子となり姉ミチノ（同一〇、二生）は同縣人合谷武六長男初次郎に養ヱ（同一九、一二生）は同縣人黑石新十に妹ス子タマ（同三二、九生、福岡、岡部虎吉二女）は同縣人小田俊太郎に同ヤエノ（同三六、九生、同四女）は同縣人元濱元治に嫁せり（福岡縣若松市濱四番町）

岡部長景　從三位勳三等、子爵、貴族院議員

舊岸和田藩

母　坻子　慶應三、四生、侯爵前田利爲養女叔母

妻　悅子　明二一、一一生、伯爵加藤厚太郎姉、御茶の水高女出身

男　衡　大二、八生

女　ヲケ　明四二、三生

君は栃木縣人岡部長三郎の長男にして明治七年十一月を以て生れ同三十七年家督を相續し前名久三郎を改め父の舊名を襲ふ肥料商を營み縣下の多額納稅者にして直接國稅七千三百十二圓を納む家族は尙五男芳之助（明四五、四生）六男辰之助（大五、二生）四女トヨ（同九、四生）七男七郎（同一一、七生）孫貞一郎（昭三、七生、長男常三郎長男）同周二郎（同五、二生、同二男）同隆一郎（同五、二生、二男英四郎長男）あり妹マツ（明一八、六生）は同夫三作（同一七、六生、栃木、岩

當家は伊東駿河守時信の男右馬允維清の後なり其孫權守清綱駿州岡部郷に住し依て氏とす十三世を經て右衛門尉正綱に至り初めて德川氏に仕ふ其子美濃守長盛軍功を積み濃州大垣五萬石を食み其子宣勝に至り泉州岸和田に移る世々五萬三千石の城主として更に十世を經て先代正二位勳一等長職に至り明治十七年子爵を授けらる長職夙に英米に留學し公使館參事官外務次官貴族院議員特命全權公使東京府知事司法大臣樞密顧問官等に歷任す君は其長男にして明治十七年八月を以て生れ大正十四年家督を相續し同十五年襲爵す學習院を經て明治四十二年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し外務省に入り在米在英各大使館外務省政務局及亞細亞局等に勤務し大使館參事官に進み文化事業部長たりしが昭和四年二月白大臣祕書官兼式部次長に任ぜられ翌五年九月貴族院議員に選ばる家族は尙弟長章（明四二、八生）あり姉鍾子（同九、五生）は法學博士井上辰九郎に妹榮子（同二八、九生、女子學習院出身）は東京府人三井辨藏に同豐子（同三〇、二生、出身校同上）は埼玉縣人尾高豐作に同盈子（同三一、六生、出身校同上）は群馬縣人新井領一郎長男米男に同久子（同三六、四生、出身校同上）は兵庫縣華族川崎芳熊に嫁し弟長輩（同二七、三生、法學士）は朝日新聞社長村山龍平の養子となり同長世（同三二、一二生）は大阪府人小林たかの入夫となれり（東京、赤坂、丹後町一〇電青山五七〇六）

參照＝侯爵前田利爲、伯爵加藤厚太郎、新井領一郎、井上辰九郎、尾高豐作、川崎芳熊、村山長輩、三井辨藏※公爵近衛文麿の項

岡部兵七　栃木縣多額納稅者、肥料商

栃木縣在籍

父　長三郎　嘉永四、四生、栃木、塚田孝一郎二男

妻　フミ　明一三、一二生、栃木、横田茂八郎長女

男　常三郎　明三三、五生

婦　タカ　明三三、五生、長男常三郎妻、栃木、岡崎治三郎長女

男　英四郎　明三五、二生

婦　トシ子　明四三、一二生、二男英四郎妻、栃木、小林賢長女

男　覺五郎　明三八、二生

男　善之助　明四〇、三生

女　ヲケ　明四二、三生

君は栃木縣人岡部長三郎の長男にして明治七年十一月を以て生れ同三十七年家督を相續し前名久三郎を改め父の舊名を襲ふ肥料商を營み縣下の多額納稅者にして直接國稅七千三百十二圓を納む家族は尙五男芳之助（明四五、四生）六男辰之助（大五、二生）四女トヨ（同九、四生）七男七郎（同一一、七生）孫貞一郎（昭三、七生、長男常三郎長男）同周二郎（同五、二生、同二男）同隆一郎（同五、二生、二男英四郎長男）あり妹マツ（明一八、六生）は同夫三作（同一七、六生、栃木、岩

村庄四郎三男）と共に弟勇之助（同二八、八生）は同妻松亀（同三三、一生、石川、山本ツキ養子）及其一子を伴ひ各分家し同敬之助（同二五、五生）も亦分家せり（栃木、芳賀、眞岡町）

岡部服太郎

静岡縣多額納稅者、静岡商工會議所副會頭、小間物商、静岡縣在籍

妻　さわ　明一〇、八生、静岡、山下藤作二女

男　禮次　大七、一〇生

君は静岡縣人岡部定吉の長男にして明治四年十一月を以て生れ先代たけの養子となり同三十年家督を相續す千代鑑治と稱し小間物商を營み縣下の多額納稅者にして推されて静岡商工會議所副會頭たり（静岡市金座町）

岡部政太郎

長崎縣多額納稅者、岡政、呉服商

妻　マス　慶應元、五生、大阪、守屋孫四郎長女

君は長崎縣人德島德太郎の長男にして安政元年十二月を以て生れ明治十四年家督を相續し姓德島を改む法政大學の出身にして岡政と稱し呉服商を營み長崎縣多額納稅者にして直接國稅四千三百二十六圓を納む庶子ツネ（明二七、一生、生母、和歌山、谷口ミキ）は同夫實（同二二、三生、福岡、伊藤猪之助弟）と共に養妹惠以（同二七、五生、長崎、中本唯一妹）は同夫大次郎（同二三、一〇生、長崎、中野庄三五男）と共に各分家し弟忠太郎（同三、五生）は長崎縣人岡部治兵衛に孫孝（大元、一一生、養妹惠以長男）は同縣人森サトに各養子となれり（長崎市東濱町四六電四二〇）

参照＝岡部實の項

岡部實

岡政、雜貨商　長崎縣在籍

妻　ツネ　明二七、一生、養父政太郎庶子

男　仁　大四、一生

君は長崎縣人伊藤喜七の三男にして明治二十二年三月を以て生れ岡部政太郎の養子となり大正二年分れて一家を創立す岡政と稱し雜貨商を營む家族は尙二男正（大六、一生）三男弘（同八、四生）長女綾子（同一一、一生）四男明（同一四、二生）二女貴美子（昭二、一〇生）三女喜代（同五、四生）ありA一六一三B五二五（長崎市東濱町二電二〇〇八）

参照＝岡部政太郎の項

岡部彌助

資產家　大阪府在籍

妻　ヤス　明一四、九生、大阪、藤田小七二女

男　彌之祐　明三五、五生

錦　大三、七生

君は大阪府人片山藤吉の長男にして明治十四年八月を以て生れ先代彌助の養子となり同十四年家督を相續し前名藤藏を改め襲名す資產家たり家族は尙六男新藏（大一二、九生）三男千鶴（昭二、八生）あり長女邦（明三九、一二生）三女延藏（同四二、三生）は各分家せり

A二〇八〇（大阪、東、仁右衛門町五一三電東八八）

岡部役五郎

醬油釀造業　大阪府在籍

妻　トリ　明一八、四生、養父新太郎三女

男　俊吾　明三九、四生

十三郎　明四四、一〇生

君は大阪府人難波國太郎の三男にして明治十一年八月を以て生れ同府人岡部新太郎の養子となり同四十年分れて一家を創立す醬油釀造業を營む家族は尙六男重虎（大三、四生）三女照子（同六、一生）あり三男修（明四〇、一二生）は岡山縣人岡部しかの養子となり長女一惠（同三七、四生）は大阪府人河井喜平弟柾一に二女啓子（同四一、一一生）は同府人岡部新太郎孫忠男に嫁せり（大阪、港、八幡屋町三ノ三三二電西二六六二）

参照＝岡部新太郎の項

岡部榮信

群馬縣多額納稅者、農業　群馬縣在籍

祖母　なつ　嘉永六、五生、群馬、岡部榮太郎長女

妻　きん　明二〇、七生、群馬、神戸篤太郎長女

男　定信　大三、六生

女　かめ　明四一、一生

女　そふ　明四三、三生

女　光子　大三、二生

女　睦子　大五、五生

君は群馬縣人岡部賢三郎の長男にして明治十九年五月を以て生れ大正十四年祖父翁作の跡を襲ひ家督を相續す農業を營み直接國稅六千四百七十五圓を納め縣下の多額納稅者にして昭和三年九月紺綬褒章を下賜せらる

岡部榮太郎

醬油釀造業　群馬縣在籍

妻　ツル　慶應元、五生、大阪、守屋孫四郎長女

君は長崎縣人德島德太郎の長男にして安政元年十二月を以て生れ明治十四年家督を相續し姓德島を改む法政大學の出身にして岡政と稱し呉服商を營み長崎縣多額納稅者にして直接國稅四千三百二十六圓を納む庶子ツネ（明二七、一生、生母、和歌山、谷口ミキ）は同夫實（同二二、三生、福岡、伊藤猪之助弟）と共に養妹惠以（同二七、五生、長崎、中本唯一妹）は同夫大次郎（同二三、一〇生、長崎、中野庄三五男）と共に各分家し弟忠太郎（同三、五生）は長崎縣人岡部治兵衛に孫孝（大元、一一生、養妹惠以長男）は同縣人森サトに各養子となれり（長崎市東濱町四六電四二〇）

参照＝岡部實の項

岡部榮信

群馬縣多額納稅者、農業　群馬縣在籍

祖母　なつ　嘉永六、五生、群馬、岡部榮太郎長女

妻　きん　明二〇、七生、群馬、神戸篤太郎長女

男　定信　大三、六生

女　かめ　明四一、一生

女　そふ　明四三、三生

女　光子　大三、二生

女　睦子　大五、五生

君は群馬縣人岡部賢三郎の長男にして明治十九年五月を以て生れ大正十四年祖父翁作の跡を襲ひ家督を相續す農業を營み直接國稅六千四百七十五圓を納め縣下の多額納稅者にして昭和三年九月紺綬褒章を下賜せらる

岡部龍玄

正五位勳五等、九州帝國大學學生主事、學生課長、富山縣在籍

母　すゞゑ　慶應三、七生、富山、弓部大乘二女

妻　通　明二九、六生、岐阜、高木源一妹

男　寛之　大六、二生

君は富山縣人岡部慈什の孫にして明治十八年十月を以て生れ同二十六年家督を相續す同四十三年東京帝國大學文科大學哲學科を卒業し岐阜縣立東濃中學校山形縣立米澤中學校各教諭新潟高等學校教授等に歷任し九州帝國大學助教授を經て昭和二年同大學書記官同大學學生主事に任じ現時同大學學生主事學生課長たり家族は尙二男湛（大七、六生）長女敏子（同八、八生）三男尹（同一〇、二一生）四男格（同一三、七生）あり弟覺舜朗（明二二、二生）四男妻あや（同三三、五生、富山、橋本大晉二女）は分家し叔母きよの（同一〇、五生）は富山縣人江畠得城に嫁せり（福岡市藥院庄二九〇電三九二二）

岡松茂三郎

京都府多額納稅者、鹿の子及呉服商、京都府在籍

養母　なか　明一六、一二生、京都、竹内直治郎長女

妻　正枝　明三五、八生、京都、小川武三養母

君は京都府人梅津茂兵衛の五男にして明治二十八年二月を以て生れ大正九年先代茂三郎の養子となり同十一年家督を相續し前名富五郎を改む鹿の子及呉服商を營み直接國稅三千四百二十四圓を納め府下の多額納稅者たり家族は尙長女邦子（大一三、二生）妹ふみ（同二、八生）あり（京都、中京、室町鮏藥師下ル山伏山町五四一電本局五四四）

岡見清致

地主　東京府士族

妻　アヤ　明一三、三生、熊本、中川哲夫姉

男　敬一　明一二、一〇生

嬶　道子　明一四、九生、長男敬一妻、男爵坪井浩五郎姉

嚢に群馬縣農工銀行取締役に擧げられ現に帝國農會議員北甘樂郡教育會長北甘樂郡農會長の職にあり讀書旅行に趣味を有す家族は尙五女賴子（大九、一〇生）六女淳子（同一二、六生）七女康子（昭二、五生）あり（群馬、北甘樂、圓生村電雲岡一一〇）

岡部龍玄

母　すゞゑ　慶應三、七生、富山、弓部大乘二女

妻　通　明二九、六生、岐阜、高木源一妹

男　寛之　大六、二生

君は富山縣人岡部慈什の孫にして明治十八年十月を以て生れ同二十六年家督を相續す同四十三年東京帝國大學文科大學哲學科を卒業し岐阜縣立東濃中學校山形縣立米澤中學校各教諭新潟高等學校教授等に歷任し九州帝國大學助教授を經て昭和二年同大學書記官同大學學生主事に任じ現時同大學學生主事學生課長たり家族は尙二男湛（大七、六生）長女敏子（同八、八生）三男尹（同一〇、二一生）四男格（同一三、七生）あり弟覺舜朗（明二二、二生）四男妻あや（同三三、五生、富山、橋本大晉二女）は分家し叔母きよの（同一〇、五生）は富山縣人江畠得城に嫁せり（福岡市藥院庄二九〇電三九二二）

岡松茂三郎

京都府多額納稅者、鹿の子及呉服商、京都府在籍

養母　なか　明一六、一二生、京都、竹内直治郎長女

妻　正枝　明三五、八生、京都、小川武三養母

君は京都府人梅津茂兵衛の五男にして明治二十八年二月を以て生れ大正九年先代茂三郎の養子となり同十一年家督を相續し前名富五郎を改む鹿の子及呉服商を營み直接國稅三千四百二十四圓を納め府下の多額納稅者たり家族は尙長女邦子（大一三、二生）妹ふみ（同二、八生）あり（京都、中京、室町鮏藥師下ル山伏山町五四一電本局五四四）

岡見清致

地主　東京府士族

妻　アヤ　明一三、三生、熊本、中川哲夫姉

男　敬一　明一二、一〇生

嬶　道子　明一四、九生、長男敬一妻、男爵坪井浩五郎姉

男　弟三　明四一、一生

養子　萬里　明四二、一一生、熊本、中川サダ孫

孫　妙　明四二、七生、長男敬一二女

君は東京府士族岡見傳太の長男にして安政二年十月を以て生れ文久二年家督を相續す地主にして囊に頌榮女學校同小學校同幼稚園を經營す家族は尙孫清道（大二六生、長男敬一長男）同如雲（同五、六生、同二男）あり二男慎二（明一六、二生）は其妻美耶（同二四、一生、静岡、武田英一長女）及其子女を伴ひ分家し長女みゑ（同九、三生）は東京府士族小室俊夫の母にして二女きよ（同一〇、七生）は愛知縣人守隨鐵三郎弟啓四郎に孫義久（同三六、一〇生、長男敬一長女）は岡山縣人藤田讓に嫁せり（東京、芝、白金猿町五三電高輪七七九八）

参照＝男爵坪井浩五郎、小室俊夫、藤田讓家牧野英一の項

岡村一靖

明治商工、南奥州鐵道各會社役員、東京府在籍

男　陽太郎　明四五、四生

女　澄子　明三六、一〇生

女　豐子　明四〇、一生

久子　大五、四生

君は高知縣人岡村吉右衛門の長男にして明治元年一月を以て生れ同三十四年家督を相續す現時前掲各會社の重役たり家族は尙五女博子（大六、一〇生）姉戍（文久元、九生）あり弟源之助（明五、五生）は東京府人佐藤猪兎の養子となれり（東京市外代々幡町幡ヶ谷五七六）

岡村於菟彥

海軍中尉、地主　東京府在籍

母　よし　明一〇、五生、男爵堤正之叔母

妻　順子　明三九、八生、子爵田村丕顯長女

男　昭彥　昭四、一生

君は故法學博士岡村輝彥の五男にして同龍彥の甥なり明治三十五年三月を以て生れ大正九年兄三二郎の後を襲ひ家督を相續す同十一年海軍兵學校を卒業し海軍中尉に任ず現時地主たりスポーツに趣味を有す家族は尙長女彰子（大一五、一一生）二女光子（昭五、二生）及弟俊彥（明三九、一二生）同建彥（同四一、八生）妹依子（同四四、一生）あり姉幸子（同二二、一一生）は東京府人緒方知三郎に同晴子（同三三、八生）は愛知縣人山内莊平長男壯一に妹愛子（同三六、六生）は東京府人原五郎に叔母多榮（同七、三生）は山口縣士族植村俊平に嫁し弟康彥（同三八、八生）は東京府人山田絹子の入夫となれり（東京市外千駄ヶ谷町原宿二一〇電渋青山六一六）

参照＝子爵田村丕顯、男爵堤正之、植村俊平、緒方知三郎、岡村龍彥家子爵杉七郎家男爵三井壽太郎家市川誠次郎家佐々木忠次郎家南郷次郎の項

岡村喜内

熊本縣多額納稅者、農業　熊本縣士族

妻　ミヤ　明二一、一二生、熊本、士、古川春香長女

男　志美　明四一、一生

君は熊本縣士族岡村喜萬太の長男にして明治十四年七月を以て生れ同十九年中央大學を卒業し農を業とし縣下の多額納稅者にして直接國稅五千六百二十七圓を納む弟喜久太（明一九、三生）共に同喜久雄（同三〇、五生）同妻ミヨ（同三三、一二生、熊本、士、村田多喜治從妹）は共に叔父喜平太（同三、八生）同妻イサチ（同一二、九生、熊本、村上壽重長女）は共に各子女を伴ひ分家し妹萩（同二一、八生）は熊本縣人入江政之長男清之に同美須（同二三、一〇生）は同縣人福田當雄に同ミネ（同二七、一〇生）は同縣士族松村龜源弟逸雄に叔母セン（同元、三生）は同縣士族村田權藏に嫁せり（熊本、玉名、腹赤村）

参照＝村田多喜治家小畑惟清の項

岡村金太郎

正四位勳三等、理學博士、水產講習所教授兼農林技師、水產講習所長、東京府在籍

妻　スヘ　明一一、四生、東京、龜田佐記五女

男　一郎　明三一、一生、慶大理財科出身

嬶　文子　明三七、四生、長男一郎妻、東京東儀季治長女

男　二郎　明三三、八生

女　春　明三九、一生、東京府立第二高女出身

女　静　明四三、一生

女　正　大二、一生

女　敏　大五、一二生

君は東京府人岡村勢以の長男にして慶應三年四月を以て生れ明治二十五年家督を相續す同二十二年帝國大學理科大學植物學科を卒業し第四高等學校教授となり同二十八年理學博士の學位を受く獨逸水產講習所技師同教授農商務技師等に歷任し現時前記の職にあり家族は尙孫芳子（大一一、一一生、長男一郎長女）同和彌（昭五、二生、同長男）あり長女初（明二九、四生）は宮城縣人支倉平之丞に二女節（同三六、六生）は東京府人丸尾彰三郎に嫁せり（東京、小石川、高田豐川町四二電牛込八四〇）

岡村熊太郎

安田銀行臺下諏訪支店長　岡山縣在籍

妻　ふく　明三八、八生、東京、寺田金太郎二女

男　禮之　大一四、一一生

君は岡山縣人岡村直一郎の長男にして明治十三年五月を以て生れ大正十五年家督を相續す夙に慶應義塾商業學校を卒業し明治商業銀行に入り同行調査課長を經て安田保全社に入り正隆銀行整理部長となり轉じて安田銀行網走支店長となり昭和四年同行酒田支店長に轉じ昭和六年下諏訪支店長に轉ず家族は尙三女喜美惠（大一一、八生）五女喜久惠（昭四、四生）弟要（明二七、二生）同妻壽美子（同三七、三生、岡山、奥本榮三郎四女）及其二子の外叔母しげ（同八、一生）あり二女よし（同四二、一生）は山形縣士族岡村磨瑳男に嫁せり（長野、諏訪、下諏訪町）

岡村玄治

正五位勳四等、判事、大審院判事　栃木縣在籍

母　カツ　嘉永六、一〇生、栃木、磯甚吉二女

妻　信　明二八、三生、東京、深尾敏妹

男　治　大六、一二生

女　とよ　大五、六生

君は栃木縣人岡村勇藏の二男にして明治十六年五月を以て生る同四十二年東京帝國大學法科大學法律學科を卒業し同四十五年判事に任じ獨逸地方同區福岡地方同區東京區同地方各裁判所判事東京函館各控訴院判事東京控訴院部長に歷補し大正十五年現職大審院判事に補せらる家族は尙二女あさ（大八、一生）兄勇（明一三、四生、現戸主）同妻キヨ（同二三、二生、栃木、石川仁一郎妹）及其子女あり（東京市外荏原町中延一一五三電荏原二〇〇四）

参照＝家山崎精一の項

岡村左右松　東邦裝鑛㈱取締役、日本ヒューム管㈱監査役、長崎縣在籍
妻　すゑ　明一一五、一一生、東京、金澤大吉女
女　登　氏　大二、七生
君は長崎縣士族岡村所兵衛の三男にして元治元年十二月を以て生れ明治三十三年分れて一家を創立す同十年長崎師範學校を卒業し更に同人社に學ぶ義に北海道札幌製糖會社に入り原料栽培職工の養成に盡す爾で王子製紙會社氣田分社支配人日本火災保險會社營業部長同仙臺九州各支店長大日本製糖會社臺灣工場理事同調査部長朝鮮製糖會社常務取締役大日本製糖會社常任監査役朝鮮產業鐵道會社長等に就任す現時前記各會社の重役たり二女梨子（大七、三生）は外組父金澤大吉の死跡を相續せり（東京市外大崎町上大崎三〇〇電高輪一一七一）
參照＝滋渡邊水太郎の項

岡村周諦　理學博士、慶應義塾大學教授、東京帝國大學農學部講師、東和歌山縣在籍
妻　翠籏枝　明一一、四生、大阪、倉地鐵丸妹
男　周美　明三五、六生、法學士、東京府屬
君は和歌山縣人醫師岡村淳敎の長男にして明治十一年三月を以て生れ同四十五年家督を相續す和歌山師範學校兵庫縣立龍野中學校高知縣立第一中學校等の敎職に就き後東京帝國大學に植物學科を修め大正五年理學博士の學位を授けられ現時慶應義塾大學敎授東京帝國大學農學部講師たり長女須磨子（明三八、七生）は廣島縣人陸軍大尉村山一馬に妹ァイ（同一七、一一生）は和歌山縣人中牟田貞俊に同幸恵（同二一、一〇生）は同縣人谷口勝三に嫁せりA一六五（東京市外代々幡町代々木富ヶ谷一四三〇電四谷一九四六）

岡村竹四郎　東洋印刷㈱取締役、長野縣在籍
妻　まさ　安政五、六生、長野、士、山室直成妹
男　三郎　明三四、四生、洋書家
婦　ゆり　明三四、一二生、長男三郎妻、神奈川、麻田宇兔美子
男　四郎　明二六、一二生、工學士、機械設計製作業
婦　喜美子　明三三、七生、二男四郎妻、法學博士水口吉藏長女

岡村龍彦　醫學博士、保健衞生調査會委員、岡村病院長、醫師、東京府在籍
妻　隆　明一二、九生、東京、士、廣瀨實光妹、京都府立第一高女出身
男　昌彦　明四三、九生、學習院高等科在學
女　房子　明三五、八生
女　壽榮子　明四一、六生、御茶の水高女專攻科出身
君は東京府士族故法學博士岡村輝彦の弟にして同於菟彦の叔父なり明治三年七月を以て生れ同四十一年分れて一家を創立す同二十八年帝國大學醫科大學を卒業し皮膚病研究の爲め獨逸に留學し轉じて墺國に至り生殖器病を研究す同三十四年歸朝し醫學博士の學位を受く現に岡村病院を經營し我國に於ける皮膚病學の大家として知られる內務省保健調査會委員たり家族は倚三男朝彦（大四、九生）ありA三六六（東京、神田、西小川町一ノ八電九段八五四）
參照＝岡村於菟彦、廣瀨實光妹植村俊平妹緒方知三郎妹濱濱橋三妹法華津孝治妹星野米妹矢木久太郎の項

岡村玉造　正五位勳四等、佐賀炭礦㈱取締役會長、甲子不動產、昭和證券各㈱專務取締役、東京府士族
妻　雪枝　明五、三生、鳥取、士、須田一郎女
男　馨　明三四、七生、東大工學部出身
婦　貞　明三七、一生、男馨妻、京都、岡崎崇妹、京都高女出身
女　ふく　明三二、六生、香蘭高女出身
君は長野縣人岡村助作の長男にして文久元年六月を以て生れ明治三十六年家督を相續す鳥取縣收稅屬松江稅務管理局稅務屬を經て同三十年大藏屬に轉じ勸務の傍ら同三十三年和佛法律學校を卒業し累進して專賣局事務官專賣局主事專賣局副參事に任じ東京地方專賣局庶務課長に補せらる大正十三年官を辭し甲子不動產會社の創立に參し其創業せらるゝや代表取締役に就任し現時前記諸會社の重役を兼ね母校法政大學校友會副會長たり家族は倚六男勇（明四五、四生）孫郁子（昭二、一生、四男馨長女）あり（東京市外淀橋町柏木九八一電四谷三九）

岡村貞二　正五位勳五等、種馬所技師、鹿兒島種馬所長、新潟縣士族
母　イク　嘉永五、八生、新潟、士、大瀧伊平三女
妻　壽子　明二五、六生、新潟、士、飯利龜太郎六女、横濱フェーリス和英女學校出身
男　元仁　大四、七生
君は新潟縣士族岡村勝久の二男にして明治十九年四月を以て生る同四十五年東京帝國大學農科大學獸醫學科を卒業し大正元年岩手縣技師に任じ爾來鹿兒島縣技師地方農林技師に歷任し同十四年種馬所技師に轉じ現に鹿兒島種馬所長たり昭和三年歐米各國に出張を命ぜらる家族は倚長女美枝子（大六、二生）二男良平（同八、三生）二女千枝子（同一三、六生）兄勝雄（明一三、一生、現戶主）同妻キチ（同二一、三生、新潟、加藤德次長女）養弟勇（同三八、五生、新潟、貴船造二男）同芳英（大二、八生、新潟、太田常助二男）あり姉ナミ（明六、六生）は長野縣人伊藤竈吉に同イチ（同九、九生）は新潟縣人貴船造に嫁せり（鹿兒島、姶良、牧園村鹿兒島種馬所）

岡村寧次　從五位勳三等、陸軍歩兵大佐、陸軍省人事局補任課長、東京府士族
母　さた　安政四、六生、東京、平井治助二女
男　忠正　大元、一〇生
君は東京府士族岡村寧永の二男にして明治十七年五月を以て生れ同四十四年家督を相續す明治三十七年陸軍歩兵少尉に任じ昭和二年同大佐に累進す其間參謀本部各員同本部附歩兵第六聯隊長參謀本部課長等を歷補し

又歐洲に出張し中華民國に駐在し昭和四年現職に補せらる（東京、四谷、坂町七六電四谷三八九七）

岡村秀太郎　京都市參事會員、三五、醬油釀造業、京都府在籍
妻　タカ　明二三、一一生、京都、木村新造妹
男　五一　明四四、一二生
女　須美　大四、一二生
君は京都府人岡村五兵衛の長男にして明治十八年八月を以て生れ先代又次郎の養子となり同三十九年家督を相續す三五と稱し醬油釀造業を營み京都市參事會員に擧げらる家族は倚三男溶三（大一〇、二生）三女ノフ（昭四、一一生）弟勇二（明二七、一〇生）同妻赤子（同三四、四生、東京、能勢善藏從妹）及其三子あり母ノフ（嘉永元、一二生、京都、能勢角右衞門三女）は二男正（大二、一一生）を伴ひ分家し姉スカ（慶應三、二生）は其家籍に入り養妹ミチ（明三四、九生）同夫恭良（同二九、五生、東京、能勢善藏甥）も亦其一男一女を伴ひ分家せりA一三三七B一二六（京都、中京、油小路姉小路下ル電本局三九三五）

岡村房治郎　文花堂書店賣代表社員、大阪府在籍
妻　富江　明二二、三生、京都、西村米太郎妹
母　タイ　安政三、六生、滋賀、今井忠七三女
男　宗太郎　大三、四生
君は京都府人岡本元七の長男にして明治十六年九月を以て生れ同四十一年家督を相續す現時合資會社文花堂書店を經營す家族は倚二男積二（大七、八生）あり長女チエ（明四二、一二生）は大阪府人池谷留太郎に姉マチ（同一五、一生）は京都府人鄕原龜次郎に嫁し弟信藏（同二六、五生）同妻しげ（同三四、一〇生、東京、富田能次二女）は其二子を伴ひ分家せりA一二〇〇（大阪、西、江戸堀南通三ノ九電土佐堀四四五一）

岡村岑三郎　目黑興業㈱取締役、大星、酒類問屋業、東京府在籍
妻　かれ　明二六、一一生、滋賀、小林善吉長女
男　信一郎　大四、一生
女　多美子　大元、九生
君は滋賀縣人岡村多內の弟にして明治二十年四月を以て生れ大正七年分れて一家を創立す大星と稱し酒類問屋業を營み傍ら前記會社の重役たり家族は倚二男仁郎（大七、七生）三男義夫（同一〇、一生）四男志郎（同一三、一生）五男忠雄（同一五、七生）二女美智子（昭三、一生）ありA八九六B三三六（東京、京橋、銀巖島町五電京橋一四〇七）
參照＝小林善吉滋山中正吉の項

岡村六三郎　㈱取締役、松本食品市場海產物商、長野縣在籍
妻　いし　明一六、一生、長野、坂本武助二女
男　莊一郎　明三三、四生
婦　千春　明四〇、八生、長男莊一郎妻、長野、百瀨治平妹
女　恭子　明四五、四生
君は長野縣人岡村源重の三男にして明治六年十二月を以て生れ同三十五年兄源助方より分れて一家を創立す同五年家督を相續す同三十一年東京帝國大學文科大學國史科を卒業し同三十七年英國に留學し同四十年第四高等學校敎授に任ぜられ現時に至る妹なる（同一八、一生）は三重縣士族橫濱齊長男俊に同せん（同二〇、二生）は同縣人三輪逢之助長男安之助に嫁し弟綏（同一〇、四生）は同縣人三輪猶作の養子となれり（金澤、長町三番丁一二ノ四）
參照＝三輪綏、橫濱俊妹秋田政一の項

岡本功　正四位勳二等功四級、陸軍中將、千葉縣士族
妻　きく　明一二、九生、東京、荒山德隣二女
男　一郎　明三一、一一生、千葉醫大出身
婦　美知　明三八、九生、長男一郎妻、東京橋爪新八郎二女
男　二郎　明三四、五生、法大法科出身
婦　ふみ　明三九、七生、二男二郎妻、千葉鶴岡小三郎二女
君は東京府人岡本永の長男にして明治四年九月を以て生れ同三十七年家督を相續す同二十六年陸軍騎兵少尉に任じ大正十一年陸軍中將に累進す其間陸軍大學校を卒業し留來軍馬補充部本部々員中央幼年學校馬術敎官陸軍騎兵實施學校敎官陸軍士官學校敎官騎兵監部々員留守第一師團參謀野戰第一師團參謀韓國駐劄軍參謀陸軍騎兵學校敎官朝鮮駐劄軍參謀騎兵第十二聯隊長第九第十九各師團參謀長騎兵第二旅團長等に歷補し大正十二年陸軍備役に編入仰付らる圓藝釣魚に趣味あり家族は倚孫方子（昭二四生、長男一郎長女）同民子（同四一生、同二女）同公夫（大一五、一二生、二男二郎長男）同清（昭五、三生、同二男）妹はる子（明二〇、一生）あり長女一枝（同三〇、一生）は福岡縣人秋吉富太郎長男正夫に妹きみ（同一六、三生）は陸軍中將西原茂太郎弟廉之助に嫁せり（千葉、東葛飾、船橋町）
參照＝西原廉之助滋西原茂太郎の項

岡本勇　從四位勳四等、第四高等學校敎授、三重縣士族
母　ふい　安政元、五生、三重、士、伊東松仙長女
妻　たみ　明一五、七生、三重、士、森內政德二女
男　安章　明三五、六生
君は三重縣士族岡本安利の長男にして明治六年二月を以て生れ同三十四年家督を相續す同三十一年東京帝國大學文科大學國史科を卒業し同三十七年英國に留學し同四十年第四高等學校敎授に任ぜられ現時に至る妹なる（同一八、一生）は三重縣士族橫濱齊長男俊に同せん（同二〇、二生）は同縣人三輪逢之助長男安之助に嫁し弟綏（同一〇、四生）は同縣人三輪猶作の養子となれり（金澤、長町三番丁一二ノ四）
參照＝三輪綏、橫濱俊妹秋田政一の項

岡本一平　東京朝日新聞社客員、漫畫會々員、漫畫家、東京府在籍
父　竹次郎　安政四、一二生
母　正　慶應元、一〇生、兵庫、關谷逢長女
妻　カノ　明二二、三生、神奈川、大貫雪之助妹
男　太郎　明四四、二生
君は東京府人岡本竹次郎の長男にして明治十九年六月を以て生れ大正七年家督を相續す明治四十三年東京美術學校洋畫選科を卒業し漫畫の大家として知られ傍ら

前記の職にあり妻カノは歌人として名あり A五〇八（東京、赤坂、青山高樹町三電屋青山三五七五）

岡本一郎

従四位勳三等、和歌山高等商業學校長、山口縣在籍

母　マチ　文久元、一生、山口、小野儀兵衛

妻　ヌイ　明二〇、二生、山口、小野友蔵長女

君は山口縣人岡本治郎右衛門の長男にして明治十三年十二月を以て生れ同三十一年家督を相續す同四十年京都帝國大學法科大學經濟學科を卒業し爾來岡山縣立商業學校教諭第六高等學校講師茨城縣立商業學校長京都帝國大學事務官京都高等蠶業學校教授京都帝國大學書記官等に歷任し大正十一年和歌山高等商業學校長に任じ今日に至る家族は尙長女美都子（大一二、一生）弟叶信昭妹）弟一（同二九、一二生）同妻壽萬代（同三三、六生、兵庫、水島牧太郎孫）及各其子女あり妹ヨネ（同一九、一一生）は山口縣人藤岡永左衛門長男逸二郎に同テルヨ（同二四、一二生）は同縣人金子安吉長男彌市に嫁し弟靜人（同二七、八生）は分家せり（和歌山市西徒町一電二〇三八）

岡本市郎平

靜岡縣多額納稅者、沼津商工會議所常議員、米穀商、靜岡縣在籍

養母　やす　萬延元、六生、千葉、士、佐野喜一伯母

妻　ふん　明一三、九生、養父市郎平長女

男　市郎　明四五、一生

女　清子　明四一、一一生

女　政子　大三、一生

君は靜岡縣人杉山周藏の弟にして明治十二年九月を以て生れ先代市郎平の養子となり大正十三年家督を相續し前名興作を改め襲名す米穀商を營み直接國稅千三百六十九圓を納め縣下の多額納稅者にして推されて沼津商工會議所常議員たり蠶に沼津倉庫會社重役たりし事あり家族は尙三男計之助（大八、三生）六女弘子（同一三、九生）あり二女かつ（明三七、二生）は愛知縣人柴田時之助に嫁し叔父竹三（同三四、一〇生）は絶家佐野氏を再興せり（沼津、三枚橋町）

參照＝杉山周藏の項

岡本英太郎

従三位勳二等、帝國農會特別評議員、大阪府在籍

妻　敏子　明一四、一生、栃木、士、渡部信姉

男　博　明三六、一〇生、法學士

純　明四二、四生

女　榮　明四四、九生

女　とし　大三、五生

君は愛知縣人岡本賢吉の長男にして明治九年一月を以て生れ同三十四年家督を相續す家主にして新愛知新聞社出資社員たり現に愛知縣多額納稅者に列せる妹たま（明一六、九生）は愛知縣人加藤德之丞二男輔則に同さだ（同二三、九生）は岐阜縣人近藤睦大郎二男秀三に同糸（同二六、八生）は愛知縣人間瀨弁太郎長男誠一に同ゆき（同二七、九生）は岐阜縣人矢橋德次郎長男敏郎に嫁し同やす（同二〇、四生）は分家せり A二四七〇（名古屋、南、熱田旗屋町三六ノ一電南一八七〇）

參照＝加藤輔則の項

岡本貴一

母　みつ　安政二、八生、愛知、加藤善兵衛長女

男　孝治　明三九、一二生

純　明四二、四生

女　榮　明四四、九生

女　とし　大三、五生

君は愛知縣人岡本治郎右衛門の長男にして明治十三年十二月を以て生れ同三十一年家督を相續す同四十年京都帝國大學法科大學經濟學科を卒業し文官高等試驗に合格直ちに農商務省に入り山林局監督局各事務官兼書記官農商務書記官兼職時保險局長商務局長商工局長許局長官となる曩にジュネーブに於て第三回國際勞働總會の開かるゝや政府を代表し是に參列す後官を辭し產業組合中央金庫の設立に盡瘁し大正十二年之が設立と共に理事長に擧げらる後之を辭し現時帝國農會特別評議員たり乘馬に趣味を有す家族は尙五男千秋（大二、九生）弟小四郎（明一二、八生）及其子女あり長女千嘉子（同四〇、一〇生、東京女學館出身）は福岡縣人高田直屹長男秀實に妹アイ（同六、一〇生）は大阪府人法學士西村長太郎に嫁し弟三郎（同一〇、一二生）は大阪府人米野フクの入夫となれり（大阪、三島、山田村山田小川三三）

參照＝高田直屹、渡部信冥小田切良太郎冥脇水鐵五郎の項

岡本勸

旭石油株式會社取締役、東京府在籍

妻　ミネ　明一五、六生、大分、高橋晋策長女

男　菊夫　明三八、一〇生、早大理工科出身、東邦電力會社員

女　富喜子　明四〇、一二生、東京女子英學塾本科出身

君は東京府士族小林一の弟にして明治五年四月を以て生れ先代恒二郎の養子となり同二十八年家督を相續す現時旭石油會社取締役にして成瀧正行事務所主任たり蠶に濃飛電氣會社取締役たりしことあり A二〇二（東京市外駒澤町新町三四一五）

愛知縣多額納稅者、新愛知新聞社賣出資社員、家主、愛知縣在籍

岡本康太郎

従三位勳二等、東京帝國大學工科大學電氣工學科を卒業し蠶に前記會社の重役にして錦鷄町一〇五（函館、曙町二七電二三六）

參照＝冢高橋涉冢本間德雄冢松村太二郎の項

岡本作次郎

従五位勳五等、東京文理科大學生主事兼東京高等師範學校教授同生徒主事、奈良縣在籍

妻　キクエ　明一七、七生、奈良、岡本源十郎長女

男　勁一　明三八、二生、醫學士、東京帝國大學稻田內科助手

女　彌生　明四三、三生、東京府立第五高女及共立女子專門學校家政科出身

君は奈良縣人福岡龜郎の二男にして明治九年八月を以て生れ同三十七年先代キクエの入夫となり家督を相續す同三十六年東京高等師範學校國語漢文科を大正九年同校修身教育專攻科を各卒業し福井中學校子葉縣立安房中學校各教諭を經て東京高等師範學校教授兼生徒監に任ぜられ昭和三年同校生徒主事兼教授同四年東京文理科大學學生主事兼高等師範學校教授となり現在に至る家族は尙二男石根（大二、二生、第一高等學校理科在學）四男箭夫（同六、一〇生）三女和子（同一、一生）五男公明（同一四、四生）あり長女道子（明四一、一生）は福島縣人小川定謄に嫁せり（東京文理科大學構內官舍電小石川四八四）

岡本櫻

妻　淑　明四二、一生、京都、岩村豐姉

男　純一　大四、七生

岡本家は其祖を三重縣久居町に發し舊久居藩主藤堂家の重臣にして家老に列せる家柄なり君は先代貞の二男は其一男一女を伴ひ弟勝次郎（同一七、一一生、函館製網船具會社共同販賣店主任）同妻久能（同二三、一〇生、大阪、大谷賢三姉）は其一男を伴ひ各分家し弟光三（同二〇、一〇生、東京外國語學校露語科出身）も亦同妻カネ（同三八、三生、北海道人萩原宏太郎に妹分家し姉リサ（同四、一生）は北海道人村田岩太郎に同フジノ（同一二、一〇生）は北海道人秋澤米八郎に嫁せり A七〇五一（函館、曙町二七電二三六）

參照＝島原鐵三の項

岡本儀兵衛

母　せき　安政二、二生、祖父由兵衛長女

男　英一郎　明三四、一二生

男　二郎　明三四、一〇生

君は茨城縣人先代儀兵衛の長男にして明治六年十二月を以て生れ同二十二年家督を相續し前名道太郎を改め襲名す現時前記各會社の重役にして直接國稅千四百三十四圓を納め縣下の多額納稅者に列す蠶に土浦農商銀行勞城石炭販賣會社重役たりし事あり家族は尙孫武朗（昭三、二生、二男英一郎長男）あり長女美代（明三七、一二生、跡見女學校出身）は東京府人郷弁作に妹しげ（同一七、八生）は栃木縣人鈴木久右衛門二男胖次郎に茨城縣多額納稅者、霞浦砂利株式會社代表取締役、東燃料株式會社常務取締役、五十銀行、茨城貯蓄銀行各株式會社取締役、茨城縣在籍

岡本綺堂（敬二）

劇作家、東京府在籍

妻　ふい　明八、七生、愛知、士、小島邦重二女

君は東京府人岡本純の長男にして明治五年十月を以て生れ同三十五年家督を相續す風に新聞記者となり更に綺堂と號し劇作家として立ち「綺堂脚本集」「戲曲七部集」「梨の葉集」「雨月集」「源平集」「山月集」其他讀物文藝「半七捕物帖」等の著作あり A二三七（東京、麹町、元園町一ノ二七）

岡本

母　つる　安政二、八生、愛知、加藤善兵衛長女

男　孝治　明三九、一二生

純　明四二、四生

女　榮　明四四、九生

女　とし　大三、五生

君は愛知縣人岡本賢吉の長男にして明治九年一月を以て生れ同三十四年家督を相續す家主にして新愛知新聞社出資社員たり現に愛知縣多額納稅者に列せる妹たま（明一六、九生）は愛知縣人加藤德之丞二男輔則に同さだ（同二三、九生）は岐阜縣人近藤睦大郎二男秀三に同糸（同二六、八生）は愛知縣人間瀨弁太郎長男誠一に同ゆき（同二七、九生）は岐阜縣人矢橋德次郎長男敏郎に嫁し同やす（同二〇、四生）は分家せり A二四七〇（名古屋、南、熱田旗屋町三六ノ一電南一八七〇）

參照＝加藤輔則の項

同ひさ（同二二、二生）は茨城縣人田中秀太郎に同晴子（同二五、二生）は山口縣士族吉田信彥に同ふみ（同三一、二生）は滋賀縣人中村九一に嫁し弟政之助（同一〇、一〇生）は茨城縣人田中金之助の養子となれり（茨城、新治、土浦町）

參照＝鄕昇作の項

岡本吉次郎

富山縣多額納稅者、岡吉商事、高岡電燈各株式會社取締役、飛越電氣株式會社監査役、米穀商、富山縣在籍

妻　イト　明一二、四生、石川、伊藤こと養母

養子　外次郎　明一一、五生、父吉次郎三男

婦　たか　明二七、三生、養子外次郎妻、富山、增田政太郎妹

君は富山縣人先代吉次郎の長男にして明治六年十二月を以て生れ同三十六年家督を相續し前名榮次郎を改め襲名す米穀商を營み傍ら前記各會社の重役にして縣下の多額納稅者たり家族は尙孫宗吉郎（大三、六生、養子外次郎二男）同キヨ子（同七、九生、同三女）同欣三（同二二、二生、同四男）同孝吉（同一三、一〇生、同五男）同キン子（昭二、二生、同四女）同平治（同四、一〇生、同六男）あり同きみ（明四一、一生、同長女）同夫四郎（同三四、一生、富山、稻原太左衛門四男）は共に分家せり A三七四B二三二（富山、西磯波、石動町）

岡本敎平

横須賀町長、靜岡縣會議員、協和銀行株式會社監査役、靜岡縣在籍

養母　とり　文久元、一生、岡本彌五郎長女

妻　けい　明二一、九生、靜岡、山本勘三郎長女

男　武男　明四〇、二生

婦　すゞ　明四三、六生、長男武男妻、靜岡鈴木一郎長女

男　貞雄　明四二、七生

女　あや　大二、三生

君は靜岡縣人岡本彌七の二男にして明治十五年四月を以て生れ先代源七の養子となり同四十一年家督を相續す現時協和銀行監査役にして推されて横須賀町長靜岡縣會議員たり家族は尙三男良夫（大四、一一生）五男鐵郎（同一〇、二生）あり（靜岡、小笠、横須賀町）

岡本桂次郎

従三位勳三等、錦鷄間祇候、金剛山電氣鐵道株式會社專務取締役、石川縣在籍

妻　靜　明五、七生、東京、士、宮本頼三長女

婦　愛子　明二五、一二生、石川、田中與三右衛門四男

男　信三　明三五、三生、養子圭三妻、兵庫、一瀨儀一郎姪

婦　政子　明四〇、一生、養子圭三妻、函館、曙田政太郎妹

妻　せい　明三六、一生、大阪、羽田吉兵衛姉

男　慶三　明三三、一〇生、長男信三妻、東京、島原鐵三長女

婦　榮子　明三五、六生、三女幸夫、和歌山前山繁八二男

養子　貞兒　明三八、五生、養子貞兒妻、函館高女出身

女　幸　明三五、七生、東京、士、宮本頼三長女

君は大阪府人岡本信之助の長男にして明治七年三月を以て生れ同二十五年家督を相續す風に北海道に渡り製網船具等の製造販賣を營み後之を株式組織に改め函館製網船具會社を設立し現時其社長たる外前記諸會社の重役を兼ね函館實業界一方の雄にして推されて函館商工會議所副會頭たり昭和四年一月信三貞兒を伴ひ歐米各地を巡遊同年十月歸朝す家族は尙四男守正（大一、一生）五男鐵郎（昭四、五生、養子貞兒長男）あり長女菊榮（明三〇、一〇生）同夫榮三郎（同二一、六生、和歌山、湯川榮一郎弟、法學士、函館製網船具會社支配人）函館商工會議所副會頭、函館製網船具各株式會社長、大沼ウロコ商會、北海道拓殖鐵道、井上商店養狐業、有江鐵工所各株式會社取締役、富岡鐵業、北海道拓殖鐵道、井上商店北門貯蓄銀行、關西製網各株式會社監査役、北海道在籍

妻　淑　明一一、一生、大阪、羽田吉兵衛姉

男　慶三　明三六、一生、慶大經濟學部出身

婦　政子　明四三、一〇生、長男信三妻、東京、島原鐵三長女

養子　貞兒　明三五、六生、三女幸夫、和歌山前山繁八二男

女　幸　明三五、七生、東京、士、宮本頼三長女

君は石川縣人青木六郎の二男にして慶應三年十一月を以て生れ先代章の入夫となり明治十三年帝國大學工科大學電氣工學科を卒業し蠶に前記會社の重役にして錦鷄町一〇五（函館、曙町二七電二三六）

參照＝冢高橋涉冢本間德雄冢松村太二郎の項

岡本

母　マツノ　文政元、一生、和歌山、谷萬助二女

君は奈良縣人福岡龜郎の二男にして明治九年八月を以て生れ同三十七年先代キクエの入夫となり家督を相續す同三十六年東京高等師範學校國語漢文科を大正九年同校修身教育專攻科を各卒業し福井中學校子葉縣立安房中學校各教諭を經て東京高等師範學校教授兼生徒監に任ぜられ昭和三年同校生徒主事兼教授同四年東京文理科大學學生主事兼高等師範學校教授となり現在に至る家族は尙二男石根（大二、二生、第一高等學校理科在學）四男箭夫（同六、一〇生）三女和子（同一、一生）五男公明（同一四、四生）あり長女道子（明四一、一生）は福島縣人小川定謄に嫁せり（東京文理科大學構內官舍電小石川四八四）

岡本

妻　淑　明四二、一生、京都、岩村豐姉

男　純一　大四、七生

岡本家は其祖を三重縣久居町に發し舊久居藩主藤堂家の重臣にして家老に列せる家柄なり君は先代貞の二男

にして明治十一年四月を以て生れ同四十四年家督を相續す同三十六年東京帝國大學工科大學應用化學科を卒業し大阪瓦斯會社に入り技師となり後名古屋瓦斯會社に轉じ同行技師長に任ぜらる現時東邦瓦斯會社長にして前記諸會社の重役を兼ね又櫻菊女子學園を創立し其校主たり推されて名古屋商工會議所議員たり家族は尙二男敬吉（大七、九生）三男逢郎（同九、一二生）あり長女花子（明四三、一生、金城高女及櫻菊女子學園出身）は愛知縣人渡邊龍聖二男津二に妹冬（同二五、九生）は兵庫縣人村上正輔弟武輔に嫁ぜりA二一八六二（名古屋、東、東芳野町二ノ九五電東一一三四）

參照＝村上正輔の項

岡本至德　正四位勳三等、朝鮮總督府判事、大邱覆審法院長、熊本縣在籍

父　健太　嘉永元、六生、現戸主
妻　ステ　明二一、三生、熊本、西山喜久平妹
男　德　大三、一一生
女　倭子　大元、九生

君は熊本縣人岡本健太の長男にして明治十二年十月を以て生る同三十四年關西法律學校を卒業し判檢事登用試驗に合格檢事十二任じ浦和區兼同地方新潟區兼同地方熊谷區東京區各裁判所檢事を經て統監府司法廳參事官に轉じ次で朝鮮總督府檢事となり爾來大邱控訴院同覆審法院各檢事或興地方法院檢事正京城覆審法院檢事平壤地方法院檢事正に歷補し大正十三年朝鮮總督府判事に轉じ平壤地方法院長に補せられしも昭和四年大邱覆審院法院長となり今日に至る家族は尙二女和子（大八、六生）三男英三（同一一、五生）三女澄子（同一四、八生）の外弟鐵臣（明二一、一〇生）同妻シゲ（同三〇、一生、熊本、小山傳四女）及其二女並に弟忠臣（同二六、六生）あり（大邱、三笠町）

參照＝西山喜久平の項

岡本次七郎　熊本縣多額納稅者、研屋支店、旅館業、熊本縣在籍

男　邦治　明三二、四生
婦　ミヨ　明三七、四生、吉津吾平三女

君は熊本縣人岡本治右衛門の二男にして明治九年八月を以て生れ同三十二年分れて一家を創立す研屋支店と稱し旅館業を營み直接國稅三千二百十八圓を納め縣下の多額納稅者たり家族は尙孫恭一（昭三、一生、二男邦治長男）同憲二（同五、二生、同二男）あり（熊本市手取本町六一電一一）

岡本次八郎　研屋本店、旅館業、熊本縣在籍

母　ヨネ　明一七、六生、横山爲喜女
妻　ヨシ子　明四一、四生、宮崎熊壽長女

君は熊本縣人先代次八郎の長男にして明治三十八年一月を以て生れ昭和四年家督を相續し前名大吉を改め襲名す研屋本店と稱し旅館業を營む家族は尙長女孝子（昭三、四生）弟寛次郎（明三九、一二生）妹富美子（同四一、一〇生）同秀子（同四三、一生）同登志子（同四五、三生）同久（大三、九生）同廣（同六、九生）ありA一一三九B四五〇（熊本市船場町電一〇）

岡本實太郎　正五位勳四等、衆議院議員（愛知縣選出）、農林省參與官、愛知縣在籍

母　いとの　文久三、六生、愛知、大谷惠靜長女
妻　あき　明二四、九生、愛知、士、船橋文之助四女

君は愛知縣人岡本宗太郎の長男にして明治十四年六月を以て生れ同二十七年家督を相續す同三十六年明治法律學校を卒業し同年文官高等試驗及判檢事登用試驗に合格司法官試補となり次いで大藏省に轉じ在官十六年同省財務官として功あり正五位勳四等に敍せらる退官後特護士となり郷黨より推されて衆議院議員に當選する事三回現に農林參與官たり議員日本硬質陶器尾山自動車各會社の重役たりし事あり家族は尙弟鈴太郎（明一八、三生）同妻ひで（同二四、一一生、岐阜、彌橋久左衛門孫）同照吉（同二〇、一生）同妻子あり）叔母くわ（慶應元、五生）は愛知、伊藤さん養子あり）叔母くわ（慶應元、五生）并德平叔父良三郎に嫁せり（名古屋、東、石町二ノ一四東六一〇〇）

岡本重治　豐岡殖產經營役、大阪府在籍

男　重俊　明二六、一一生、京都、木村多助女
妻　ふく　八女

君は兵庫縣人松平榮右衛門の二男にして明治二十年七月を以て生れ先代尙威の養子となり同四十五年家督を相續す同年關西大學專門部法科を卒業し現時豐岡殖產會社取締役たり家族は尙長女廉美子（大九、一生）二男貞男（同一一、二生）二女貴美子（同一三、九生）ありA一六一二（大阪、住吉、聖天下二ノ三電天下茶屋二三三三）

岡本正三郎　京都府多額納稅者、金融業、京都府在籍

妻　コト　明一一、二生、京都、藤本保之助妹
男　勘治郎　明三二、七生
女　愛子　明四二、八生
女　道子　大二、四生

君は京都府人八木利助の三男にして明治四年十二月を以て生れ先代勘助の養子となり同六年家督を相續す金融業を營み京都府多額納稅者にして直接國稅三千四十六圓を納む家族は尙孫美子（大一三、九生、長男勘治郎長女）あり二男常之助（明三五、四生）は同妻信子を伴ひ分家し養子清四郎（同六、一生、兄八木利助弟）も亦分家せり（京都、中京、富小路押小路下ル守山町一八ノ一〇）

岡本正次郎　本郷バー、西洋料理業、東京府在籍

母　てる　元治元、一一生、東京、濱戸菊三郎長女
妻　いね　明二、二生、茨城、森杢三郎姉
女　喜美子　大二、八生

君は東京府人岡本常三郎の長男にして明治十七年八月を以て生れ同三十七年家督を相續す本郷バーと稱し西洋料理業を營み傍ら新宿ホテルを經營す弟賢童（明一九、一二生）は分家し妹ハナ（同二五、一二生）は東京府人山下清次郎に嫁せり（東京、本郷、本郷一ノ二電小石川五五一〇）

岡本末藏　岡本製造所、琺瑯器具製造業、大阪府在籍

妻　サク　明四、一生、大阪、合川ヤス二女
男　勝治　明二六、一二生
婦　シナ　明三〇、七生、長男勝治妻、大阪金釘伊三郎長女
男　鐵雄　明三〇、三生
婦　勝江　明三八、七生、二男鐵雄妻、東京宮永喜市郎姪
男　史郎　明三四、四生、早大商科出身

相續す同年關西大學專門部法科を卒業し現時豐岡殖產會社取締役たり家族は尙長女廉美子（大九、一生）二男貞男（同一一、二生）二女貴美子（同一三、九生）ありA一六一二（大阪、住吉、聖天下二ノ三電天下茶屋二三三三）

岡本善之丞　南千住製作所、專務取締役、日本鑄鋼專監査役、東京府在籍

妻　すゑ　明一九、二生、宮本吉藏四女
養子　長三　矢口桑次郎弟、長女ハナ夫、東京田高女出身
女　ハナ　明四〇、五生、養子長三妻、三輪

君は東京府人岡本與助の長男にして明治十年十一月を以て生れ後家督を相續し大正五年養子菊次郎方より分れて一家を創立す現時前記會社の重役にして養に大島製鋼所理事たりしことあり家族は尙孫美枝子（昭三、一一生、養子長三長女）あり（東京市外南千住町八ノ七八電浅草七五一）

岡本惣七　日本畜產工業專務取締役、日本家畜市場專務取締役、牛肉問屋業、東京府在籍

妻　ふく　明二〇、八生、東京、片桐貞盛五女
男　八郎　明四〇、八生
女　千代　明四三、二生
女　八重子　大五、六生

君は廣島縣人岡本長七の三男にして明治十五年七月を以て生れ同三十五年分れて一家を創立す牛肉問屋業を營み傍ら前記各會社の重役たり義に寺島屠場會社長たりし事あり家族は尙三男十郎（明四五、四生）四男謙次郎（大八、三生）五男武次郎（同一〇、二生）四女靜子（同一三、二生）あり（東京市外南千住町一ノ三二電浅草四五三）

岡本善助　岡本染料店專監査役、染料商、大阪府在籍

妻　マキ　明八、三生、德島、久次米道雄妹
男　正一　明三六、二生
婦　俊子　明四〇、二生、三男正一妻、香川秋山與次郎二女

君は大阪府人先代善助の長男にして慶應三年十月を以て生れ明治三十一年家督を相續し前名德松を改め襲名す染料商を營み岡本染料店監査役たり家族は尙孫妙子（大一五、三生、三男正一長女）同壽美子（昭三、二生、同二女）あり長女トク（明二五、一〇生）は大阪府人宮崎友次郎長男純一郎に嫁し弟市太郎（同一〇、一生）は同妻タマ（同一七、八生、大阪、大西藤五郎五女）及其一子と共に分家ぜりA二〇〇〇（大阪、東、南久寶寺町

岡本善一　利根運河專監査役、東京府在籍

母　みね　慶應三、一〇生、東京、士、中津文治養子
妻　英　明三四、三生、東京、高木靜馬妹
男　善雄　大四、一〇生

君は東京府人岡本善七の二男にして明治二十五年十月を以て生れ同四十三年家督を相續す現時利根運河會社監査役にして養に岡本銀行頭取及岡善合資會社代表社員たりしことあり家族は尙二男榮二（大一〇、一〇生）長女敏（同一二、一生）あり姉きみ（明二三、九生）は分家して千葉縣人大多和忠三郎を迎へ弟義太郎（同二七、一生）同六郎（同三六、一生）も亦妻ふみ（同三六、一生）同四郎（同三四、一〇生）も亦分家し弟五郎（同三二、一二生）は其兄義太郎の養子となれり（東京、本郷駒込林町四六電小石川五一三）

參照＝高木靜馬の項、岩田友次郎の項、大熊仁三郎の項

岡本善七　日本染料工業專務取締役、日本染料商組合專務理事、東京府在籍

妻　マキ　明一一、二生、京都、藤本保之助妹
男　正一　明四〇、二生、三男正一妻、香川秋山與次郎二女
婦　俊子

君は大阪府人先代善助の長男にして慶應三年十月を以て生れ明治三十一年家督を相續し前名德松を改め襲名す染料商を營み岡本染料店監査役たり家族は尙孫妙子（大一五、三生、三男正一長女）同壽美子（昭三、二生、同二女）あり長女トク（明二五、一〇生）は大阪府人宮崎友次郎長男純一郎に嫁し弟市太郎（同一〇、一生）は同妻タマ（同一七、八生、大阪、大西藤五郎五女）及其一子と共に分家ぜりA二〇〇〇（大阪、東、南久寶寺町一ノ二八電昌船場七三四）

參照＝家富口龜太郎の項

君は岐阜縣人先代太右衛門の長男にして明治九年六月を以て生れ同四十年家督を相續し前名茂を改め驟名す同地の素封家にして現に前記銀行會社の重役に舉げられ岐阜縣多額納稅者に列す家族は尙孫篤子（大一二、四生、養子壽太郎長女）同光一郎（同一四、一生、同長男）同良平（昭五、七生、同二男）あり二女みね（明三六、一生）は愛知縣人糟谷縫右衛門二男巖に三女ひさ（同三八、六生、縣立岐阜高女出身）は同縣人鈴木摠一郎に妹みき（同一五、四生）は三野縣士族佐藤信之助に同もと（同一九、一一生）は岐阜縣人遠藤平左衛門に同さと（同二八、四生）は同縣人坂倉又吉に同あい（同三二、二生）は愛知縣人水野俊治長男鎭翠に嫁せりA一五〇〇（岐阜市金谷町一ノ二六電一九〇）

參照＝遠藤平左衛門、糟谷縫右衛門、坂倉又吉、鈴木摠一郎の項

岡本武三

正五位勳四等、大使館參事官、伊國在勤、京都府在籍

妻　芳子　明二五、九生、男爵林權助長女
男　武隆　大三、八生

君は京都府人岡本武左衛門の二男にして明治十六年十二月を以て生れ同四十二年家督を相續す同年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し文官高等試驗外交官及領事官試驗に合格す同四十三年領事館補となり上海に在勤し爾來領事外務事務官同書記官大使館二等書記官同一等書記官同參事官に歷任し中華民國英國伊國に在勤す明和四年總領事に任じ天津在勤を命ぜられ同五年大使館參事官に任じ伊國在勤仰付けらる曩にセノア經濟財政會議に參列の全權委員隨員海牙會議に於ける帝國政府專門委員國際聯盟會議に於ける帝國代表者隨員として各會議に參列す家族は尙二男英男（大五、二生）四男龍雄（同一一、一生）長女芳枝（昭二、一一生）あり弟良吉（明一九、五生）同萬吉（同二一、五生）同妻繁（同二五、二生、兵庫、五歩一恒三郎妹）及其一男一女弟久吉（同二三、五生）同季玉（同二五、八生）同愛祐（同二七、九生）は各分家し妹儀子（同三二、五生）は東京府人鮫島新助長男龍泉に同郁子（同三四、一〇生）は滋賀縣人高木又七弟宇吉に養子ぬい（同一四、五生、京都、長本重兵衛長女）は京都府人田井五郎右衛門養子龍生に嫁せり（在伊國日本大使館）

參照＝男爵林權助の項

岡本武尙

中央製藥種鑑査役、辯護士、東京府在籍

妻　ひで　明三九、一一生
男　武夫　明四二、一生
男　忠夫　明四三、一一生
女　初枝　大三、一〇生
女　芳枝　大五、九生

君は熊本縣人上村虎吉の弟にして明治六年八月を以て生れ先代貫一の養子となり昭和五年家督を相續す明治三十六年東京帝國大學法科大學を卒業し辯護士にして傷ら前記中央製藥會社鑑査役たり家族は尙三男英夫（大六、一生）三女實子（同七、六生）四男康夫（同一〇、二生）五男季彦（同一二、一〇生）六男和人（昭二、四生）あり養妹いま（明二六、五生）は東京府人岡本清に同なみゑ（同二八、一二生）は同府人宗像久敬に養姉ふみ（同六、六生、千葉、小倉市太郎從妹）は秋田縣士族山方克已長男善太郎に嫁せりA九三七（東京、赤坂、青山南町五ノ三七電青山一五〇四）

參照＝宗像久敬の項

岡本達三

太平洋炭礦種取締役、佐賀縣士族

妻　ハル　明二七、四生、東京、服部友吉三女
男　克保　大四、一生
女　俊子　大五、九生

君は佐賀縣士族高洲康純の四男同謙一郎同鐵一郎の弟にして明治十四年十一月を以て生れ先代りんの養子となり大正十五年家督を相續す明治四十一年神戸高等商業學校を卒業し直に三井鑛山會社に入り大正十四年太平洋炭礦會社に轉じ現時同社取締役たり家族は尙二女榮子（大七、四生）三女君子（同一〇、九生）二男克行（同一二、九生）三男克洋（同一五、一生）あり（鎭路、米町一二）

參照＝高洲謙一郎、高洲鐵一郎の項

岡本忠一

金物商、大阪府在籍

妻　フジ　明一二、三生、大阪、半田善七長女
女　明　大四、一生

君は大阪府人岡本賀一郎の長男にして明治六年十月を以て生れ同十九年家督を相續す金物商み營む家族は尙庶子延子（大一〇、三生、生母、兵庫、竹田テツ）あり姪クス（明一六、一生、亡姉セイ長女）は其一女と共に分家せり（大阪、東、農人橋二ノ一一電東三三一〇）

岡本忠吉

岡本仙助商店名代表社員、染奚服商、京都府在籍

元治元、五生、京都、益井篤次郎姉

繼母　こう　明二〇、一〇生、京都、澤野卯之助妹

妻　八重　大一〇、三生
男　忠雄　明四五、一生
女　綾子　大三、六生
女　鉉子　大五、一二生
女　英子

君は京都府人岡本仙助の長男にして明治十五年九月を以て生れ大正十一年家督を相續す染奚服商を營み傷ら前記會社の重役たり家族は尙五女聰子（大七、一一生）ありA一九九（京都、下京、烏丸通五條上ル惡王子町四一五電下三三一四）

岡本忠藏

函館商工會議所顧問、函館船渠種取締役、千葉縣在籍

安政元、九生、千葉、岡本倉太郎叔母

妻　ふじ　明二三、一二生、亡長男正之助妻千葉、平山阜治郎長女
孫　良藏　大六、四生、亡長男正之助長男
孫　源九郎　明八、一生、長女たか夫、茨城、小堤源之丞五男
養子
女　たか　明一一、六生、養子源九郎妻
男　信次郎　明一八、七生
孫　禹一　明三七、二生、養子源九郎長男
孫　たい子　明三八、七生、養子源九郎二女
孫　馥子　明三九、一〇生、養子源九郎三女
孫　イオ子　明四一、五生、養子源九郎四女
孫　田鶴子　明四二、九生、養子源九郎五女
孫　令子　大四、五生、亡長男正之助三女

君は千葉縣人大多和慶藏の二男にして安政四年五月を以て生れ岡本家の養子となり明治二十四年岡本倉太郎方より分れて一家を創立す現時前記會社の重役にして函館商工會議所顧問に擧げられ曩に同特別議員に推さる家族は尙孫克子（大九、三生、亡長男正之助四女）あり二女てる（明一三、六生）は東京府人加藤重太郎に三女澤（同二一、五生）は愛知縣士族山田嘉穂に孫ふい（同三三、一生、養子源九郎長女）は東京府人山脇春夫

に嫁し四女慶（同二四、七生）は千葉縣人林與一郎の養子となりA七二七（函館、末廣町一一電四二一）

參照＝涿井村英次郎涿關定次郎涿萩原甲太郎の項

岡本忠之丞

正五位勳五等、第一高等學校教授、宮城縣在籍

妻　クマヨ　明九、一生、岩手、片桐英之助養子
男　剛　明三八、八生
女　シツカ　明三四、八生
女　リウ　明四一、五生
女　久　明四五、三生
女　悅　大四、六生

君は宮城縣人岡本勇吉の長男にして明治四年二月を以て生れ同二十八年家督を相續す同二十九年京都同志社神學部を卒業し現時第一高等學校教授たり家族は尙六女セツ（大六、六生）あり（東京市外代々幡町代々木一一五）

岡本傳之助

横須賀商工會議所常議員、雜賀屋種取締役社長、相模運輸種常務取締役、興電社種取締役、神奈川縣在籍

妻　あい　明三七、五生、神奈川、川邊政一妹、東京女學館出身
男　良平　大一四、一二生

君は神奈川縣人岡本傳兵衛の長男にして明治二十九年十一月を以て生れ同三十八年家督を相續す家業たる百貨店雜賀屋を經營し傷ら前記各會社の重役にして又推されて横須賀商工會議所常議員たり家族は尙長女繁子（大一三、四生）二男德彌（昭二、一一生）二女美智子（同四、七生）ありA一九三三B一一三四（營業所横須賀、大溝町雜賀屋電三九〇—三九三）（自宅横須賀、雜賀山電五三二）

岡本德次郎

三井生命保險種鑑査役、東京府士族

妻　チカ　明九、六生、東京、山田榮長女
男　康　明四二、九生
女　喜代　明四三、一〇生
女　きみ　大三、四生

君は愛媛縣士族福見忠藏の二男にして明治二年十一月を以て生れ先代祐五郎の養子となり同八年家督を相續す現時前記會社の重役たり（東京、赤坂、青山南町六ノ一〇八電青山二五八一）

岡本德平

正七位勳六等、石川縣農業種取締役、醬油釀造業、石川縣在籍

妻　ふじ　明八、三生、石川、林源太長女
婦　喜美　明三七、一生、亡長男德雄妻、石川、矢田與喜妹
孫　德郎　大一二、一二生、亡長男德雄長男

君は石川縣人岡本勝好の二男にして萬延元年一月を以て生れ明治十一年家督を相續す醬油釀造業を營み傷ら前記會社の重役たり家族は尙孫節子（大一四、八生、亡長男德雄長女）あり長女美代（明一三、九生）は富山縣人川島長兵衛養子共吉に三女まさを（同一九、六生）は石川縣人森忠次郎長男建次に嫁し二女喜代（同一六二生）は分家せりA九一六B一三七（石川、河北、津幡町電一五〇）

岡本德兵衛

岡德商店、大阪製粉各種取締役、製藥原料商、大阪府在籍

妻　カシ　明二二、五生、奈良、柳本平藏二女
男　德藏　明四三、四生
男　德次郎　明三四、二生
女　ミサチ　明四〇、八生

君は大阪府人先代德兵衛の長男にして明治十五年八月を以て生れ大正八年家督を相續し前名德三郎を改め製名す岡德商店と稱し製藥原料商を營み傷ら前記會社の重役たり妹コウ（明二三、一一生）は大阪府人松下常五郎に嫁せり（大阪、南、大寶寺通東之丁三二電東九六二）

參照＝松下常五郎の項

岡本直治郎

岡本自轉車自動車製作所種取締役、愛知縣在籍

妻　みゆき　明一九、一一生、愛知、安達安右衛門姉
男　直春　明四〇、三生
女　富枝　明四五、一生
大四、一〇生

君は奈良縣人岡本半四郎の三男同松造の弟にして明治十六年八月を以て生れ同三十八年分れて一家を創立す現に株式會社岡本自轉車自動車製作所取締役たり家族は尙二男彰紳（大二、九生）四女美代子（同七、一生）三男勇三（同一一、一生）五女靜子（同一四、一一生）あり長女美喜枝（明四二、一一生）は熊本縣人吉永宏に嫁せりA一九三七（名古屋、中、御器所町東寺六六電南六五六）

參照＝岡本松造の項

岡本八平

正八位、五鹿屋村長、富山縣多額納稅者、中越銀行種取締役、吉田銀行種鑑査役、農業、富山縣在籍

元治元、四生、富山、佐賀野松雄養母

繼母　みつ　明二六、三生、富山、栗山三郎二女
妻　さの　大一一、二生
女　啓子　明四四、五生
女　他喜子　大二、一〇生

君は富山縣人先代八平の六男にして明治二十年六月を以て生れ大正十年家督を相續し前名與太郎を改め襲名す農業を營み傷ら中越銀行取締役外前記銀行の重役にして直接國稅二千三百八圓を納め縣下の多額納稅者に列し又推されて五鹿屋村長たり家族は尙三男久（大一三、一生）三女明子（同一五、三生）四男功（昭四、八生）あり亡甥八右衛門妻とよ（明三〇、八生、富山、米萩三郎妹）は其二子を伴ひ分家せり（富山、東礪波、五鹿屋村）

岡本兵太郎

日本銀行種調査局調査役、大阪府在籍

母　ナカエ　明三、二生、大阪、垣內彦兵衛長女
妻　たれ　明二六、三生、大阪、佐々木伊之助姪
澤子　大三、一〇生
女　滝　大正三、一〇生

君は大阪府人增田格之亮の孫にして明治二十三年十月を以て生れ同府人岡本市郎兵衛の養子となり同二十九年分れて一家を創立す大正四年京都帝國大學法科大學政治學科を卒業し日本銀行に入り替業局調査役を經て現時調査局調査役たり姉ハツ（明二一、一〇生）は奈良縣人瀨川三五郎に妹カヤ（同二七、九生）は大阪府人青木龍藏弟喜一郎に嫁せり（東京市外駒澤町上馬一〇〇六電世田谷四四一）

岡本宏

日本橋區會議員、觀音劇場種鑑査役、辯護士、東京府士族

妻　タカ　明一一、七生、神奈川、宮內文尾
母

養子　晴雄　昭二、七生、北海道、中川辰太郎孫
女　幾代　明四四、四生

君は京都府人梅田善兵衛の三男にして明治二年三月を以て生れ先代庄助の養子となり同十七年家督を相續す辯護士を開業し現時前記會社の重役にして日本橋區會議員に擧げらる四女芳枝（明四〇、三生）は熊本縣人栗原信一郎弟武夫に嫁し五女文尾（同四二、五生）は外蔵宮内家に入れり**A一九六〇**（東京、日本橋、藥研堀町一三**電浪花一七七六**）

岡本正夫

母　きん　安政五、七生、岡本喜右衛門長女
妻　シス　明一一、九生、富山、士、加藤直國二女、北陸女學校出身
男　正信　明四〇、一〇生

君は福井縣人岡本勘右衛門の長男にして明治八年二月を以て生れ大正五年家督を相續す明治三十年明治法律學校を卒業し判檢事登用試驗に合格同三十三年檢事に任じ高松區同地方奈良區同地方各裁判所檢事を經て奈良地方裁判所判事に轉じ同四十一年理事廳副理事官に同四十二年統監府判事次で朝鮮總督府判事に轉じ爾來大邱控訴院判事平壤地方法院部長同覆審法院部長咸興釜山各地方法院長京城覆審法院部長高等法院判事京城地方法院長に歴補し大正十四年高等法院部長に補せられ昭和四年十一月平壤覆審法院長に轉じ現に其職にあり能樂を趣味とす家族は尙妹しづ（明一六、八生）あり長女ちゑ子（同三六、五生）は島根縣人瀧原豐弟工學士敏に二女俊子（同三八、八生）は東京府人法學士鈴木透に妹みゑ（同一〇、五生）は福井縣人玉井清太郎に同つね（同二一、五生）は同縣人池田安兵衛に同ふい（同二六、三生）は同一生）は同縣人畑中三郎に同しか（同二四、縣士族古河久太夫長男久一に嫁せり（平壤、覆審法院）

岡本正行

從五位、種羊場技師、月寒種羊場長、和歌山縣在籍
妻　タマ　明三四、一〇生、大阪、西口庄九郎長女
男　譯郎　大一一、三生

君は和歌山縣人岡本常松の三男にして明治二十六年二月を以て生れ大正十一年分れて一家を創立す同七年東京帝國大學農科大學農藝化學科を卒業し農商務省囑託となり農商務技手兼種羊場技手を經て同十年種羊場技師に進み翌十一年歐米各國に同十五年滿洲及新西蘭に出張を命ぜらる現時月寒種羊場長たり家族は尙長女滿里子（大一三、二生）あり（札幌市外豐平月寒種羊場）

岡本松造

名古屋商工會議所議員、岡本自轉車自動車製作所經社長
愛知縣在籍
妻　たまきく　明一六、二生、京都、中西忠五郎二女
男　績夫　大二、四生
女　八重子　明四四、七生

君は愛知縣人岡本半四郎の長男同直治郎の兄にして明治九年三月を以て生れ同四十年家督を相續す現時岡本自轉車自動車製作所社長にして推されて名古屋商工會議所議員たり義に大隈鐵工所監査役たりし事あり長女長子（明三九、八生）は京都府人中西忠一に嫁せり（名古屋、中、御器所町地村五**電南一七八**）

岡本萬三

活字鑄造業
大阪府在籍
妻　こまつ　明二、七生、和歌山、前山孫左衛門四女

君は大阪府人岡本耕吉の長男にして萬延元年十月を以て生れ明治二十年家督を相續す活字鑄造業を營み知る父耕吉（天保元、八生、大阪、士、栗田小左衛門四男）は分家し二女ワカ（明三九、一〇生）は大阪府人小田政七に嫁せり（大阪、北、小松原町七三**電北三七〇三**）

岡本宗之

内外物産會社長、松原炭礦、山東産業、千代田興業、東京煉炭各會社取締役、茨城無煙炭礦資相談役
妻　ケン　明二一、九生、新潟、伊藤七藏二女
男　一郎　明四一、一一生、法政大學在學
女　千鶴子　大二、九生、府立第三高女在學

君は奈良縣人岡本惣次郎の二男にして明治八年四月を以て生れ同四十年兄傳松方より分れて一家を創立す夙に茨城無煙炭販賣會社副社長山東農事實玉各會社取締役を經て現時前記諸會社の重役たり長女綉美子（明四三、九生）は佐賀縣人高取九郎に嫁せり（東京、赤坂、青山南町五ノ三三**電青山五六六八**）

岡本彌兵衛

岡本商店會社長
東京府在籍
母　ツネ　元治元、一二生、埼玉、鹿間市兵衛妹
男　銑一郎　大二、一生

當家は元祿十五年の創業に係り代々屋號を紙屋と稱し當代實に九代目を閲せる舊家なり君は先代彌兵衛の二男にして明治十九年六月を以て生れ大正八年家督を相續し前名富之助を改む和洋紙商として知られしが同七年家業を一族の株式會社とし現時其社長たり家族は尙二男圭二郎（大六、六生）あり弟秀三（明二三、四生）は其妻菊野（同三一、一〇生、東京、奥村嘉平長女）及其三子を伴ひ弟與四良（同二四、一〇生）は其妻ふみ（同三三、八生、東京、大久保直道三女）を伴ひ弟正五郎（同二六、一〇生、岡本商店取締役、洋紙合同販賣會社監査役）は其妻喜代（同三七、二生、埼玉、野口甚左衛門妹）及其子女を伴ひ各分家し妹吟（同二一、一生）は群馬縣人中島三郎に同かを（同三〇、六生）は東京府人松本市左衛門に嫁せり**A二六三一**（東京市外寺島町一二一〇**電豐田二〇〇四**）

參照＝中島三郎、松本市左衛門の項

岡本保三

從五位勳五等、樺太廳部長、農林部長、兵庫縣在籍
父　松太郎　萬延元、三生、現戸主
妻　章子　明三一、一生、宮崎、安井小太郎四女
男　信一郎　大六、九生

君は兵庫縣人岡本松太郎の二男にして明治二十年五月を以て生る大正二年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し同年文官高等試驗に合格し翌三年大阪府西成郡書記兼府屬となり爾來同府工場監督官補同府警部大分縣屬東國東郡長同西國東郡長同理事官宮崎縣理事官北海道廳理事官同事務官群馬縣書記官等に歴任し昭和五年樺太廳部長に任じ農林部長に補せらる義に滿洲に出張す家族は尙妹とし子（大一三、一一生）あり姉れい（明一七、八生）は兵庫縣人岡本增次郎に弟秀四郎（大一一、六生）は其の養子となり妹うめ（明二三、一生）は原縣人井内彌十郎二男美以に嫁せり（樺太、豐原、豐町官舍甲十二號）

參照＝高取九郎の項

岡本梁松

從三位勳二等、齊學諄士、京都帝國大學名譽教授、兵庫縣在籍
妻　さた　明一一、一生、兵庫、湘藤善太夫三女
男　茂樹　明二九、一二生
婦　加壽美　明三七、三生、長男茂樹妻、兵庫秋山注連藏三女
男　次雄　明三六、九生
女　としゑ　明四二、三生
男　慎一　明四四、一一生

君は兵庫縣士族下村彦愚の三男にして文久三年五月を以て生れ先代文吾の養子となり明治三十二年家督を相續す同二十二年東京帝國大學醫科大學を卒業し同大學助手となり法醫學を研究し次で同大學助教授に任じ同三十二年獨逸兩國に留學し歸朝後京都帝國大學醫科大學教授に任ぜらる現時官を辭して同大學名譽教授たり家族は尙孫澄子（昭三、九生、長男茂樹長女）あり長女田鶴（明三二、八生）は兵庫縣人谷克己に二女ゆき子（同三九、一〇生）は東京府人大島義脩二男知義に嫁せり（京都、左京、吉田上大路二九**電上一八二**）

參照＝大島義脩の項

岡本勇五

四十三銀行㈱取締役、ヤマサ醬油㈱監査役、京都府在籍
妻　ツネ　明二一、九生、養父庄太郎長女
男　幸男　大八、三生
女　房子　大元、一一生
女　光子　大四、一生

君は和歌山縣人濱口儀兵衛の五男にして明治十四年八月を以て生れ同縣人岡本庄太郎の養子となり大正十四年分れて一家を創立す現時前記銀行會社の重役たり家族は尙四女菊子（大一四、一〇生）三男芳男（昭二、一〇生）四男文男（同四、一一生）あり三女清子（大六、五生）二男輝男（同一〇、一二生）は共に養弟幸助の養子となれり**A二五五**（東京、赤坂、青山南町三ノ五〇**電青山二八〇九**）

參照＝濱口儀兵衛家男爵東久世秀雄家濱口擔の項

岡本與茂一

日本石粉㈱社長、大同製針、朝鮮殖産各㈱代表取締役、三篠商事、廣島電氣、旭土地建物各㈱取締役、廣島縣在籍
妻　ツル　明三〇、七生、山口、士、佐川延治長女

君は廣島縣人岡本與之助の長男にして明治三十二年四月を以て生れ同四十三年家督を相續す現時日本石粉會社長にして外前記諸會社の重役たり家族は尙長女安乃（大七、四生）弟隆二（明三二、三生）あり姉たき（同一九、六生）は廣島縣人福場靜記に妹イシ（同二四、二生）は同縣人佐上京作に同ハナヨ（同二八、四生）は同縣人岡本三郎に同トヨ（同三九、一生）は同縣人岡本洋行に嫁し弟厚（同三五、八生）同妻敏子（同三九、九生、島根、和田孝一郎妹）は其一子を伴ひ分家せり（廣島市河原町二一三**電一四〇一**）

參照＝福場靜記、和田孝一郎、氣恒松譲介の項

岡本米藏

岡本洋行、紐育土地建物各㈱社長
東京府在籍
養母　ふい　安政五、一生、兵庫、岡村藤兵衛妹
妻　しな　明一五、五生、養母ふい姪
男　陽一　大四、七生

君は兵庫縣人谷杉松の長男同三治郎の兄にして明治十四年四月を以て生れ先代市藏の養子となり大正六年家督を相續す明治三十七年東京高等商業學校を卒業し川崎造船所に勤務せしが幾何もなく之を辭して米國に航し亞米利加貿易會社に入り機械輸出主任に累進す後紐育土地建物會社及岡本洋行を創立し其社長に擧げられ現在に至る文筆を能くし著書十數書あり就中牛、算筒、薔薇香世に廣く知らる家族は尙一男王堂（大九、九生）あり（東京、下谷、上野櫻木町一五）

參照＝谷三治郎の項

岡本米藏

いろは、旅館業
京都府在籍
妻　わさ　慶應元、八生、兵庫、竹内長右衛門長女
男　榮太郎　明二六、一生
婦　はま　明二二、一二生、長男榮太郎妻、兵庫、坂本彦右衛門四女
男　龜太郎　明三六、一〇生
婦　美津恵　明三六、三生、三男龜太郎妻、岐阜、片野柳吉二女
男　淺次郎　明三七、一二生
孫　初子　大三、九生、長男榮太郎長女

君は京都府人岡本民藏の長男にして明治二年二月を以て生れ同十九年家督を相續すいろはと稱し旅館業を營む家族は尙庶子善吉（大一〇、二生、生母、石川、山口ちほ）同勝三（同一〇、八生、生母、京都、高橋キヌ）同靜子（同一四、一一生、生母同上）孫春（同七、五生、長男榮太郎二男）同靜子（同九、七生、同二女）同賢三（同一二、二生、同三男）同猛夫（同一四、一〇生、同四男）同英子（同一三、一生、四男淺次郎長女）同布子（昭三、七生、三男龜太郎長女）あり二男幸太郎（明二八、七生）同妻ハナ（同二八、四生、京都、奥村筆次郎孫）は其一男を伴ひ分家し二女ヒデ（同三二、一一生）は京都府人河合乙之助に養子よれ（同二四、四生、兵庫、竹内芳造姉）は同府人宮崎庄次郎に嫁せり**A一五六五B五六〇**（京都、左京、三條大橋東入ル大橋町八四**電長上三一〇八**）

岡本連一郎

正四位勳二等功五級、陸軍中將、近衛師團長、和歌山縣在籍
妻　アイ　明二〇、一生、和歌山、巽啓藏二女
男　茂　明四二、九生
女　連　大五、九生

君は和歌山縣人岡本連之進の長男にして明治十一年一月を以て生れ大正七年家督を相續す明治三十年陸軍士官學校を卒業し昭和三年陸軍中將に累進す其間陸軍大學校を卒業し陸軍省軍務局軍事課々員歩兵第六十五聯隊附同大隊長となり軍事研究の爲英米に駐在後歩兵第二十三聯隊大隊長陸軍歩兵學校教導大隊長陸軍大學校附同兵學教官參謀本部々員を經て米國に出張し後參謀本部課長英國大使館附武官歩兵第九旅團長等に歴補し參謀本部總務部長參謀次長を經て現に近衛師團長に補せられ賞源審議會委員筱仰付家族は尙三女秀子（大八、九生）あり長女梅子（明四一、二生、和歌山縣立高女出身）は兵庫縣人井上譽良叔父輝男に嫁し二男小二郎（同四四、四生）は分家せり**A六四〇**（東京、麻布、三河臺町二四**電赤坂五一八**）

岡谷喜三郎

岡谷資無限責任社員、岡谷保產㈱出資社員、愛知縣在籍
妻　幸　明三一、一生、兵庫、若林與左衛門二女
男　重雄　大七、一〇生

君は愛知縣人岡谷惣助の弟にして明治二十六年十一月を以て生れ大正九年入りて叔父幸藏の死跡を相續す同五年早稲田大學政治經濟科を卒業し岡谷一家の經營せ

る岡谷合資會社に入り現にその無限責任社員にして同社大阪鐵部同貿易部同機械部監督の任にあるら岡谷保產合名會社出資社員たり大正九年歐米を視察す謠曲に趣味を有す家族は尙二男旭（大九、一〇生）長女篤子（同一一、一一生）二女匡（昭二、一生）あり（兵庫、武庫、住吉村反高林電御影四三一）

參照＝岡谷惣助、若林與左衛門、宗伊藤由太郎、宗小川傳兵衛、宗北川宗三郎、宗若林昌之助、宗若林與兵衛の項

岡谷惣助

妻　たん

男　正男　壽

女　大三、三生

君は愛知縣人先代惣助の三男にして明治二十年八月を以て生れ大正十五年家督相續と共に隼人名清次郎を改む父惣助夙に實業界に入り貴族院議員に當選し勳四等に敍せられ又特旨を以て從五位に敍せらる君遺業を繼ぎ笹惣と稱し鋼鐵商を營み傍ら前記各銀行會社の重役にして又畠りげられて名古屋商工會議所副會頭たり家族は尙二男唐治（大四、九生）三女公子（同一四、八、五生）四女節子（同一一、三生）五女喜久子（同一四、八、六生）弟順之助（明三一、一二生、慶大經濟學部出身、岡谷實副社長、岡谷保產合社員）同妻壽子（同四〇、六生、愛知、高松定一妹）及其二子あり長女道子（同四三、六生）は兵庫縣人若林與左衛門二男昌之助に姑こう（同四、一一生）は愛知縣人伊藤由太郎に同ちやう（同七、三生）は同縣人伊藤由太郎に同ゑつ（同一二、一〇生）は同縣人小川傳兵衛に同たつ（同一三、九生）は三重縣人伊達貫一郎に妹とく（同二一、九生）は滋賀縣人北川宗三郎に同つる（同二四、一二生）は京都府人西村治兵衛に叔母みつ（安政三、一生）は愛知縣人伊藤次郎左衛門先代治助に嫁し弟喜三郎（明二六、一一生）は其一男を伴ひ同縣人岡谷幸藏の家籍に入れりA二五七五四（名古屋、中、蛭子町五〇電南四五〇）

參照＝伊藤次郎左衛門、伊藤由太郎、小川傳兵衛、岡谷喜三郎、北川宗三郎、佐々部茂左衛門、高松定一、若林昌之助宗俊爵佐竹義春家子爵相良頼綱家柏原孫左衛門の項

沖雄熊

妻　操

男　一和

女　静子

女　能江

君は鹿兒島縣士族沖一大元、以て生れ後家督を相續す同三十六年東都帝國大學法科大學政治學科を卒業し現時十五銀行常任監査役の外前記各會社の重役にして直接國稅一千五十六圓を納め鹿兒島縣多額納稅者にして十五銀行鹿兒島支店長と大學政治學科を卒業し現時十五銀行常任監査役の外前記各會社の重役にして直接國稅一千五十六圓を納め鹿兒島縣多額納稅者に列す嚢に十五銀行鹿兒島支店長となり鹿兒島商工會議所會頭に擧げらる家族は尙四男旭（同一〇、一生）三男一德（大一二、七生）二男一貫（同一〇、一生）三男一德（大一二、七生）あり長女柔能（明四二、五生）は鹿兒島縣人執印友明に嫁せり（東京市外澁谷町大向通二電青山七〇五三）

沖貞男

母　安榮

妻　謀

男　重固

女　千鶴子

君は先代守固より顯る守固は舊る鳥取藩士にして維新の際國事に奔走し明治二年鳥取藩權大參事となり後岩倉大使に隨伴して歐米を歷遊し在英八年にして歸朝す爾後內務省書記官群馬縣大書記官外務少書記官神奈川縣令元老院議官長崎滋賀和歌山大阪愛知各府縣知事貴族院議員等に歷任し明治三十三年勳功に依り華族に列し男爵を授けらる君は其男にして明治二十一年二月を以て生れ大正元年家督を繼ぎ襲爵す同六年東都帝國大學法科大學政治科を卒業後內務省復興局整地部事務囑託となり同十四年貴族院議員に當選し現に其任に在り公正會に屬す家族は尙姉千代（明一六、八生）妹儔子（同二三、七生）あり養兄貞（文久元、一〇生、海軍少將）弟貞次（明二二、三生）は各分家し姉房（同一四、七生）は男爵池田眞次郎の母たり（東京市外目黑町上目黑二二二九）

參照＝子爵河田春雄、男爵池田眞次郎の項

沖直道

妻　榮

男　健夫

男　俊夫

女　美津子

女　美佐子

君は高知縣士族沖晴海の長男にして明治十三年十二月を以て生れ同二十九年家督を相續す同三十六年陸軍少將に任じ昭和四年陸軍少將に累進す其間日露戰役に從軍し參謀本部々員陸軍大學校兵學教官參謀本部課長歩兵第六十八聯隊長陸軍省人事局補任課長歩兵第一旅團長等に歷補し又歐洲大戰後平和條約實施委員として歐洲に在り昭和四年八月參謀本部第三部長に補せらる（東京市外澁谷町永川三電青山七二五〇）

沖鹽新三郎

母　ふて

妻　かつ

男　徹也

女　明子

君は兵庫縣人先代新三郎の長男にして明治二十年三月を以て生れ同三十六年家督を相續し前名藤太郎を改め襲名す同四十五年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し姫路商業銀行取締役となり現時前記銀行の重役たり家族は尙二男大貴（大九、一生）三男久義（同一四、二生）四男暉彥（昭三、三生）弟正夫（明三〇、五生）同妻あき（同三七、一一生、兵庫、畑昌愷三女）及其一子あり弟秀夫（同二四、九生）同妻やゑ（同三〇、四生、兵庫、藤田定義妹）は其子女を伴ひ分家し姉とき（同一七、一二生）は兵庫縣人高井利一郎長男喜一に嫁せり

參照＝上田義二の項

沖島鎌三

妻　つや

男　謙

女　順子

君は島根縣人沖島金藏の長男にして明治十八年三月を以て生れ大正十四年家督を相續す明治三十九年日本大學法科を卒業し同年樺太に渡航して各種事業に從事し現時樺太日日新聞社長にして前記諸會社の重役を兼ぬ昭和三年島根縣より推されて衆議院議員に當選せり養に豐原商業會議所特別議員たりしことあり家族は尙二女愛子（大八、一生）三女和子（同一〇、八生）三男光也（同一三、一生）あり（東京、赤坂、臺町五八電青山六五八）

沖原光孚

妻　ヒサ

孫　光彥

孫　敏子

孫　淑子

君は舊山口藩士松浦國藏の四男にして嘉永元年三月を以て生れ同藩士沖原爲藏の養子となり安政四年家督を相續す明治五年陸軍大尉に任じ同七年陸軍戶山學校を卒業し累進して同三十四年陸軍中將に陞る其間陸軍省人事局次長同人事局長同人事課長第二師團參謀長歩兵第十三聯隊長歩兵第一第四第八各旅團長第十一師團長等に歷補し後備偏役に入る日露役の功に依り勳一等功三級に敍し同四十年華族に列し男爵を授けらる養に貴族院議員に擧げられしも現時閑地に在り家族は尙ほ孫孚（大二、九生、亡二男三郎二男）同千世（同七、九生、同三女）あり二女キヨ（明一二、一〇生）は山口縣士族上林五助に嫁せり（山口、玖珂、岩國町）

沖原定

妻　スカ

君は山口縣人沖原三補の長男にして明治二十年三月を以て生れ同二十六年家督を相續す大正三年東京帝國大學法科大學卒業し同五年檢事に任じ豫備檢事となり同年判事に轉じ爾來臨時判事神戶地方兼同區神戶地方佐賀地方鹿兒島地方各裁判所判事飯塚區裁判所監督判事兼福岡地方裁判所飯塚支部々長に歷任し昭和六年前記現職に補せられ今日に至る家族は尙長女淑子（大六、九生）三女敎子（明四、一生、荻布海商㈱取締役、富山工業㈱取締役）弟順之助（明二一、一二生、慶大經濟學部出身、岡谷實副社長、岡谷保產合社員）同妻壽子（同四〇、六生、愛知、高松定一妹）及其二子あり長女道子（同四三、六生）は兵庫縣人若林與左衛門二男昌之助に姑こう（同四、一一生）は愛知縣人伊藤次郎左衛門二男昌之助に同ちやう（同七、三生）は同縣人伊藤由太郎に同ゑつ（同一二、一〇生）は同縣人小川傳兵衛に同たつ（同一三、九生）は三重縣人伊達貫一郎に妹とく（同二一、九生）は滋賀縣人北川宗三郎に同つる（同二四、一二生）は京都府人西村治兵衛に叔母みつ（安政三、一生）は愛知縣人伊藤次郎左衛門先代治助に嫁し弟喜三郎（明二六、一一生）は其一男を伴ひ同縣人岡谷幸藏の家籍に入れりA二五七五四（名古屋、中、蛭子町五〇電南四五〇）

荻昌德

妻　文子

男　昌朗

君は熊本縣人荻昌吉の二男にして明治二十一年三月を以て生れ大正八年兄昌世方より分れて一家を創立す同五年東京帝國大學法科大學卒業し翌六年朝鮮總督府司法官試補に任じ爾來同府判事感興京城大邱各地方法院判事大邱覆審法院判事全州地方法院群山支廳判事等に歷任し現時朝鮮總督府判事に轉じ同六年朝鮮總督府司法部長たり家族は尙長女興（大八、六生）二女垂穗（昭三、一生）あり（京城、仁義洞二八）

荻生傳

妻　みよ

君は東京府士族荻生穀の長男にして明治十五年二月を以て生れ同二十四年家督を相續す同三十七年東京高等商業學校を卒業し現時日本窒素肥料會社會計部長にして傍ら前記各會社の重役を兼ぬ姉千代（明一四、一生）は大分縣人朝久野勘十郎に嫁し弟茂德（同一七、五生）は東京府人鈴木しげの入夫となれり（四宮、西濱新家二二四八）

參照＝朝久野勘十郎の項

荻布宗四郎

妻　ミハ

妻　コイソ

男　延男

文子

男　雄

君は香川縣人荻田才助の二男にして明治七年二月を以て生れ大正十二年家督を相續す明治三十一年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し直に三井物產會社に入り上海神戶倫敦長崎門司等の各地支店に在勤二十有餘年大正十年辭し現時讃岐煉瓦會社取締役たりゴルフ及謠曲を趣味とす家族は尙孫栖子（昭五、二生、長男延男長女）ありA一五七三（東京市外代々幡町代々木六二三電四谷一一二五）

荻田延治郎

母　宗太郎

婿　ちよ

婿　むとゑ

男　與三次郎

婿　キン

男　良雄

女　せつ子

孫　一郎

君は富山縣人荻布宗三郎の二男にして元治元年二月を以て生れ明治八年兄宗四郎の後を襲ひ家督を相續し襲名す海產物商を營み傍ら前記諸會社の重役にして富山縣多額納稅者に列し推されて高岡商工會議所副會頭たり家族は尙孫一三（大一三、一二生、亡三男駒次郎長男）同みち（昭四、一生、四男與三次郎長女）あり長女ちよ（明二〇、二生）は富山縣人越前與三平長男庄太郎に四女きよ（同三六、一二生）は同縣人杉谷瑞樹に嫁し二女はる（同二四、二生）同夫佐吉（同一四、一二生、富山、越前與三平二男）は其子女を伴ひ分家せり（高岡中川原町三六）

（※印は姻族關係）

参照＝鳥取治郎八、平澤越郎、冰浪越鷹太郎の項

荻田甚助

岩手縣會議員、岩手無盡㈱取締役、膽江電力㈱監査役、岩手縣在籍
明一六、五生、岩手、佐藤清六長女

妻　サヲ　大二、五生

君は岩手縣人荻田長助の長男にして明治八年十二月を以て生れ同三十九年家督を相續す現時前記會社の重役にして岩手縣會議員に推され嘗に同參事會員たり家族は尙五女米子（大六、一二生）あり長女キン（明二八、九生）は岩手縣人高橋伴左衛門三男仁左衛門に二女ミネ（同三七、六生）は同縣人牛澤稻穎二男耕貫に三女ミヨ（同三九、二生）は同縣人高橋齊治郎長男新一郎に妹ミツ（同一七、一生）は同縣人及川直次に同キヨ（同二七、五生）は同縣人門脇運吉に嫁し弟長三郎（同一二、一一生）は其妻ツル（同二四、四生、京都、山口吉之助妹）を伴ひ弟吉五郎（同一九、四生）は其妻タカ（同二三、三生、岩手、高橋隆信二女）を伴ひ各分家し弟辰助（同二五、一二生）は岩手縣人鷹島新次郎の養子となれり（岩手、江刺、岩谷堂町）

荻野繁太郎

岡山縣多額納稅者、岡山縣農工銀行、阿哲畜産各㈱取締役、岡山縣在籍
明一〇、七生、岡山、檜崎熊治郎四女

妻　ぬい　明四一、三生、岡山、荻野庫太郎庶子

養子　正二　明四五、一生、岡山、小野照治三女

君は岡山縣人荻野善作の長男にして明治九年三月を以て生れ先代林藏の養子となり大正六年家督を相續す夙に第三高等學校に學ぶ現時前記銀行會社の重役にして縣下の多額納稅者に列し直接國稅二千五百八十六圓を納む昭和三年日本赤十字社功勞者として有功章を拜受し現に岡山縣濟生顧問を囑託せられ嘗に新見電氣會社取締役たりし事あり養子大江子（明四一、一〇生、岡山、小野照治二女）は廣島縣人本田鶴藏三男收藏に嫁せり（岡山、阿哲、豐永村）

荻野榛太郎

興亞起業、平沼製材各㈱取締役、東京建物㈱監査役、新潟縣在籍
母　スミ　明一五、一二生、岐阜、高橋ヨウ

妻　ひさ　明三七、五生

男　孝夫　明三七、五生

君は新潟縣人荻野爲篤の長男にして明治二年十一月を以て生れ同三十九年家督を相續す現時興亞起業會社取締役たる外前記會社の重役たり長女トシ（明三三、七生）は東京府人立川巖介に妹ヨシ（同一九、八生）は新潟縣人井口駒吉に嫁し弟堅（同二二、四生）は同縣人富田泰藏の養子となれり（東京市外西巢鴨町宮仲二三二八）

荻野萬太郎

足利銀行㈱頭取、栃木縣農工銀行下毛貯蓄銀行、足利紡績各㈱取締役、山保毛織、下野新聞、兩野工業、農商無盡各㈱監査役、栃木縣在籍
明一二、九生、栃木、金子又三郎長女

妻　ハツ　明三五、九生

男　英二　明二六、八生

勢

君は栃木縣人荻野峯八の二男にして明治五年六月を以て生れ先代由兵衛の養子となり同二十年家督を相續す現時足利銀行頭取にして前記各銀行會社の重役を兼ぬ家族は尙養孫慶助（大七、八生、長女勢養子、東京、橋本邦助二男）同須美（同九、八生、同養子、同長女）孫登（昭二、一生、二男英二庶子、生母、東京、鶴岡壽井子）同恭子（同四、四生、同庶子、生母同上）あり二女豐（明二九、七生）は佐賀縣人岩村卯助弟卯吉に嫁せり（足利、通三丁目）

荻野素助

從五位勳六等、豐原高等女學校長、金敎諭、神奈川縣在籍
明二六、三生、東京、山本行祐養女

妻　シゲ　明四二、六生

子　一雄　明四〇、一〇生、東京、山本行祐二女

養子　稻子

君は神奈川縣人荻野重次郎の二男にして明治十九年一月を以て生れ先代サダの養子となり同二十五年家督を相續す同三十九年神奈川縣師範學校を卒業し更に同四十四年東京高等師範學校本科國語漢文部を卒業し爾來山梨縣師範學校教諭山梨縣立第三高等女學校樺太廳高等女學校教諭同校々長兼教諭等に歷任し昭和二年豐原高等女學校長に任じ同校教諭を兼ね今日に至る（樺太豐原、豐原町東五條南五丁目官會電二四五）

荻野元太郎

古河電氣工業㈱專務取締役、日光電氣軌道、日本電線、東亞興業各㈱取締役、岡山縣士族
明一四、二生、東京、士、丸毛光美姉

妻　佳子　明四〇、一一生

男　晴一　明四二、八生、日本女大英文學部在學

女　靜子　明四三、九生、日本女大家政學部在學

女　光子

君は岡山縣士族石川光輝の長男にして明治七年二月を以て生れ先代晴光の養子となり同三十八年家督を相續す同三十六年東京專門學校を卒業し古河合名會社大阪上海各支店長本店營業部副長兼營業課長を經て現時前記各會社の重役たり曩に日清汽船會社取締役に擧げられ又曾て歐米に二回出張せしことあり家族は尙三男輝三（大四、一一生）あり三女和子（同二、二生）は東京府士族鹽田湊の養子となれりA三〇〇〇（東京、麴町、一番町二〇電九段九五七）

荻原一郎

村井貿易、港榮商會各㈱取締役、日新貿易資代表社員、長野縣在籍
父　定吉　安政四、八生、現戸主

母　しけ　文久元、五生、長野、前島喜助長女

妻　良子　明二五、五生、和歌山、村辻通長女

君は長野縣人荻原定吉の長男にして明治二十年十一月を以て生る同四十二年神戸高等商業學校を卒業し現時前記會社の重役たり家族は尙姉けい（明一八、二生）同夫松治（同一七、一生、長野、小林一郎弟）弟昇次（同二七、一二生）同妻さだゑ（同二九、九生、兵庫、馬場貞長長女）及其一女あり姉ふい（同一五、二生）は長野縣人藤澤大治郎に嫁せり（東京市外入新井町新井宿一五二四）

荻原勘助

東京藥品試驗㈱社長、東京藥品試驗㈱社長、嘉水六、七生、長野、大塚重左衛門長女

妻　たけ　明三、六生、養父勘兵衛長女

男　けい　明二四、一二生、從五位勳六等、法學士、逓信書記官

男　丈夫　明三五、三生

男　秀夫　明四〇、七生、海軍少尉

未年夫

君は長野縣人池田瀨平の二男にして明治二年八月を以て生れ同縣人荻原勘兵衛の養子となり同二十三年家督を相續し前名治三郎を改む夙に三共合資會社に入り理事となり同社の株式組織となるに及び常任監査役に就任す現時東京藥品試驗會社長たり長女しゞ江（明二一、三生）は長野縣人池田政治郎の死跡を相續し二女はる江（同二三、五生）は山口縣人波根義三に六女辰江（同三七、二生）は新潟縣人渡邊慶次郎長男慶一に嫁せりA四〇二（東京、小石川、大塚坂下町一一二電大塚八五八）

參照＝荻原丈夫の項

荻原丈夫

從五位勳六等、逓信書記官、電氣局監理課長、東京府在籍
父　勘助　明二、八生、現戸主

妻　とみえ　明三二、二生、茨城、廣瀨虎四郎長女、第二高女及御茶水高女專攻科出身

男　太郎　大九、一一生

君は長野縣人荻原勘助の長男にして明治二十四年二月を以て生る大正六年東京帝國大學法科大學佛法科を卒業高等文官試驗に合格し逓信事務官補逓信省臨時調査局事務官兼逓信書記官電氣局書記官逓信省事務官兼逓信省參事官逓信事務官東京中央郵便局外國郵便課長等を歷任瑞西佛國加奈陀に在留す昭和二年逓信書記官に任ぜられ電氣局業務課長を經て現に同局監理課長たり家族は尙二男彰夫（大一五、八生）あり（神奈川、三浦、逗子町新宿二〇七四電七七）

參照＝荻原勘助の項

荻原百々平

宮崎縣多額納稅者、宮崎縣在籍
妻　コヨ　明一八、六生、鹿兒島、相良藤次郎姪

男　彰　明二四、一生

男　俊　明三六、三生

君は宮崎縣人荻原石作の二男にして安政三年九月を以て生れ大正五年兄恕平方より分れて一家を創立す豪商にして直接國稅三千八百十一圓を納め縣下の多額納稅者たり家族は尙四女弘子（大八、一生）九男弘明（同一〇、五生）五女正子（同一二、二生）六女文子（同一四、六生）、養子（同一二、九生、五男彰長女）同禮子（同一四、七生、同二女）同太郎（昭二、一生、同長男）同都子（同四、二生、同三女）あり庶子正明（大二、二生、生母、鹿兒島、相良鶴）は分家し六男薫（明二六、一生母、東京、井上ツル私生子）及其一子を伴ひ分家し二女清香（同二八、六生）は滋賀縣人川添良再に三女静（同三〇、六生）は宮崎縣人植村京一に嫁し七男紀（同三四、二生）は實兄荻原秀康の死跡を相續せり（宮崎市旭通二ノ一〇）

荻原久太

從五位、種鷄場技師、播磨種鷄場長、福岡縣在籍
父　久二、八生、福岡、野坂武七二女

繼母　マツ　明二四、七生、福岡、士、末永環長女

妻　英　大八、五生

男　久男　大八、五生

君は福岡縣人荻原惣五郎の三男にして明治十四年二月を以て生る同三十九年大日本農會附屬東京高等農學校本科を卒業し農商務省見習生同雇となり同四十一年米國に於ける養鷄業調査を囑託せられケンタッキーエルメンドルフ養鷄場に入り更に北米各州の畜産業を研究し大正二年ミシガン州立農科大學特別科に同三年同大學院に進み卒業後マスター・オブ・サイエンスの學位を受け同大學助手となる同五年歸朝後農商務省囑託農商務技手兼畜産試驗場技師種羊場技師農商務技師等に歷任し大正十一年ボルネオ、濠洲及新西蘭に出張を命ぜられ昭和二年更に歐米各國に出張を命ぜらる現時前記官職に在り家族は尙二男常雄（大一一、一一生）兄常吉（慶應三、一二生、現戸主）同妻フサ（明一一、一一生、福岡縣人王丸濱次郎に同フサ（同六、七生、福岡、浦志藤兵衛長女）及其子女あり妹ケイ（同一八、五生）は福岡縣人中浦岩吉長男了介に姪シゲノ二〇、一〇生）は同縣人三坂壯兵衛四男四郎に同マサノ（同四五、一生、同二女）は同縣人中浦清に嫁せり（兵庫、排保、排西村農林省種鷄場）

參照＝冰未永一三の項

荻原擴

正五位勳六等、東京高等師範學校教授、東京府在籍
妻　八代　明二二、九生、長野、紀浦次郎二女

男　正治　大元、八生、水戸高校在學

君は長野縣人荻原惣右衛門の五男にして明治十三年十二月を以て生れ大正十年兄得定方より分れて一家を創立す明治四十年東京高等師範學校本科國語漢文部を卒業し福島市福島第一高等小學校長兼訓導滋賀縣師範學校教諭漢城師範學校教授留學生獨逸高等女學校教諭を經て再度母校專攻科修身漢文部に入り大正二年三月同部を卒業同八年同同校教授に任ぜられ今日に至る昭和四年倫理學研究の爲獨逸に留學を命ぜられ同六年歸朝す家族は尙三男茂夫（大四、一一生）長女せつ子（同六、一一生）二女操子（同九、一〇生）四男明（同一五、一〇生）四女彌生（昭四、三生）あり（東京市外西巢鴨町堀ノ内一五一）

參照＝紀浦次郎の項

荻村龜太郎

東京セルロイド㈱取締役、小間物雜貨及セルロイド生地玩具輸出商、東京府在籍
妻　はつ　明一二、一生、長野、蘆澤金七二女

男　清治　明三七、四生

男　波子　明四一、一二生、松本高女出身

女　登三子　大五、七生

君は長野縣人荻村彌三郎の弟にして明治八年九月を以て生れ大正六年分れて一家を創立すセルロイド小間物商を營み現に東京セルロイド會社取締役たり家族は尙二男正男（大元、一二生）三男英男（同八、二生）あり長女實江（明二八、一〇生、東京府立第一高女出身）は東京府人中村磯八弟福太郎に嫁せりA一四四〇B二二四（東京、淺草、瓦町二八電淺草四九三）

奥龜一

鹿兒島縣會副議長、鹿兒島縣多額納稅者、鹿兒島縣是蠶種㈱代表取締役者、農業、鹿兒島縣士族

妻　モヒ　明一二、七生、養父藤之進長女

養子　雪二　明二九、九生、長女イチ夫、鹿兒島、高田源八弟

女　イチ　明三六、一二生、養子雪二妻

君は鹿兒島縣人赤塚早太の二男にして明治十年二月を以て生れ先代藤之進の養子となり同四十四年家督を相續す農業を營み傍ら前記會社の重役にして直接國稅六百六十圓を納め縣下の多額納稅者に列し鹿兒島縣會副議長に擧げらる家族は尙孫剛（大一三、一〇生、養子雪二二男）同雅（同一五、一二生、同三男）同敦（昭四、三生、同四男）あり（鹿兒島、肝屬、瓢水町）

奥留吉

傘製造業、大阪府在籍

妻　シカ　慶應二、一生、大阪、阪口市次郎妹
孫　政子　大二、五生、離縁養子德次郎長女
養子　八重　大元、一〇生、京都、小澤久吉長女

君は大阪府人奥友七の四男にして元治元年三月を以て生れ明治三十四年家督を相續す傘製造業を營む二女イト（明二八、一〇生）は分家せり（大阪、天王寺、上汐町三ノ二二電南一三四五）

奥孫三郎

山梨縣會議員、桂電燈㈱社長
山梨縣在籍
妻　げん　慶應三、一生、山梨、加藤代藏長女

君は靜岡縣人永倉吉平の三男にして文久二年六月を以て生れ山梨縣人奥はまの養子となり大正十三年分れて一家を創立す現時桂電燈會社長にして推されて山梨縣會議員たり議に同縣參事會員に擧げらる（山梨、南都留、谷村町）

奥保夫

從四位勳三等、伯爵、陸軍歩兵大佐、陸軍戸山學校教育部長
東京府華族
妻　義子　明二二、五生、伯爵甘露寺受長妹
男　保城　明四一、一二生、從五位
女　澄子　大三、一一生

當家は先代保榮より顯る保榮は舊小倉藩士奥利右衛門の長男にして宗家十郎の養子となり明治四年陸軍大尉心得に任じ同三十六年陸軍大將に陞る其間歩兵第七近衛歩兵第一各旅團長東宮武官長東宮大夫第五第一近衛各師團長東部都督參謀總長軍事參議官等に歷補す佐賀の變臺灣征討西南の役日清戰役に偉勳を奏し功三級に敍し華族に列し男爵を授けられ日露戰役には第二軍司令官として勳功を立て功一級を賜ひ伯爵に陞さる同四十四年元帥府に列し元帥の稱號を賜ひ翌年議定官に任ぜらる君は其三男にして明治十六年十二月を以て生れ昭和五年家督を相續し襲爵被仰付明治三十八年陸軍歩兵少尉に任じ昭和五年同大佐に累進す其間近衛歩兵第一聯隊大隊長近衛師團參謀歩兵第三聯隊附等を歷補し現に陸軍戸山學校教育部長たり家族は尙三男保英（大二、九生）あり長女利子（明四五、二生）は明治銀行頭取生駒重彦長男重幸に嫁せり（東京、牛込、若松町七六電牛込七五〇）

參照＝伯爵甘露寺受長、生駒重彦氣男爵中川良長の項

奥井周太郎

勢南銀行㈱頭取、三重農工銀行㈱取締役、三重縣在籍
養子　くにゑ　明二二、七生、父善平二女
孫　周一郎　明四三、三生、養子くにゑ長男

君は三重縣人奥井善平の長男にして文久二年十一月を以て生れ明治二十二年家督を相續す現時前記銀行の重役たり孫保子（大二、九生、養子くにゑ長女）弟芳太郎（明元、一二生）は各分家し妹むめ（同一八、五生）は三重縣人中山俊平長男俊市に嫁し弟吉太郎（同五、四生）は池田姓となれり（三重、多氣、齋宮村）

奥井平治郎

絹綿織物商
滋賀縣在籍
安政二、四生、滋賀　森治郎平二男
萬延元、一〇生、滋賀、奥井新左衛門妹
明二〇、三生　滋賀、中村勇治郎妹
明三九、二生
明四三、一〇生

君は滋賀縣人先代平治郎の長男にして明治十五年九月を以て生れ大正十五年家督を相續し前名治一郎を改め襲名す絹綿織物商を營む家族は尙二女愛子（大九、七生）あり妹たれ（明一八、一〇生）は滋賀縣人辻安吉に嫁せりA一八七五B四八六（京都、下京、室町高辻上ル電室下九一〇）

奥居彦松

日本勸業銀行㈱監査役
東京府在籍
明一六、一一生、兵庫、士、田邊壯吉養妹、相愛高女出身
女　惠子　大三、一〇生

君は東京府人奥居信二郎の弟にして明治十七年三月を以て生れ同四十三年分れて一家を創立す同四十年神戸高等商業學校を卒業し同校講師たりしも後日本勸業銀行に入り主計課長債券課長新潟支店長檢査課長兼主計課長を經て現職に至る尺八洋畫に趣味を有す家族は尙四女路子（大六、二生）あり（東京、芝、白金三光町四五〇電高輪七二五九）

參照＝田邊壯吉氣田邊貞造の項

奥川覺五郎

紀新銀行、三芳索道、三重無盡各㈱取締役、三重縣在縣
妻　しげゑ　明二〇、三生、三重、奥川吉三郎叔母
男　忠雄　明四〇、一〇生
女　傳子　明四二、一一生
女　敏子　明四三、一〇生
女　良子　大二、一生

君は三重縣人北村忠兵衛の叔父にして明治十一年十一月を以て生れ奥川吉三郎の家籍に入り大正元年分れて一家を創立す夙に實業界に入り紀南銀行常務取締役五郷自動車運輸會社取締役等に擧げられ現に前記銀行會社の重役たり家族は尙二男順平（大四、三生）四女壽子（同一〇、一生）あり（三重、南牟婁、木本町）

參照＝奥川吉三郎の項

奥川吉三郎

紀新銀行㈱取締役
三重縣在籍
明二九、一二生、三重、齋藤敬一妹
男　禹雄　大一二、九生

君は三重縣人奥川文太郎の長男にして明治二十四年八月を以て生れ大正十一年叔父吉三郎の後を承け家督を相續し前名儁一を改め襲名す現時紀新銀行取締役たり家族は尙二女悅子（昭五、一生）亡叔父吉三郎妻とくゑ（明二二、一生、三重、鈴木長九郎四女）あり叔母まさゑ（同五、九生）は三重縣人鈴木長九郎に同じげゑ（同二〇、三生）は同縣人奥川覺五郎に嫁せり（三重、南牟婁、木本町）

參照＝奥川覺五郎、齋藤敬一、鈴木長九郎氣上田喜代治氣大畑吉一郎の項

奥島貫一郎

正五位、岡山醫科大學教授
愛媛縣在籍
明三二、一〇生、愛媛、河野竹三郎長女
妻　しげ　昭三、一生
男　康弘

君は愛媛縣人奥島清三郎の長男にして明治二十六年一月を以て生れ大正八年家督を相續す同四年岡山醫學專門學校を卒業し同校助教授に任じ瑞英米佛各國に留學し歸朝後岡山醫科大學助教授となり現在に至る家族は尙二女治子（大一二、五生）三女喜久子（同一五、二生）二男基良（昭五、一生）あり（岡山市

二番町四〇）

奥田彧

從五位、臺北帝國大學教授兼農林專門部教授、理農學部勤務
愛知縣在籍
母　たか　明四、四生、愛知、伊藤權左衛門二女
妻　斐子　明三四、一生、愛知、奥田信舒長女
男　峻　昭五、四生

君は愛知縣人奥田啓次郎の長男にして明治二十六年五月を以て生れ昭和四年分れて大正六年東北帝國大學農科大學農學科を卒業し同七年內務屬同八年北海道帝國大學助教授を經て同十一年農業經濟學研究の爲歐米各國に留學し同十四年波蘭國に於ける農事改良に關する調査を囑託せられ歸朝後岐阜高等農林學校教授及臺灣總督府臺北高等農林學校教授を經て昭和二年再び歐米各國に出張し同三年臺北帝國大學教授に任ぜられ同四年前記の職を兼任し今日に至る家族は尙長女貞子（大八、一〇生）二女裕子（同一〇、九生）三女文子（同一二、一〇生）四女信子（昭二、九生）あり（臺北帝國大學理農學部內）

奥田龜造

貴族院議員、鳥取縣多額納稅者、角輪組㈱監査役、漁業
鳥取縣在籍
妻　りやう　明一九、二生、宮城、山口龍之助妹
男　勇　明三四、四生、角輪組㈱取締役
婦　美和子　明三九、一生、二男勇妻、鳥根、大村貞藏五女

君は鳥取縣人奥田周藏の長男にして明治五年三月を以て生れ大正三年家督を相續す夙に水產業に從事し率先してオツタ、トロール業を始め朝鮮海岸に木敷網二十餘ケ所を設置し又太平洋岸に於て鮪漁業に從ひ角輪組の社員となり衆議院議員に選ばる現に縣下の多額納稅者にして直接國稅一萬一千三百五十三圓を納め貴族院議員に選ばる義に八千代生命保險會社長たり事あり家族は尙孫敬子（昭二、二生、二男勇長女）同明子（同三、三生、同二女）あり長女薫（明二五、四生）は分家し弟平市（同一四、一生）は鳥取縣人德田晋太郎の養子となり家督を相續す（鳥取、岩美、大岩村）

參照＝大村貞藏、德田平市氣木佐德三郎の項

奥田寛太郎

從五位、東京工業大學學生主事兼助教授、學生課長、廣島縣在籍
母　シマ　嘉永五、一二生、廣島、奥田定右衛門妹
妻　淺　明二四、三生、廣島、藤井六七八妹
男　嬬次郎　大八、八生

君は廣島縣人奥田軍一の長男にして明治八年七月を以て生れ同三十年退隱す第四高等學校を出で渡米に航しアイオイ州文科大學を卒業し大正十一年東京帝國大學法學部を卒業す同十五年東京高等工業學校教授昭和四年東京工業大學附屬專門部教授兼東京工業大學助教授となり同年七月歐米各國に墨五年中華民國に出張を命ぜらる現時東京工業大學生主事兼助教授たり家族は尙二男三郎（大一二、一生）三男四郎（昭三、四生）弟矩郎（明一〇、一一生、現戸主）同妻シエ（同二三、一一生、東京、牛尾耕平妹）あり（東京市外碑衾町東京工業大學構內官舍）

奥田權之輔

滋賀縣農工銀行㈱支配人
滋賀縣士族
妻　從子　明一七、五生、子爵藤井行德妹
男　輔　明二六、九生、滋賀、西川泰產長女）及其子女弟辰之輔（同二六、九生、滋賀、一生）同妻筆笑榮（同三二、五生、滋賀、饗庭榮三女）及其子女あり妹しけ（同二八、四生）は京都府人藤井正六男卯之助に嫁せり（滋賀、滋賀、膳所町電大津六九五）

參照＝子爵藤井行德氣子爵北小路三郎の項

奥田定一郎

正五位、勳五等、京城高等工業學校教授兼京城高等商業學校教授朝鮮總督府技師朝鮮總督府鐵道局技師
石川縣士族
母　米　安政元、六生、石川、大矢敬親二女
妻　孝　明一七、一二生、東京、關大之三女、華族女學校出身
男　孝一　明四一、一生
男　一郎　明四三、一生
女　須美子　大二、五生

君は石川縣人士族奥田永久の長男にして明治六年八月

を以て生れ大正八年家督を相續す明治三十一年東京帝國大學工科大學土木工學科を卒業し內務省土木監督署技師內務省技師帝國鐵道廳技師大阪府土木技師東洋製鐵會社運輸課長倉庫課長小倉築港調査事務所長等を經て白山水力會社に入り大正十年轉して京城工業專門學校教授となり現時前記の官職に在り昭和三年英佛獨米各國に出張を命ぜらる（京城高等工業學校內）

奥田四郎

堀川土地㈱社長、岐阜瓦斯㈱取締役、新守座㈱監査役、愛知縣在籍
妻　ぶん　明二六、三生、愛知、渡邊儀三郎妹
男　正三　大三、一二生

君は愛知縣人奥田正香の四男にして明治二十一年四月を以て生れ後家督を相續す現時堀川土地會社々長たる外前記會社の重役たり家族は尙二男正俊（大一〇、二生）長女直子（同一三、三生）あり（名古屋、中、御器所町稗田甲六一）

奥田周一郎

山久、酒造業
京都府在籍
祖母　佐紀　明四一、一生、京都、中西彌七長女
母　あい　明二五、一一生、京都、井上利助二女、京都府立第一高女出身

君は京都府人奥田久兵衛の長男にして同助七郎の再甥なり大正六年八月を以て生れ昭和四年家督を相續す山久と稱し酒造業を營む家族は尙姉ヒロ子（大三、四生）同セツ子（同四、一一生）弟健次郎（同八、一〇生）同哲夫（同一一、九生）大叔母スカ（文久元、二生）あり叔母あさ（明二七、四生）は京都府人垂水新太郎長男浩三に同たま（同三〇、七生）は同縣人日下部大助長男一成に同ひさ（同二八、七生）は滋賀縣人宇野保太郎長男良之介に嫁し叔父辰之助（同二五、五生）同英三（同三五、一生）大叔父七之助（同六、五生）は各分家し叔父三郎（同三三、八生）は京都府人中西彌七の養子となれりA五五二B一〇二（京都、愛宕、修學院村）

參照＝井上利助、奥田助七郎氣久保田庄左衛門氣田中忠雄の項

奥田助七郎

從四位勳四等、地方技師、港灣技師、愛知縣名古屋港務所長
京都府在籍
妻　イク　明一八、七生、京都、柴田彌兵衛長女、京都府立第一高女出身

男　正夫　明四〇、七生
女　綾子　明四五、七生

君は京都府人奥田周一郎の大叔父に當り明治六年五月を以て生れ同三十六年分れて一家を創立す同三十三年京都帝國大學理工科大學を卒業し愛知縣土木技師となり大正九年歐洲に出張を命ぜられ歸朝後地方技師港灣技師となり現時名古屋港務所長たり家族は三女和子（大九、二生）二男秀夫（同一一、一一生）三男光夫（同一三、一二生）あり長女文子（明三七、二生、愛知縣立第一高女出身）は靜岡縣人平山肇に嫁せり（名古屋、南千鳥町三ノ一電南八三）

参照＝奥田周一郎、柴田彌兵衛家井上利助家伊丹彌太郎の項

奥田是一郎

父　桂三郎　名古屋新世界壓取締役、奥田小兒科醫院長、醫師、愛知縣在籍
母　スキ　嘉永三、一一生
妻　祐貞　嘉永二、八生、廣島、松浦作兵衛二女
男　桂　明三二、五生、愛知、吉田直重妹
妻　フミ　明四三、一生、名古屋醫大在學

君は愛知縣人奥田桂三郎の長男にして明治十七年九月を以て生れ同三十七年卒業し農商務省に入り鑛山監督署技師となり現時名古屋新世界取締役たり家族は尙二男章（大四、一一生）三女二三子（同七、四生）四女美代子（同一四、六生）あり長女勢津子（明四五、三生）は愛知縣人吉田重明に弟茂夫（同一九、一一生）は同縣人三上千吉に各養子となれりA二五〇（名古屋、中、下茶屋町一二電南三八）

奥田清兵衛

名古屋商工會議所議員、奥田商會種取締役、奥田殖產名代表社員
愛知縣在籍

妻　フミ　明三一、一二生、岐阜、矢島伊兵衛長女
男　清夫　大八、六生、奥田殖產名出資社員

君は愛知縣人先代清兵衛の長男同豐の養弟にして明治二十六年二月を以て生れ同四十四年家督を相續し前名清太郎を改め襲名す現に奥田殖產合名會社代表社員め外前記會社の重役にして推されて名古屋商工會議所議員たり家族は尙長女照子（昭二、三生）三男欣三郎（同四、六生）あり二男昌產（大一一、七生）は兵庫人瀧川りうの養子となれり（名古屋、西、茶屋町一ノ一四電

奥田武二郎

母　マサ　從四位勳四等、鑛山監督局技師兼商工技師、仙亭鑛山監督局鑛業課長、新潟縣士族
妻　愛子　文久三、一二生、新潟、士、菅原德衞長女
男　敎朝　明二一、二生、男爵國義春姉
男　敎久　明四三、一〇生

當家の先代敎佑は舊越後村松藩士直賀の甥に當る君は其二男にして明治十六年十月を以て生れ大正五年家督を相續し明治四十年東京帝國大學工科大學採鑛冶金學科を卒業し農商務省に入り鑛山監督署技手同技師鑛務技師兼鑛務監督官兼農商務技師に歷任し大正十三年鑛山監督局技師に任ぜられ大阪鑛山監督局鑛業課長を經て現職に轉ず蠶に鑛業研究の爲二年間歐米に留學し又西比利亞滿洲に出張す家族は尙三男敎望（同一

本局一七六七）
参照＝奥田豐の項

奥田仙松

服部商事㈱專務取締役、服部商店㈱社員、愛知縣在籍

妻　いと　明一五、九生、愛知、渡邊周平三女
養子　泰治　明三〇、一生、愛知、久保田銀次郎弟、服部商事㈱販賣主任
婦　靜子　明三六、一〇生、愛知、岡本正之助妹

君は愛知縣人奥田甚四郎の二男にして明治六年三月を以て生れ同三十三年兄丈右衞門方より分れて一家を創立す現時前記會社の重役たり家族は尙孫まさゑ（大一四、一一生、愛知、松元町四ノ二二）

奥田泰市

莫大小商
東京府在籍

妻　はな　明一九、二生、東京、士、田岡豐妹
男　正一　明三七、六生

君は岐阜縣人奥田喜代七の四男森田五三郎の弟にして明治十五年中上京し莫大小商を營み東京莫大小東京輸出莫大小各會社監合長に推さる蠶に田岡莫大小東京輸出莫大小商業組分れて一家を創立す莫大小商を營み東京莫大小商業組合長に推さる蠶に田岡莫大小東京輸出莫大小各會社監査役たりしことありA一三〇〇B三〇八（東京、日本橋、藥研堀町一六電濱花一一二二）

参照＝森田五三郎の項

奥田清太郎

從四位勳四等、鑛山監督局技師兼商工技師、仙亭鑛山監督局鑛業課長、新潟縣士族
妻　愛子　文久三、一二生、新潟、士、菅原德衞長女
男　敎朝　明二一、二生、男爵國義春姉
男　敎久　明四三、一〇生

當家の先代敎佑は舊越後村松藩士にして明治十六年十月を以て生れ明治十年東京帝國大學工科大學採鑛冶金學科を卒業し農商務省に入り鑛山監督署技手同技師鑛務技師兼鑛務監督官兼農商務技師に歷任し大正十三年鑛山監督局技師に任ぜられ大阪鑛山監督局鑛業課長を經て現職に轉ず蠶に鑛業研究の爲二年間歐米に留學し又西比利亞滿洲に出張す家族は尙三男敎望（同一

〇、五生）あり二男敎廣（大二、二生）は新潟縣人奥田秀三郎の養子となり弟孝六郎（明三二、九生、工學士、醫學士）は愛媛縣人廣瀨ツギの入夫となり妹イチノ（同二一、一生）は鹿兒島縣人蘆谷幸治に同チヨ（同四〇、五生）は新潟縣人幸田錄郎に嫁せり（仙臺、北五番丁一二九電一四一七）

参照＝男爵關義春家河上春生の項

奥田剛郎

從四位、男爵、陸軍三等主計、檢察官、横濱地方裁判所檢事兼横濱區裁判所檢事、東京府華族
母　やゑ　明元、八生、兵庫、武井正平二女
妻　美喜　明三〇、一二生、東京、士、杉山四五郎長女
男　博厚　大一二、九生

當家は先代義人より其名を揚ぐ義人は舊鳥取藩士にして明治十年東京大學法學部を卒業し農商務省參事官同大臣祕書官特許局長行政裁判所許定官內閣官報局長衆議院書記官拓務次官農商務次官文部次官法制局長官宮中顧問官文部大臣司法大臣等に歷任し法學博士の學位を受く其間衆議院議員に當選する事三回後貴族院議員に勅選せらる又中央大學長東京市長に推さる大正六年勳功を以て華族に列し男爵を授けらる君は其長男にして奥田操の從弟なり明治二十一年十一月を以て生れ大正六年家督を相續し襲爵被仰付同三年東京帝國大學法科大學英法科を卒業して三菱造船會社に奉職し後辯護士を開業せしが同十二年檢事に任じ新潟區裁判所檢事兼同地方裁判所檢事を經て現時横濱地方裁判所檢事兼同區裁判所檢事たり家族は尙長女智子（大六、一一生）二女雅子（同九、一生）弟成孝（明三五、六生）同正博（同三七、三生）あり妹咲子（同二五、九生）は子爵松平忠壽に同龍（同二八、七生）は廣島縣人和田正彥に同文（同三一、二生）は兵庫縣人野呂邦之助長男一雄に同博（同三三、七生）は東京府士族濱本義賢に嫁せり（神奈川、中、大磯町五五）

参照＝子爵松平忠壽、奥田操、濱本義賢、和田正彥家伊藤當夫家鈴木喜三郎家筧克彥の項

奥田千春

勳七等、旭川市長
北海道在籍

男　千里　明二八、七生
婦　順子　明三四、一生、長男千里妻、熊本竹下平作三女

君は京都府士族鳥羽重義の三男井上利助田中忠雄の兄にして元治元年十月を以て生れ先代コマの養子となり明治二十四年家督を相續す賣產家たり家族は尙五男重

男　三郎　明三六、二生
男　四郎　明三八、一二生

君は三重縣人奥田勘三郎の二男にして明治元年八月を以て生れ同二十七年分れて一家を創立す同二十五年遞信省判任官見習郵便電信書記となり爾來旭川郵便電信局長旭川町收入役同町長同區會議員同市會議員下村育英財團理事長等を經て昭和四年旭川市長に選任せらる家族は尙五男五郎（大三、一生）六男六郎（同六、一生）七男七郎（同八、二生）孫惠子（同一二、四生、長男千里長女）あり（旭川、二條通二一ノ一電四三二）

奥田直紹

正三位、子爵
舊越後椎谷藩

妻　律子　明二、二生、子爵木下俊晉姉
庶子　直久　明二二、八生、生母、東京、並木タマ、正五位勳五等、陸軍歩兵少佐
婦　知子　明三〇、四生、庶子直久妻、子爵五島盛輝姉

當家は堀監物直政の四男式部少輔直之の後なり直之德川氏に仕へ一萬石を領す其より十五代を經て世々越後椎谷の城主として先代之美に至り明治十年本姓奥田に復す君は子爵奥田直元の叔父にして明治元年一月を以て生れ同十五年之美の養子となり家督を相續し同十七年子爵を授けらる學習院高等科出身にして鶯の飼育を以て其名著る家族は尙孫直榮（大七、六生、庶子直久長男）同富子（同一〇、三生、同長女）同直邦（同一三、一生、同二男）同昌子（同一五、四生、同二女）あり長女鉤子（明二五、九生）は子爵細川興治に嫁せり（東京、小石川、小日向臺町三ノ六五電牛込四二三八）

参照＝子爵奥田直元、子爵木下俊晉、子爵五島盛輝子爵細川興治家高野金重家瀧村立太郎の項

奥田直元

正四位、子爵
舊越後村松藩

妻　カウ　明二五、七生、新潟、小田喜七郎四女
男　直秋　大七、一〇生

當家は陸奥守足利義康の末葉奥田源三郎氏種の後なり五代を經て三左衞門直政に至る直政織田豐臣二氏に仕へ堀秀政に屬し其姓を冒し堀監物と稱す越後三條五萬石を食む二男丹後守直寄德川氏に仕へ同國村上十萬石に封ぜらる後直寄同國村松三萬石に轉封せらるゝ之れ當家の祖なり夫より十二代を經て先々代直弘に至り維新後本姓奥田に復し明治十七年子爵を授けらる君は其男直暢の後を繼ぎ襲爵し前名一麿を改む蠶に安邊社取締役に擧げられ現時村松高等女學校學會村松勳武會各東京外國語學校敎授瀧村立太郎に叔母サト（同一三、一生、一〇生）は各分家し叔父直紹（同元、一生）は子爵奥田之美の養子となり襲爵し妹三子（同二五、七生）は四生）は愛知縣士族辯護士高野金重に嫁せり（新潟、中、蒲原、村松町）

参照＝子爵奥田直紹、高野金重、瀧村立太郎の項

奥田直恭

從三位勳四等功五級、子爵、陸軍歩兵中佐、舊信州須坂藩
妻　秀子　明一二、五生、子爵佐竹義勝從姉
男　直登　明四〇、八生、從五位
男　直知　明四二、一二生

當家は堀監物直政の三男淡路守直重の後なり直重德川氏に仕へ信州須坂一萬石に封ぜらる夫より十三代を經て先代直明に至り維新後本姓奥田に復し明治十七年子爵を授けらる君は其三男にして明治九年三月を以て生れ同十八年家督を相續し襲爵す同三十二年陸軍士官學校を卒業して陸軍歩兵少尉に任じ大正十年同中佐に累進す其間近衞歩兵第三十七聯隊大隊長高崎聯隊區司令部々員等に歷補し同十二年豫備役に編入せらる弟直當（明一二、一生、熱帶產業會社員）は分家して岡山縣人守屋松之助妹菅（同二一、一〇生）を娶り妹德子（同一九、一生）は長野縣人井上勝秀に嫁せり（長野、下高井、須坂町）

参照＝子爵佐竹義勝、守屋松之助家子爵松平乘統の項

奥田增四郎

賣產家
京都府在籍

男　增雄　明四〇、一一生
婦　芳枝　明四二、五生、四男增雄妻、京都大藏重太郎二女

君は京都府士族鳥羽重義の三男井上利助田中忠雄の兄にして元治元年十月を以て生れ先代コマの養子となり明治二十四年家督を相續す賣產家たり家族は尙五男重雄（大元、一〇生）あり長女ヤナ（明二〇、三生）は大阪府人澤池正信に三女シヅ（同三〇、三生）は京都府人深田清三郎に四女ふさ（同三二、七生）は同府人伊藤庄兵衞に嫁せりA一六八一（京都、上京、河原町荒神口下ル電上一二七五）

参照＝井上利助、伊藤庄兵衞、大藏重太郎、田中忠雄家田中和一郎の項

奥田操

東京貯藏銀行㈱監査役
鳥取縣士族

母　多鶴　嘉永六、一〇生、鳥取、前田奎也三女
妻　綾野　明九、一二生、岡山、西毅一二女
男　松太郎　明三一、九生
婦　菊枝　明三三、一二生、長男松太郎妻、京都、寺田惣右衞門四女
男　三郎　明三五、二生
男　四郎　明四四、一〇生

君は鳥取縣士族奥田力の長男にして男爵奥田剛郎の從兄なり明治三年十二月を以て生れ大正八年家督を相續す明治二十四年東京高等商業學校を卒業し現時東京貯藏銀行監査役たり家族は尙孫翠（昭二、一生、長男松太郎長女）同隆人（昭四、三生、長男）あり長女梅子（明三一、九生）は東京府人池田英に嫁し二女竹子（同三七、二生）は鹿兒島縣人波江野武雄に三女鶴子（同四二、六生、雙葉高女出身）は東京府人鵜澤司に妹靜野（同一四、四生）は鳥取縣人谷本伊太郎に同菊枝（同二〇、八生）は東京府人藤野茂八に從妹みつ（同一七、一〇生）は鳥取縣人森廣藏に嫁せり（東京市外碑衾町大字碑文谷字原町三ノ一三四九）

参照＝男爵奥田剛郎、寺田惣右衞門、藤野茂八、森廣藏家白岩龍平の項

奥田讓

從四位勳三等、農學博士、九州帝國大學敎授、農學部勤務
福岡縣在籍

母　やす　萬延元、二生、三重、福村孫三郎長女
妻　シゲコ　明二六、八生、廣島、森豐四女
男　實　大六、九生
女　千惠子　大三、六生

君は東京府人奥田格の二男にして小島敏之の兄なり明治十六年九月を以て生れ昭和四年家督を相續す明治四

十二年東京帝國大學農科大學農藝化學科を卒業し大學院に入り同四十三年東京帝國大學農科大學講師を囑託せられ大正元年東京帝國大學農科大學助教授に任じ同三年ヤルート島に出張を命ぜらる同七年農學博士の學位を受け生物化學研究の爲英米瑞西瑞典各國に留學同十年九州帝國大學助教授に任じ同十一年同大學教授に進み現時其職にあり（福岡市西新町一〇六）

參照＝小島敏之の項

奥田　豊　奥田商會樅鑑査役、奥田殖產寶代表社員、愛知縣在籍

妻　須摩　明二三、二生、愛知、士、竹山ちやう養子

男　郁太郎　明四三、八生

女　禮　明四〇、一〇生

女　富久　大二、一生

君は愛知縣人畔柳清彦の三男にして明治十五年三月を以て生れ奥田清兵衛先代の養子となり同三十六年分れて一家を創立す現時前記會社の重役たり家族は尙三女桂（大六、八生）三男卓三（同九、一生）四男趙（同一一、八生）四女歌子（同一三、一〇生）五男五郎（同一五、一〇生）六男陳郎（昭四、一生）あり（名古屋、中、東瓦町六三電東三八七七）

參照＝奥田清兵衛の項

奥田與四郎　北山素道樅取締役、大同銀行樅鑑査役、奈良縣在籍

妻　かや　明六、一二生、奈良、岩本武助叔母

男　實　明三四、九生

婿　貴美子　明四〇、三生、長男實妻、奈良、森本保之四女

君は奈良縣人奥田利平の長男にして明治六年六月を以て生れ同三十八年家督を相續す現時前記銀行會社の重役たり家族は尙孫晃代（昭二、一二生、長男實長女）同年子（同五、七生、同二女）あり妹イチ（明二〇、一一生）は奈良縣人岩本武助に嫁せり（奈良、吉野、上北山村）

參照＝岩本武助の項

奥田理一　カナエパツキング製造樅取締役、鐵商、大阪府在籍

妻　美子　明三二、一生、兵庫、山本幾治郎長女

男　俊　男　明四四、五生、松江高校文科在學

君は大阪府人奥田理平の長男にして明治二十年三月を以て生れ大正五年家督を相續す鐵商を營み住友伸銅鋼管及日本電池各會社製品を販賣し傍らカナエパツキング製造會社取締役たり家族は尙二男儁（大四、六生）三男程三（昭二、二生）四男典男（同三、七生）甥秀（大六、五生、亡弟秀三長男）姪つる（同九、七生、同二女）あり A一六〇六B四一三（大阪、西、西道頓堀通四ノ一〇○電櫻川一〇二九）

奥田柳藏　勳四等、鳥取縣多額納稅者、鳥取貯蓄銀行樅頭取、雲陽實業銀行、日本格魯謨鑛業、因幡水力電氣各樅取締役、農業、鳥取縣在籍

妻　はる　明二、一一生、鳥取、石谷吉平二女

男　善四郎　明二二、五生

男　稽　明二四、四生、長男善四郎妻、鳥取、河本猷藏妹

婿　和子　明三八、六生

女　吉左衛門　明四四、一二生、長男善四郎長男

孫　君は鳥取縣人奥田長十郎の長男にして明治元年十一月を以て生れ同十七年家督を相續す農業を營み傍ら前記各銀行會社の重役にして直接國稅二千二百十圓を納め縣下の多額納稅者に列す曾て鳥取縣會議員因伯米輸出同業組合議員等に擧げられ又同縣より推されて衆議院議員に當選する事四回に及び大正三四年事件の功に依り勳四等に敍せらる家族は尙孫悌二郎（大八、四生、長男善四郎二男）同政子（同一二、一一生、同長女）同博三郎（同一五、八生、同三男）同弘子（昭三、三生、同二女）あり長女繁子（明二九、六生）は鳥取縣人奥田義人に妹のぶ（同一一、八生）は同縣人圓井邦次郎に嫁し妹ひさ（同七、七生）は同矢兵吉（同元、七生、鳥取、近藤精男叔父）と共に弟清造（同一〇、六生）同妻節（同一九、一生、鳥取、岡島正潔長女）は其一子を伴ひ各分家し甥儁太郎（同三二、九生、養弟兵吉長男）は鳥取縣人奥田卓二の家籍に入れり（鳥取、氣高、大和村）

參照＝河本猷藏氣桑田安常の項

奥平俊藏　正四位勳二等功五級、陸軍中將、東京府在籍

妻　イチ　明一八、一二生、東京、赤川雄三養子、東京女學館出身

男　俊　明四〇、三生

君は東京府人奥平定盛の四男にして明治八年十二月を以て生れ大正五年家督を相續す鐵商を營み住友伸銅鋼管製造會社取締役たり家族は尙二男儁（大四、六生）三男程三（昭二、二生）四男典男（同三、七生）甥秀（大六、五生、亡弟秀三長男）姪つる（同九、七生、同二女）あり A一六〇六B四一三（大阪、西、西道頓堀通四ノ一〇○電櫻川一〇二九）

勳四等、鳥取縣多額納稅者、鳥取貯蓄銀行樅頭取、雲陽實業銀行、日本格魯謨鑛業、因幡水力電氣各樅取締役、農業、鳥取縣在籍

妻　はる　明二、一一生、鳥取、石谷吉平二女

男　善四郎　明二二、五生

男　稽　明二四、四生、長男善四郎妻、鳥取、河本猷藏妹

婿　和子　明三八、六生

女　吉左衛門　明四四、一二生、長男善四郎長男

孫　君は鳥取縣人奥田長十郎の長男にして明治元年十一月を以て生れ同十七年家督を相續す農業を營み傍ら前記各銀行會社の重役にして直接國稅二千二百十圓を納め縣下の多額納稅者に列す曾て鳥取縣會議員因伯米輸出同業組合議員等に擧げられ又同縣より推されて衆議院議員に當選する事四回に及び大正三四年事件の功に依り勳四等に敍せらる家族は尙孫悌二郎（大八、四生、長男善四郎二男）同政子（同一二、一一生、同長女）同博三郎（同一五、八生、同三男）同弘子（昭三、三生、同二女）あり長女繁子（明二九、六生）は鳥取縣人奥田義人に妹のぶ（同一一、八生）は同縣人圓井邦次郎に嫁し妹ひさ（同七、七生）は同矢兵吉（同元、七生、鳥取、近藤精男叔父）と共に弟清造（同一〇、六生）同妻節（同一九、一生、鳥取、岡島正潔長女）は其一子を伴ひ各分家し甥儁太郎（同三二、九生、養弟兵吉長男）は鳥取縣人奥田卓二の家籍に入れり（鳥取、氣高、大和村）

參照＝河本猷藏氣桑田安常の項

奥平昌恭　正三位勳三等、伯爵、貴族院議員、朝鮮銀行樅頭取、樺太鐵道樅取締役會長、八千代生命保險樅社長、國際日本協會會長、舊豐前中津藩主

妻　績　明一六、二生、伯爵有馬頼寧姉

男　昌信　明三六、六生、從五位

庶子　昌英　明四二、一〇生、生母、東京、篠崎遊賀

養子　秋子　大四、一生、東京、梶藤吉二女

當家は村上源氏の末流奥平美濃守貞能の長男美作守信昌の後なり果代德川氏に仕ふ信昌三州長篠城を守り勇名を聽せ關ヶ原役後濃州加納六萬石に封ぜらる後世宇都宮古河山形等に轉々し享保中豐前中津十二萬石に移る信昌より十四世を經て先代昌源に至り明治十七年伯爵を授けらる君は其長男にして幼名を九八郎といふ明治十年六月を以て生れ同十八年襲爵す學習院を經て京都帝國大學法科大學に學び同四十二年歐米を漫遊し歸朝後實業界に入り現時前記銀行會社の重役にして貴族院議員に推され研究會に屬す銃獵を好み射術に長じ又庭球の名手として知らる家族は尙叔父定之助（明二九、二生）あり弟昌國（同一三、一生）あり（東京、麻、霞町、紀尾井町四電丸ノ内九九八八）

參照＝伯爵奥平昌恭、子爵稻垣長昌の項

奥平稔　吳日々新聞社長樅取締役、東京府在籍

妻　俊子　明三七、三生、廣島、大野木友次郎長女

男　陽一　大一四、六生

君は廣島縣人奥平吉之助の長男にして明治三十年六月を以て生れ大正十二年家督を相續す同年早稻田大學政治經濟學部を卒業し現時吳日々新聞社長樅取締役たり家族は尙二男雅彦（昭二、八生）三男耕造（同四、八生）弟英雄（明三八、一一生）同弘和（同四三、一二生）あり妹房子（同四二、二生）は山口縣人堀利兵衛に嫁せり（吳、堺川通三ノ一電三三九）

明治二十九年陸軍士官學校を卒業し翌三十年陸軍歩兵少尉に任じ爾來累進して大正十三年陸軍中將に陞る其間陸軍大學校を卒業し參謀本部々員留守第十八師團參謀長本郷聯隊司令官陸軍省軍務局歩兵課長航空第四大隊長中支那派遣隊司令官歩兵第二旅團長等に歷補し日露日獨各戰役に出征す大正八年官命に依り歐米各國を視察し同十三年襲備役編入仰付らる家族は尙三男史郎（大元、九生）四男祿郎（同五、八生）三女壽子（同七、九生）五男慶介（同一三、一生）六男成敎（昭三、一〇生）あり長女幹子（明四二、七生）は廣島縣人栗原省三に嫁せり（東京市外井荻町下荻窪一一九電荻窪一一六二）

奥平昌國　公海漁業樅代表取締役、日本教育生命保險樅取締役、東京府在籍

君は伯爵奥平昌恭の弟にして子爵稻垣長昌の甥なり明治十二年一月を以て生れ同四十三年分れて一家を創立す同三十五年學習院中等科を卒業し現時前記各會社の重役たり養に新草津溫泉土地會社取締役たりし事あり家族は尙庶子孝子（大一三、一生、生母、東京、樋口かれ）あり（東京、芝、高輪南町五三電富輪三三〇）

參照＝伯爵奥平昌恭、子爵稻垣長昌の項

奥平　昌　績　明一六、二生、伯爵有馬頼寧姉

男　昌信　明三六、六生、從五位

庶子　昌英　明四二、一〇生、生母、東京、篠崎遊賀

養子　秋子　大四、一生、東京、梶藤吉二女

當家は村上源氏の末流奥平美濃守貞能の長男美作守信昌の後なり果代德川氏に仕ふ信昌三州長篠城を守り勇名を聽せ關ヶ原役後濃州加納六萬石に封ぜらる後世宇都宮古河山形等に轉々し享保中豐前中津十二萬石に移る信昌より十四世を經て先代昌源に至り明治十七年伯爵を授けらる君は其長男にして幼名を九八郎といふ明治十年六月を以て生れ同十八年襲爵す學習院を經て京都帝國大學法科大學に學び同四十二年歐米を漫遊し歸朝後實業界に入り現時前記銀行會社の重役にして貴族院議員に推され研究會に屬す銃獵を好み射術に長じ又庭球の名手として知らる家族は尙叔父定之助（明二九、二生）あり弟昌國（同一三、一生）あり（東京、麻、霞町、紀尾井町四電丸ノ内九九八八）

生）同昌繁（同一八、三生）同昌友（同二〇、九生）は各分家し同昌吉（同八、一二生）は子爵稻垣長敬の養子となり襲爵して長昌と改名し同昌久（同一五、一生）は東京府人松平忠行に同榮之助（同二五、一〇生）は兄忠善に各養子となれり（東京、芝、高輪南町五三電高輪三二九）

參照＝伯爵有馬頼寧、子爵稻垣長昌、奥平昌國、子爵安藤信昭、子爵有馬聰、頼寧、子爵齋藤實、男爵有馬正頼、男爵稻垣昌植、男爵松田正之の項

奥藤謹治　奥藤商事樅社長、奥藤銀行樅取締役、奥藤酒造樅鑑査役、奥藤同族會社業務執行委員、農業、兵庫縣在籍

妻　わせ　明二二、九生、岡山、井上昌平三女

母　文子　明四二、七生

男　教　明四四、一一生

男　久　大一四、六生

君は故兵庫縣多額納稅者奥藤研造の長男にして明治九年五月を以て生れ昭和五年家督を相續す農業を營み前記銀行會社の重役にして又奥藤家小作人信用組合長となり壹千五百名の小作人救濟事業を行ふ尙社會教育方面及史蹟研究者として知られ坂越村報德會長兵庫縣教化團聯合會代表委員及兄鳥贈從三位舊社保存會長として地方に貢獻すること多し義に坂越村教育會顧問として各種公共團體に盡せる功に依り紺綬褒章を授與せらる家族は尙三男修（大三、一生）長女嶺子（同五、三生）二女直子（同一一、四生）三女朝子（同一三、二生）五男慣治（昭二、四生）あり妹きみ（明一八、三生）同夫恂治（同一八、一生）は子爵稻垣長敬の養子となり襲爵して長昌と改名し同昌久（同一五、一生）は東京府人松平忠行に同榮之助（同二五、一〇生）は兄忠善に各養子となれり（東京、芝、高輪南町五三電高輪三二九）

參照＝伯爵有馬頼寧、子爵稻垣長昌、奥平昌國、子爵安藤信昭、子爵有馬聰、頼寧、子爵齋藤實、男爵有馬正頼、男爵稻垣昌植、男爵松田正之の項

奥名清信　從五位勳四等、宮內事務官、伏見宮附、島根縣在籍

妻　クニ　明二五、一二生、島根、金坂儀一郎長女

男　信　大五、四生

女　敏子　大三、一一生

君は島根縣人奥名四郎市郎の三男にして明治十六年十二月を以て生れ大正十二年兄佐藤方より分れて一家を創立す現時宮內事務官にして伏見宮附たり家族は尙二男清臣（大七、三生）三男三郎（大九、一生）四男理（同一二、六生）二女孝子（同一三、六生）三女昭子（昭二、九生）あり（東京、麹町、紀尾井町四電丸ノ内九九八八）

奥中保次郎　惠美商織物樅專務取締役、大阪府在籍

妻　キミ　明二〇、四生、大阪、西尾久吉長女

男　道三郎　明四三、二生

男　敏三　明四四、八生

君は大阪府人奥中清次郎の二男にして明治十四年十一月を以て生れ同三十年分れて一家を創立す現時惠美商織物會社專務取締役たり家族は尙四女靜子（大一四、一一生）四男群司（昭二、一一生）あり（堺、市之町東二ノ一一電一〇一九）

奥西治郎吉　洋傘肩掛商、京都府在籍

母　ミカ　嘉永三、一一生、京都、吉川庄次郎二女

妻　チエ　明二七、五生、京都、大森勇次郎長女

養子　二郎　大三、六生、京都、奥西末吉二男

君は京都府人奥西甚四郎の長男にして明治十年十二月を以て生れ大正十年家督を相續す洋傘肩掛商を營む A一一三四（京都、中京、新烏丸夷川下ル電上三九七三）

京都府多額納稅者、丸二商店樅取締役、京都取引所取引員、京都府在籍

妻　マスエ　明三〇、七生、奈良、福岡金治郎長女

男　右一郎　大七、二生

女　美智子　大三、一二生

君は奈良縣人奥西佐治郎の二男にして明治二十一年六月を以て生れ大正十年分れて一家を創立す現に京都取引所米取引員にして丸二商店取締役を兼ね直接國稅七千五百八十九圓を納め京都府多額納稅者たり家族は尙三女浩子（大一三、四生）あり（京都、上京、平野鳥居前町三七ノ二電西陣一九七〇）

奥貫賢一郎　埼玉縣多額納稅者、足袋商、埼玉縣在籍

父　忠吉　嘉永六、一生、埼玉、大塚伊之助三男

妻　でん　明一一、四生、埼玉、權田政五郎長女

女　智子　大五、一〇生

君は埼玉縣人奥貫忠吉の二男にして明治九年十二月を以て生れ大正十年家督を相續す足袋商を營み縣下の多額納稅者にして直接國稅三千二十一圓を納む養に行田紡績會社取締役たりしことあり妹はる（明二八、一生）は埼玉縣人小林精一弟兵彌に嫁せり（埼玉、北埼玉、忍町）

奥野幾次郎　旭廣告樅社長、新聞廣告代理業、大阪府在籍

妻　美花　明一六、五生、大阪、村田祐治長女

男　信一　明三六、三生、旭廣告樅取締役

婿　長子　明四三、九生、長男信一妻、大阪城福松太郎二女

養子　正一　明三七、二生、二女清子夫、大阪一柳太治郎二男

女　清子　明四一、一〇生、養子正一妻

女　富久子　大五、一生

君は大阪府人奥野彌三松の弟にして明治十一年一月を以て生れ大正二年分れて一家を創立す旭廣告會社長にして新聞廣告代理業を營む書畫骨董謠曲等に趣味あり（大阪、東、内久寶寺町二ノ三五**電東二六八〇**）

參照＝氷井原榮治の項

奥野英太郎

正四位勳三等功五級、陸軍中將、大津市長、滋賀縣在籍

妻　サク　明一六、八生、山口、士、粟飯原常世長女

男　英良　明四三、二生

女　豐子　大三、一二生

節子　大五、六生

君は滋賀縣人奥野時之の長男にして明治四年十二月を以て生れ同三十年家督を相續す同二十八年陸軍士官學校を卒業し陸軍歩兵少尉に任じ大正十三年陸軍中將に累進す其間陸軍大學校を卒業し爾來參謀本部々員第十二第十四第七各師團由良要塞朝鮮軍各參謀歩兵第四十八聯隊長第九師團參謀長歩兵第二十四旅團長第十八師團司令部附等に歷補し日露戰役の功により功五級金鵄勳章を賜ひ大正十三年豫備役に編入せらる同十五年大津市長に擧げられ現在に至る弟光雄（明一三、一〇生）同直夫（同二四、六生）は各分家し同武夫（同一七、一一生）は滋賀縣人河原爲五郎の養子となり妹澤（同八、一二生）は京都府士族松室重太郎に嫁せりA五七〇（大津、神出町）

奥野小四郎

十勝無盡㈱代表取締役社長、北海道殖産㈱取締役、農牧業

兵庫縣在籍

妻　せつ　明一三、三生、養父小四郎長女

君は兵庫縣人武田泰三の三男にして明治十三年四月を以て生れ先代小四郎の養子となり大正四年家督を相續し前名雄次を改め襲名す夙に第三高等學校に學び北海道に至り農牧の業に從事し曩に北海道會議員十勝農政協議會理事長に擧げられ大正十三年衆議院議員に當選す現時前記各會社の重役にして十勝畜産組合長十勝六郡農會長北海道牛馬畜産組合聯合會評議員たり（北海道、河西、帶廣町）

奥野七次郎

仙臺鐵道取締役、加美館製絲、東北館製絲場各㈱監査役、奥野呉服店賣代表社員、宮城縣在籍

母　たき　嘉永二、四生、三重、士、拓植宗光二女

妻　もと　明六、一生、三重、藤川忠長女

男　吉武　明二七、二生

婦　小松　藤井昌玄二女　明三三、五生、長男吉武妻、三重

男　吉文　明三八、一生

吉範　明四三、一生

君は三重縣士族奥村要藏の長男にして明治三年五月を以て生れ同三十八年家督を相續す同二十四年陸軍士官學校を卒業し同二十五年陸軍歩兵少尉に任じ大正八年陸軍中將に累進す其間明治三十五年及同三十九年獨逸兩國に留學陸軍大學校教官教育總監部參謀戸山學校教導大隊長歩兵第十七聯隊長參謀本部課長歩兵第三十二旅團長等に歷補し大正八年豫備役に編入せらる家族は尙孫吉夫（大一〇、九生、長男吉武長男）同すゞ子（同一五、一一生、同二女）同喜代子（昭三、一一生、同三女）あり長女しつ（明三〇、七生）は愛知縣人渡邊直知に三女淑子（同四一、八生）は愛知縣人馬淵良逸に嫁せり（津、西新町）

奥村嘉藏

德島縣多額納稅者、阿波製紙㈱取締役、德島縣在籍

妻　ヒサ　明二二、三生、德島、佐藤男次郎四女

男　武夫　明四〇、九生

政夫　明四二、一〇生

君は德島縣人先代嘉藏の長男にして明治十八年十二月を以て生れ同二十九年家督を相續し前名馨を改め襲名す現時前記會社の重役にして直接國稅三千九百九圓を納め縣下の多額納稅者たり家族は尙三男繁夫（明四五、一生）長女菊江（大七、三生）あり弟庸夫（明二〇、一〇生）同妻サダコ（同二五、三生、德島、田米太郎二女）は共に分家し從弟賢貢（同二八、一二生、亡叔父國太郎長男）も亦分家し亡叔父國太郎妻トラ（同六、六生、德島、篠野貫治妹）は其家籍に入れり（德島、板野、藍岡村）

奥村龜太郎

日本醫療電氣、城南電氣、電業製鍊、大日本電球各㈱取締役

滋賀縣士族

妻　秀尾　明二一、七生、滋賀、高田駿次郎二女

男　益高　明三八、一〇生

男　基次郎　明二七、一二生

婦　まつえ　明三二、市川庄右衛門六女

女　あい　大二、二生

君は宮城縣人先代七次郎の長男にして明治八年六月を以て生れ昭和四年家督を相續し前名太郎兵衛を改め襲名す吳服商を營み現時前記各社の重役たり家族は尙庶子菊代（昭三、六生、宮城、島田ノブ）孫謙郎（大七、二生、二男基次郎二男）同哲郎（同八、三生、同三男）同篤郎（同九、九生、同四男）同陸郎（同一三、三生、同五男）同信郎（同一五、八生、同六男）同淑郎（昭三、一〇生、同七男）あり四男市次郎（明四〇、五生）は東京府人松居つまの養子となれりA九三八（宮城黑川、吉岡町**電二**）

奥野重太郎

金融業

大阪府在籍

母　カメ　弘化元、九生

妻　ウタ　明三、一〇生、大阪、谷川德太郎妹

男　茂里　明三五、四生

明三九、五生、長男茂里妻、大阪井上元司姉

君は大阪府人奥野新七の長男にして明治三年四月を以て生れ同十七年家督を相續す金融業を營む家族は尙孫重義（大八、五生、長男茂里長男）同信子（同一三、四生、同長女）從姉シマ（慶應元、七生、伯父善太郎長女）あり三男義雄（明三一、三生）は分家し從姪カツ（同一八、一生）は大阪府人湊元源治に嫁せりA五五三六（大阪、三島、三島村）

奥野正太郎

勳七等、森永製品關西販賣㈱取締役、貝塚紡績㈱監査役、奥野長女堂、レアイーフインカーボン千貝製造元、製菓業、大阪府在籍

妻　タメ　明六、六生、大阪、宮崎治三郎長女

男　太郎　明四一、二生

明三三、三生、二女正子夫、滋賀建部清六弟

養子　健藏　明三五、五生、養子健藏妻、大谷高女出身

女　正子

君は大阪府人奥野八平の長男にして慶應二年十一月を以て生れ明治二十五年家督を相續す夙に製菓業を營み現時落燒製造元として奥野長正堂の名普く知られ傍ら前記各會社の重役を兼ね曩に推されて全國菓子業組合聯合會理事大阪菓子同業組合長たり又日露の兩役に從軍し功に依り勳七等青色桐葉章を授けらる曾て全國菓子飴大品評會々長に推され又國勢調査委員に任命さるA一六四B七〇（大阪、東、北新町一ノ一**電東二四五**）

奥野政藏

正五位勳五等、東北帝國大學附屬醫院藥局長、大阪府在籍

妻　トシ子　明二五、一生、大阪、矢島芳郎妹

男　昇　大一四、五生

君は大阪府人奥野庄兵衛の四男にして明治十八年四月を以て生れ同三十六年家督を相續す同四十一年東京帝國大學醫科大學藥學科を卒業し現時東北帝國大學附屬醫院藥局長たり家族は尙長女貞（大八、八生）二女信子（同一二、六生）三女和子（昭四、一生）あり弟勝造（明二七、三生）は分家せり（仙臺、北五番丁一八三**電三〇九三**）

奥野要吉郎

臺灣地所建物㈱取締役、十二銀行㈱東京支店長、富山縣士族

妻　トミ　明三〇、五生、養父義保三女

男　義信　明三四、一一生

明四二、六生、長男義信妻、富山齋藤一二長女

婦　夏子

君は富山縣人土肥與佐久の三男にして明治十四年九月を以て生れ先代義保の養子となり大正四年家督を相續す明治四十年京都帝國大學法科大學を卒業し現時十二銀行東京支店長にして傍ら前記會社の重役たり家族は尙孫泰子（昭四、五生、長男義信長女）ありA三四〇（東京、日本橋、通二ノ七ノ五**電日本橋三一七一**）

奥村榮太郎

奥村寶代表社員、佛檀商

母　しき　愛知縣士族

妻　タメ　明一八、三生、祖父留次郎長女

男　太郎　明四一、二生

女　なみ　大元、八生

君は愛知縣士族奥村信吉の長男にして明治四十二年三月を以て生れ昭和三年家督を相續す佛檀商奥村合資會社代表社員たり家族は尙弟正二郎（大元、八生）妹あい子（同五、二生）弟金三（同八、四生）妹寡美子（同一一、一〇生）あり（名古屋、中、橋町二ノ一**電南八五七**）

妻　ムメ　明一八、一二生、廣島、士、中根重一三女

男　陽太郎　明四四、一生

君は兵庫縣人奥村直藏の長男にして明治四年十二月を以て生れ大正七年家督を相續す現時奥村商店社長たり家族は尙二男昭次郎（昭二、二生）ありA四八四七（横濱、中、境町一ノ七**電長者町九六〇**）

奥村正右衛門

山梨縣多額納稅者、あさや吳服店㈱社長、吳服商、山梨縣在籍

母　みよ　安政元、八生、山梨、八原清兵衛妹

妻　うめ　明二〇、一二生、山梨、松浦儀兵衛妹

男　貞太郎　明四二、一生

よし子　明四三、一二生

女　みよ　大元、八生

君は山梨縣人先代正右衛門の長男にして明治十六年八月を以て生れ大正十三年家督を相續し前名德太郎を改め襲名すあさや吳服店を經營し吳服商を營み直接國稅八百四十九圓を納め山梨縣多額納稅者たり家族は尙三男常次郎（大三、六生）三女ちゑ子（同一三、三生）あり養兄恒吉（明七、五生、山梨、落合忠右衛門三男）弟正兵衛（同二五、二生）は各分家し妹もと（同二一、五生）は神奈川縣人古屋惣八に嫁せり（甲府、八日町四〇）

參照＝奥村正兵衛、松浦儀兵衛、濱中井四郎、濱平原重吉の項

奥村正兵衛

甲府商工會議所議員、あさや吳服店㈱取締役、山梨醬油㈱監査役

山梨縣在籍

妻　ふみ子　明三二、八生、山梨、古屋朝次郎二女

男　寛義　大八、一一生

君は山梨縣人奥村正右衛門の二男にして現戸主正右衛門の實弟なり明治二十五年二月を以て生れ大正四年分れて一家を創立す現時あさや吳服店取締役たる外前記會社の重役にして推されて甲府商工會議所議員たり家族は尙二男榮次郎（大一〇、三生）三男正三（同一二、九生）四男英正（同一五、二生）五男健吾（昭三、二生）六男鐵造（同四、一二生）あり（甲府、八日町五三）

參照＝奥村正右衛門の項

奥村省三

從四位勳三等、九州帝國大學教授工學部勤務、熊本縣在籍

母　ふさ　嘉永六、六生、兵庫、住吉庄平長女

妻　環　明一九、八生、熊本、士、中村才馬六女
男　準三　大三、七生
女　喜久子　明四一、一一生

君は滋賀縣人奥村友太郎の弟にして明治十年十一月を以て生れ同三十八年分れて一家を創立す同三十七年京都帝國大學理工科大學機械科を卒業し同年第五高等學校教授となり同四十三年機械工學研究の爲獨英米に留學を命ぜられ熊本高等工業學校兼九州帝國大學教授を經て昭和四年九州帝國大學教授に任じ現時工學部に勤務す家族は尙四男大六（大六、一一生）あり（福岡市大堀町五）

参照＝嵐武笠清太郎嵐山田東三郎の項

奥村信太郎

大阪毎日新聞社取締役兼大阪毎日新聞編輯總務、兵庫縣在籍

妻　イト　明一二、一生、大阪、士、相賀信量二女

君は東京府人奥村成岳の長男にして明治八年十月を以て生れ同十八年家督を相續す夙に大阪毎日新聞社に入り現時同社取締役にして大阪毎日新聞編輯總務を兼ぬ曩に歐米各國を巡遊視察す家族は尙養子彌生（大九、一一生、大阪、吉村廣長女）弟愛次郎（明一一、三生）及其一子ありA一八九一（兵庫、武庫、本山村北畑三二六ノ一電御影一〇六一）

奥村千吉

日本鑄鋼所取締役社長、奥村亀代表社員、福岡縣在籍

妻　タマ　明二一、一一生、福岡、牛田新造妹
男　福次郎　明三五、六生
婿　アツ　明四三生、長男福次妻、福岡、倉富啓二郎二女
男　勝三　明四一、五生

君は福岡縣人奥村利平の四男にして明治五年十月を以て生れ同三十年家督を相續す現時日本鑄鋼所取締役社長にして又奥村合名會社代表社員たり家族は尙四男芳郎（明四五、一生）三女緝子（大九、七生）五男正雄（同一一、二生）四女信子（同一二、七生）あり二女ツル（明二七、九生）は京都府士族大浦新次郎弟義雄に姪クニ（慶應二、七生）は福岡縣人緒方建藏に姪フミ（明二一、三生、亡兄德太郎長女）は同縣人塚本安次長男淳太郎に嫁し兄吉五郎（元治元、二生）弟忠吉（明二二、四生）は各分家し同正三（同一八、二生）同妻イキノ（同三九、八生、福岡、山崎昇妹）及び甥英太郎（同一八、九生、亡兄德太郎長男）同妻ユキ（同二三、二生、福岡、笠宗七三女）も亦各其子女を伴ひ分家せりA六二九（大阪、住吉、天王寺町一一九七電天下茶屋二一一九）

参照＝塚本安次の項

奥村竹三

江戸堀土地建物穀取締役、須磨土地建物穀監査役、兵庫縣在籍

男　竹之助　明三五、一〇生、法學士、三菱商事會社員
婿　彌生子　明三七、三生、長男竹之助妻、島根、伊藤肇一長女

君は芙城縣人奥村吉郎兵衛の三男にして元治元年三月を以て生れ後家督を相續す現時前記各會社の重役にして蠶に奥村商店取締役たり家族は尙孫禮子（昭三、一一生、長男竹之助長女）同房子（同五、二生、同二女）あり長女ぬい（明二八、九生）は兵庫縣人奥村吉之助の養子となり青柳清次郎を入夫に迎へりA七七九（兵庫、武庫、本山村岡本八四七電御影一一八三）

奥村猛

妻　まさ　明一二、四生、京都、赤尾幸七三女
女　綾子　明三四、三生

君は京都府人奥村小太郎の三男にして同小次郎同寅次郎の弟なり明治二年十二月を以て生れ同二十五年分れて一家を創立す現時奥村電機商會社長たる外前記各會社の重役たり（京都、左京、岡崎圓勝寺町八七）

参照＝奥村寅次郎嵐阪本猛の項

奥村長作

從四位勳四等、大牟田市長

妻　奈加　明一四、一二生、東京、士、中村實粭妹
女　元　明三三、一二生
孫　保　大一三、一二生、長女元長男
太　大一三、一二生、長女元長男

君は新潟縣人奥村彌平の二男にして明治元年八月を以て生れ大正十四年分れて一家を創立す明治三十年東京帝國大學工科大學土木監督署技手となり爾來同技師內務技師兼鐵道院技師富山縣土木技師大阪府技師兵庫縣土木事務囑託名古屋市技師北海土功組合技師等に歷任し昭和三年退官し同四年大牟田市長に推され今日に至る（大牟田市）

奥村猛

從四位勳四等、大牟田市長

妻　まさ　明一二、四生、京都、赤尾幸七三女
女　綾子　明三四、三生

君は京都府人奥村小太郎の三男にして同小次郎同寅次郎の弟なり明治二年十二月を以て生れ同二十五年分れて一家を創立す現時奥村電機商會社長たる外前記各會社の重役たり（京都、左京、岡崎圓勝寺町八七）

参照＝奥村小次郎、奥村寅次郎嵐阪本猛の項

奥村長作

從四位勳四等、大牟田市長

妻　奈加　明一四、一二生、東京、士、中村實粭妹
女　元　明三三、一二生
孫　保　大一三、一二生、長女元長男
太　大一三、一二生、長女元長男

君は新潟縣人奥村彌平の二男にして明治元年八月を以て生れ同十二年家督を相續し前名榮次郎を改め襲名す金物商を營み蠶に奥村本店榮務擔當社員たり事あり家族は尙孫清子（大一三、一生、養子信次郎長女）弟長三郎（明八、四生）ありA一四九〇B一一四（京都、下京、綾小路柳馬場西入ル電下一一三三）

奥村榮同

從四位、男爵、舊金澤藩國老

母　寵　慶應三、一生、石川、士、前田恒敬二女
妻　くら　明二二、一生、富山、金子恕謙二女

當家は奥村助右衛門永福の後なり永福前田利家に仕へ器重せられ其國老となる世々一萬七千石を領し先代榮益に至り明治三十三年特旨を以て華族に列し男爵を授けられ金澤市長別格官幣社尾山神社宮司石川縣皇典講究所長等に擧げらる君は其長男にして明治十九年七月を以て生れ大正十二年家督を相續し襲爵被仰付學習院を經て早稻田大學政治經濟科に學び蠶に金澤市役所に勤務す家族は尙弟純松（明三〇、三生）同妻綾子（同四〇、一〇生、福岡、塚本由太郎長女）及其一子あり叔母從（安政三、一一生）は男爵前田孝先代舊に嫁せり（金澤、主馬町廣丁二一）

参照＝男爵前田孝の項

奥村敏雄

金融業、兵庫縣在籍

養父　忠吉　慶應二、一生、足立吉左衛門長女
養母　きやう　明八、二生、足立吉左衛門長女
妻　あい　明三四、一〇生、養父忠吉三女
男　忠一　大一〇、一生

君は兵庫縣人嘉納彌兵衛の二男にして明治二十八年十月を以て生れ大正九年奥村忠吉の養子となる金融業を營む家族は尙長女鈴子（大一五、九生）養姪光子（同五一生）あり養姉ふき（明二四、五生）は分家し同つる（同

奥村長四郎

金物商、京都府在籍

妻　ミツ　明六、一一生、京都、草野喜兵衛七女
養子　信次郎　明二七、三生、京都、草野源之助三男
婿　屋壽枝　明三五、一一生、養子信次郎妻、京都、齋藤房治郎二女

君は京都府人先代長四郎の長男にして明治三年七月を以て生れ同十二年家督を相續し前名榮次郎を改め襲名す金物商を營み蠶に奥村本店榮務擔當社員たり事あり家族は尙孫清子（大一三、一生、養子信次郎長女）弟長三郎（明八、四生）ありA一四九〇B一一四（京都、下京、綾小路柳馬場西入ル電下一一三三）

奥村榮同（ナルアツ）

從四位、男爵、舊金澤藩國老

母　寵　慶應三、一生、石川、士、前田恒敬二女
妻　くら　明二二、一生、富山、金子恕謙二女

當家は奥村助右衛門永福の後なり永福前田利家に仕へ器重せられ其國老となる世々一萬七千石を領し先代榮益に至り明治三十三年特旨を以て華族に列し男爵を授けられ金澤市長別格官幣社尾山神社宮司石川縣皇典講究所長等に擧げらる君は其長男にして明治十九年七月を以て生れ大正十二年家督を相續し襲爵被仰付學習院を經て早稻田大學政治經濟科に學び蠶に金澤市役所に勤務す家族は尙弟純松（明三〇、三生）同妻綾子（同四〇、一〇生、福岡、塚本由太郎長女）及其一子あり叔母從（安政三、一一生）は男爵前田孝先代舊に嫁せり（金澤、主馬町廣丁二一）

参照＝男爵前田孝の項

奥村敏雄

金融業、兵庫縣在籍

養父　忠吉　慶應二、一生、足立吉左衛門長女
養母　きやう　明八、二生、足立吉左衛門長女
妻　あい　明三四、一〇生、養父忠吉三女
男　忠一　大一〇、一生

君は兵庫縣人嘉納彌兵衛の二男にして明治二十八年十月を以て生れ大正九年奥村忠吉の養子となる金融業を營む家族は尙長女鈴子（大一五、九生）養姪光子（同五一生）あり養姉ふき（明二四、五生）は分家し同つる（同

二六、一生）も亦分家し養妹つる（大三、一生）は其の養子となれり（神戸、東須磨北野二電須磨七五〇）

参照＝嘉納彌兵衛嵐吉田康太郎の項

奥村寅次郎

奥村電機商會、江若鐵道、安部村商事、相互運輸倉庫各穀取締役、九曜商會穀監査役、京都府士族

妻　メイ　明四、九生、京都、士、吉田清義三女
男　武雄　明二八、二生、法學士
男　榮子　明三四、一生、長男武雄妻、工學博士植木平之允三女
婿　富曙子　明三四、七生
男　要　明四一、三生
女　昌子　明四二、六生

君は舊膳所藩士刀劍鑑治奥村小三郎の二男にして同小次郎の弟同猛の兄なり慶應三年七月を以て生れ叔父伊之助の養子となり明治四十五年家督を相續す夙に機械類の製造に志し兄小次郎弟猛と協力し電氣機械の製作なし煙草機械も亦其考案に成る大正七年資本金一千萬圓を以て株式會社奥村電機商會を起し現に其取締役にして傍ら前記各會社の重役を兼ぬ家族は尙六男純男（明四五、三生）孫壽子（大一四、四生、長男武雄二女）同希雄（昭二、一生、同長男）同敬介（同三、一一生、同二男）あり三女文（明二六、二生）は工學博士堀覺太郎弟鹿造に四女千代（同三〇、八生）は奈良縣人阪本猷に嫁し母クニ（天保二、三生、黒川平兵衛二女）四男英雄（明九、一生）は各分家せり（京都、左京、岡崎入江町三六「東京出張所」東京、麹町、丸ビル六階電信局九ノ内六七）

参照＝植木平之允、奥村小次郎、奥村猛、阪本猷の項

奥村內膳

舊金澤藩國老、汽車製造會社技師

祖母　富　安政五、五生、石川、士、不破爲長女
妻　鈴　明三二、一〇生、石川、士、不破爲則三女
男　弘　大一三、八生

當家は金澤藩國老奥村伊豫守永福の男易英の後なり易英前田氏に仕へて功あり其參政に擧げらる其より世々一萬二千石を食み相傳へて先代則英に至り明治三十三年特旨を以て華族に列し男爵を授けらる石川縣學術講習評議員に擧げられ又大澤野開墾配水會社取締役に就任せり君は先代則英の長男にして明治二十七年一月を以て生れ昭和五年襲爵被仰付大正七年東京帝國大學工科大學機械學科を卒業し現に汽車製造會社技師たり家族は尙長女冴子（大一一、一生）弟易則（明三〇、二二生）同妻靜江（同三九、四生、富山、清水直次郎長女）及其一女福雄（同三二、一生）あり姉初枝（同二四、二生）は石川縣人奥村平に嫁ぎ同一四、四生）は石川縣人大阪府人北口猶次郎に同張（同三、一〇生）は石川縣人西山豊洗に嫁し同忖（同一五、五生）は同縣士族奥村安吉の死後養子となれり（大阪、此花、島屋町四〇六）

参照＝嵐男爵横山隆俊嵐象一郎の項

奥村久郎

大正運輸穀取締役會長、東神倉庫穀常務取締役、岐阜縣在籍

妻　照　明一〇、一生、鹿兒島、士、有馬亮吉妹
男　義郎　明三〇、八生、慶大經濟學部出身
婿　ふみ　明三九、九生、長男義郎妻、靜岡鈴木庫太郎二女、金陽會高女出身

君は岐阜縣人田近與九郎の二男にして明治元年三月を以て生れ先代奈齋の養子となり同十九年家督を相續す學校を卒業し三井銀行に入り後東神倉庫會社に轉じ鈴崎神戸大阪各支店長を經て現時其常務取締役にして大正運輸會社取締役會長たり家族は尙孫昭郎（昭三、一一生、長男義郎長男）同和子（同五、五生、同長女）あり長女光子（明三三、一生）は埼玉縣人靜子（同三五、四生）は東京府人法學士齋藤良弼に二女靜子（東京、麹町、下二番町七三電麹九段廣瀨濤に嫁せり（東京、麹町、丸ビル六階電信局一八〇二）

参照＝鈴木庫太郎の項

奥村正人

正五位勳五等、博多魚市場穀取締役、辯護士、福岡縣在籍

妻　シヱ　文久二、四生、福岡、巷原安長衛女
男　正香　明二七、三生
婿　萬龜子　明三七、四生、三男正香妻、福岡佐川茂吉郎四女
孫　華子　大五、七生、亡長男正雄長女

君は福岡縣人奥村源助の二男にして安政三年八月を以て生れ明治七年分れて一家を創立し後前名梅太郎を改む夙に判事となり現時辯護士にして傍ら前記會社の重役たり A一三八（福岡市大名町一ノ五電一五九〇）

奥村政雄

九州送電、三菱海上火災保險、大源鑛業、關東水電、東洋窒素工業、東洋纖布各穀取締役、三菱製理事、熊本縣在籍

妻　靜　明二三、七生、故貴族院議員渡邊廉吉四女
男　純雄　大五、一生

君は熊本縣人奥村平部の三男にして明治十二年十一月を以て生れ大正十一年分れて一家を創立す先是明治三十八年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し現時三菱合資會社理事にして前記各會社の重役を兼ぬ家族は尙二男敏生（大六、一〇生）三男宜彦（同八、一〇生）二女誠子（同一二、八生）あり長女元（同元、九生）は分家せり（東京市外溝谷町櫻丘八一電青山二一六〇）

参照＝嵐赤司鷹一郎嵐佐々木隆興の項

奥村又十郎

福井縣多額納稅者、漁業、福井縣在籍

妻　政　明二六、二生、養父又十郎長女
男　又一郎　明四四、四生
女　シヅノ　大三、五生
女　アヤ　大五、五生

君は福井縣人中村常治の四男にして明治十六年五月を以て生れ奥村又十郎の養子となり後前名兵吉を改め大正十年養弟忠雄方より分れて一家を創立す漁業を營み直接國稅三千六百七十八圓を納め縣下の多額納稅者たり蠶に嶺南銀行取締役たり事あり家族は尙二男忠藏（明四五、七生）三男三郎（大七、七生）四男四郎（同一〇、三生）四女芳子（昭二、八生）あり（福井、三方、北西鄕村）

参照＝嵐中村和三郎の項

奥村三樹之助

横濱市會副議長、横濱商工會議所議員、ジヤパン冷藏製氷穀社長、石炭商、愛知縣在籍

妻　ヤス　明一四、七生、福島、小島幸一叔母
男　透　明三七、六生
婿　千代子　明四〇、一〇生、長男透妻、神奈川田中孝太郎長女

君は愛知縣人奥村松齋の長男にして明治八年一月を以て生れ後前名祖道を改め昭和四年家督を相續す明治二十九年中央大學を卒業し石炭商を營み傍らジヤパン冷

藏製米會社長にして推されて横濱商工會議所議員及横濱市會副議長たり家族は尙三男宏(大三、六生)孫匡子(昭四、二生　長男透長男)妹たま(明一八、三生)あり長女春江(同三六、二生)は廻見島縣人谷山巖に庶子いち(同三二、一二生、生母、東京、福島たね)は三重縣人伊藤助太郎に嫁せりA五四三B二一〇(横濱、中、久保町六三一電長者町二一七〇)

參照＝田中孝太郎、林松次郎の項

奥村安一

妻　ゆき　明一〇、一生、兵庫、廣井伊八長女

男　秀一　明二九、一生

婦　綾子　明三二、九生、長男秀一妻、兵庫石上常藏孫

男　功一　明四〇、二生

女　克巳　明四四、四生

女　靜江　大四、六生

君は兵庫縣人奥村泰藏の二男同敏雄の養叔父にして明治六年五月を以て生れ同三十八年家督を相續す現時前記銀行會社の重役たり家族は尙四女千里(大一一、三生)孫千春(同一二、一生、長男秀一長女)同天(昭三、三生、同二男)あり二男敏一(明三三、八生)養子つる(同一七、一〇生、兵庫、清水秀次郎庶子)は各分家し兄忠吉(慶應二二生)も亦分家し弟昌平(同一四、五生)同妻よしゑ(同一五、一二生、兵庫、太田源藏長女)も亦各其子女を伴ひ分家し長女ちよ(同三七、一一生)は兵庫縣人白川五平長男久雄に妹しま(同一九、一〇生)は同縣人東良松惠門弟庄米に同くら(同二一、一二生)は同縣人南要吉長男英一に嫁せり(兵庫、津名、洲本町)

參照＝奥村敏雄の項

奥村安太郎

妻　ます　明一四、一生、京都、贈從五位井日新助二女、御國土地名社員

男　伊九良　明三四、一生、法學士、文學士、御國土地名社員、佛國巴里留學中

婦　綾子　明三八、若杉保定二女、京都府立第一高女出身

女　千代子　明四二、六生、京都府立第一高女及同校高等科出身

奥村家の祖は代々京都の府下に在り農を營み土地の素封家として知られしが數代前京都市に轉住し金物商を營み子孫相傳ふ當家は其の岐れなり君實は舊淀藩士豐田幹雄の三男にして明治九年八月を以て生れ同三十二年先代伯母つるの養子となり同三十七年家督を相續す同三十六年京都法政大學を卒業し奥村合名會社を創立して滿鮮開發に努力し日露戰役終結後是を廢し各種の事業に力を注ぎ兼ねて京都市政に參與し選ばれて同市會議員となり又衆議院議員に當選す議に衆議院より選ばれ南北支那を視察し日本實業團ミッションとして大正十一十二年歐米並に南米を視察しブラジル獨立百年祭式典に參列す又日出新聞社理事として其經營に當り尙京都區裁判所下京出張所を建築して之に寄進する等幾多の公共事業に盡瘁す現に直接國稅二千五百五十一圓を納め京都府多額納稅者に列し前記各會社の重役にして京都地方裁判所調停委員たり貿勵局より紘章入金銀盃各組下賜せらる南米移民研究神は此世より去る時其他の著述あり家族は尙孫虎三郎(昭二、一生、長男伊九良長男)同茂(同四、一一生、同二男)あり(京都、下京、今熊野南日吉町電祇園八〇)

奥村靖

妻　ぬい　從三位勳二等、檢事、浦和地方裁判所檢事正、奈良縣在籍

男　一彦　明八、八生、京都、士、人見恒民三女

婦　靖彦　明二九、一生、法學士、神戸地方裁判所判事

男　榮道　明三六、二生、長男一彦妻、北海會社員

男　靖彦　明三七、二生、二男靖彦妻、新潟臨港會社員

婦　貞　明三七、一生、法學士

男　富士彦　明三七、一〇生、工學士、三菱長崎造船所技師

男　正彦　明四一、八生、京大法學部在學

男　義彦　明四四、五生

女　ふみ　明四四、一生、法學士、文學士、御國土地名社員、佛國巴里留學中

以て生れ同十五年家督を相續し前名稔吉を改む同二十一年判檢事登用試驗に合格し若松區裁判所判事を經て同二十八年檢事に任じ爾來仙臺區兼同地方裁判所檢事名古屋控訴院檢事松江金澤宇都宮岡山熊本新潟各地方裁判所檢事正に歷補し昭和三年現職浦和地方裁判所檢事正に補せらる家族は尙六男道彦(大三、一二生)七男直彦(同七、三生)孫靖郎(同一四、二生、長男一彦長男)同陽彦(昭四、四生、二男靖彦長男)あり(埼玉、北足立、浦和町地方裁判所內)

奥村米太郎

丸居商店電常務取締役

京都府在籍

妻　ゆう　明二〇、一〇生、京都、廣田利七二女

養子　辰之助　明三七、四生、長女テル夫、滋賀田中藤三郎弟

女　テル　明四一、七生、養子辰之助妻、京都市立第一高女出身

女　フミ　明四四、三生、京都家政高女出身

君は京都府人奥村市兵衛の二男にして明治十三年四月を以て生れ同二十年家督を相續す現時西陣織物商株式會社丸居商店常務取締役たり家族は尙三女トシ(大六、四生)孫貴以子(昭五、一生、養子辰之助長女)あり妹スカ(明一七、二生)は分家し同はな(同二五、七生)は京都府人大島音次郎に嫁し弟武三(同三〇、三生)は分家妹スカの養子となれりA三一八八B八四〇(京都、中京、間之町御池下ル綿屋町五二七電本局五〇一八)

奥村利助

妻　マツ　明三五、六生、福岡、奥村次吉孫

母　ジツ

君は福岡縣人先代利助の二男にして明治二十八年五月を以て生れ大正八年家督を相續し前名利一郎を改む雜貨商を營み現時前記會社の重役を兼ね縣下の多額納稅者たり家族は尙長女裕子(大一三、四生)妹順(明三〇、九生)あり(福岡市麴屋町二七電五四三)

奥山龜藏

福岡縣多額納稅者、中島醬油、奥村商事各重取締役、雜貨商、家主福岡縣在籍

文久三、一〇生、福岡、奥村次吉三女

君は奈良縣人奥村義三郎の長男にして明治元年八月を

妻　千代惠子　明一一、一生、山形、今野龜私生

養子　重次郎　明三四、二生、山形、奥山重右衛門弟

婦　久子　明四三、一二生、山形、菅駿藏長女、養子重次郎妻、

君は山形縣人奥山重右衛門の三男にして明治九年九月を以て生れ昭和三年甥重右衛門方より分れて一家を創立す明治四十年東京帝國大學工科大學土木科を卒業し新潟秋田宮城各縣土木課長に歷任し大正十二年官を辭め實業界に入り現時前記各會社の重役にして衆議院議員に當選する事二回立憲民黨所屬たり(新潟市白山浦町一ノ三三九電三三五〇)

參照＝奥山重右衛門の項

奥山源藏

母　りか　明一八、三生、山梨、中島五郎妹

妻　みよそ　大九、八生

男　源榮　大二、六生

女　壽美江　大五、三生

君は山梨縣人先代源藏の長男にして明治十三年七月を以て生れ同四十三年家督を相續し前名雄作を改め襲名す農業を營み傍ら電氣事業に盡瘁す現時前記銀行會社の重役にして縣下の多額納稅者に列し直接國稅千八百四十一圓を納む弟茂(明二二、三生)同妻なか(同三〇、七生、山梨、中山保兵衛長女)は其一子を伴ひ分家し妹ふき(同二三、四生)は山形縣人中山幸作に同さい(同二六、六生)は長野縣人丸茂福次に同收子(同二九、一〇生)は山梨縣人內田辰喜に嫁せり(山梨、東山梨、春日居村)

參照＝家市川治平の項

奥山源太郎

羽前銀行穂頭取、山形貯蓄銀行、山電工業各穂取締役、山形電氣穂監査役、山形縣士族

妻　きよ　明六、九生、山形、塚原惣左衛門長女

男　源內　明二六、一二生

婦　喜美　明三三、四生、長男源內妻、山形淺黃善吉二女

君は山形縣士族奥山久四郎の長男にして明治四年九月を以て生れ同四十年家督を相續す現時羽前銀行頭取の外前記銀行會社の重役たり曾て荒砥銀行頭取のあり家族は尙孫美代(大九、一生、長男源內長女)同久太郎(同一三、一生、同長男)同逢雄(同一四、一一生、同二男)同綾(昭二、六生、同三女)同正裕(同五、三生、同三男)亡弟賢次妻まん(明一八、一生、山形、梅澤德五郎姪)及其子女竝孫あり(山形、西區馬、東根村)

參照＝家笹島長左衛門家西澤定吉家長谷川平五郎の項

奥山繁一

洋傘商

兵庫縣在籍

妻　八重　明二七、一〇生、兵庫、齋田重吉妹

君は兵庫縣人奥山久造の長男にして明治二十年八月を以て生れ大正十二年家督を相續す洋傘商を營む家族は尙長女孝子(大一五、五生)妹もと(明二七、一一生)弟英次(同三四、三生)同峰次(同三六、三生)あり同甚吉(同三二、三生)は同妻壽子(同三八、一生、兵庫、三島紋平三女)を伴ひ分家せり(神戸、元町通四ノ一二八電三宮二一〇八)

奥山重右衛門

大和村長、山形縣多額納稅者、鳥海電力穂監査役、農業

母　沖代　明七、一二生、山形、加藤副治郎妹

妻　さだ　明三二、四生、山形、佐藤正七郎妹

男　重太郎　大七、一一生

君は山形縣人先代重右衛門の長男にして明治二十八年九月を以て生れ大正十四年家督を相續し前名重五郎を改め襲名す農業を營み直接國稅五千四百十八圓を納め山形縣多額納稅者にして現時大和村長鳥海電力會社監査役に擧げらる家族は尙長女春子(大一四、二生)弟重三郎(明四〇、一〇生)あり叔父龜藏(同九、九生)は分家し弟重次郎(同三四、二生)は其養子となれり(山形、東田川、大和村)

參照＝奥山龜藏家石川長右衛門の項

奥山猛彦

長崎商工會議所議員、大正興業信託穂取締役、長崎電氣軌道會社員

鹿兒島縣士族

妻　キノ　明二四、二生、宮崎、士、橋口對袈裟長女

男　隆一　大四、二生

女　ヒサ　大元、八生

君は鹿兒島縣士族奥山景賢の長男にして明治十一年十月を以て生れ同二十一年家督を相續す同四十年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し現時前記會社の重役にして推されて長崎商工會議所議員たり家族は尙二男繁(大一一、五生)三男陽三郎(同一四、八生)あり妹ツネ(明一六、一一生)は鹿兒島縣人荒田九十郎弟武郷に同ツヤ(同一九、八生)は同縣士族有田秀通に嫁せりA一九三(長崎市西山町二丁目電一八三二)

奥山忠左衛門

福島縣會議員、福島縣多額納稅者農業、福島縣在籍

祖母　ツキ　嘉永三、九生、福島、菅野啓助養母

母　イシ　文久三、八生、祖父忠左衛門長女

妻　ミキ　明二〇、四生、福島、池田吉太郎妹

男　忠雄　明四五、二生

君は福島縣人先代忠左衛門の長男にして明治十二年二月を以て生れ昭和四年家督を相續し前名忠藏を改め襲名す農業を營み福島縣多額納稅者に列し直接國稅二千三百二十八圓を納め推されて福島縣會議員たり家族は尙弟忠七(明三三、三生)同妻その子(同三七、一一生、東京、小山初太郎七女)及其二子あり妹カヤ(同一四、六生)同夫龜治(同九、一生、福島、井上清助弟)及び弟忠次(同一九、九生)同妻せつ(同二三、九生、山形、金田五郎右衛門長女)は各其子女を伴ひ養弟泰助(同二一、一生、福島、立花半七二男)同妻セン(同二八、七生、福島、太宰常藏五女)も亦其一子を伴ひ各分家し弟忠一(同一九、九生)は福島縣人佐藤善右衛門の養子となれり(福島、伊達、藤田町)

參照＝佐藤善右衛門の項

奥山友治郎

石鹼製造業

大阪府在籍

妻　つる　明五、九生、大阪、奥山市松長女

男　喜太郎　明三〇、五生

婦　艷子　明三三、九生、長男喜太郎妻、大阪、井上喜太郎妹

男　鹿之助　明三六、三生

男　鶴松　明四二、一一生
女　タカ　大三、三生

君は大阪府人井上信治郎の四男にして慶應二年三月を以て生れ明治三十二年先代つるの入夫となり家督を相續す石崎製造業を營む家族は尙孫友光（大九、二生、長男喜太郎長男）同健平（同一一、七生、同二男）同美代子（同一五、一二生、同長女）同松雄（昭三、六生、同三男）同富士子（同五、三生、同二女）あり二女タネ（明二七、二生）は大阪府人眞木利三郎長男利藏に三女春（同三九、七生）は同府人世戸悟長男清に嫁し二男龜三郎（同三二、五生）は同府人安達たつに五男楠太郎（同三七、五生）は同府人田附由太郎に各養子となれり（大阪、東成、新喜多町三三一電東五三七四）

參照＝田附楠太郎の項

奥山春枝

兵庫縣多額納稅者、山一證券經監査役、奥山ピルブローカー主
兵庫縣士族
明一四、九生、海軍中將清水得一妹

妻　まさ　大五、一生、甲南高等學校在學
男　春彦　明四二、一〇生、甲南高女出身
女　英子　明四五、五生、甲南高女出身
女　米子

君は舊羽前上山藩士奥山樹太郎の長男にして明治六年三月を以て生れ同九年家督を相續す同二十六年慶應義塾を卒業し日本銀行鴻池銀行等に勤務し同四十二年ビルブローカー業を創設し引續き今日に至れり現に兵庫縣多額納稅者にして前記會社の重役たり閨閥及びゴルフに趣味を有す家族は尙二男正雄（大七、二生）三男三樹（同一〇、五生）あり長女一枝（明三六、七生、神戸女學院出身）は兵庫縣人池田鹿三郎長男保に二女文子（明四〇、一生、神戸聖心女學院出身）は坂野兼通四男清夫に嫁せりA一〇二〇四B一八七六（兵庫、武庫、住吉村反高林一八七六ノ一電御影二〇三五）

參照＝池田鹿三郎、坂野兼通、清水得一の項

奥山義一

正七位勳六等、海軍豫備大尉、川崎汽船經理專務取締役、愛媛縣士族
嘉永三、一一生、愛媛、士、玉田
清倫長女
妻　しずへ　明二四、一一生、愛知、士、兵頭
男　義之　新八養子、東京府立第三高女出身
明四四、四生、英國留學中

女　典子　大五、一生

君は愛媛縣士族故陸軍少將奥山義章の長男にして明治十一年十二月を以て生れ同四十五年家督を相續す同三十七年東京商船學校を卒業し日露の役勃發するや御用船に乘組み勤六等を賜ふ爾來引續き海軍に奉職し日露戰役に從事し其後引續き海軍に奉職し日露戰役に從事し其後引續き海軍に奉職し日露戰役に從事し其後

戸貿易同業組合代議員神戸輸出協會副會頭神戸竹材同業組合長に擧げられ兵庫縣多額納稅者に列す家族は尙養子光郎（大七、七生）ありA一〇五四九B六一六（神戸、住吉通一ノ一電兵庫六五五）

長田種藏

兵庫縣多額納稅者、地家主
兵庫縣在籍
妻　光　明一五、八生、兵庫、馬島松藏長女
養子　吉之助　明三四、一一生、二女稔子夫、奈良、田村藤司四男、法學士、經濟學士
女　稔子　明四一、一〇生、養子吉之助妻
女　喜年子　明四四、五生

君は兵庫縣人岩田彦介の三男にして明治三年三月を以て生れ同二十八年先代とめの入夫となり家督を相續す地家主にして縣下の多額納稅者に列し直接國稅二千四百一圓を納む義に區會議員市會議員所得稅調査委員等の名譽職に擧げらる家族は尙ほ孫俊夫（昭二、七生、養子吉之助長男）あり（神戸、兵庫永澤町三ノ四九ノ一電湊川二〇八四）

長田傳藏

住友銀行穂四貫島支店長
父　庄藏　安政元、一一生、現戸主
繼母　ヨシ　文久元生、山口、堀永字平養母
妻　ウメ　明二三、五生、山口、前田秀吉妹

君は山口縣士族長田庄藏の長男にして明治二十年一月を以て生る夙に下關商業學校を卒業し住友銀行に入り累進して現時同行四貫島支店長たり（西宮、川西町三二）

長田桃藏

奈良電氣鐵道穂專務取締役　東大阪電氣鐵道穂取締役、京都府士族
養父　忠恕　弘化三、一二生　京都、深津理兵衞二男
養母　さち　嘉永五、七生、靜岡、士　黑澤浩二女
妻　ふさ　明八、七生、養父忠恕二女
女　はな　明二七、二生

君は京都府士族梅村疎影の三男にして明治三年八月を以て生れ先代忠恕の養子となり同三十八年家督を相續す夙に日本法律學校を卒業し義に淀町長秋田物產會社長六甲土地北鮮產業各會社取締役に就任し推されて國有財產調査會委員京都鐵馬倶樂部理事長京都府農會長京都府奇產組合聯合會々長等に擧げられ又衆議院議員に當選すること三回現時前記各會社の重役たり二女多喜子（明三〇、四生）は愛知縣人谷川徹三に嫁せりA二七一（京都、久世、淀町池上一二八電三二）

長田義彥

北九州鐵道穂取締役、博多綿穂監査役、博多商工會議所理事
妻　ミツ　明八、一生、養父源六長女
男　朝彥　明四一、九生、松山高商出身　九州水力電氣會社員
嬰　文一　明三、七生、兵庫、柴田新左衞門二女

君は福岡縣人中島長助の二男にして明治七年七月を以て生れ先代源六の養子となり同十二年家督を相續す同二十八年官途に就職し專ら稅務行政に從事し同四十年在官の儘韓國政府財政顧問附に補せられ爾來日韓併合後に至るまで十有四年間朝鮮の鹽務行政に關する諸般の計畫に參與し天日鹽の製造及販賣の實務に從事し朝鮮に於ける天日製鹽事業に貢獻する所勘からず大正九年官を辭し直ちに博多商業會議所書記長に就任す現に同商工會議所理事にして傍ら北九州鐵道會社取締役博多綿會社監査役に擧げらる長女スマ（明三四、三生、仁川高女出身）は大阪府人細倉重透長男重義に嫁せり（福岡市西新町二〇六五電二六〇五）

長部慎三

尼崎電氣鐵道穂監査役、兵庫縣在籍
妻　文子　明三〇、八生、京都、西村治兵衞妹
男　謙吾　大一四、一〇生

君は兵庫縣人長部文治郎の弟にして明治二十四年十二月を以て生れ大正五年分れて一家を創立す明治四十五年大阪高等工業學校造科を卒業し兄文治郎を輔佐して清酒大關の釀造を擔當し傍ら前記諸會社の重役たり義に一年志願兵として入營し陸軍歩兵中尉に進み又阪神國道電車創設の發起人となり之を完成せり家族は尙長女幸子（大一二、七生）二女慶子（昭三、一二生）あり（兵庫、武庫、今津町浦風二電西宮七二七）

參照＝長部文治郎項大阪和三郎項西村齋次郎の項

長部文治郎

從七位、陸軍歩兵中尉、兵庫大同信託、千治商店各穂取締役、寶塚尼崎電氣鐵道穂監査役
妻　トキ　明三〇、八生、京都、西村治兵衞妹
養子　德太郎　昭三、九生、新潟、田中清助妹
男　一郎　大六、四生

君は新潟縣人長部榮吉の二男にして明治二十一年七月を以て生れ大正四年分れて一家を創立す資產家たり家族は尙二男健二郎（大七、一〇生）長女富美（昭四、三生）ありA四七九九四（東京、芝、高輪南町二九ノ二一號電高輪一五三三）

參照＝項長部松三郎の項

長部松三郎

兵庫縣多額納稅者　日本索道穂社長、洛東再整穂取締役、銘酒大關釀造元、酒造業、兵庫縣在籍
妻　トキ　明一二、一〇生、新潟、田中清助二女
養子　德太郎　昭三、九生、新潟、高橋治作甥

君は新潟縣人長部松四郎の長男にして明治三年四月を以て生れ同三十二年家督を相續す同二十五年東京高等商業學校を卒業し營油釀造業を營み傍ら前記銀行會社の重役にして現時新潟縣多額納稅者に列し直接國稅五千八百四十七圓を納む義に長岡商工會議所議員に擧げらる家族は尙養子トヨ（大一一、七生、新潟、高橋治作姪）同シヅ（同一五、一生、同姪）叔母キシ（弘化四、七生）あり弟松四郎（明六、四生）同妻ノリ（同一四、九生、新潟、田中清助四女）は其子女を伴ひ分家し妹ハナ（同一七、三生）は新潟縣人三井田四郎吉長男桂太郎に嫁せり（長岡、千手町）

參照＝項長部庫三郎の項

押小路公知

子爵　舊公卿家
母　方　明二〇、四生、海軍々醫中將鈴木孝之助長女、學習院女學部出身

當家は侍從三條西公勝の二男襲代大納言公晉の後なり公晉別に一家をなし押小路と稱す夫より六代を經て先々代公亮に至り明治十七年子爵を授けらる三男實英其後を嗣ぎ陸軍砲兵中佐に陞任し日露戰役の功に依り功五級を賜ふ君は實英の長男にして大正十年一月を以て生れ昭和二年家督を相續し襲爵仰付けらる家族は尙弟公孝（大一五、八生）伯父實敬（明元、五生）あり從姉菊子（同二八、八生、伯父實敬庶子）は佐賀縣人喜多耕三に嫁せり（神奈川、鎌倉、川口村片瀨二六八七電片瀨一〇七）

參與＝鈴木孝之助項八田善之進の項

押小路忠雄

男爵　舊公卿家
祖母　ふじ　明一二、二生、東京、齋藤錦之助妹

當家は讃岐國の後胤にして代々宮中に仕へ大外記たり六十一世師親に至り明治十二年華族に列し其子師成同十七年男爵を授けらる其子師行師保兄弟相繼ぎ嗣なし男爵鍋島綱磨叔父正四位勳三等鍋島精次郎の三男昌信入つて當家を相續し君其後を享く君は精次郎の二男康磨の二男にして昭和二年一月を以て生れ同三年先代叔父昌信の後を享け襲爵被仰付大々叔母ヨリ子（慶應三、一二生）は男爵鍋島綱磨先代英昌の室にして養叔母縫子（明三八、九生）は久間九郎の養子となり東京府人齋藤穆之助に嫁せり（東京、牛込、二十騎町一九）

參照＝男爵鍋島綱磨、久間九郎、齋藤錦之助項齋藤善八項高橋門兵衞項村林專太郎項渡邊湜の項

押田三郎

從四位勳五等、神電氣穂取締役兼技師長、三重縣在籍
妻　スガ子　明二五、九生、東京、井上哲次郎二女
男　勇雄　大三、九生

君は三重縣士族押田良助の三男にして明治二十年一月を以て生れ同四十五年兄襲方より分れて一家を創立す同四十三年京都帝國大學理工科大學電氣工學科を卒業し遞信管理局技手同技師通信技師逓信局技師兼通信技師等に歷任し後官を辭し現時神電氣會社取締役兼技師長たり大正四年電話機械及交換取扱法研究の爲英米に留學し同十二年歐米に出張せり家族は尙三男正也（大七、一生）長女ふじえ（同一〇、三生）あり二男昇（同五、一生）は山形縣人吉田熊次の養子となれり（東京、麻布、三軒家町二〇電高輪一二三三）

參照＝井上哲次郎、吉田熊次項田邊唯司項三宅秀一の項

押見仁

從五位勳六等、臺灣總督府地方技師、臺南州內務部勸業課長
祖母　安政元、四生、現戸主
繼母　たまえ　明四、八生、東京、士、安井富子養母
妻　アヤ　明二八、九生、宮崎、岩切與平妹
男　有春　大四、一生
女　江　大四、一生

君は福島縣人押見斧次郎の長男にして明治十七年二月を以て生る同四十四年東北帝國大學農科大學農藝化學科を卒業し爾來宮崎縣農事試驗場技師臺灣總督府州技師等を經て大正十三年同府地方技師に任じ臺南州內務部勸業課長に補せらる義に比律賓に出張す家族は尙二女忠子（大六、四生）二男孚（同一二、一生）姉千代（明一三、二生）同夫保太郎（同九、七生、福島、四二、二生）同ノブ（同一〇、五生）は福島縣士族五十嵐助太郎長男久藏に妹レイ（同二二、一〇生）は東京府人信澤ハナ養子金吾に同ヨシ（同二五、二生）は福島縣人木沼吉之助長男儀儀に養姪チイ（同三六、一一生、養兄保太郎長女）は同縣人鈴木福松二男寬二に嫁し養弟嵩（同三四、一生、同二男）は同縣人齋藤穆之助に嫁せり（東京、牛込、二十騎町一九）

參照＝岩切與平項齋藤錦之助項齋藤善八項高橋門兵衞項村林專太郎項渡邊湜の項

鴛淵英雄

從五位勳四等、地方技師、長崎縣警察部衞生課長、長崎縣士族
父　榮八　安政二、一一生、現戸主
母　キク　萬延元、五生、長崎、護山鎭龍二女
男　幹雄　明一九、五生、長崎、士、城喜作二女
女　ケイ　明四二、二生

君は長崎縣士族鴛淵榮八の長男にして明治十一年十月を以て生る同三十四年長崎醫學專門學校を卒業し醫術開業試驗に合格す同三十八年陸軍二等軍醫に任ぜられ長崎縣檢疫委員同縣立長崎娼妓病院長長崎縣技師防疫官兼長崎縣技師に歷任し大正十年長崎縣技師專任となり現時前記の職に在り家族は尙二男政男（大六、一生）三男孝（同八、一〇生）四男茂（同一一、一二生）二女光

押村獎

中國民銀社理事　鳥取縣在籍
父　竹雄　萬延元、六生、現戸主
母　ちよ　慶應二、六生、鳥取、影山啓三郎長女
妻　喜久子　明二二、八生、山口、山本光平妹

君は鳥取縣人押村竹雄の長男にして明治十八年八月を以て生る大正十三年市議に選出され其經營に任じ昭和三年同社を山陰毎日新聞社と改稱し昭和四年二月岡山市中國民報社と合併し同社理事として入社東京駐在となり今日に及ぶ家族は尙女正枝（大九、五生）あり（東京、芝、愛宕町二ノ四一電芝二六三三）

押本重平

明治火災保險穂取締役兼大阪京都各支店長、京都府在籍
妻　明一六、一一生、岡山、片山祐七二女
男　陽一　明四三、一生

君は鳥取縣人押本嘉錄の三男にして明治八年二月を以て生れ大正二年兄藤吉方より分れて一家を創立す明治三十一年東京高等商業學校を卒業し現時明治火災保險會社取締役兼大阪京都各支店長たり家族は尙二男正二（大二、八生）三男恭三（同六、二生）三女三重子（同九、八生）あり長女正子（明三六、一生）は東京府人花和銀吾に二女敏（同三九、一一生）は兵庫縣人市瀨恭夫郎長男元吉に嫁せりA二三七〇（京都、上京、小山大野町七五電西陣一七六四）

鴛淵英雄

從五位勳四等、地方技師、長崎縣警察部衞生課長、長崎縣士族
父　榮八　安政二、一一生、現戸主
母　キク　萬延元、五生、長崎、護山鎭龍二女
男　幹雄　明一九、五生、長崎、士、城喜作二女
女　ケイ　明四二、二生

君は長崎縣士族鴛淵榮八の長男にして明治十一年十月を以て生る同三十四年長崎醫學專門學校を卒業し醫術開業試驗に合格す同三十八年陸軍二等軍醫に任ぜられ長崎縣檢疫委員同縣立長崎娼妓病院長長崎縣技師防疫官兼長崎縣技師に歷任し大正十年長崎縣技師專任となり現時前記の職に在り家族は尙二男政男（大六、一生）三男孝（同八、一〇生）四男茂（同一一、一二生）二女光

子（明二、五生）あり妹タキ（明一五、一生）は長崎縣士族古川啓一郎に同アサ（同二一、一一生）は同縣士族吉野安見に養妹タヲ（同二四、一〇生、長崎、護山眞龍八女）は同縣人藤川良治郎長男市太郎に同ヨシ（同三九、八生、長崎、士、牧山テイ妹）は同縣人松永進に叔母サダ（同八、三生）は同縣士族牧山孝軌に嫁し弟信雄（同一九、一生）は分家し養妹サダ（大一〇、一一生、長崎、岩本惣助妹）は前記古川啓一郎の養子となれり（長崎市東上町五八電六七七八）

愛宕通經

正四位、子爵、陸軍三等主計

妻　茂登子　舊公卿家

男　通基　大一二、一一生

當家は權大納言中院通純の男權大納言通福の後なり通福別に一家をなし家號を愛宕と稱す夫より七代を經て先代通則に至り明治十七年子爵を授けられ侍從に任ず君は通則の男にして明治二十四年四月を以て生れ同四十四年家督を相續し爵位叙仰付大正六年京都帝國大學法科大學政治科を卒業し蘭に安田銀行に勤務せり家族は尚二男通伸（大一五、二生）三男通幸（昭四、八生）弟通英（明三二、八生、工學士）あり姉利子（同二〇、一一生、華族女學校出身）は東京府人山中勇に嫁せり（東京市外品川町南品川宿三ツ木九一八）

參照＝公爵毛利元昭、山中勇爽侯爵醍醐忠重爽子爵戸田忠憲爽男爵小早川四郎爽男爵毛利元良爽西園寺八郎の項

落合嘉五郎

從五位、鐵道局技師、東京鐵道局新橋電力事務所長、山梨縣在籍

妻　まつ

男　嘉雄　大四、九生

君は山梨縣人落合平五郎の長男にして明治十九年八月を以て生れ昭和四年家督を相續す大正二年東京帝國大學工科大學電氣工學科を卒業し身延電燈鐵前電氣各會社主任技術者となりしが後鐵道院に入り同技手を經て大正九年鐵道技師となり工作局電氣課發火臣官房臨時水力電氣課勤務電氣局電力課發電化課勤務を經て鐵道局技師となり東京鐵道局電氣課電力掛長に補せられ昭和三年現職に就任し今日に至る家族は尚兄和太郎（明五、四生、現戸主）同妻チイ（同一九、七生、島根、藤原伊太郎長女）及其子女亡弟清妻チヨ（同二〇、一〇生、島根、安都信松妹）及其子女あり（東京市外武藏野町吉祥寺二五四六）

乙骨五郎

從五位、浦和高等學校教授、東京府在籍

妻　美津子　明三四、五生、岡山、原榮長女

男　清一郎　大一五、一〇生

君は舊幕臣乙骨太郎乙の五男にして同牛二同三郎の弟なり明治二十三年六月を以て生れ昭和三年兄牛二方より分れて一家を創立す大正四年東京帝國大學文科大學英文科を卒業し東京第三中學校教諭第六高等學校教授新潟高等學校教授を經て現職浦和高學校教授に任ぜらる家族は尚長女由紀子（大一一、一生）二男謙二郎（昭四、一生）あり（埼玉、北足立、浦和町浦和高等學校內）

參照＝乙骨三郎、乙骨牛二の項

乙骨三郎

從四位勳四等、東北帝國大學法文學部講師、東京府在籍

妻　千代　明二二、三生、東京、福地金次郎長女

男　英二　大二、七生

女　みち　明四四、二生

君は舊幕臣乙骨太郎乙の三男同五郎の兄にして明治十四年五月を以て生れ昭和三年兄牛二方より分れて一家を創立す同三十七年東京帝國大學文科大學哲學科を卒業し更に大學院に入る同四十一年東京音樂學校教授に任ぜられ現時東北帝國大學法文學部講師たり家族は尚二男俊二（大五、二生）三男昭三（同七、四生）四男逢夫（同一〇、八生）五男明夫（同一四、一二生）あり（東京小石川、大塚辻町一）

參照＝乙骨五郎、乙骨牛二の項

乙骨牛二

從四位勳四等、東京府士族

妻　しゅん　明一七、八生、山形、安東斌妹

男　乙造　明四四、一生

女　きぬ子　大三、三生

君は舊幕臣乙骨太郎乙の二男同三郎同五郎の兄にして明治九年六月を以て生れ大正十一年家督を相續す明治三十六年東京帝國大學文科大學英文科を卒業し同地方函館區同地方東京區同地方裁判所檢事東京控訴院檢事等に歷任せしが後官職を辭し辯護士を開業す家族は尚二男亨二（大五、五生）三女菊枝（同七、一〇生）四女花（同一〇、三生）七叔父養三妻たよ（萬延元、二生、靜岡、士、小島勇妹）あり（東京、牛込、横寺町五八電牛込一〇一一）

參照＝乙骨五郎、乙骨三郎の項

乙竹岩造

從四位勳三等、東京文理科大學教授兼東京高等師範學校教授

東京府士族

嘉永三、一〇生

妻　あい　明二一、一二生、三重、御木本幸吉妹

男　誠　明四三、七生、東京高師附屬中學校出身

女　教子　一〇生、東京女高師附屬高女出身

女　章子　大四、四生、東京女高師附屬高女在學

君は三重縣士族乙竹數男の長男にして明治八年九月を以て生れ同三十一年家督を相續す同三十二年東京高等師範學校文科を卒業す蘭に教育學及び倫理學研究の爲獨佛英米に留學し東京高等師範學校教授文部省視學官等に歷任し現時東京文理科大學教授兼東京高等師範學校教授たり家族は尚三男宏（大九、六生）あり長女淑子（明四一、一二生、東京女高師附屬高女出身）は滋賀縣士族淺岡雄之助長男經濟學士一雄に嫁し弟仲太（同一四、一〇生）は各其妻子を伴ひ分家し同四郎（同二一、六生）は東京府人池永雅之助の養嗣子となり妹貞（同三一、五生）は同府人和田新太郎に嫁せりA三二六（東京、小石川、大塚窪町一電小石川一四七〇）

參照＝乙竹茂郎、御木本幸吉家池田嘉吉家西川虎吉家武藤稻太郎の項

母　タマ　嘉永二、二生、祖父八郎兵衛長女

妻　ユキ　明一九、一二生、新潟、士、渡邊蝶彌三女

男　勇一　明四五、六生、水戸高校在學

君は島根縣人落合八郎兵衛の二男にして明治八年十二月を以て生る同三十六年東京帝國大學文科大學英文科を卒業し同三十九年米國に渡りエール大學にてマスター・オブ・アーツの稱號を得更に英國に遊ぶ第六高等學校教授を經て現時學習院教授たり家族は尚兄和太郎（明五、四生、現戸主）同妻チイ（同一九、七生、島根、藤原伊太郎長女）及其子女亡弟清妻チヨ（同二〇、一〇生、島根、安都信松妹）及其子女あり（東京市外武藏野町吉祥寺二五四六）

乙骨五郎

從五位、浦和高等學校教授、東京府在籍

妻　美津子　明三四、五生、岡山、原榮長女

男　清一郎　大一五、一〇生

君は舊幕臣乙骨太郎乙の五男にして同牛二同三郎の弟なり明治二十三年六月を以て生れ昭和三年兄牛二方より分れて一家を創立す大正四年東京帝國大學文科大學英文科を卒業し東京第三中學校教諭第六高等學校教授新潟高等學校教授を經て現職浦和高學校教授に任ぜらる家族は尚長女由紀子（大一一、一生）二男謙二郎（昭四、一生）あり（埼玉、北足立、浦和町浦和高等學校內）

參照＝乙骨三郎、乙骨牛二の項

乙骨牛二

從四位勳四等、東京府士族

妻　しゅん　明一七、八生、山形、安東斌妹

男　乙造　明四四、一生

女　きぬ子　大三、三生

君は舊幕臣乙骨太郎乙の二男同三郎同五郎の兄にして明治九年六月を以て生れ大正十一年家督を相續す明治三十六年東京帝國大學文科大學英文科を卒業し同地方函館區同地方東京區同地方裁判所檢事東京控訴院檢事等に歷任せしが後官職を辭し辯護士を開業す家族は尚二男亨二（大五、五生）三女菊枝（同七、一〇生）四女花（同一〇、三生）七叔父養三妻たよ（萬延元、二生、靜岡、士、小島勇妹）あり（東京、牛込、横寺町五八電牛込一〇一一）

參照＝乙骨五郎、乙骨三郎の項

乙竹岩造

從四位勳三等、東京文理科大學教授兼東京高等師範學校教授

東京府士族

嘉永三、一〇生

妻　あい　明二一、一二生、三重、御木本幸吉妹

男　誠　明四三、七生、東京高師附屬中學校出身

女　教子　一〇生、東京女高師附屬高女出身

女　章子　大四、四生、東京女高師附屬高女在學

君は三重縣士族乙竹數男の長男にして明治八年九月を以て生れ同三十一年家督を相續す同三十二年東京高等師範學校文科を卒業す蘭に教育學及び倫理學研究の爲獨佛英米に留學し東京高等師範學校教授文部省視學官等に歷任し現時東京文理科大學教授兼東京高等師範學校教授たり家族は尚三男宏（大九、六生）あり長女淑子（明四一、一二生、東京女高師附屬高女出身）は滋賀縣士族淺岡雄之助長男經濟學士一雄に嫁し弟仲太（同一四、一〇生）は各其妻子を伴ひ分家し同四郎（同二一、六生）は東京府人池永雅之助の養嗣子となり妹貞（同三一、五生）は同府人和田新太郎に嫁せりA三二六（東京、小石川、大塚窪町一電小石川一四七〇）

參照＝乙竹茂郎、御木本幸吉家池田嘉吉家西川虎吉家武藤稻太郎の項

乙竹茂郎

資產家

三重縣在籍

妻　きよ　明二三、一一生、東京、荒川巳次長女

男　利清　大七、九生

女　茂子　大四、一生

君は三重縣士族乙竹岩造の弟にして明治十四年十月を以て生れ大正三年分れて一家を創立す明治三十六年東京高等商業學校を卒業し直に横濱正金銀行に入り同行天津大連大阪各支店支配人たりしが昭和五年之を辭す資產家たり家族は尚二女千代子（大一一、七生）三女信子（同一四、五生）三男次郎（昭四、七生）ありA一七八一（東京、四谷、荒木町二七電四谷一六八九）

參照＝乙竹岩造の項

乙部孝吉

正五位勳五等、東京女子高等師範學校教授、岩手縣士族

萬延元、一二生、岩手、士、奈良篤謀姉

妻　トヨ　明二五、八生、岩手、士、川口浩毅三女

男　讓爾　大元、八生

君は岩手縣士族乙部克孝の長男にして明治十六年二月を以て生れ大正六年家督を相續す明治四十一年東京帝國大學理科大學實驗物理科を卒業し同四十一年東京女子高等師範學校教授に任じ現時に至る家族は尚二男俊爾（大四、一生）三男學爾（同六、四生）四男雄爾（同八、九生）五男英爾（同一二、二生）長女明子（昭四、一一生）あり（東京市外杉並町高圓寺四九一）

參照＝家片岡弓八の項

乙竹茂郎

資產家

三重縣在籍

妻　きよ　明二三、一一生、東京、荒川巳次長女

男　利清　大七、九生

女　茂子　大四、一生

君は三重縣士族乙竹岩造の弟にして明治十四年十月を以て生れ大正三年分れて一家を創立す明治三十六年東京高等商業學校を卒業し直に横濱正金銀行に入り同行天津大連大阪各支店支配人たりしが昭和五年之を辭す資產家たり家族は尚二女千代子（大一一、七生）三女信子（同一四、五生）三男次郎（昭四、七生）ありA一七八一（東京、四谷、荒木町二七電四谷一六八九）

參照＝乙竹岩造の項

乙部孝吉

正五位勳五等、東京女子高等師範學校教授、岩手縣士族

萬延元、一二生、岩手、士、奈良篤謀姉

妻　トヨ　明二五、八生、岩手、士、川口浩毅三女

男　讓爾　大元、八生

君は岩手縣士族乙部克孝の長男にして明治十六年二月を以て生れ大正六年家督を相續す明治四十一年東京帝國大學理科大學實驗物理科を卒業し同四十一年東京女子高等師範學校教授に任じ現時に至る家族は尚二男俊爾（大四、一生）三男學爾（同六、四生）四男雄爾（同八、九生）五男英爾（同一二、二生）長女明子（昭四、一一生）あり（東京市外杉並町高圓寺四九一）

參照＝家片岡弓八の項

乙竹茂郎

資產家

三重縣在籍

妻　きよ　明二三、一一生、東京、荒川巳次長女

男　利清　大七、九生

女　茂子　大四、一生

君は三重縣士族乙竹岩造の弟にして明治十四年十月を以て生れ大正三年分れて一家を創立す明治三十六年東京高等商業學校を卒業し直に横濱正金銀行に入り同行天津大連大阪各支店支配人たりしが昭和五年之を辭す資產家たり家族は尚二女千代子（大一一、七生）三女信子（同一四、五生）三男次郎（昭四、七生）ありA一七八一（東京、四谷、荒木町二七電四谷一六八九）

參照＝乙竹岩造の項

乙竹茂郎

資產家

三重縣在籍

妻　きよ　明二三、一一生、東京、荒川巳次長女

男　利清　大七、九生

女　茂子　大四、一生

君は三重縣士族乙竹岩造の弟にして明治十四年十月を以て生れ大正三年分れて一家を創立す明治三十六年東京高等商業學校を卒業し直に横濱正金銀行に入り同行天津大連大阪各支店支配人たりしが昭和五年之を辭す資產家たり家族は尚二女千代子（大一一、七生）三女信子（同一四、五生）三男次郎（昭四、七生）ありA一七八一（東京、四谷、荒木町二七電四谷一六八九）

參照＝乙竹岩造の項

乙部孝吉

正五位勳五等、東京女子高等師範學校教授、岩手縣士族

萬延元、一二生、岩手、士、奈良篤謀姉

妻　トヨ　明二五、八生、岩手、士、川口浩毅三女

男　讓爾　大元、八生

君は岩手縣士族乙部克孝の長男にして明治十六年二月を以て生れ大正六年家督を相續す明治四十一年東京帝國大學理科大學實驗物理科を卒業し同四十一年東京女子高等師範學校教授に任じ現時に至る家族は尚二男俊爾（大四、一生）三男學爾（同六、四生）四男雄爾（同八、九生）五男英爾（同一二、二生）長女明子（昭四、一一生）あり（東京市外杉並町高圓寺四九一）

參照＝家片岡弓八

六生）あり長女愛（明四〇、七生）は陸軍中將淨法寺五郎長男圭に姉さかゑ（同五、六生）は海軍中將川島令次郎に嫁せりA一八四七六（東京市外入新井町新井宿二三七〇電大森七〇四）

參照＝川島令次郎、淨法寺五郎の項

乙部正次郎

從四位勳四等、公證人
三重縣士族

妻　ふさゑ　明二、八生、養父八二郎長女
男　八十彦　明二七、四生、愛知醫學士
嬶　のぶ　明三四、二生、長男八十彦妻、三重、鈴木長三郎妹
女　朝　明三九、八生、岐阜高女出身

君は三重縣士族舊和歌山藩士中村寛夫の二男にして淺野セメント會社技師入谷春彦の兄錦鶏間祇候中村清彦の弟なり明治元年一月を以て生れ先代八二郎の養子となり大正四年家督を相續す明治三十二年東京帝國大學法科大學を卒業し同三十四年判事に任じ鯖來熊谷區浦和區東京區同地方松本區長野地方各裁判所判事長崎控訴院判事鹿兒島區鶴井地方同區御蔵區名古屋區一宮區岐阜區同地方富山區同地方金澤區同地方各裁判所判事高山區兼岐阜區裁判所判事高山區裁判所監督四日市區監督判事等に歴補し現に公證人たり家族は尙孫安子（大九、六生、長男八十彦長女）同秀太郎（同一一、一二生、同長男）あり長女信は三重縣人大西竹藏に二女春（明三五、二生）は愛知縣人外務省囑託（南洋通）杉田祥夫に妹なを（同三七、七生）は大阪府人御厨政治郎に同ゆき（同三八、六生）は三重縣人高松とく愛子淺松に嫁せり（名古屋、中、横三ッ藏町五ノ八電本局一六六七）

參照＝入谷春彦、中村清彦の項

乙宗源次郎

乙宗商店（種）社長、國際セルロイド工業（種）監査役、セルロイドラバー貿易商、大阪府在籍

妻　キヌ　明二三、四生、大阪、笹山梅造二女
男　尙三　大九、一一生
女　妙子　明四五、二生
　　佐智子　大三、五生

君は大阪府人乙宗とくの私生子にして明治十九年五月を以て生れ同二十三年家督を相續すセルロイドラバー貿易商を營み現時乙宗商店社長にして傍ら前記會社の重役を兼ぬ家族は尙三男逢治（大一三、三生）三女高子（同一五、七生）あり養伯母種（明三〇、一〇生、大阪、廣瀨高治二女）は分家し大阪府人三宅保三を迎へり（大阪、南、順慶町通三ノ一〇電長船場四二四）

參照＝廣瀨高治郎西川寅三郎の項

鬼澤英夫

三菱商事（種）漢口支店長
茨城縣在籍

母　とし　慶應元　三生、茨城、小河原賢郎妹
妻　よし　明二四、六生、茨城、士、河井宣彦二女
男　英一　大一五、五生

君は茨城縣人鬼澤俊之助の二男にして明治二十一年九月を以て生れ大正三年家督を相續す明治四十五年東京高等商業學校を卒業し現時三菱商事會社漢口支店長たり家族は尙長女千勢（大九、六生）弟三郎（明二二、九生）同妻ミサチ（同二六、四生、神奈川、保田平之助長女）及其二女あり（中華民國、漢口、第三特別區太平街三菱商事會社支店）

鬼武儀市

鬼武組、土木建築請負業
山口縣在籍

妻　ヒテ　明一八、一〇生、福岡、木龍茂六女
男　りゑ　明二二、三生、東京、瀧澤常次郎二女
　　章　大元、九生

君は山口縣人鬼武太三郎の四男にして明治十七年十二月を以て生る鬼武組と稱し土木建築請負業を營む家族は尙兄伊三郎（明二、九生、現戸主）同妻キク（同元、七生、山口、石光與兵衛三女）及其子女あり兄龍助（同一〇、一二生）は山口縣人內山又之進に甥芳延（同三九生、兄伊三郎三男）は同縣人町田金助に各養子となり姉イヲ（同八、三生）は同縣人沖原多兵衛に嫁せりA二三四六B七二八（大阪、北、中之島四ノ三電話土佐堀二一八七）

帶金悅之助

從五位勳六等、臺灣總督府事務官兼總督官房法務課長兼帝國議會勤務
東京府在籍

妻　りゑ　明二二、三生、東京、瀧澤常次郎二女
男　章　大元、九生

君は靜岡縣人帶金鐵太郎の長男にして明治二十二年二月を以て生れ後分れて一家を創立す大正四年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し檢事に任じ神戸地方裁判所檢事を歴補昭和二年臺灣總督府檢察官兼同總督府事務官に轉任し高等法院臺北地方法院各檢察官を經て臺北地方法院檢察官長に進み同五年同事務官に任ぜられ總督官房法務課長にして兼ねて審議室勤務を命ぜらる家族は尙弟萬吉（明二四、一生）同妻ちか（同二三、五生、東京、新堀よし私生子）及其一子あり（臺北、總督府法務課內）

帶谷吉次郎

帶谷商店、水間鐵道、泉州煉瓦各（種）社長、大阪紡績（種）取締役
大阪府在籍

養父　幸助　安政二、三生、大阪、田中伊右衛門二男、現戸主
養母　かね　文久三、三生、大阪、松浪藤七三女
妻　かう　明一一、三生、養父幸助長女

君は大阪府人帶谷治助の二男にして明治十三年八月を以て生れ同三十一年現戸主幸助の養子となる現に帶谷商店水間鐵道泉州煉瓦各會社社長にして前記會社の重役たり（大阪、泉南、貝塚町）

帶谷傳三郎

大阪府多額納稅者、旭商事（種）社長
別府溫泉土地（種）取締役、大阪株式取引所取引員、大阪府在籍

男　龍一　明二一、九生
養子　道三　明二五、七生、長女秀夫、栃木、山野德一郎弟
　　秀豐　明二八、七生、養子道三妻
女

君は大阪屈指の魚問屋酒井文兵衛の二男同猪太郎の兄にして杉本又三郎の養兄なり元治元年二月を以て生れ明治十一年絕家帶谷家を再興す夙に株式界に投じ現時大阪株式取引員にして傍ら前記各會社の重役を兼ね大阪府多額納稅者たり家族は尙孫てい（大一五、四生、養子道三長女）あり（大阪、東、北濱二ノ二〇電長本局一三二〇）

參照＝酒井猪太郎、杉本又三郎、濱井上藤三郎の項

澤潟久富

從七位、三重縣會議員、合同瓦斯（種）取締役、三重縣士族

妻母　はま　嘉永四、一一生、養祖父伊織長女
妻　よれ　明元、二生、養父久信長女
男　久孝　明二三、七生、正六位、文學士、東京大助教授

嬶　靜子　明三〇、三生、長男久孝妻、鹿兒島、竹內喜三郎長女
男　久敬　明三七、八生、文學士、京大大學院在學
男　久澄　明四〇、九生、京大法科在學

君は三重縣士族天野彌兵衛の三男にして慶應二年八月を以て生れ先代久信の養子となり明治二十一年家督を相續し前名慶造を改む神宮に奉職する事十數年大正元年職を辭し同年宇治山田市會議員同副議長に擧げらる同五年再選議長に就任し同十三年宇治山田市長に推され後三重縣會議長となりしも現時三重縣會議員たり長女しつ（明二九、一一生）は三重縣士族林宗右衛門長男醫學士香に二女しげ（同三四、一二生）は同縣猿田彦神社社主宇治土公貞幹に養妹たきの（同四、二生）は同縣士族野間閑彦に嫁し四男久和（同三二、七生、理學士、京大化學研究所勤務）は同縣人中田正朔の養子となれり（宇治山田、中之切町七七）

折井仲三郎

長野縣多額納稅者、信濃鐵道、安曇電氣各（種）取締役、池田鐵道（種）監査役、長野縣在籍

祖母　しう　萬延元、五生、長野、折井邑人二女
母　信　嬶　明一七、八生、長野、折井親信二女
妻　靜子　明三七、一二生、京都、長瀨牛次郎五女
男　正澄　昭四、八生

君は長野縣人折井政之丞の長男にして明治三十二年十二月を以て生れ昭和三年家督を相續す現時信濃鐵道會社取締役たる外前記各會社の重役にして縣下の多額納稅者に列し直接國稅二千五百五十七圓を納む家族は尙長女惇子（大一四、四生）弟貞巳（明三六、八生）同勳（同三九、二生）同正溫（大元、八生）妹信子（同一〇、四生）あり（松本、白板三一七）

參照＝長瀨牛次郎の項

折居忠三

大倉洋紙店（種）取締役、小田原製紙（種）監査役、東京府在籍

妻　いね　明二四、一〇生、東京、山本榮作妹
女　利子　大四、一生

君は新潟縣人折居忠平の二男にして明治二十年五月を以て生れ大正三年兄忠助方より分れて一家を創立す現に前記各會社の重役たり家族は尙養子靜子（大一二、一生、東京、渡邊隆平三女）ありA二〇〇〇（東京市外澁谷町大山一三電青山五〇七）

折田有彦

正五位勳五等、宮內事務官、朝香宮附、京都府士族
安政二、一〇生、鹿兒島、尾上喜之介四女

妻　サト　明二四、一一生、岡山、佐伯利隆長女
男　匡行　大五、九生
女　澤子　大三、四生、聖心女子學院在學

君は京都府士族折田彦市の三男にして明治十六年十二月を以て生る同四十年京都帝國大學を卒業し文官高等試驗に合格す爾來京都府書記官京都府事務官加佐郡長同相樂郡長等を歴任し大正六年宮內事務官に任じ朝香宮附を命ぜられ今日に及ぶ家族は尙兄有恒（明一二、五生）同妻クメ（同二四、二生、福岡、牛島航妹）及其子女同有倫（同一四、九生）同妻ユキ（同二〇、二生、鹿兒島、永井省三二女）及其子女弟有義（同二四、一〇生）同妻てるい（同三〇、一〇生、長野、土屋亮一姉）及其四子同有信（同二六、三生）同妻初枝（同三六、一〇生、京都、栗山彌一郎長女）あり同有忠（同二七、四生）は分家せり（東京、芝、高輪南町一七電高輪六八四）

參照＝牛島航の項

折竹錫

正五位勳五等、第三高等學校教授
京都府士族

妻　美津　明二三、五生、茨城、駒城吉光二女
男　信　大五、一一生

君は舊松本藩士折竹嘉鋭の長男にして明治十七年一月を以て生れ大正五年家督を相續す明治四十一年東京帝國大學文科大學佛文學科を卒業し陸軍教授に任じ大正五年第三高等學校教授に任ぜられ佛獨各國に留學し歸朝後引續き其任にあり家族は尙長女睦子（大一五、一生）妹しづ（明三〇、六生）弟順（同三五、五生）あり（京都、左京、淨土寺南田町一七三）

折戸善八

新潟縣多額納稅者、機業並吳服商
新潟縣在籍

妻　りツ　明五、一生、養父善八長女
男　善治　明二六、一一生
　　マン　明三二、一〇生、長男善治妻、新潟、石田友吉妹

君は新潟縣人栗山文吉の二男にして明治三年十一月を以て生れ先代善八の養子となり同二十九年家督を相續し前名文次郎を改め襲名す機業並に吳服商を營み直接國稅二千六百二十七圓を納む縣下の多額納稅者たり家族は尙孫善之輔（大一〇、一生、長男善治長男）同睦男（昭二、八生、同二男）同善衛（同五、六生、同三男）あり（新潟市東堀通六番丁電七三四）

參照＝石田友吉の項

折原清市郎

兩羽電氣（種）取締役、尾花澤鐵道（種）監査役、山形縣在籍

母　モツ　安政三、九生、山形、梶川理助二女
妻　トノ　明一二、九生、山形、齋藤吉治二女
男　精一　明三二、九生
　　齋藤吉治孫
嬶　ミヨノ　明三七、一生、長男精一妻、山形
男　捷三　明三八、七生

君は山形縣人折原清右衛門の長男にして明治八年九月を以て生れ同二十七年家督を相續す現時前記各會社の重役たり家族は尙五男事吉（大三、三生）孫キヨエ（同一四、一一生、長男精一二女）同スミ子（昭三、一生、同三女）同惠子（同五、三生、同四女）あり二男仲市（明三五、八生）は山形縣人近藤定治に四男貞治（同四二、一生）は同縣人西塚鶴吉に弟仲治（同一九、七生）は同縣人笹原喜三郎に各養子となり長女ムラエ（同四四、一〇生）は同縣人小關宏に妹ツルヨ（同一一、一一生）は同縣人原田他人太長男善藏に嫁せり（山形、北村山、玉野村）

折原巳一郎

從三位勳二等、元衆議院議員
群馬縣在籍

妻　かく　明七、一〇生、東京、落合卯兵衛二女
男　泉　明三一、七生、東京區兼同地方裁判所檢事
　　菊代　明三七、一一生、長男泉妻、前衆議院議員、磯部尙四女、東京女學館出身
嬶

折原家は群馬縣下に於ける舊家にして世々庄屋役を勤め名字帶刀を許されたる家柄なり先代逸太郎は穗々の公共事業に盡瘁し晩年に至るまで永く村長の職に在り又縣會議員に擧げらる君は其長男にして明治二年八月を以て生れ大正二年家督を相續す先是明治二十九年帝國大學法科大學を卒業し文官高等試驗に合格す爾來愛媛靜岡和歌山各縣參事官大阪滋賀福岡各府縣事務官兵庫縣內務部長奈良鳥根千葉兵庫各縣知事等に歴任す大

正十三年神戸市より推されて衆議院議員に當選せり家族は尙孫美喜（大一五、六生、長男泉長女）同續（昭二、五生、同二女）同知（昭五、五生、同三女）あり（千葉市千葉七二電三一七）
參照＝礒部尙冢林忠雄の項

恩賀太一郎　日清製粉㈱取締役、三省不動產㈱監査役、和歌山縣在籍
明二一、一〇生、和歌山、中野鍵藏姉
妻　英子
男　正勝　大二、九生
女　幸子　大四、二生
君は和歌山縣人恩賀定一郎の四男にして明治十七年十二月を以て生れ同四十四年兄國太郎方より分れて一家を創立す同四十二年東京高等商業學校を卒業し現時前記各會社の重役たり家族は尙二男正雄（大七、七生）五女節子（同九、八生）六女定子（同一一、九生）三男勉（同一三、九生）ありA二四四〇（東京、本郷、西片町一〇にノ四一電小石川一八三〇）
參照＝冢鈴木續次の項

恩田久兵衛　地主　東京府在籍
明一三、二生、埼玉、森田又次郎妹
妻　とめ　明三二、六生
男　久治　明三八、七生、長男久治妻、東京
婦　婦美　岡本半七六女
君は東京府人恩田久右衛門の長男にして明治七年三月を以て生れ同十六年家督を相續す地主たり家族は尙孫久亂子（大一四、一生、長男久治長男）同喜久代（昭三、一二生、同長女）ありA二四七八（東京、本郷、湯島三組町二九電下谷一六二〇）

恩田金次郎　相撲屋、酒類商　東京府在籍
妻　かね　明三、九生、東京、瀧澤愼八郎妹
男　禮二　明二四、六生
婦　榮　明三一、九生、長男禮二妻、東京林小兵衛妹
男　五郎　明三〇、一〇生
婦　きよ　明三七、四生、四男五郎妻、東京堅川權司妹
男　喜之助　明三一、一〇生
婦　滿津　明四〇、三生、五男喜之助妻、東京、恩田龜治二女
女　ふく　明三三、一生
女　幸子　明四五、一生
君は東京府人森田桝藏の弟にして慶應元年八月を以て生れ先代金兵衛の養子となり同二十一年家督を相續す相模屋と稱し酒類商を營む家族は尙孫齋美子（大一〇、一二生、長男禮二長女）同宗夫（昭二、六生、同三男）同忠行（同四、一一生、同四男）同泰好（大一五、五生、四男五郎長女）同陽子（昭二、一一生、同二女）同敦子（同四、九生、同三女）同文江（同四、二生、五男喜之助長女）ありA二四七一（東京、本郷、西片町五郎養子隆義に緣し四女あり（明二二、一生）は東京府人沼田辰須賀房治郎養子三津藏の養子となれり（東京、淺草、北田原町四電淺草二七五三）
參照＝林小兵衛冢芝田徹心冢森岡銓一郎の項

恩田熊壽郎　大連市會議長、ツバメ自動車、大連株式信託各㈱代表取締役　鳥取縣在籍
妻　リイ　明六、四生、新潟、本間六四郎二女
男　明三一、九生
婦　明二九、一一生、長男明妻、兵庫福島藤太郎長女
男　ふい　明三五、一一生
女　キヨ　明四四、六生
君は鳥取縣人恩田眞吉の長男にして慶應三年一月を以て生れ明治三十六年家督を相續す同二十三年中央大學を卒業し現時ツバメ自動車會社代表取締役の外前記會社の重役にして大連市會議長たり家族は尙孫君子（大一二、七生、長男明長女）同俊（同一四、三生、同長男）同昭（昭二、三生、同二男）同禮（同四、五生、同三男）姉かや（嘉永六、一一生）同まつ（文久三、一生）あり長女ツル子（明四〇、六生）は兵庫縣人福島敏之助に二女ハル子（同四二、三生）は滋賀縣人河合義太郎に嫁せり（大連、東山町七電四九六七）

恩田重信　明治藥學專門學校長　長野縣士族
妻　イエ　明三、二生、新潟、矢野了平二女
婦　養子　經介　明二一、四生、長野、小山保太二男
婦　やい　明二七、五生、養子經介妻、長野三輪德太郎長女
君は長野縣士族恩田時篤の長男にして文久元年六月を以て生れ明治十八年家督を相續す現時明治藥學專門學校長たり家族は尙孫邊夫（大五、三生、養子經介長男）同秋夫（同一三、一一生、同二男）あり妹よし（明六、八生）は分家せり（東京、麴町、山元町三ノ五電九段八一五）

恩田峯次郎　地主　東京府在籍
男　權次郎　明二四、二生
女　ふみ子　大四、七生
君は東京府人恩田權十郎の二男にして文久二年三月を以て生れ明治十五年家督を相續す地主たり家族は尙二女靜江（大七、一一生）二男武（同一〇、四生）三女道江（同一四、二生）養孫達明（同一〇、一一生、長男權次郎養子、分家弟忠治三男）妹はま（明二七、四生）あり同よし（同一三、三生）は東京府人杉村松之助長男桂藏に同いく（同一五、二生）は同府人河野助次郎に姪はつ（同六、六生、亡兄鐵次郎長女）は同府人森川泰次郎に嫁し弟嘉右衛門（同一七、三生）は同府人恩田鐵五郎に同小十郎（同一九、九生）は同府人關口卯之助に各養子となり同忠治（同二二、一二生）同妻はる（同二七、四生、東京、中山刀太郎長女）は其子女を伴ひ分家せり（東京市外西巢鴨町池袋九三五）

恩地伊助　石長綿布整理工場㈱監査役、家主　大阪府在籍
妻　ひで　明二四、一生、大阪、福本龜太郎二女
男　建一郎　大一三、二生
女　まち　明四五、三生
君は大阪府人先代伊助の三男にして明治二十一年三月を以て生れ大正九年家督を相續し前名伊三郎を改め襲名す家主にして石長綿布整理工場監査役たり（大阪、西、南堀江通六ノ二九ノ一電櫻川二九二七）

恩地長次郎　大阪木材相互市場㈱社長、羽田貴金屬店㈱監査役、大阪府在籍
男　好一　明四三、九生
女　光子　大四、一〇生
君は大阪府人恩地長兵衛の長男にして明治十九年五月を以て生れ大正九年家督を相續す現時前記各會社の重役たり家族は尙三女靜子（大九、八生）四女富士子（同一一、七生）あり（大阪、天王寺、勝山通一ノ三三電天王寺六九一）

（※印は姻族關係）

中商工業資金長期融通

擔保　有價證券
工場、市街宅地建物

金額　壹千圓以上

利率　年七分五厘乃至八分
（案内書御申越次第進呈）

普通銀行業務
地方債社債引受

日本興業銀行

本店　東京市麴町區丸の內
日本橋支店　同日本橋區通二丁目
大阪支店　大阪市東區高麗橋
神戸支店　神戸市伸町
名古屋支店　名古屋市中區南長島町

各種財團擔保長期工業金融

東京市日本橋區通り一ノ十一

市內支店
出張所
日本橋、富澤町、通旅籠町、馬喰町、京橋、櫻橋、銀座、新川、麴町、丸之內、日比谷、番町、四谷、新宿、神樂坂、江戸川、神田、岩本町、小川町通、本郷、上野、三ノ輪、淺草、吾妻橋、茅町、本所、押上、向島、芝、金杉、六本木、青山、王子、大塚、池袋、小山、大井、大森、龜戸、瀧野川、惠比壽、日暮里

株式會社　川崎第百銀行

電話　日本橋（24）番　振替口座　同三二〇五

市外支店
出張所
八王子、横濱、辨天通、川崎、名古屋、京都、西陣、二條、三條、四條、五條、出町、伏見、稻荷、大阪、本町、大阪西、堺、神戸、兵庫、岡山、西大寺町、岡山西、福山、廣島、德山、鳥取、所澤、越ヶ谷、千葉、銚子、佐原、佐倉、松戸、船橋、水戸、石岡、七條、桃山、堺町、京橋、市川櫛町

支店所在地

臺灣
基隆 新竹 臺中 嘉義 臺南
高雄 宜蘭 淡水 桃園 南投

內地
屏東 臺東 花蓮港 澎湖島
神戸 大阪 横濱 東京

株式會社 臺灣銀行 臺北

支店所在地

外國
上海 福州 厦門 汕頭 香港
廣東 新嘉坡 スラバヤ
スマラン バタビヤ 孟買
倫敦 紐育

一資本金 壹億圓（全額拂込濟）
一積立金 壹億壹千五百萬圓

横濱市中區南仲通五丁目六拾番地
横濱正金銀行
電話（代表番號 本局 二—三二一一番 代表番號 本局 二—三二三一番）

東京市日本橋區本兩替町二番地
東京支店
電話 日本橋【24】長二六八二番 四五〇番（宿直用） 長二六八三番 代表番號 二三八一番 二三九一番

東京市麹町區丸ノ内一丁目二番地
丸之内出張所
電話 丸ノ内【23】一八四五—九番

支店出張所
大阪 紐育 倫敦 伯林
神戸 桑港 巴里 漢堡
下關 育港 倫敦 古
長崎 孟買 屋布 哈
名 (ロスアンジルス) (アレキサンドリア) 埠
(ヒルスカルツタ) (リオ、デ、ジヤネイロ)
ヒルスカルツタ 哇
ヒルスカルツタ 貢
ヒルスカルツタ 蘭
ヒルスカルツタ 新
ヒルスカルツタ 嘉
ヒルスカルツタ 坡
ヒルスカルツタ 貢
ヒルスカルツタ 漢
ヒルスカルツタ 上
ヒルスカルツタ 海
ヒルスカルツタ 東
ヒルスカルツタ 奉
ヒルスカルツタ 天
ヒルスカルツタ 原
ヒルスカルツタ 春
ヒルスカルツタ 發
ヒルスカルツタ 斯
ヒルスカルツタ 堡
ヒルスカルツタ 林
ヒルスカルツタ 尼
ヒルスカルツタ 香
ヒルスカルツタ 港
ヒルスカルツタ 牛
ヒルスカルツタ 莊
ヒルスカルツタ 連
ヒルスカルツタ 津
ヒルスカルツタ 天
ヒルスカルツタ 拉
ヒルスカルツタ 馬
ヒルスカルツタ 尼
ヒルスカルツタ 北
ヒルスカルツタ 青
ヒルスカルツタ 島
ヒルスカルツタ 長
ヒルスカルツタ 哈
ヒルスカルツタ 爾
ヒルスカルツタ 賓
ヒルスカルツタ 桑
ヒルスカルツタ 育
ヒルスカルツタ 港
ヒルスカルツタ 孟
ヒルスカルツタ 買
ヒルスカルツタ 香
ヒルスカルツタ 港
ヒルスカルツタ 牛
ヒルスカルツタ 莊
ヒルスカルツタ 連
ヒルスカルツタ 津
ヒルスカルツタ 天
ヒルスカルツタ 拉
ヒルスカルツタ 馬
ヒルスカルツタ 尼
ヒルスカルツタ 北
ヒルスカルツタ 青
ヒルスカルツタ 島
ヒルスカルツタ 長
ヒルスカルツタ 哈
ヒルスカルツタ 爾
ヒルスカルツタ 賓

力之部

加々美武夫　正六位、大阪市助役
母　せい　山梨縣在籍
妻　八重　安政元、七生、山梨、小澤爲藏妹
女　明二八、九生、東京、水野專吉二
日本女大出身

君は山梨縣人加々美大三良の二男にして明治二十三年八月を以て生れ大正二年家督を相續す明治四十五年東京高等商業學校を大正四年京都帝國大學法科大學政治科を各卒業し曩に內務事務官となり現時大阪市助役たり家族は尙長女田鶴子（大八、九生）あり姉ちか（明二一、三生）は福井縣人淺田安治郎に妹さだよ（同二八、八生）は東京府人松岡佐一に嫁せりA一〇九四（大阪、東小橋元町一二九電南九〇一）

參照＝家窪田圓平の項

加賀覺次郎　住友銀行經常務取締役、日米板硝子經監査役、東京府在籍
妻　つる　明一四、六生、京都、野村幸太郎妹
男　高朗　明三八、一生
男　英朗　明四四、二生
女　惠子　大三、一〇生

君は東京府人加賀忠七の二男にして明治八年一月を以て生れ同二十九年家督を相續す同三十年東京高等商業學校を同三十一年同校專攻部を各卒業し翌三十二年住友銀行に入り同三十八年歐米視察を命ぜらる同四十年歸朝後同行營業部副長横濱支店支配人神戸支店支配人を經て大正十二年常任監査役に擧げられ昭和二年常務取締役に選任され今日に至り傍ら前記會社の重役たり家族は尙三男清朗（大八、一生）三女愛子（同九、一一生）四男昌朗（同一〇、九生）あり長女夙子（明四一、八生）は三菱倉庫會社員米澤孝治に嫁せり（兵庫、武庫、本山村野寄字七ツ塚六八五電御影三七六）

加賀龜藏　加賀養社長、東京府在籍
妻　千代子　明二三、一生、先々代榮三郎長女
男　孝德　明四〇、九生、經濟學士
女　敏子　明四五、七生

君は東京府人加農忠七郎の弟にして明治十一年三月を以て生れ先代千代子の入夫となり家督を相續す明治三十年慶應義塾を卒業し現時加賀合資會社々長たり家族は尙二男陽次（大四、七生）三男修（同九、七生）三男秀夫（同五、一一生）四男星一（同七、七生）五男修（同一二、九生）あり長女君子（明四二、六生）は醫學士木村茂に嫁せり（東京、麹町、永田町二ノ五八八電銀座三三一九）

加賀慶之助　大阪株式取引所一般取引員、大阪府在籍
妻　貞子　明三五、三生、兵庫、久保平兵衛二女

君は大阪府人加賀正太郎の弟にして明治二十九年七月を以て生れ大正九年分れて一家を創立す慶應義塾大學に學ぶ現に大阪株式取引所取引員にして曩に加賀土地會社監査役たり家族は尙長女和子（大一二、四生）二女淑子（同一三、七生）あり（大阪、天王寺、南河堀町一九電閣本局四七〇一）

參照＝加賀正太郎家助野庄兵衛家野村元五郎家增田政治家山田啓之助の項

加賀正太郎　大阪府多額納稅者、加賀土地會社長、日印通商會取締役
妻　千代子　明二八、九生、大阪、豐田治助姉
大阪府在籍

君は大阪府人加賀市太郎の長男にして明治二十一年一月を以て生れ同三十三年家督を相續す同四十四年東京高等商業學校を卒業し現に前掲會社の重役にして大阪府多額納稅者たり弟慶之助（明二九、七生）は分家し妹キク（同二二、一一生）は大阪府人增田政治に同夏（同二七、七生）は同府人野村元五郎に同富美（同三二、四生）は京都府人山田啓之助に嫁せり（大阪、東、高麗橋筋二ノ五三電本局七四五）

參照＝加賀慶之助、豐田治助、野村元五郎、增田政治、山田啓之助の項

加賀種二　從五位勳六等、舊口商工會議所會頭、舊口水道電氣會社代表取締役
妻　はる　明三一、三生、京都、芝武姉
女　多見　明四四、一一生
女　三枝子　大三、九生
女　澄子　大五、九生

君は熊本縣士族菊池淡水の二男にして明治十二年二月熊本縣士族加賀利堯の長男にして明治十五年七月を以て生れ大正四年家督を相續す農業を營み傍ら前記各會社の重役にして直接國稅一千七百九十二圓を納め縣下の多額納稅者に列し青森縣參事會員たり（青森市以て生れ同三十四年先代千代子の入夫となり家督を相續す明治三十年慶應義塾を卒業し現時加賀合資會社々長たり家族は尙二男陽次（大四、七生）三男秀夫（同五、一一生）四男星一（同七、七生）五男修（同九、七生）四女月子（同一二、九生）あり長女君子（明四二、六生）は醫學士木村茂に嫁せり（東京、麹町、永田町二ノ五八八電銀座三三一九）

加賀慶之助　大阪株式取引所一般取引員、大阪府在籍
妻　貞子　明三五、三生、兵庫、久保平兵衛二女

君は大阪府人加賀正太郎の弟にして明治二十九年七月を以て生れ大正九年分れて一家を創立す慶應義塾大學に學ぶ現に大阪株式取引所取引員にして曩に加賀土地會社監査役たり家族は尙長女和子（大一二、四生）二女淑子（同一三、七生）あり（大阪、天王寺、南河堀町一九電閣本局四七〇一）

參照＝加賀正太郎家助野庄兵衛家野村元五郎家增田政治家山田啓之助の項

加賀豐三郎　東京府多額納稅者、東株代行經取締役、大一商店、東京株式取引所取引員、東京府在籍
妻　ヤツ　明一五、五生、大阪、富士四郎兵衛長女
男　謹一郎　明三五、七生、東大出身
婦　百合子　明四二、一一生、長男蓮一郎妻、飯田藤二郎五女、御茶の水高女出身
男　俊二　明四〇、六生、慶大經濟學部在學
男　行三　明四一、一〇生、東京商大在學
男　淑郎　明四三、一生、學習院高等科在學
女　昌子　明四四、五生、御茶の水高女出身

君は大阪府人加賀定治郎の三男にして明治五年十月を以て生れ同二十八年家督を相續す現時東京株式取引所取引員にして大一商店と號し傍ら前記會社の重役たり又東京府多額納稅者に列し直接國稅五千七百四十五圓を納む長女靜子（明三四、四生、御茶の水高女出身）は大阪府人田中市太郎二男法學士貞藏に二女富美子（同三七、一生、出身校同上）は同府人宗像牛之助長男英一に妹ユキ（同九、一生）は同府人山田平兵衛に嫁し姉アサ（同二、一一生）は分家せり（東京、麹町、下六番町五一電九段五九〇）

參照＝田中貞藏、宗像英一、山田平兵衛の項

加賀豐三郎　東京府多額納稅者、東株代行經取締役、大一商店、東京株式取引所取引員、東京府在籍
妻　ヤツ　明一五、五生、大阪、富士四郎兵衛長女
男　謹一郎　明三五、七生、東大出身
婦　百合子　明四二、一一生、長男蓮一郎妻、飯田藤二郎五女、御茶の水高女出身
男　俊二　明四〇、六生、慶大經濟學部在學
男　行三　明四一、一〇生、東京商大在學
男　淑郎　明四三、一生、學習院高等科在學
女　昌子　明四四、五生、御茶の水高女出身

君は大阪府人加賀定治郎の三男にして明治五年十月を以て生れ同二十八年家督を相續す現時東京株式取引所取引員にして大一商店と號し傍ら前記會社の重役たり又東京府多額納稅者に列し直接國稅五千七百四十五圓を納む長女靜子（明三四、四生、御茶の水高女出身）は大阪府人田中市太郎二男法學士貞藏に二女富美子（同三七、一生、出身校同上）は同府人宗像牛之助長男英一に妹ユキ（同九、一生）は同府人山田平兵衛に嫁し姉アサ（同二、一一生）は分家せり（東京、麹町、下六番町五一電九段五九〇）

參照＝田中貞藏、宗像英一、山田平兵衛の項

加賀秀雄　青森縣參事會員、青森縣多額納稅者、青森新炭鑛取締役、松本屋吳服店、青森木材、五戸電氣鐵道各鑛監査役、農業、青森縣士族
妻　よしな　明一五、五生、東京、高田貞男姉
男　利正　大一〇、五生
女　千枝　明四四、一一生

君は青森縣士族加賀利堯の長男にして明治十五年七月を以て生れ大正四年家督を相續す農業を營み傍ら前記各會社の重役にして直接國稅一千七百九十二圓を納め縣下の多額納稅者に列し青森縣參事會員たり（青森市

橋本五六）
参照＝高田貞男の項

加賀美明　従四位勳四等、判事、横須賀區裁判所判事兼横濱地方裁判所判事　山梨縣在籍
妻　るい　明三、九生、山梨、鈴木ふつ三女
君は山梨縣人加賀美仙松の叔父にして明治二年六月を以て生れ同三十年分れて一家を創立す同二十三年明治法律學校を卒業し辯護士を開業し同三十二年判事に任じ濱松區沼津區靜岡地方同區豊同地方福島長野伊那飯田上田各區東京地方豊同區小田原千葉福島各區裁判所判事に歴補し大正十五年前記現職に轉ず長女たか（明二六、九生）は神奈川縣人内藤愛輔に嫁せり（横須賀、區裁判所内）

加賀美授一　山梨縣多額納税者、盛業銀行、東銀行、山梨共榮各種取締役、農業、山梨縣在籍
母　くら　安政二、一二生、山梨、加賀美伊左衛門二女
妻　富子　明二〇、七生、山梨、八田政恕姉
男　勝之助　明三九、三生
女　美枝子　明四五、三生
君は山梨縣人加賀美東一郎の長男にして明治十年四月を以て生れ大正四年家督を相續す明治三十五年東京帝國大學工科大學應用化學科を卒業し農業を營み傍ら前記銀行會社の重役にして縣下の多額納税者に列し直接國税四千四百四十五圓を納む家族は尚三男三郎（大三、七生）五男敏久（同八、一生）あり妹八十路（明一四、三生）は山梨縣人堀内啓治に嫁せり（山梨、東八代、南八代村）
参照＝八田政恕、堀内啓治の項

加賀谷朝藏　正五位勳四等、靜岡縣書記官、内務部長、東京府在籍
男　精一　大九、六生
女　みち　大四、五生
君は秋田縣人加賀谷長右衛門の二男にして明治十九年十五年東京帝國大學法科大學經濟學科を卒業し新潟縣西頸城同北魚沼同中蒲原各郡長宮城縣理事官警察講習所教授岩手縣警察部長皇宮警察長皇宮内事務官等に歴任昭和四年靜岡縣書記官に任じ内務部長に補せらる家族は尚二女ゆう（大七、三生）あり（靜岡縣内務部長官舍電三七一）

加賀谷圓右衛門　秋田縣多額納税者、吳服商　秋田縣在籍
養母　イシ　安政三、三生、秋田、石川市五郎長女
男　勇之助　明二八、一生
婿　ノブ　明三七、三生、長男勇之助妻、秋田、佐野八五郎妹
男　順次郎　明三二、三生
婿　桃子　明三九、四生、二男順次郎妻、秋田、田中敬助二女
君は秋田縣人石田豐三郎の弟にして佐々木新造の叔父なり明治四年三月を以て生れ先代圓右衛門の養子となり同三十五年家督を相續し前名桃八を改め襲名す吳服商を營み縣下の多額納税者に列し直接國税四千七百七十九圓を納む雇に横手織物會社取締役たりし事あり家族は尚亡養弟鐵藏妻ユキ（明二一、一二生、秋田、士、石田雄次郎妹）及其子女あり長女イヨ（同二五、一生）は秋田縣人佐野八五郎二男良太郎に二女マチ（同三三、一生）は同縣人富岡常吉孫辰四郎に三女マチ（同三五、八生）二生）は同縣人大井直之助に四女セツ（同三五、八生）は同縣人京野兵右衛門に五女マサ（同三八、四生）は廣島縣人田宮知雄に養妹ヤエ（同二一、七生）は秋田縣人石田豐三郎長男新太郎に同ミチ（同二五、一二生）は同縣人猪股謙二郎弟修二郎に嫁し養弟健藏（同二三、五生）北海道人最上谷慶次郎の養子となれり（秋田、平鹿、横手町）
参照＝猪股謙二郎の項

加賀谷四郎　富山縣多額納税者、中越銀行種取締役、農業、富山縣在籍
妻　ふさ　明六、七生、石川、奥野佐三右衛門妹
男　久孝　明三二、七生
男　良江　明三六、三生、二男久孝妻、石川奥野佐三右衛門六女
婿　重治　明四三、五生
君は富山縣人加賀谷四郎三郎の長男にして明治四年三月を以て生れ同三十九年家督を相續し農を營み傍ら前記銀行の重役にして直接國税二千五十二圓の多額納税者たり義に米谷銀行坂海銀行の重役たりし事あり家族は尚孫弘子（大一二、七生、二男久孝長女）

（※印は姻族關係）

族は尚二女ゆう（大七、三生）あり（秋田縣多額納税者、吳服商　秋田縣在籍）

養母　イシ　安政三、三生、秋田、石川市五郎長女
男　勇之助　明二八、一生
婿　ノブ　明三七、三生、長男勇之助妻、秋田、佐野八五郎妹
男　順次郎　明三二、三生
婿　桃子　明三九、四生、二男順次郎妻、秋田、田中敬助二女
君は秋田縣人石田豐三郎の弟にして佐々木新造の叔父なり明治四年三月を以て生れ先代圓右衛門の養子となり同三十五年家督を相續し前名桃八を改め襲名す吳服商を營み縣下の多額納税者に列し直接國税四千七百七十九圓を納む雇に横手織物會社取締役たりし事あり家族は尚亡養弟鐵藏妻ユキ（明二一、一二生、秋田、士、石田雄次郎妹）及其子女あり長女イヨ（同二五、一生）は秋田縣人佐野八五郎二男良太郎に二女マチ（同三三、一生）は同縣人富岡常吉孫辰四郎に三女マチ（同三五、八生）二生）は同縣人大井直之助に四女セツ（同三五、八生）は同縣人京野兵右衛門に五女マサ（同三八、四生）は廣島縣人田宮知雄に養妹ヤエ（同二一、七生）は秋田縣人石田豐三郎長男新太郎に同ミチ（同二五、一二生）は同縣人猪股謙二郎弟修二郎に嫁し養弟健藏（同二三、五生）北海道人最上谷慶次郎の養子となれり（秋田、平鹿、横手町）
参照＝猪股謙二郎の項

加賀谷長兵衛　秋田縣多額納税者、秋田市參事會員、秋田商工會議所議員、秋田銀行種副頭取、秋田貯蓄銀行、羽後銀行各種取締役、金融業　秋田縣在籍
母　タカ　慶應二、七生、秋田、士、湊喜右衛門三女
男　祐治　明四三、五生
女　ミエ　大三、二生
女　ミチ　大五、二生
君は秋田縣人先代長兵衛の長男にして明治十七年一月を以て生れ大正十三年家督を相續し前名金治を改め襲名す金融業を營み傍ら前記銀行の重役に擧げられ直接國税一萬二千四百五圓を納め秋田縣多額納税者たり現に秋田市參事會員秋田商工會議所議員に選ばるる家族は尚二男慶治（明四五、七生）三女キミ（大七、四生）四女ノブ（同九、九生）弟誠治（明二三、八生）同妻イツ（同三〇、七生、秋田、田中虎次郎二女）及其子女同富治同彦城（同一五、一生、同二男）同久男（昭四、三生、同三男）あり二女あやの（明二七、四生）は富山縣人坂田秋生に妹くみ（同七、五生）は同縣人島田長四郎に嫁し四男城二（同三七、七生）五男信一（同四〇、二生）は各分家せり（富山、西礪波、埴生村）
参照＝坂田秋生、河合未吉、槻三次郎の項

加賀谷眞一　第一銀行種函館支店支配人　愛媛縣在籍
妻　琴子　明二六、一二生、千葉、宮田光妹
男　誠一　大七、九生
女　慶子　大四、一二生
君は愛媛縣人加賀谷好太郎の長男にして明治十八年二月を以て生れ同二十五年家督を相續す同四十五年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し夙に第一銀行に入り札幌支店支配人を經て現時同行函館支店支配人たり義に推されて札幌商業會議所特別議員たりし事あり家族は尚二女直子（大一〇、八生）二男有二（昭三、一生）弟馨（明三〇、四生）あり姉シゲ（同一五、九生）は大阪府人岡金藏に伯母マツ（嘉永六、三生）は大分縣人内田今朝治に嫁し叔父宗治郎（元治元、一生）同妻チエ（明七、一二生、愛媛、住本長吉姉）は其子女を伴ひ分家し同和一郎（同四、二生）も亦分家し甥甫（大一〇、三生、弟馨庶子）は前記姉シゲの養子となれりA二〇一（函館、曙町一ノ一電一三七七）

加賀谷長兵衛　秋田縣多額納税者、秋田市參事會員、秋田商工會議所議員、秋田銀行種副頭取、秋田貯蓄銀行、羽後銀行各種取締役、金融業　秋田縣在籍
母　タカ　慶應二、七生、秋田、士、湊喜右衛門三女
男　祐治　明四三、五生
女　ミエ　大三、二生
女　ミチ　大五、二生
君は秋田縣人先代長兵衛の長男にして明治十七年一月を以て生れ大正十三年家督を相續し前名金治を改め襲名す金融業を營み傍ら前記銀行の重役に擧げられ直接國税一萬二千四百五圓を納め秋田縣多額納税者たり現に秋田市參事會員秋田商工會議所議員に選ばるる家族は尚二男慶治（明四五、七生）三女キミ（大七、四生）四女ノブ（同九、九生）弟誠治（明二三、八生）同妻イツ（同三〇、七生、秋田、田中虎次郎二女）及其子女同富治

（同二六、七生）同妻淑子（同三六、一〇生、島根、荻野慎治郎妹）及其二子同恒治（同二八、八生、早大政治經濟科出身）亡叔父忠治妻ヨシ（同一八、八生、秋田、加賀谷源右衛門四女）あり叔母ミサ（同一一、三生）は秋田縣人本間金之助養子永助の末亡人にして妹シナ（同三二、一一生）は同縣人佐藤清十郎二男清治に從妹キヨ（同三八、二生、亡叔父長治長女）は同縣人西島謹一に嫁し亡叔父長治妻リセ（同九、一一生、秋田、高桑耕造長女）は其子女を伴ひ分家せり（秋田市川口町）
参照＝本間金之助の項

加賀谷富太郎　四十八銀行種取締役　秋田縣在籍
男　信吉　明二八、六生
婿　律　明三一、九生、長男信吉妻、秋田寺田隆造長女
養子　文治郎　明三二、二生、二女アキ夫
女　アキ　明三八、八生、養子文治郎妻
君は秋田縣人福田甚助の二男にして明治五年八月を以て生れ先代富太郎の養子となり同三十八年家督を相續し前名農之助を改め襲名す現時四十八銀行取締役たり家族は尚庶子たか（大一一、二生、生母、石川テツ）孫國太郎（同六、四生、長男信吉長男）同さき（同八、一〇生、同長女）同廣（同一〇、八生、同二男）同玄三（同一二、一一生、同三男）同とし（同一五、二生、同二女）同しづ（昭五、四生、同三女）同みを（大一五、一〇生、養子文治郎長女）同れい（昭三、一〇生、同二女）あり長女ツネ（明三三、二生）同夫勝治（同二八、六生、秋田、小松運太郎四男）は其一男一女を伴ひ分家せり
A九〇〇（秋田市上肴町）
参照＝家板谷五郎左衛門、滝片野重倫の項

加賀山辰四郎　正五位勳三等、農學博士、帝國蠶絲種學務取締役、帝國蠶絲倉庫種取締役、福井縣士族　明一〇、一生、兵庫、士、金澤一郎姉
妻　やす　明三〇、二生
男　一　明三五、八生、長男一妻、香川、小西和長女
婿　靜子
男　次雄　明三四、八生
男　信三　明三七、七生

君は秋田縣士族加賀山乙の長男同辰四郎の甥にして明治十四年九月を以て生れ同三十九年家督を相續し同三十八年東京帝國大學工科大學土木工學科を卒業し山陽鐵道株式會社に入り技師となり墨年鐵道作業局雇に轉じ後技師に進み大正九年鐵道局技師に任ぜられ神戸鐵道局工務課長名古屋鐵道局工務課改長掛長となり後鐵道技師に任じ國府津改良事務所長を經て現時鐵道省工務局長にして昭和四年支那政府に召聘せられ中華民國鐵道顧問たり家族は尚二男圓雄（大六、二生）三男明雄（同八、二生）四男外與雄（同一〇、八生）五男朝雄（昭元、一二生）四女恒子（同一三、八生）弟外雄（明二八、四生、海軍少佐、鳴門運用長）同妻幸子（同三八、一一生、神奈川、武井延平東京鐵道局勤務）叔父勇（同六、九生）同妻政恵（同二四、二生、栃木、飯島牛右衛門姪）及其二男あり妹貞（同一九、三生）は東京府人岡田啓介弟寡又に同ちよ（同二〇、四生）は福井縣人宮澤由左衛門弟一宮女學校長錦雄に同きく（同二二、一〇生）は同縣人石田嘉隆に同辰尾（同二五、一生）は兵庫縣人佐藤秀廣二男工學士滿鐵技師恕一に同僑（同三一、二生）は栃木縣人高田廣作に叔母けん（同一五、七生）は京都府人竹井貞太郎に嫁し叔父鴻三郎（文久元、九生）は千葉縣人岡田豐の養父たり（東京市外中野町文園二）
参照＝石田嘉隆、岡田啓介、岡田豐、加賀山辰四郎、家田邊良忠の項

加賀山安太郎　酒田運送種社長　山形縣士族
祖母　源　天保七、二生、山形、富田嘉右衛門長女
妻　小貞　明三一、四生、山形、饒孫太郎三女
男　安正　大四、一生
女　元子　大元、九生
君は山形縣士族加賀山安規の長男にして明治十九年十一月を以て生れ同二十九年家督を相續す現に酒田運送會社長たり家族は尚二女美佐子（大七、八生）三女鶴子（同一〇、二生）二男寛（同一三、六生）四女節子（昭二、四生）の外弟又三郎（明二七、一一生）同妻ハル（同三八、三生、北海道、安藤五右衛門長女）及其子女あり姉兼（同一七、四生）は山形縣人中世古元一に妹仲（同二五、四生）は同縣人太田久範に嫁せり（鶴岡、家中新町）

加賀山學　従四位勳三等、鐵道省工務局長、中華民國鐵道顧問、福井縣士族
祖母　かね　天保一二、三生、福井、士、大久保才長衛二女
母　るや　安政六、八生、福井、士、田邊良顯二女
妻　素　明二二、五生、京都、士、星野元彦長女、京都府立第一高女出身
男　敏雄　大三、九生
女　之子　明四四、七生、東京府立第五高女出身
女　彰子　大元、一生、東京府立第五高女
君は福井縣士族加賀山乙の長男同辰四郎の甥にして明治十四年九月を以て生れ同三十九年家督を相續し同三十八年東京帝國大學工科大學土木工學科を卒業し山陽鐵道株式會社に入り技師となり墨年鐵道作業局雇に轉じ後技師に進み大正九年鐵道局技師に任ぜられ神戸鐵道局工務課長名古屋鐵道局工務課改長掛長となり後鐵道技師に任じ國府津改良事務所長を經て現時鐵道省工務局長にして昭和四年支那政府に召聘せられ中華民國鐵道顧問たり家族は尚二男圓雄（大六、二生）三男明雄（同八、二生）四男外與雄（同一〇、八生）五男朝雄（昭元、一二生）四女恒子（同一三、八生）弟外雄（明二八、四生、海軍少佐、鳴門運用長）同妻幸子（同三八、一一生、神奈川、武井延平東京鐵道局勤務）叔父勇（同六、九生）同妻政恵（同二四、二生、栃木、飯島牛右衛門姪）及其二男あり妹貞（同一九、三生）は東京府人岡田啓介弟寡又に同ちよ（同二〇、四生）は福井縣人宮澤由左衛

加川直吉　宮城縣多額納税者、仙臺信託、昭和土地各種取締役、金融業　宮城縣在籍
妻　よう　明一九、六生、宮城、高山善右衛門長女
男　友吉　明四三、一〇生
女　りう　明四一、六生
君は宮城縣人湯村信次郎の長男にして明治十一年五月を以て生れ加川直助の養子となり大正五年家督を相續す金融業を營み傍ら前記諸會社の重役に擧げられ直接國税三千八十九圓を納め縣下の多額納税者たり家族は尚二男幸吉（大元、九生）三男三郎助（同三、九生）四男辰四郎（同五、六生）二女つた（同七、一一生）五男渉（同一〇、三生）三女則（同一二、一〇生）六男昌（昭三、三生）あり（宮城、伊具、角田町）

加來米太郎　豐中製絲種常務取締役　大分縣在籍

妻　リウ　明一二、二生、福岡、久米彌太郎長女
男　一太郎　明三二、九生
男　一太郎妻、大分
婦　常子　明三九、八生、町所除籍四女

君は大分縣人加來萇四郎の長男にして慶應三年九月を以て生れ明治十六年家督を相續す現時豐中製絲會社常務取締役にして義に豐州信託會社取締役中津運輸會社監査役たり家族は尙三男正巳(大三、一一生)四男甚三郎(同五、一生)五男哲夫(同八、一〇生)弟寅藏(明一一、三生)同妻タツ(同二一、九生、大分、士、荒尾イク)及其子女あり長女マサ(同三七、八生)は大分縣人佐藤弘に二女トミ(同三九、九生)は福岡縣人濱田左右一に嫁し姪ヒサ(大元、八生、弟寅藏長女)は大分縣人荒尾シンの死跡を相續ぜり(中津、五五〇電三九)

加計正文

妻　園枝　廣島縣多額納稅者、三條商事、昭和興業各穂取締役、廣島縣在籍
妹　明二一、三生、岡山、長尾俊熹養
男　慎太郎　明四四、四生

君は廣島縣人加計八右衛門の長男にして明治十四年二月を以て生れ大正六年家督を相續す明治三十九年第六高等學校一部甲類を卒業し現に前記諸會社の重役にして廣島縣多額納稅者に列し直接國稅二千七十圓を納む家族は尙二男研次郎(大三、九生)三男越(同六、七生)四男暘吉(同九、一生)あり長女八重(明四一、一〇生)同は廣島縣人河相清に嫁し弟三千二(同二〇、一〇生)同妻ノブ(同二七、九生、廣島、森脇恒槌四女)は其子女を伴ひ同卓郎(同二六、三生)は各分家し同齊(同二八、三生)同妻ミエ(同三八、一二生、廣島、藤原喜太郎長女)も亦分家せり(廣島、山縣、加計町)

加島十兵衛

加島總本店、酒類商
東京府在籍
妻　チヨ　明七、三生、東京、茂田井喜兵衛長女
男　眞太郎　明三四、七生、早稻田大學商科出身
婦　章子　明三七、六生、長男眞太郎妻、東京、江澤幸吉長女

加島家は古くより淺草土着の酒商にして初代十郎左衛門新潟縣より出で初めは微々たる酒小賣商に過ぎざりしも漸次產を成し後酒造業に轉じ同家今日の基礎を成す君は先代鹿平の長男にして明治四年十月を以て生れ同十三年家督を相續し後前名十代太郎を改め家業を繼ぎ酒醬油商を營み宮內省御用達にして例年神嘗祭に使用せらるる御神酒白酒黑酒の醸造は當家のみに許さるゝ特典なり家族は尙孫喜代子(大一四、一二生、長男慎太郎長女)同壽美子(明二一、一二生、同二女)あり(東京、淺草、柳町四電淺草四〇五五)

加島安治郎

日本硫產、日本電氣製鐵、扇田炭鑛各穂社長、多可銀行、泉尾土地株式取引所、東印度貿易八陽商店、東邦炭鑛、日窯業、大神中央土地、別府溫泉、帝國人造肥料、加島商店、有馬泉土地物、東洋木材、中央鐵工製鉄、鐵道、銅山川電力、北濱ビルデイング、東大阪土地、大日本放射製藥各穂取締役、日本商工、洛永玩具、日本綿花、日本住宅、爪哇貿易各穂監査役、大阪兵庫縣在籍

天保一三、八生、祖父安兵衛長女
明二二、三生、兵庫、八木豐四郎長女
母　つる
妻　エイ　明四二、一〇生
男　昌一

君は兵庫縣人加島安兵衛の三男にして明治十三年四月を以て生れ同四十一年家督を相續す大阪株式取引所短期取引員に任ぜられ初められ纔に大日本商事城東土地勝光山窯業能勢電氣軌道各會社長たりし事あり家族は尙長女みつ(大一〇、九生)二女みよ(同二六、三生、香川、橋本孝一姉)は其一子を伴ひ分家し姉たれ(同九、六生)は大阪府人永藤貞藏に嫁せり(大阪、東、北濱二ノ七四電淺本局二〇五七)

加瀨正太郎

資產家
東京府在籍
妻　ふさ　明一〇、一一生、東京、西田眞次郎妹

君は萬幕臣加瀨志明の長男にして慶應二年六月を以て生れ後家督を相續し大正九年退隱して更に一家を創立す夙に東京高等工業學校を卒業し獨逸に留學すること四ケ年歸朝後母校教授に任ぜられ次で農商務技師に轉ず退官後同三十一年日本勸業銀行に入り庶務課長を經て鑑定役に擧げられ傍ら日本製布會社取締役を兼ねたり現時閑地にあり園藝に趣味を有す長男俊一(明三〇、一〇生、從六位、外務事務官、歐米局勤務)は宗家の當主にして二男健次郎(同三三、八生、法學士、日本勸業銀行員)は父志明の家督を相續せり(東京、牛込、納戸町二八)

加瀨庄治郎

千葉縣多額納稅者、佐原合同運送穂取締役、醸造業、千葉縣在籍
明一五、二生、千葉、加瀨直三郎二女
妻　ふき
男　晴郎　明四二、四生
男　敬二　明三四、八生、二女喜美夫、千葉山下嘉兵衛二男
女　喜美　明三八、九生、養子敬二妻

君は千葉縣人先代庄治郎の長男にして明治十年二月を以て生れ同十二年家督を相續し襲名す釀造業を營み傍ら佐原合同運送會社取締役にして直接國稅三千七十七圓を納め千葉縣多額納稅者たり家族は尙孫浩史(大一三、九生、養子敬二長男)同和男(同一四、一二生、同二男)同華子(昭三、一生、同長女)同容子(同五、六生同二女)あり姉てう(明七、八生)は千葉縣人山口文右衛門に嫁せり(千葉、香取、佐原町電二五)

加瀨忠次郎

加瀨商店資社員、幸ビルデイング經營、藥品肥料製造、貿易商
東京府在籍
母　とみ　明一〇、一二生、東京、松田勘兵衛二女
妻　ふみ
男　林之助　明四二、五生
男　恒三　明四七、一生、長女愛子夫、栃木、金子泰平弟
養子　陸郎　明三七、二生、養子陸郎妻、山脇高女出身
女　愛子

加瀨家は舊幕時代より江戸に住し寶藥商を營めり君は先代忠次郎の長男にして明治八年九月を以て生れ同三十八年家督を相續し前名忠三郎を改め襲名す夙に家業を繼ぎしも後藥品肥料製造及貿易商に轉じ今日に至り震災後麴町內幸町一丁目に「幸ビルデイング」を建て之が經營をなす纔に高山耕山化學陶器日支鶴蛋公司日本化學工業日本グリセリン日本電池オリエンタル寫眞工業各會社の重役たり家族は尙六男準(大三、一二生)孫治(同一三、三生、養子陸郎二男)同守(同一五、三生同

三男)あり妹こと(明一二、一二生)は東京府人島田久兵弟利三郎に同しま(同二〇、一〇生)は同府人鹿島龍造に同その(同二七、一一生)は同府人川崎榮助二男傳之助に嫁せり(東京市外大井町元芝九〇二高輪四九一)

參照＝川崎榮助、島田久兵衛瀨澤民瀨福田代造の項

加瀨和三郎

加瀨商事穂代表取締役、千住製氷東京衞生興業、日本荒川製氷各穂取締役、邦樂座穂監査役
千葉縣在籍
妻　いく　明三〇、一生、千葉、小倉幸助長女
男　和男　大一二、一一生

君は千葉縣人加瀨正藏の三男にして明治十四年十月を以て生れ同四十年兄逝之補方より分れて一家を創立す夙に中央大學明治大學を各卒業し朝鮮新報編輯長朝鮮タイムス主幹兼主筆朝鮮中央農會理事仁川居留民會議員等に就任し現時前記各會社の重役たり家族は尙二男孝夫(大一四、一二生)長女信子(同一五、七生)三男正藏(昭二、一二生)四男忠義(同五、五生)あり(東京、小石川、丸山町一七電大塚二〇二四)

加地利夫

三井物產、大正海上火災保險各穂監査役、山形縣在籍
明一六、一二生、愛媛、士、二宮邦次郎長女
男　徹　明三八、一二生
女　信　明四一、六生
女　芳　大二、三生

君は山形縣士族高橋元次の四男にして明治三年十月を以て生れ先代藤兵衛の養子となり同九年家督を相續す同二十六年東京高等商業學校を卒業し現時前記各會社の重役たりA六一三四(東京、芝、白金三光町三七二電高輪六八〇八)

參照＝家藤田仙治郎の項

加地吉彥

從六位、東京市立商業學校長
東京府士族
母　久仁世　嘉永三、四生、愛媛、士、丹心爾
妻　マサエ　明一八、四生、東京、士、佐々木豐七長女
養子　巳代治　明二六、一生、長女辰子夫、靜岡松井謙保弟、慶應義塾大學法科出身

加藤呆

女　辰子　明三八、四生、養子巳代治妻、女子學習院出身
男　剛　明三一、五生
婦　とき　明二七、八生、二男剛妻、和歌山庄司源一郎姉

君は和歌山縣士族茉木藤助の三男にして男爵茉木守之の大叔父なり安政元年二月を以て生れ後先代仁左衛門の養子となり明治六年家督を相續す現時前記各銀行の頭取にして纔に縣會議員和歌山市助役同市長等に選ばる長女秀(明九、六生)は和歌山縣士族中松小野弟盛雄に二女房(同一一、一〇生)は同縣人戸村定楠に嫁せり(和歌山市上鷹匠町一六)

參照＝男爵茉木守之、中松盛雄瀨原錦吾の項

加藤彰廉

正六位勳四等、松山高等商業學校長、五十二銀行穂取締役
愛媛縣士族
妻　ヒデ　慶應二、二生、養父彰長女
孫　博太郎　大五、四生、亡長男由一長男
男　俊郎　明三二、三生
孫　靜子　大三、六生、亡長男由一長女

君は愛媛縣士族宮城正修の二男にして文久元年十二月を以て生れ先代彰の養子となり明治七年家督を相續す同十七年東京大學文科大學を卒業し由口高等中學校教諭廣島中學校長大阪高等商業學校教諭同校長等に歷任し多年大阪商業會議所特別議員に擧げられ現時財團法人松山高等商業學校長にして前記銀行の重役を兼ぬ義に大阪市部より推されて衆議院議員に當選し大正四年勳四等に敍せらる四男正彰(明二八、七生)同妻ヤエ(同三五、五生、山口、柳金作長女)は其一子を伴ひ分家し五女郁子(同四〇、七生)は岡山縣人濟藤勳に養妹ヨシ(同七、一二生)は愛媛縣士族深見禹之助に嫁せり(松山、出淵町一ノ三三)

加藤郁二

横濱商工會議所議員、日本漁業穂社長、加藤清樹商店穂代表取締役
千島漁業代表社員
神奈川縣在籍
妻　正子　明一五、二生、養父清樹長女
男　眞樹　明三七、一生
女　治子　明三九、一二生
女　保子　明四二、九生
女　敏子　大四四、二生

君は神奈川縣人小串清一の弟にして明治十二年二月を以て生れ後加藤清樹の養子となり大正十一年分れて一家を創立す現時前記各會社の重役にして推されて橫濱商工會議所議員たり家族は尙二男大造(大元、一一生)三男信二(同六、二生)四男健造(同八、四生)五女清子(同一〇、三生)六女廣子(同一二、七生)あり(橫濱、中、北仲通二ノ一五電本局六一四)

加藤逸次

福島電燈穂常務取締役、上山電氣鹽那電氣、福島電氣鐵道各穂取締役、福島縣在籍
妻　フジ　明三、九生、茨城、戶田道守二女
婦　ヤス　明二八、一生、亡長男忠雄妻、茨城、柳哲吉二女
孫　忠篤　大八、六生、亡長男忠雄長男
男　信夫　明二六、一〇生、海軍主計少佐
婦　文子　明四一、一〇生、二男信夫妻、故陸軍中將小泉正保六女
男　德衞　明三一、七生、東京商大出身、鴻池信託會社東京支店勤務
婦　宮子　明四二、二生、四男德衞妻、福島宍戶宇藏三女
孫　虎男　明四三、六生
男　忠義　明四三、六生

君は福島縣人加藤庄左衛門の長男にして明治五年八月を以て生れ大正三年家督を相續す現時前記各會社の重役にして纔に福島縣理事官福島商工會議所常議員たり事あり家族は尙孫仁壽(大一〇、八生、亡長男忠雄二男)同靜子(同一三、二生、同長女)同直子(昭三、八生、四男德衞長女)同貫一(同五、七生、同長男)あり

長女イセ(明三二、一〇生)は紹鳥縣入富田重廣に二女カツ(同三八、七生)は同縣人角田平一郎に嫁せり(紹鳥市外清水村森合宇川前四八)

加藤岩吉

母　でつ
妻　フミ
男　正明　大三、一二生

君は北海道人先代岩吉の長男にして明治二十一年十月を以て生れ大正九年家督を相續し前名市松を改め襲名す木材商を營み北海道多額納稅者に推されて札幌商工會議所議員たり家族は尙三男光夫(大八、四生)長女妙(同一〇、一〇生)四男正則(同一三、三生)五男恒夫(同一五、八生)弟四郎(明四二、五生)あり妹すみ(同三四、五生)は北海道人高野虎松長男豐喜に同イツ(同三四、五生)は北海道人濱岡源助弟助勝に同千代(同四一、一生)は石川縣人津田源衛に嫁せり(札幌、北五條東二ノ六)

加藤岩藏

静岡合同運送株式會社代表取締役
静岡縣在籍

嘉永五、一一生、静岡、澤野半右衛門長女

養母　とよ
妻　ふさ　明一三、一生、加藤平太郎長女
男　芳太郎　明三三、一〇生
婿　百合　明四〇、一一生、長男芳太郎妻、静岡、矢入陸一郎妹
男　慎三　明三九、五生

君は静岡縣人北村仁三郎の長男にして明治七年十一月を以て生れ同縣人加藤平兵衛の養子となり大正三年家督を相續す現時前記會社の重役たり家族は尙孫節子(昭三、二生、長男芳太郎長女)の外叔母せき(萬延元、八生、鈴木平六繼母)あり養妹れい(明三〇、八生、静岡、鈴木老平七女)は静岡縣人後藤末吉に嫁せり(静岡市東町)

参照＝冰林顯三の項

加藤榮一郎

正五位勳四等、大阪稅關長
愛知縣在籍

明二三、八生、東京、士、三好重道妹、學習院女學部出身

妻　林

君は元衆議院議員加藤喜右衛門の長男にして明治十六年一月を以て生れ大正十二年家督を相續す明治四十二年東京帝國大學法科を卒業し東京稅務監督局屬大藏屬稅務監督官補司稅官稅務監督局事務官大藏事務官大藏書記官兼銀行檢査官等に歷補し現時大阪稅關長たり家族は尙養子好子(大八、三生、愛知、齋藤其助長女、同由春子(同一四、五生、同三女)妹はる(明一八、二生)亡弟義夫妻その(同三五、八生、愛知、安藤小次郎長女)及其一男二女あり妹あい(同二九、三生)は岐阜縣入齋藤正助二男甚助に嫁せり(大阪、港、二條通四ノ四六稅關官舍)

参照＝安藤小次郎、齋藤正助、冰山縣治郎の項

加藤悅藏

廣島縣多額納稅者、村木商
廣島縣在籍

明三、一〇生、廣島、大村鶴太郎妹

妻　シケ
男　精一郎　明二八、一生
婿　スエ　明二九、八生、長男精一郎妻、廣島、木村克巳妹
女　マサコ　明四〇、二生
孫　美智子　大四、一生、長男精一郎長女

君は廣島縣人加藤彌吉の三男にして文久元年十一月を以て生れ明治十一年分れて一家を創立す村木商を營み現に廣島縣多額納稅者たり家族は尙孫誠藏(大一一、七生、長男精一郎長男)同作藏(同一五、八生、同二男)あり(廣島市大須賀町一同巷三(昭四、五生、同三男)あり(廣島市大須賀町一七九)

加藤脩

大分縣多額納稅者、大分縣農工銀行穗監査役、大分縣士族
嘉永二、六生、大分、士、志賀勝之助三女

祖母　チキ
母　サヨ　慶應三、一一生、祖父宗太長女
妻　友枝　明三六、一二生、佐賀、渋良九郎養子
男　知正　昭五、五生

君は大分縣士族加藤市五郎の長男にして明治二十六年十二月を以て生れ大正十三年家督を相續す醫師にして傷ら大分縣農工銀行監査役に擧げられ現に大分縣多額納稅者に列し直接國稅三千十二圓を納む家族は尙孫誠藏(大一一、二生)あり妹アツ(明三七、二生)は分家せり(大分、直入、久住町)

加藤乙三郎

中部電力、木曾電氣、東濃電化、笠原鐵道各穗取締役、岐阜縣在籍
明一三、九生、愛知、梅村善三郎長女

母　たね

君は岐阜縣人先代乙三郎の長男にして明治三十七年七月を以て生れ大正十五年家督を相續し前名蟀三郎を改め襲名す現時前記各會社の重役たり家族は尙弟重規(明四二、一生)妹正子(同四四、一〇生)同光子(大三、一〇生)弟竣平(同六、三生)妹定子(同九、一生)あり(岐阜、土岐、多治見町電五一五)

加藤克明

從三位、子爵
舊江州水口藩

明一九、三生、男爵藤堂高伸養叔母

妻　斐子　明四二、八生、女子學習院出身

當家は藤原鎌足の後胤越前守高房裔加藤左馬頭嘉明の後なり嘉明豐臣氏に仕へ戰功を積み後德川氏に屬し家康の敬重を受け伊豫松山後會津四十萬石に封ぜらる男式部少輔明成故ありて領土を來還せしも其子内藏介明友更めて江州水口二萬五千石に移封す十三代の君實に至り明治十七年子爵を授けらる君は先代明實の二男にして明治十一年七月を以て生れ同三十九年家督を相續し襲爵仰付けらる(東京、牛込、二十騎町一三電牛込二四七)

参照＝男爵藤堂高伸家子爵酒井忠英家子爵竹内惟斌の項

加藤勝太郎

名古屋商工會議所常議員、愛知縣多額納稅者、加藤商會穗代表取締役、東郊住宅穗取締役、日本放送協會監事、愛知縣在籍

母　ひて　慶應元、一生、愛知、小栗文右衛門長女
妻　トヨ　明二七、五生、愛知、熊田喜平次三女、淑德高女出身
男　豪夫　昭三、五生

君は愛知縣人加藤周三郎の長男にして明治十八年八月を以て生れ大正十二年家督を相續す名古屋商業學校卒業後歐米諸國を歷遊し現に加藤商會代表取締役を始め前記諸會社の重役にして愛知縣多額納稅者に列し推されて名古屋商工會議所常議員たり姉しげ(明一六、八生)は愛知縣人佐治榮太郎に嫁せり(名古屋、中、南桑

参照＝佐治榮太郎冰中根與七の項

加藤勘學

香川縣多額納稅者、松田鹽取締役、農業
香川縣在籍

嘉永五、一生、香川、土居十代太郎長女

養父　直兵衛
妻　ヤスエ　明二、九生、香川、上野二三郎姉
男　喜一　明三五、九生
婿　祐　明三七、五生、長男喜一妻、香川加藤謙吉二女
男　元太郎　明三八、七生

君は香川縣人土居忠平の四男にして明治元年二月を以て生れ先代直兵衛の養子となり大正四年家督を相續す農業を營み傍ら前記會社の重役にして香川縣多額納稅者に列し直接國稅八千九百六十圓を納む家族は尙孫祐利(昭二、二生、長男喜一長男)あり長女喜代(明二五、五生)は香川縣人松田三德に二女マス(同三一、一生)は同縣人中野覺一長男千太郎に嫁せり(高知市)

参照＝加藤謙吉、松田三德冰尾谷半三郎の項

加藤喜七

北海道多額納稅者、金融業
北海道在籍

元治元、七生、北海道、柴田壽次郎長女

妻　チヨ　明八、一〇生
男　喜久治　明一一、二生、長男喜久治妻、北海道、伊藤大助長女
婿　臣代　明二七、一〇生、孫キチ夫、北海道、兒玉忠太郎二男
養孫　武揚　明三二、一〇生、養孫武揚妻、長孫　キチ　明三二、一〇生、養孫武揚妻、長男喜久治長女
養孫　岩五郎　村田治兵衛六男、孫ハナ夫、北海道
孫　ハナ　明三五、五生、養孫岩五郎妻、長男喜久治二女
孫　義久　明三九、九生、長男喜久治二男
孫　キヌ　明四五、七生、長男喜久治四女

君は北海道人加藤磯吉の長男にして嘉永六年四月を以て生れ明治二十七年家督を相續す金融業を營み直接國稅二千六十二圓を納め北海道多額納稅者たり家族は尙孫キヨカ(大九、八生、長男喜久治六女)曾孫キミ(同八、一生、養孫武揚二女)同喜康(同一〇、二生、同長男)同和子(同一四、五生、同三女)同武美(昭三、三生、同二男)同ユキ(大一二、四生、養孫岩五郎長女)同ミエ(同一四、四生、同二女)同岩夫(昭二、三生、同長男)同利夫(同五、一生、同二男)叔父三之助(天保九、五生)あり(函館、鶴岡町)

加藤喜太郎

三瑞汽船穗取締役、勝田汽船、太洋汽船各穗監査役、兵庫縣在籍

妻　マサノ　明二八、一二生、愛媛、白石仙太郎三女
男　隆喜　大二、二生

君は愛媛縣人重見藤五郎の四男にして明治二十四年九月を以て生れ先代フサの養子となり大正三年家督を相續す現時前記各會社の取締役たり家族は尙長女貞子(大六、一〇生)二女良子(同一〇、四生)あり妹道子(明三一、四生)は京都府人篠田義夫長男義一に嫁せり(神戸、篠原下岡五五五電御影三五七八)

加藤儀一

熊本縣多額納稅者、味噌醬油釀造業、熊本縣在籍

妻　イノ　明二二、七生、熊本、太田嘉市姉
男　良平　明四一、三生
女　テル　明四三、七生

君は熊本縣人加藤儀一の四男にして明治十三年十月を以て生れ大正十五年先代兄儀一の跡を承け家督を相續し前名藤平を改め襲名す味噌醬油釀造業を營み直接國稅二千四百七十五圓を納め縣下の多額納稅者たり家族は尙三男八郎(大八、一生)三女美代(同一一、二生)四男昇(同一四、一生)亡兄儀一妻佐登(明九、五生、熊本、水上龜十郎二女)あり(熊本市黑髮町電五六〇)

加藤菊次郎

菊香氷室、氷卸商
京都府在籍

祖母　ちゑ　元治元、八生、愛知、中村清次郎長女

君は京都府人加藤壽昨の長男にして明治四十四年五月を以て生れ大正十三年祖父菊次郎の後を承け家督を相續し前名繁一を改め襲名す菊香氷室と稱し氷卸商を營む母たか(明二四、七生、愛知、木下春太郎二女)伯母たま(同三四、三生、祖父菊次郎養子、愛知、士、中村清太郎四女)は各分家せりA一四七九(京都、中京、河原町通四條上ル米屋町三九二電太局七二五)

加藤吉平

福井縣會議員、新庄製紙穗代表取締役、福井縣在籍

嘉永四、二生、福井、士、山口小平長女

母　たけ

君は舊幕臣にして旗本の家柄なりし加藤良の弟にして明治十六年一月を以て生れ大正七年分れて一家を創立す明治三十八年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し直に三菱合資會社に入り長崎門司香港各支店長に歷任し更に大阪神戸各支店長を經て本店詰となり現時前揭諸會社の重役たり圍碁寫眞ゴルフ等に趣味あり養子君江(明四一、五生、静岡、關口壯吉三女)は京都府人八木重兵衛長男市造に嫁せり(東京市外品川町北品川宿三五〇電高輪五九一四)

参照＝八木重兵衛冰増田新七の項

妻　松尾　明一一、四生、福井、北川小吉姉
男　活　明二九、三生
婿　しづを　明三三、二生、長男活妻、福井、增田彌治平孫

君は福井縣人先代吉平の長男にして明治四年十一月を以て生れ同三十年家督を相續し前名要次郎を改め襲名す現時新庄製紙會社代表取締役にして選ばれて福井縣會議員たり義に同縣參事會員たりし事あり家族は尙四男嘉一(大六、一生)五男嘉多士(同九、一一生)孫弘之(同一二、三生、長男活二男)同友三郎(同一三、七生同三男)同清香(同一五、八生、同長女)同實枝子(昭五五生、同一二女)あり二男吉之助(明三一、九生)は東京府人藤井憲に三男勝馬(大三、三生)は福井縣人高島庄太夫に各養子となり長女三七子(明三七、八生)は同縣人塚田良藏に二女富江(同四四、二生)は同縣人武田善雄に嫁せり(福井、丹生、立待村)

加藤久兵衛

八木久商店、洋反物商
愛知縣在籍

安政二、一〇生、愛知、野澤五兵衛長女

祖母　とう　明二一、一〇生、愛知、士、岡本安門養子
母　りう

君は愛知縣人先代久兵衛の長男にして大正三年五月を以て生れ同十一年家督相續と共に前名貞三を改む八木久商店と稱し洋反物商を營む家族は尙姉泰子(明四二一生)あり(名古屋、中、八百屋町一一電本局二〇〇六)

加藤恭平

三菱商事穗常務取締役、三菱電機日本生絲、樺太木材、日本ソリテツト各穗取締役、東京府在籍

明二一、九生、福島、江森保存長女、跡見女學校出身

妻　カツエ　大六、一生、兄良庶子
養子　通夫

君は舊幕臣にして旗本の家柄なりし加藤良の弟にして明治十六年一月を以て生れ大正七年分れて一家を創立す明治三十八年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し直に三菱合資會社に入り長崎門司香港各支店長に歷任し更に大阪神戸各支店長を經て本店詰となり現時前揭諸會社の重役たり圍碁寫眞ゴルフ等に趣味あり養子君江(明四一、五生、静岡、關口壯吉三女)は京都府人八木重兵衛長男市造に嫁せり(東京市外品川町北品川宿三五〇電高輪五九一四)

参照＝八木重兵衛冰増田新七の項

加藤清　正七位、和歌山縣會議長、和歌山產業組合長、南海遊園株式會社取締役、辯護士、和歌山縣士族

養母　ふじゑ　元治元、三生、和歌山、士、坂本駒吉妹

妻　光惠　明一五、三生、養父安之助長女

男　咸不二子　明四二、四生、姫路高等學校在學

女　大四、二生、和歌山高女在學

君は舊和歌山藩士田村又兵衛の二男にして明治十五年十月を以て生れ加藤安之助の養子となり同四十五年家督を相續す夙に關西大學に學び判檢事登用試驗に及第司法官試補を經て判事に任ぜられ大正二年職を辭して辯護士を開業し曾て和歌山市會議長として二期又同縣會議員に當選する事三回現時推されて同縣會議長にして前記各會社の重役たり家族は尙二女道子（大七、五生）三男淳（同九、一〇生）三女泰子（同一三、八生）あり（和歌山市三番丁三**電一〇二三**）

加藤公平　正五位勳四等、判事、高山區裁判所判事兼岐阜地方裁判所高山支部判事、愛知縣在籍

妻　よし　明一六、九生、愛知、士、及部政人長女

男　經夫　明三五、九生

女　閑子　明三七、八生

男　富久次　明四一、二生

男　磐男　明四、一生

女　朝子　明四五、四生

女　幸子　大四、二生

君は愛知縣人清水太左衛門の三男にして明治十三年一月を以て生れ先代富三郎の養子となり同四十一年家督を相續す同三十六年日本法律學校を卒業し同三十七年判檢事登用試驗に及第す同年司法官試補となり次で判事に任じ白河若松上野豐橋岡崎各區裁判所判事爾井地方裁判所兼同區裁判所輪島區裁判所各判事に歷補し昭和三年富山區裁判所監督判事兼同地方裁判所判事に補せられ昭和六年現職に轉ず家族は尙四男伊三巳（大六、八生）四女豐子（同七、八生）五男改造（同八、一一生）六男愁（同九、一二生）五女明子（同一四、四生）あり（岐阜、大野、高山町區裁判所）

加藤金次郎　富山縣多額納稅者、立山鐵道株取締役、富山銀行株監査役、請負業

男　熊雄　大六、九生

君は富山縣人加藤重右衛門の庶子にして明治十七年五月を以て生れ後前名重吉を改め大正五年家督を相續す請負業を營み傍ら前記銀行會社の重役にして縣下の多額納稅者に列し直接國稅八千三十八圓を納む家族は尙五男誠明（大九、一〇生）あり長女一枝（明三七、一〇生）は富山縣人永田鐵三に二女百合（同四三、一一生）は鹿兒島縣人市來政雄に嫁せり（富山、中新川、滑川町）

加藤久米四郎　正五位、衆議院議員（三重縣選出）東京府在籍

妻　アイ　明三二、一〇生、東京、小室三郎長女

君は三重縣人加藤久米治の四男にして明治十七年六月を以て生れ同四十四年兄伊郎方より分れて一家を創立す同四十年日本大學を卒業し直に同大學幹事となり多年經營に從事す衆議院議員に當選する事四回政友會所屬にして其間內務大臣秘書官（三回）內務參與官に歷任せり（東京、芝、白金臺町三三**電高輪四八二五**）

加藤內藏助　從五位勳五等、式部官東京府士族

妻　ハナ　明二二、四、神奈川、二上茂兵衛妹

男　悠太郎　大元、一二生

女　靜子　大三、六生

君は東京府士族加藤斌の二男にして明治十四年九月を以て生れ大正三年家督を相續す先是明治四十二年東京帝國大學農科大學農學科を卒業し長野縣技師となり大正四年宮內省屬に任じ同七年式部官に任ぜられ今日に至る家族は尙二男健次郎（大五、三生）の外姉柔（明八、四生）妹龍子（同三七、一〇生）弟雞三（同四二、三生）あり長女穩子（同四三、一一生）は埼玉縣人澁澤信一に嫁し弟清丸（同二一、一二生）は分家し同玄蕃（同二二、八生、法學士）は栃木縣人矢板寬長女キミの婿養子となれり（東京市外澁谷町榮通一ノ三八**電青山二〇七三**）

參照＝矢板寬の項

加藤敬三郎　朝鮮銀行總裁、中華滙業銀行理事、東京府士族

妻　さた　明一〇、三生、養父厚寬長女、福井縣立高女出身

男　武　明三七、八生、法學士、國際通運會社員

男　暐　明四二、八生、橫濱高工在學

女　正　大三、一〇生、實踐女學校在學

君は愛知縣士族川村眞一の弟にして明治六年四月を以て生れ先代厚寬の養子となり大正十四年家督を相續す明治三十年日本大學法學科を卒業し次で文官高等試驗に合格遞信省に出仕せしも大正二年日本勸業銀行に轉じ同行理事に進む同十三年北海道拓殖銀行頭取に就任し昭和二年朝鮮銀行總裁仰付けられ傍ら現時中華滙業銀行理事を兼ね圍碁將棋に趣味を有す家族は尙三男勇（明四五、一一生）四男正六郎（大六、二生）あり養妹かね（明一五、一二生、東京音樂學校師範科出身）は富山縣人谷野作治に嫁せり（東京、麻布、本村町一四三**電高輪五五四三**）

參照＝谷野作治の項

加藤健一　正五位勳五等、判事、京都區裁判所監督判事兼京都地方裁判所判事、愛知縣士族

父　式太郎　安政四、一生、現戶主

母　きく　文久三、一二生、愛知、士、岩井清長女

妻　トヨ　明二一、一一生、滋賀、士、中村隼太長女

男　彊　明四一、五生

女　美代　明四三、一〇生

誠　大五、七生

君は愛知縣士族加藤式太郎の二男にして明治十四年九月を以て生る同四十年京都帝國大學法科大學法律科を卒業し同四十二年判事に任じ爾來丸龜區高松區兼同地方京都區兼同地方各裁判所判事京都地方裁判所部長大阪控訴院判事神戶地方裁判所部長に歷補し昭和五年前記の職に補せらる家族は尙四女敬（大一三、一一生）弟赳夫（明二七、一二生）同妻カツ（同三六、一二生、茨城、石川一五女）及其二子あり妹きさ（同三五、七生）は北海道人田垣住雄に同勝子（同三八、九生）は靜岡縣人石田二郎に嫁し弟登長（同三〇、一〇生）は愛知縣士族岩井小枝太の養子となり伯母みつ（安政三、三生）は同縣人武田繁雄の死跡を相續せり（京都、中京、京都區裁判所）

加藤健吾　不二屋、洋酒食料品商兵庫縣在籍

妻　杉　明三三、一生、大阪、岡村富藏二女

男　進一　大一〇、三生

君は山口縣人加藤助右衛門の二男にして明治十九年九月を以て生れ大正八年兄圭二方より分れて一家を創立す不二屋と稱し洋酒食料品商を營む（神戶、元町通六ノ一九**電元町二二**）

加藤賢龍　從五位勳五等、判事、木本區裁判所判事兼安濃津地方裁判所木本支部判事、愛知縣在籍

妻　りう　明二四、三生、愛知、石川昌平三女

男　博之　大一〇、九生

女　美子　大五、二生

君は愛知縣人加藤武兵衛の二男にして明治五年三月を以て生れ同四十三年加藤彌平方より分れて一家を創立す同四十一年京都帝國大學法科大學を卒業す爾來司法官試補豫備判事中村區横手區秋田區兼同地方大館區富山地方兼同區岡崎區新城區牛田區八幡區各裁判所高山區兼岐阜地方高山支部出町區裁判所各判事に歷任し現に木本區裁判所判事兼安濃津地方裁判所木本支部判事たり（三重、南牟婁、木本町木本區裁判所）

加藤謙吉　香川縣多額納稅者、松田鹽田、讃岐起業各株取締役、琴平電鐵株監査役、香川縣在籍

妻　コウ　明五、一生、養父又太郎長女

男　增夫　明二八、三生

婿　仙　明三三、八生、二男增夫妻、香川尙井又一姉

男　慣爾　明三〇、九生

婿　節子　明三四、六生、三男慣爾妻、香川馬場甚三郎六女

男　莞爾　明三三、一〇生

男　誠爾　明四四、一二生

君は香川縣人向井忠一の弟にして明治四年七月を以て生れ加藤又太郎の養子となり同二十三年家督を相續す現時前記會社の重役にして直接國稅三千二十六圓を納め縣下の多額納稅者に列す家族は尙孫信久（大一四、二生、二男增夫二男）同多可良（昭二、一〇生、同三男）あり長女テイ（明二四、三生）は香川縣人木村多藏三男得多に二女祐（同三七、五生）は同縣人加藤勘學長男喜一に三女博（同四〇、二生）は同縣人德田泰造養子正芳に四女靜（同三四、一二生）は同縣人向井又一に嫁し五男卓爾（同三四、一二生）は廣島縣人眞田道子の入夫となれり（高松、南新町五四）

加藤玄智　正五位勳四等、文學博士、陸軍教授兼東京帝國大學助教授、陸軍士官學校教官、財團法人明治聖德記念學會理事兼研究所長、東京府在籍

妻　セツ　明一〇、五生、鳥根、門脇義雄長女

男　誠智　明六、二生

男　平　明三九、二生

君は東京府人加藤玄聽の長男にして明治六年六月を以て生れ同二十九年家督を相續す同三十二年東京帝國大學文科大學哲學科を卒業し同四十二年文學博士の學位を授與せらる現時陸軍士官學校教官にして東京帝國大學助教授を兼ね文學部に勤務し又財團法人明治聖德記念學會理事兼研究所長たり孫ひさ（大一四、九生、長男誠智庶子）は千葉人中原信民母なをの養子となれり（東京、小石川、丸山町二**電大塚二七〇**）

加藤源一　一宮商工會議所副會頭、高岡瓦斯株式會社長、愛知縣在籍

妻　喜美子　明一九、三生、愛知、原田清六養子

養子　英次　明三二、七生、長女征露夫、愛知村瀨甚三郎弟

女　征露　明三七、八生、養子英次妻

女　延代　大二、二生

君は愛知縣人加藤源藏の二男にして明治十六年十月を以て生れ同二十八年家督を相續す現に一宮商工會議所副會頭にして高岡瓦斯會社長たり家族は尙孫雅子（大一五、三生、養子英次長女）同京子（昭二、一二生、同二女）あり二女富美江（明四二、一一生）は愛知縣人醫學博士鈴木正彥に嫁し姉ちよ（同一五、一生）は愛知縣人村瀨實三郎の養子となり妹たま（同一九、四生）は同夫繼之助（同一一、一〇生）の婿養子となり妹ちよ（同一五、一生）は愛知縣其子女と共に分家せり（一宮、長野、平澤喜七郎二男）及

加藤源次　神戶商工會議所議員、日本絹布株式會社常務取締役、鹽崎染工、日本染工三丸商店、明石土地建物、昭榮汽船各株取締役、日本液體アスファルト工業株監査役、加藤色代表社員、絹織物商、石川縣在籍

妻　外茂　明三四、四生、石川、北川新七二女

男　誠　明三、一生、福井、士、吉野彌藏妹

男　高尙　大四、一二生

君は福井縣人加藤豐治の長男にして明治十九年三月を以て生れ同三十三年家督を相續す同四十二年大阪高等工業學校を卒業し製鐵所技手となり大正九年同技師に任じ現時化工部爐材課長たり昭和三年在外研究員を命ぜらる家族は尙二男英郎（大六、一二生）長女とき子（同一〇、六生）二女まち子（同一二、一二生）三女愛子（昭五、六生）弟尹（明二二、四生）同妻よしゑ（同二八、一一生、福井、宮川五郎右衛門三女）及其子女あり（八幡、槻田製鐵所用地）

參照＝加藤勘學（馬場吉信の項）

妻　セツ　明一〇、五生、東京、士、坂本駒吉妹

男　誠智　明六、二生

男　平　明三九、二生

君は東京府人加藤玄聽の長男にして明治六年六月を以て生れ同二十九年家督を相續す同三十二年東京帝國大學文科大學哲學科を卒業し同四十二年文學博士の學位を授與せらる現時陸軍士官學校教官にして東京帝國大學助教授を兼ね文學部に勤務し又財團法人明治聖德記念學會理事兼研究所長たり孫ひさ（大一四、九生、長男誠智庶子）は千葉人中原信民母なをの養子となれり（東京、小石川、丸山町二**電大塚二七〇**）

加藤源一　一宮商工會議所副會頭、高岡瓦斯株式會社長、愛知縣在籍

妻　喜美子　明一九、三生、愛知、原田清六養子

養子　英次　明三二、七生、長女征露夫、愛知村瀨甚三郎弟

女　征露　明三七、八生、養子英次妻

女　延代　大二、二生

君は愛知縣人加藤源藏の二男にして明治十六年十月を以て生れ同二十八年家督を相續す現に一宮商工會議所副會頭にして高岡瓦斯會社長たり家族は尙孫雅子（大一五、三生、養子英次長女）同京子（昭二、一二生、同二女）あり二女富美江（明四二、一一生）は愛知縣人醫學博士鈴木正彥に嫁し姉ちよ（同一五、一生）は愛知縣人村瀨實三郎の養子となり妹たま（同一九、四生）は同夫繼之助（同一一、一〇生）の婿養子となり妹ちよ（同一五、一生）は愛知縣其子女と共に分家せり（一宮、長野、平澤喜七郎二男）及

加藤源次　神戶商工會議所議員、日本絹布株式會社常務取締役、鹽崎染工、日本染工三丸商店、明石土地建物、昭榮汽船各株取締役、日本液體アスファルト工業株監査役、加藤色代表社員、絹織物商、石川縣在籍

妻　外茂　明三四、四生、石川、北川新七二女

男　誠　明三、一生、福井、士、吉野彌藏妹

男　高尙　大四、一二生

君は福井縣人加藤豐治の長男にして明治十九年三月を以て生れ同三十三年家督を相續す同四十二年大阪高等工業學校を卒業し製鐵所技手となり大正九年同技師に任じ現時化工部爐材課長たり昭和三年在外研究員を命ぜらる家族は尙二男英郎（大六、一二生）長女とき子（同一〇、六生）二女まち子（同一二、一二生）三女愛子（昭五、六生）弟尹（明二二、四生）同妻よしゑ（同二八、一一生、福井、宮川五郎右衛門三女）及其子女あり（八幡、槻田製鐵所用地）

加藤小太郎　名古屋信託株式會社長、關西信託株式會社專務取締役、東洋リノリューム、塚口土地、堂ビル各株式會社取締役、大阪製粉、大阪自動車商事各株式會社監査役、山口貿易支配人、新潟縣士族

母　サト　嘉永六、六生、新潟、士、齊藤桑右衛門長女

妻　小咲　明一〇、二生、福井、士、本多精一妹

君は新潟縣士族先代小太郎の長男して明治五年四月を以て生れ同四十四年家督を相續し前名太郎松を改め襲名す現時名古屋信託會社長たる外前記各會社の重役たり家族は尙ほ弟喜造（明一八、七生）同妻たつの（同二五、八生、新潟、士屋榮太郎三女）及其二女あり妹タケ（同二四、二生）は和歌山縣人宮本幸兵衛弟文次郎に嫁せり（兵庫、川邊、立花村**電伊丹二一〇**）

加藤小太郎　從五位勳六等、製鐵所技師、化工部爐材課長、福井縣在籍

母　キチ　慶應三、二生、福井、宮川七兵衛二女

妻　きん　明二六、一生、福井、士、吉野彌藏妹

男　高尙　大四、一二生

君は福井縣人加藤豐治の長男にして明治十九年三月を以て生れ同三十三年家督を相續す同四十二年大阪高等工業學校を卒業し製鐵所技手となり大正九年同技師に任じ現時化工部爐材課長たり昭和三年在外研究員を命ぜらる家族は尙二男英郎（大六、一二生）長女とき子（同一〇、六生）二女まち子（同一二、一二生）三女愛子（昭五、六生）弟尹（明二二、四生）同妻よしゑ（同二八、一一生、福井、宮川五郎右衛門三女）及其子女あり（八幡、槻田製鐵所用地）

加藤幸三郎

鈴幸商店、米穀商
東京府在籍

母　そう　安政二、一一生、東京、松本市兵衛二女
妻　きん　明九、一〇生、養父幸三郎二女
養子　幸次　明三二、八生、東京、加藤健藏長男
婦　君子　明三六、六生、養子幸次妻、東京河合欣次妹

君は埼玉縣人中村馬之助の三男にして明治八年十一月なる以て生れ先代幸三郎の養子となり同四十年家督相續と共に前名啓三郎を改め巣名す鈴幸商店と稱し米穀商なれ暮み傍ら江戸川上水町村組合收入役たり曾て千住銀行相談役たりし事あり家族は尙孫啓一(大一一、三生、養子幸次長男)同喜久子(同一三、二生、同長女)同昭治(昭五、一生、同二男)あり(東京市外千住町中組七七電淺草五七九)

加藤幸助

弘前合同運送、富名醸造各穂取締役、青森縣在籍
妻　くに　安政四、九生、青森、成田金藏長女
男　政五郎　明二一、四生
婦　スミ　明三一、五生、長男政五郎妻、新潟、神岡健藏長女
養子　金之丞　明八、一二生、青森、杉野治三郎二男
婦　ヒサ　明一七、一生、養子金之丞妻、青森、長尾德彌五女
男　直太郎　明三〇、一生
婦　ヒサ　明三四、二生、二男直太郎妻、東京、花田平吉長女
孫　ヒデ　明三五、一一生、養子金之丞長女
孫　ちよ　明三八、二生、養子金之丞二女
孫　政太郎　明四一、一生、養子金之丞長男
孫　喜代治　明四三、二生、養子金之丞二男
孫　英三郎　明四五、三生、養子金之丞三男
孫　まき　大五、二生、養子金之丞四女

君は青森縣人加藤才吉の長男にして嘉永五年八月を以て生れ後家督を相續す現時前記會社の重役たり家族は尙孫和四郎(大三、五生、養子金之丞四男)同せつ(同八、一一生、同五女)同六郎(同一〇、一二生、同六男)同七郎(同一三、四生、同七男)同良子(同一五、三生、同六女)同逢(同一四、二生、二男直太郎長男)同敬子(昭四、一生、同長女)あり同五郎(大六、一〇生、養子金之丞五男)は青森縣人長尾久太郎の養子となり妹そて(明三、六生)同夫八十吉(文久三、一〇生、青森、花田常吉弟)は其二男を伴ひ分家し長女はる(明二五、三生)は青森縣人濱田彌五郎に二女たま(同二七、三生)は同縣人加藤清一に三女ツル(同三二、一二生)は同縣人相馬久一郎に嫁せり(弘前新寺町一一一)

加藤厚太郎

從四位、伯爵、東明火災海上保險穂取締役、東京府華族
母　春路　元治元、二生、男爵岩崎久彌姉
妻　富美　明三四、三生、長崎、上野季三郎三女、學習院女學部專攻部出身
男　昇一郎　大一〇、七生

當家は先代高明より其名を擧ぐ高明は舊尾州藩士服部重文の二男にして出で、同藩士加藤武兵衛の養子となり其後を繼ぐ藩の貢進生として東京大學に入り明治十四年法學部を卒業して岩崎家に聘せらる後官界に投じ外務省參事官大藏省銀行局長主稅局長外務省政務局長駐英特命全權公使外務大臣(四回)駐英全權大使に歷任し其間衆議院議員に當選すること二回後貴族院議員に勅任せられ又故桂公を扶けて立憲同志會を組織し其後を承けて憲政會總裁に推さる明治四十四年日英同盟改締の功に依り華族に列し男爵を授けられ日獨事件の功に依り子爵に陞さる大正十三年三派聯立內閣を組織し其總理大臣となり翌十四年更に憲政會單獨內閣を組織す同十五年一月薨するに臨み多年の勳勞に依り大勳位に叙し伯爵に陞さる君は其二男にして明治二十六年一月を以て生れ大正十五年襲爵す同八年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し現時東明火災海上保險會社取締役たり(東京、本郷、上富士前町一〇〇電小石川二五六一)

參照＝子爵岡部長景に嫁せり

侯爵佐々木行忠、衆伯爵甘露寺受長、衆男爵岩崎隆彌、衆男爵幣原喜重郎、衆男爵園琢磨、衆岩崎恒彌、衆岩崎彥彌太、衆服部玄三の項

加藤左武郎

陸軍歩兵大尉、日本化工穂社長、共同ゴム、日本自動車、南部銃製造所各穂取締役、栃木縣在籍
妻　茂登　明二九、一生、埼玉、渡邊與吉長女

君は故實業家加藤升一郎の三男にして同武男の弟なり明治十八年三月を以て生れ大正十四年分れて一家を創立す明治四十年陸軍士官學校を卒業し同四十一年陸軍歩兵少尉に任ず爾來歩兵大尉に至る迄近衛師團に勤屬大正九年現役を退き現時前記各會社の重役たり家族は尙長女良(大九、七生)二女恭子(同一三、三生)あり妹チヨ(明二七、四生、日本女大出身)は長野縣人浦野多門治に嫁せり

A五七九(東京、小石川、駕籠町一三三電大塚一〇三五)

參照＝浦野多門治、加藤武男、衆乳井龍雄、衆山崎覺太郎の項

加藤榮

住友製銅所穂常務取締役、大阪府士族
妻　ムメ　大一〇、一生
男　佑　明四三、二生
女　幸　大二、八生
女　良　大五、五生
女　直

君は千葉縣士族加藤善夫の長男にして明治十一年三月を以て生れ大正八年家督を相續す現に住友製銅所常務取締役たり妹ひさ(明一八、七生)は大阪府人日高直次に嫁せり(大阪、住吉、天王寺町一七九七電天下茶屋二二二六)

參照＝日高直次の項

加藤作次郎

岐阜縣多額納稅者、實業銀行、駄知鐵道各穂取締役、岐阜縣在籍
妻　しげ　明五、一生、岐阜、阿部德右衛門長女
養子　圓治　明一四、一生、長女とら夫、岐阜神谷保郎弟
女　とら　明四二、八生、養子圓治妻
孫　正雄　明四二、八生、養子圓治長男

君は岐阜縣人水野小十の三男にして明治三年一月を以て生れ先代作次郎の養子となり同四十年家督を相續し前名淺治郎を改め襲名す現時前記各銀行會社の重役にして直接國稅千七百八圓を納め岐阜縣多額納稅者たり兼に駄知運輸會社代表取締役たりし事あり家族は尙孫孝雄(大三、九生、養子圓治二男)同溫子(同八、一〇生、同三女)あり養父辰藏(弘化四、一〇生)は繼母ちか(明五、三生、岐阜、桂川小太郎妹)及養妹絹子(同三九、一二生)を伴ひ分家し二女せつ(同二四、一二生)は岐阜縣人平岡光三郎に嫁し孫雅子(大六、一一生、養子圓治二女)は其養子となれり(岐阜、土岐、駄知町)

加藤作郎

福岡縣多額納稅者、自轉車製作卸商、家主、福岡縣在籍
妻　ハツ　明一八、四生、東京、士、蓮見義隆妹
男　重平　明四三、九生

妻　ミネ　明一三、三生、福岡、川原重雄叔母
男　正　明三八、七生

君は福岡縣人太田作造の三男にして明治十二年五月を以て生れ先代甚三郎の養子となり同三十五年家督を相續す自轉車製作卸商を營み家主にして直接國稅四千八百十二圓を納め福岡縣多額納稅者たり家族は尙五男五郎(大二、三生)あり養父甚三郎(明八、七生)養母わか(同一二、四生、福岡、前田喜三郎長女)は共に福岡縣人谷澤常七の養子となり養妹ツノ(同三二、六生)養弟進(同三四、八生)は共に其養子となり長女百合子(同四一、八生)は他に嫁せり(福岡市荒戸町一七四電一一四九)

加藤定吉

勳四等、東海起業穂社長、奉天製麻、掛川銀行、東亞興產、滿洲興業各穂取締役、瀋陽建物、東京建物穂監査役、靜岡縣在籍
妻　チエ　明七、三生、東京、秋山一裕養子
養子　安吉　明六、九生、父勘重二男
婦　美佐保　明二〇、九生、養子安吉妻、靜岡山田與四郎二女
孫　英　明四二、八生、養子安吉三女
孫　重　大三、三生、養子安吉三女

君は靜岡縣人加藤勘重の長男にして明治三年十二月を以て生れ同四十四年家督を相續す同二十三年慶應義塾別科を卒業し實業界に入り現時前記各銀行會社の重役たり曾て靜岡縣より推されて衆議院議員に當選し功に依り勳四等に叙せらる家族は尙孫宜太郎(大四、一二生、養子安吉長男)同光(同六、一生、同四女)同宏平(同七、六生、同二男)同久(同八、一〇生、同五女)同君(同一一、一生、同六女)同美代(同一三、一二生、同七女)同昭三郎(昭三、八生、同三男)養妹フミ(明一七、一二生、大阪、樋田桂之助二女)あり孫和(同四〇、四生、養子安吉長女)は靜岡縣人中安周平に嫁せり

A一〇七(東京市外品川町北品川宿七三三電高輪二〇一五)

參照＝衆永井啓の項

加藤三郎

岡田村長、岡山縣多額納稅者、農業、岡山縣士族
妻　祐　明一三、二生、養父永郎助長女
男　正雄　明四五、一生

加藤茂苞

從三位、勳二等、農學博士、朝鮮總督府農事試驗場技師、水原高等農林學校長、朝鮮總督府農事試驗場長、山形縣士族
妻　鈴　明二六、三生、島根、三瓶德美妹
男　茂　明三七、五生、長男茂妻、三重、十文字重蟬長女
婦　節　大四、一一生

君は山形縣士族加藤甚平の長男にして明治元年五月を以て生れ同三十七年家督を相續す同二十四年農科大學農學科を卒業し山形縣等常中學校教諭農事試驗場技師長を經て大正十五年前記現職に轉ず大正八年農學博士の學位を授與さる家族は尙三男茂正(大二、一生、同二女)同禮(同三、四生、同三女)あり三女操(明三八、七生)は長野縣人小坂博に嫁し四女芳(同四二、五生)は福島縣人八子彌壽平に弟金五(同一八、五生)は山形縣人坂部重治に同八郎(同三〇、八生)は福島縣人田倉孝雄に同完治(同三五、七生)は其兄清三に各養子となれり同景介(同二七、九生)は同縣人伊藤幸子の入夫となれり(朝鮮、水原農事試驗場官舍)

加藤重利

神奈川縣多額納稅者、ジヤパン冷藏製氷穂取締役、加藤重利商店代表社員、金モール商、神奈川縣在籍
妻　ハツ　明一九、九生、神奈川、士、松崎利義長女
男　重平　明四三、九生

君は神奈川縣人加藤平長衛の長男にして明治八年二月を以て生れ同三十七年家督を相續す金モール商を營み傍ら前記各會社の重役にして直接國稅一千百八十一圓を納め縣下の多額納稅者たり養に横濱市會議員に擧げらる家族は尙三男僑利(大三、四生)姉りか(明七、三生)あり長女ハル(明三八、三生)は分家し岡山縣人美土路昌一弟美作男を迎へ甥陸利(同三二、一〇生)も亦分家せり(横濱、中、御所山一五電長者町八五六)

參照＝美土路昌一の項

加藤恵義

正五位、勳四等、簡易保險局理事、愛媛縣在籍
妻　シスエ　明二九、六生、福岡、高橋勝彥長女
男　健三　大一二、三生

君は愛媛縣人加藤才三の二男にして明治十七年十一月を以て生れ同四十四年家督を相續す同四十三年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し同年文官高等試驗に合格す爾來逓信管理局事務官逓信局副事務官兼通信副事務官逓信局事務官等に歷任し大正十三年逓信局書記官となり大阪逓信局都市課長同局規畫課長逓信省郵務局規畫課長東京逓信局監督課長等を經て現時簡易保險局理事たり曾に獨瑞各國に出張を命ぜらる家族は尙四男義男(昭三、一生)あり(東京、赤坂、表町四ノ一〇電青山三六〇〇)

加藤靜夫

電氣學校長、理事、東京府士族
妻　かゐ　明二一、三生、兵庫、湯美育郎妹
男　恒夫　大三、三生
女　信子　明四三、一〇生

君は東京府士族加藤治幹の長男にして明治十三年十一月を以て生れ同三十五年家督を相續す同三十七年東京帝國大學工科大學電氣科を卒業し現時電氣學校長にして理事を兼ぬ家族は尙二男匡夫(大五、五生)弟正路(明二三、五生)あり長女澄(同四三、三生)は廣島縣人廣田精一長男虎雄に嫁せり(東京、小石川、駕籠町一七五電大塚一二五二)

參照＝湯美育郎の項

加藤守一

正四位、勳三等、北海道拓殖銀行穂副頭取、東京府在籍
父　純次郎　嘉永五、一一生
妻　とみ　隆妹

男　一郎　大一一、九生

君は三重縣人加藤純次郎の長男にして明治十三年四月を以て生れ昭和二年家督を相續す明治三十七年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し文官高等試驗に合格す爾來鹽務局事務官兼鹽務局長專賣局主事神戸專賣支局長專賣局製造部調査課長同事業部鹽腦課長廣島東京各稅務監督局長等に歷任し大正七年歐米各國に出張を命ぜられ同九年歸朝す後官を龍め現時北海道拓殖銀行副頭取たり曩に札幌商業會議所特別議員に舉げらる家族は尙弟正(明一九、九生)同妻ヨシ(同二八、一生、東京、士、福地文一郎二女)及其子女あり妹ひさ(同二九、七生)は茨城縣人醫學博士根本豐治に嫁せり(東京市外澁谷町神山一六)電寄山四〇八)

參照＝蓮見義隆氏池田圓男の項

加藤周太郎

愛知縣多額納稅者、加藤周商店㊞代表社員、材木商、愛知縣在籍

母　モト　明六、一二生、愛知、服部源兵衛二女

妻　あや　明三〇、三生、愛知、中川定平二女

男　周八郎　大七、七生

女　みち子　大五、三生

君は愛知縣人先代周太郎の三男にして明治二十五年六月を以て生れ大正十一年家督を相續し前名政俊を改め襲名す材木商を營み加藤周商店代表社員にして直接國稅四千七百九十九圓を納め縣下の多額納稅者たり家族は尙二女久子(大八、八生)三女ひろ子(同一一、一生)四女れい子(同一三、八生)叔母たま(元治元、八生)あり姉はつ(明九、五生)同夫庄治郎(同八、三生、愛知、川合藤七二男)は其子女を伴ひ分家し姪つや子(同三七、一一生、姉はつ三女)は愛知縣人鳥井吉藏に嫁せり(名古屋、南、西渡町中島一四)電南一〇八)

參照＝加藤庄治郎の項

加藤重治

大日本製氷㈱常務取締役、鹽釜製氷、日本製氷、羽後製氷、大湊冷藏、茨城製氷、佐賀製氷、冷藏、字和島製氷、冷藏、日本製氷、佐原製氷、冷藏、東京製氷、冷藏、各務製氷、浦賀製氷、東京府役籍

妻　美亞　明二二、一二生、東京、中川信妹

東京女學館出身

加藤正次郎

京都府多額納稅者、京洛土地㈱取締役、西陣織物仲買業

京都府在籍

妻　ツネ　明八、四生、京都、鈴木長右衛門女

男　正三郎　明三八、一〇生

婿　マサ　明三五、一一生、長男正三郎妻、京都、吉田宗兵衛長女

養子　憲治　大川長三郎二男　明三一、八生、二女サト夫、大阪

女　サト　明三三、八生、養子憲治妻

君は京都府人杉田兵次郎の弟にして慶應元年九月を以て生れ先代安兵衛の養子となり明治二十七年家督を相續し前名由次郎を改む西陣織物仲買業を營み京都府多額納稅者にして直接國稅三千七百六十三圓を納め現時前記會社の重役を兼ね家族は尙孫正夫(大一三、三生、長男正三郎長男)同俊子(同一四、一二生、同長女)同多滿喜(同四、五生、同珠子(昭二、七生、同二女)同多滿喜(同四、五生、同三女)同昭(大一五、三生、亡二男正太郎長男)同保二(昭二、四生、同二男)同十三子(大一三、二生、養子憲治長女)あり養父安兵衛(弘化四、五生、京都、坂本庄五郎二男)は長女エン(明二六、七生)あり(京都、上京、一條千本西入鳥丸町二二)電西陣一一三〇)

參照＝吉田宗兵衛氏池田德藏の項

加藤庄治郎

鳳來寺鐵道、名古屋循環自動車、新橋製所各㈱取締役、愛知縣在籍

妻　はつ　明九、五生、養弟周太郎姉

男　義一　明二八、三生

婿　ゆき　明三〇、八生、長男義一妻、愛知淺井彰夫妹

女　きよ子　明四三、八生

君は愛知縣人川合藤七の二男にして明治八年三月を以て生れ加藤周太郎の養子となり大正十四年養弟周太郎方より分れて一家を創立す現時前記各會社の重役たり家族は尙三男周三(大三、一一生)四男泰三(同七、八生)二女ぬい子(同九、一一生)孫くに子(同一〇、四生、長男義一長女)同庄一(同一三、七生、同長男)同正典(昭三、三生、同二男)あり二男雄(明四〇、三生)は愛知縣人內山嘉吉の養子となれり(豐橋、花田町石塚)

參照＝加藤周太郎氏永野榮太郎の項

加藤章司

從五位勳四等、司稅官、小倉稅務署長、靜岡縣士族

母　くに　嘉永三、一二生、靜岡、松井半六郎二女

妻　ヒデ　明一四、九生、東京、鈴木長全二女

君は舊靜岡藩士加藤建之の長男にして明治八年三月を以て生れ同三十三年家督を相續す同二十九年千葉縣文官普通試驗に合格し稅務屬となり大正元年稅務官に任じ牛田小牧長岡武雄川越川崎各稅務署長に歷補し更に復興局事務官を經て大正十四年司稅官に任じ高岡甲府各稅務署長に歷補し昭和五年現職に補せらる(小倉、稅務署)

加藤新右衛門

昭和銀行㈱督業部次長兼計算係長

愛知縣在籍

母　さわ　文久元、五生、愛知、鳥山傳平長女

妻　せつ　明二二、一〇生、愛知、鳥山傳兵衛姪

男　綏之　大四、六生

君は愛知縣人先代新右衛門の長男にして明治十八年八月を以て生れ大正十三年家督を相續し前名新一を改め襲名す明治四十三年東京高等商業學校を卒業し現時昭和銀行督業部次長兼計算係長たり家族は尙二男芳(大五、七生)二女きく(同七、一〇生)四女梅香(同九、一二生)六女けい(同一三、一生)五男明平(昭三、一一生)あり(東京市外高田町一六三二)電牛込八九三)

加藤甚彌

乾物商

大阪府在籍

母　五十代　明二三、五生、大阪、吉井茂右衛門二女

君は大阪府人加藤甚平の長男にして明治四十三年七月

を以て生れ大正十二年祖父甚助の後を承け家督を相續す乾物商を營む祖母イク(慶應三、一二生、大阪、本田勝二郎長女)は分家せり(大阪、北、樋上町三二)電北九八八)

加藤末雄

日本綿花㈱取締役兼督業部長

大阪府在籍

妻　ゆき　明三〇、三生、大阪、井上嘉市妹孝一　大七、二生

君は大阪府人加藤伊三郎の六男にして明治十九年六月を以て生れ大正五年兄伊三郎の後を承け家督を相續す明治四十年大阪高等商業學校を卒業し直に日本綿花會社に入り同社船場支店綿製品課長綿布課長船場支店長上海支店長を經て大正十五年同社取締役に就任し現時本店督業部長を兼ね家族は尙二男俊二(大九、一二生)長女楊子(昭五、二生)亡兄伊三郎妻ナミ(明一五、一一生、大阪、井上彌兵衛妹)あり(大阪、住吉、住吉町一七一)

加藤輔則

新愛知新聞社賣業務擔當社員、醫師、愛知縣在籍

妻　たま　明一六、九生、愛知、岡本貫一妹

男　亮延　明三八、四生

春雄　明四一、八生

君は愛知縣人加藤德之承の三男にして明治十二年九月を以て生れ同四十三年愛知醫學專門學校を卒業し醫を開業す現時新愛知新聞社業務擔當社員り家族は尙三男豐(大二一、六生)あり(名古屋、南、熱田新尾頭町一)電南二八三)

參照＝岡本貫一の項

加藤成一

從四位勳三等、遞信技師

東京府士族

母　つね　安政四、八生、奈良、士、喜多村助信長女

妻　はるゑ　明二二、三生、東京、渡瀨雅太郎妹

男　正二　大一三、三生

女　多喜子　大二、八生

女　澄子　大四、三生

女　順子　大五、八生

君は東京府士族加藤重成の長男にして明治十二年十月を以て生れ同三十九年家督を相續す同三十五年東京帝國大學工科大學造船科を卒業し農商務技師水產講習所技師特許局審査官遞信局技師海事部橫濱出張所長廣島遞信局海事部長等に歷任し昭和六年遞信技師に任ぜらる大正十五年ジュネーブに於ける第八回國際勞働總會政府代表委員顧問として出席す家族は尙ほ五女知惠子(大九、一二生)六女睦子(同一一、一生)(明一九、四生)同妻貞(同三〇、七生)あり弟重男半兵衛二女)は共に分家し弟成雄(同二三、一一生)同與四郎(同二七、三生)も亦各分家し妹八重(同二一、八生)は東京府士族鈴木重永長男重一に嫁せり(遞信省內)

參照＝渡瀨雅太郎氏小坂順造氏田中次郎氏渡瀨三郎の項

加藤清一

正五位勳五等、鐵道局技師、門司鐵道局船舶課長、山口縣在籍

男　清士　明四五、七生

女　延子　大五、七生

君は山口縣人加藤清右衛門の長男にして明治十二年十月を以て生れ同三十三年家督を相續す同二十九年工手學校機械工學科を卒業し同三十一年新潟鐵工所技手となり後山陽鐵道會社書記帝國鐵道廳技手に任じ大正五年鐵道院技師に進み現時鐵道局技師に出張す家族は尙弟保治(明一四、一一生)同妻ハル(同二六、三生、福岡、山下平太郎長女)及其子女弟武雄(同三一、九生)ありA二女チヨ(同四一、九生)は長崎縣人伊藤久秋に嫁し男正良(昭(同二二、九生)は山口縣人長崎寬隆に嫁し男五郎(昭三、四生、弟武雄長男)は德島縣人門田五郎の養子となれり(門司、清見町鐵道局官舍)電八〇六)

加藤清吉

青森縣多額納稅者、青森商工會議所常議員、青森市政調査委員、青森保善、丸屋同動、松田木材各㈱取締役、金融業、青森興業、青森縣在籍

母　つな　明二三、一生、青森、士、清野衛姉

妻　さた　明二、三生、青森、士、三浦藤兵左次右衛門六女

男　佐吉　明四三、九生、錦城商業學校出身

女　ひさ　明四二、三生、縣立青森高女出身

君は青森縣人加藤東吉の長男にして明治二十年五月を以て生れ大正十年家督を相續す金融業を營み傍ら青森保善丸屋同勤松田木材各會社長にして直接國稅二千四百三十七圓を納め縣下の多額納稅者に列し推されて青森市政調査委員及青森商工會議所常議員たり家族は尙二男吉助(明四五、三生、弘前市東奧義塾在學)三男三吉(大二、一〇生、日本大學附屬第二中學校在學)四男四郎(同四、一二生、東京市成立商業學校在學)二女ノブ(同六、一二生、青森市協成女學校在學)五男直司(同一〇、七生)三女マサ(同一一、一〇生)あり(青森市濱町三四)

加藤清吉

石油協同販賣所㈱取締役、加藤本店賣取締役、東洋物產㈱鑑査役、新潟縣在籍

妻　タカ　明七、九生、東京、豐島雄八郎母

男　清一　明三〇、九生

婿　スエ　明三一、一二生、長男清一妻、新潟、吉田正策二女

女　セツ　明三九、一二生

君は新潟縣人加藤清三郎の男同昇三の養叔父にして慶應二年九月を以て生れ明治二十八年家督を相續す現時前記各會社の重役たり家族は尙孫和子(大九、三生、長男清一長女)同浩一(同一五、二生、同二男)同正子(昭三、八生、同二女)同進治(同五、二生、同三男)あり長女ユキ(明二七、一二生)は新潟縣人神山敬太郎長男榮一に二女レイ(同三六、二生)は同縣人神山賢治に嫁し弟嘉吉(同九、九生)は同縣人伊藤久秋に嫁し弟秀吉(同五、一生)同妻シメ(同一一、八生、新潟、廣谷庄太郎妹)は其一女を伴ひ弟政吉(同一四、五生)同妻トヨ(同一八、一二生、新潟、丸山忠藏二女)も亦一男を伴ひ各分家せりA一五〇〇(長岡、表町二ノ一)電二五一)

參照＝神山敬太郎の項

加藤清二郎

須田町食堂總本店、料理業

東京府在籍

妻　ティ　明三八、四生、新潟、瀨戸長八長女

男　健一郎　昭二、一〇生

君は新潟縣人加藤清作の二男にして明治三十一年四月を以て生れ昭和二年分れて一家を創立す須田町食堂總本店と稱し料理業を營む家族は尙妹ヨシノ(明四〇、九生)あり(東京、神田、淡路町二ノ一)電神田四八〇)

加藤千之助

靜岡縣多額納稅者、加藤商事㈱取締役、織物商、靜岡縣在籍

男　輝久　明二八、一生
婦　とく　明三三、一〇生、三男輝久妻、静岡、齋藤重五郎妹

君は山梨縣人加藤伊兵衛の長男にして安政二年十月を以て生れ明治九年家督を相續し前記會社の重役にして直接國税千六百四十三圓を納め縣下の多額納税者たり家族は尚孫まさ（大一〇、八生、三男、輝久長女）同逸雄（同一二、一一生、同長男）同登美（昭二、一〇生、同二女）同ふい（同五、五生、同三女）あり養子祐治（明一四、五生、静岡、植田彌吉弟）は分家せり（濱松、板屋町）

参照＝加藤祐治氣氣賀勘重の項

加藤　專藏

妻　ふみ　明一七、四生、養父重顯長女
男　重德　明四四、六生
女　絢子　明四二、三生

君は滋賀縣人清水貞三郎の二男にして明治十五年八月を以て生れ先代重顯の養子となり大正八年家督を相續し京都府多額納税者に數へられ直接國税四千百九十圓を納む家族は尚三女千代子（大八、四生）四女美保（同一四、五生）あり長女静子（明三九、五生）は奈良縣人脇野一郎に養叔母かめ（同七、四生）は京都府士族神昭傳に嫁せり（京都、下京、堺町三條下ル電本局七三四）

加藤惣兵衛

妻　タイ　越惣商店名代表社員
男　國一郎　東京府在籍　明九、一一生、東京、島田竹三郎叔母
男　正次郎　明三七、五生、東京商大出身
男　武之助　明四〇、一二生、東京商大在學
　　學　明四五、三生、東京商大豫科在

君は東京府人加藤國松の長男にして慶應三年七月を行つて生れ先代惣兵衛の養子となり明治二十三年家督を相續し襲名す現時越惣商店代表社員たり二女あつ（同三〇、二生）は東京府人渡邊卯吉に三女まち（同四二、七生、府立第二高女出身）は同府人齋藤辨之助長男鐵之助に嫁し長女しさ（明二六、一生）は同府人鈴木福雄の母たり（東京市外巣鴨宮下七〇八電大塚一二三五）

参照＝齋藤辨之助、鈴木福雄、渡邊卯吉の項

加藤惣松

妻　たきの　宮城縣多額納税者、近江屋、呉服商、宮城縣在籍
男　惣兵衛　明一四、一〇生、宮城、大庭彦一郎二女
婦　せつ　明三九、一生
養子　櫻井保之助　明四一、二生、二男惣兵衛妻、宮城、大庭重夫叔父
養子　峻　明四一、三生、養子峻妻
女　はつれ　明四一、六生、二女はつれ夫、宮城、大庭重夫叔父

君は宮城縣人加藤平造の長男にして明治六年十月を以て生れ同四十三年家督を相續す呉服商を營み近江屋と稱す現時宮城縣多額納税者たり家族は尚五男三郎（大七、九生）三女はるの（同一〇、四生）孫和歌子（昭二、二生、二男惣兵衛長女）同松雄（同四、一生）あり妹まつゑ（明二二、四生）は宮城縣人石川純策に同はなえは同縣人澁川渉に嫁し父平造（弘化三、九生）は分家し四男惣助（大二、四生）は其養子となれり（仙臺、名掛町四六電五三）

加藤外松

養父　松太郎　正五位勳五等、大使館參事官、米國在勤、富山縣在籍
養母　すい　明六、六生、富山、二口源十郎二男、現戸主
妻　弓子　明一〇、六生、養祖父彌三八二女
男　明三八、三生、東京、水野幸雄妹

君は富山縣人加藤彌三八の孫にして明治二十三年三月を以て生れ同三十一年加藤松太郎の養子となる同四十四年神戸高等商業學校を卒業し文官高等試驗外交官及領事官補に合格す大正三年領事官補に任ぜられ紐育在勤を命ぜらるゝ尋で外交官補大使館三等書記官公使館二等書記官に歷任し歸朝して外務書記官外務省參事官に任ぜられ歐米局第二課長となり支那公使館一等書記官を經て昭和五官天津駐在總領事米國大使館一等書記官を經て今日に至る家族は尚養弟源三郎（明二九、三生、石川、藪内榮作從妹）及其一女あり養妹きくい（同二六、六生）は富山縣人堀井長平に嫁せり（在米國日本大使館）

加藤鯛一

妻　愛知縣在籍　衆議院議員（愛知縣選出）
母　たき　慶應義塾
妻　しづ　衛門養子　明三〇、六生、愛知、鈴木秀雄妹

君は愛知縣人加藤惣松の二男にして明治二十一年六月を以て生れ同三十一年家督を相續す夙に明治大學に學び著述に從事す郷黨より推されて衆議院議員に當選する事三回現に其任に在り家族は尚長女とし子（大一一、三生）二男正（同一四、九生）二女比佐子（昭三、四生）三男公三（同五、三生）弟勘十（明二五、二生）及其子女同清一（同二六、一二生）同妻みね（同三三、一二生、愛知、寺澤光太郎姪）及び其一子弟俊政（同二九、五生）及其一子あり姉さん（同一八、一一生）は愛知縣人山川兵右衛門四男常十郎に嫁せり（東京市外代々幡町代々木富ケ谷一四五六電四谷六〇六九）

加藤大作

妻　すゑ　愛知縣多額納税者、味噌溜製造業、愛知縣在籍
養子　孝敏　明一五、九生、愛知、近藤萬五郎
養子　孝敏　明二六、五生、長女あき夫、岐阜各務孫左衛門三男
女　あき　明三三、一〇生、養子孝敏妻

君は愛知縣人加藤又三郎の長男にして明治十三年八月を以て生れ同三十六年家督を相續す味噌溜製造業を營み縣下の多額納税者たり家族は尚孫美代子（大六、八生、養子孝敏長女）同幸子（同一五、九生、同二女）同孝子（昭四、四生、同三女）あり弟庄助（明一九、一生）は同妻てつ（同二二、一二生、愛知、石黒磯右衛門二女）及其二男一女を伴ひ弟又七（同二二、二生）同妻かなゑ（同二二、二生、愛知、青山義二妹）は其一子を伴ひ各分家せり（名古屋、南、呼續町背戸田一三電南二二五）

加藤隆義

養母　キヨ　正五位勳二等、子爵、海軍少將、第一航空戰隊司令官、東京府華族
妻　喜美　明七、一二生、廣島、士、木原松三郎姪
男　昇　明二五、一生、先代友三郎長女
男　大五、九生
女　章子　大五、六生

當家は先代友三郎より顯る友三郎は舊藩島藩士にして夙に海軍兵學校を卒業し明治十四年海軍少尉に任じ累進して海軍大將に陞る其間海軍大學校教官筑紫艦長等に歷補し日露戰役には第二艦隊第一艦隊各參謀長として偉勳を奏し功二級に敍し後海軍次官吳鎮守府第一艦隊各司令長官に歷補し海軍大臣たること四回大正九年日獨事件の坊に依り華族に列し男爵を授けらる同十年

華府會議に首席特命全權委員として列國と折衝し歸朝後内閣を組織し總理大臣となる同十二年勳功に依り大勳位に敍し子爵に陞され元帥府に列す君其後を享く君實は男爵越光之丞の叔父にして船越窪の養兄なり明治十六年三月を以て生れ大正十二年先代友三郎の後を相續し襲爵す夙に海軍に入り昭和二年海軍少將に陞る曩に東宮武官兼侍從武官參島艦長を經て國際聯盟陸海軍問題常設諮問委員海軍代表者として佛國に在留し後海軍々令部第一班長に補せられ現職に轉ず家族は尚三女愛子（大九、七生）四女光子（同一一、一〇生）亡養伯父精之助妻クマ（安政五、七生、廣島、山下久忠妹）あり從姉ふみ（明一三、五生、亡養伯父種之助長女）は海軍少將村上鎮吉に同正（同一八、六生、同二女）は東京府人谷谷辰郎に嫁せり（東京、赤坂、青山南町六ノ六一電青山五〇六）

参照＝男爵船越光之丞、船越窪氣男爵山縣有光氣石井徹氣山中勇の項

加藤竹次郎

妻　この　静岡縣多額納税者、静岡縣在籍
男　吉太郎　明九、一二生、静岡、加藤瀧藏二女
男　明二九、四生

君は静岡縣人山田清吉の長男にして明治八年十一月を以て生れ先代この入夫となり同三十二年家督を相續す旅館業を營み静岡縣多額納税者たり長女たけ（大六一生）は静岡縣人大石よしの養子となれり（静岡市紺屋町一二二）

加藤竹松

妻　うた　神奈川電氣㈱取締役兼大阪支店長、愛媛縣在籍
男　一陽　明一〇、三生、三重、士、松田稻一郎妹
男　明四一、八生、工學士

君は愛媛縣人村尾德右衛門の四男にして明治十一年十月を以て生れ先代惣助の養子となり同四十一年家督を相續す現時神奈川電氣會社取締役兼大阪支店長たり長女利子（明三八、九生）は廣島縣人中須賀正三に嫁せり（大阪、東、道修町四丁目電大局三一五三）

加藤武男

妻　三菱銀行㈱常務取締役、日本電池㈱取締役、三菱倉庫、三菱信託、東京海上火災保險、東京府在籍
母　ユキ　明治火災保險、東京府在籍、栃木縣在籍
　　各種監査役、栃木、小野口茂安政二、一二生、栃木、小野口茂左衛門長女

妻　なみ　明一七、五生、山形、士、池田成彬妹、日本女大出身
男　武彦　明四一、九生、慶大經濟科在學
男　次郎　明四三、八生、慶大法科在學
女　君子　明四五、五生、御茶水高女出身
女　章子　大三、一生、双葉高女在學

君は栃木縣人加藤昇一郎の長男にして明治十年六月を以て生れ大正九年家督を相續す明治三十四年慶應義塾卒理財科を卒業し直に三菱合名會社に入る爾來同社神戸大阪各支店長等に歷任し外遊する事二年現時三菱銀行常務取締役にして前記各會社の重役たり家族は尚孫男（明一三、一生）は同妻イヤオ（同二六、九生、廣島、田邊香藏長女）と共に弟左武郎（同一八、三生）は同妻茂登（同二九、一一生、埼玉、渡邊與吉長女）及其二女と共に各分家し長女英子（同四〇、一生）は長野縣人岩波益雄に妹登志は栃木縣人佐藤清喜に同シン（同二一、三生）は青森縣士族乳井龍雄に同千代は長野縣人醫學同士浦野多門治に嫁せり（東京、牛込、市ケ谷河田町電局牛込二八六一）

参照＝池田成彬、加藤左武郎氣池田省三氣岩崎隆彌氣本間利雄の項

加藤辰彌

妻　なみ　從五位、昭和倉庫㈱社長、東海生命保險㈱監査役、東京府士族
男　武彦　明四三、八生、慶大法科在學
男　次郎　明四五、五生、御茶水高女出身
女　君子　大三、一生、双葉高女在學
女　章子　大五、六生、二男惣兵衛妻、宮城、櫻井保之助妹

君は舊尾州藩士加藤重祿の長男にして加藤家第九代の當主たり明治十三年九月を以て生れ同二十年家督を相續す同四十年東京高等商業學校を卒業し東京商業會議所に入り同四十二年米國商業會議所の招聘に應じ渡米す同四十四年第二次西園寺大正二年第一次山本内閣の成立に及び總理大臣祕書官に任ぜられ後官を辭し南滿洲會社に入り爾來銀行業會社等の經營に當り同十二年第二次山本内閣の組織あるや再び總理大臣祕書官となり從五位に敍せられ同十三年内閣更迭に際し官を退き現時昭和倉庫會社の重役を兼ぬ弟雄（同一八、一生、東京外國語學校出身）は鹿島牧六の養子となれりA一四七二（東京、麻布、龍土町七四電青山五三一〇）

加藤爲二郎

妻　タキエ　加藤商事㈱社長、鳳城炭礦㈱專務取締役、大瀧鎭山、大正石炭㈱取締役、東京府在籍
男　秀男　明元、一生、德島、士、藤本邦宗妹明三三、一二生、法學士
男　一雄　大九、二生

君は愛知縣人加藤龜次郎の二男にして明治二十一年六月を以て生れ同三十一年家督を相續す夙に明治大學に學び著述に從事す鄉黨より推されて衆議院議員に當選する事三回現に其任に在り家族は尚長女とし子（大一一、三生）二男正（同一四、九生）二女比佐子（昭三、四生）三男公三（同五、三生）弟勘十（明二五、二生）及其子女同清一（同二六、一二生）同妻みね（同三三、一二生、愛知、寺澤光太郎姪）及び其一子弟俊政（同二九、五生）及其一子あり姉さん（同一八、一一生）は愛知縣人山川兵右衛門四男常十郎に嫁せり（東京市外代々幡町代々木富ケ谷一四五六電四谷六〇六九）

加藤大作

妻　すゑ　愛知縣多額納税者、味噌溜製造業、愛知縣在籍
養子　孝敏　明一五、九生、愛知、近藤萬五郎
養子　孝敏　明二六、五生、長女あき夫、岐阜各務孫左衛門三男
女　あき　明三三、一〇生、養子孝敏妻

君は愛知縣人加藤又三郎の長男にして明治十三年八月を以て生れ同三十六年家督を相續す味噌溜製造業を營み縣下の多額納税者たり家族は尚孫美代子（大六、八生、養子孝敏長女）同幸子（同一五、九生、同二女）同孝子（昭四、四生、同三女）あり弟庄助（明一九、一生）は同妻てつ（同二二、一二生、愛知、石黒磯右衛門二女）及其二男一女を伴ひ弟又七（同二二、二生）同妻かなゑ（同二二、二生、愛知、青山義二妹）は其一子を伴ひ各分家せり（名古屋、南、呼續町背戸田一三電南二二五）

加藤隆義

養母　キヨ　正五位勳二等、子爵、海軍少將、第一航空戰隊司令官、東京府華族
妻　喜美　明七、一二生、廣島、士、木原松三郎姪
男　昇　明二五、一生、先代友三郎長女
男　大五、九生
女　章子　大五、六生

當家は先代友三郎より顯る友三郎は舊藩島藩士にして夙に海軍兵學校を卒業し明治十四年海軍少尉に任じ累進して海軍大將に陞る其間海軍大學校教官筑紫艦長等に歷補し日露戰役には第二艦隊第一艦隊各參謀長として偉勳を奏し功二級に敍し後海軍次官吳鎮守府第一艦隊各司令長官に歷補し海軍大臣たること四回大正九年日獨事件の坊に依り華族に列し男爵を授けらる同十年

歸　直子　明四〇、六生、長男秀男妻、東京水谷洗五郎長女
男　貞　明四二、一生
女　桂　明四三、五生

君は德島縣人加藤爲世の弟にして安政五年六月を以て生れ明治三十年分れて一家を創立す現時加藤商事會社長たる外前記各會社の重役たり家族は尚孫男也（昭三、八生、長男秀男長男）同久直（同四、一一生、同二男）あり長女ハナ子（明二九、二生）熊本縣人加來直彥弟美知雄に三女操（同三二、八生）は東京府人大森宅二に嫁せり（東京市外中野町谷戸二三八七電四谷二四〇六）

参照＝大森宅二の項

加藤常次郎

妻　けい　正五位勳四等、釜山中學校長、滋賀縣在籍
男　正郎　明一七、二生、千葉、平野眞一郎妹
女　智　明四二、一一生
　　藥　大元、一一生
女　大五、四生

君は滋賀縣人中村助五郎の二男にして明治四年十月を以て生れ同十五年先代富藏の養子となり家督を相續す同二十九年東京帝國大學文科大學史學科を卒業し羅岡縣久留米尋常中學校山形縣中學校各教諭岐阜縣立東濃中學校教諭同校長羅岡縣立中學傳習館長同縣立三池中學校同縣立中學明善校京城高等普通學校京城公立中學校各校長を經て現時釜山中學校長たり（釜山、釜山中學校）

加藤常美

妻　三越㈱京城支店長、京城放送局理事、茨城縣在籍
父　源三郎　文久、三生、茨城、長岡寛十郎弟、現戸主
母　とめ　文久元、一〇生、茨城、士、長岡正仲妹
妻　仁子　明三三、二生、福島、樫村喜久太郎三女、淑德高女出身
男　義朗　大八、四生

君は茨城縣人加藤源三郎の二男にして明治十九年八月を以て生る同三十二年三越呉服店に入り在店中中央商業學校を卒業し後大阪支店に轉ぜしが大正十三年京城支店長となり今日に至る傍ら京城放送局理事に推さる家族は尚長女婦美子（大一〇、八生）二男康男（同二一、一一生）二女喜美子（同一五、二生）三女惠美子（昭三、三生）四女美津子（同四、六生）の外兄補（明一七、六

生)同妻ちやう(同二九、一一生、茨城、大橋久平妹)及其二子弟爽伍(同二九、八生)妹久子(同三六、三生)あり同みち(同二七、四生)は茨城縣人立花敏長男毅に嫁し弟錄之助(同三五、五生)は神奈川縣人安田秀雄に同清(同二四、八生)は東京府士族芹澤幹方に各爽子となれり(京城、旭町二六六**電本局一六三六**)

加藤　強　南樺太漁業㈱專務取締役、樺太物産㈱取締役、北海道在籍
妻　ヤチ　明元、六生、爽母スキ長女
庶子　貞治　昭二、八生、生母、小林つる

君は新潟縣人黑部權吉の二男にして明治二年五月を以て生れ同縣人加藤スキの爽子となり同三十六年家督を相續す現時前記各會社の重役にして義に大沼爽狐會社取締役たり家族は尙庶子靖英(昭四、五生、生母、小林つる)あり**A一〇一**(函館、元町五六)

加藤　毅　從五位、鐵道局技師、名古屋鐵道局工作課車輛掛長、靜岡縣士族
母　みつ　安政五、五生、祖父重華長女
妻　てつ　明三〇、一生、靜岡、鈴木正鍊二女

君は靜岡縣士族加藤兼之の長男にして明治二十三年十二月を以て生れ同二十八年家督を相續す大正四年東京帝國大學工科大學機械工學科を卒業し鐵道局雇となり爾來鐵道院技手同技師鐵道局技師等に歷任す其間神戶鐵道管理局鷹取工場東京鐵道局大井工場各勤務工作局工場課勤務等に補せられ昭和二年再び鐵道局技師に任じ現に名古屋鐵道局工作課車輛掛長たり家族は尙長女良(大一〇、九生)二女尹久(昭五、八生)あり(名古屋、東、大曾根町二一七)

加藤傳右衛門　自傳商店、內外木材商、愛知縣在籍
母　さと　明二六、一生、愛知、中川儀助三女

君は愛知縣人先代傳右衛門の長男にして大正四年八月を以て生れ同十三年家督を相續し前名清一を改め襲名す家業を繼ぎ內外木材商を營み自傳商店と稱す家族は尙姉敏子(大二、八生)弟亮二(同六、三生)同賢三(同七、二生)妹康子(同九、一生)あり(名古屋、東、久屋町二ノ五**電東一一七〇**)

加藤戶一　中國酒造㈱專務取締役、廣島縣在籍
妻　よね　明一〇、四生、愛知、士、鈴木錠太郎長女
爽子　義夫　明二七、一一生、二女艷子夫、大阪、稻本平兵衛二男
女　艷子　明三〇、九生、爽子義夫妻

君は愛知縣人森川彌八の二男同彌吉の爽兄にして明治三年六月を以て生れ先代ふつの爽子となり同十九年家督を相續す乾物商を營み傍ら寶塚ルナパーク會社取締役たり家族は尙孫與一郎(大六、六生、爽子義夫長男)同誠三(同八、三生、同二男)同益男(同一〇、一一生、同三男)同圭四郎(同一三、七生、同四男)同悅子(昭二七生、同長女)あり(大阪、北、天神橋筋一ノ九**電堂北三三七一**)

加藤俊夫　廣島縣會副議長、廣島市會議長、愛媛縣在籍
母　マサ　文久二、三生、祖父庫二長女
妻　ノブ　明三〇、九生、島根、伊藤鶴太郎二女

君は愛媛縣人加藤省五の長男にして明治十八年八月を以て生れ同二十六年祖父舊大庄屋庫二の家督を相續す現時廣島縣會副議長を重任し又同市會副議長より同市會議長に歷任す姉コト(明一七、一生)は代議士辯護士藤田若水に妹澤(同二四、一生)は大分縣人辯護士辛島清に同ミチコ(同一三、一一生)は東京府土木技師栗山善之助に嫁し弟紀(同二七、二生)同浩三(同二九、三生)は各分家せり(廣島市鐵砲町**電三五一五**)

參照＝藤田若水の項

加藤友吉　靜岡縣多額納稅者、島田銀行㈱取締役、加藤商事㈱無限責任社員、農業、靜岡縣在籍
妻　まつ　文久二、六生、靜岡、鈴木傳內三女
男　利八　明一三、九生
男　弘造　明二八、一〇生、島田銀行㈱支配人、加藤商事㈱無限責任社員
婦　ツナ　明三八、九生、五男弘造妻、神奈川、小島政五郎四女

君は靜岡縣人加藤源藏の長男にして安政四年七月を以て生れ明治二十一年家督を相續す農業を營み前記銀行會社の重役にして直接國稅三千七百七十一圓を納め靜岡縣多額納稅者たり長女りき(明一七、一生)は靜岡縣人谷津左次郎長男清一に二女ちと(同二一、八生)は同縣人濱美鈞一郎長男正藏に三女れち(同三一、四生)は同縣人鈴木信一長男正男に嫁し二男益藏(同一九、一生)同妻ふく(同二五、六生、靜岡、加藤光太郎二女)は其一子を伴ひ四女ます(同三五、二生)は同夫斗吉(同二九、一生、靜岡、加藤光太郎四男)と共に各分家し妹しま(同三、三生)弟米次郎(同二三、一二生)同源次郎(同二六、八生)も亦各分家し妹とり(同一七、一生)同夫吉(同二二、一生、靜岡、新聚市右衛門三男)も亦其二子を伴ひ分家し繼母よし(嘉永五、一生、靜岡、村田嘉門妹)は其家籍に入り四男春吉(明二六、三生)は靜岡縣人加藤利七の爽子となれり(靜岡、志太、島田町)

參照＝加藤利八、小島政五郎、鈴木信一、冰川口義久、冰小島政八、冰小林戶四郎の項

加藤友次郎　興東公司、三龍社、丸二製絲各㈱取締役、愛知縣在籍
妻　きく　明八、一一生、三重、瀧本辰吉妹
爽子　康治　明三五、一〇生、爽子きみ夫、愛知、高屋和男弟
爽子　きみ　明四一、三生、爽子康治妻、弟由太郎長女

君は愛知縣人加藤太七の二男にして明治五年七月を以て生れ同二十八年兄慶次郎の後を相續す現時前記諸會社の重役たり家族は尙孫允子(昭四、一二生)同妻たき(明一六、七生)同群馬、坂田秋姉)弟由太郎(同一二、二生)同妻みか(同一九、三生、栃木、田村春男爽母)及其子女あり姉ふさ(同二、一生)は愛知縣人深澤增吉に妹なか(同七、一二生)は同縣人松浦源八四男助吉に同やす(同一八、四生)は同縣人宮部敬三郎に嫁せり(岡崎、連尺町一二四)

加藤知正　衆議院議員(新潟縣選出)、帝國㈱絲㈱監査役、東京高等㈱絲學校講師、大日本㈱組合副會長、帝國養㈱新潟縣在籍
妻　りセ　明四一、二生、兄渡邊龍聖三男郎妹　六、一生、新潟、齋藤岩太

君は新潟縣人加藤周淨の二男にして文學博士渡邊龍聖の弟なり明治六年十一月を以て生れ大正七年家督を相續す先是明治三十三年東京高等㈱絲學校を卒業し南光社を主宰して出版業を營み又大日本㈱絲會學齡委員たり家族は尙長女美代子(大七、四生)あり長男弘(同九、一一生)は兄弘次郎の爽子となれり(漢口、太平街三井洋行內)

妻　マサ子　明二〇、四生、島根、佐川豐田三女
男　憲一郎　大八、二生
女　衣子　大二、一一生
女　文子　大四、五生

君は廣島縣人加藤市右衛門の長男にして明治十一年二月を以て生れ大正二年家督を相續す現時中國酒造會社專務取締役たり家族は尙三女英子(大六、七生)二男平二郎(同九、八生)あり弟逸平(明一七、一一生)同四郎(同三六、一二生)及其一子は各分家し妹フクヨ(同二三、一一生)は廣島縣人波田信治に嫁せり(廣島、双葉原村)

加藤藤太郎　室蘭埠頭倉庫、北海道合同電氣、札幌逓電各㈱監査役、香川縣在籍
母　ヤス　慶應三、一〇生、香川、大森宇吉長女
妻　高子　明三一、六生、廣島、渡邊文治三女
男　幹雄　大八、一一生

君は香川縣人加藤龜造の長男にして明治二十年十月を以て生れ大正四年家督を相續す先是明治四十三年東京高等商業學校を卒業し現時室蘭埠頭倉庫會社監査役たる外前記各會社の重役たり家族は尙二男威二(大九、一二生)長女登喜子(同一三、一生)三男司郎(昭二、六生)亡弟善明妻カツミ(明二八、一一生、香川、瀧本與吉三女)及其三男一女弟要(同三六、七生)同妻キヌ(同三六、六生、香川、安藤孝母)及其三男一女並に叔父柳治(同三、一一生)あり弟優(同三二、二生)は香川縣人矢野類治の爽子となれり(北海道勇拂、苫小牧町)

加藤亨　正五位、醫學博士、耳鼻咽喉科加藤病院長、醫師、大阪府士族
妻　はるよ　明一八、一二生、宮城、士、井村重春三女
男　嘉彥　大二、一〇生
女　美代　明四三、八生

君は大阪府士族加藤謙藏の長男にして明治八年八月を以て生れ同三十六年家督を相續す同三十七年東京帝國大學醫科大學を卒業し同四十三年醫學教育視察の爲獨逸に差遣せられ大正三年醫學博士の學位を受く醫を開業し現時前記加藤病院長にして義に大阪醫科大學教授たりしことあり家族は尙姉みさを(明五、九生)妹桂(同一一、三生)あり同すゑ(同一八、一生)は東京府人穎原淵之助に同清野(同一九、一一生)は高知縣人藤村守壽に嫁せり(大阪、東、道修町一ノ一**電本局三四五〇**)

參照＝穎原淵之助の項

加藤時也　平民病院長、醫師、大阪府在籍
妻　ハル　明二〇、四生、大阪、北中常次郎爽子
女　マサ　大三、一一生

當家は先代時次郎より知らる時次郎夙に醫學を修め獨逸に遊學して外科及皮膚病學を研究し加藤病院を設立し多年診療に從事す後之れを平民病院と改め又實貿診療所を創設す卽ち開業醫にして實貿診療の嚆矢なり君は其長男にして明治十七年九月を以て生れ大正九年家督を相續す明治三十八年愛知醫學專門學校を卒業し獨逸に學び稱號を得父業を繼ぎ大阪平民病院を經營す繼母さき(明一〇、二生、靜岡、穎原祐次郎爽妹)は爽妹きみ(同三三、五生、靜岡、穎原祐次郎長女)妹時江(大六、一一生)を伴ひ分家せり(大阪、住吉、松並通二ノ二四**電住吉二八七四**)

加藤德雄　日清製粉㈱商務課長、東京府在籍
父　甚藏　安政五、一生、現戶主
繼母　チウ　明七、二生、東京、士、相川孫九郎長女
妻　トモ　明三一、九生、栃木、松本貞吉爽子
男　俊英　大一一、一生

君は東京府人加藤甚藏の二男にして明治二十四年一月を以て生る同四十四年東京高等商業學校を卒業し現に日清製粉會社商務課長たり家族は尙長女俊子(大九、七生)二女邦子(同一二、六生)二男淑裕(同一三、八生)三男祥行(同一五、一生)四男晴康(昭三、二生)妹通子(明四〇、一生)弟恒夫(同四二、三生)あり妹あさ子(同三八、二生)は東京府人平田常次郎長男輕次郎に嫁せり(東京、小石川、西江戶川町一二**電堂小石川三一八八**)

加藤德次郎　寶塚ルナパーク㈱取締役、乾物商、大阪府士族
妻　美稻　明二九、六生、東京、安田敬藏姉
男　民雄　大一二、三生

君は三重縣人藤田宗八の三男にして明治十五年七月を以て生れ先代有章の爽子となり大正十四年家督を相續す明治四十年東京帝國大學醫科大學を卒業し大學院に入り後內科學研究の爲獨墺英に留學し仙臺醫學專門學校東北帝國大學醫科大學各教授に歷任し大正五年醫學博士の學位を授けらる現時東北帝國大學教授にして醫學部に勤務す昭和三年土耳古及歐洲各國に出張し埃及陛下よりグランオフイシエー・ニル勳章を受領す家族は尙二女すみ(大六、二生)三女あき(同七、一〇生)四女よし(同九、一〇生)五女やゑ(同一五、七生)あり爽妹けん(明三一、六生)は愛知縣人名古屋醫科大學講師醫學博士小川嚴に嫁し同のぶ(同一六、九生)は三重縣人加藤金藏の爽子となれり(仙臺、元柳町五七**電一五六五**)

參照＝速水健治郎の項

加藤豐治郎　國大學教授、醫學博士、東北帝國大學醫學部勤務、三重縣在籍
爽母　くす　文久三、九生、三重、速水健治郎姉
妻　みゑ　明四四、一二生、爽父有章三女
女　しづ　明一九、九生、宮城第一高女及東京家政學院出身

君は三重縣人藤田宗八の三男にして明治十五年七月を以て生れ先代有章の爽子となり大正十四年家督を相續す明治四十年東京帝國大學醫科大學を卒業し大學院に入り後內科學研究の爲獨墺英に留學し仙臺醫學專門學校東北帝國大學醫科大學各教授に歷任し大正五年醫學博士の學位を授けらる現時東北帝國大學教授にして醫學部に勤務す昭和三年土耳古及歐洲各國に出張し埃及陛下よりグランオフイシエー・ニル勳章を受領す家族は尙二女すみ(大六、二生)三女あき(同七、一〇生)四女よし(同九、一〇生)五女やゑ(同一五、七生)あり爽妹けん(明三一、六生)は愛知縣人名古屋醫科大學講師醫學博士小川嚴に嫁し同のぶ(同一六、九生)は三重縣人加藤金藏の爽子となれり(仙臺、元柳町五七**電一五六五**)

參照＝速水健治郎の項

絲業界に盡瘁する所あり蠶業大辭書及び蠶業經濟論は其著す所なり鄕寓より推されて衆議院議員に當選する事三回に及び現に東京高等蠶絲學校講師を囑託せらる(東京、牛込、早稻田南町二〇**電牛込二五四五**)

參照＝渡邊龍聖の項

加藤豐治郎　國大學教授、醫學博士、東北帝國大學醫學部勤務、三重縣在籍
爽母　くす　文久三、九生、三重、速水健治郎姉
妻　みゑ　明四四、一二生、爽父有章三女
女　しづ　明一九、九生、宮城第一高女及東京家政學院出身

君は三重縣人藤田宗八の三男にして明治十五年七月を以て生れ先代有章の爽子となり大正十四年家督を相續す明治四十年東京帝國大學醫科大學を卒業し大學院に入り後內科學研究の爲獨墺英に留學し仙臺醫學專門學校東北帝國大學醫科大學各教授に歷任し大正五年醫學博士の學位を授けらる現時東北帝國大學教授にして醫學部に勤務す昭和三年土耳古及歐洲各國に出張し埃及陛下よりグランオフイシエー・ニル勳章を受領す家族は尙二女すみ(大六、二生)三女あき(同七、一〇生)四女よし(同九、一〇生)五女やゑ(同一五、七生)あり爽妹けん(明三一、六生)は愛知縣人名古屋醫科大學講師醫學博士小川嚴に嫁し同のぶ(同一六、九生)は三重縣人加藤金藏の爽子となれり(仙臺、元柳町五七**電一五六五**)

参照＝加藤弘次郎の項

加藤直法

妻　やす　明三九、三生
男　靖夫　明四四、一生
男　道夫　明四四、一生

君は埼玉縣人加藤清助の長男にして同政之助の甥なり明治七年九月を以て生れ同三十六年家督を相續す同二十九年慶應義塾正科を卒業し三井銀行員となり後東神倉庫會社に轉じ累進して門司大阪各支店長を歴任す現時同社神戸支店長にして彙れて新港相互館大正運輸各會社の重役に擧げらる家族は尚四男歳夫（大三、三生）五男幹夫（同五、三生）六男嗣夫（同六、一一生）二女元子（同九、一生）七男鐵夫（同一一、一生）弟武宗（明二五四生）同妻みち（同三二、九生、鹿兒島、廻源七郎姪）及其子女あり長女芳江（同三六、一一生）は東京府人辯護士パリスター法學士伊藤重次に妹喜代（同一九、四生）は埼玉縣人仙場平八五男新作に嫁し弟義邦（同一六、一生）同妻敏（同二二、一生、東京、福田浩治妹）は其二女を伴ひ分家し同東（同三六、二生）も亦分家し同昇（同三一、一生）は北海道人加藤勘助の養子となれり A一七五四（神戸、加納町二ノ二電**葵合三〇七七**）

参照＝伊藤重次、加藤政之助の項

加藤仲二　從五位勳五等、鐵道局技師

母　きよう　明三六、九生、大阪、林四郎長女
妻　積子　昭四、四生
男　亮　昭四、四生

君は東京府士族加藤尚志の二男にして明治二十年二月を以て生る同四十三年東京帝國大學工科大學機械工學科を卒業し大正五年鐵道院技師に任ぜられ同九年鐵道事業研究の爲米國及び獨國に留學す歸朝後鐵道局技師となり門司鐵道局小倉工場長を經て東京鐵道局大宮工場長たりしが昭和五年三月ソヴィエト聯邦政府に招聘せらる家族は尚長女敬子（昭二、六生）兄常太郎（明一七、八生、現戸主）同妻豐（同二七、二生、千葉、椎名彌姉）及び其子女弟邦三（同二一、一一生）同四郎（同三五、二生）同六郎（同三七、二生）同七郎（同四〇、六生）同八郎（同四一、九生）叔母あや（同一五、六生）叔父博丸（同二五、一〇生）同妻チヱ（同三二、一一生、福岡、井上重若孫）及其一子あり妹浪子（同二七、九生）は醫學博士河田直吉に同秋（同三一、一〇生）は新潟縣人小林安二郎弟哲之助に嫁せり（東京市外中野町打越一〇）

加藤八郎右衛門　神奈川縣多額納稅者、東神土地株式會社長、加藤貿易株式會社代表取締役、七十四銀行、横濱興信銀行、横濱倉庫、鶴八醬油各株式取締役、神奈川縣在籍

母　イチ　文久二、一二生、神奈川、加藤仙太郎二女
妻　ワカ　明一五、八生、東京、萩原半藏長女
男　迪大　元、一〇生
男　敦　明三九、一一生

君は神奈川縣人先代八郎右衛門の四男同十藏の弟にして明治十三年七月を以て生れ同三十八年家督を相續す同前名雄八を改め襲名す現時前記各會社の重役にして直接國稅五千三百三圓を納め縣下の多額納稅者に列す家族は尚三男滋（大四、一生）三女照（同七、一生）妹トミ（明二二、一二生）同夫久也（同二一、三生、東京、萩原牛次郎弟）及其二子同郁（同二一、三生、東京、萩原牛次郎弟）及其二子同郁（同二一、三生、東京、萩原牛次郎弟）及其二子同郁

男　倍一郎　明二三、三生
婦　シゲ子　明三四、一〇生、長男倍一郎妻、愛知、中根與七六女
女　爾子　明四〇、五生
　　依子　明四四、一二生

君は大阪府人先代武左衛門の長男にして明治三年八月を以て生れ同十四年家督を相續す加藤武商店と稱し貿易商を營み傍ら前記各會社の重役たり家族は尙孫淑子(大一〇、九生、長男倍一郎長女)あり二女道(明三八、一〇生)同夫市錄(同三二、一〇生、愛知、林市兵衛三男)は其一子を伴ひ分家せりA一八二六B一〇六(大阪南、末吉橋通四ノ二八**電船場一九二九**)

參照＝中根與七※神戸ったの項

加藤文平

母　カネ　明治屋穩取締役兼福岡支店長、布引鑛泉所穩取締役、福岡縣在籍元治元、一生、加藤八長女
妻　シヅ　明一五、一〇生、北海道、土田平造妹
男　政雄　明四四、九生

君は新潟縣人近藤平五郎の長男にして明治十七年九月を以て生れ同四十年祖母カツの養を承け家督を相續す現時明治屋取締役兼福岡支店長たる外前記會社の重役たり家族は尙二男芳雄(大五、六生)三女とし(同七、一一生)三男文雄(同一〇、一一生)四女けい(同一三、三生)あり(福岡市春吉五番丁六六二**電四九二二**)

加藤平次郎

妻　マツ　横濱商工會議所議員、東京木材倉庫穩社長、太平洋貿易、東京木材市場各穩取締役、加藤貿易商、神奈川縣在籍
男　健太郎　明三八、三生
男　敏明　明四三、一生

君は石川縣人原長平の三男にして明治六年十二月を以て生れ同三十五年先代マツの入夫となり家督を相續す貿易商を營み傍ら前記各會社の重役にして横濱商工會議所議員に推さる家族は尙三男外志正(大二、一生)四男猛(同三、三生)あり長女外茂子(明三五、九生)は同夫治助(同二三、九生、靜岡、山本米吉弟)と共に二女富美子(同四〇、七生)は同夫平治(同三五、一〇生、靜岡、中村陸平二男)と共に各分家せりA一五八(横濱、中、南仲通一ノ三**電本局九三六**)

參照＝加藤源次、中村陸平の項

加藤平次郎

妻　ろく　東京木材倉庫穩社長、東京木材市場穩取締役、佐野平、材木商
　　東京府在籍
　　明一五、一生、東京、中村茂八養妹
養子　眞次郎　明三六、三生、養子久子夫、東京長島吾助二男
養子　久子　明三八、三生、養子眞次郎妻、東京、野本善三郎長女

君は東京府人吉田助藏の二男にして慶應元年四月を以て生れ先代平次郎の養子となり明治二十六年家督を相續し前名權次郎を改め傳名す佐野平と號し材木商を營み傍ら前記各會社の重役たり(東京、深川、數矢町二二**電本所三二四六**)

參照＝中村茂八、長島吾助、野本善三郎※伊勢本久吉白石甚兵衛※松本芳藏の項

加藤平八

妻　そゑ　長野縣多額納稅者、信產銀行穩取締役、酒造業、長野縣在籍
母　ゑん　明一四、九生、愛媛、榊原正臣養安政四、三生、長野、加藤小平養子
男　閑延　明一四、六生
婦　ヒサ　小松利忠姪　明一五、八生、養父勘治郎長女
　　明二一、九生、長男閑延妻、福岡
　　明三七、六生
　　明四二、六生、長男義雄妻、長野
　　明一八、一二生、二女ハツ夫、愛媛、井手儀平三男
　　明四二、一生
　　明三七、六生、長男義雄、長野
　　明四二、一生

君は長野縣人篠田龜作の三男にして明治九年四月を以て生れ先代勘治郎の養子となり大正十二年家督を相續す酒造業を營み傍ら前記銀行の重役にして直接國稅二千百七十圓を納め縣下の多額納稅者たり家族は尙孫仁美(昭五、一生、長男義雄長男)あり(長野、下伊那、飯田町)

參照＝※平澤源藏の項

加藤正惠

妻　そゑ　正八位勳四等、愛媛縣多額納稅者農業、愛媛縣在籍
母　ゑん　明一四、九生、愛媛、榊原正臣養
男　閑延　明一四、六生
婦　ヒサ　小松利忠姪　明二一、九生、長男閑延妻、福岡
　　明一八、一二生、二女ハツ夫、愛媛、井手儀平三男
養子　勝三郎　明一五、五生、養子勝三郎妻
孫　ハツ　明一五、五生、養子勝三郎妻
孫　正郎　明二九、一二生、長男閑延長男
孫妻　頴子　明二九、六生、孫正郎妻、愛媛、忽那啓三郎長女
孫　重義　明三三、七生、養子勝三郎長男
孫　正義　明四一、三生、長男閑延三男
孫　正延　明四二、七生、長男閑延四男
孫　彌惠子　大元、一生、養子勝三郎長女
孫　壽惠子　大二、六生、長男閑延二女

君は愛媛縣人加藤清吉の長男にして嘉永四年五月を以て生れ後家督を相續す農業を營み愛媛縣多額納稅者にして直接國稅四千八百二十三圓を納む第三回互選に當選し貴族院議員となる家族は尙曾孫惠美子(昭三、七生、孫重義庶子、生母愛媛、玉井文江)同惠一(同五四生、同庶子、生母同上)あり孫百合子(明三四、八生、長男閑延長女)は愛媛縣人近藤正臣に同正臣(同四三、九生、同五男)は東京府人綸原そゑに同正則(同四五、一生、同六男)は香川縣人末廣ツネヨに各養子となれり(愛媛新居、多喜濱村)

加藤正男

妻　キン　東洋リノリューム穩常務取締役大阪府士族　明二〇、三生、滋賀、士、宇津木孚明七女
男　長策　大元、九生

君は大阪府人中野政六の長男にして明治十七年三月を以て生れ先代長次郎の養子となり大正六年家督を相續す先是明治四十一年慶應義塾理財科を卒業し直ちに山口銀行に入り累進各支店長を經て本店營業部長に推され大正十五年取締役に擧げらる其間經濟界視察の爲歐米各國に漫遊す後同行を辭し現時東洋リノリューム會社常務取締役たり家族は尙三男逢男(大五、一二生)四男資郎(同八、七生)五男吾郎(同一一、一〇生)六男尙也(同一四、五生)あり長女富子(明四二、六生、大谷女學校出身)は東京府人石橋甫二男誠に嫁し二男武男(大三、一一生)は大阪府人中野すえの養子となれりA九三八(兵庫、川邊、小濱村川面寶塚一九ノ四**電寶塚五一四**)

參照＝石橋甫の項

加藤正馨

母　フサ　小池銀行穩參事、小池資理事
　　島根縣士族　安政二、六生、山口、士、大草祐純二女
女　ハツ　明一五、五生、養子勝三郎妻
孫　正郎　明二九、一二生、長男閑延長男
孫妻　頴子　明二九、六生、孫正郎妻、愛媛、忽那啓三郎長女
孫　重義　明三三、七生、養子勝三郎長男
孫　正義　明四一、三生、長男閑延三男
孫　正延　明四二、七生、長男閑延四男
孫　彌惠子　大元、一生、養子勝三郎長女
孫　壽惠子　大二、六生、長男閑延二女

君は愛媛縣人加藤清吉の長男にして嘉永四年五月を以て生れ後家督を相續す農業を營み愛媛縣多額納稅者にして直接國稅四千八百二十三圓を納む第三回互選に當選し貴族院議員となる家族は尙曾孫惠美子(昭三、七生、孫重義庶子、生母愛媛、玉井文江)同惠一(同五四生、同庶子、生母同上)あり孫百合子(明三四、八生、長男閑延長女)は愛媛縣人近藤正臣に同正臣(同四三、九生、同五男)は東京府人綸原そゑに同正則(同四五、一生、同六男)は香川縣人末廣ツネヨに各養子となれり(愛媛新居、多喜濱村)

妻　とく　明二六、一一生、東京、淺川秀次姉
男　正策　大六、一一生

君は島根縣士族加藤正眞の二男にして明治二十一年三月を以て生れ大正二年家督を相續す同四年帝國大學法科大學を卒業し現時小池銀行參事にして小池合資會社理事たり家族は尙二男馨次(大一〇、七生)長女節子(同二二、一〇生)二女倭子(同一五、一二生)三女牧子(明一四、四生)四女明子(同五、一二生)あり姉よしの(明一八、九生)は秋田縣士族柿岡時泰に妹ヒデ(同二七、一一生)は島根縣人伊藤仁平治長男重市に嫁せりA二〇五(東京、麻布、笄町一七五**電青山七七九三**)

參照＝淺川秀次の項

加藤正人

父　松太郎　錦華紡績穩取締役兼取引係長東京府士族　元治元、四生、現戸主
母　とら　慶應二、一生、群馬、士、大澤師容長女
妻　ヨネ　明三〇、九生、栃木、上岡兼吉二女

君は東京府士族加藤松太郎の二男にして明治十九年八月を以て生る夙に實業界に入り現時錦華紡績會社の重役にして蠶に浪速紡績金澤紡績各會社に重役たりし事あり家族は尙長女悅子(大一五、九生)二女百合(昭二、一二生)三女節子(同五、二生)の外兄庸一(明一六、七生)同妻かの(同二四、三生、東京、筏井辰廣二女)及其一男三女あり(兵庫、武庫、精道村打出廣野二〇一**電青屋三四六**)

加藤正信

妻　ヤス　栃木縣多額納稅者、黑羽商業銀行農商無盡、三共社印刷所、加藤肥料店各穩取締役、下毛貯蓄銀行、齋藤商店各穩監査役、農業
　　明一九、六生、栃木、齋藤酉之助長女
男　恭平　明四二、一生
女　マサヨ　大元、九生
　　大四、九生

君は栃木縣人加藤太平の三男にして明治十四年十月を以て生れ大正六年家督を相續す農業を營み傍ら前記銀行會社の重役にして栃木縣多額納稅者に列し直接國稅五千五百七十六圓を納む家族は尙弟大八(明一七、九生)同妻アヤ(同二九、一一生、埼玉、齋藤安雄四女)及其二女淑父丑之助(嘉永六、八生)同妻アキ(萬延元、二生、谷村鉞之丞長女)あり二女ノブ(明四四、八生)は東京府人森宗作長男正男に姉カツ(慶應三、四生)は栃木縣人鈴木良一に嫁せり(栃木、鹽谷、北高根澤村)**電寶積寺三五**)

參照＝鈴木良一、森宗作の項

加藤正治

妻　すみ　從三位勳二等、法學博士、帝國學士院會員、鳥取縣在籍
男　正德　明一五、一生、養父正義長女
男　正通　明三七、一生
女　淑子　明四四、一一生
女　泰子　大二、四生、變葉高女出身

當家は先代正義に依つて家名を揚ぐ正義は鳥取縣の人明治十八年農商務權少書記官となる此年政府三菱共同汽船會社を合併し日本郵船會社を創立するに際し委員長森岡昌純を輔け同二十二年同社理事となり同二十六年取締役に選任し同二十八年湖南汽船會社の件の功に依り勳四等に敍し同三十四年帝國海事協會長に選任せらる翌年北清事件の功に依り勳三等に敍し次で東京商業會議所特別議員に擧げられ日露事件の功に依り勳二等に陞敍し大正四年特旨を以て正五位の位記を賜ふ其間歐米印度を漫遊し同四十年歸朝す東京市會議員扶桑海上火災保險會社長日本郵船會社相談役帝國海事協會日本海員披濟會各理事に推薦せられ實業界の重鎭たりき君は長野縣人平林行雄の弟にして明治四年三月を以て生れ先代正義の養子となり大正十二年家督を相續す明治三十年東京帝國大學法科大學を卒業し同三十二年破產法研究の爲獨佛に留學し同三十六年歸朝東京帝國大學法科大學教授となり同三十七年法學博士の學位を受く現時帝國學士院會員たり家族は尙三男正隆(大五、一〇生)四男正泰(同七、一二生)三女明子(同九、四生)五男正明(同一一、一生)あり(東京、麴町、元岡町一ノ二**電九段九三〇**)

加藤正擴

從五位勳六等、朝鮮總督府技師、土地改良部勤務、愛知縣在籍
妻　ひろ　明三二、五生、富山、仁步駒次郎長女
男　正男　大七、一〇生

君は愛知縣人加藤廣三郎の長男にして明治二十年七月

妻　すみ　從三位勳二等、法學博士、帝國學士院會員、鳥取縣在籍
男　正德　明一五、一生、養父正義長女
男　正通　明三七、一生
女　淑子　明四四、一一生
女　泰子　大二、四生、變葉高女出身

當家は先代正義に依つて家名を揚ぐ正義は鳥取縣の人明治十八年農商務權少書記官となる此年政府三菱共同汽船會社を合併し日本郵船會社を創立するに際し委員長森岡昌純を輔け同二十二年同社理事となり同二十六年取締役に選任し同二十八年湖南汽船會社の件の功に依り勳四等に敍し同三十四年帝國海事協會長に選任せらる翌年北清事件の功に依り勳三等に敍し次で東京商業會議所特別議員に擧げられ日露事件の功に依り勳二等に陞敍し大正四年特旨を以て正五位の位記を賜ふ其間歐米印度を漫遊し同四十年歸朝す東京市會議員扶桑海上火災保險會社長日本郵船會社相談役帝國海事協會日本海員披濟會各理事に推薦せられ實業界の重鎭たりき君は長野縣人平林行雄の弟にして明治四年三月を以て生れ先代正義の養子となり大正十二年家督を相續す明治三十年東京帝國大學法科大學を卒業し同三十二年破產法研究の爲獨佛に留學し同三十六年歸朝東京帝國大學法科大學教授となり同三十七年法學博士の學位を受く現時帝國學士院會員たり家族は尙三男正隆(大五、一〇生)四男正泰(同七、一二生)三女明子(同九、四生)五男正明(同一一、一生)あり(東京、麴町、元岡町一ノ二**電九段九三〇**)

參照＝加藤正美※佐藤三郎※平善兵衛の項

加藤正美

妻　しげ　從四位勳四等、產業組合中央金庫理事、山形縣在籍
　　明一八、一〇生、山形、菊池六郎姉、日本女大出身

女　節子　明四五、二生、聖心女子學院出身

君は山形縣人加藤正俊の二男にして同正道の兄なり明治十二年五月を以て生れ大正九年兄正信方より分れて一家を創立す明治三十九年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し文官高等試驗に合格し爾來山梨事務官統監府鐵道管理局事務官鐵道院參事南滿洲鐵道會社京城管理局經理課長秋田大林區署長山林局地方課長製鐵所理事同經理部長等に歷任し曩に職來各國に出張を命ぜられ又伯林に開催せる國際旅客交通會議に委員として列席す大正十二年官を辭し產業組合中央金庫設立に當り理事に擧げられ現在に至る家族は尙二女靜江（昭二、一〇生）ありA一二五〇（東京市外荏原町小山五〇〇ノ一）電高輪八一五）

參照＝加藤正道の項

加藤政吉郎

加藤梨松堂代表取締役、伊勢木材、四日市印刷、中外醫藥各種取締役、三重縣在籍

母　くに　安政五、五生、三重、二井藤太郎二女

妻　こふく　明二二、七生、三重、井上又兵衛二女

男　久　明四三、一一生

女　貞子　大三、四生

君は三重縣人先代政吉郎の長男にして明治十六年七月を以て生れ大正二年家督を相續し前名明を改め襲名す先是明治三十八年千葉醫學專門學校藥學科を卒業し藥局を開業し現時前記各會社の重役として知られる曾て泗水建物三重縣著產會社の重役に就任し又三重縣藥劑師會々長三重藥品賣藥同業組合長四日市商工會議所議員等に擧げらる家族は尙二男薫（大六、九生）三男明（同一〇、一一生）二女淑子（昭三、二生）あり弟豐（明三一、三生、東京音樂學校出身）は分家せりA二七三九（三重、三重、常磐村）

加藤政之助

正五位勳三等、貴族院議員　埼玉縣在籍

妻　やす　元治元、六生、大阪、山口孝七二女

男　憲章　明二二、二生、慶應義塾大學理財科出身

婿　治子　明三六、二生、二男憲章妻、岡山服部武夫妹

男　英雄　明三二、七生、大同電力會社員、上智大學出身

婿　てる　明三七、一〇生、四男英雄妻、埼玉、細川五郎妹

男　經雄　明三六、一生、文學士

婿　喜代　明四〇、一二生、六男經雄妻、埼玉、仙場平八長女

男　忠雄　明三七、五生、慶大出身

君は埼玉縣人加藤唯右衛門の長男にして同直法の叔父なり安政元年七月を以て生れ後家督を繼ぐ夙に慶應義塾に學び報知新聞記者大阪新報主幹北海新聞主幹となり又出羽石油函館馬車鐵道東京家畜市場各會社長及其他諸會社の重役に擧げらる曩に歐米各國を巡遊し埼玉縣會議員同議長に選ばれ明治二十五年以來衆議院議員に當選すること十二回其間大藏省參政官に任ぜられ昭和二年貴族院議員に勅選せらる家族は尙孫晴江（昭三、五生、長男憲章長女）同正典（同三、一一生、四男英雄長男）同洋一（同二、三生、六男經雄長男）同巷二（同三、四生、同二男）同ゆう子（同四、一〇生、同長女）あり二女愛子（明二一、八生）は埼玉縣人金澤勘次郎三男冬三郎に三女敏子（同二五、六生）は北海道人坂西利八郎弟平八に四女諶子（同二八、一一生）は東京府人飯塚茂十郎長男茂に六女文子（同三一、五生）は栃木縣人熊谷宇輔養子一彌に八女季子（同四二、八生）は埼玉縣人佐藤義策弟志郎に嫁し五男明（同三五、一生）弟勘助（萬延元、二生）及び其二子明正男（明一八、四生、前記分家弟勘助長男）は各分家せり（東京、北豐島、上練馬村）

參照＝飯塚茂、加藤直法、金澤冬三郎、永瀧松之輔の項

加藤萬治郎

名古屋株式取引所取引員　愛知縣在籍

妻　さと　明一六、五生、土井國丸三男

養子　守雄　大二、一一生、土井秦次郎三男

君は愛知縣人加藤林三郎の弟にして明治十一年九月を以て生れ大正六年分れて一家を創立す名古屋株式取引所取引員たり（名古屋、中、堅三ッ藏町三ノ二〇電本局二七三八）

參照＝加藤林三郎、永瀧松之輔、土井秦次郎の項

加藤節

從五位、海軍機關中將、臺灣總督府交通局技師、高雄海事出張所長、東京府在籍

母　かめ　慶應元、八生、東京、乙部董浩三女

妻　はな　明三一、三生、鹿兒島、菊地勇熊養子、三輪田高女出身

男　誠一　大七、六生

君は東京府人加藤義三の長男にして明治十五年十月を以て生れ大正八年家督を相續す明治四十二年商船學校を卒業し大阪商船會社に入り大正三年機關長免狀を授けられ同八年海軍官雇同總督府技師に任ぜらる同九年臺灣總督府海事官雇同總督府技師に任じ嘱で同交通局技師となり基隆海事出張所長を命ぜられ現に高雄海事出張所長たり家族は尙長女八重子（大一二、八生）二女小枝子（同一三、一〇生）二男照夫（同一四、一〇生）三男秀夫（昭四、八生）弟五郎（明三六、七生）同妻政子（同四一、一〇生、東京、赤羽義太郎長女）及其子女あり同朝雄（同二一、一生）は分家せり（臺灣、高雄、入船町一ノ一二電一二三七）

加藤道榮

加藤伍商店藥社長、吳服半襟商　東京府在籍

婿　きく　明二二、六生、亡長男伍兵衛妻、京都、原田武一郎叔母

孫　伍兵衛　明四四、一二生、亡長男伍兵衛長男、現戸主

孫　あい　明三六、四生、孫あい夫、京都、中村治作二男

養孫　作二郎　明四二、八生、養孫作二郎妻、亡長男伍兵衛長女

孫　あい

君は兵庫縣人中野太右衛門の三男にして嘉永元年三月を以て生れ加藤家に入り明治三年家督を相續し同四十二年退隱し前名五兵衛を改む吳服半襟商を營み加藤伍商店社長たりA二二二九（京都、下京、猪熊佛光寺下ル電下二七〇）

參照＝中村治作、原田武一郎、永瀧松之輔、前田奈良三郎の項

加藤密

加藤耐火耐酸工業、宇野耐火煉火各種社長、大平殖山種監査役、岡山縣在籍

繼母　美滝　明二、八生、薄日恕平四女

妻　一　明二六、三生、河合好太郎四女

男　耐　明四五、五生

女　登美子　大四、四生

君は岡山縣人加藤忍九郎の三男にして明治二十一年六月を以て生れ同四十三年甥忍方より分れて一家を創立す同年大阪高等工業學校窯業科を卒業し現時加藤耐火耐酸工業會社長の外前記會社の重役たり家族は尙二男一女あり（淵戸、淵戸六五九）

加藤壁之介

樂議院議員（埼玉縣選出）、料理並旅館業、埼玉縣在籍

君は埼玉縣人加藤晴一の三男にして明治十六年八月を以て生れ大正三年分れて一家を創立す夙に埼玉縣師範學校を卒業し埼玉縣會議員大宮町商工會長等に擧げらる料理並旅館業を營み昭和四年樂議院議員に當選す立憲民黨所屬たり（埼玉、北足立、大宮町電二三一一）

加藤茂三次郎

愛知縣多額納稅者、藤茂、紋帳商　愛知縣在籍

妻　こう　明八、一一生、愛知、吉田九八長女

男　彥一　明三八、三生

君は愛知縣人加藤吉藏の二男にして慶應元年一月を以て生れ明治二十四年分れて一家を創立す藤茂と稱し紋帳商を營み現に愛知縣多額納稅者たり長女清（明三二、七生）は分家せり（名古屋、酉、東萬町三ノ五電本局三六五三）

加藤杢左衛門

愛知縣多額納稅者、瀧戸電氣鐵道㈱會長、尾三索道㈱社長、明治銀行、愛知縣農工銀行、瀧戸蓄炭運輸、大日本鹽業、蘭泉寺鐵道各㈱取締役、愛知縣在籍

妻　かれ　萬延元、五生、養父杢兵衛長女

養子　義晴　明三一、三生、庶子靜子夫、養子

庶子　靜子　明三、六生、養子義晴妻、生母愛知、日比野らく

君は愛知縣人加藤豐藏の三男にして安政四年一月を以て生れ先代杢兵衛の養子となり家督を相續し後退隱し昭和五年養子杢兵衛方より分れて一家を創立す現時前記銀行會社の重役として知られ愛知縣多額納稅者にして直接國稅二千五百七十三圓を納む家族は尙孫品子（大九、三生、養子義晴三女）同道子（同一二、四生、同二女）同守八（同一五、九生、同長男）同武久（昭三、一一生、同二男）あり庶子貞（大二、七生、生母、愛知加納むら）は愛知縣人日比野やゑの養子となれり（淵戸、淵戸六五九）

加藤森男

資產家　岐阜縣士族

妻　文子　明二六、四生、岐阜、長谷川金左衛門妹

男　三野雄　大一一、一一生

女　元　大五、一生

君は岐阜縣士族加藤正誼の長男にして明治二十年一月を以て生れ大正七年家督を相續す明治四十三年卒業し海軍少尉に任じ大正七年海軍大將に累進す其間秋津洲橋立春日鹿島石見各艦長鮮鶴鎮守府參謀長鮮鶴佐世保橫須賀各海軍工廠長第二艦隊吳鎮守府各司令長官軍事參議官等に歷補し日獨戰役には第二艦隊を率ゐて青島を攻圍し大正五年勳功に依り華族に列し男爵を授けられ功二級に敍す後貴族院議員に擧げらる君は其長男にして明治三十三年五月を以て生れ昭和二年襲爵被仰付大正十四年東京帝國大學經濟學部商業學科を卒業し現時第一銀行に勤務す家族は尙長女美穗子（昭五、一二生）あり（東京、芝、車町五四電高輪一五八〇）

參照＝長尾半平、吳門野重九郎、永瀧松之輔、三谷隆信の項

加藤森成

從三位、子爵　舊豫州新谷藩

妻　リヨウ　明三七、一〇生、新潟、士、長尾半平二女、聖心女子學院出身

男　泰昭　昭二、一生

當家は先代定吉より家名を揚ぐ定吉は東京府士族加藤泰吉の三男にして夙に海軍兵學校を卒業し海軍少尉に任じ大正七年海軍大將に累進す其間秋津洲橋立春日鹿島石見各艦長鮮鶴鎮守府參謀長鮮鶴佐世保橫須賀各海軍工廠長第二艦隊吳鎮守府各司令長官軍事參議官等に歷補し日獨戰役には第二艦隊を率ゐて青島を攻圍し大正五年勳功に依り華族に列し男爵を授けられ功二級に敍す後貴族院議員に擧げらる君は其長男にして明治三十三年五月を以て生れ昭和二年襲爵被仰付大正十四年東京帝國大學經濟學部商業學科を卒業し現時第一銀行に勤務す家族は尙長女美穗子（昭五、一二生）あり（東京、芝、車町五四電高輪一五八〇）

參照＝長尾半平、吳門野重九郎、永瀧松之輔、三谷隆信の項

加藤泰成

從三位、子爵　舊豫州新谷藩

榮　明一三、五生、子爵津輕益男養叔母

男　泰勝　明四三、一二生

當家は伊豫大洲藩主加藤左近大夫貞泰の次男織部正直泰の後なり直泰別家して一萬石に封ぜられ世々同國新谷藩主として六代を經て先代泰令に至り明治十七年子爵を授けらる君は其三男にして明治八年十一月を以て生れ大正二年家督を繼ぎ襲爵す夙に學習院を卒業して東京農業大學及東京帝國大學農科大學に學び國藝に趣味を有す家族は尙二男泰乘（大四、九生）あり長女潤子（明三六、四生）は東京府人西園寺龜次郎三男敬三郎に嫁し叔母フキ（慶應二、八生）は同府士族矢部桂輪の母たり（東京市外代々幡町代々木初臺五一七ノ一電四谷一九）

參照＝子爵津輕益男、西園寺龜次郎、矢部桂輪の項

加藤泰通

正四位勳四等、子爵、式部官　舊豫州大洲藩

妻　敬子　明二二、二生、侯爵松平康昌叔母

男　泰同　明四二、九生、學習院女學部出身

當家は左大臣藤原魚名の裔加藤七左衛門尉景義の末葉遠江守光泰の後なり光泰豐臣氏に仕へて寵任を得甲州一圓二十四萬石を賜ふ光泰朝鮮陣中に歿するに臨み嗣子泰昭（明三七、一〇生、新潟、士、長尾半平二女、聖心女子學院出身）

子幼弱にして大封を擁するは不可なりとなし封を辭す故を以て其子左近大夫貞泰に至り濃州黒野四萬石に移封せらる貞泰岡ケ原の役德川氏に屬して功あり後伯州米子に移り又轉じて豫州大洲六萬石の城主となるそれより十世を經て泰韓に至る先代泰秋は其四男にして兄泰祉の後を繼ぎ明治十七年子爵を授けらる夙に宮中祇候明宮祇候被仰付後貴族院議員に擧げらる君は其二男にして明治十二年四月を以て生れ大正十五年襲爵す夙に學習院に學び後英國に留學す現時式部官にして曩に皇后宮事務官兼侍從たり家族は尙長女惠子（大一〇、四生）弟泰俊（明一四、二生、從五位勳四等、陸軍騎兵中佐、騎兵第十六聯隊附、東京帝樂學校兼第四臨時教員、幾成所服務）同泰歌子（同二三、一生、子爵毛利元雄妹）及其二男あり姉直子（同五、一一生）は子爵吉川重國先代重吉に妹悅子（同一六、三生）は鹿兒島縣士族窪田行正先代文三に同秋子（同三八、一一生）は子爵大久保忠言弟準に姪俊子（同四三、三生、弟泰俊長女）は醫學博士入澤達吉長男民政に嫁し姉愛子（同一〇、九生）は伯爵土方久敬の母にして弟泰吉（同一七、五生）は子爵西尾忠篤の養子となり襲爵して忠方と改名し同廉夫（同四〇、一二生）も亦男爵伊達成勳の養子となり兄泰治（同四、九生）は分家し弟廉之（同三二、一一生）は其養子となれり（東京市外千駄ケ谷町穩田四一六電青山四一二〇）

參照＝侯爵松平康昌、伯爵土方久敬、子爵大久保忠言、子爵吉川元光、子爵西尾忠方、子爵毛利元雄、男爵吉川重國、男爵伊達成勳家伯爵津輕義孝家伯爵乃木元智家伯爵松平報壽家子爵戸田康保家子爵中牟田武信家子爵松平慶民家男爵德大寺則麿家男爵毛利元良家武富時敏の項

加藤佑治

（愛知縣取締役、靜岡縣在籍）

妻　よし　明二〇、四生、養父千之助二女
男　民造　大三、七生
女　みき　明四〇、七生
女　いそ　明四四、七生

君は靜岡縣人植田喜平の四男にして明治十四年五月を以て生れ加藤千之助の養子となり大正九年分れて一家を創立す現時前記會社の重役にして推されて濱松商工會議所常議員たり家族は尙二男益三（大六、一一生）あり（濱松、板屋町）

參照＝加藤千之助の項

加藤雄吉

（警察部衛生課長、愛知縣在籍）

男　成雄　明三九、三生
　　壽雄　明四一、八生

君は愛知縣人河合泰二の四男にして明治十二年五月を以て生れ先代專吉の養子となり同四十二年家督を相續す同三十四年愛知醫學專門學校を卒業し同三十八年和歌山縣衛生技手となり奈良縣立奈良病院長衛生課長兵庫焦本京都各府縣技師に歷任し大正十三年地方技師となり現時京都府警察部衛生課長たり（京都市府警察部官舍）

加藤與五郎

（從四位勳三等、理學博士、東京工業大學教授兼附屬工學專門部教授、愛知縣在籍）

妻　トラ　明一一、三生、三郎二女

君は愛知縣人加藤惣吉の長男にして明治十二年五月を以て生れ同三十九年家督を相續す同三十六年東都帝國大學理工科大學化學科を卒業し物理化學研究の爲米國に留學し歸朝後同三十九年東京高等工業學校教授に任ぜられ現時東京工業大學教授兼附屬工學專門部教授たり其間海外に出張すること三回に及び明治四十四年理學博士の學位を受く妹とく（明一二、一生）は愛知縣人牧與市に嫁せり（東京市外荏原町戸越一二二〇電高輪五八一七）

加藤由造

（扇田商店、扇子製造業、愛知縣在籍）

妻　かねを　明二二、一生、長女
男　由正　明四五、一生
女　すゞ子　大二、一〇生
女　きよ子　大五、三生

當家は巢代名古屋土產の家柄にして去今約五十年前より扇子製造業を營む君は先代由太郎の長男にして明治十四年三月を以て生れ大正九年家督を相續す夙に組業を繼ぎ以て今日の大を成せり家族は尙二男實（大七、七生）五女比佐子（同九、一〇生）五男慎吾（昭二、九生）あり長女米子（明四二、一一生）は愛知縣人伊藤貞七に嫁し弟由作（同二七、一〇生）は分家せり（名古屋、中、小林町三〇電中一四七一）

加藤由太郎

（丸新電機製作所主、大阪府在籍）

妻　ことゑ　明一八、一一生、山田與四郎二女
男　新一郎　大二、一一生

君は岐阜縣人加藤新右衛門の三男にして明治十二年五月を以て生れ大正二年分れて一家を創立す現に丸新電機製作所主たり家族は尙二男弘吉（大五、一生）長女道子（同七、七生）三男三郎（同一三、六生）あり（大阪、天王寺、南河堀七二電天王寺二〇八二）

加藤吉衛

（安田銀行穩難波支店長、東京府在籍）

妻　梅香　明二二、六生、熊本、米村嘉壽姪
養子　司郎　大二、一二生、東京、平岩周一郎四男

君は東京府士族平岩欣太郎の三男にして明治十六年十一月を以て生れ先代祐藏の養子となり同二十六年家督を相續す現に安田銀行難波支店長たり家族は尙養子キミエ（大七、五生、熊本、信夫彥次姪）あり A一二三（西宮、宮西町四三）

加藤成之（ユキ）

（正五位、男爵、東京美術學校講師、東京府華族）

祖母　壽々
母　津禰
妻　貞
弘化三、七生、大阪、市川兼恭養子

當家は先々代弘之より顯る弘之は舊但馬出石藩士にして少壯江戸に出でて佐久間象山に兵學を學び更に蘭獨佛英の學を專攻し當時洋學者の四傑と稱せらる維新後大學大丞文部大丞東京大學綜理元老院議官帝國大學總長貴族院議員宮中顧問官樞密顧問官等に歷任し文教に盡すこと三十年文學博士法學博士の學位を受け明治三十三年特旨を以て華族に列し男爵を授けらる先代照麿其後を享け獨外國語學校及東京大學醫學部に學び更に獨墺に留學してドクトルの學位を得歸朝後宮內省に出仕し侍醫に任じ醫學博士の學位を受け貴族院議員に列す君は其二男にして加藤晴比古馬渡俊雄の甥なり明治二十六年九月を以て生れ大正十四年家督を相續し襲爵す同九年東京帝國大學文學部美學科を卒業し佛國に留學す現時東京美術學校教授

學す現時東京美術學校講師たり家族は尙長女秋子（大一二、一〇生）弟銳五（明三三、一二生、經濟學士）あり妹雪子（同三一、三生）は山口縣人金子圭介長男恭一に叔母隆子（慶應三、九生）は公爵山縣有道先代伊三郎に同梅（明一四、二生）は文學博士醫學博士樺保三郎に同ひさ（同一七、八生）は工學博士俵國一に嫁し弟四郎（同二九、四生）は子爵濱尾新の養子となり襲爵し同郁郎（同三六、八生）は子爵岡國士族古川武太郎に同七郎（同三八、四生）は新潟縣人增田義一に各養子となり叔母幸子（同六、六生）は故工學博士近藤虎五郎の未亡人たり（東京、麹町、下二番町四一電九段四三五）

參照＝公爵山縣有道、子爵濱尾四郎、男爵佐藤達夫郎、加藤晴比古、金子圭介、俵國一、馬渡俊雄增田義一家伯爵長谷川猪三郎家北畠安五郎家三宅秀の項

加藤萊作

（三井生命保險會社東京支店長、計理士、東京府士族）

母　ヒデ　文久二、一〇生、愛媛、士、西澤正宜妹
妻　梅子　明二五、四生、和歌山、松本正純長女
男　正亮　大一二、八生
女　博子　大五、一〇生

君は愛媛縣士族加藤正誠の長男にして明治十五年十二月を以て生れ同二十二年家督を相續す同三十八年東京高等商業學校を卒業し三井物產會社に入社後同系東洋棉花會社の設立せらるゝや轉じて其東京店長となり大日本紡織會社取締役南北棉業會社監査役等を歷任し昭和二年三井生命保險會社の設立と同時に同社に入り現時其東京支店長たり家族は尙二女壽子（大七、一生）三女泰子（同八、一一生）四女彬子（同一〇、一〇生）あり（東京市外大久保町西大久保一六〇電四谷一四二七）

加藤利八

（靜岡縣會議員、靜岡縣多額納稅者、島田合同運送取締役、島田銀行、藤相鐵道取締役、西驛銀行、藤表取締役、志太事業無限責任社員、農業、加藤商會、靜岡縣在籍）

父　友吉　安政四、七生、現戸主
妻　つぎ　明二〇、一生、靜岡、吉川篤津平二女

君は靜岡縣人加藤友吉の長男にして明治十三年九月を以て生る農業を營み前記各銀行會社の重役にして直接國稅五千五百四十九圓を納め縣下の多額納稅者に列し推されて靜岡縣會議員たり（靜岡、志太、島田町）

參照＝加藤友吉家鈴木信一の項

加藤理三郎

（日本陶器穩取締役、愛知縣在籍）

妻　カツヨ　明二三、一生、廣島、原田鄕二姉
男　廣島　明四四、一生

君は廣島縣人加藤菊助の三男にして明治十五年四月を以て生れ同四十五年兄英一郎方より分れて一家を創立す同四十一年東京高等商業學校を卒業し現時日本陶器會社取締役たり家族は尙二男弘（大五、九生）四男平（同一四、二生）ありA一八九〇（名古屋、東、大曾根町一六二ノ四〇電東六九一一）

加藤隆助

（寫眞器具度量衡商、愛知縣在籍）

妻　あい　明一四、一生、愛知、士、柴田德左衛門長女
男　啓二　明三六、七生
　　服部田勘一長女
婿　あや子　明四二、四生、二男啓二妻、愛知

君は愛知縣人松浦庄吉の長男にして明治四年十一月を以て生れ先代周助の養子となり同三十七年家督を相續し前名春一郎を改む寫眞器具度量衡商を營む家族は尙孫子代（昭五、九生、二男啓二長女）あり長男信一（明二六、八生）同妻ふい（同三三、一生、兵庫、久保國太郎孫）は其子女を伴ひ分家し二女ふさ（同三八、一一生）は愛知縣人海部幸之進二男誠也に嫁せり A一〇五八四二〇（名古屋、中、榮町六ノ一一）

加藤亮一

（從四位勳二等功五級、海軍主計中將、海軍省經理局長、東京府士族）

母　みつ　安政三、一二生
　　光　明一六、八生、東京、士、丸木二女
妻　　二九郎長女

君は福井縣士族加藤恒の長男にして明治十年九月を以て生れ同四十二年家督を相續す同三十五年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し同年海軍中主計に任じ昭和二年海軍主計中將に累進す其間鮮鶴海軍工廠會計部計算課長横須賀海軍經理部衣糧課長海軍省經理局々員兼教育本部々員海軍大學校教官海軍省經理局第一課長海軍經理學校長横須賀鎮守府主計長等に歷補し現時前記の職に在り（東京市外大久保町西大久保四九七電四谷一三〇八）

加藤鐐五郎

（衆議院議員（愛知縣選出）、名古屋市會議員、醫師、愛知縣在籍）

妻　まさゑ　明二六、一〇生、兵庫、黑田榮次郎孫
女　みち子　明四三、二生

君は愛知縣人加藤九藏の三男にして明治十六年三月を以て生れ大正五年家督を相續す夙に愛知醫學專門學校を卒業し津島濟生病院長となり大正二年以來名古屋市會議員同參事會員愛知縣會議員同參事會員同市部會議長等に選ばれ又名古屋醫師會議員愛知縣醫師會議員大日本醫師會代議員に擧げらる同十三年以來鄕黨より推されて衆議院議員に當選する事三回現に立憲政友會愛知支部長たり（名古屋、東、高岳町一ノ六ノ一電東六七六）

加藤林三郎

（愛知縣多額納稅者、名古屋商工會議所議員、名古屋製綿穩取締役、名古屋常務取締役、玉林瀚絲問屋穩取締役、千種驛合同運送穩監査役、愛知縣在籍）

妻　つき　明一六、六生、三重、中島忠平長女
養子　俊治郎　明三一、一二生、愛知、小澤利右衛門二男
婿　のぶ　明三七、一一生、養子俊治郎妻、岐阜、早川六三郎二女

君は愛知縣人先代林三郎の長男にして明治五年二月を以て生れ大正十年家督を相續す夙に愛知縣多額納稅者に列し現に前記諸會社の重役にして前名金次郎を改む名古屋商工會議所議員たり家族は尙庶子たまゑ（大一二、四生、生母、後藤よしゑ）孫昭治（昭三、一〇生、養子俊治郎二男）あり弟萬治郎（明一一、九生）は分家し妹しやう（同八、三生）は愛知縣人小澤利右衛門に同ぎん（同一三、一二生）は同縣人土井七右衛門長男國丸に嫁せり（名古屋、中、東田町二ノ二二電東七八一）

參照＝加藤萬治郎、早川六三郎の項

加藤六藏

（衆議院議員（愛知縣選出）、愛知縣產業穩取締役、農業、愛知縣在籍）

母　あさ　明元、一二生、愛知、服部彌兵衛二女

妻　かつ　明二八、一一生、愛知、外山定助三女

　　典　子　大四、一一生

君は愛知縣人先代六藏の長男にして明治二十四年十二月を以て生れ同四十二年家督を相續し前名正雄を改め襲名す夙に慶應義塾に學び農業を營み現に前記會社の重役にして曩に愛知縣會議員に擧げらる又鄉黨より推され衆議院議員に當選する事二回現に民政黨所屬たり家族は尙弟義正（明三一、二生）同信彦（同三二、一〇生）同禮吉（同三四、四生）同忠雄（同三五、八生）同孝吉（同三八、三生）あり妹友子（同三九、一一生）は愛知縣人大林惟一に嫁せり（愛知、寶飯、前芝村）

加藤木保次

妻　民　明二五、一二生、北海道、山峰德吉長女

　　男　親郎　大三、四生

　　女　道子　大五、八生

君は福島縣人加藤木周太郎の二男にして明治十九年二月を以て生れ同三十五年分れて一家を創立す同四十三年東北帝國大學農科大學を卒業し北海道廳技師に任じ大正八年歐米各國に出張同十一年朝鮮總督府勸業模範場技師に轉じ爾來慶尙道內務部產業課長同內務部農務課長兼大邱專賣局支局技師咸鏡南道內務部農務課長朝鮮總督府技師等に歷任し昭和五年官を辭し現時前記の職に在り家族は尙二男秀行（大八、三生）あり（橫濱、神奈川、平尾前二四九三電本局二七〇〇）

加野宗三郎

組母　モト　明二七、四生、福岡、相部太久平三女

妻　トミエ　大二、九生

女　千賀子　大五、四生

　　女　眞砂子　大五、四生

君は福岡縣人加野熊次郎の長男にして明治二十二年七月を以て生れ同三十年家督を相續す同四十四年大阪高等工業學校醸造科を卒業し酒造業を營み傍ら九州寶石會社監査役にして直接國稅二千七百七十圓を納め福岡縣多額納稅者たり家族は尙三女春生（大八、三生）あり父熊次郎（慶應元、一生、福岡、中井宗米二男）は母カメ（明七、六生、組父惣次郎長女）と共に弟宗平（同二六、二生）同妻ウメ（同三四、九生、福岡、太田賢太郎叔母）は其子女を伴ひ各分家し妹コト（同二四、二生）弟靜一郎（同二九、一生）も亦各分家せり（福岡市博多中奧堂町二二）

加納三之助

妻　うた　明二六、一生、大阪、伊丹榮一郎妹

　　男　正太郎　大七、一一生

君は大阪府人加納榮三郎の長男にして明治十一年六月を以て生れ大正九年家督を相續す資產家にして天滿橋筋五丁目郵便局長たり家族は尙二女榮子（大一〇、三生）同俊子（同一五、六生）あり

（※印は姻族關係）

加納純一

母　ミホ　明三二、一二生、東京、牧田眞吉五女

　　妻　壽々　昭五、七生

　　男　顯一　昭五、一生

君は大分縣士族加納晳三郎の長男にして明治二十七年五月を以て生れ昭和五年家督を相續す大正八年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し現時住友合資會社總務部庶務課長たり家族は尙二女榮子（大一〇、一〇生）二女和子（昭二、五生）弟安久（同四四、一一生）同孝雄（大五、六生）あり A一二七（大阪、東、谷町二ノ三一電東三二〇六）

住友資總務部庶務課長
大分縣士族
明六、四生、大分、加納全也長女
明三二、一二生、東京、牧田眞吉五女
天滿橋筋五丁目郵便局長、家主
大阪府在籍

參照＝伊丹榮一郎※伊丹榮助※仁村芳之輔の項

加納清三

妻　みき　明二四、一〇生、宮城、士、伊藤定弘二女

　　男　正直　大一三、一生

　　女　美佐　明四五、一生

　　節　大四、三生

君は東京府人加納榮太郎の二男にして明治九年八月を以て生れ昭和四年兄英次郎方より分れて一家を創立す同四十年明治大學法科を卒業し現時帝國海上火災保險會社監査役たり家族は尙二男譽二（大三、六生）三女なつ（同六、八生）四男保正（同一一、一二生）四女あや

從四位勳三等、第二高等學校教授
宮城縣在籍

參照＝※宮山秀三郎※長鹽淵※堀豐太郎の項

加納與四郎

妻　フク　明二二、六生、石川、士、八十島保太郎三女、御茶の水高女出身

　　男　莊介　明三二、四生、三菱鑛業會社員

　　男　駿平　明八、一〇生、東京、米田喜十郎二女

　　男　陽三　明三六、八生、司法官、東京地方裁判所勤務

　　男　隆吉　明三九、八生

　　男　明四一、九生

君は三重縣人加納善左衞門の長男にして慶應元年八月を以て生れ明治三十五年家督を相續す夙に實業界に入り現時日本無線電信電話會社專務取締役たる外前記各會社の重役たり家族は尙五男祐五（大三、三生）六男晉六（同八、三生）あり繼母やゑ（嘉永三、九生、三重、坂本齋次郎姉）は分家し弟寬造（明一四、六生）同妻靜枝（同二五、七生、福岡、士、峰本庄六孫）も亦其子女を伴ひ分家し姉けい（文久三、一二生）は三重縣人角利助に嫁せり（東京、小石川、第六天町四八電小石川二九九〇）

加納芳三郎

妻　つる　明八、一二生、兵庫、植田豬吉妹

　　男　直巢五男　明三六、一〇生、愛媛、士、宮內裁判所勤務

　　養子　謙　明三八、二生、養子謙妻、京都、大平源之助三女

　　婦　康　明三二、一〇生、兵庫、鳥政七の三男にして明治元年七月を以て生れ先代萬助の養子となり同二十年家督を相續す富士屋と稱し時計貴金屬商を營み大阪府多額納稅者として知らる家族は尙孫節子（大一五、一〇生、養子謙長女）同直宏（昭三、九生、同長男）あり（大阪、南、順慶町通三ノ五一電船場九八五）

加納友之介

妻　たまみ　明九、一生、養父其三郎姪

　　男　百里　明四〇、七生、長男百里妻、東京青木菊雄二女

　　婦　松子　明三一、三生

君は茨城縣士族立川直行の五男にして明治五年五月を以て生れ後先代甚三郎の養子となり同四十一年家督を相續す同二十九年帝國大學法科大學を卒業し官途に奉職して衆議院書記官に任ぜられ農商務省參事官を兼任し後辭して住友銀行に入り同行東京支店支配人同取締役兼本店支配人同常務取締役となる現時第一銀行神戶海上運送火災保險會社各取締役の外前記銀行會社の重役たり謠曲を趣味とす家族は尙孫公一郎（昭二、四生）同道子（同四、五生）あり長女こと（明三四、二二生、府立第二高女出身）は愛知縣人久野慶二長男正一に從妹つる（同一七、七生、亡叔父政二郎三女）は茨城縣人立川永郎介に嫁し從弟直彦（同一八、九生）同妻ちよ（同二五、三生、茨城、立川雄太郎妹）は其子女を伴ひ分家せり A六二四六（東京、麻布、六本木町六七電赤坂四七〇）

住友銀行、神戶海上運送火災保險各取締役、住友倉庫東部電力、昭和不動產、東部證券各取締役、東洋拓殖取締役、東洋拓殖監事
茨城縣士族
嘉永元、六生、栃木、草野新衞門二女

參照＝青木菊雄※阿部長兵衞の項

加納日出生

妻　ふゆ　明二二、一生、男爵島津繁麿妹

　　男　正直　明四〇、一一生

　　女　梅代　明四二、三生

　　女　しづ　明四四、一〇生

君は大分縣人加納經男の二男にして明治十一年七月を以て生れ同四十一年甥節雄方より分れて一家を創立す同四十年明治大學法科を卒業し現時帝國海上火災保險會社監査役たり家族は尙二男譽二（大三、六生）三女なつ（同六、八生）四男保正（同一一、一二生）四女あや

帝國海上火災保險取締役兼監査役
兵庫縣在籍

參照＝※宮山秀三郎※長鹽淵※堀豐太郎の項

加納清三

妻　ふゆ　明二二、一生、男爵島津繁麿妹

　　男　正直　明四〇、一一生

　　女　梅代　明四二、三生

　　女　しづ　明四四、一〇生

君は大分縣人加納經男の二男にして明治十一年七月を以て生れ同四十一年甥節雄方より分れて一家を創立す同四十年明治大學法科を卒業し現時帝國海上火災保險會社監査役たり家族は尙二男譽二（大三、六生）三女なつ（同六、八生）四男保正（同一一、一二生）四女あや

帝國海上火災保險取締役、住友倉庫東部電力、昭和不動產、東部證券各取締役、東洋拓殖取締役兼監査役
兵庫縣在籍

參照＝※宮山秀三郎※長鹽淵※堀豐太郎の項

加納三之助

妻　うた　明二六、一生、大阪、伊丹榮一郎妹

　　男　正太郎　大七、一一生

君は大阪府人加納榮三郎の長男にして明治十一年六月を以て生れ大正九年家督を相續す資產家にして天滿橋筋五丁目郵便局長たり家族は尙二女榮子（大一〇、三生）同俊子（同一五、六生）あり

天滿橋筋五丁目郵便局長、家主
大阪府在籍

參照＝伊丹榮一郎※伊丹榮助※仁村芳之輔の項

加納純一

母　ミホ　明三二、一二生、東京、牧田眞吉五女

　　妻　壽々　昭五、七生

　　男　顯一　昭五、一生

君は大分縣士族加納晳三郎の長男にして明治二十七年五月を以て生れ昭和五年家督を相續す大正八年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し現時住友合資會社總務部庶務課長たり家族は尙二女榮子（大一〇、三生）同俊子（同一五、六生）あり

住友資總務部庶務課長
大分縣士族
明六、四生、大分、加納全也長女
明三二、一二生、東京、牧田眞吉五女
天滿橋筋五丁目郵便局長、家主
大阪府在籍

參照＝伊丹榮一郎※伊丹榮助※仁村芳之輔の項

加納友之介

妻　たまみ　明九、一生、養父其三郎姪

　　男　百里　明四〇、七生、長男百里妻、東京青木菊雄二女

　　婦　松子　明三一、三生

君は茨城縣士族立川直行の五男にして明治五年五月を以て生れ後先代甚三郎の養子となり同四十一年家督を相續す同二十九年帝國大學法科大學を卒業し官途に奉職して衆議院書記官に任ぜられ農商務省參事官を兼任し後辭して住友銀行に入り同行東京支店支配人同取締役兼本店支配人同常務取締役となる現時第一銀行神戶海上運送火災保險會社各取締役の外前記銀行會社の重役たり謠曲を趣味とす家族は尙孫公一郎（昭二、四生）同道子（同四、五生）あり長女こと（明三四、二二生、府立第二高女出身）は愛知縣人久野慶二長男正一に從妹つる（同一七、七生、亡叔父政二郎三女）は茨城縣人立川永郎介に嫁し從弟直彦（同一八、九生）同妻ちよ（同二五、三生、茨城、立川雄太郎妹）は其子女を伴ひ分家せり A六二四六（東京、麻布、六本木町六七電赤坂四七〇）

第一銀行、神戶海上運送火災保險各取締役、住友倉庫東部電力、昭和不動產、東部證券各取締役、東洋拓殖監査役
茨城縣士族
嘉永元、六生、栃木、草野新衞門二女

參照＝青木菊雄※阿部長兵衞の項

（同一四、七生）五女たか（昭二、一一生）五男敏彥（同五、三生）あり（兵庫、武庫、精道村蘆屋寺田一五）

參照＝男爵島津繁麿の項

加納久朗

母　鉴子　正四位、子爵、橫濱正金銀行穩カルカッタ支店支配人舊上總一宮藩萬延元、九生、千葉、士、原三薩二女

　　妻　多津　明二五、一生、東京、士、伊藤道夫叔母

　　男　久道　明四四、二生

　　女　多惠子　大二、八生

當家は藤原氏の末流加納遠江守久通の後なり久通穗川氏に仕へ一萬石を食む後二代遠江守久周一萬三千石に加增せられ世々上總一宮に居城し先代久宜に至り明治十七年子爵を授けらる久宜夙に大學南校に學び盛岡師範學校長新潟學校長東京控訴院檢事大審院檢事鹿兒島縣知事等に歷任し又日本赤十字社監事十五銀行取締役一宮町長等に擧げられ貴族院議員に當選すること二回公共事業に盡瘁する所鈴からず君は久宜の二男にして明治十九年八月を以て生れ大正八年襲爵す明治四十四年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し橫濱正金銀行に入り橫濱本店大連紐育倫敦北京上海各支店に勤務し大阪支店副支配人に進み現時カルカッタ支店支配人たり家族は尙二男久永（明四五、五生）二女英子（大一〇、七生）弟久憲（明二二、一生、農學士）同妻アイ（同三一、一生、東京、士、永井好信長女、香蘭女學校出身）及其一子あり姉神子（同一七、一生、學習院女學部出身）は陸軍中將工學博士武田三郎に妹國子（同二三、三生、田身校同上）は法學士子爵阿野季忠に同八重（同二四、八生、田身校同上）は和歌山縣人理學士野田勢次郎に同治（同二五、八生、田身校同上）同夏（同二六、九生、出身校同上）は福岡縣人麻生太吉三男太郎に養姉理子（同一三、七生、伯爵立花鑑德姉）は子爵立花種忠に嫁せり（印度、甲谷陀、橫濱正金銀行支店內）

參照＝伯爵立花鑑德、子爵阿野季忠、子爵立花種忠、麻生太吉、伊藤道夫、後藤文夫、武田三郎、永井好信、野田勢次郎※子爵山內豐英※男爵安東貞美※男爵西高辻信稚※男爵細川興智※大石和三郎※柴田務※長崎省吾※服部勝雄※平山信※安田彥太郎の項

加納福均三

妻　マツ　明二四、一〇生、秋田、御代弦四女

　　男　竹一郎　大五、一生

　　女　玲子　大四、一生

君は長崎縣人加納喜一郎の三男にして明治十八年十月を以て生れ大正九年兄力太郎方より分れて一家を創立す先是明治四十二年東京帝國大學理科大學化學科を卒業し更に研究科に入る同四十年澤總督府に入り鑛泉事務囑託專賣局技師兼研究所技師等を經て大正六年大日本人造肥料會社技師兼臺灣肥料會社技師長支配人となり尋いで臺灣肥料會社取締役に擧げらる同十一年理學博士の學位を授けられ傍ら臺灣總督府に出仕し同年中央研究所技師工業部長兼專賣局技師製造課兼鹽腦課勤務にして現時臺北帝國大學教授理學部兼任たり昭和二年歐米に出張せり家族は尙二女千嘉子（大九、一〇生）あり（臺北、旭町一）

參照＝※小貫慶治の項

加太重邦

母　うた　安政三、五生、三重、士、鵜飼可美二女

　　妻　祿　明二二、六生、石川、士、八十島保太郎三女、御茶の水高女出身

　　男　光邦　明四四、一〇生

君は故貴族院議員加太邦憲の長男にして明治十二年八月を以て生れ昭和四年家督を相續す明治四十年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し住友銀行に入り尾道支店支配人を經て現に同行廣島支店長たり家族は尙二男孝男（大三、七生）長女美代（同六、一生）二女きゐ（同八、三生）三男邦男（同一〇、一〇生）四男馨男（同一四、四生）あり弟安邦（明二四、三生、三井銀行神戶支店次長）は分家し姉とくは退職判事前澤成美に妹なほは大阪工業大學々長堤正義に嫁せり（廣島市上流川町一三ノ二電二一四）

參照＝堤正義の項

加村市右衞門

妻　りウ　明一九、四生、新潟、矢島桑之助二女

　　男　竹一郎　大五、一生

君は埼玉縣人加村豐八の三男にして明治十三年十月を以て生れ同三十六年祖父久八の後を承け家督を相續す金融業を營む家族は尙長女八の後を承け家督を相續す（明一六、七生）は東京府人金子辰次郎に嫁せり A四六九五B一一二〇（東京、本郷、駒込神明町三八四電小石川三五九五）

金融業
埼玉縣在籍

加茂正雄

正四位勳二等、工學博士、東京帝國大學教授、工學部勤務
東京府在籍

妻　祿　明一五、一〇生、東京、渡邊仁姉

君は愛媛縣士族加藤寛正の三男にして明治九年八月を以て生れ大正十四年朔寛譽方より分れて一家を創立す明治三十一年東京帝國大學工科大學機械工學科を卒業し同大學助教授となり同三十九年舶用機關學研究の爲英米獨佛に留學す同四十一年帝國鐵道廳技師を兼任し大正元年歸朝東京帝國大學工科大學教授となり今日に至る同二年工學博士の學位を受く同十二年朝鮮總督府技師同府燃料鑛研究所長を兼ね在鮮六年同十三年倫敦開催第一回世界動力會議に日本首席代表として出席爾來四回に及び引續き出席昭和四年東京に開かれたる萬國工業會議に組織委員長に擧げらる其他衞生工業協會々長工政會理事長等に推され現時機械學會代表者米國機械學會名譽會員たり（東京、本郷、向ケ岡彌生町三電小石川二八三〇）

参照＝渡邊仁姉古宇田實姉堀治三郎の項

加茂增五郎

湘南木工場、土木建築請負業
東京府士族

祖父　道　行　弘化四、二生、福井、奈田清七長男
祖母　ムメ　文久元、一二生、神奈川、船津久則四女
母　ヒデ　明一二、六生、祖父道行長女
妻　ふじゑ　明三七、一〇生、靜岡、三木成章長女
男　增　男　昭二、七生

君は東京府士族先代增五郎の長男にして明治三十三年二月を以て生れ大正十二年家督を相續し前名道治を改め襲名す湘南木工場を經營し土木建築請負業を營む家族は尙妹壽滿子（大二、一二生）あり同五重子（明四〇、五生）は分家せり（東京、芝、田村町八〇電芝二七八三）

加舍吉夫

從五位勳四等、陸軍技師、陸軍造兵廠火工廠勤務、長野縣士族
妻　みよ　明二八、二生、茨城、吉見雄三長女
男　吉之　大九、七生

君は長野縣士族加舍恒四郎の長男にして明治十七年五月を以て生れ同四十四年家督を相續す夙に大阪高等工業學校應用化學科を卒業し獨逸に留學歸朝後陸軍技手となり大正六年陸軍技師に任ぜられ現に前記の職に在り家族は尙長女篤子（大七、一一生）二男英夫（同一一、五生）二女弘子（同一四、一〇生）三女信子（昭三、五生）あり弟二郎（明二二、四生）は長野縣人關すみじの入夫となり妹みつ（同二四、一生）は東京府士族石川周行二男提郎に同とし（同二七、六生）は同縣人飯島兵延に同とみ（同三〇、三生）は福岡縣人戸次陽吉に嫁せり（東京市外西巢鴨町池袋一〇八五）

加輪上勢七

加島銀行、大同生命保險、加島信託各種監査役、廣岡系常務理事
大阪府在籍

母　ヤミ　安政三、一一生、兵庫、濱谷五兵衞長女
妻　すて　明一五、五生、大阪、濱木喜助長女
男　保　明三六、一二生、關西學院高等商業部出身、大同生命保險會社員
男　進　明三九、七生、慶大在學
女　佳代子　大四、二生、帝塚山學院高女在學

當家は先代勢七大阪の商家川岸家より分家して加輪上姓を稱したるに創まり元濕花長者として鴻池家と並び稱され加島屋（現廣岡家）の別家格たり君は先代勢七の長男川岸愛三郎の兄にして明治九年七月を以て生れ同二十八年家督相續と共に襲名して前名鹿藏を改む先代と同じく加島銀行に勤め副支配人總務部長常務取締役を經て現に前記各會社の重役たり謠曲に趣味を有す家族は尙四女安（大六、七生）あり長女秀子（明三五、四生、神戸女學院出身）は工學博士坂湛二男慶治に二女道子（同三七、一一生、ブール高女出身）は工學博士茂に嫁し弟菊松（同一五、一二生）は大阪府人下村丑之助の養子となれり（大阪、住吉、松崎町二ノ四六電天王寺七〇八）

参照＝川岸愛三郎、坂湛、直木倫太郎の項

可知貫一

正五位勳五等、農林技師、農務局勤務、岐阜縣在籍
母　あさ　明元、八生、岐阜、松浦傳三郎長女
妻　久漸　明二四、五生、岐阜、田口東一妹
男　みよ　大二、六生
女　大四、七生

君は岐阜縣人可知與一の長男にして明治十八年一月を以て生れ同四十三年家督を相續す同年東京帝國大學農科大學農學科を卒業し爾來東京高等農林學校講師岐阜縣技師農商務技師等を經て大正十四年農林技師に任じ農務局勤務となり今日に及ぶ昭和二年歐米各國に出張を命ぜらる家族は尙二女喜代（大八、九生）三男祐次（同一一、八生）弟正名（明四〇、一〇生）同妻さよ（同四四、三生、岐阜、竹山長治三女）及其一女弟譽橋（同四三、一〇生）あり妹ふさ（同二七、五生）は岐阜縣人堀寺平に同ひろの（同三五、九生）は同縣人原一平に嫁し弟後介（同二九、八生）は岐阜縣人平野鶴次郎の養子となれり（東京市外中野町昭和通一ノ一）

参照＝姉古稀卓四郎の項

可兒一雄

京都商工會議所議員、京都織物㈱取締役、和歌山縣士族
母　ミツ　天保九、四生、和歌山、士、寺島驪平長女
妻　けゐ　明一七、七生、愛知、佐々成爲三女
男　武雄　大一〇、七生
女　綾　明四一、一生、同志社女學校專部家政科出身
女　道　大四、四生

君は和歌山縣士族可兒倉太の長男にして明治五年十月を以て生れ同三十七年家督を相續す同二十九年東京高等工業學校機械科を卒業し現時京都織物會社取締役にして京都商工會議所議員に推さる長女芳（明三二、三生）は和歌山縣人岩本正次郎に妹緝（同二一、一二生）は京都府人青山咸倫に同きよ（同二六、一一生）は愛知縣人市川正に嫁せり△八九六（京都、上京、猪熊通下長者町上ル電西陣一四九五）

可兒悌二郎

正四位勳二等功四級、陸軍獸醫總監、東京府士族
妻　きくの　明四〇、一一生、養父純一郎二女
男　隆　夫

君は東京府士族田村清風の二男にして慶應三年一月を以て生れ先代純一郎の養子となり明治二十五年家督を相續す同年東京帝國大學農科大學獸醫學科を卒業し同二十七年陸軍三等獸醫に任ぜられ爾來轉戰して大正十五年陸軍獸醫總監に任ぜられ豫備役に編入さる其間陸軍獸醫學校騎兵實施學校陸軍士官學校各教官東京帝國大學農科大學講師陸軍省軍務局課員第十五第一近衞各師團獸醫部長に歷補す長女靜子（明二七、六生）は大分縣人陸軍軍醫監藤波正に二女久子（同三二、九生）は三重縣人秦駒太郎長男陸軍歩兵少佐彦三郎に嫁せり（東京、牛込、北山伏町四五電牛込五六八三）

参照＝藤波元雄の項

可兒信夫

東洋耐火煉瓦㈱常務取締役、柳田ビルブローカー銀行、神谷傳兵衞本店各經監査役、三星粘土資支配人、大分縣士族

母　エミ　元治元、二生、大分、野中準二女
妻　きゐ　明三六、九生、茨城、久松源次郎養子
男　孝夫　明三七、九生、工學士、三菱商事會社機械部勤務
婦　節子　明四〇、一生、長男孝夫妻、東京柳田榮二女

君は大分縣士族可兒彌太郎の長男にして明治十六年三月を以て生れ昭和五年家督を相續す同四十年東京都帝國大學法科大學を卒業し現時前揭諸會社の重役たり家族は尙孫彌惠子（昭三、八生、長男孝夫長女）あり（東京、本所、向島須崎町二三電墨田一七九二）

参照＝久松源次郎、柳田榮二姉田延二郎の項

可野信一

從五位、樺太廳技師、內務部鑛務課長、宮城縣在籍
母　せん　文久二、八生、祖父勘右衞門長女
妻　逢　明二五、五生、茨城、士、三好毅妹、茨城縣女子師範出身
男　信　雄　明四二、三生

君は宮城縣人可野榮治の長男にして明治十二年三月を以て生れ大正六年家督を相續す明治三十九年京都帝國大學理工科大學採鑛冶金科を卒業し同年鑛山監督署技手となり次で技師に進み仙臺大阪各鑛山監督署勤務を經て大正二年鑛山技師に任じ同三年官を辭し爾來田中鑛業會社青森縣安部城鑛山鑛業所長兼北海道國富明治礦鑛山鑛業所長同社技師長日本鋼管會社技師鑛山課長開化炭礦會社常務取締役兼技師長等に就任す昭和二年再度樺太廳技師に任ぜられ現に前記の職に在り家族は尙二女多惠子（大七、二生）三女都代子（同一一、三生）弟陸郎（明二四、八生）同妻さわ（同三二、一〇生、宮城、增子金作四女）及其二女あり（樺太、豐原、豐原町樺太廳鑛務課內）

花山院親忠

侯爵　舊公卿家
母　とし　明一九、五生、東京、士、青地伊一妹

當家は關白藤原道長の嫡孫關白師實の二男左大臣家忠の後なり家忠別に一家を立て其邸花山院法皇の皇居跡なりしを以て氏とす世々大臣大將の職を奉じ七清華の一たり先々代忠遠に至り明治十七年侯爵を授けらる先代親家は子爵堀河康文先代護膳の弟にして入つて當家を嗣ぐ君は親家の長男にして明治九年七月を以て生れ同十三年家督を相續し襲爵被大正七年八月を以て生れ同年十三年家督を相續し襲爵被仰付家族は尙姉千鶴子（明一〇、一〇生）妹好子（同一〇、一〇生）あり（神奈川、鎌倉、鎌倉町西御門八六七）

参照＝子爵堀河康文、男爵南岩倉長威、青地伊一姉男爵太秦康光宗古屋德兵衞の項

香川英次郎

川崎第百銀行㈱四谷支店長
東京府在籍

妻　とめ　明二五、八生、茨城、鴨志田善衞門妹
男　榮一　大一三、三生
女　文子　大三、一〇生

君は東京府人香川景養の二男にして明治十五年五月を以て生れ大正十一年兄教太郎方より分れて一家を創立す明治四十年日本大學專門部を卒業し現時川崎第百銀行四谷支店長たり家族は尙二女澄江（大六、一生）三女喜代（同八、九生）四女英子（同一一、一生）五女久子（昭二、一〇生）あり（東京、赤坂、青山南町六ノ八三）

香川景之

從四位勳三等、御歌所參候
東京府士族

妻　カメ　明一〇、七生、京都、岩崎伊三郎二女
男　景　松　明三七、一生、三輪田高女出身
女　勝子　明四四、七生
男　景　楠

君は鳥取藩士贈五位香川景樹の孫にして元治元年六月を以て生れ明治二十年家督を相續す祖父景樹幼にして德大寺家に仕へ勸學練行終に敍せられ陸奥介に任ぜられ天保二寬政八年從六位下に敍せられ天保二年仙洞の特選を以て從五位下に敍し肥後の守に任ぜらる一世の歌人にして著書數種あり桂園又東塢と號す

香川熊太郎

海南新聞㈱社長、今治瓦斯製氷㈱取締役、松山瓦斯㈱相談役、伊豫米穀取引所㈱理事長、愛媛縣在籍
妻　ヨネ　明二、二生、愛媛、士、田那部古壽三女
男　和　男　明二二、一二生

當家は始め相模國香川庄に住せしを以て姓となす君は愛媛縣人香川林左衞門の長男にして慶應二年七月を以て生れ明治十二年家督を繼ぐ始め三上成明に師事したるも蕪雜もなく歸郷し煙草製造業に從ひ次で伊豫米穀取引所仲買人となり後專務理事同理事長等に擧げらる現時前記諸會社の重役にして義に松山商工會議所副會頭に推さる長女エツ（明三五、二生）は愛媛縣人醫學博士吉田功に姉ミツヨ（元治元、一生）は同縣人別府直賢天保十四年卒し明治四十年正五位を追贈せらる父景恆兄景敏は共に歌人として名あり君も亦歌を能くし御歌所參候仰付けらる義に宮內事務官に任ぜられ山陵宮附たりしことあり家族は尙五男景棟（大六、一〇生）あり長女樹子（明三三、八生）は東京府人朝賀喜一長男忠信に嫁し養姪ヤス（同四、四生、亡兄景敏養子）は其一子を伴ひ分家せり（東京、麴町、富士見町五ノ一電九段一五六）

香川和男

松山商工會議所常議員、松山瓦斯㈱社長、海南新聞㈱副社長、今治瓦斯製氷㈱取締役、伊豫米穀取引所㈱理事、愛媛縣在籍
父　熊太郎　慶應二、七生、現戸主
妻　芳子　明二九、六生、愛媛、近藤重義四女
男　和　正　大七、三生

君は愛媛縣人香川熊太郎の長男にして明治二十二年十二月を以て生れ後前名重一郎を改む大正四年明治大學法科を卒業松山瓦斯會社に入り刻苦精勵衰頹せる社運を挽回し果遂して同社長となり更に文章報國を志し義に四國每日新聞社愛媛新報社等の取締役たりしが現時は海南新聞社副社長として盡瘁しつゝあり其他今治瓦斯製氷會社伊豫米穀取引所の重役を兼ね推されて松山商工會議所常議員たり家族は尙二男昌宜（大九、三生）三男光男（同一一、二生）四男廣順（同一三、六生）五男廣通（同一五、二生）長女和子（昭三、六生）二女薫子（同五、二生）あり（松山、江戸町三八電一〇〇六）

参照＝香川熊太郎の項

香川熊太郎

海南新聞㈱社長、今治瓦斯製氷㈱取締役、松山瓦斯㈱相談役、伊豫米穀取引所㈱理事長、愛媛縣在籍
妻　ヨネ　明二、二生、愛媛、士、田那部古壽三女
男　和　男　明二二、一二生

當家は始め相模國香川庄に住せしを以て姓となす君は愛媛縣人香川林左衞門の長男にして慶應二年七月を以て生れ明治十二年家督を繼ぐ始め三上成明に師事したるも蕪雜もなく歸郷し煙草製造業に從ひ次で伊豫米穀取引所仲買人となり後專務理事同理事長等に擧げらる現時前記諸會社の重役にして義に松山商工會議所副會頭に推さる長女エツ（明三五、二生）は愛媛縣人醫學博士吉田功に姉ミツヨ（元治元、一生）は同縣人別府直賢

に妹カメ(明八、一一生)は愛媛縣人高市浪次長男次郎に嫁ぜり(松山、新玉町一)
参照＝香川和男の項

香川櫻男

妻　正子　明四二、三生、從五位
男　敬男　明四二、三生、男爵松園信淳姉

當家は先代敬三より顯る敬三は舊水戸藩士にして前姓蓮田氏伊勢國司北畠氏の末葉なり藤末王事に奔走し戊辰の役總野の間に轉戰して功あり後職を宮中に奉じ宮内權大丞兼舍人長皇后宮大夫華族局長樞密顧問官皇太后宮大夫議定官閑院宮別當東伏見宮御用掛等に歴任し多年畏憲皇太后に奉仕す明治二十年特旨を以て華族に列し子爵を授けられ同四十年伯爵に陞さる君は敬三の二男にして明治九年四月を以て生れ大正四年襲爵す陸軍士官學校を卒業し明治三十二年陸軍歩兵少尉に任じ累進して大正十二年同大佐に陞り其間佛國に留學す同年豫備役に編入せらるる家族は尚三男朝男(大三、五生)二女保子(同六、一生)四男須男(同九、九生)姉志保子(文久二、一一生)あり長女顯子(明三六、一〇生)は東京府人山崎貞直に姉文子(同七、一生)は子爵山井兼武先代兼文に妹雪子(同一二、一生)は東京府人岩村俊武に同靜子(同一三、六生)は子爵花房太郎に嫁ぜり(東京、麹町、紀尾井町六電九段二七七)
参照＝子爵花房太郎、子爵山井兼武、男爵松園信淳、岩村俊武＝男爵應司信照の項

香川茂正

妻　サダエ　明二一、二生、廣島、山田猛妹
養子　正三　明四三、二生、香川、香川實五郎

君は香川縣人香川伊平太の長男にして明治十六年一月を以て生れ大正十一年家督を相續す明治四十一年京都帝國大學法科大學法律學科を卒業し同四十四年判事に任じ福來札幌地方同區山口地方津山區松山地方福岡地方各裁判所判事長崎控訴院判事長崎地方裁判所久留米支部々長に補せられ同五年現職に轉す家族は尚明護(大一三、一生、妻サダエ明)あり(熊本市地方裁判所内)

香川秀作

妻　得　明一二、九生、廣島、淺井澤長女
男　龍雄　明三七、三生
男　清美　明四二、一二生
男　豪三　明四五、五生
女　澄子　大三、一生
女　壽惠子

君は廣島縣士族香川三作の長男にして明治五年五月を以て生れ同十一年家督を相續す夙に中央大學を卒業し辯護士となり一般訴訟事務に從ふ長女敏江(明三四、一生)は廣島縣人齋藤壯一に姉アサ(慶應元、四生)は同縣人笠岡拳次郎に同ユウ(同三、四生)は兵庫縣士族津田忍に嫁ぜり(廣島市新川場町一〇八ノ二電八二三)

香川保忠

妻　ミヨ　明三二、七生
男　保　明三七、九生
婿　文根　尾長次郎長女

君は富山縣人香川保明の長男にして明治五年三月を以て生れ同三十三年家督を相續す夙に縣會議員同參事會員同副議長衆議院議員等に擧げられ現時前記銀行會社の重役にして中新川郡教育會長民政黨富山縣支部長たり家族は尚孫保真(昭二、九生、長男保長男)ありA一五〇〇〇(富山、中新川、西加賀村電一)

香川保忠

母　トメ　立山鐵道、立山製紙各㊣社長、帶一萬延元、五生、富山、士、松住信
妻　ミヨ　明三二、七生
男　保　明三七、九生、長男保妻、富山、
婿　文根　尾長次郎長女

君は富山縣人香川保明の長男にして明治五年五月を以て生れ同十一年家督を相續す夙に中央大學を卒業し辯護士となり一般訴訟事務に從ふ長女敏江(明三四、一生)は廣島縣人齋藤壯一に姉アサ(慶應元、四生)は同縣人笠岡拳次郎に同ユウ(同三、四生)は兵庫縣士族津田忍に嫁ぜり(廣島市新川場町一〇八ノ二電八二三)

香椎源太郎

妻　テル　釜山商工會議所會頭、釜山日報社長、朝鮮瓦斯電氣㊣社長、朝鮮鉱電各㊣代表取締役、日本礦業陶器、朝鮮水産輸出、釜山水産、釜山共同倉庫、釜山米穀證券、釜山證券、朝鮮海上火災保險朝鮮毒鑛印刷、京城水産各㊣取締役、朝鮮電氣協會長、福岡縣在籍
養子　純一郎　明一八、九生、山口、神田勇太郎庶子　明二一、六生、長女シヅ夫、福岡士、香椎秀一弟、法學士

香椎秀一

母　ハマ　正四位勳二等功三級、豫備陸軍中將、福岡縣士族
女　嘉永三、一生、福岡、香椎蓼吉長女　明一四、一〇生、福岡、士、西川勝太郎妹
妻　ミヨ　明四五、二生
男　健次郎

君は福岡縣士族香椎昌の長男同浩平の兄にして明治七年二月を以て生れ同四十年家督を相續す同二十八年陸軍士官學校を卒業し同年陸軍歩兵少尉に任じ大正十三年陸軍中將に累進す其間陸軍大學校を卒業し爾來第六師團參謀戸山學校教官教育總監部參謀同課員大分聯隊區司令官歩兵第六十一聯隊長關東都督府陸軍參謀浦鹽派遣軍參謀歩兵第三十三旅團長由良要塞司令官等に歴補し大正十五年豫備役に編入せらる家族は尚三男浩(大四、一生)二女恭子(同七、三生)四男敬介(同一〇、九生)弟智二郎(明一七、二生)同妻純江(同二六、一生、廣島、小田寛一長女)及其一男二女あり長女隆子(同四〇、八生)は福岡縣人佐々木敏雄に弟純一郎(同二一、六生)は同縣人香椎源太郎の養子となれり(福岡嘉穂、大隈町)
参照＝香椎源太郎、香椎浩平＝家西川虎次郎の項

香月清司

母　チヨ　正五位勳二等功五級、陸軍少將、陸軍大學校幹事兼同校兵學教官
妻　ツル　安政六、八生、佐賀、士、松本治八長女
男　清明　明一九、七生、東京、士、佐野直勛三女
女　君子　大二、一二生、陸軍士官學校在學

君は佐賀縣士族香月雄次の長男にして明治十四年十月を以て生れ同二十二年家督を相續す同三十六年陸軍歩兵少尉に任じ昭和四年陸軍少將に累進す其間陸軍省副官佛國駐在員陸軍大學校兵學教官歩兵第八聯隊長陸軍省軍務局兵務課長歩兵第三十旅團長等に歴補し昭和五年八月現職に補せらる大正五年佛國巴里に駐在し軍事研究調査をなし同十年歸朝す家族は尚二男秀雄(大五、一〇生)三男良夫(同一〇、五生)あり長女キヨ子(明四一、六生)は東京府人原田吉次郎二男陸軍一等軍醫費學博士嘉之に姉ミス(同一〇、一〇生)は佐賀縣士族山口勝次長男判事彝太郎に嫁し弟次郎(同一八、二生)同妻クマ(同二一、二生、福岡、池田七藏四女)は其子女を伴ひ福岡縣人池田七藏の養子となれり(東京市外杉並町阿佐ケ谷一九三電四谷六一四四)
参照＝家宇土兵藏の項

香月錠之助

妻　品　大阪陶業㊣社長、長崎陶器、大阪製鎖㊣取締役、大阪府士族
男　忠雄　明一五、七生、山住嘉助二女
婿　トシエ　明三六、二生、二男忠雄妻、保田佐右衛門三女

香月芳

妻　益　明四一、一生
女　文子　明二九、一生

君は東京府士族富澤次郎助の四男にして慶應三年十二月を以て生れ明治十一年家督を相續す夙に大阪商船會社に入り內瓶部船舶係長長同調度課長となり現時大阪陶業會社長の外前記各會社の重役たり家族は尚孫義雄(大一五、一生、二男忠雄長男)あり三男孝之助(明三八、九生)は長崎縣人山田一誠の養子となり養子チヨコ(同二三、一〇生、長崎、士、鹽谷富太郎三女)は石川縣士族秩父順次に嫁ぜりA一六九〇(大阪、住吉、住吉町一二七一電長天王寺一六一七)

香月清

母　チヨ　正五位勳二等功五級、陸軍少將、陸軍大學校幹事兼同校兵學教官
妻　ツル　安政六、八生、佐賀、士、松本治八長女
男　清明　明一九、七生、東京、士、佐野直勛三女
女　君子　大二、一二生、陸軍士官學校在學

君は佐賀縣士族香月雄次の長男にして明治十四年十月を以て生れ同二十二年家督を相續す同三十六年陸軍歩兵少將に任じ昭和四年陸軍少將に累進す其間陸軍省副官佛國駐在員陸軍大學校兵學教官歩兵第八聯隊長陸軍省軍務局兵務課長歩兵第三十旅團長等に歴補し昭和五年八月現職に補せらる大正五年佛國巴里に駐在し軍事研究調査をなし同十年歸朝す家族は尚二男秀雄(大五、一〇生)三男良夫(同一〇、五生)あり長女キヨ子(明四一、六生)は東京府人原田吉次郎二男陸軍一等軍醫費學博士嘉之に姉ミス(同一〇、一〇生)は佐賀縣士族山口勝次長男判事彝太郎に嫁し弟次郎(同一八、二生)同妻クマ(同二一、二生、福岡、池田七藏四女)は其子女を伴ひ福岡縣人池田七藏の養子となれり(東京市外杉並町阿佐ケ谷一九三電四谷六一四四)
参照＝家宇土兵藏の項

香月

妻　益　明二九、九生、長崎、香月福次郎長女

君は佐賀縣人須藤清馨の弟にして明治二十六年明治法律學校卒業し判檢事以て生れ大正六年先代益の入夫となり家督を相續す同八年應慶義塾理財科を卒業し東京米穀商品取引所理事長指田義雄氏の秘書役たりしが後之を辭し現時東亞著電池製作所代表者にして白木屋取締役兼事業部長たり(東京市外千駄ケ谷町原宿一七〇電青山三四六九)

香取久吉

妻　京　明一七、六生、福島、士、野村宥孝長女
男　博史　明四〇、一〇生、法學士
男　敬司　明四三、一一生、東京帝大法學部在學
女　郁子　大三、二生、東京家政女學院在學
女　恒子　大三、一二生、東京家政女學院在學

君は元茨城縣會議長香取久吉の兄なり明治十年七月を以て生れ同四十五年分れて一家を創立す同三十六年明治法律學校卒業し判檢事登用試驗に合格し同三十九年檢事に任じ爾來盛岡區同地方青森地方同區小樽區函館地方同區各裁判所檢事札幌控訴院檢事樺太地方裁判所檢事正に歴補し昭和二年現職盛岡地方裁判所檢事正に補せられ今日に及ぶ家族は尚三男俊彦(大五、一一生)三女菊子(同七、一〇生)四女松枝(同一一、一生)五男尚義(同一五、五生)あり養子クニ(明三二、一一生、茨城、栗原繁藏二女)は福島縣人正三位勳二等雪下陽長男陽一郎に嫁ぜり(盛岡

内丸電二三)

香取利兵衛

養母　いし　金時商店、風呂釜商東京府在籍
妻　ヒサ　元治元、四生、千葉、金子忠藏長女、現戸主
男　保　明二四、一〇生、東京、出村茂助
男　利　明四四、一一生
女　みつ　明四四、一〇生
大三、七生

君は千葉縣人川名奥太郎の長男にして明治五年六月を以て生れ大正四年香取いしの養子となり前名安太郎を改む養に岡本石村會社取締役たり現時金時商店と稱し風呂釜商を營む家族は尚二女やいこ(大八、六生)あり(東京、淺草、北富坂町一九電淺草三四〇七)

狩野伊兵衛

父　伊平　山田洋紙店㊣鑑査役、吳服商大阪府在籍
妻　き　嘉永四、二生、滋賀、中森伊兵衛二男
男　憲一　明二五、九生、大阪、山田茂兵衛三女
大三、七生

君は大阪府人狩野伊平の長男にして明治十四年一月を以て生れ大正十五年家督を相續し前名峰之助を改む吳服商を營み傍ら山田洋紙店鑑査役たり家族は尚二女カツ子(大一〇、二生)三女喜代子(同一二、三生)四女悅子(同一四、八生)あり二男隆造(同六、三生)は大阪府人山田マキの養子となれり(大阪、西、阿波座一番丁五ノ一電新町一二〇二)

狩野桑太郎

妻　とき　材木商東京府在籍
男　喜一　明二〇、七生、東京、松下德次郎三女
明四二、三生

君は東京府人狩野勘七の孫にして明治十六年十月を以て生れ同二十四年家督を相續す材木商を營む家族は尚二男悌次郎(大四、三生)三男敏男(同七、八生)二女方子(同一一、一生)四男尉夫(同一三、三生)三女峰子(昭三、三生)あり(東京市外大崎町下大崎三二八電高輪一一七〇)

狩野信平

静岡商工會議所議員、清水木材㈱社長、大正化學製品各㈱監査役、静岡縣在籍

母　さと　安政五、一一生、静岡、櫻井新兵衛長女

妻　光　明二六、一二生、静岡、今泉芳太郎妹

男　勇吉　明三七、三生

君は静岡縣人狩野賢作の二男として明治十二年一月を以て生る現に清水木材會社長たる外前記會社の重役にして静岡商工會議所議員に擧げらる家族は尙二女はる（大八、二生）三女松代（同一一、六生）五女幸子（同一四、六生）八男和男（昭二、一生）六女房子（同四、一生）兄賢作（明一〇、二生、現戸主）同妻てる（同二〇、一〇生、静岡、狩野角太郎長女）及其子女弟欽吾（同二四、八生）同妻あい（同三四、九生、静岡、大木濕次郎妹）及其子女あり二男正一（同四〇、一生）四女政子（大一三、一生）は共に静岡縣人今泉芳太郎に五男吾郎（同五、六生）は同縣人今泉金治郎に七男金平（同九、一〇生）は同縣人内田金治郎養母いそに各養子となり弟宗一郎（明一五、一生）同妻支那（同二八、七生、石川、岡本久藏四女）は其一子を伴ひ分家し妹京（同三八、一一生、兄賢作長女）は長野縣人櫻井和市に嫁せり（静岡安倍、玉川村）

狩野宗三

小野田セメント製造㈱專務取締役、川内里鐵道、三岐鐵道各㈱取締役、東京府士族

妻　勝　明二七、九生、貴族院議員淺田德則四女、東京女學館出身

男　正秀　大五、三生

女　フミ　大三、一一生

君は東京府士族大木口哲の二男にして大木良輔の弟なり明治十六年七月を以て生れ同四十四年先代豐勝の跡を襲ひ家督を相續す同四十年東京帝國大學工科大學應用化學科を卒業し後獨逸伯林工科大學及同國月沈原理科大學に學び歐米セメント業を視察し歸朝して小野田セメント製造會社支配人兼工務課主任常務取締役を經て現時同社專務取締役たる外前記各會社の重役を兼ぬ家族は尙二男學（大七、一生）三男廉比古（同九、八生）あり弟豐勝（明一八、一二生）は東京府人高木與兵衛の養子となれり（山口、厚狭、小野田町電五六）

参照＝淺田德則、大木良輔、高木與兵衛

狩野直喜

從三位勳二等、文學博士、帝國學士院會員、京都帝國大學名譽教授、東方學院京都研究所長、對支文化事業總委員會日本委員、東方文化事業調査會委員、熊本縣在籍

妻　たね　明九、一生、滋賀、福島卯助長女

男　直方　明三四、一生　長男直方妻、大阪

婦　宮子　明四一、四生、阪倉篤烈孫

君は熊本縣士族狩野源内の二男にして明治元年二月を以て生れ大正六年分れて一家を創立す明治二十八年帝國大學文科大學漢文學科を卒業し大學院に入る同三十二年漢文學及東洋哲學研究の爲清國に留學し同三十九年京都帝國大學文科大學教授に任ぜられ同四十年文學博士の學位を授けらる曩に同大學文學部長となり又清國韓國及歐洲に差遣せられ帝國學士院會員に擧げらる昭和三年同大學名譽教授となる外務省に於いて對支文化事業調査會設置さるゝや選ばれて其委員となり又北京に於ける東方文化學院京都研究所長を兼ぬ家族は尙孫直續（昭四、一一生、長男直方長男）あり（京都、左京、田中大堰町六ノ一電上二四一）

狩野彌之助

松屋㈱代表取締役、静岡縣在籍

母　せい　文久三、二生、静岡、狩野新藏二女

妻　ゆき　明二八、一一生、静岡、寺尾德太郎妹

男　昌平　大八、三生

女　佳子　大四、一〇生

君は静岡縣人狩野角太郎の二男にして明治二十一年六月を以て生る松彌と稱し呉服商なり家族は尙男彌三郎（大一一、一二生）二女清子（同一五、一二生）五男光司（昭四、三生）兄銈佑（明一六、五生、現戸主）同妻かれ（同二五、六生、静岡、中村喜作三女）及其一男妹しゅん（同三〇、一生）同夫新吉（同三二、二生、静岡、森脇左衛門三男）及其一女ありA一二二九B四四九（東京市外入新井町不入斗三三三電大森一七三）

狩野義胤

志士庫村長、芙城縣多額納稅者、水戸電氣鐵道㈱取締役、農業、茨城縣在籍

妻　まち　明一六、九生、茨城、青木教右衛門長女

男　孝之　明三四、二生、早大法科出身

男　祐己　明三八、一一生、早大商科出身

君は茨城縣人狩野助胤先々代平左衛門の二男にして明治十二年十一月を以て生れ先代平左衛門の養子となり大正十年家督を相續す現時農業を督み傍ら水戸電氣鐵道會社取締役にして志士庫村長に推され茨城縣多額納稅者として知らるる家族は尙弟晃行（明四四、九生）あり長女ます子（同三六、一生、跡見女學校出身）は茨城縣多額納稅者法學士遠藤重吉に嫁せりA一二五〇B一四〇（茨城、新治、志士庫村）

参照＝遠藤重吉の項

狩谷精之

從五位勳六等、植物檢査官兼農林技師、横濱稅關植物檢査課長

妻　シズヨ　明二六、二生、廣島、田阪友二郎妹

男　亨一　大四、八生

君は石川縣士族宮野秀精の長男にして明治二十年十二月を以て生れ先代到の養子となり同三十三年家督を相續す同四十五年東京帝國大學農科大學を卒業す植物檢査官補植物檢査官横濱稅關在勤等を經て現時植物檢査官兼農林技師横濱稅關植物檢査課長たり家族は尙二男貞二（大一二、三生）あり（横濱、中、西戸部町稅關官舎七五號電長者町一一四四）

鹿子木員信

從五位勳五等、海軍機關中尉、文學博士、九州帝國大學教授、法文學部勳務、東京府士族

妻　コルネリヤ・タツデウス二女　明二二、五生、波蘭國、チリンスキ

男　健日子　大三、六生

君は舊肥後藩士故正四位勳三等鹿子木小五郎の弟にして明治十七年十一月を以て生る同三十七年海軍機關學校を卒業し海軍機關少尉に任じ同三十八年中尉に進む同四十年米國に同四十三年獨逸國に留學し大正十年文學博士の學位を受く同十二年再度歐洲各國に留學歸朝後同十五年九州帝國大學教授に任ぜられ昭和二年より二年間獨逸國ベルリン大學々實教授と成る現に九州帝國大學法文學部勳務たり家族は尙長女綾子（大六、一〇生）亡兄小五郎妻八十（明八、三生、男餘水野武再從姉）其長男亮（同四二、二生、現戸主）及其妹の外姉つや（文久三、八生）あり兄彦三郎（明四、一生）同妻チエ（同一六、一一生、熊本、河田精一長女）は其子女を伴ひ分家し妹芳（同三九、一一生、亡兄小五郎二女）は學習院教授文學士富永惣二に嫁せり（福岡市外香椎村杭岡電一五）

参照＝男餘水野武、家子餘片桐貞央、家子餘水野勝邦の項

鹿子木孟郎

帝國美術院美術展覽會審査員、洋畫家、岡山縣士族

妻　春　明一三、三生、岡山、士、妹尾敦姉

男　立郎　大元、八生

君は岡山縣士族宇治長守の三男にして明治七年十一月を以て生れ先代玉斑の養子となり同十四年家督を相續す洋畫家にして帝國美術院美術展覽會審査員たり不倒山人と號し毛筆畫を能くす長女圓子（明四二、二生）は農學士今西錦司に嫁せりA二四九（京都、左京、下鴨西林町二七電上一九二二）

鹿児島茂

正六位、熊本醫科大學教授、福岡縣在籍

養母　キク　明八、一一生、東京、山田萬助二女

母　ツネ　嘉永二、九生、福岡、吉松五百枝五女

妻　タツ　明二九、五生、長崎、中島金三郎長女

男　眞　明四四、七生

君は福岡縣人鹿児島始の長男にして明治十五年七月を以て生れ大正五年叔父連吉の養子となり家督を相續す明治三十九年千葉醫學專門學校を卒業し大正十二年千葉醫科大學附屬醫學專門部教授となり同十三年文部省より眼科學研究の爲滿二ケ年間獨英米各國に留學を命ぜらる現に熊本醫科大學教授たり家族は尙弟渉（明一八、一二生）同妻ミチエ（同二四、五生、宮崎、渡邊岩次二女）及其一女鉄ムツ（大三、三生）弟忠（同九、三生）あり（熊本市新屋敷町四二二電一五三四）

鹿児島虎雄

正五位勳四等、宮内書記官、大臣官房總務課勳務掌内藏寮用度課長、長崎縣士族

父　時成　安政四、二生、京都、小谷時和二男、現戸主

母　コト　文久元、一二生、祖父薯安長女

妻　コト　明二一、一一生、長崎、肥塚源次郎二女

男　幸雄　大九、五生

君は長崎縣士族鹿児島時成の長男にして明治十九年八月を以て生る同四十三年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し宮内書記官兼宮内事務官内匠寮監理課長を經て現時宮内書記官大臣官房總務課勤務掌内藏寮用度課長の職に在り家族は尙二女綾子（大六、四生）（同一一、五生）四女歌子（同一三、一一生）（昭三、七生）五女美枝子（同五、三生）弟逵次（明二一、九生）同妻ゐい（同二六、一一生、岐阜、小倉鎭之助長女）及其一子弟武彦（同三四、二生）同妻寓亀子（同三七、一〇生、京都、相坂萬吉長女）及其子女弟弘通（同二五、九生）同妻美智子（同三六、七生、大阪、松原一郎二女）及其一女あり姉タヅ（同一五、五生）は長崎縣人古閑正雄に妹千代（同三〇、七生）は醫學博士陳鎭雄に嫁せり（東京市外駒澤町上馬八九六電世田谷七九）

参照＝肥塚源次郎、家肥塚慶之助の項

鹿志村龜吉

五十銀行㈱取締役、茨城縣在籍、㈱監査役、茨城貯蓄銀行

母　いの　安政四、一一生、茨城、加藤平七五兵衛二女

妻　せい　明一一、三生、茨城、加藤平七五女

男　榮一　明三六、一二生

男　保二　明四二、五生

女　秀　明四三、一二生

君は茨城縣人先代龜吉の長男にして明治十一年六月を以て生れ大正十年家督を相續し前名清太郎を改め襲名す現時五十銀行取締役及茨城貯蓄銀行監査役たり家族は尙三男幸造（大三、五生）四男芳廣（同五、六生）あり長女まさ（明三四、九生）は栃木縣人寺島禮三に妹ふさ（同二四、六生）は福島縣人古川傳一に同すゑ（同二六、一〇生）は東京府人内海芳造に同かれ（同二八、九生）は新潟縣人入江求に同はま（同三一、八生）同妻よし（同平方五郎に嫁し弟善次郎（同一六、五生）同妻ふし（同造（同二一、一一生）は茨城縣人吉田彌一郎に叔父留次郎（同四、四生）は栃木縣人相樂權三郎に各養子となれり（茨城、那珂、添町）

参照＝古川傳一の項

鹿島英二

正五位勳五等、東京高等工藝學校教授、鹿児島縣士族

妻　テイ　明二〇、一二生、鹿児島、士、町田園造姉

男　守　大二、九生

女　禮　大四、一一生

君は鹿児島縣士族鹿島孫兵衛の長男にして明治七年一月を以て生れ同十二年家督を相續す同二十九年鹿児島縣球磨師範學校を卒業し同縣吉田高等小學校訓導鹿児島市高等小學校訓導等を命ぜられ同三十四年工業教員養成所本科工業圖案科を卒業し富山縣立工藝學校教諭となり同四十年米國に留學し歸朝後東京高等工業學校助教授に任じ球で教授に進み東京美術學校教授を兼任し大正五年本官を免じ東京美術學校教授に任ぜらる現時東京高等工藝學校教授たり家族は尙二女耀（大八、五生）二男逸郎（同一二、一一生）四女禮（同一五、二生）あり姉マス（明五、四生）は鹿児島縣人中村三太郎に妹カナ（同九、三生）は同縣士族園田才藏長男强兵衛に嫁せり（東京市外野方町上鷺宮四一九）

鹿島清左衛門

地主、東京府在籍

妻　要子　明四三、六生

女　泰子　明四五、七生

女　松子　大三、四生

君は東京府人先代清左衛門の三男にして同清平の甥なり明治十六年十二月を以て生れ大正元年家督を相續し前名勇吉を改め襲名す地主として知られ義に帝國朝田銀行副頭取帝國土地興業會社副社長たりし事あり弟重吉（明二三、七生）は東京府人鹿島千代の養子となり利右衛門と改名し同俊吉（同三一、六生）は同府人鹿島清次郎の養子となり妹孝（同二六、三生）は男餘鴻池善右衛門に嫁せり（東京、赤坂、靈南坂町一六電赤坂二七〇）

参照＝男餘鴻池善右衛門、鹿島清平、山本兼雄家横竹平太郎の項

鹿島清平

東京府多額納稅者、鹿島本店、酒問屋業、東京府在籍

妻　とき　明二二、九生、東京、鹿島清兵衛長女

男　登善　明三八、六生

男　延喜　明四三、八生

鹿島家は德川初期以來新川に住し酒問屋を營める著名の老舗にして累代諸大名の用達を勤め苗字帶刀を許さる君は東京府人鹿島清左衛門の叔父にして太田德九郎は其兄なり明治十二年七月を以て生れ先代乃婦の養子となり大正五年家督を相續し前名率之助を改む家業を繼ぎて酒類商を營み鹿島本店として知られ東京府多額納稅者に列す家族は尙三男富三郎（大二、一二生）四男廣（同七、二生）あり妹さゐ（明二六、七生）同夫武二郎（同二三、八生、栃木、善野硫太郎弟）は分家せり（東京、京橋、四日市町一一電京橋三二〇九）

參照＝鹿島清左衛門の項

鹿島精一

東京商工會議所議員、東京府多額納稅者、鹿島組㈱社長、日本パイプ製造、東洋コンクリート各㈱取締役、鹿島組、土木請負業、東京府在籍

妻　いと　明九、九生、養父岩藏長女

養子　守之助　明二九、九生、長女卯女夫、兵庫永富勝賀弟

女〃　卯女　明三六、六生、養子守之助妻、九段精華高女出身

君は岩手縣士族葛西晴寧の長男にして明治八年七月を以て生れ同三十二年東京帝國大學工木工學科を卒業し鐵道院に奉職せしが同年先代鹿島岩藏の懇望により其養子となり同四十五年家督を相續す鹿島組の事業を統率し鐵道敷設水力電氣其他一般土木工事の請負業者として聲望あり現に鹿島組社長の外前記各會社の重役にして東京府多額納稅者に列し又推されて東京商工會議所議員たり家族は尙孫伊都子（昭三、一生、養子守之助長女）同ヨシ子（同四、二生、同二女）同昭一（同五、八生、同長女）あり二女蕉子（明三九、四生、九段精華高女出身）は故小野鷲堂二男法學士威に妹木九（同三一、四生）は岩手縣人野邊地慶治三男慶三に同つぎ（同三二、一一生）は新潟縣人新倉利廣に嫁せり A五三六七B五八八（東京、小石川、關口町二〇七電牛込六〇〇九）

參照＝新倉利廣の項

鹿島爲次郎

大阪府多額納稅者、鹿島商店㈱代表取締役、清酒白雲發賣元、酒類商、大阪府在籍

妻　あさゑ　明一四、一二生、兵庫、下司善四郎長女

男　修一郎　明三六、一一生、關西學院出身

男　淑郎　明四四、一生

女　郁子　大五、一〇生

君は大阪府人鹿島爲七の長男にして明治六年五月を以て生れ同二十六年家督を相續す酒類商を營み清酒白雲發賣元にして現に大阪府多額納稅者たり家族は尙四男正敏（大二、一一生）四女良子（同九、二生）五男正勝（同二二、七生）あり二女英子（明四一、二生、大手前高女出身）は大阪府人北村正治郎に妹民（同一七、一生）は同府人窪田嘉藏に嫁し同久利（同一三、二生）は其夫竹次郎（同一三、六生、兵庫、坂上礦治郎弟）と共に分家せり（大阪、北、伊勢町一八八電曇北二七二七）

參照＝北村正治郎の項

鹿島鶴之助

從五位勳五等、判事、鹿島控訴院繼母　ソネ　明一五、五生、廣島、飛田彌丸姉

妻　あさ　明一五、二生、東京、中澤太郎吉長女

男　芳章　明三九、五生

男　芳亭　明四二、八生

君は大阪府人澤井とくの男にして明治十四年六月を以て生れ同十八年先代芳太郎の養子となり大正十二年家督を相續す明治四十一年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し同四十三年檢事に任じ次いで判事に轉じ福岡同區同地方那覇地方佐賀區同地方各裁判所判事に歷補し大正十三年宮城控訴院判事に歷補し大正十三年宮崎地方裁判所部長に同六年更に廣島控訴院部長に同六年東京帝國大學講師にして福岡區久留米區宮崎地方佐賀區同地方裁判所部長に選ばれ衆議院議員に當選する事八回に及ぶ其の他實業界に進出し播磨採鐵神戸電氣鐵道西武軌道各會社取締役たりし事あり長女てい（明一九、一生、京都府立第一高女出身）は兵庫縣人野上常盤に二女せつ（同二〇、一二生、親和高女出身）は東京府人高柳稻雄兄節三に嫁し三男忠麿（同二五、一一生、早大政治科出身）は分家せり（神戸、山本通四ノ一一四）

鹿島富太郎

山口銀行㈱神戸支店長兼兵庫支店長、大阪府在籍

妻　たみ　明二七、八生、兵庫、川中實吉二女

男　俊夫　大一五、一一生

女　富美子　大三、九生

君は大阪府人鹿島ナカの男にして明治二十年七月を以て生れ同二十三年家督を相續す神戸高等商業學校を經て同四十五年東京高等商業學校專攻部銀行科を卒業し直ちに山口銀行に入り現に同行神戸支店長兼兵庫支店長たり家族は尙二女盈子（大七、六生）三女知惠子（同一〇、九生）四女博子（同一二、一一生）あり（兵庫、川邊、伊丹町電二三一〇）

鹿島萩麿

從四位勳一等、伯爵、山階宮家御一門

君は故大勳位山階宮菊麿王の第四王子にして山階宮武彥王殿下侯爵山階芳麿侯爵筑波藤麿の弟伯爵葛城茂麿の兄なり明治三十九年四月を以て生れ昭和三年七月請願を允され臣籍に降下し鹿島の家名を賜り華族に列し伯爵を授けらる現時海軍中尉にして海軍大學校選科學生として世界大戰史を專攻中なり（東京、赤坂、青山南町六ノ一一七電青山八〇七七）

參照＝山階宮家、侯爵山階芳麿、侯爵筑波藤麿、伯爵葛城茂麿の項

鹿島秀麿

勳三等、日本商工產業、大阪汽船各㈱取締役、大井川鐵道㈱監査役、兵庫縣士族

妻　やす　明一七、二生

男　信麿　明二四、二生

男　義麿　明三一、三生、早大商科出身

男　孝麿　明三一、三生、早大商科出身

君は舊江州水口藩士大村純道の二男にして嘉永五年五月を以て生れ先代甲伯の養子となり後家督を相續す明治九年廖應義塾を卒業し現時前記各會社の重役たり義に淡路中學校を創立し其校長となり又神戸新報を發刊す後政界に入り改進黨に屬し大いに政界に幹旋し兵庫縣會議員同副議長に選ばれ衆議院議員に當選する事八回に及ぶ其の他實業界に進出し播磨採鐵神戸電氣鐵道西武軌道各會社取締役たりし事あり長女てい（明一九、一生、京都府立第一高女出身）は兵庫縣人野上常盤に二女せつ（同二〇、一二生、親和高女出身）は東京府人高柳稻雄兄節三に嫁し三男忠麿（同二五、一一生、早大政治科出身）は分家せり（神戸、山本通四ノ一一四）

鹿島房次郎

神戸商工會議所會頭、川崎造船所川崎汽船各㈱專務取締役、社長、オリエンタルホテル㈱社長、神戸新聞社、川崎車輛、布引商業、大阪海上火災保險、東亞セメント、大阪瓦斯生命保險各㈱取締役、神戸商業銀行㈱監査役、兵庫縣在籍

養子　良信　明二九、七生、兵庫、黑田正信弟

女〃　猶子　明四四、七生、神戸第一高女出身

君は廣島縣人田部香藏の弟にして同華吉の叔父大路環の兄なり明治元年九月を以て生れ先代まちの養子となり同三十一年家督を相續す同二十六年東京高等商業學校に學びしが半途にして退學直に渡米しミシガン大學を卒業し歸朝後神戸市水道部に入りしが勤務僅にして辭し實業界に入り現時時川崎造船所川崎汽船各會社專務取締役社長オリエンタルホテル社長の外前記各會社の重役にして神戸商工會議所會頭たり曩に神戸市助役同市長たりし事あり家族は尙孫美譽子（大一三、一生、養子良信長女）同登久子（同一五、一〇生、同二女）あり A七五七〇（神戸、中山手通六ノ四〇電元町八〇二）

參照＝大路環、田部華吉の項

鹿野三郎

從五位勳六等、鳥取縣書記官、內務部長、福岡縣士族

妻　カチル　明二七、一二生、福岡、上野正雄妹

男　誠一　昭三、一生

君は福岡縣人岩橋一郎の弟にして明治二十年一月を以て生れ先代淳二の養子となり同四十五年家督を相續す東京高等商業學校專攻部領事科を卒業し大正四年文官高等試驗に合格す同六年熊本縣葦北郡長同八代郡長岡山縣上道郡長大分縣理事官同事務官同書記官學務部長沖繩縣書記官內務部長等に歷任し福和四年鳥取縣書記官に轉じ現時同縣內務部長たり家族は尙長女元子（大八、二生）二女秀子（同一〇、二生）三女好子（同一二、二生）四女清子（同一四、一〇生）五女幸子（昭五、四生）あり（鳥取市上町內務部長官舍）

鹿野宏

從五位勳六等、朝鮮總督府道事務官、京畿道警察部長、鳥取縣士族

父　安政六、六生

母　とよ　明元、一生、鳥取、士、西岡公美二女

妻　ふつ　明三〇、一生、埼玉、本木政之助五女

男　透　大一一、五生

君は鳥取縣士族鹿野悠の二男にして明治二十一年九月を以て生る同四十四年日本大學法律科を卒業し文官高等試驗に合格す岩手縣屬同警部同膽澤郡長德島縣理事官同內務部地方課長同商工課長青森縣理事官同內務部庶務課長同書記官同視學官に歷任し大正十五年朝鮮總督府道事務官に轉じ咸鏡南道警察部長を經て現時京畿道警察部長たり家族は尙三女壽美子（大一五、五生）養子レッツ（同六、一生、福島、伊藤金吾孫）兄澄（明一八、八生、現戸主）同妻榮子（同二七、九生、岡山、湯淺儀太郎長女）及其子女叔父駒次郎（同二、六生）あり妹榮子（同三五、四生）は福島縣人安部重良に嫁せり（京城、光化門通京畿道警察部）

鹿野眞夫

從四位、男爵　東京府華族

妻　ふみ　明二七、一生、群馬、士、深井仙八二女

男　秀政　大三、一一生

當家は先代勇之進より顯る勇之進は舊信州松代藩士にして明治十二年海軍少尉に任じ同四十年海軍中將に累進す其間橫須賀鎭守府參謀長同海兵團長佐世保海軍港務部長馬公要港部司令官等に歷任し日露戰役の功に依り華族に列し男爵を授けらる君は其長男にして明治十三年八月を以て生れ大正三年襲爵す同元年東京慈惠會醫學專門學校を卒業す家族は尙亡弟孝夫妻房子（明二九、六生、東京、福島操生）あり同子代夫（同二一、九生、八生）同紅葉（同二九、八生）同省志（同三〇、九生）は各分家し妹はな（同三三、一生）は東京府人豐住堅吉に嫁し姪マリ子（大六、二生、亡弟孝夫二女）は同府人伊東貞次郎の養子となれり（東京市外蒲田町北蒲田八七四電蒲田一一三）

鹿又親

正五位、特許局技師兼特許局鑑定部長、東京府士族

妻　成　明一八、三生、東京、士、安川繁種妹

男　武成　大九、三生

女　延子　明四四、三生、青山女學院出身

女　操　大三、五生、府立第三高女在學

君は宮城縣士族鹿又則隆の長男にして明治十五年三月を以て生れ同十一年家督を相續す同四十年東京帝國大學農科大學農藝化學科を卒業し同年大藏技手に任官同四十三年大藏技師となり釀造試驗所技師稅務監督局技師東京稅務監督局鑑定部長特許局技師等に兼任せられ現時前記の官職に在り（東京、赤坂、青山南町五ノ四五電青山九一一二）

參照＝安川繁種氏安川隆治の項

華頂博信

從四位勳一等、侯爵、海軍中尉　伏見宮家御一門

妻　華　明四二、六生、閑院宮戴仁親王第五王女、勳二等

君は大勳位海軍大將伏見宮博恭王殿下の第三王子にして明治三十八年五月を以て生れ大正十五年情願を允され臣籍に降下し華頂の家名を賜り華族に列し侯爵を授けらる夙に海軍兵學校を卒業し海軍少尉に任じ現時海軍中尉にして昭和五年十一月長鯨乘組を命ぜらる（神奈川、鎌倉、鎌倉町淨明寺四八五電八六一）

參照＝伏見宮家、閑院宮家、侯爵黑田長成氏子爵安藤信昭の項

賀川寛一

廣島縣多額納稅者、農業　廣島縣在籍

妻　シケ子　明二八、七生、廣島、森忠夫姉清巳　大六、七生

君は廣島縣人賀川伍藏の長男にして明治二十年四月を以て生れ大正三年家督を相續す農を營み縣下の多額納稅者にして直接國稅三千十二圓を納む家族は尙二男澤人（大一四、八生）三男隆之（昭三、一二生）あり弟智（明三三、五生）は分家し妹智明（同三八、七生）は廣島縣人浮田智光の養子となれり（廣島、豐田、戶野村）

賀來惟義

正七位、大分縣多額納稅者、大分製墨㈱取締役、農業、大分縣在籍

妻　ツル　慶應元、七生、大分、佐藤千英二女

男　惟康　明二五、四生、大分、小澤秀治長女　大二、五生

男　靜　大四、一二生

君は大分縣人賀來勝太郎の長男にして同佐賀太郎の從弟なり明治十七年一月を以て生れ大正二年家督を相續す明治四十一年東京帝國大學法科大學政治科を卒業す後文官高等試驗に合格し臺灣總督府專賣局事務官同稅務官彙參事官等に歷任す現時大分製墨會社取締役にして直接國稅千八百九十二圓を納め大分縣多額納稅者たり家族は尙二男俊二（大六、六生）三男秀三（同九、一二生）二女不二（同一二、一生）四男潮（同一四、六生）三女百合（昭二、九生）四女晴（同五、四生）あり弟孝夫

(明三五、二生)は分家し妹禮(同一九、六生)は海軍造機大佐田原得三に嫁せり(大分、字佐、佐田村)
参照＝賀來佐賀太郎の項

賀來佐賀太郎

従三位勲二等、熱帯産業蚕取締役社長、大分縣在籍

養父　熊次郎　萬延元、三生、現戸主
養母　つれ　元治元、一生、大分、南市郎平四女
妻　ギン　明一〇、二生、養父熊次郎長女
男　宏一郎　明三八、一〇生、經濟學士、三井物産會社員
男　倫二郎　明四一、三生、東京帝大經濟學部在學
女　惠子　明四三、七生、女子學習院出身

君は大分縣人賀來重八郎の長男にして同惟義の從兄なり明治四年一月を以て生れ現戸主熊次郎の養子となる同三十二年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し曩に臺灣總督府專賣局長同總務長官等に歴任し大正十四年シユネーブに開催せられたる國際阿片會議帝國代表仰付けらる現時熱帯産業會社取締役社長たり家族は尚三男誠三郎(大八、一〇生)四男得四郎(同一一、六生)三女國子(同一三、一一生)ありA八一五(東京市外千駄ケ谷町五三二電青山二〇九〇)
参照＝賀來惟義の項

賀古桃次

従五位勲五等、醫學博士、愛知縣醫師會長、賀古眼科院長、醫師東京府在籍

母　ノア　弘化三、三生、静岡、小野源右衛門長女
妻　タウ　明四、三生、静岡、金子フジ養母
男　弓弦　明三〇、四生、醫學博士、東京賀古病院長
婿　文子　明三九、三生、長男弓弦妻、醫學博士石森國臣長女
御蓋　明三三、一〇生、金澤醫大出身、名古屋醫大眼科部在勤
男　明　明四四、一生、姫路高校在學

當家は代々上總鶴舞藩の典醫を勤む君は千葉縣士族賀古公齋の二男にして同鶴所の弟なり慶應三年三月を以て生れ先代泰濟の養子となり後家督を相續す明治二十四年東京帝國大學醫科大學を卒業し同二十六年福島病院副院長兼眼科部長に就任す同三十一年愛知縣立醫學專門學校教授兼愛知病院眼科部長を拜命し同三十七年醫學博士の學位を受く大正五年職を辭し醫院を開き一般診療に從事して名あり現に愛知縣醫師會長たり長女カツヲ(明二八、五生、お茶の水高女出身)は醫學博士額田豐弟醫學博士理學博士額田晋に二女鈴榮(同四九、生、名古屋第一高女出身)は静岡縣人醫學士米山彌平に嫁せり(名古屋、東、東魚町一ノ六電東二二〇八)
参照＝額田晋の項

賀島　政一

従三位、男爵、舊德島藩國老

妻　克子　明一九、七生、子爵酒井忠康伯母佛英和高女出身
男　政長　明三六、一一生、從五位
男　宏　明四二、一生

當家は舊德島藩國老として代々一萬石を領し先代政範に至る君は政範の長男にして明治八年三月を以て生れ同三十三年特旨を以て華族に列し男爵を授けらる家族は尚三男逸(大二、三生)四男保(同四、二生)四女旭子(明七、六生)六男秀(同一〇、一生)あり長女節子(明三九、一二生、佐藤高女實科出身)は長野縣人小山悦之助庶子逢彦に姉チル(同三、一〇生)は德島縣士族牛田又十郎に同ヨシエ(同六、一〇生)は同縣士族蜂須賀昭寛に同ミチ一に妹カツ(同一一、一一生)は同縣士族岩瀬良吾長男國義に嫁同アイ(同一三、一一生)は同縣士族岡本小一郎に同ヨ(同二〇、一二生)は香川縣人渡瀬岩太郎に各養子し同カチヲ(同一五、一一生)は同縣士族岡本小一郎に弟政近(同二四、九生)は同縣士族木村甚三郎の項となれり(東京市外大久保町百人町一二二)
参照＝子爵酒井忠康、渡瀬岩太郎、木村甚三郎の項

賀集新九郎

兵庫縣多額納稅者、淡路鐵道㈱社長、賀集酒造㈱代表取締役兵庫縣士族

母　ひさ　弘化元、六生、兵庫、松浦一郎姉
妻　チト　明一二、一〇生、兵庫、高島周左右三女
養子　和三郎　明二〇、一二生、二女とよ夫、兵庫、賀集亮二弟
女　とよ　明二五、一一生、養子和三郎妻

賀集除藏の長男にして明治四年一月を以て生れ同三十二年家督を相續す現時淡路鐵道會社長長通㈱伯爵堀田正恒㈱子爵裏松友光㈱男爵河邊三郎㈱男爵萬里小路元秀の項

賀集　亮二

日本銀行㈱出納局長、兵庫縣在籍

妻　折枝　明二〇生、兵庫、印部所一二女

君は兵庫縣人賀集直三郎の長男にして明治十年一月を以て生れ大正九年家督を相續す明治二十八年同志社同三十三年東京高等商業學校を卒業し日本銀行に入り同行熊本岡山廣島各支店長を經て現時同行出納局長たり弟和三郎(明二〇、一二生)は兵庫縣人賀集新九郎の養子となり同章平(同三〇、九生)は分家せりA七五六(日本銀行出納局)
参照＝賀集新九郎㈱子爵植松雅道の項

賀田直治

朝鮮皮革㈱社長、東洋畜産興業、朝鮮鐵道、朝鮮自動車、朝鮮勸農信託各㈱取締役、賀田組寶代表社員、山口縣在籍

妻　冬子　明二六、一生、東京、小宮三保松長女
男　金剛　大一〇、六生

君は東京府人市島治平の長男にして明治十年五月を以て生れ同三十九年先代きくの入夫となり家督を相續す同三十五年東京帝國大學農科大學を卒業し現時前記各會社の重役たり家族は尚三女孝子(大八、一〇生)四女惠津子(同一二、八生)四男不二雄(同一四、五生)五男五十雄(昭二、七生)六男信雄(同六、一生)あり長女轍(明四二、四生)は山口縣人波多野岩次郎に二女純代(大二、六生)は同縣人山次ツチに各養子となれりA二八〇(東京市外澁谷町神山一八)
参照＝小宮三保松の項

賀田以武

賀田組、萩製絲各㈱社長、東洋硫黄、臺東開拓、臺東製糖、朝鮮勸農信託、朝鮮生絲各㈱取締役、賀田組寶代表社員、東京府在籍

接國稅二千三百十一圓を納む家族は尚庶子駿一(大七、二生、生母、古田せい)同鑑藏(同一〇、八生、生母、德島、布川シケエ)孫益彌(同三、四生、養子和三郎長男)同雪子(同九、一生、同二女)同欣子(同一三、九生)は同妻泰江(同一五、四生、兵庫、住田金作三女)及其二女を伴ひ分家し同半介(同一六、七生)同英藏(生年月同上)も亦各分家し妹こたま(同一八、一二生)は兵庫縣人原日亮平に嫁せり(兵庫、三原、賀集村)
参照＝賀集亮二、原日亮平㈱住田正雄の項

母　ミチ　明三、一一生、山口、士、中村千俣長女
妻　美子　明三四、五生、伯爵佐久間俊一長女
男　金武　大一一、一生

君は愛媛縣人賀田金三郎の長男にして明治二十七年三月を以て生れ大正十一年家督を相續す先代金三郎は夙に三井物産會社に入り後獨力各種事業を經營し土木建築請負業賀田組を創む君は其の後を承く早稲田大學商科に學び賀田組を經營し傍ら前記會社の重役たり家族は尚二男恭弘(大一二、八生)三男晃嘉(同一四、七生)四男四郎(昭二、五生)あり(東京、麻布、富士見町四三)
参照＝伯爵佐久間俊一の項

賀茂　嚴雄

正四位勲二等功四級、海軍中將、揚淺蓄電池製造㈱相談役、静岡縣在籍

妻　東美子　明三、一〇生、伯爵萬里小路通房三女
男　正　歳　明三二、一二生、早大商科出身、大正海上火災保險會社員
婿　晋　子　明三九、一二生、二男正歳妻、宮崎、士、川越龜一郎妹
女　文　子　明二八、七生、東洋英和女學校出身
男　正　章　明四三、一生

當家は代々遠州濱名郡の神職たり先代水穂は國學の造詣深く和歌に長ぜり戊辰の役遠州神職の同志と報國隊を編成して官軍に投じ有栖川總督宮殿下の麾下に屬し各地に轉戰して功あり平定後海軍士官たりしが明治二十三年選ばれて靖國神社宮司となり名譽あり君は其長男にして慶應三年六月を以て生れ明治四十二年家督を相續す夙に海軍機關學校に學び同十九年海軍機關少尉に任じ大正五年海軍中將に累進す其間松島回航の爲佛國出張英米兩國駐在官日進機關長佐世保鎮守府機關長海軍工機學校長海軍機關學校長等に歴補す大正六年豫備役に編入せられ實業界に入り湯淺蓄電池製造會社取締役に擧げられ同十二年以來同社相談役たり三男正光(明三五、三生、慶大經濟學部出身、織田信託會社員)は分家し二女壽賀子(同三〇、一生、東洋英和女學校出身)は遠信技師假田嘉六に三女勝子(同三九、六生、

陸見女學校出身)は伯爵萬里小路通房嫡孫芳房に四女秋江(同四〇、一一生、東洋英和女學校出身)は三重縣人藤井市三郎長男英一に妹静江(同一二、一二生)は海軍中將伊藤乙次郎に嫁し弟正義(同七、七生、大阪工業大學長)は東京府人堤正巳に孫康子(大八、七生、亡長男正房長女)は福島縣人鈴木テイに各養子となり妹玉江(明一〇、一〇生)は醫學博士守屋伍造の未亡人たり(東京市外碑衾町衾一四四電荏原三〇一七)
参照＝伯爵萬里小路通房、伊藤乙次郎、飯田嘉六、川越龜一郎、藤井市三郎、堤正義㈱伯爵葉室長通㈱伯爵堀田正恒㈱子爵裏松友光㈱男爵河邊三郎㈱男爵萬里小路元秀の項

賀茂　百樹

正六位勲六等、靖國神社宮司、山口縣士族

妻　ツチ　明八、一〇生、山口、生野源三女
男　義文　明三三、一生
婿　貞子　明四一、一一生、長男義文妻、静岡、勝呂松三三女
女　益子　明四二、七生
女　待子　大五、一一生

君は山口縣人藤井厚朝の三男にして慶應三年十月を以て生れ賀茂義淵の後裔たる先代寡代子の養子となり明治二十九年家督を相續す現時靖國神社宮司にして神社制度調査委員神職高等試驗委員たり家族は尚二男貞杜(明四五、五生)孫淳子(明三七、九生)は山口縣人落合貞一の養子となり同蘭子(明三七、九生)は山口縣人三宅幸太郎となり四女鞠子(同四〇、五生)は廣島縣人宮崎一の養子(東京、麹町、富士見町二ノ一電九段二六八八)

賀屋　興宣

従五位勲六等、大藏書記官、主計局司計課長、東京府士族

妻　はる　明二五、一生、千葉、池谷直太郎二女

君は山口縣人藤井稜威の三男にして明治二十二年一月を以て生れ廣島縣士族賀屋ハナの養子となり後家督を相續す大正六年東京帝國大學法科大學政治科を卒業文官高等試驗に合格財務書記に任じ米國に駐在す歐洲諸國を巡歴し歸朝後大藏省主計官に任じ昭和五年大藏書記官に任じ主計局司計課長を命ぜらる蘇にシユネーヴ及倫敦に於ける海軍會議隨員仰付けられ出張す家族は尚長女和子(大一〇、四生)あり(東京市外西巣鴨町巣鴨一三電大塚一〇一三)

賀屋　隆吉

従五位、醫學博士、賀屋治療所長醫師、山口縣士族

妻　ツユ　明一〇、六生、山口、士、莊原好一長女
男　俊吉　明三四、三生、醫學士
男　幸　明四〇、一〇生、長男俊吉妻、男醫尚山均妹、女子學習院出身
婿　晋次　明三六、三生、早大出身
男　隆三　明三九、一生
男　好男　明四四、九生
女　千代　明四四、一二生、同志社女學部出身
女　喜代　大三、八生

君は山口縣士族賀屋晋道の三男にして明治四年二月を以て生れ同三十五年家督を相續す先是同三十一年東京帝國大學醫科大學を卒業し同大學助教授を經て同三十九年教授に進み同四十四年醫學研究の爲歐洲に差遣せられ次で賀屋治療所を設立して一般診療に從事し今日に至る書畫に趣味あり又建築に一隻眼を有す家族は尚孫俊雄(昭三、二生、長男俊吉長男)同美枝子(同四、一一生、同長女)兄寛造(明元、四生)あり長女美代(同三一、一〇生)は神戸市民病院長醫學士吉村良一に嫁せりA一〇四三(京都、上京、下鴨宮河町四七電上二四九四)
参照＝男爵向山均、吉村良一㈱田澤昌孝の項

賀屋　孝子

勲六等、日本女子高等商業學校長日本養禽㈱務取締役、花の日會長、東京府士族

妻　はる　明二五、一生、千葉、池谷直太郎二女

君は山口縣士族賀屋興宣の長男にして慶應三年一月を以て生る夙に成立學舍女子部高等科を卒業し爾來女子教育に盡瘁せし處渝からず現時日本女子高等商業學校長花の日會長にして前記會社の重役を兼ね大正四年多年の功勞に依り特旨を以て勲六等寶冠章を賜る家族は尚兄博矩(文久二、一生、現戸主)同妻マサ(明四、一二生、熊本、士、津留新長女)及其子女弟敏(同二、一〇生、從四位勲三等功五級、後備役陸軍少將、帝國輸業會社取締役)同妻嘉鶴(同一四、一〇生、東京、池部潤長女)及其子女弟龍人(同一五、一〇生)同妻數(同二五、一〇生、東京、西谷梅妹)及其子女ありA六〇九(東京

嘉悦　孝子

従五位勲六等、日本女子高等商業學校長、東京府士族

妻　はる　明二五、一生、千葉、池谷直太郎二女

君は山口縣人藤井稜威の三男にして明治二十二年一月を以て生れ廣島縣士族賀屋ハナの養子となり後家督を相續す大正六年東京帝國大學法科大學政治科を卒業文官高等試驗に合格財務書記に任じ米國に駐在す歐洲諸國を巡歴し歸朝後大藏省主計官に任じ昭和五年大藏書記官に任じ主計局司計課長を命ぜらる蘇にシユネーヴ及倫敦に於ける海軍會議隨員仰付けられ

麹町、土手三番町一電九段二〇〇八）

嘉納治五郎

正三位勳一等、貴族院議員、東京高等師範學校名譽教授、講道館長、兵庫縣在籍

妻　須磨　明六、九生、故文學博士竹添進一郎二女、華族女學校出身

男　履正　明三三、一一生、國大出身

君は兵庫縣人嘉納治郎作の三男にして萬延元年十月を以て生れ明治二十四年分れて一家を創立す同十四年東京大學文學部政治學及理財學科を同十五年哲學選科を卒業す學習院講師同教授同教頭文部省參事官第五等中學校長第一高等中學校長文部省普通學部局長東京高等師範學校長等に歴任す同十五年講道館を創設し柔道の研究指導に從事し現に其館長たり又講道館文化會を起し其會長たり蟄に貴族院議員に勅選され東京高等師範學校名譽教授たり家族は尚三男履方（明四五、五生）あり長男履信（同三〇、三生）は外祖父竹添進一郎の家督を相續し長女範子（同二六、一〇生、學習院女學部出身）は工學士綿貫哲雄に三女爽子（同三一、八生、出身校同上）は工學博士生源寺順に四女希子（同三二、九生出身校同上）は三井物產會社員畠中恒治郎に五女篤子（同四〇、六生、日本女大附屬高女出身）は古河電氣工業會社員鷹崎正見に嫁せり（東京、小石川、大塚坂下町一一四電大塚三三一）

參照＝生源寺順の項

嘉納治兵衛

兵庫縣多額納稅者、灘商業銀行取締役、嘉納名代表社員、酒造業兵庫縣在籍

妻　けい　明六、八生、養父治兵衛長女、嘉納名出資社員

君は奈良縣人中村堯圓の三男にして同雅眞の弟同檜次郎三木忠方の兄中村正格の叔父なり文久二年一月を以て生れ明治二十二年嘉納治兵衛の養子となり家督を相續し前名正久を改め襲名す昭和四年養子純に家督を讓り分れて一家を創立す酒造業を營み前記銀行會社の重役にして兵庫縣多額納稅者に列し直接國稅九千五百三十圓を納む（兵庫、武庫、住吉村井出口一六三三電御影二三八〇）

參照＝嘉納純、中村檜次郎、中村雅眞、中村正格、三木忠方の項

嘉納治郎右衛門

兵庫縣多額納稅者、灘商業銀行取頭取、本嘉納名代表取締役、講道館長、酒造業、兵庫縣在籍

妻　たれ　慶應元、七生、大阪、山澤保太郎妹　明三一、七生

養子　文治　明三一、一生、國大出身

當家は居村草分の舊家にして代々治郎右衛門を襲名し清酒醸造を業として銘酒菊正宗の名と共に著聞す君は先々代治郎右衛門の七男にして嘉永六年七月を以て生れ明治十五年長兄治郎右衛門の後を承けて家督を相續し前名百藏を改め襲名す祖業を繼ぎ酒造業に精勵し傍ら兵庫運河開鑿等公共に盡す所尠なからず現に灘商業銀行頭取たる外前記各會社の重役に擧げられ縣下の多額納稅者に列し直接國稅六千七百九十九圓を納む大正七年酒造界に於ける功績により綬褒章を授けらる趣味に圍碁あり家族は尚養姉いと（弘化二、三生、兵庫、西井嘉一郎養姉）あり（兵庫、武庫、御影町但馬口電御影三三四）

參照＝嘉納文治の項

嘉納治朗

本嘉納商店、前田商店各種取締役兵庫縣在籍

妻　クニ　明二二、六生、山口、秋馬新三郎長女

男　芳治　大一〇、九生

女　秋子　明四二、一〇生、縣立第一神戸高女出身

女　廣子　大四、四生、私立親和高女在學

君は兵庫縣人嘉納治郎平の四男にして明治十五年二月を以て生れ先代百藏の養子となり同十七年家督を相續し前名直一を改め更に百藏を改む同三十三年大阪高等商業學校を卒業し現時前記各會社の取締役たり家族は尚二男邦治（大一三、八生）あり二女保子（明四五、五生、縣立第一神戸高女出身）は外祖父秋馬新三郎の養子となれりA一二九二（兵庫、武庫、御影町掛田一八〇電御影二九四）

參照＝米野木和一郎の項

嘉納純

兵庫縣多額納稅者、增田屋商店種代表取締役、昭和酒造業嘉納名代表社員、酒造業兵庫縣在籍

妻　豐　明三一、一生、奈良、竹村七太郎妹

男　正治　明四四、五生、嘉納名出資社員

女　和子　大二、一〇生

君は兵庫縣人嘉納治兵衛の養子となり昭和四年家督を相續す明治四十一年神戸高等商業學校を卒業し酒造業を營み傍ら前記各會社の重役にして直接國稅一千八百三十八圓を納め縣下の多額納稅者たり家族は尚二男信治（大一二、六生）三女きみ（同一四、三生）三男成三（昭二、二生）四女タカ（同四、二生）あり養父治兵衛（文久二、二生、奈良、中村堯圓三男）養母けい（明六、八生、父治兵衛長女）は共に分家し養叔母ちゑ（同一二、二生）は兵庫縣人若林與左衛門に嫁せり（兵庫、武庫、御影町上東七九七電御影三七）

參照＝嘉納治兵衛、若林與左衛門の項

嘉納德三郎

正四位勳三等、錦鶏間祗候東京府在籍

妻　つね　明一五、六生、兵庫、久保田貫一長女

女　峰　明四五、七生

君は兵庫縣人嘉納治作の二男にして明治三年四月を以て生れ同二十四年分れて一家を創立す同二十八年帝國大學法科大學政治科を卒業し文官高等試驗に合格直ちに大藏省に入り司稅官稅務監督官稅務管理局長稅關監視官等に任ぜられ官命を以て歐米に出張す歸朝後長崎横濱各稅關長專賣局長官等に歴任し大正七年官を退き錦鶏間祗候仰付けられ同時に朝鮮銀行副總裁に就任せしが同十二年同行を辭任し現時財團法人講道館理事たり妹くに（明八、七生）は兵庫縣人村田完作に嫁せり（東京、小石川、竹早町八二電小石川五二二六）

參照＝久保田貫一、佐竹三吾の項

嘉納文治

前田商店種代表取締役、本嘉納商店、太平セメント、土師礦業所各種取締役、日伯拓殖種監査役、本嘉納名代表社員、兵庫縣在籍

養父治郎右衛門嘉永六、七生、現戸主

君は岡山縣士族土居通博の二男にして同通憲の甥なり明治三十一年七月を以て生れ大正八年現戸主治郎右衛門の養子となる夙に關西學院高等商業學部を卒業し本嘉納合名會社代表社員にして前田商店代表取締役本嘉納商店取締役の外前記各會社の重役たり家族は尚長女貴久子（大八、一〇生）三女文子（同一一、六生）四女律子（同一四、七生）五女周子（同一五、一二生）ありA一一〇七一（兵庫、武庫、御影町但馬口電御影二九二四）

參照＝嘉納治郎右衛門、土居通憲、土居通博米岡田實麿米山中義貞米結城安次の項

嘉納彌兵衛

從七位、陸軍砲兵中尉、本嘉納商店、前田商店各種取締役兵庫縣在籍

妻　小久　明七、三生、養父彌兵衛長女

男　久一　明三七、二生、長男久一妻、兵庫

婿　とし　末正盛治長女

當家は舊くより兵庫に住し先代彌兵衛幼少より清酒菊正宗醸造元嘉納治郎右衛門に仕へ忠勤を擅んで維新後嘉納姓を冒す君は兵庫縣人正井伊八郎の弟にして慶應元年十二月を以て生れ後先代彌兵衛の養子となり明治三十四年家督を相續し襲名して前名與吉を改む先是陸軍教導團に志願し日露日清兩役に從軍し果進して砲兵中尉に任ぜらる後本嘉納家に仕へ大阪支店支配人を經て現時本嘉納商店前田商店各取締役たり家族は尚孫康晴（昭五、二生、長男久一長男）あり長女一子（明二四、一〇生）は大阪府人吉田康太郎に嫁し二男敏雄（同二八、一〇生）は兵庫縣人奥村忠吉の養子となれりA二一〇九（兵庫、御影町濱東一〇九電御影四四二）

參照＝奥村敏雄、末正盛治、吉田康太郎の項

嘉山幹一

正四位勳二等、判事、大審院部長東京府士族

妻　梅子　明一八、一二生、埼玉、齋藤誠之丞長女、跡見女學校出身

男　家隆　明三九、三生、法學士、第一生命保險相互會社員

君は靜岡縣士族嘉山昆鶏の長男にして明治五年五月を以て生れ同三十七年卒業す同二十八年帝國大學法科大學法律科を卒業し司法官試補となり次で判事に任じ御來前橋東京各地方裁判所判事東京控訴院判事東京都地方裁判所長等に歴補し現に大審院部長の職に在り大正十一年白耳義國比律悉に於ける萬國海法會議委員として參列す（四八七（東京市外千駄ヶ谷町原宿一二二電青山四七二五）

參照＝米高山長幸の項

貝島榮一

貝島名出資社員　福岡縣在籍

母　ハナ　明一一、一生、福岡、小川小七五女

妻　タヤ　明三八、一一生、佐賀、向大治郎長女

太助　大一四、八生

男　文積　明四三、一生

女　小夜子　明四五、七生

女　妙子　大三、一〇生

當家は先代太助より家名を揚ぐ太助夙に父を扶けて石炭採掘業に從ひ稍長じて緇門に入りしも時勢に鑑み明治元年始めて採炭業を營む年齡僅に二十一經營意の如くならず刻苦二十年餘漸くにして採炭に關する智識を得故傑爵井上馨の知遇を得て事業漸く其緒に就く時偶々日清戰役起り炭價頗る暴騰せる結果巨利を博し爾來順境に向ひ炭礦王を以て稱せらる君は其孫にして貝島榮四郎貝島健次郎貝島太市は君の叔父なり明治二十九年七月を以て生れ大正五年家督を相續す現に貝島合名會社出資社員たり家族は尚二男信人（大一五、八生）三男行人（昭三、一生）あり弟榮吾（明三一、一生）同妻靜江（同三八、四生、福岡、小川常吉長女）は其子女を伴ひ分家し叔母シゲノ（明二三、五生）は福岡縣人貝島蘭策の妻たり（直方、直方七二〇電屋二）

參照＝貝島榮四郎、貝島健次、貝島太市、貝島蘭策の項

貝島榮四郎

福岡縣多額納稅者、貝島鑛業種社長、貝島商業種監査役、鑛業福岡縣在籍

父　六太郎　嘉永五、一二生

母　トモ　萬延元、六生、渡邊茂三郎長女

妻　イソノ　明一五、二生、福岡、貝島太助長女

養子　義之　明二八、四生、長女ヨシコ夫、福岡、田中俊夫長男

女　ヨシコ　明三一、七生、養子義之妻

君は福岡縣人貝島六太郎の長男にして同榮一の叔父なり明治十一年一月を以て生れ同三十年家督を相續す同二十八年帝國大學法科大學法律科を卒業し同四十年及大正十二年炭礦業見學の爲歐米を漫遊し傍に福岡縣菅牟田坑業所長にして現時前記各會社の重役たり（直方市）

參照＝貝島榮一、貝島太市米貝島榮四郎米貝島蘭策の項

貝島龜吉

貝島石灰工業種監査役、家主福岡縣在籍

妻　エツ　明六、三生、貝塚久兵衛長女

男　文男　明四一、一生

男　積　明四三、一生

女　小夜子　明四五、七生

女　妙子　大三、一〇生

君は福岡縣人村主サクの四男にして慶應二年五月を以て生れ明治三十年先代エツの入夫となり家督を相續す家主にして貝島石灰工業會社監査役たり二女シズエ（同三〇、一二生）は新潟縣人稻川大助に四女富貴子（同三五、一〇生）は東京府人大島辰次郎に五女ハツエ（同三七、一生）は熊本縣人松尾茂に嫁し養弟百吉（同五、五生）は其妻子を伴ひ分家せりA一〇一九二（福岡市東通町八三電一四一四）

參照＝大島辰次郎の項

貝島健次

中央火災傷害保險、貝島乾餅各種取締役、貝島鑛業、貝島木材防腐各種監査役、福岡縣在籍

父　嘉藏　安政五、二生

母　ヒロ　安政七、五生、福岡、松永助市妹

妻　タケ　明一八、一〇生、福岡、三浦顯藏妹

男　孝　明三九、一二生

君は福岡縣人貝島嘉藏の長男にして同榮一の叔父同太市の從兄なり明治十三年十月を以て生れ大正四年家督を相續す明治三十八年東京高等工業學校機械科を卒業し同四十年及大正十二年炭礦業見學の爲歐米を漫遊し帰に福岡縣菅牟田坑業所長にして現時前記各會社の重役たり（直方市）

參照＝貝島榮一、貝島太市米貝島榮四郎米貝島蘭策の項

貝島太市

動三等、貝島商業種社長、貝島鑛業、中央火災傷害保險、若松築港各種取締役、大辻岩屋炭礦、貝島乾餅各種監査役、福岡縣在籍

妻　フシ　明一八、一一生、山口、鮎川義介妹

男　慶太郎　明四〇、三生

女　百合子　明四三、一二生

多美子　大元、八生

君は福岡縣人貝島太助の三男にして同榮一の叔父同健次の從弟なり明治十三年十一月を以て生れ同二十五年

分れて一家を創立す東京高等商業學校に學び三井物産會社に入り實務の修習をなし三ケ年歐米を視察す現に貝島商業會社長の外前記諸會社の重役たり義に推されて下關商業會議所特別議員たりし事ありA三〇三八五（山口、豐浦、長府町電五五）

參照＝鮎川義介、貝島榮一、貝島健次※貝島榮四郎※貝島蘭策※木村久壽彌太※久原房之助※近藤眞一※藤田政輔の項

貝島蘭策

貝島石灰工業㈱代表取締役
福岡縣在籍

妻　シゲノ　明二三、五生、福岡、貝島榮一叔母
女　隆　大二、五生

君は福岡縣士族中村正宅の三男にして明治十九年十二月を以て生れ大正元年先代シゲノの入夫となり家督を相續す現時前記會社の重役たり（大分、北海部、白杵町電三一三）

參照＝貝島榮一※貝島榮四郎※貝島健次※貝島太市の項

貝塚榮之助

三重縣多額納稅者、名古屋高爆製作、山中清賞堂、桑名瓦斯各㈱社長、內外編物、桑名土地、桑名電軌各㈱取締役、三重縣在籍

母　みつ　安政四、八生、三重、小河內彌兵衞五女
妻　しう　明二二、一一生、滋賀、石居四郎平妹
男　嗣朗　大七、九生
女　美代　大二、九生
女　登代　大五、九生

君は三重縣人貝塚卯兵衞の三男にして明治十五年八月を以て生れ大正四年家督を相續す明治三十八年東京高等工業學校電氣化學科を卒業し現時桑名町名譽助役にして前記各會社の重役を兼ね三重縣多額納稅者たり陶器に趣味を有す家族は尙三女翠（大一〇、一生）二男惜朗（同一二、八生）あり弟光三（明一七、一一生）は其妻ふん（同二七、八生、滋賀、石居四郎平妹）を伴ひ弟七郎（同二四、一〇生）は其妻ふん（同二七、七生、東京、吉住金太郎四女）を伴ひ妹雛子（同二二、三生）は其一男一女を伴ひ各分家せりA一九二二〇（三重、桑名、桑名町電八）

貝塚捨次郎

村木商
東京府在籍

妻　とき　明七、七生、東京、宮原喜藏妻姉
男　英一郎　明二八、四生、大倉商業出身
婦　はつ　明三四、九生、長男英一郎妻、東京、飯塚庄次郎五女
男　敏二郎　明三三、三生
婦　きん　明四〇、四生、二男敏二郎妻、東京、佐々木延次妹

貝塚家は先々代八郎兵衞常陸國より江戸に來り一家を創立したるに創まる君は先代濱之助の長男にして明治元年一月を以て生れ同十四年家督を相續す夙に材木商店上平に勤務し同二十年獨立して同業を始む爾來經營大に努めよく今日の大を爲す義に選ばれて芝區會議員たりしことあり家族は尙孫俊一郎（大一一、一生、長男英一郎長男、同敏次郎（同一四、五生、同二男）同藤男三郎（同一五、一〇生、同三男）同秀四郎（昭三、八生、同四男）あり長女八重（明二五、九生、東京高女出身）弟男三郎（同一四、二生）同辰三郎（同一九、一〇生）は各分家し妹ゆき（同一七、一〇生）は東京府人清水但愛に嫁せり（東京、芝、櫻田備前町三三電銀座二七四五）

參照＝佐々木延次、宮原喜藏の項

改正源右衞門

大名堂、紙商
大阪府在籍

妻　つね　明四、一〇生、大阪、田登久兵衞長女
男　政次　明三二、二生、現戶主、關西大學及神宮皇學館出身
婦　エン子　明三七、九生、長男政次妻、大阪酒井安太郎妹
女　文子　明四三、八生

君は大阪府人改正源右衞門の長男にして慶應三年九月を以て生れ明治三十年家督を相續し襲名して前名吉松を改め昭和三年退隱す大名堂と稱し紙商を營む大阪市會議員及府會議員たりしことあり家族は尙ほ二男義男（大五、九生）あり二女靜子（明三六、二生）は大阪府人森下榮助長男邦三に嫁フヂ（同四、五生）は同府人竹立源兵衞に嫁せり（大阪、浪速、元町三ノ一三九電戎二〇〇四）

參照＝酒井安太郎、森下榮助※扇眞助※酒井新治郎※酒井安之助の項

戒能義重

正四位勳四等、京城帝國大學教授、豫科部長、愛媛縣在籍

妻　チエ　明四、四生、養父重治太長女

君は愛媛縣士族池田義知の二男にして明治四年十一月を以て生れ戒能家の養子となり同三十年家督を相續す同二十七年第五高等中學校第一部を卒業し愛媛縣屬愛媛師範學校教諭を經て同三十九年東京帝國大學文科大學英文科を卒業し爾來大阪府立天王寺中學校教諭岐阜縣斐太中學校長京城中學校教諭元山中學校教諭京城醫學專門學校教授に歷任し大正十三年京城帝國大學豫科教授に任じ現に豫科部長たり養子カヅヨ（明二九、三生、愛媛、近藤次郎二女）は分家せり（京城、東四軒町大學官舍）

海江田金次郎

鹿兒島縣多額納稅者、鹿兒島貯蓄銀行、鹿兒島商弘銀行各㈱頭取、第百四十七銀行㈱取締役、米穀砂糖商、鹿兒島縣在籍

婦　勝代　明三七、四生、二男平一郎妻、熊本、大野謙次郎二女
男　平一郎　明三一、三生、海江田銀行㈱取締役

君は鹿兒島縣人海江田平右衞門の二男にして安政五年三月を以て生れ後先代治右衞門の養子となり明治十年家督を相續す米穀砂糖商を營み現に前記諸銀行の重役にして鹿兒島縣多額納稅者に列し義に鹿兒島商業會議所特別議員に擧げられ鹿兒島紡績會社海江田銀行監査役に就任せしことあり家族は尙孫治子（同一五、六生、同二女）同賢三郎（昭三、四生、同長男）同平治（同四、六生、同二男）あり長女フチ（明二二、七生）は鹿兒島縣人海江田準一郎に二女久（同三八、七生）は同縣人野寄正義に嫁せり（鹿兒島市汐見町二）

參照＝海江田準一郎の項

海江田幸吉

正四位勳四等、子爵、侍從兼式部官宮內事務官臭太后宮事務官、大膳寮勤務、東京府華族

妻　きめ　明二一、一生、東京、士、成瀨隆藏長女
男　一郎　明四四、六生
女　華　大二、二生
女　淳子　大三、五生

當家は先代信義より顯る信義は舊鹿兒島藩士有村家の出にして勤王の志士日下部伊三次の女まつの婿養子となり海江田姓を創む維新の大業に參して殊功あり後奈良縣知事元老院議官等に歷任し明治二十年歐米各國を巡遊す同年特旨を以て華族に列し子爵を授けらる歸朝後貴族院議員樞密顧問官に任ず君は其三男にして明治十三年七月を以て生れ同四十二年襲爵す同四十一年京都帝國大學法科大學佛法科を卒業し現時侍從兼式部官宮內事務官皇太后宮事務官たり家族は尙弟信廣（明一八、一生、理學士）あり長女惠美（明四三、一生、女子學習院出身）は男爵益田孝孫克信に姉チツ（文久元、九生）は伯爵東郷平八郎に同ハル（明六、一生）は海軍中將東郷吉太郎に妹千穗子（同三六、二生）は長野縣人鈴木梅四郎養子五郎に嫁し兄虎次郎（同一二、一〇生、東京外語出身）同妻千代（同一六、八生、男爵沖貞男姉）は其子女を伴ひ弟信秀（同二六、八生）同妻愛（同二九、一生、埼玉、齋藤眞吉三女）は其子女を伴ひ各分家し同信隆（同二四、二生）は東京府人西川トキの入夫となれり（東京市外目黑町下目黑五電高輪二三五五）

參照＝伯爵東郷平八郎、男爵沖貞男、鈴木梅四郎、東郷吉太郎、成瀨隆藏、益田克信※男爵池田眞次郎の項

海江田準一郎

鹿兒島縣多額納稅者、海江田銀行㈱頭取、丁字屋商店㈱監査役、米穀商、鹿兒島縣在籍

母　シケ　安政四、五生、鹿兒島、若松吉二妹
妻　フチ　明二二、七生、鹿兒島、海江田金次郎長女
男　信治　明四二、一生
女　規子　明四五、六生

君は鹿兒島縣人海江田平治の長男にして明治十四年十月を以て生れ大正二年家督を相續し前名平八郎を改む代々船舶業及米穀商を營み先代平治は一代にして巨富を積み九州中國方面の米穀賣買に從事し公共事業に盡力し貴族院議員に選ばる君は明治三十九年慶應義塾法科を卒業し專ら祖業に從事し現事海江田銀行頭取の外前記會社の重役にして直接國稅四千五百十圓を納め縣下の多額納稅者たり曩に選ばれて貴族院議員及衆議院議員たりし事あり妹ヌキ（明一七、二生）は鹿兒島縣人西元榮之助に叔母ユイ（慶應元、二生）は同縣人若松吉二に同スマ（明四、一二生）は同縣人江口新之助に嫁し叔父金次郎（安政五、三生）は同縣人海江田治右衞門の養子となり同平助（同六、一〇生）同丑之助（文久元、六生）は各分家せり（鹿兒島、日置、市來町）

海塚新八

廣島縣多額納稅者、廣島產業銀行㈱頭取、中外商事㈱取締役、廣島縣在籍

繼母　イワ　嘉永六、七生、廣島、秦正作長女
妻　ヤエ　明六、一一生、廣島、深田稔妹
男　彥三郎　明二四、八生、廣島產業銀行㈱取締役
婦　シゲ　明三三、一生、長男彥三郎妻、廣島、本田權平養子

君は廣島縣人先代新八の長男にして明治五年九月を以て生れ大正三年家督を相續し前名卯三郎を改め襲名す現時廣島產業銀行頭取の外前記會社の重役にして直接國稅四千百七十圓を納め廣島縣多額納稅者たり曩に廣島電氣會社長廣島合同貯蓄銀行藝備銀行東洋コルク工業會社各取締役たりし事あり家族は尙孫一郎（大一〇、二生、長男彥三郎長男）同治朗（同一二、一生、同二男）あり二男新二郎（明二八、五生）同妻トミ子（同三五、二生、山口、梶山升二郎二女）は其二男一女を伴ひ分家し三男彌三郎（同三二、九生）妹シナ（同一九、二生）も亦各分家し孫三郎（大一五、一生、長男彥三郎三男）は廣島縣人本田權平の養子となれり（廣島市塚本町一一）

參照＝海江田金次郎、若松吉二の項

海東要造

九州鐵道㈱取締役副社長、東邦電力㈱專務取締役、太宰府軌道、大川鐵道、昌榮土地、九州瓦電各㈱取締役
東京府在籍

妻　こう　明二七、四生、茨城、中山貞三從妹
男　致道　大五、一〇生

君は茨城縣人海東市右衞門の三男にして明治二十年五月を以て生れ昭和四年分れて一家を創立す現時前記各會社の重役たり家族は尙二男次郎（大七、九生）長女秀子（同一〇、九生）あり（東京市市外落合四一四電大塚三五三九）

甲斐熊彥

古賀銀行、博多鐵器エナメル、窯乃栖酒造各㈱監査役、佐賀縣士族
明一六、一二生、佐賀、西岡幸兵衞姉

妻　マキ　明四五、五生
男　武彥　明四三、一〇生、同丑之助（文久元、六生）は各分家せり（鹿兒島、日置、市來町）

君は佐賀縣士族甲斐昌武の二男にして明治十六年七月

海塚塚八

廣島縣多額納稅者、廣島產業銀行㈱頭取、中外商事㈱取締役、廣島縣在籍

繼母　イワ　嘉永六、七生、廣島、秦正作長女
妻　ヤエ　明六、一一生、廣島、深田稔妹
男　彥三郎　明二四、八生、廣島產業銀行㈱取締役
婦　シゲ　明三三、一生、長男彥三郎妻、廣島、本田權平養子

君は廣島縣人先代新八の長男にして明治五年九月を以て生れ大正三年家督を相續し前名卯三郎を改め襲名す現時廣島產業銀行頭取の外前記會社の重役にして直接國稅四千百七十圓を納め廣島縣多額納稅者たり曩に廣島電氣會社長廣島合同貯蓄銀行藝備銀行東洋コルク工業會社各取締役たりし事あり家族は尙孫一郎（大一〇、二生、長男彥三郎長男）同治朗（同一二、一生、同二男）あり二男新二郎（明二八、五生）同妻トミ子（同三五、二生、山口、梶山升二郎二女）は其二男一女を伴ひ分家し三男彌三郎（同三二、九生）妹シナ（同一九、二生）も亦各分家し孫三郎（大一五、一生、長男彥三郎三男）は廣島縣人本田權平の養子となれり（廣島市塚本町一一）

參照＝海江田金次郎、若松吉二の項

甲斐莊正顯

從五位勳四等、茨城縣書記官、學務部長、靜岡縣士族

妻　公子　明三五、三生、石川、岡本京太郎長女

君は靜岡縣士族甲斐莊正義の長男にして明治二十三年三月を以て生れ同四十五年家督を相續す大正六年日本大學專門部法律科を卒業翌年高等文官試驗行政科に合格し同年千葉縣屬に任じ爾來石川縣警視北海道廳理事官同事務官を經て昭和四年茨城縣書記官に任じ學務部長を命ぜらる家族は尙姉いう（明一〇、一二生）あり同豐（同二〇、三生）は神奈川縣人佐藤倉三に妹トミ子（同二六、一〇生）は秋田縣人富岡久助三男寅三郎に嫁せり（水戶、上市鷹匠町官舍）

參照＝富岡久助の項

甲斐山忠左衞門

郡山市參事會員、虎屋書店㈱代表取締役、福島縣在籍

妻　イノ　明元、一二生、神島、渡邊彌右衞門三女

君は福島縣人先代忠左衞門の四男にして明治二年七月を以て生れ同四十年家督を相續し前名猪之吉を改め襲名す現時虎屋書店代表取締役にして郡山市參事會員たり家族は尙亡兄文五郎妻ダリ（文久元、二生、福島、佐久間與五右衞門妹）亡弟留吉妻スエ（明一二、八生、熊本、牧相愛妹）と其二男二女及分家弟太利吉の五男一女あり弟太利吉（同九、四生）同妻ヒサ（同一五、二生、福島、高久田金三郎二女）は其一男一女を伴ひ分家し姪エイ（同三八、五生、亡弟留吉長女）は愛知縣人渡瀨八郎に同ヤス（同三六、四生、弟太利吉長女）は千葉縣人林彌作に嫁せり（郡山、中町一〇）

甲藤通

信託會社大信社㈱常務取締役、大信銀行、細井鑛工場各㈱取締役
高知縣士族

母　浦　文久元、一生、東京、士、安原吉政妹

妻　春　子　明三〇、二生、東京、小倉清男妹

君は高知縣士族甲藤大器の長男にして明治十六年一月を以て生れ昭和三年家督を相續す明治四十四年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し實業界に入り現時信託會社大信社常務取締役の外前記銀行會社の重役たり家族は尚弟新（明二八、三生、日本製鋼所室蘭工場員、工學士）同妻甚（同三三、五生、東京、士、室田魁長女）同愈（同三二、三生、明治製糖會社神戸工場勤務、東京高工出身）同妻光江（同四〇、一生、東京、小林鐘次郎三女）及各其一子の外同季雄（同三三、一二生）同妻きの（同三六、一一生、千葉、吉田常七長女）伯母麟（嘉永三、一一生）あり妹若（明一九、八生）は東京府士族室田魁に同光（同二二、六生）は同府人小倉清男に同章（同二三、九生）は長野縣人長田正義に嫁し同豐（同三〇、一二生）は福島縣人大橋二郎の養子となれり（東京、本郷、駒込西片町一〇電小石川五〇六）

鏡　一以

從五位勳六等、朝鮮總督府判事、釜山地方法院部長、德島縣在籍

妻　ふさ　明三九、六生、京都、伊藤勇妹

男　太郎　大九、二生

君は德島縣人鏡潔の二男にして明治二十二年三月を以て生る大正五年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し同七年朝鮮總督府判事に任じ爾來京城平壤各地方法院判事海州地方法院部長平壤覆審法院判事に歷補し昭和四年現職釜山地方法院部長に進む家族は尚長女幸（大一一、三生）兄政太郎（明二一、一生、現戸主）及其二子あり弟猷次郎（同二七、一生）は德島縣人尾花政太郎の養子となり妹淑善（同四五、七生、兄政太郎長女）は同縣人岩淺紀六に嫁せり（釜山、富民町地方法院內）

鏡原　隼人

鹿兒島銀行醫頭取

鹿兒島縣在籍

妻　シカノ　明一三、七生、東京、坂井有親妹

男　卓　也　大七、八生

君は鹿兒島縣人鏡原島右衛門の長男にして慶應元年九月を以て生れ明治五年家督を相續し前名島助を改む同二十五年中央大學を卒業し辯護士となる現時鹿兒島銀行頭取たり家族は尚長女春江（大一〇、一生）三男惠三（同一二、一生）あり（鹿兒島市山下町一三八）

各務　鎌吉

正六位、勳六等、貴族院議員、日本郵船社長、明治製糖會社長、東京海上火災保險會長、東京海上火災保險會社取締役、東京海上火災保險會長、辰馬海上火災保險會社取締役、東京報知機、日清汽船、近海郵船、東京サルヴェージ、スタンダード・インシュランス・オブ・ニューヨルク、スタンダード・シエアチー・エンド・カジュアルチー・オブ・ニューヨルク各種取締役、三菱銀行種監査役、大倉火災海上火災保險會社顧問、各種相談役、東洋海上火災保險會社顧問、日本船主協會大日本海運會合會長、帝國海事協會船舶管理委員長、東京府在籍

明一四、三生、東京、士、藤岡正信妹

妻　繁　尾　明二八、八生、東京、莊田逢彌弟

早大理工科出身、パチエラー・オブ・サイエンス、長崎三菱造船會社員

明四二、八生、養子孝平妻、京都西野惠之助三女

君は東京府人各務幸一郎の弟にして明治元年十二月を以て生れ同二十一年東京高等商業學校を卒業し同二十四年實業界に入り現時大倉商會社長を初め前記諸會社の重役にして我國損害保險界の第一人者たり震災直後火災保險業者の代表者として政府に折衝し盡力せる處甚だ多し昭和五年貴族院議員に勅選せらる家族は尚孫鶴子（昭六、一生、養子孝平長女）あり長女光子（明三七、五生）は鳥取縣人澤田節蔵弟退蔵に嫁せり A五五九二五（東京、小石川、大塚窪町二電小石川九六四）

參照＝各務幸一郎、澤田節蔵、莊田逢彌、西野惠之助家系志村精一家莊田雅雄家莊田平象家宮原國雄家八巻連三家吉原重時の項

各務　幸一郎

愛知銀行、明治生命保險各種取締役、日本窒素肥料、東邦電力、東洋肥料、日本曹達、勞保有、朝鮮窒素肥料、ベンベルク絹絲各種監査役、小松製作所、東洋タイプライター、朝日毛糸紡績各種相談役、東京府在籍

妻　ちま　明二、六生、東京、士、飯田旗郎妹

養子　良　幸　明三七、七生、東京、豐川順彌弟

君は東京府人各務省三の長男にして文久元年十月を以て生れ後家督を相續す夙に東京高等商業學校に學び實業界に入り現に前記諸會社の重役たり弟鎌吉（明元、一二生）は分家せり（東京、麹町、富士見町二ノ四七電九段一八〇八）

參照＝各務鎌吉、豐川順彌家子爵蜂藤實家清岡三齋家鹿村美久家杉野喜精の項

柿内　三郎

從四位勳三等、醫學博士、東京帝國大學教授、醫學部勤務、東京府士族

妻　田鶴　明二六、一生、醫學博士小金井良精長女、御茶水高女出身

男　賢信　大四、九生

女　忠子　大四、一二生

君は舊田安家の臣柿内信順の三男にして明治十五年八月を以て生れ同三十年兄一郎の後を承け家督を相續す同四十年東京帝國大學醫科大學を卒業し更に理科大學化學科に學び同四十三年卒業す同四十五年同大學醫學部助教授に任ぜられ大正三年醫化學研究の爲歐米各國に留學を命ぜらる同七年同大學醫科大學教授に任じ現時同大學教授にして醫學部勤務たり同九年醫學博士の學位を受く家族は尚二女信子（大八、七生）三女孝子（同一〇、八生）四女悌子（同一二、一〇生）二男儀信（同一四、八生）五女智子（昭二、一二生）六女禮子（同五、九生）あり兄一郎（明七、一二生）は分家せり A一一二四（東京、牛込、市谷加賀町一ノ一一電牛込二六五一）

參照＝小金井良精の項

柿浦　佐一郎

ひろさ、醬油商

大阪府在籍

妻　うの　明一二、六生、養父佐一郎養子

養子　マサ　大五、三生、兵庫、吉井莊造長女

君は兵庫縣人吉井善蔵の二男にして明治六年十一月を以て生れ先代佐一郎の養子となり同四十年家督を相續し前名文二郎を改め襲名すひろさと稱し醬油商を營む（大阪、東、高麗橋詰町二四電長東二五六二）

正八位、秋田縣會議員、秋田縣多額納稅者、秋田縣在籍、羽後製米種取締役、農業、秋田縣在籍

母　アク　慶應元、八生、秋田、柿崎勘六孫

男　純一郎　明四二、二生

女　富美子　明四四、九生

君は秋田縣人先代勘左衛門の長男にして明治十五年五月を以て生れ同二十七年家督を相續し前名寛治を改め襲名す農業を營み傍ら前記會社の重役にして同縣多額納稅者に列し直接國稅三千一圓を納む推されて秋田縣會議員たり叔父重治（明一二、九生）は秋田縣人柿崎源治の養子となり同慶吉（文久二、一〇生）同妻りエ（明元、七生、秋田、柿崎正吉姉）は其子女を伴ひ分家し再從姉キヲ（慶應二、二生、大叔父友吉長女）は秋田縣人土屋富治に嫁せり（秋田、平鹿、醍醐村）

柿崎　善祐

青森電燈種取締役

青森縣在籍

妻　たけ　文久元、二生、青森、淡谷清蔵姪

男　善蔵　明二一、三生

婦　とみ　同二九、九生、淡谷清蔵四女

養子　德次郎　明二五、二生、中村應助四男

女　とみ　明二六、三生、養子德次郎妻

君は青森縣人柿崎忠兵衛の長男にして安政元年二月を以て生れ明治三十三年家督を相續す土地の名望家にして現時青森電燈會社常務取締役たり養に青森商工會議所顧問に推さる家族は尚孫祐一（大四、八生、三男善蔵長男）同武二（同一一、一〇生、同二男）同知子（同一五、七生、同長女）同善明（同一三、九生、養子德次郎長男）同すみ（同一五、一〇生、同長女）同邦夫（昭三、一〇生、同二男）あり三女はる（明二三、三生）同夫又次郎（同二三、五生、青森、船水太右衛門弟）は其二子を伴ひ分家せり A五〇〇（青森市博勞町六〇）

柿崎　守義

青森電燈種取締役兼支配人

青森縣在籍

男　守忠　明三三、一一生

婦　ちや　明四〇、六生、長男守忠妻、青森石田岩次郎二女

男　守彦　明四三、三生

女　ふく　大四、一生

君は青森縣人柿崎千守の二男にして明治十一年十一月を以て生れ大正四年家督を相續す夙に明治大學に學び現時青森電燈會社取締役兼支配人たり家族は尚五女やす（大六、九生）六女德子（同九、一生）孫篤實（昭二、一一生、長男守忠長男）姉よし（慶應二、九生）あり長女かつよ（明三七、八生）は青森縣人福田晉三郎三男實造に三女てるよ（同四〇、一〇生）は同縣人中道活治二男武蔵に嫁せり（青森市榮町一）

柿下　清六

飛驒電燈種監査役、高山印刷資代表社員、藥種商、岐阜縣在籍

妻　やな　明一六、三生、岐阜、熊崎喜右衛門長女

男　保　明三五、一〇生、長女こう夫、長野、柳原佐太郎三男

養子　保　明三九、二生、養子保妻、高山高女出身

女　こう　明四〇、九生、高山高女出身

女　みつ　明四二、七生、高山高女出身

女　きく　明四四、九生、高山高女出身

女　さわ　大二、八生、高山高女出身

女　いれ　大四、一生

君は岐阜縣人先代清六の長男にして明治九年四月を以て生れ明治三十三年家督を相續す土地の名望家にして現時前記會社の重役に擧げらる妹なを（明一二、二生）は岐阜縣人水野清一郎に嫁し姪よし（同七、一二生）は同縣人澤田つやの死跡を相續せり（岐阜、大野、高山町鑑五四一）

柿沼　達雄

横濱市會議員、神奈川縣多額納稅者、都貯蓄銀行、東京製線各種取締役、神奈川縣在籍

繼母　ハル　明一〇、一一生、神奈川、白石作造三郎長女

妻　ミツ　明二九、一生、神奈川、鷲見彌三女

男　利重　大一一、二生

君は神奈川縣人柿沼海次郎の三男にして明治二十五年四月を以て生れ後前名河久利を改め大正十二年家督を相續す同五年早稻田大學專門部を卒業し現時前記銀行會社の重役にして直接國稅一千七百三圓を納め縣下の多額納稅者に列す又推されて横濱市會議員たり養に横濱商工會議所議員に擧げらる家族は尚長女喜美（大八、七生）二男海次（同一四、二生）三男喜三郎（同一五、一生）妹登美枝（明四二、八生）弟長治（同四四、二生）同康治（大二、五生）あり（横濱、中、壽町一ノ二〇電長者町九二三）

參照＝白石作造の項

柿沼　谷蔵

東京米穀商品取引所種常務理事

東京府在籍

母　はな　萬延元、一〇生、祖父谷蔵二女

妻　テイ　明二〇、二生、東京、相川カツ姉

柿沼家は代々上州館林に在りて魚商たりし先代谷蔵に至り江戸に出で上州屋と稱し綿絲商を開業するに及び漸次產を興し當家今日の礎を爲せり君は先代谷蔵の長男にして明治十三年四月を以て生れ大正五年家督相續と共に襲名して前名政太郎を改む明治三十七年東京高等商業學校を卒業し家業を繼承して綿絲商を營みしが大正九年是を廢し現時東京米穀商品取引所常務理事たり妹せき（明一八、一生、御茶の水高女出身）は埼玉縣人諸井四郎に同はる（同二〇、一〇生、出身校同上）は東京府人清水榮蔵に同とき（同二六、一二生、出身校同上）は同府人小川專助に同富久（同二八、四生、出身校同上）は兵庫縣人森哲一弟正三に同きみ（同二九、一〇生、出身校同上）は實業家安藤浩三男三郎に嫁し弟正治郎（同二二、二生、專修大學出身）同妻カイ（同二八、一二生、神奈川、土屋康二妹、三輪田高女出身）は分家せり（東京、麻布、櫻田町三八電青山二六一二）

參照＝安藤三郎、小川專助、清水榮蔵、土屋康二家金子隆三家土屋計左右の項

柿原　龜吉

秩父鐵道種常務取締役、西武銀行種取締役、埼玉縣在籍

妻　フミ　明二四、一一生、埼玉、小久保惠作二女

男　謙一　大二、八生

君は埼玉縣人柿原竹三郎の二男にして明治十六年六月を以て生れ大正十四年兄定吉方より分れて一家を創立す明治四十一年東京高等商業學校を卒業し現に前記銀行會社の重役たり家族は尚三男逢男（大七、三生）長女アサ（同九、七生）四男敏吉（同一二、一生）二女フサ子（同一四、八生）三女紀久子（昭五、一生）あり（埼玉、秩父、秩父町）

柿原　琢郎

從四位勳三等、朝鮮總督府檢事、平壤覆審法院檢事長、兵庫縣在籍

妻　きよこ　明一九、三生、海軍主計中將佐野雄治姪

養子　庸　明三九、五生、兵庫、石川嘉吉郎二男

養子　美嗣子　明四五、七生、東京、久米美穂子
妹

君は兵庫縣人柿原善三郎の三男にして明治十一年八月を以て生る同三十一年和佛法律學校を卒業し判檢事登用試驗に合格同三十四年檢事に任じ岡山地方宇都宮區衆同地方各裁判所檢事を經て統監府檢事に轉じ爾來朝鮮總督府書記官兼同檢事兼同典獄朝鮮總督府事務官兼同檢事に歷任し其間平壤控訴院同地方法院京城地方法院各檢事公州地方法院檢事正法務局監獄課長高等法院檢事京城地方法院檢事正に歷補し大正十二年現職平壤覆審法院檢事長に補せらる家族は尙兄淳之亮（文久元、五生、現戸主）同妻すて（元治元、九生、滋賀、高橋作兵衛二女）及び其子女孫あり兄嘉吉郎（同元、九生）は兵庫縣人石川ひさの養子となり甥健二（明二八、五生）は同縣人久下良枝の入夫となり姪きすゑ（同二二、一生）は大阪府人石橋文治郎三男三治郎に同ゆきゑ（同三八、一生）は兵庫縣人山本俊次に嫁せり（朝鮮、平壤、覆審法院官舍）

參照＝佐野雄治の項

柿原得一

繼母　マス　明二三、一生、京都、士、野路井
妻　龜野　芳正二女
男　宗弘　明四〇、一生
女　信　明四一、一〇主

君は宮崎縣士族柿原宗太の長男にして明治十四年三月を以て生れ同十九年家督を相續す同四十年家督を相續し先代八郎右衛門を襲名し前名倚治郎を改む組業酒類商を營み市内一流の老舗として知られ傍ら前記會社の重役にして義に選ばれて東京市參事會員たりし事あり家族は尙三男泰三（大五、四生）長女百合子（同九、六生）あり二男尙二郎（同三、一生）は分家養叔母なをの死跡を相續せり（東京、麴町、麴町六ノ七電話九段七六二）

參照＝横田佐八郎家安藤與惣次郎の項

柿原政一郎

廣島臨港土地㈱取締役、中國民報社長、宮崎縣士族
父　正一　元治元、八生
母　キミ　元治元、一生、宮崎、士、田中增衛長女
妻　タメ　明一四、一生、廣島、市畑亥太郎妹
男　幸二　大五、一一生

君は宮崎縣士族柿原正一の長男にして明治十六年五月を以て生れ大正十四年家督を相續す明治三十七年第六高等學校を卒業し東京帝國大學文科大學に學ぶ現時中國民報社長にして傍ら前記會社の重役を兼ぬ大正九年衆議院議員に擧げらる長女てつ子（明四四、一〇生）二女みち子（大二、八生）三男正平（同七、八生）は各分家せり（岡山市上西川町一二電二三三六）

柿原萬藏

母　イサ　正五位、東京高等師範學校教授
妻　富士子　東京府在籍
男　恭一　埼玉縣多額納稅者、西武鐵道㈱取締役、秩父鐵道㈱取締役、織物商
埼玉縣在籍
慶應元、三生、埼玉、平沼寅吉長女

君は埼玉縣人先代萬藏の長男にして明治二十四年七月を以て生れ大正八年家督を相續し前名萬三を改め襲名す織物商を營み西武銀行頭取たる外前記會社の重役を兼ね埼玉縣多額納稅者に列し直接國稅一萬四千九百三十四圓を納む義に秩父木材秩父會館秩父化工各會社の重役たりし事あり家族は尙長女映子（大一一、六生）二女路子（同一二、八生）三女昱子（昭五、二生）妹ハツ（明二八、六生）同夫仲次（同二四、一生、埼玉、高野近太郎二男）弟萬次郎（同三一、一〇生）同妻義子（同四〇、一生、東京、宮內實長女、三輪田高女出身）及其一子弟萬之助（同三五、六生）あり姉カネ（同一六、七生）同夫萬吉（同六、一一生、埼玉、田中清之助弟）は其子女を伴ひ分家し姉シゲ（同一八、一生）は埼玉縣人近藤榮次郎に同ヨシ（同二二、一生）は同縣人柿原定吉に同ミネ（同一同タカ（同八、九生）は同縣人秋山壯三郎二男二、八生）は同縣人新井龜三郎に嫁せり（埼玉、秩父、秩父町）

參照＝宮內實の項

柿本久吉

柿久商事㈱取締役、柿久名代表社員、家主、大阪府在籍
妻　サヨ　文久元、五生、大阪、綿井貞重叔母
母　明四五、四生、現戸主、生母、大阪、坂下コマツ
庶子　賀次　明四五、四生、群馬、奥宗方作姉

君は奈良縣人柿本定七の弟にして安政元年五月を以て生れ大正九年分れて一家を創立し後退隱す家主にして前記會社の重役たり家族は尙庶子芳子（大八、六生、生母、大阪、坂下コマツ）同富子（同一一、七生、生母

柿原萬藏

埼玉縣多額納稅者、西武鐵道㈱取締役、秩父鐵道㈱取締役、織物商
埼玉縣在籍
慶應元、三生、埼玉、平沼寅吉長女
明三二、八生、東京、渡邊方舟妹
大一三、一〇生

君は埼玉縣人先代萬藏の長男にして明治二十四年七月を以て生れ大正八年家督を相續し前名萬三を改め襲名す織物商を營み西武銀行頭取たる外前記會社の重役を兼ね埼玉縣多額納稅者に列し直接國稅一萬四千九百三十四圓を納む義に秩父木材秩父會館秩父化工各會社の重役たりし事あり家族は尙長女映子（大一一、六生）二女路子（同一二、八生）三女昱子（昭五、二生）妹ハツ（明二八、六生）同夫仲次（同二四、一生、埼玉、高野近太郎二男）弟萬次郎（同三一、一〇生）同妻義子（同四〇、一生、東京、宮內實長女、三輪田高女出身）及其一子弟萬之助（同三五、六生）あり姉カネ（同一六、七生）同夫萬吉（同六、一一生、埼玉、田中清之助弟）は其子女を伴ひ分家し姉シゲ（同一八、一生）は埼玉縣人近藤榮次郎に同ヨシ（同二二、一生）は同縣人柿原定吉に同ミネ（同一同タカ（同八、九生）は同縣人秋山壯三郎二男二、八生）は同縣人新井龜三郎に嫁せり（埼玉、秩父、秩父町）

參照＝宮內實の項

垣內松三

正五位、東京高等師範學校教授、東京府在籍
妻　信世　明二〇、一二生、和歌山、日疋信亮二女
女　愛子　明四三、九生
女　節　大四、一二生

君は岐阜縣人代情茂助の弟にして明治十一年一月を以て生れ先代雲嶺の養子となり大正八年家督を相續す明治三十六年東京帝國大學文科大學國文科を卒業し爾來東京帝國大學文科大學講師第六臨時教員養成所教授兼東京女子高等師範學校教授を經て大正九年歐洲を視察し同十三年東京高等師範學校教授に任じ現に其職に在り家族は尙三女道子（大一二、一〇生）ありA五一七（東京、本郷、駒込西片町一〇ろノ七電小石川四八六四）

垣下林兵衛

長壽保全、澁飛商工各㈱取締役、農業、植林業、岐阜縣在籍
妻　やよえ　明二三、三生、岐阜、青木嘉助妹
男　周造　明四二、六生
女　さち子　明四四、七生
女　和加　大五、一生

君は岐阜縣人垣下清吉の弟にして明治十八年四月を以て生れ大正六年分れて一家を創立す祖業農及植林を營み現時前記各會社の重役たり家族は尙三女式子（大六、一一生）四女守代（同九、一生）三男順司（同一〇、一二生）五女好子（同一三、一生）あり二男龜太郎（同二、一二生）は岐阜縣人垣下すきの養子となれり（岐阜、加茂川邊町）

垣見終造

横濱取引所取引員、神奈川縣在籍
妻　トキ　明二七、九生、群馬、奥宗方作姉
男　清彥　大五、四生

君は神奈川縣人垣見清明の五男にして明治十八年十月を以て生れ大正十五年兄健太方より分れて一家を創立す現時横濱取引所取引員たり家族は尙長女梅子（大六、六生）二女たま子（昭二、九生）三女君子（同四、五生）ありA一一一八（横濱、中、本牧町和田山一三三九電本局四八八四）

垣見八郎右衛門

八王子瓦斯㈱監査役、酒類商
東京府在籍
養母　きわ　明七、四生、東京、深野清三郎長女
妻　ふみ　明二六、三生、東京、垣見龜三郎長女
男　貴一郎　明四五、三生、學習院高等科在學

君は滋賀縣人横田政之愼の三男にして同佐八郎の弟なり明治十八年八月を以て生れ同四十四年祖父の實家垣見ふみの入夫となり家督を相續し先々代八郎右衛門を襲名し前名倚治郎を改む組業酒類商を營み市內一流の老舗として知られ傍ら前記會社の重役にして義に選ばれて東京市參事會員たりし事あり家族は尙三男泰三（大五、四生）長女百合子（同九、六生）あり二男尙二郎（同三、一生）は分家養叔母なをの死跡を相續せり（東京、麴町、麴町六ノ七電話九段七六二）

參照＝横田佐八郎家安藤與惣次郎の項

書上文左衛門

大東織布㈱社長、日本絹撚、書上商店、桐生機械、伊勢崎書上商店
各㈱取締役、絹織物商
群馬縣在籍
妻　マツ　明二六、一一生、東京、森宗作長女
男　芳郎　大四、六生

君は群馬縣人先代文左衛門の長男にして明治二十四年五月を以て生れ大正三年家督を相續し前名史郎を改む組絲織物商を營み現時大東織布會社長の外前記會社の重役たり家族は尙長女幸子（大一一、四生）二男文彌（同一二、九生）三男忠史（同一五、二生）二女文子（昭二、一生）あり同タカ（同三〇、五生）は栃木縣人坂本重藏に同コト（同三五、一二生）は東京府人角谷貞之助長男貞一に嫁し同京（同四〇、三生）次叔母マサ（文久三、七生）は各分家し妹ヨネ（同三一、一〇生）は群馬縣人原勢九助の養子となり群馬縣人岩崎柳三を迎へり（桐生、本町二ノ二六六）

參照＝角谷貞之助、坂本重藏、原勢柳三、森宗作の項

螞崎千晴

從五位勳四等、朝鮮總督府獄役血清製造所長、宮城縣士族
母　ふち　嘉永四、一二生、宮城、士、齋藤四郎五郎長女
妻　とり　明一八、三生、埼玉、富岡クラ叔母

男　賢治　大八、三生
女　正　大元、九生
女　貞　大二、一一生
節　大四、二生

君は宮城縣士族螞崎廣高の長男にして明治三年五月を以て生れ同二十六年家督を相續す同二十八年駒場農科大學獸醫科乙科を卒業し同大學助手農商務技手牛疫血清製造所技師に任ぜられ昭和四年同所長を命ぜらる家族は尙六女惠（大一〇、五生）七女俊子（同一四、一生）八女和子（昭二、一一生）あり長女隆（明三五、二生）は茨城縣人村田文三郎に嫁せり（朝鮮、慶尙南道、東萊郡沙下面獸疫血清製造所）

螞瀨彥藏

正五位、文部省圖書監修官
大分縣在籍
妻　しけ　明一五、四生、東京、士、千賀春光養子
女　しづ　明三七、八生

君は大分縣人螞瀨暢藏の長男にして明治七年九月を以て生れ大正十五年家督を相續す明治三十四年東京帝國大學文科大學哲學科を卒業し大學院に入る同三十九年渡米クラーク大學研究科に入りドクトル・オブ・フィロソフィーの學位を受く歸朝後東京高等師範學校講師たりしも現時前記の職に在り（東京、牛込、神樂町二ノ二〇）

鍵田忠次郎

奈良新溫泉㈱代表取締役、大阪電氣軌道、大和鐵道、參宮急行電鐵
各㈱取締役、摩耶鋼索鐵道㈱監査役、奈良縣在籍
妻　チヨ　明三、九生、奈良、鍵田善兵衛女
養子　松太郎　明二七、一生、奈良、鍵田善兵衛二男
婦　ヨシ　明二七、一一生、養子松太郎妻、奈良、池口龜太郎二女

君は奈良縣人鍵田忠三郎の長男にして慶應元年六月を以て生れ明治二十三年家督を相續す現時前記各會社の重役たり家族は尙孫忠二郎（大九、三生、養子松太郎二男）同忠三郎（同一一、七生、同三男）同四郎（同一四、八生、同四男）同昌子（昭三、一〇生、同長女）あり弟萬次郎（明四、一二生）は分家し妹タミ（同一三、六生）は大阪府人古曾吉之助に嫁せり（奈良市北御門町一七）

鍵富健作

新潟商工會議所常議員、日本硫曹㈱取締役、新潟縣在籍
繼母　シン　明九、二生、新潟、白勢秋次妹
妻　キト　明二八、二生、新潟、服部幾太郎三女
男　健一　大五、一〇生

君は新潟縣人鍵富卯一郎の二男にして同三作の弟なり明治二十二年十月を以て生れ同三十二年家督を相續す現時前記會社の重役にして新潟商工會議所常議員に擧げらる義に新潟製紙會社重役たりし事あり家族は尙二男馨（大八、三生）三男康造（同一〇、二生）長女春（同一三、三生）あり弟謹治（明二七、五生）同妻ヨシエ（同二八、三生、新潟、松木弘長女）は分家し妹マツ（同二九、七生）は新潟縣人本田格太郎に嫁せり（新潟市西大畑町五二二電八五五）

參照＝鍵富三作、松木弘家岡田正平の項

鍵富三作

新潟縣多額納稅者、新潟商工會議所顧問、日本硫曹㈱社長、新潟鐵工所、第一東京勤產火災保險各㈱取締役、第四銀行、東神火災保險、翠津木材乾餾各㈱監査役、洋服商並運送業、新潟縣在籍
妻　チイ　明二二、八生、新潟、鍵富清一郎姉
男　正作　明四一、二生
女　ユリ　大元、一一生

君は新潟縣人鍵富卯一郎の長男同健作の兄にして明治二十年十一月を以て生れ先代三作の養子となり同四十一年家督を相續し前名揆作を改め襲名す洋服商並運送業を營み傍ら現時前記各銀行會社の重役にして新潟縣多額納稅者に列し直接國稅一萬六千八十六圓を納め推されて新潟商工會議所顧問たり義に新潟商業會議所特別議員に擧げられ又紺綬褒章を賜ふ家族は尙二男孝吉（大四、七生）あり（新潟市上大川前通一番町一五九電一〇七五）

參照＝鍵富健作の項

鍵谷代助

朝日堂㈱監査役、小間物商
大阪府在籍
繼母　ナミ　明一一、七生、大阪、山內ヨシ妹
妻　道子　明三六、三生、大阪、村井楳三二女

君は大阪府人先代代助の二男にして明治三十五年四月を以て生れ大正十一年家督を相續し前名與一郎を改む小間物商を營み傍ら前記會社の重役たり家族は尙長女美知代(大一三、七生)弟伊三(明四一、三生)あり(大阪、東、南久寶寺町二ノ五二**電船場一一一**)

参照＝村井楳三の項

角安次郎　博文舍印刷所名代表社員、活版印刷業、熊本縣在籍

妻　マサ　明二三、一生、熊本、平井茂八妹
男　安兵衛　明四一、一一生
婦　ウタ　明四三、一〇生、長男安兵衛妻、長崎、野田菊次郎二女
男　敬次　明四四、二生
女　照子　大五、一一生

君は熊本縣人角安平の三男にして明治十二年一月を以て生れ角久平方より分れて一家を創立す夙に博文舍と稱し活版印刷業を營み昭和六年一月合名組織に變更し現時其代表社員たり家族は尙三男範次(大二、六生)二女圭子(同八、一一生)三女鐵子(同一一、二生)四女温子(同一五、一生)五女法子(生年月同上)六女洋子(同一五、一生)七女昌子(昭三、三生)姉登免(元治元、二生)あり同麻須(明八、三生)は熊本縣人安田大五郎に妹キヨ(同一四、三生)は同縣人菅六郎に嫁ぜりA一〇八一B二六二(熊本市紺屋今町**電八六二**)

角田久兵衛　毛糸商　京都府在籍

母　いし　元治元、一生
妻　トミ　明二八、七生、京都、宮澤治助三女
男　久次　大九、一〇生

君は京都府人先代久兵衛の長男にして明治二十八年四月を以て生れ大正十一年家督を相續し前名久治郎を改め襲名す毛糸商を營む叔母すて(明二、四生)は京都府人中野常七の母たりA一一三五B一九〇(京都、下京、東洞院松原上ル**電下二二一七**)

参照＝中野常七家近藤庄七の項

角田隆郎　日清汽船㈱專務取締役、南洋興業㈱取締役、千葉縣在籍

妻　俊　明一九、一〇生、岡山、士、日輪
男　君　繼一妹　明三九、五生、東京商大出身

君は千葉縣人角田古八の長男にして明治四年三月を以て生れ同三十八年家督を相續す現時前記會社の重役たり家族は尙四男素郎(大五、六生)五男英郎(同七、一二生)三女妙子(同一一、一〇生)同都二(同一五、九生)は各分家せりA三五六四(東京、四谷、内藤町一**電四谷二九四八**)

参照＝日輪繼一の項

角谷榮治郎　正五位勳四等、檢事、大阪控訴院檢事、大阪府在籍

妻　千鶴　明一九、五生、大阪、角谷廣治妹

君は大阪府人角谷利平治の長男にして明治八年二月を以て生れ大正十四年家督を相續す明治三十一年關西法律學校を同三十六年明治法律學校を各卒業し判檢事登用試驗に合格同三十九年檢事に任じ爾來金澤區彙同地方敎賀區彙福井地方名古屋地方彙同區豐橋區富山地方彙同區山田區和歌山區彙同地方高知地方彙同區堺區大阪地方各裁判所檢事に歷補し大正十五年現職大阪控訴院檢事に轉じ今日に至る家族は尙弟進(明二一、三生)同妻ヲイ(同二九、一一生、大阪、辻野小太郎二女)及其子女あり(大阪、北、大阪控訴院檢事局内)

角谷儀太郎　金澤市參事會員、金澤土地建物㈱專務取締役、石川縣在籍

妻　信　明一四、一〇生、石川、杉本新七三女
男　義一　明三六、七生

君は石川縣人角谷平兵衛の長男にして明治六年十二月を以て生れ同十六年家督を相續す現時前記會社の重役にして金澤市參事會員たり兼に金澤商工會議所議員たり新町一ノ二九**電四一七**)

角谷晴明　從五位、大阪工業試驗所技師、和歌山縣在籍

父　源之助　慶應二、六生、現戸主
母　こまゐ　明元、三生、和歌山、士、小山光彦姉
妻　英　明四〇、七生、京都、中濱古六郎長女
女　靜子　明四一、二生、九段精華高女出身
男　武郎　明四二、九生、帝大經濟學部在學
男　義郎　明四三、一二生、早大理工學部在學
女　正子　大二、六生、青山學院女學部在學

君は大阪府人角谷利平治の長男にして明治四年三月を以て生れ大正十四年家督を相續す現時前記會社の重役たり家族は尙四男素郎(大五、六生)五男英郎(同七、一二生)三女妙子(同一一、一〇生)妹けゐ(明八、九生)あり弟九太(同一〇、一一生)同都二(同一五、九生)は各分家せりA三五六四(東京、四谷、内藤町一**電四谷二九四八**)

参照＝日輪繼一の項

角谷榮治郎　正五位勳四等、檢事、大阪控訴院檢事、大阪府在籍

妻　千鶴　明一九、五生、大阪、角谷廣治妹

君は大阪府人角谷利平治の長男にして明治八年二月を以て生れ大正十四年家督を相續す明治三十一年關西法律學校を同三十六年明治法律學校を各卒業し判檢事登用試驗に合格同三十九年檢事に任じ爾來金澤區彙同地方敎賀區彙福井地方名古屋地方彙同區豐橋區富山地方彙同區山田區和歌山區彙同地方高知地方彙同區堺區大阪地方各裁判所檢事に歷補し大正十五年現職大阪控訴院檢事に轉じ今日に至る家族は尙弟進(明二一、三生)同妻ヲイ(同二九、一一生、大阪、辻野小太郎二女)及其子女あり(大阪、北、大阪控訴院檢事局内)

角谷儀太郎　金澤市參事會員、金澤土地建物㈱專務取締役、石川縣在籍

妻　信　明一四、一〇生、石川、杉本新七三女
男　義一　明三六、七生

君は石川縣人角谷平兵衛の長男にして明治六年十二月を以て生れ同十六年家督を相續す現時前記會社の重役にして金澤市參事會員たり兼に金澤商工會議所議員たり新町一ノ二九**電四一七**)

角谷元三郎　醫西鑄鐵所㈱社長　大阪府在籍

養父　宇之助　文久元、八生、奈良、吉田定次郎三男
養母　シモ　文久二、一一生、和歌山、川口吉松妹
妻　於浪　明一六、五生、大阪、川口吉松長女
養子　龍三　明三〇、二生、長女さだ夫、大阪橋本威男二男
女　さだ　明四〇、二生、養子龍三妻

君は奈良縣人吉田定次郎の四男にして明治十四年一月君は和歌山縣人角谷源之助の長男にして明治二十八年七月を以て生る大正八年京都帝國大學工科大學を卒業し工業試驗所技手となり現時大阪工業試驗所技師たり家族は尙長女あい(昭三、一二生)二女さだ(同五、七生)弟弘毅(明三〇、一二生)同妻越野(同三四、六生、千葉、和田豐二女)あり妹順(同二六、八生)は岡山縣人妹尾吉次に嫁ぜり(神戸、石井町二一三三ノ一)

参照＝小山光彦の項

角谷貞之助　澤商店、東京米穀商品取引所取引員、東京府在籍

妻　クニ　明二、八生、神奈川、大礎源七長女
男　貞一　明二八、八生、東京高商出身
婦　コト　明三五、一二生、長男貞一妻、群馬、書上文左衛門妹
男　貞二　明三二、九生、慶大經濟學部出身
婦　モト　明三八、一生、二男貞二妻、栃木增田實平五女
男　貞三　明三五、七生、法大法學部出身
男　貞四郎　明三八、一生、早大理工學部出身
男　貞五　明四一、四生
男　明四三、一〇生

當家は古くより日本橋區小傳馬町に住し舊幕時代は御用商人たりし家柄なり君は先代藤吉の長男にして明治二年十一月を以て生れ同二十八年家督を相續す夙に米穀仲買業澤商店に入り勤續二十餘年後同商店を繼承主宰して現在に及び其堅實なる營業に依り信用を博し居れりA八八四B一九六(東京、日本橋、蠣殼町一ノ二**電茅場町一五**)

参照＝書上文左衛門㈱坂本重藏㈱原勢柳三の項

角谷元三郎　醫西鑄鐵所㈱社長　大阪府在籍

養父　宇之助　文久元、八生、奈良、吉田定次郎三男
養母　シモ　文久二、一一生、和歌山、川口吉松妹
妻　於浪　明一六、五生、大阪、川口吉松長女
養子　龍三　明三〇、二生、長女さだ夫、大阪橋本威男二男
女　さだ　明四〇、二生、養子龍三妻

君は新潟縣多額納稅者壁張治平の長男にして明治二十二年八月を生れ昭和二年家督を相續す現時前記銀行會社の重役たり家族は尙弟貞七(明四一、六生)あり姉シマ(同一九、九生)は同縣人吉田孝太郎長男正太郎に同アイ(同五、九生)は同縣人吉田孝太郎長男正太郎に妹セン(同二八、五生)は同縣人山田耕治郎長男麟之助に同フジ(同三四、三生)は同縣人山田耕治郎長男麟之助に同フジ(同三四、五生)は同縣人平石恒作に叔母セイ(同九、一生)は同縣人野本松二郎長男清松に嫁し叔父牛四郎(同一三、一一生)は同妻リッ(同二二、一生、新潟、柳澤角太郎三女)と共に弟安平(同二七、四生)は同妻ナチ(同二九、七生、新潟、田村清次郎の長女)と共に同友吉(同三六、三生)は同妻保(同三九、五生、新潟、山田耕治郎四女)と共に各分家し同彦一(同三〇、七生)同六郎(同三七、一〇生)も亦各分家せり(長岡、表町三ノ九〇〇)

参照＝山田耕治郎、田村清次郎㈱吉村文四郎の項

掛井生治　兵庫大同信託㈱常務取締役兼營業部長、山口縣士族

妻　イソ　明二三、七生、山口、吉山魯介長女

君は山口縣士族掛井篤の二男にして明治十一年七月を以て生れ同二十一年先代兄勇彌の後為承け家督を相續す同三十八年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し兼に朝鮮銀行大阪支店長を經て同行理事たりしが現時兵庫大同信託會社常務取締役にして營業部長を兼務す兄勇彌(安政三、二生)同妻コト(文久二、一二生、山口、士、村上倫長女)は其一女を伴ひ山口縣士族武中カツの養子となりA四五〇(兵庫、武庫、精道村津知**電戸屋一〇六五**)

掛場定吉　從五位勳五等、朝鮮總督府道技師兼朝鮮總督府林業試驗場技師、京畿道山林課長、北海道在籍

父　吉右衛門　萬延元、八生、現戸主
母　とよ　明二二、三生、石川、村本仁三郎妹
妻　スエ　明二五、一一生、秋田、渡邊爲吉妹、京城第一高女出身
女　淑　大三、一生、京城第一高女在學

君は石川縣人掛場吉右衛門の長男にして明治十九年八月を以て生る札幌農學校林學科を卒業し北海道廳技手及朝鮮總督府技手を經て大正七年同總督府道技師に進

を以て生れ先代宇之助の養子となり大正十五年家督を相續す現時關西鑄鐵所社長たり家族は尙孫龍太郎(昭三、七生、養子龍三長男)同貞次郎(同四、一二生、同二男)あり庶子正基(大元、一二生)は其生母大阪府人伊藤タカの養子となれり(大阪、住吉町二五九)

覺心平十郎　兵庫縣多額納稅者、酒造業　兵庫縣在籍

繼母　ふみ　慶應三、一二生、兵庫、濱市郎介妹
妻　マキ　明一六、三生、大阪、西田要作長女
男　勝造　大三、一〇生
養子　敬次郎　明五、七生、長女アイ夫、大阪城野伊三郎二男
女　アイ　明三八、五生、養子敬次郎妻
女　喜代　明四一、二生
女　恒子　明四三、一生
女　定子　明四四、一生
女　喜美　大二、三生

覺心家は播州西宮に土着せる舊家にして代々酒造業を營み平十郎を襲名す君は先代平十郎の長男にして明治十二年七月を以て生れ大正二年家督を相續し前名政造を改む組業を繼ぎ現に兵庫縣多額納稅者たり曩に加島屋取締役たりし事あり家族は尙孫美子(昭四、一生、養子敬次郎長女)弟喜造(明三〇、六生)同妻敏子(同三五、四生、京都、小原正造妹)及其一女弟榮造(同三一九生)あり妹好(同三四、九生)は京都府人中路重之長男明に嫁せり(西宮、本町五)

参照＝城野伊三郎、中路重之の項

覺道作右衛門　大阪府多額納稅者、家主　大阪府在籍

妻　嵐子　明二六、八生、兵庫、長尾喜平長女
男　豐治　大一一、九生

君は大阪府人先代作右衛門の長男にして明治二十一年八月を以て生れ大正十五年家督を相續し前名芳次郎を改む家主にして現に大阪府多額納稅者たり家族は尙長女地賀(大七、六生)二女和子(同八、一〇生)あり父鐵肝(慶應元、八生)母リウ(同三、四生、大阪、行松市次郎妹)は弟飢三(明三八、一二生)を伴ひ叔父米太郎(同三、八生)同妻タネ(同二、一一生、大阪、行松市次郎妹)は其子女を伴ひ各分家し叔父作次郎(同一一、一生)は大阪府人日下久悦(同一三、八生)は同府人板倉嘉平治に妹ハル(同二九、二生)は同府人山野平一に同あい(同三二、三生)は同府人山田五三郎に嫁せり(大阪、浪速、元町四ノ四一七四**電弐一九六八**)

参照＝日下久悦、山田五三郎、山野平一の項

覺道次良左衛門　家主　大阪府在籍

妻母　ルキ　明一六、一〇生、大阪、君家辰治郎長女
妻　清子　明三八、八生、先々代覺治郎長女
男　虎之輔　大一五、八生

君は大阪府人後藤兼次郎の長男にして明治三十二年十月を以て生れ大正十二年先代清子の入夫となり家督を相續し後前名安治を改む家主たり家族は尙ほ長女治子(大二二、一〇生)二男雄次郎(昭三、一二生)あり(大阪、浪速、元町五ノ三六七**電弐一九三八**)

覺道芳男　家主　大阪府在籍

母　テイ　明二一、七生、大阪、西谷篤三郎長女

君は大阪府人覺道久吉の三男にして大正五年一月を以て生れ同七年家督を相續す家主たり姉マサ(大元、九生)は大阪府人有岡直七孫太郎に嫁せり(大阪、浪速、元町五ノ三八二**電弐四八八二**)

覺野勝三郎　岸和田市參事會員、尼崎地所㈱專務取締役、尼崎城内土地㈱專務取締役、大阪府在籍

妻　しすへ　明二一、九生、兵庫、大島誠之助姉

君は大阪府人覺野楠太郎の二男にして明治十八年四月を以て生れ大正三年家督を相續す夙に實業界に入り現時前記諸會社の重役にして岸和田市參事會員に選ばる(岸和田、北町)

覺張義平　北越製紙㈱取締役、長岡銀行㈱監査役、新潟縣在籍

妻　カズヨ　明二四、一生、新潟、細貝勝喜三女
男　良次　大九、二生
女　輝子　明四五、三生
女　春子　大四、二生

君は新潟縣多額納稅者壁張治平の長男にして明治二十二年八月を生れ昭和二年家督を相續す現時前記銀行會社の重役たり家族は尙弟貞七(明四一、六生)あり姉シマ(同一九、九生)は同縣人吉田孝太郎長男正太郎に同アイ(同五、九生)は同縣人吉田孝太郎長男正太郎に妹セン(同二八、五生)は同縣人山田耕治郎長男麟之助に同フジ(同三四、三生)は同縣人山田耕治郎長男麟之助に同フジ(同三四、五生)は同縣人平石恒作に叔母セイ(同九、一生)は同縣人野本松二郎長男清松に嫁し叔父牛四郎(同一三、一一生)は同妻リッ(同二二、一生、新潟、柳澤角太郎三女)と共に弟安平(同二七、四生)は同妻ナチ(同二九、七生、新潟、田村清次郎の長女)と共に同友吉(同三六、三生)は同妻保(同三九、五生、新潟、山田耕治郎四女)と共に各分家し同彦一(同三〇、七生)同六郎(同三七、一〇生)も亦各分家せり(長岡、表町三ノ九〇〇)

参照＝山田耕治郎、田村清次郎㈱吉村文四郎の項

掛井生治　兵庫大同信託㈱常務取締役兼營業部長、山口縣士族

妻　イソ　明二三、七生、山口、吉山魯介長女

君は山口縣士族掛井篤の二男にして明治十一年七月を以て生れ同二十一年先代兄勇彌の後為承け家督を相續す同三十八年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し兼に朝鮮銀行大阪支店長を經て同行理事たりしが現時兵庫大同信託會社常務取締役にして營業部長を兼務す兄勇彌(安政三、二生)同妻コト(文久二、一二生、山口、士、村上倫長女)は其一女を伴ひ山口縣士族武中カツの養子となれりA四五〇(兵庫、武庫、精道村津知**電戸屋一〇六五**)

掛場定吉　從五位勳五等、朝鮮總督府道技師兼朝鮮總督府林業試驗場技師、京畿道山林課長、北海道在籍

父　吉右衛門　萬延元、八生、現戸主
母　とよ　明二二、三生、石川、村本仁三郎妹
妻　スエ　明二五、一一生、秋田、渡邊爲吉妹、京城第一高女出身
女　淑　大三、一生、京城第一高女在學

君は石川縣人掛場吉右衛門の長男にして明治十九年八月を以て生る札幌農學校林學科を卒業し北海道廳技手及朝鮮總督府技手を經て大正七年同總督府道技師に進

(※印は姻族關係)

み現に京畿道山林課長にして朝鮮總督府林業試驗場技師を兼ぬ家族は尙二女朗子（大一四、一生）三女純子（昭四、二生）弟隆（明三九、一二生）同久精（同四一、一生）あり妹清（同二五、一一生）は北海道人酒造家山崎與造に同りヨ（同二九、九生）は愛知縣人文學士佐々木慧奇に同實（同三三、一二生）は大分縣人慶尙北道技師大羽榮次郎に同ミユキ（同三七、一一生）は北海道人山崎孝平に嫁し弟直勝（同三二、一生、北大出身林學士）は同妻芳子（同四一、五生、鳥根、士、岩崎喬一郎長女）を伴ひ分家せり（京城、給洞二二電光化門三三五）

掛飛作太郎

從五位勳五等、地方技師、長野縣上伊那農業學校長、石川縣士族

父　秀　嘉永二、三生
繼母　照　慶應二、三生、石山、花山時勝妹
妻　ふしゑ　明一九、三生、東京、熊谷幸一妹
男　亥一　明四四、七生
女　キヨ　明四一、一一生

君は石川縣士族掛飛秀の長男にして明治十一年十二月を以て生れ大正三年家督を相續す明治三十九年東京帝國大學農科大學農藝化學科を卒業し新潟縣立加茂農林學校教諭德島縣技師同縣立農業學校長兼德島農事試驗場技師大分縣技師同縣立農學校長長野縣技師等を經て大正十五年地方技師に轉じ現時長野縣上伊那農業學校長たり家族は尙四男捨四郎（大七、一二生）二女葵子（同一一、四生）あり弟酉二郎（明一九、一生）は分家せり（長野、上伊那、伊那町）

掛札久右衛門

地主　東京府士族

妻　タミノ　明二八、一二生、秋田、士、三浦彙藏五女、縣立秋田高女出身
男　光郎　大七、八生、曉星中學在學
女　セイ　大五、九生、成女高女在學

君は秋田縣士族掛札吉治の長男にして明治二十五年八月を以て生れ秋田縣立横手中學校千葉國藝專門學校早稻田大學法律科を卒業し倉庫運送業農具肥料販賣業並に金融業を營み昭和三年家督相續と同時に是等の營業全部廢業し秋田縣下の田園は横手町に事務所（電横手四五二）を建設して純粹せしめ目下鎌倉長谷觀音前にて蓄音器レコード販賣業（電鎌倉七二九）を營む家族は尙二女カウ（大九、一二生、九段精華高女在學）二男信夫（同一一、一二生、曉星小學校在學）三女イヲ（同一四一〇生）三男典昭（昭三、三生）ありA五九五九（東京、小石川、菅羽町五ノ一七）

參照＝※澤木晨吉の項

掛谷宗一

從四位勳四等、理學博士、東京文理科大學教授兼東京高等師範學校教授、廣島縣在籍

妻　タキヨ　明二二、一二生、廣島、長谷川雲平三女
男　力太郎　明四四、二生

君は廣島縣人掛谷七十郎の男にして明治十九年一月を以て生れ大正五年分れて一家を創立す明治四十二年東京帝國大學理科大學數學科を卒業し同四十四年第一高等學校教授となり東北帝國大學理科大學助教授を經て昭和四年以來現職に在り義に數學研究の爲米國に留學し大正五年理學博士の學位を受く家族は尙二男明次郎（大六、二生）三男正三（同一一、一〇生）あり（東京市外戸塚町源兵衛一四〇電牛込三〇〇七）

景山甚右衛門

勳四等、香川縣多額納稅者、四國水力電氣株式會社取締役、米穀肥料商、香川縣在籍

婦　カネ　明九、一生、亡長男熊造妻、香川鹽田角治妹
孫　董　明三九、一生、亡長男熊造二男
孫妻　トモ　明三九、二生、孫董妻、香川、景山卯吉二女

君は香川縣人景山伊右衛門の長男にして安政二年四月を以て生れ明治六年家督を相續す米穀肥料商を營み香川縣多額納稅者たり明治二十九年以來衆議院議員に當選すること四回に及び現時前記會社の重役たり孫菊子（明三一、四生、亡長男熊造二女）は香川縣人淺見良二に同キヌ（同三五、八生、同四女）は同縣人田中藤造長男傳造に同アイ子（同三七、一二生、同五女）は同縣人景山喬藏に嫁し妹ケイ（安政五、八生）同夫磯吉（同六、一生、香川、小林惣助三二生、亡長男熊造長女）同夫和夫（同二一八生、滋賀、中原大定三男）は其一男二女を伴ひ孫隆子（香川、仲多度、多度津町電三）

參照＝鹽田角治※武田謙の項

景山齊

正五位勳四等、郵部長、福岡縣在籍

妻　きく　明一九、九生、工學博士小野鐵正妹

影山銑三郎

從五位勳三等、大阪電機工業所株式會社取締役會長、宇治川電氣株式會社取締役副社長、神戸自動車、近江鐵道各株式會社取締役、山陽中央水電、今津發電、高野山電氣鐵道各株式會社監査役

妻　ヤマ　明一三、八生、養父禎太郎長女栃木縣在籍
男　桓虎　明三八、四生
男　三郎　明四四、一〇生

君は栃木縣人加藤重矩の二男にして明治九年二月を以て生れ先代禎太郎の養子となり同四十五年家督を相續す同三十七年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し遞信省に入り通信事務官遞信書記官兼臺灣總督府事務官遞信省參事官遞信官大臣祕書官遞信書記官兼遞信省參事官遞信監察官大阪遞信局長遞信省電氣局長等に歷任す明治四十一年通信事業研究の爲め獨逸に留學を命ぜられ同四十二年留學中萬國郵便聯合記念碑除幕式に本邦を代表して瑞西國に出張し又大正九年國際電氣通信豫備會議に本邦委員として米國に出張を命ぜらる同十二年官を辭め實業界に入り現時宇治川電氣會社取締役副社長の外前記各會社の重役たりA九四五六（大阪、東、清水谷西六丁二五八電東四〇）

影山常太郎

從五位勳六等、種馬所技師、十勝種馬所長、靜岡縣在籍

妻　とら　嘉永元、七生、靜岡、鈴木平七二女
母　カヨ　明二九、九生、岩手、砂子田源六孫
男　盛行　大六、四生

君は靜岡縣人影山新助の弟にして明治十八年十二月を以て生る大正二年東京帝國大學農科大學獸醫學科を卒業し同四年馬政局技手となり爾來同技師種馬所技師島根高知各種馬所長を經て昭和二年現職に轉ず同五年歐米各國に出張せり家族は尙長女幸子（大九、七生）二女典子（昭三、九生）の外兄新助（明一五、一生、現戸主）同妻いく（同二五、七生、靜岡、佐藤半左衛門長女）及其二子亡弟禎太郎の二子あり兄平太郎（同一七、二生）弟通太郎（同二〇、一一生）同妻ミツ（同二八、一二生、神奈川、北村由松二女）は各分家し姉しん（同一二、一一生）は岐阜縣人坂常三郎に嫁し妹てう（同二四、一生）は靜岡縣人武田豐吉長男昌太郎に嫁し姉よふ（同六、四生）も亦他に嫁せり（北海道、河東、晉更村）

參照＝坂常三郎の項

陰山金四郎

淺野造船所株式會社常務取締役　新潟縣士族

妻　マツコ　明一八、三生、山口、士、河村實姉
男　通彌　大二、三生
女　文依　明四二、七生

君は長野縣人宮澤清之丞の三男にして明治十二年七月を以て生れ陰山利行の養子となり同三十八年家督を相續す同年東京帝國大學工科大學造船學科を卒業し現時淺野造船所常務取締役たり家族は尙二男鐵二（大四、九生）二女泰子（同六、一〇生）三女友子（同九、三生）四女飲子（同一二、一一生）あり（東京、北多摩、武藏野町吉祥寺二九八二電吉祥寺一七）

陰山七五郎

靜岡商工會議所議員、靜岡貿易株式會社長、靜岡縣在籍

妻　いす　明三三、一〇生、長女さよ夫、靜岡、朝比奈權一弟、靜岡貿易株式會社常務取締役
養子　正夫　明三八、一生、養子正夫妻

君は靜岡縣人先代七五郎の長男にして明治十二年六月を以て生れ同三十三年家督を相續し前名次兵衛を改め襲名す現時靜岡貿易會社長にして靜岡商工會議所議員たり家族は尙孫伊津子（大一五、三生、養子正夫長女）弟金五郎（明一八、一一生）同妻とよ（同二〇、一一生、靜岡、栗田勇作二女）及其子女あり弟又七（同一五、四生）は同妻かく（同一九、一〇生、靜岡、秋山儀之助二女）及其子女を伴ひ弟鐵次郎（同二一、二生）も亦各分家し妹しげ（同一七、二生）は靜岡縣人松本銀藏に同とら（同二三、一生）は同縣人稻森平治郎長男平一郎に同たつ（同二五、四生）は同縣人石田長治に嫁せり

（靜岡市下八幡町八）

蔭山次郎

川北電氣企業株式會社常務取締役、京都電機、川北物產、貞光電力、京北電力、川北電氣商事、川北電氣土木工事各株式會社監査役、福井縣在籍

妻　シナ　明一九、一生、長野、井元守治郎庶子
男　公雄　明四四、一二生

君は福井縣人渡邊英男の二男にして明治十六年四月を以て生れ先代九一郎の養子となり同三十五年家督を相續す同四十年東京外國語學校獨語部を卒業し現時川北電氣企業社常務取締役たる外前記各會社の重役たり大正十一年歐米各國を視察す家族は尙長女髮貴子（大六、九生）二女文子（同一一、一一生）三男忠雄（同一三、九生）ありA三一〇（大阪、住吉、天王寺町三二五電天王寺一八五）

蔭山錄次郎

從五位勳六等、判事、秋田地方裁判所部長、茨城縣士族

妻　静　明二一、六生、養父政記三女
男　忠　大元、一二生
女　美也　大五、九生

君は茨城縣士族鷹見鉦吾の二男にして明治十九年八月を以て生れ先代政記の養子となり大正三年家督を相續す同年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し同年司法官試補となり同五年判事に任じ長崎地方裁判所判事兼同區裁判所判事に補せられ爾來横濱地方兼同區芳賀區宇都宮地方兼同區水戸地方兼同區各裁判所判事等に歷補し昭和四年秋田地方裁判所部長に轉じ今日に至る家族は尙二男由紀雄（大三、五生）三男力（同九、八生）二女奈々枝（同一〇、一一生）姉生野（明元、五生）叔父伴吉（嘉永六、七生）あり（秋田市築地下本町六）

筧克彥

從三位勳二等、法學博士、東京帝國大學教授、法學部勤務、長野縣在籍

妻　君代　明一八、六生、東京、士、杉山四五郎妹
男　素彥　明三九、七生、東大法學部法律學科在學
男　泰彥　明四一、三生、東大文學部倫理學科在學
男　義彥　明四四、二生、靜岡高校在學
女　純　大三、九生、お茶の水高女在學
男　健一　明四四、三生
女　道　大二、一一生
女　ゆく　大五、二生

君は島根縣人景山理造の二男にして明治十二年二月を以て生れ大正二年分れて一家を創立す明治三十九年東都帝國大學理工科大學機械工學科を卒業し製鐵所工務部長を經て現時條鋼部長の職に在り昭和三年歐米各國に再度出張す家族は尙三男克三（大九、四生）五女京（同一一、五生）あり長女春那（明四〇、一一生）は愛媛縣人竹村滋に二女美那（同四二、五生）は福岡縣人竹原東一に嫁せり（八幡、高見町官舍）

參照＝小野鐵正の項

影近清毅

從五位勳五等、鐵道事務官、大臣官房保健課勤務兼東京鐵道局教習所講師、富山縣在籍

父　清藏　嘉永二、一生、現戸主
母　なを　安政四、七生、富山、因幡茂助二女
妻　つた　明一四、四生、富山、因幡善藏二女
女　敏子　明四三、二生
女　靜子　大二、一〇生

君は富山縣人影近清藏の長男にして明治九年十一月を以て生る同三十六年文官普通試驗に合格し翌年內閣屬となり爾來內閣屬帝國鐵道廳書記鐵道院書記同參事補等に歷任し大正九年鐵道事務官に任じ現時大臣官房保健課勤務にして東京鐵道局教習所講師を兼ぬ嚢に財團法人育英會理事に擧げらる家族は尙六女淑女（大七、一生）あり長女はる（明三一、一〇生）は富山縣人北川伊次郎に同ちよ（同一七、一生）は同縣人影近與四郎に同たつい（同二二、七生）は同縣人宮崎樾兵衛長男庄藏に嫁し叔父太平（文久三、九生）は分家せり（東京市外戸塚町上戸塚五八〇電牛込四二八）

影山純介

正五位勳四等、林學博士、北海道帝國大學教授、農學部勤務、山口縣士族

妻　富貴　明二九、五生、長野、和田健三三女、東京女高師出身
男　純一　大一五、一生

君は長野縣士族筧朴郎の長男にして明治五年十一月を以て生れ大正十四年家督を相續す明治三十年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し大學院に入る同三十一年行政法研究の爲獨國に留學を命ぜられ留學中同三十三年東京帝國大學法科大學助教授に同三十六年歸朝後同教授に任ぜられ昭和六年再び歐米に出張す纍に法學博士の學位を授與せらる著書多し傍ら古神道を研究し之に關する著書亦神からず家族は尙四男友彦（大六、一二生）二女明（同九、一一生）五男國彦（同一四、三生）三女光（同一五、八生）あり（東京、牛込、北町七**電牛込一八**）

參照＝嵜男爵奥田剛郎嵜伊藤常夫嵜鈴木喜三郎の項

筧　喜三郎

妻　君江　明一一、九生、愛知、服部秀助長女

養子　延一　明二三、八生、長女ゑつ夫、愛知山本彦二郎弟

女　えつ　明二八、三生、養子延一妻

孫　かすゑ　大五、三生、養子延一長女

君は愛知縣人筧儀兵衛の長男にして文久二年十二月を以て生れ先代喜三郎の養子となり明治二十八年家督を相續し前名吉太郎を改め襲名す現時愛知織布會社長たり纍に起銀行頭取大喜商店代表社員たりし事あり家族は尙孫喜八郎（大三、七生、養子延一長男）同芳子（同八、四生、同二女）同春子（同一〇、四生、同三女）同しづえ（同一二、二生、同四女）同八重子（同一五、三生、同五女）同信四郎（昭三、二生、同四男）同登美（同四、一一生、同六女）あり（愛知、中島、起町）

愛知織布㊟社長
愛知縣在籍

筧　繁

妻　ゐい子　正四位勳四等、醫學博士、侍醫

男　弘毅　明二一、一一生、室賀錄郎長女

男　潤二　明四三、二生

女　悅子　明四四、三生

君は福井縣人筧禎造の三男にして明治十五年四月を以て生れ同四十三年甥甲太郎方より分れて一家を創立す同四十年東京帝國大學醫科大學醫學科を卒業し現時侍醫たり纍に醫學博士の學位を受く（東京、神田、駿河鈴木町三六**電神田二三四〇**）

福井縣在籍

筧　正太郎

妻　きわ　從四位勳三等、元東京市電氣局長東京府在籍

男　正雄　明二八、四生、東京、相馬久吉妹

女　道　明四四、一二生

君は鳥取縣人筧健五郎の長男にして明治十五年一月を以て生れ同十七年家督を相續す同四十年東京帝國大學法科大學法律學科を卒業し文官高等試驗に合格す爾來遞信屬臨時鐵道國有準備局事務官兼遞信書記官鐵道省經理局長同運輸局長等に歷任し次で東京市電氣局長たりしも之を辭し現時閑地に在り家族は尙二男光正（大九、一二生）三男忠正（同一四、三生）あり**A三七二**（東京市外落合町下落合一七〇五**電大塚三〇八〇**）

參照＝相馬久吉嵜磯村貞吉嵜中山佐市嵜橋本新助の項

筧　忠藏

妻　勝　北濱ビルデング㊟專務取締役、大阪八弘㊟監査役、大阪株式取引所取引員、滋賀縣在籍

養子　忠雄　明一七、二生、滋賀、北川誠治郎姉

孫　澤井岩太郎三男　明三四、四生、長女君夫、兵庫、

君　明四〇、七生、養子忠雄妻

君は滋賀縣人筧忠平の長男にして明治十六年四月を以て生れ同二十年家督を相續す大阪株式取引所短期取引員にして傍ら前記各會社の重役たり家族は尙ほ孫忠宏（昭四、四生、養子忠雄長男）あり二女しな（明四三、七生）は大阪府人茶谷武夫に嫁し弟藤一郎（同一九、一〇生）は滋賀縣人番野孝七の養子となれりA六三七（大阪、東、北濱一ノ二二**電本局一五五二**）

筧　斌治

妻　壽子　正五位勳六等、內務技師、東京土木出張所勳務、東京府在籍

男　賢一郎　明二七、九生、靜岡、肥田和三郎

女　俊子　大五、五生

君は東京府人筧武文の長男にして明治十八年三月を以て生れ大正四年家督を相續す明治四十五年東京帝國大學工科大學土木工學科を卒業し大正五年內務技師に任ぜられ現時東京土木出張所勳務にして纍に土木局勳務を兼ぬ家族は尙弟平城夫（明二二、三生、法學士、臺灣製糖會社員）同妻ヨシ（同三二、九生、新潟、島倉孝妹）及其子女あり母ちさ（同一三、一一生、青森、大島健作妹）弟旭（同三八、六生、經濟學士）は共に分家し姉明子（同一五、一二生）は滋賀縣人藤岡大英に妹壽尾（同三四、四生）は宮城縣人國分五郎に嫁せり（東京市外千駄ヶ谷町原宿三〇七）

參照＝藤岡大英嵜金井潤三嵜三好禎介の項

筧　文造

妻　マキ　大連㊟外土地㊟取締役、大連商業銀行㊟監査役、東京府士族

男　郎妹　明一七、五生、鹿兒島、迫田才次郎妹

男　太郎　明三六、六生、東京外語英語科出身、南滿洲鐵道會社員

婦　清子　明四三、一二生、長男太郎妻、福島、許斐信雄妹

女　志滿子　大四、七生

君は廣島縣士族福原陳興の二男にして明治六年十月を以て生れ先代勘太夫の養子となり同二十六年家督を相續す現時大連郊外土地會社取締役の外前記會社の重役たり（大連、光風臺二一九）

筧　元貞

妻　ヤキ　三菱銀行員東京府士族

母　田鶴　明一一、七生、岐阜、安田伊左衛門妹

君は東京府士族故大審院判事筧元忠の孫同錬司の甥にして明治三十四年一月を以て生れ大正十四年家督を相續す同十三年東京帝國大學法學部英法科を卒業し三菱銀行に入る纍に經濟事情視察の爲渡歐倫敦大學に學びし事あり學生時代野球選手として知らる家族は尙弟助之（明四二、八生、早大在學）妹多加子（大元、九生、府立第三高女出身）あり叔父源三郎（明七、一生）同妻うめ（同一一、一一生、愛知、士、渡邊耕治長女）は分家し叔父四郎（同九、三生）は東京府人久米祐吉の養子となり叔母たま（同一四、五生）は元奈良縣知事青木良雄に嫁せりA二五六三二（東京、四谷、荒木町二七**電四谷五二〇〇**）

參照＝筧錬司、安田伊左衛門嵜安田繁三郎の項

筧　錬司

從七位勳六等、陸軍步兵中尉、帝國聯合電球、利根川砂利㊟取締役、誠商會主、東京府在籍

妻　ケン　明一二、九生、埼玉、福島源三妹

男　元吉　明四三、一二生、青山學院高等科在學

女　古滿子　明三九、八生、麴町高女出身

女　利子　明四一、九生、府立第三高女出身

女　德子　大元、一〇生、女子學習院出身

君は東京府士族故大審院判事筧元忠の二男にして明治三年十一月を以て生れ大正十四年甥元貞方より分れて一家を創立す夙に獨逸協會學校を卒業し實業界に入り現時前記會社の重役たり纍に軍籍に在り日露戰役に從軍し陸軍步兵中尉に任ぜらる家族は尙五女久子（大六、五生）六女誠子（同七、一〇生）七女喜久子（同八、一二生）ありA一二〇〇B一二〇（東京市外代々幡町幡ヶ谷一三九九）

參照＝筧元貞の項

籠橋休兵衛

妻　延江　實業銀行、駿知鐵道各㊟取締役、陶磁器製造販賣業、岐阜縣在籍

母　きみ　明三四、一〇生、岐阜、市川欽次郎長女

男　潤二　明二、一一生、組父休兵衛長女

君は岐阜縣人先代休兵衛の長男にして明治二十七年二月を以て生れ大正十五年家督を相續し前名久治郎を改め襲名す陶磁器製造販賣業を營み傍ら前記銀行會社の重役たり家族は尙三女良子（大一三、八生）四女利江（同一四、一一生）五女弘子（昭五、三生）あり弟仁兵衛（明三三、七生）は岐阜縣人加藤辰藏の養子となり姉ソノ（同二二、一二生）は同縣人加藤完藏に妹かの（同三六、三生）は同夫留次郎（同八、一生）と共に分家し弟產右衛門（同二八、八生）も亦分家せり（岐阜、土岐、駿知町**電九**）

參照＝籠橋留次郎の項

籠橋留次郎

妻　むれ　岐阜縣參事會員、駿知鐵道㊟社長實業銀行㊟監査役、岐阜縣在籍

母　伯母　明一〇、五生、岐阜、籠橋休兵衛

婦　雪　明三四、九生、亡養子文右衛門妻岐阜、水野小一二女

君は岐阜縣人村瀨產右衛門の弟にして明治八年一月を以て生れ同縣人籠橋休兵衛の養子となり同三十八年分れて一家を創立す現時駿知鐵道會社長の外前記銀行の重役にして推されて岐阜縣參事會員たり家族は尙孫多加子（大一〇、一一生、亡養子文右衛門長女）同養子（同一二、九生、同二女）あり**A四三〇〇B七〇〇**（岐阜、土岐、駿知町**電一三**）

參照＝籠橋休兵衛の項

籠本　清吉

第一日吉屋、旅館業

妻　安清　大二、二生、大阪、柏木福介甥

君は大阪府人籠本千太郎の二男にして明治五年二月を以て生れ同二十五年分れて一家を創立す第一日吉屋と稱し旅館業を營む家族は尙四女つや子（大九、一二生）五女良子（同一三、三生）三男清隆（昭三、四生）あり（大阪、西成、西入舟町六九二**電茨二四五〇**）

笠井愛次郎

妻　むめの　勳五等、工學博士、特殊合金㊟社長、提携川電氣、琴川電力各㊟取締役、內外化學製品、日本寄產各㊟監査役、東京府在籍

男　勝男　明一九、九生

婦　ふみ　明二二、七生、長男勝男妻、愛知岸金三郎長女

男　保　明三四、八生

婦　節子　明三七、九生、二男保妻、神奈川稻井初司二女

孫　和　大四、八生、長男勝男長女

君は東京府人笠井大五郎の二男にして安政四年六月を以て生れ明治二十四年家督を相續す同十五年工部大學校土木學科を卒業し德島縣巖に出仕し南海四縣國道貫通の工事を擔任し功を奏す又海軍鎭守府を佐世保及吳に創設せるに當り擢でられて其工事に與る偶々九州鐵道會社に聘せられて創立百穀の事を處理し後日本土木會社に入り大阪支店長となる同二十五年朝鮮を經て西比利亞を視察して歸朝の後一種の染色法を發明し小石川に染工場を經營す同三十年鐵道學校を設立し鐵道從業者の育成に勉む同三十三年京釜鐵道會社技師長となり朝鮮に於ける京城釜山間の鐵道敷設を完成して大正四年工學博士の學位を受く現時前記各會社の重役たり家族は尙孫久（大六、一生、長男勝男二女）同誠（同七、六生、同長男）同達（同九、九生、同三女）同民（同一一、五生、同四女）同邦（昭二、八生、同五女）同安（大一五、二生、二男保長女）同惠（昭二、四生、同二女）あり養子ハナ（明一六、一生）は商學博士石川文吾に二女香（同二三、一〇生）は東京府士族立川龍に三女君子（同二七、五生）は藥學博士田原良純長男良郷に四女ハル（同三〇、六生）は工學博士齋藤恒三長男恒一に嫁せり（東京、小石川、茗荷谷町八**電小石川一九〇**）

參照＝石川文吾、齋藤恒一、田原良純、立川龍の項

笠井　卯八

神谷酒類醬油釀造㊟代表取締役
新潟縣在籍

妻　セツ　明一二、二生、新潟、小林清吉長女

男　坤一　明三六、九生

婦　ヨシ　明四〇、三生、長男坤一妻、新潟野本軍司妹

男　耕治　明四三、一生

女　ヨシノ　大四、二生

君は新潟縣人笠井繁太郎の長男にして明治七年十月を以て生れ同四十年家督を相續す現時神谷酒類醬油釀造會社代表取締役たり家族は尙七女キミエ（大九、六生）孫美砂子（昭三、一生、長男坤一長女）あり長女カウノ（明三〇、一二生）は新潟縣人高橋イシ二男權太郎に二女クミ（同三二、九生）は同縣人杵淵精五郎長男精平に四女ミヨシ（同四一、三生）は同縣人小森卯之七長男卯八郎に五女タイ（大元、九生）は同縣人野村政治に妹キヨ（明二〇、二生）は同縣人樺澤玉吉長男賢桂に嫁せり（新潟、三島、來迎寺村）

笠井建次郎

妻　チタマ　正八位、小野田町長、山口縣參事會員、小野田鐵道㊟專務取締役、山口縣士族

養子　完　明二〇、一一生、廣島、早速正夫

女　ハナ　明二五、四生、長女ハナ夫、山口、小林守三郎四男、遞信省電氣試驗所技師

君は山口縣士族笠井順八の長男にして工學博士笠井眞三の兄なり明治四年十一月を以て生れ大正七年家督を相續す大正十年以來小野田町長に就任小野田鐵道會社專務取締役にして昭和二年推されて山口縣會議員となり現に縣參事會員たり其他郡教育會長郡農會副會長等の公職に在り家族は尙孫順一（大九、七生、養子完長男）同佑（同一一、一〇生、同二男）同孜（同一四、九生

同三男）同公子（昭三、七生、同長女）あり姉梅子は山口縣士族内藤俊太郎に同貞子は同縣士族井上日置介に妹菊子は同縣士族文學士横山達三に同厚子は海軍少將原田正作に嫁せり（山口、厚狭、小野田町**電五〇**）

參照＝笠井眞三郎井上親雄の項

笠井健太郎

妻　義　正五位勳三等、朝鮮總督府檢事、京城地方法院檢事正、香川縣在籍

男　健　男　明三八、五生

男　清　明三九、五生

男　章　明四二、一〇生

女　美代子　大五、三生

君は香川縣士族宮武秀三郎の二男にして明治十年二月を以て生れ同二十六年先代春の養子となり家督を相續す同三十七年京都帝國大學法科大學佛法科を卒業し司法官試補となり次で判事に任じ福島熊谷東京各裁判所判事に歴補し大正二年檢事に轉じ更に朝鮮總督府檢事兼同事務官京城覆審法院高等法院檢事を經て昭和四年京城地方法院檢事正に任ぜられ今日に至る（京城、西小門町檢事正官舍）

笠井作造

父　清五郎　日本興業㈱專務取締役、國際興業㈱常務取締役、帝國木材、昭和林產鑛業各㈱取締役、群馬縣在籍

妻　もと　安政二、三生、現戸主

姉　一七、一生、東京、石田嘉一郎

君は群馬縣人笠井清五郎の長男にして明治十四年十一月を以て生る同三十九年明治法律學校を卒業し現時日本興業會社專務取締役たる外前記諸會社の重役たり養り家族は尙妹芳枝（明四四、二生）養妹登子（同四一、九生、東京、鈴木坤一姉）あり妹ヘン（同一七、一生）は群馬縣人笠井半十郎長男藤十郎に同セン（同二二、九生）は同縣人櫻井公平に嫁し弟傑（同三三、一二生）は分家せり（東京、小石川、大塚坂下町四〇**電大塚五四一**）

笠井準司

妻　きく　勳七等功七級、陸軍歩兵曹長、笠井商會㈱代表取締役、笠井商業㈱專務取締役、貿易商、兵庫縣在籍　明二二、一〇生、岐阜、村井半七六女

男　英俊　明四三、五生

男　通　明四四、一二生

君は岐阜縣人笠井眞澄の弟にして明治十三年十二月を以て生れ大正八年分れて一家を創立す歐文正鵠學館早稻田大學等に學ぶ明治三十七年日露戰役に從軍し歩兵曹長に任ぜられ功七級金鵄勳章を賜はる同三十九年シーメンス・シュッケルトと共同して合資會社笠井商會を創設トル・ヘルマントと共同して合資會社に入り後同社重役ヴイクし之が代表社員として經營に任じ現に同商會代表取締役にして貿易業に從事し兼ねて前記會社の重役たり明治四十三年以來前後二回歐米に渡航す家族は尙二女仲子（大一三、三生）あり（兵庫、武庫、住吉村山田一六四五ノ一**電御影六一〇**）

笠井眞三

妻　シヅ　工學博士、小野田セメント製造、小野田鐵道各㈱取締役

男　康一　明一三、九生、山口、士、原保太郎二女

婦　駿子　明三五、一二生

君は山口縣士族笠井順人の二男にして同建次郎の弟なり明治六年十月を以て生れ先代勘右衛門の養子となり同十七年家督を相續す現時小野田セメント會社取締役兼同事務官京城覆審法院高等法院檢事を經て昭和四年京城地方法院檢事正に任ぜられ今日に至る（京城、西小門町檢事正官舍）

笠井作造

父　清五郎　日本興業㈱專務取締役、國際興業㈱常務取締役、帝國木材、昭和林產鑛業各㈱取締役、群馬縣在籍

妻　もと　安政二、三生、現戸主

姉　一七、一生、東京、石田嘉一郎

君は群馬縣人笠井清五郎の長男にして明治十四年十一月を以て生る同三十九年明治法律學校を卒業し現時日本興業會社專務取締役たる外前記諸會社の重役たり養り家族は尙妹芳枝（明四四、二生）養妹登子（同四一、九生、東京、鈴木坤一姉）あり妹ヘン（同一七、一生）は群馬縣人笠井半十郎長男藤十郎に同セン（同二二、九生）は同縣人櫻井公平に嫁し弟傑（同三三、一二生）は分家せり（東京、小石川、大塚坂下町四〇**電大塚五四一**）

笠井準司

勳七等功七級、陸軍歩兵曹長、笠井商會㈱代表取締役、笠井商業㈱專務取締役、貿易商、兵庫縣在籍　明二二、一〇生、岐阜、村井半七六女

笠井良介

沖ノ山炭礦㈱取締役

山口縣在籍

妻　ユリ　明一一、二生、山口、藤本佳藏二女

養子　久一　明三〇、九生、山口、田代鉾一弟

婦　花　明一八、一一生、茨城、士、石川海道、士、中谷虎雄三女、北

君は山口縣人笠井市右衛門の長男にして明治八年四月を以て生れ先代勘右衛門の養子となり同十七年家督を相續す現時沖ノ山炭礦會社取締役たり家族は尙孫郁子（大一四、八生、養子久一長女）同泰子（昭三、一〇生、同二女）あり（山口、厚狭、藤山村）

笠井眞三

妻　シヅ　工學博士、小野田セメント製造、小野田鐵道各㈱取締役

男　康一　明一三、九生、山口、士、原保太郎二女

婦　駿子　明三五、一二生

君は山口縣士族笠井順人の二男にして同建次郎の弟なり明治六年十月を以て生れ先代勘右衛門の養子となり同十七年家督を相續す現時小野田セメント會社取締役兼同事務官京城覆審法院高等法院檢事を經て昭和四年京城地方法院檢事正に任ぜられ今日に至る（京城、西小門町檢事正官舍）

笠井作造

父　清五郎　日本興業㈱專務取締役、國際興業㈱常務取締役、帝國木材、昭和林產鑛業各㈱取締役、群馬縣在籍

妻　もと　安政二、三生、現戸主

姉　一七、一生、東京、石田嘉一郎

君は群馬縣人笠井清五郎の長男にして明治十四年十一月を以て生る同三十九年明治法律學校を卒業し現時日本興業會社專務取締役たる外前記諸會社の重役たり養り家族は尙妹芳枝（明四四、二生）養妹登子（同四一、九生、東京、鈴木坤一姉）あり妹ヘン（同一七、一生）は群馬縣人笠井半十郎長男藤十郎に同セン（同二二、九生）は同縣人櫻井公平に嫁し弟傑（同三三、一二生）は分家せり（東京、小石川、大塚坂下町四〇**電大塚五四一**）

笠井準司

勳七等功七級、陸軍歩兵曹長、笠井商會㈱代表取締役、笠井商業㈱專務取締役、貿易商、兵庫縣在籍　明二二、一〇生、岐阜、村井半七六女

笠井良介

沖ノ山炭礦㈱取締役

山口縣在籍

妻　ユリ　明一一、二生、山口、藤本佳藏二女

養子　久一　明三〇、九生、山口、田代鉾一弟

婦　花　明一八、一一生、茨城、士、石川海道、士、中谷虎雄三女、北

君は山口縣人笠井市右衛門の長男にして明治八年四月を以て生れ先代勘右衛門の養子となり同十七年家督を相續す現時沖ノ山炭礦會社取締役たり家族は尙孫郁子（大一四、八生、養子久一長女）同泰子（昭三、一〇生、同二女）あり（山口、厚狭、小野田町）

參照＝井上親雄、稻垣長次郎、笠井建次郎の項

笠井眞三

工學博士、小野田セメント製造、小野田鐵道各㈱取締役

山口縣士族

妻　シヅ　明一三、九生、山口、士、原保太郎二女

男　康一　明三五、一二生

婦　駿子　稻垣長次郎長女、女子學習院出身

君は山口縣士族笠井順人の二男にして同建次郎の弟なり明治六年十月を以て生れ先代勘右衛門の養子となり同十七年家督を相續す現時小野田セメント會社取締役兼同事務官京城覆審法院高等法院檢事を經て昭和四年京城地方法院檢事正に任ぜられ今日に至る（京城、西小門町檢事正官舍）

笠井健太郎

妻　義　正五位勳三等、朝鮮總督府檢事、京城地方法院檢事正、香川縣在籍

男　健　男　明三八、五生

男　清　明三九、五生

男　章　明四二、一〇生

女　美代子　大五、三生

君は香川縣士族宮武秀三郎の二男にして明治十年二月を以て生れ同二十六年先代春の養子となり家督を相續す同三十七年京都帝國大學法科大學佛法科を卒業し司法官試補となり次で判事に任じ福島熊谷東京各裁判所判事に歴補し大正二年檢事に轉じ更に朝鮮總督府檢事兼同事務官京城覆審法院高等法院檢事を經て昭和四年京城地方法院檢事正に任ぜられ今日に至る（京城、西小門町檢事正官舍）

笠井眞三

工學博士、小野田セメント製造、小野田鐵道各㈱取締役

山口縣士族

妻　シヅ　明一三、九生、山口、士、原保太郎二女

男　康一　明三五、一二生

婦　駿子　稻垣長次郎長女、女子學習院出身

君は山口縣士族笠井順人の二男にして同建次郎の弟なり明治六年十月を以て生れ先代勘右衛門の養子となり同十七年家督を相續す現時小野田セメント會社取締役兼同事務官京城覆審法院高等法院檢事を經て昭和四年京城地方法院檢事正に任ぜられ今日に至る（京城、西小門町檢事正官舍）

笠井作造

父　清五郎　日本興業㈱專務取締役、國際興業㈱常務取締役、帝國木材、昭和林產鑛業各㈱取締役、群馬縣在籍

妻　もと　安政二、三生、現戸主

姉　一七、一生、東京、石田嘉一郎

君は群馬縣人笠井清五郎の長男にして明治十四年十一月を以て生る同三十九年明治法律學校を卒業し現時日本興業會社專務取締役たる外前記諸會社の重役たり養り家族は尙妹芳枝（明四四、二生）養妹登子（同四一、九生、東京、鈴木坤一姉）あり妹ヘン（同一七、一生）は群馬縣人笠井半十郎長男藤十郎に同セン（同二二、九生）は同縣人櫻井公平に嫁し弟傑（同三三、一二生）は分家せり（東京、小石川、大塚坂下町四〇**電大塚五四一**）

笠井準司

勳七等功七級、陸軍歩兵曹長、笠井商會㈱代表取締役、笠井商業㈱專務取締役、貿易商、兵庫縣在籍　明二二、一〇生、岐阜、村井半七六女

笠井良介

沖ノ山炭礦㈱取締役

山口縣在籍

妻　ユリ　明一一、二生、山口、藤本佳藏二女

養子　久一　明三〇、九生、山口、田代鉾一弟

婦　花　明一八、一一生、茨城、士、石川海道、士、中谷虎雄三女、北

君は山口縣人笠井市右衛門の長男にして明治八年四月を以て生れ先代勘右衛門の養子となり同十七年家督を相續す現時沖ノ山炭礦會社取締役たり家族は尙孫郁子（大一四、八生、養子久一長女）同泰子（昭三、一〇生、同二女）あり（山口、厚狭、藤山村

笠原藤七　村松銀行、片倉越後製絲各種監査役、新潟縣在籍

妻　フヨエ　明四〇、三生、新潟、本多英二妹
男　信一郎　昭二、一生

君は新潟縣人實業家先代藤七の長男にして明治三十六年六月を以て生れ大正十四年家督を相續し前名を改め襲名す昭和二年慶應義塾大學經濟學部を卒業し現時前記銀行會社の重役たり家族は尙二男健二郎（昭四、六生）弟潤二郎（明四一、一生、農學士）妹梅（大二、三生、實踐女學校專門部在學）從弟辰夫（同三、一生、叔父拓平長男）あり妹須磨（同三八、一一生）は新潟縣人小黑常次郎弟守造に叔母シン（同一八、一生）は同縣人佐藤ミツ襲子金三郎に嫁せり（新潟、中蒲原、村松町電一七）

參照＝小黑常次郎の項

笠原敏郎　正四位勳三等、工學博士、日本大學教授、東京府在籍

妻　幸　明二八、五生、東京、田畑治左衞門三女
男　直樹　大三、四生

君は新潟縣人笠原永昌の四男にして明治十五年六月を以て生れ同四十四年分れて一家を創立す同四十年東京帝國大學工科大學建築學科を卒業し同四十三年陸軍技師となり後內務技師兼營繕廳技師に轉じ大正九年歐米各國に出張を命ぜられ歸朝後內務省都市計畫局第二技術課長帝都復興院技師復興局建築部長等に歷任し後官を辭し現時日本大學工學部教授の職に在り義に工學博士の學位を受く（東京、牛込、原町二ノ五六電牛込六〇〇七）

笠原寛美　川崎亞鉛鍍金種取締役兼支配人、鋼管種取締役社長、日本群馬縣士族

妻　米　明一五、一〇生、東京、伊庭彰一姉
男　新太郎　明四五、七生
　　京子　大五、一生

君は群馬縣士族笠原鉛太郎の長男にして同厚吉の兄なり明治八年八月を以て生れ後家督を相續す同三十五年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し現時前揭各會社の重役たり家族は尙二男朝夫（大四、一生）二女幸枝（同一二、一生）あり（東京、小石川、鷲籠町二二三電大塚四九二）

參照＝笠原厚吉の項

笠原房吉　長野縣多額納稅者、岡谷乾繭委託種取締役、笠原組、製絲業、長野縣在籍

男　範夫　明四一、一〇生
男　良平　明四四、七生
女　美惠　大二、一〇生

君は長野縣人先代房吉の長男にして同善吉の弟なり明治十五年七月を以て生れ大正三年家督を相續し前名芳江を改め襲名す笠原組と稱し製絲業を營み傍ら前記會社の重役にして直接國稅二萬六千八百六十八圓を納め長野縣多額納稅者たり家族は尙四男泰治（大五、五生）五男元雄（同七、一一生）六男喜六（同一〇、九生）あり弟信平（明四〇、三生）は分家せり（長野、諏訪、平野村）

參照＝笠原善吉の項

笠原道夫　正五位、醫學博士、大阪帝國大學教授、醫學部勤務、笠原小兒保健研究所長、京都府在籍

妻　光　明二六、二生、大阪、小川平助二女

君は大阪府人笠原繼之助の五男にして明治十六年四月を以て生れ大正八年分れて一家を創立す明治四十年京都帝國大學醫科大學を卒業し後大阪醫科大學教授となり昭和六年大阪帝國大學教授に任ぜられ醫學部に勤務し小兒科學講座を擔任傍ら笠原小兒保健研究所長たり大正五年醫學博士の學位を授けらるA一八七八（京都、中京、高倉二條上ル電上五二二）

參照＝小川平助の項

笠原由太夫　從五位勳五等、北海道廳技師、拓殖部勤務、福井縣在籍

妻　きくの　明二六、一〇生、宮城、助川軍平三女
男　良男　大四、八生、札幌高女出身
女　みつ　大二、五生、札幌高女出身

君は福井縣人笠原善左衞門の三男にして明治十五年五月を以て生れ同四十三年家督を相續す同四十年京都帝國大學理工科大學土木學科を卒業し鐵道廳技手となり鐵道局技師に進み敦賀保線事務所長となる大正十二年北海道廳技師に轉じ現時拓殖部林務課に勤務し森林鐵道の建設に從事す遞勳及觀世流謠曲に趣味あり家族は尙二男俊男（大六、六生）三男英男（同九、七生）四男修（同一二、一生）五男勇（昭三、三生）あり（札幌、北海道廳拓殖部內）

笠間杲雄　正五位勳四等、法學博士、特命全權公使、ペルシア國駐箚

妻　ふゆ　明三六、二生、京都、平瀨信太郎妹
男　雄　大二、一生、京都、小原キシ
　　嘉雄　明四一、一生、生母、京都、小原キシ
　　英子　同三、一生、生母、京都、小原キシ
　　院　同三、一生、生母、京都、小原キシ
女　文子　明四二、八生、京都府立第一高女出身
　　庶子　幸子　大二、一生、生母、京都、小原キシ、京都府立第一高女出身

君は富山縣人野中武雄の三男にして明治十八年十一月を以て生れ同二十一年石川縣人祖母笠間いとの後を承け家督を相續す同四十二年東京帝國大學法科大學政治科を卒業文官高等試驗に合格し鐵道院參事に任ぜられ米國に駐在す大正七年外務省參事官兼外務事務官として巴里講和會議に參加し同十二年在羅馬尼亞公使館一等書記官に任ぜられ伊國に在勤し土耳古に出張し帝國政府外交代表者として駐在す同十三年在羅馬尼亞公使館一等書記官となり同十五年大使館參事官に任ぜられ佛國在勤を命ぜらる昭和二年國際勞働理事會に於ける帝國政府代表を命ぜられ爾來勞働總會に於ける政府代表たり同四年八月特命全權公使に任じペルシヤ國駐箚仰付けらる同五年法學博士の學位を受く英佛文の著書並にドストイエフスキ書簡集の著譯あり（在ペルシヤ國公使館內）

風戸元愛　川崎第百銀行種千葉支店長、千葉縣在籍

父　元蔵　慶應元、九生、千葉、元風平什二男、現戸主
母　さと　明元、四生、風戸富五郎妹
妻　やま　明三〇、五生、岩手、士、山中秋孫

君は千葉縣人風戸元蔵の長男にして明治二十一年四月を以て生る大正二年東京高等商業學校を卒業し現時川崎第百銀行千葉支店長たり家族は尙ほ弟準三郎（明三一、七生）同妻ナツ（同三九、六生、千葉、渡邊六郎五女）あり妹兄津（同二五、九生）は千葉縣人宮崎英吉に嫁せり（千葉市新町二五八七電一〇六七）

風早公武　從五位、子爵、舊公卿家

當家は權大納言姉小路公景の男實種の後なり實種新に一家を立て風早と稱す夫より七代を經て公紀に至り明治十七年子爵を授けられ宮中祇候氷川神社日枝神社石上神社權原神社各宮司等に補せらる君其後を承く君實は伯爵三條西實義の四男にして明治三十九年九月を以

て生れ大正四年先代叔父實恭の養子となり同八年襲爵仰付けらる家族は伯母いと（慶應元、一〇生）あり實父實義（慶應二、一一生）は先代實恭の兄にして出でゝ伯爵三條西家を繼げり（東京市外高田町高田三二〇、三條西伯爵邸）

參照＝伯爵三條西實義の項

風早實馬　從五位勳五等、晉州高等普通學校長、岡山縣在籍

父　壯治　安政元、一〇生、現戸主
妻　千萬　明一四、一生、岡山、小谷美津孫
養子　八十二　明三二、八生、父壯治二男

君は岡山縣人風早壯治の長男にして明治十年十一月を以て生る同三十八年東京高等師範學校本科英語部を卒業し大阪府立市岡中學校京都府立第一中學校咸興高等普通學校各敎諭朝鮮公立高等普通學校長兼敎諭公州公立高等普通學校長兼忠淸南道師範學校長朝鮮公立高等普通學校長大邱公立高等普通學校長等に歷任し昭和四年晉州高等普通學校長に轉じ今日に至る家族は尙弟年（明四〇、三生、生母、岡山、山川美喜藏）同妻ハマヨ（同四〇、一二生、愛媛、濱田醇一郎妹）及其一子妹萬龜子（同四〇、七生、生母、岡山、山川美喜藏）あり同道（同一五、三生）は岡山縣人中村熊太郎長男豐太郎に嫁し弟徹（同三八、六生、生母、岡山、山川美喜藏）は同縣人白神町子の入夫となれり（朝鮮、慶尙南道、晉州高等普通學校內）

風間吉郎右衞門　風間銀行、羽前織物各種取締役、山形縣士族

妻　千枝　明三、五生、山形、五十嵐傳之丞長女
養子　繁吉　明二六、三生、山形、鐙谷惣太郎四男
　　春江　明三〇、二生、養子繁吉妻、山形兼子孫一郎三女

君は山形縣士族風間與三郎の長男にして元治元年一月を以て生れ明治三十六年家督を相續す現時前記會社の重役たり家族は尙孫喜久子（大七、一一生、養子繁吉長女）同久子（同一〇、六生、同二女）同吉子（同一四、八生、同三女）あり（鶴岡、馬場町）

參照＝兼子孫一郎家山田玄太郎の項

風間善九郎　福島縣多額納稅者、金融業、福島縣在籍

母　ミネ　明一四、一二生、島、齋藤佐吉三女

君は福島縣人風間善藏の二男にして明治四十二年二月を以て生れ昭和四年祖父善四郎の後を承け家督を相續し前名善之助を改め襲名す金融業を營み直接國稅一萬二千五百七十九圓を納め縣下の多額納稅者たり家族は尙姉カツ（明三二、九生、祖父善九郎養子）同夫春夫（同二九、九生、祖父善九郎養子、福島、宮原善吉弟）姉ミツ（同四〇、一生、祖父善九郎養子）あり（福島、耶麻、喜多方町電三五二）

風間武三郎　三菱商事種紐育支店長、山梨縣在籍

妻　カツ　明三七、八生、長崎、福田雅太郎二女
男　新也　昭三、五生

君は山梨縣人風間金八の弟にして明治二十三年六月を以て生れ先代ちよの養子となり大正十五年家督を相續す同二年東京高等商業學校を卒業し直ちに三菱合資會社に入り同十五年三菱商事會社に轉じ同十五年紐育支店長となり今日に至る（紐育、ブロードウエー、三菱商事會社支店）

參照＝福田雅太郎家高木逸磨の項

風間八左衞門　貴族院議員、京都府多額納稅者、締役、日本銀行種、京湖汽船種、活動寫眞、京都電氣軌道、太秦撮影所、大分セメント、湖東汽船、津自動車、京都名所遊覽乘合自動車、國東鐵道各種取締役、日本共立生命保險種相談役、鍋屋、醬油並油商、京都府在籍

妻　さく　明一〇、二生、京都、中路重之姉
男　嘉雄　明三三、二生、慶大理財科出身
　　英子　同三九、七生、長男嘉雄妻、貴族院議員津村重舍二女
　　文子　明四二、八生、京都府立第一高女出身
　　庶子　幸子　大二、一生、生母、京都、小原キシ、京都府立第一高女出身

君は代々八左衞門を襲名し鍋屋と稱して醬油商を營み既に十數代を經過せる京都府下の豪家なり君は先代八左衞門の長男にして明治十二年六月を以て生れ同四十二年家督を相續し前名嘉一を改む夙に國學院に漢學を學び實業界に入る大正九年推されて衆議院議員に當選し又廣島瓦斯電軌會社專務取締役に就任す現時果太銀行頭取大湖汽船會社長の外前記銀行會社の眞役にして直接國稅八千百九十二圓を納め京都府多額納稅者として貴族院議員に互選せらる家族は尙庶子登貴子（大一四、一一生、生母、京都、小原キシ）孫博子（昭元、一二生、長男嘉雄長女）亡弟菊一妻滿（明二五、五生、京都、木村幾太郎妹）及其一子あり長女英枝（同三〇、五生、京都府立第一高女出身）は宮城縣人工學士佐藤雅に二女照子（同三八、七生、出身校同上）は廣島縣人向井利一に庶子佳子（同四〇、六生、生母、京都、小原キシ）は京都府人吉川幸次郎二男大二郎に嫁し同敏秀（大九、三生）は其生母京都府人小原キシの養子となれり（京都、葛野、桂村電八）

參照＝津村重舍、中路重之家西澤善七家野村岩吉家日比谷一郎の項

風見章　衆議院議員（茨城縣選出）、著述業、茨城縣在籍

養祖母　おい　嘉永六、七生、風見彥兵衞長女
養父　吉雄　明四、五生、現戸主
養母　てい　明七、一一生、茨城、小貫利助長女
妻　よしの　明二六、七生、茨城、木村喜市五女、麴町高女出身
男　博太郎　大五、三生

君は茨城縣人風見力三郎の三男にして明治十九年二月を以て生れ同四十五年兄吉雄の養子となる大正十二年早稻田大學政治經濟學部を卒業し著述家にして推されて衆議院議員に當選し現時民政黨所屬たり義に大阪朝日新聞記者信濃毎日新聞主筆たりし事あり家族は尙二男精二（大九、一生）三男三郎（同一五、七生）長女トシ子（昭五、八生）あり（東京市外西巢鴨町池袋五〇電大塚一五八八）

參照＝家兒矢野昌平の項

風見謙次郎　從四位勳四等、東北帝國大學學生主事、學生課長、京都府在籍

妻　登喜　明二三、八生、島根、森本昇妹
男　哲夫　昭二、八生
女　登志　大三、三生
　　千代　大五、一生

君は滋賀縣人風見保太郎の二男にして明治十三年六月

を以て生れ同三十八年兄讓太郎方より分れて一家を創立す同年東京帝國大學文科大學哲學科を卒業し大學院に入り新潟醫學校教授同生徒監岡山醫學專門學校教授同生徒監等に歷任し大正十一年東北帝國大學助教授に任ぜられ現時同大學學生主事學生課長たり家族は尙三女操(大六、七生)四女秋子(同一〇、九生)五女昌(同一二、二生)六女雪子(同一四、三生)あり(仙臺、同心町通二五電二〇七八)

餝谷與右衛門

妻　きん
男　清　明三六、一生

君は石川縣人餝谷與左衛門の長男にして明治元年三月を以て生れ同十六年家督を相續す醸造業を營み傍ら前記會社の重役にして石川縣會議員金澤市會議員等に推さる嘗に石川縣參事會員たりし事ありA四五八(金澤、上石引町六〇電五〇一)

樫田忠美

從五位勳五等、檢事、廣島地方裁判所檢事、東京府士族
父　三郎　元治元、五生、現戸主、明治大學法律科出身
母　シナ　明一九、九生、東京、竹中峯次郎妹
妻　しげ　明二四、六生、山梨、小宮山清三從妹、英和高女出身
男　忠敬　明四五、四生、廣島高校文科乙在學
女　たけ　大二、一二生、廣島縣立廣島高女出身
女　れい　大四、一二生、廣島縣立廣島高女在學

君は東京府士族樫田三郎の長男にして明治十九年六月を以て生る同四十四年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し大正二年檢事に任じ爾來浦和地方裁判所千葉地方豫同區豫北條區長野地方豫同區岩村田區東京區豫同補し昭和二年現職廣島地方豫同區各裁判所檢事に歷任し昭和二年現職廣島地方豫裁判所檢事に轉ず「刑法實論」「改正刑事訴訟法」の著書あり幾子ヵメ(明四二、二生、佐賀、山口太郎太妹)は大分縣人梶原大藏に嫁せり(廣島市地方裁判所檢事局)

參照＝竹中峯次郎の項

樫田茂一

從五位、工業試驗所技師、大阪工業試驗所第一部長、兵庫縣在籍
母　さだ　安政二、七生、兵庫、稻山伊平妹
妻　きよし　明三一、六生、兵庫、白川利平孫
男　恒一　大七、一生

君は兵庫縣人樫田佐平の二男にして明治十七年二月を以て生る同四十三年東京帝國大學理科大學化學科を卒業し大學院に入る工業試驗所囑託を經て大正七年同技師に任じ現時大阪工業試驗所第一部長たり家族は尙長女久(大八、一〇生)二男平次(同一〇、一〇生)二女民子(昭六、一生)兄由平(明一三、三生、現戸主)同妻みつ(同二三、七生、兵庫、白川利平三女)及其子女あり(大阪、豐能、箕面村)

樫田豐

神戸取引所取引員、兵庫縣士族
繼母　たき　明三、一生、石川、水巻雄平長女
妻　はる　明二二、三生、石川、大野保平長女
男　恭一郎　大一四、七生
女　一　大七、一生

君は兵庫縣士族樫田庄治郎の長男にして明治十四年十月を以て生れ大正十五年家督を相續す神戸取引所米穀證券覆絲部取引員たり(神戸、楠町七ノ三ノ一電元町九五五)

樫野恒太郎

德島縣會議員、樫野商店㈱社長、石灰製造業、兵庫縣在籍
妻　サタ　養妹
孫　誠助　大二、五生、亡長男進長男
男　赳夫　明三一、八生、樫野商店㈱常務取締役
孫　フサ　明二四、八生、四男赳夫妻、德島土井新太郎二女
男　喜久男　明三九、一生
孫　タケ子　明四一、七生、六男喜久男妻、德島、新居アヤ子叔母
孫　宣　明四四、一生、亡長男進長女

君は兵庫縣人樫野藤藏の長男にして元治元年八月を以て生れ大正二年家督を相續す石灰セメント製造販賣業を營み後營業を株式組織に改め現に樫野商店社長にして德島縣會議員に推さる家族は尙孫節二(大九、二生、四男赳夫長男)同やす(同一二、一一生、同長女)あり明虎之助(明三一、五生、弟與四郎一男、樫野商店常務取締役)は分家し五女たみ(同三四、七生)は前記虎之助に嫁せり(神戸、葺合小野柄通り五ノ一二電長葺合六四一)

梶莊右衛門

養母　サク　慶應元、二生、東京、三木久兵衛長女
妻　イト　明一八、一一生、神奈川、小菅良三長女
男　洋之助　明四〇、二生
男　鈴次郎　明四一、七生
女　清子　明四三、三生
男　鍋三郎　明四四、一〇生
女　淳子　大二、三生
女　高　大四、四生

君は神奈川縣人梶豐太郎の長男にして明治十六年一月を以て生れ先代莊右衛門の養子となり大正十二年家督を相續す前名正太郎を改め襲名す地主にして梶莊本店と稱し麻糸魚網商み營み直接國稅二千八百七十八圓を納め神奈川縣多額納稅者たり家族は尙四女千枝子(大七、一一生)四男博行(同九、八生)五男吉博(同一一、一一生)六男益雄(同一四、一生)五女時子(同一五、一一生)あり(神奈川、高座、藤澤町電長六二)

梶傳次郎

千葉縣多額納稅者、吳服商
男　龜吉　明七、一一生
孫　壽美　明四一、三生、二男龜吉四女
孫　良一　明四二、一〇生、二男龜吉長男
孫　芳枝　大二、七生、二男龜吉五女

君は千葉縣人梶善助の二男にして嘉永五年十月を以て生れ後分れて一家を創立す夙に吳服商を營み漸次發展して同地屈指の店舗となる現時縣下の多額納稅者に列し直接國稅二千八十七圓を納む又曩に木更津銀行取締役に擧げらる四男賢吉(明一六、二生)は同妻しづ(同二四、九生、千葉、石川善之助姉)と共に孫千代(同三五、一生、二男龜吉長女、山脇高女出身)は同夫友一郎(同三四、一二生、千葉、永野德祐弟)と共に各分家し三男治三郎(同一〇、三生)も亦分家し孫榮(同三六、三生、二男龜吉二女、山脇高女出身)は宮城縣人高野守に同喜代(同三八、七生、同三女、出身校同上)は千葉縣人井上憲政に嫁せり(千葉、君津、木更津町)

梶平治

メトロ電球㈱代表取締役
東京府在籍
妻　琴　明二六、五生、東京、阪田貞一五女

君は靜岡縣人梶與參の三男にして明治十年一月を以て生れ同三十五年兄禎方より分れて一家を創立す同三十四年京都帝國大學電氣工學科を卒業し現時メトロ電球會社代表取締役たり長女多美(明三七、二生)は山口縣人齋藤立實に嫁せり(東京市外西巢鴨町堀ノ内一〇〇二電大塚二八五一)

參照＝冰瀨戸文雄の項

梶正雄

從五位勳五等、地方小作官、大阪府內務部勤務、神奈川縣在籍
父　寅之助　安政五、四生、現戸主
母　マシ　文久三、九生、神奈川、相原李左衛門長女

君は神奈川縣人梶寅之助の長男にして明治十五年六月を以て生る同四十一年東北帝國大學農科大學を卒業し靜岡縣農會技師島根縣同靜岡各縣技師等に歷任し大正十三年地方小作官となり現時大阪府內務部勤務たり家族は尙弟貞三(明一九、八生)同妻琴子(同二七、一〇生、新潟、伊藤一隆四女)及其子女弟喜八郎(同三七、一一生)甥和雄(大一一、一生、弟博長男)弟正作(明一七、六生)同庫三(同二一、九生)同靜夫(同三五、四生)叔父巳之吉(同二、九生)は各分家し弟博(同二八、四生)同妻シマ(同三〇、一一生、神奈川、相原茂妹)も亦其一女を伴ひ分家し妹フデ(同二三、一二生)は神奈川縣人二宮貞節長男孝に同フジ(同二六、一生)は長野縣人菅沼活也に嫁し叔父卯之助(慶應三、四生)は長縣人細屋金七の養子となれり(大阪、東成、今市町九六五電東三一四〇)

參照＝冰山本惣治の項

梶井剛

從五位勳五等、遞信技師、工務局兼遞信官吏練習所勤務、東京府在籍
妻　ディ　明二六、一〇生、東京、荒木忠郎妹
男　健一　大五、三生

君は東京府人梶井恒の三男にして明治二十年七月を以て生れ大正十二年兄貞吉方より分れて一家を創立す明治四十五年東京帝國大學工科大學電氣工學科を卒業し同年遞信技師に任ず爾來遞信局工務課勤務を經て大正三年遞信局工務局兼遞信官吏練習所勤務たり家族は尙二女壽子(大一〇、八生)二男伸一(同一四、三生)三男俊一(昭三、一生)あり(東京市外入新井町新井宿二八一一電大森一二三二)

參照＝梶井貞吉の項

梶井貞吉

從五位勳四等、陸軍一等軍醫正、陸軍省醫務局衛生課長、東京府士族
母　ちづ　安政五、一〇生、石川、士、竹內源三郎長女
妻　サヨ　明二六、五生、山口、飯田精太郎妹直
男　一　大五、一〇生

君は東京府士族梶井恒の二男同剛の兄にして明治十八年七月を以て生れ大正十二年家督を相續す明治四十四年東京帝國大學醫科大學を卒業し陸軍二等軍醫に任じ昭和二年同一等軍醫正に累進す其間龍山衛戍病院附等に歷補し昭和三年現職に補せられ今日に至る家族は尙長女敏子(大八、五生)二女綾(同一一、五生)三女澄子(同一四、八生)二男正(昭四、七生、中村みき妹)及其子女の外弟篤(同三二、七生、千葉、中村みき妹)二、七生)妹花(同四〇、三生)あり妹良(同二四、一一生)は男爵山川健次郎長男洵に嫁せり(東京、牛込、矢來町三七電牛込一八八〇)

參照＝梶井剛、飯田精太郎、山川洵の項

梶浦鎌次郎

住友肥料製造所㈱取締役、愛媛縣在籍
妻　スズ　明一六、九生、島根、高橋六一二女
男　顯三　明三二、九生
嬰　思貴子　明四一、九生、二男顯三妻、東京山崎久太郎孫
男　發四郎　明三五、五生
男　省吾　明四〇、一〇生
女　淑子　明四三、一二生

君は愛媛縣人梶浦清藏の二男にして明治元年一月を以て生れ同四十四年明亮一方より分れて一家を創立す同二十二年東京高等工業學校應用化學科を卒業し住友合資會社肥料製造所支配人を經て現時前記會社の重役たり家族は尙六男雄雄(大二、一二生)四女貞子(同九、一〇生)あり長女操(明三八、一生)は東京府人富永隼人に嫁せり(愛媛、新居、西條町)

參照＝山崎久太郎冰瀨永佐和吉の項

梶尾嘉十郎

三河鐵道㈱取締役、蒲郡臨港線㈱監査役、靜岡縣在籍
妻　てる　明九、五生、靜岡、月出房穗妹
男　是彥　大五、一生
女　匂子　明四四、三生
女　春　大二、三生

君は靜岡縣人梶尾傳左衛門の長男にして慶應三年十月を以て生れ明治二十九年家督を相續す現時三河鐵道會社取締役の外前記會社の重役たり長女幸倉(明三六、八生)は新潟縣人小宮昇次に妹たつ(同一三、四生)は靜岡縣人月出茂雄に嫁せり(靜岡、田方、函南村)

梶川清吉

地主、東京府在籍
母　ヨシエ　明一九、一生、京都、士、飯田吉宣姉

君は東京府人梶川市五郎の長男にして明治三十九年四月を以て生れ昭和三年家督を相續す地主たり家族は尙妹晨(明四三、七生)弟弘(大二、三生)妹得(同五、五生)あり(神奈川、鎌倉、鎌倉町一一六五)

梶田象男

安田銀行㈱釜山支店長、岡山縣在籍
妻　清子　明二九、二生、岡山、青江大三郎長女
男　晳男　大四、一一生

君は岡山縣人梶田壽平の四男にして明治二十四年七月を以て生れ大正六年家督を相續す夙に笠岡商業學校を卒業し明治四十二年安田銀行に入り巢進して同行高松支店長を經て現時釜山支店長たり家族は尙三男剛吉(大一三、四生)四男正周(同一五、九生)五男正剛(昭三、九生)あり(釜山、本町安田銀行支店內)

梶田昌太郎

蘆品銀行㈱專務取締役、蘆品製米㈱取締役、德島縣在籍
妻　シカ　明四九、一二生、德島、土屋市右衛門三女
男　乾吉　明二五、一生
婿　カチル　明二九、二生、二男乾吉妻、德島桑田茂四郎二女

男　和夫　明四二、九生
女　八重子　大元、一一生

君は德島縣人梶田與一郎の長男にして文久三年十二月を以て生れ明治三十七年家督を相續す現時蘆品銀行專務取締役にして前記會社の重役たり家族は尙ほ孫一良（大七、一一生、二男乾吉長男）同有三（同一一、六生、同二男）同モト子（同一四、八生、同四女）弟隆次（明三一一生）同妻フジ（同九、六生、廣島、松本吉太郎長女）及其三子あり長女サダエ（同二〇、三生）は德島縣人青景忠兵衛長男誠一に二女タカ（同三一、一二生）は同縣人下部資治に嫁し三男剛（同二七、一生）は同縣人橋高リウの死跡を相續し四男重臣（同二九、九生）は同縣人土屋キミヨの相續人となり弟敏三（同一四、七生）同妻スエ（同一九、一二生、德島、坂本昇三女）は其の子女を伴ひ分家し孫桂子（大九、二生、二男乾吉二女）は德島縣人桑田ミネの養子となれり（廣島、蘆品、國府村）

梶田忠三郎

大阪屋、西陣織物製造業
京都府在籍

父　豐次郎　文久三、六生
母　アイ　明五、五生、京都、野々村龜之助姉
妻　友江　明三一、一〇生、京都、松本彌助長女

君は京都府人梶田豐次郎の二男にして明治二十九年一月を以て生れ大正十五年家督を相續す大阪屋と稱し西陣織物製造業を營む家族は尙弟仙之助（明三七、一二生）あり妹せん（同四〇、九生）は京都府人吉田良造に嫁せりA一一一八五B一六〇（京都、上京、笹屋町千本西入ル笹屋四ノ二八五電西陣四〇八）

梶田年

從五位勳五等、判事、東京地方裁判所部長、受知縣在籍
安政四、一生、現戸主
母　はつせ　明元、八生、愛知、大池長左衛門長女
妻　チハ　明二二、七生、東京、大竹長八郎長女、東京女高師出身
男　極生　大九、一二生
女　包子　大四、六生

君は愛知縣人梶田釵一郎の長男にして明治二十一年九月を以て生る大正二年東京帝國大學法科を卒業し同年司法官試補となり同四年判事に任じ神戸地方裁判所兼同區裁判所判事に補せられ爾來神戸區同地方各裁判所判事神戸地方裁判所部長東京控訴院判事東京地方裁判所部長東京控訴院判事東京地方裁判所部長等に歷補し昭和六年東京地方裁判所部長に補せられ今日に至る其間大正十二年外務省事務囑託として歐洲各國に出張す家族は尙二女喬子（大六、一〇生）三女靖子（同八、六生）五女祥子（同一四、一生）六女洋子（同一五、八生）の外弟捨松（明二四、九生）同妻りき（同三〇、九生、愛知、稻垣萬次郎二女）妹石子（同二八、二生、日本女大出身）あり同米子（同三〇、一一生）は愛知縣人横地顯に嫁せり（東京、本郷、駒込西片町一〇ろノ八）

梶谷善郎

梶谷製菓所、製菓業
大阪府在籍

父　九郎平　文久三、二生
妻　せつ　明二四、六生、富山、赤座兵四郎長女
男　善久　明四四、三生

君は大阪府人梶谷九郎平の長男にして明治十八年十月を以て生れ大正十四年家督を相續す梶谷製菓所と稱し製菓業を營む家族は尙三男正（大二、一〇生）五男晳三（同一〇、四生）長女旬子（同一四、三生）二女美和子（昭四、七生）弟外二（明三四、七生）同妻靜榮（同四一二生、大阪、尾谷聖龜妹）及其二女弟健郎（同三九、三生）あり（大阪、天王寺、北日東町一四五電戎二九七九）

梶野行和

從三位、男爵、殿掌
舊公卿家
養子　行康　明二七、一生、男爵華園眞淳弟、正五位
妻子　忠子　大元、八生、生母、滋賀、櫻井ゆう

當家は先代行篤の立つる所なり行篤は權大納言石井行弘の二男にして初め南都興福寺に入り得度して無量壽院の住職となり明治二年復飾して堂上の列に加へられ家號を梶野と稱し同九年殿掌に任じ同十七年男爵を授けらる君は其長男にして子爵山本公富の從兄なり明治三年七月を以て生れ同三十八年襲爵す內庇寮京都出張所殿掌たり家族は尙庶子行誠（大三、三生、生母、滋賀、櫻井ゆう）あり弟篤彥（明二二、七生）は子爵梅園家の當主にして同稔篤（同二五、八生）は大阪府人好田アサの入夫となり妹豐子（同一三、五生）は京都府人牧礎五郎に嫁せり（京都、上京、夷川通熊野道西入上ル蓮花藏町八）

參照＝子爵梅園篤彥、子爵山本公富の項

梶原繁太郎

兵庫縣多額納稅者、製鹽業
兵庫縣在籍

妻　はる　明二〇、二生、兵庫、金風熊吉長女
男　信夫　明三九、一〇生
男　英夫　明四二、三生
女　まさ　明四四、八生

當家は古くより兵庫縣下大鹽町に土着し世々製鹽業を營む先々代養三平に至り經營大いに努めよく當家今日の基の築けり君は其の長男にして明治七年五月を以て生れ同四十五年家督を相續す組業を繼ぎ製鹽業を營み縣下の多額納稅者にして直接國稅四千六百二十一圓を納む家族は尙三男利夫（大三、二生）男俊一（明四四、一〇生、亡姉しん長男）あり長女ツネ（同三五、一二生梅花高女出身）は岡山縣人岡崎增太郎長男眞一郎に妹せい（同九、九生）は兵庫縣人淺井彌兵衛に嫁せり（兵庫、印南、大鹽町）

參照＝淺井彌兵衛、岡崎眞一郎の項

梶原重藏

田屋支店、洋品商
東京府在籍

妻　こう　明三、九生、東京、梶原帝助長女
養子　市太郎　明二五、四生、養子たか夫、三重村瀨兼次郎長男
養子　たか　明三七、六生、養子市太郎妻、東京、田谷常吉四女

君は東京府人辻作次郎の二男にして明治五年六月を以て生れ先代こうの入夫となり同三十一年家督を相續す田屋支店を經營し洋品商を營む家族は尙孫艷子（大一三、七生、養子市太郎長女）同玲子（同一五、一〇生、同二女）同藤枝（昭四、四生、同三女）あり（東京、京橋銀座四ノ一ノ三電京橋一〇二六）

參照＝米楠八十兵衛、米南波禮吉の項

梶原藤三郎

大丸吳服店名代表社員
東京府在籍

妻　せん　明一八、一生、長野、轟市右衛門長女
男　兼太郎　明四〇、一二生

男　義平　明四二、六生
女　藤枝　大四、四生

君は東京府人有山藤平の三男にして明治八年二月を以て生れ先代かれの養子となり同四十四年家督を相續す大丸屋と稱し吳服商を營み後合名會社に組織を改め之が代表社員たり家族は尙四男嘉四郎（大二一、一生）五男豐實（同六、三生）六男邦雄（同七、一〇生）四女善枝（同九、一一生）七男藤喜知（同一二、三生）五女房子（同一五、八生）あり二女かよ（明三九、四生、跡見女學校出身）は東京府人工藤保治二男藤保に嫁せり（東京淺草、瓦町六電淺草四三七〇）

梶原仲治

日本產業協會々長、臺灣電力株監事、乃木會、明治神宮奉賛會、中央報德會、學士會各監事
東京府在籍

妻　ムメ　明一七、一二生、東京、士、島田乙駒姉
男　正治　大一〇、一二生

君は北海道人梶原長吉の弟にして明治四年七月を以て生れ同二十八年分籍して一家を創立す夙に上京し刻苦勉勵牛島小學校準教員となり傍ら第一高等學校に入學し之を經て同三十年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し直ちに日本銀行に入り昇進して同行大阪支店長倫敦代理店監督役本店調査局長等に歷任し後ち横濱正金銀行に轉じ同行正副頭取に擧げられ大正十一年志村源太郎の後を承けて日本勸業銀行總裁に就任し昭和二年辭職し現時日本產業協會々長たるの外前記の各監事を兼ぬ義に歐米に留學し又淸韓を視察せり圓藝に趣味を有す長女春枝（明三七、九生、聖心女子學院出身）は法學博士岸淸一長男法學士偉一に二女玉枝（同四〇、八生出身校同上）は福岡縣人安部正也長男正夫に嫁せり（東京市外大崎町下大崎八九電高輪一二九八）

參照＝安部正也、岸偉一の項

梶原彌之助

從五位勳五等、判事、豐岡區裁判所監督判事、兵庫縣在籍

妻　くに　明一六、七生、兵庫、梶原關藏長女
男　英夫　明四四、八生
女　博　明四〇、一二生

君は岡山縣人小林作兵衛の五男にして明治十二年十二月を以て生れ同四十二年先代くにの入夫となり家督を相續す同四十一年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し同年司法官試補となり大正元年判事に任じ大阪地方裁判所判事兼同區裁判所判事に補せられ爾來高松區兼同地方高松區各裁判所判事等に歷補し昭和三年豐岡區裁判所監督判事兼神戸地方裁判所豐岡支部々長となり同六年兼職を免ぜられ今日に及べり家族は尙二男勇雄（大四、八生）三女高子（同一〇、三生）三男剛郎（同一五、三生）あり妻妹ふじ（明三四、七生）同夫勝（同三一、一生、兵庫、勞本重平四男）は其一男一女を伴ひ分家せり（兵庫、城崎、八條村裁判所官舍一號）

梶原善雄

日本勸業銀行、甲府支店長
香川縣在籍

父　猪之松　萬延元、一生、現戸主
母　カネ　慶應三、五生、香川、士、窪田恒二長女
妻　彌子　明三六、一一生、香川、香川淳一妹
男　和夫　大一三、三生

君は香川縣人梶原猪之松の長男にして明治二十四年一月を以て生る大正六年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し日本勸業銀行に入り同行秋田支店長を經て現時甲府支店長たり家族は尙弟慶二（明三一、一一生）妹梢（同三四、二生）あり姉ミノ（同一七、一一生）は香川縣人小田知周三男德三に同ウメ（同二〇、一〇生）は同縣人古川宇三郎に妹ユキ（同二七、九生）は山形縣人開原秀雄に嫁せり（甲府、日本勸業銀行支店內）

梶本金平

從五位勳三等、海軍機關大佐、軍需局第二課長、廣島縣在籍
元治元、一生、現戸主
母　シカ　慶應二、七生、廣島、濱田豐平長女
妻　美子　明三二、六生、岡山、佐藤保三郎長女

君は廣島縣人梶本佐內の長男にして明治二十年四月を以て生る同四十年海軍機關學校を大正四年海軍大學校機關科を各卒業し明治四十二年海軍機關少尉に任じ昭和二年同機關大佐に陞進す其間奥佐世保各工廠造機部々員造船監督官艦政本部第二水雷戰隊機關長等に歷補し更に燃料廠製油部長軍令部出仕兼海軍省出仕を經て現に軍需局第二課長たり家族は尙長女淸榮（大一三、四生）二女悲（同一五、一生）弟喜作（明二九、二生）同妻さがみ（同三二、一二生、廣島、瀨戸萬太郎長女）及其三子あり妹スヽノ（同三三、一〇生）は廣島縣人古田久次長男新兵衛に同タケヨ（同三二、五生）は同縣人向井才十に嫁し弟與一（同三七、三生）は分家せり（東京、赤坂、青山高樹町一二ノ七電青山三一八八）

梶山英二

妻　サキ　明一七、四生、熊本、池田和藏妹
男　晃　大五、五生
女　英江　大三、七生

君は山口縣人梶山一虎の二男にして明治二十年一月を以て生れ大正八年分籍して一家を創立す明治四十五年東京帝國大學理科大學動物科を卒業農科大學副手に任じ大正二年北海道廳技師に任じ同七年水產講習所技師に轉じ同十年陸米各國に出張す歸朝後農商務技師兼任を命ぜらる現時水產試驗場技師兼農林技師にして水產試驗場大長分場主任たり著書に海洋學通論あり家族は尙二男豐（大七、七生）ありA三二〇〇（廣島、豐田、大長村水產試驗場分場）

正五位勳五等、水產試驗場技師兼農林技師、水產試驗場大長分場主任、帝國水產會學藝員
山口縣在籍

梶山秀男

富士電機製造株取締役
山口縣士族
安政五、四生、山口、士、景山兵五郎長女

妻　りス　大九、一生
男　泰男　大三、一生
女　初枝

君は山口縣士族梶山茂人の長男にして明治十三年十月を以て生れ大正三年家督を相續す明治三十七年京都帝國大學理工科大學機械學科を卒業し蘭に大阪電氣分銅會社取締役古河鑛業會社日光電氣精銅所長を經て現時富士電機製造會社取締役兼工場長たり（神奈川、鎌倉鎌倉町大町西町九一一電二四〇）

楫西廣重

三十四銀行員
大阪府在籍

母　フキ　明一六、一生、大阪、谷崎新五郎三女
妻　二三子　明四一、一〇生、大阪、橘鄕長女

君は大阪府人楫西源治郎の長男にして明治三十六年二月を以て生れ大正十二年祖父源造の後を享け家督を相續す同十四年神戸高等商業學校を卒業し三十四銀行に入り現時同行大阪天滿橋支店に勤務す家族は尙長女和

子（昭四、二生）弟光速（明三九、一生）同誠治（同四一、一生）同常夫（同四二、六生）同貞雄（同四五、七生）妹規佐（大四、三生）あり同美枝（明三七、七生）は大阪府人石井鐵太郎養子豐太郎に嫁せり（大阪、西、新町南通四ノ一一電新町七六七）

参照＝石井豐太郎家片山篤也家佐渡島英祿家鈴鹿昌一の項

楫取三郎　正四位、男爵　山口縣華族

父　美壽子　文久二、九生、子爵千種有秀叔母
妻　喜和子　明一七、一二生、山口、士、佐々木保次長女
男　松若　明四〇、八生、從五位
女　竹子　明四五、一生、櫻藤高女出身
女　壽子　大五、三生

當家は先代素彥より甥ろ素彥は舊山口藩士松島誠成の二男にして同藩士小田村吉平の養子となり慶應三年姓を楫取と改む幕末維新の際國事に奔走して功あり明治元年徴士參與職被仰付後ち足柄縣參事熊谷群馬各縣令元老院議官宮中顧問官皇女貞宮殿下御養育主任貴族院議員等に歷任し同二十年華族に列し男爵を授けらる君は其孫にして亡父道明の二男なり明治十二年七月を以て生れ大正元年家督を相續し爵を授ける明治三十九年東京帝國大學理工科大學土木工學科を卒業し鐵道院技師たり家族は尙三女文子（大一一、九生）妹刀美子（明一六、九生）弟倉之丞（同二六、一一生）同妻玉（同三〇、一〇生、京都、杉本保彥長女）及其一男三女あり弟公弱（同一九、七生）同妻サタ（同二六、四生、山口、池永也二長女）は其一女を伴ひ分家し妹治子（同二三、一生）は東京府士族小田村有芳に嫁せり（東京市外日暮里町日暮里一〇九五電下谷一〇九五）

参照＝子爵千種有秀、小田村有芳家伊集院彥高家潮先藤次郎家關本賢治の項

楫野脩常　島根縣多額納稅者、松江銀行頭取

繼母　サト　明八、三生、島根、西原圓照長女
妻　フカ　明二四、九生、島根、島田慎二郎二女
男　修一　大三、八生

君は島根縣人楫野卯一郎の長男にして明治二十三年一月を以て生れ昭和二年家督を相續す農を營み松江銀行取締役にして縣下の多額納稅者に列し直接國稅二千百五十六圓を納む家族は尙二男健治（大五、二生）長女ミヨ（同六、七生）三男圭三（同九、七生）三女タミ（同一三、八生）四男哲（同一四、一一生）あり（島根、通堺、靜間村）

柏佐一郎　大阪實文館專務取締役、日本ノート學用品、日本唱歌出版社、內外出版印刷各頭取締役、宮井平安堂、三省堂、學習社、盛文館、同文館各頭監査役、書籍商兵庫縣在籍

男　榮一　明三七、一一生
婦　かの　賀、西川六左衞門妹　明治十四年二月

君は廣島縣人柏九右衞門の長男にして明治十四年二月を以て生れ大正三年家督を相續す書籍商を營み現に大阪實文館專務取締役たる外前記諸會社の重役たり家族は尙二男信二郎（大四、一生）三女富子（同九、四生）四女節子（同一一、一二生）あり A四四一二B一六八（神戸、元町通五ノ六七ノ一電元町三三一一三）

柏木五百次郎　正四位、勳三等、判事、靜岡地方裁判所長、東京府在籍

妻　春野　明九、三生、鳥根、吉岡弘長女
男　尙武　明三七、一〇生
男　千秋　明四四、一〇生

君は舊桑名藩士柏木八十郎の二男にして明治元年九月を以て生れ大正八年分れて一家を創立す明治二十三年明治法律學校を卒業し判事に任じ爾來岐阜地方裁判所判事安濃津地方裁判所判事名古屋地方裁判所部長同控訴院判事安濃津地方裁判所部長等に歷補し同四十四年檢事に任じ島取地方裁判所檢事正靜岡前橋各地方裁判所長に轉じ水戸地方裁判所長に任じ大正十一年判事に任じ水戸地方裁判所長に轉じ現在に至る事正を經て大正十一年判事に任じ水戸地方裁判所長に轉じ現在に至る補せられ昭和二年靜岡地方裁判所長に轉じ現在に至る（靜岡市北安東）

柏木龜治　三重商工銀行頭取、兵庫縣在籍

妻　たけ　明一二、八生、兵庫、柏木韻治妹
男　羊二　明三四、一〇生
婦　初子　明三八、二生、二男羊二妻、兵庫柏木虎治三女
男　勤　明四〇、六生
女　美代子　大三、八生

君は兵庫縣人柏木嘉六の長男にして明治八年十二月を以て生れ同十二年家督を相續す現時三重商工銀行頭取として知られる家族は尙四男修（明四五、二生）五女宣子（大六、一生）あり二女千代子（明三七、一一生）は兵庫縣人橋本長次に嫁し弟武二（同一一、一二生）叔父榮治（慶應二、九生）は各分家せり（兵庫、加西、西在田村）

柏木勘八郎　福岡縣多額納稅者、宇島鐵道頭取長、農業、福岡縣士族

妻　マサ　明九、五生、福岡、士、櫻井信四郎姉
男　鎌三　明三〇、一〇生
婦　隆子　明四一、五生、長男鎌三妻、山口士、小澤富熊四女
男　昌之助　明四四、二生

君は山口縣士族福原彥七の二男にして福原榮太郎の弟桝谷晉三早川萬一の兄なり慶應二年十月を以て生れ先代勘八郎の養子となり明治三十八年家督を相續し前名二郎熊を改め襲名す農業を營み現時宇島鐵道會社長にして福岡縣多額納稅者に列し直接國稅三千八百五十三圓を納む義に桝谷商會監査役たりし事あり家族は尙三男二郎熊（大二、一生）あり（福岡、京都、行橋町）

参照＝櫻井信四郎、早川萬一、桝谷晉三家高橋源太郎家渡瀨雅太郎家渡瀨三郎の項

柏木幸助　山口縣多額納稅者、柏木檢溫器製造所頭取長、山口縣在籍

母　ヒサ　種商、山口縣士族、柏木名代表社員、藥安政三、四生、山口、小山久右衞門二女
妻　イシ　明一九、一生、山口、林藤三郎三女
男　恭介　明三八、八生
婦　晴子　明四〇、三生、長男恭介妻、山口柏木源五郎孫
男　儉二　明四一、三生
女　巖子　明四三、八生

君は山口縣人先代幸助の長男にして明治十五年八月を以て生れ大正二年家督を相續し前名敬介を改む藥種商を營み山口縣多額納稅者にして柏木檢溫器製造所頭取たり家族は尙三男良三（大五、一生）二女花子（同八、二生）三女幸子（同一一、一生）四女智子（同一三、四生）五女正子（昭三、五生）あり（山口、佐波、防府町）

柏木純一　勳六等、日本銀行頭取、廣島支店長、東京府在籍

妻　ミヨ　明二八、一一生、和歌山、谷井保二女
男　獻二　大六、一〇生

君は福岡縣人柏木守三の長男にして明治十九年七月を以て生れ同四十一年家督を相續す同四十四年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し日本銀行に入り松江支店長を經て現時同行廣島支店長たり家族は尙ほ二男篤三（大九、七生）三男聞吉（同一三、四生）弟商治（明二六、二生）同妻茂子（同三五、五生、福岡、末松熊彥長女）及其三子あり妹縫（同二三、一二生）は福岡縣人麻生太吉弟八郎に同鶴（同三四、五生）は山口縣人福原榮太郎長男倫に同花（同三七、一生）は福岡縣人麻生太七二男太三郎に嫁せり（松江、殿町二八七電八三一）

参照＝麻生太吉、麻生太三郎、末松熊彥、谷井保家桝谷晉三家矢田績家谷井一作の項

柏木庄兵衞　資產家、兵庫縣在籍

祖母　とし　慶應元、五生、京都、猪上七郎右衞門二女
母　つる　明一三、一〇生、兵庫、神戸米藏長女

君は兵庫縣人先代庄兵衞の長男にして明治三十七年十一月を以て生れ大正二年家督を相續し前名庄三郎を改む資產家たり家族は尙弟庄太郎（明四一、三生）妹しづ（同四四、八生）あり姉とく（同三二、四生）は分家し同エイ（同三三、一〇生）は大阪府人頁常吉に嫁せり（神戸、西須磨下流川一六五電須磨三一二）

柏木代八　埼玉縣多額納稅者、武藏野鐵道頭取締役、農業、埼玉縣在籍

母　うち　嘉永五、九生、埼玉、增田熊太郎二女
妻　安　明六、一一生、埼玉、望月儀兵衞妹
男　眞八　明三二、八生、長男眞八妻、東京平賀佐十郎養子
婦　郷　明三〇、九生
男　慶福　明三七、一二生
男　久治　明三七、一二生

君は埼玉縣人柏木正直の長男にして明治四年十一月を以て生れ同十六年家督を繼ぎ前名良八を改む農業を營み傍ら前記會社の重役にして縣下の多額納稅者に列し直接國稅一千六百六十九圓を納む家族は尙孫直（大九、八生、長男眞八長男）同武（同一一、四生、同二男）同明（同一三、九生、同三男）同完之（同一五、一一生、同四男）あり妹てい（明八、九生）同とく（同一一、三生）は各分家せり（埼玉、入間、名栗村）

柏木禎次郎　從四位、勳六等、門司市助役、和歌山縣在籍

妻　愛　明二六、九生、兵庫、町田盤長女
男　知一　大元、一〇生
女　悅子　大四、一〇生

君は和歌山縣人柏木彥太郎の二男にして明治十五年十二月を以て生れ昭和四年叔父實藏方より分れて一家を創立す明治四十一年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し文官高等試驗に合格し農商務屬となり爾來林務官山林事務官鑛務官札幌鑛務署長特許局事務官等に歷任す退官後昭和四年門司市助役に就任今日に至る家族は尙二女和子（大九、一〇生）三女絹子（同一四、八生）二男信彥（昭二、一生）あり（門司、長谷公會電三七一）

柏木廣治　岩手縣多額納稅者、岩手組製絲頭取締役、酒造業、岩手縣在籍

繼母　ミチ　安政六、八生、岩手、川越半六二女
妻　エツ　明一二、一生、岩手、八幡勇吉二女
男　宗治　明三九、七生、長男宗治妻、岩手、熊谷半兵衞妹
婦　菊子　明四二、一生

君は岩手縣人先代廣治の長男にして明治八年六月を以て生れ大正四年家督を相續し前名信八を改め製名す酒造業を營み直接國稅一千六百十三圓を納め岩手縣多額納稅者にして前記會社の重役たり家族は尙三男善三郎（明四五、一生）孫典（昭三、五生）あり長女イマ（明二九、一一生）は同夫勝雄（同二五、五生、岩手、小野寺治平五男）と共に分家し二女サタ（同三二、七生）は岩手縣人平澤きサ養子喜五郎に嫁せり（岩手、江刺、岩谷堂町）

柏木寬　大日本製氷鹽取締役、兼下關出張所長、宇和島製氷冷藏、八幡濱製氷冷藏、佐伯製氷各鹽取締役、遵製氷冷藏、廣島縣士族

妻　たき　明二五、六生、東京、中久木信順二女
男　正　大二、四生

君は廣島縣士族柏木秀助の三男にして下田杢一の弟なり明治十四年十一月を以て生れ大正七年家督を相續す明治三十九年早稻田大學を卒業し東京電燈會社に入り大正三年之を退き同五年大日本製氷會社に轉じ同八年同社取締役を兼ね傍ら前記各會社の重役たり家族は尙二女梅子（大一〇、二生）三男隆（同一三、八生）弟英（明一九、四生）同妻時代（同二八、五生、廣島、黑田正一姉）及其二子あり妹ヤエコ（同二六、二生）は東京府人中川信に嫁せり（下關、丸山町一九八五電一三〇一）

参照＝下田杢一、中川信の項

柏木正文　正四位、勳二等、海軍主計中將、鹿兒島縣士族

妻　サタ　明一六、八生、故海軍中將玉利親賢長女
男　正吾　明四一、三生
女　幹子　明四四、二生

君は鹿兒島縣士族山口平右衞門の四男にして明治四年五月を以て生れ先代正言の養子となり後家督を相續す同三十二年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し海軍に入り海軍大主計に任じ累進して大正十三年海軍主計中將に任ぜらる共間舞鶴吳各海軍工廠會計部長吳鎭守府主計長吳海軍經理部長等に補せらる義に英國に出張す家族は尙二男正信（大五、七生）四女愛子（同八、四生）五女廣子（同一一、六生）あり長女美代子（明三八、三生）は神奈川縣人山中政之弟農林書記官錄治に嫁せり（吳、西愛宕町二五電七一三ノ乙）

参照＝山中政之家今西與七郎家古宇田實家玉利喜造の項

柏木好三郎　從三位、勳二等、第八高等學校名譽教授、東京府在籍

妻　蔭　明一七、一二生、京都、幸野圓次郎妹、京都府立第一高女出身
女　治子　明四一、一二生、愛知縣第一高女出身

君は東京府人久保治長齋の二男にして明治七年十二月を以て生れ同十六年先代羅久の養子となり後家督を相續す同三十二年東京帝國大學理科大學物理科を卒業し大學院に入る翌年陸軍教授となり京都帝國大學理工科大學助教授を經て第八高等學校教授に任ぜられ昭和三

年歐米各國に留學を命ぜられ現時同校名譽教授たり長女八重子（明三八、五生）は工學士日戸博に嫁せり（名古屋、中、御器所町稗田六〇電南三六五〇）

柏熊福太郎

臺灣製紙㈱專務取締役、日本芳膳㈱取締役、高砂麥酒㈱監査役
大阪府在籍

妻　登　兎　明一五、一〇生、兵庫、士、成瀬金一郎妹
男　正　夫　明四三、八生
女　和　子　大五、二生

君は大阪府人柏熊福藏の長男にして明治十年六月を以て生れ同三十四年家督を相續す現に前記各會社の重役たり家族は尙二男莊平（大二、九生）四女知子（同七、三生）三男恭平（同八、一二生）あり長女宮子（明四〇、九生）は兵庫縣人横田一耳に二女福子（同四二、二生）は茨城縣人稻田穣に嫁せり（豪北、大正町一ノ三一電七七三）

參照＝冰後藤鐵二郎の項

柏倉九左衛門

山形縣多額納稅者、羽前長崎銀行㈱頭取、農業、山形縣在籍

父　信　道　嘉永六、一一生
母　り　れ　安政四、二生、山形、白田彌次右衛門二女
妻　の　ぶ　明一八、四生、山形、青柳庚三郎長女
男　信　彌　明三二、六生
男　清　彌　明四一、四生、長男信彌妻、山形高橋熊次郎長女
男　俊　彌　明四一、一〇生

君は山形縣人柏倉信道の二男にして明治十一年十月を以て生れ大正四年家督を相續し前名竹次郎を改め襲名す農業を營み傍ら羽前長崎銀行頭取にして縣下の多額納稅者に列す義に縣農會議員外幾多の名譽職に擧げらる家族は尙七男正五郎（大五、一〇生）三女ヤエ（同八、一生）八男八郎（生年月同上）四女しげよ（同一〇、三生）九男繁次郎（同一二、二生）孫輝昭（昭四、五生、長男信彌三男）あり長女イチ（明三五、五生）は山形縣人鈴木清助長男亮一郎に二女まつよ（同四三、七生）は同縣人柏倉惣右衛門長男英一郎に嫁し三男俊夫（同三七、三生）は同縣人柏倉たかに四男俊藏（同三九、三生、早大商學部在學）は同縣人青柳清兵衛母龍志に各養子となれりA四八四五（山形、東村山、豐田村）

參照＝高橋熊次郎の項

柏戸留吉

正四位勳三等功五級、陸軍一等軍醫、醫學博士、㈱相談役、栃木縣在籍
京都府在籍

妻　ヒデ　明一三、四生、愛知、伊藤次郎左衛門二女、愛知高女出身
男　孝　雄　明四〇、五生
男　庸　明四二、一生
女　タ　ニ　大四、九生

君は栃木縣人武井長平の六男にして明治十一年一月を以て生れ先代良澤の養子となり昭和二年家督を相續す明治三十二年第一高等學校醫學部を卒業し同三十五年陸軍三等軍醫に任じ日露の役第八師團衛生隊に屬し出征して功あり同三十七年二等軍醫に進む同四十二年內科學研究の爲獨逸に留學を命ぜられ同四十一等軍醫に任ぜらる大正元年退役して千葉醫學專門學校教授となり同九年醫學博士の學位を授けらる同十二年千葉醫科大學教授に任じ再び內科學研究の爲獨佛米に出張留學を命ぜらる昭和三年退職其後千葉市に內科專門の病院を經營し令聞あり讀書を趣味とす家族は尙三男福夫（大三、一生）四女マス（同七、一六、二生）は茨城縣人小島倉吉に嫁せりA一九四五（千葉市寒川八五八）

參照＝小島倉吉の項

柏原金四郎

前屋島醬油、屋島製藥各㈱社長、筑前屋逸身商店㈱取締役、讃岐織布㈱監査役、香川縣在籍

妻　ヤ　ホ　明一八、九生、香川、森田喜次郎二女
男　勝　大三、一〇生
女　純　明四〇、六生
女　寺　明四五、一生

君は香川縣人柏原小三郎の長男にして慶應三年四月を以て生れ先代喜二の養子となり明治二年家督を相續す現に屋島醬油會社長たる外前記各會社の重役たり義に東讃電氣軌道會社重役たりしことあり家族は尙二男及也（大七、二生）六女英（同一一、四生）七女淳（同一三、一〇生）あり長女芬（明二六、八生）は香川縣人柏原小三郎の養子となり養子延子（同三五、一一生、香川、二宮松太郎三女）は同夫博（同二四、七生、香川、士、林莊藏弟）と共に分家せり（香川、木田、湯元村）

參照＝高橋熊次郎の項

柏原孫左衛門

柏原洋紙店、黑江屋漆器店各㈱社長、百五銀行㈱取締役、西成製紙㈱相談役、柏原資代表社員
京都府在籍

妻　鉦　明四一、七生、愛知、伊藤次郎左衛門二女、愛知高女出身

柏原家は德川初期より京都に定住し子孫相傳へて今日に至れる素封家なり君は先代孫左衛門の孫にして明治三十年三月を以て生れ大正五年祖父の後を承け家督を相續し前名彌一郎を改め襲名す同十年慶應義塾大學經濟學科を卒業し現に前記銀行會社の重役たりスポーツ特にゴルフに趣味を有す家族は尙長女花子（昭四、四生）ありA八〇〇〇（京都、東山、問屋町五條下ル三丁目西橋町四七二電祇園一〇四五）

參照＝伊藤次郎左衛門冰侯爵佐竹義春冰子爵交野政邁冰子爵相良頼綱冰岡谷惣助の項

柏原利太郎

熊本縣多額納稅者
熊本縣在籍

男　利　夫　明二一、一〇生
婦　拾　明二四、三生、長男利夫妻、熊本士、佐藤立次郎三女
男　彌七夫　明三七、五生
婦　綾　明四二、三生、七男彌七夫妻、熊本、松岡乙次郎四女
男　留　己　明四〇、二生、長男利夫養子

君は熊本縣人柏原利平の長男にして文久二年九月を以て生れ明治十三年家督を相續す豪商にして直接國稅六千七圓を納め熊本縣多額納稅者たり長女ツヤ（明一九、八生）は熊本縣士族東矢良德に三女久（同四一、一一生）は佐賀縣人相馬一之に伯母タミ（嘉永四、三生）は熊本縣士族江上新五郎に嫁し二男養夫（明二五、一二生）は同縣人岩崎伊平の養子となれり（熊本、下益城、小川町）

參照＝佐藤立次郎の項

膳末次郎

大阪農工銀行、千歲同族各㈱監査役、綿末商店、生魚問屋業
大阪府在籍

養母　カ　ウ　慶應元、四生、大阪、豐田善右衛門大叔母
妻　ふ　さ　明一六、一〇生、大阪、吉田猪太郎妹
男　隆　造　大七、一二生

女　和佐子　大四、二生、清水谷高女在學

君は滋賀縣人弘世助三郎の五男にして同助太郎同正二郎川添孝藏の弟なり明治十七年十一月を以て生れ先代末次郎の養子となり同三十五年家督相續と共に前名藏を改め襲名す夙に大阪高等商業學校に學び家業を繼ぎ綿末商店として知られ前記銀行會社の重役に擧げらる又義に大阪市雜喉場魚市場取締役たり家族は尙三男耕造（大一二、一〇生）四男棟造（昭二、三生）あり長女清子（明四〇、一二生、清水谷高女出身）は大阪府人高砂長兵衛二男英治郎に嫁せりA一一四一B一七〇八（大阪、西、京町堀上通五ノ一三電土佐堀五四）

參照＝川添孝藏、高砂長兵衛、弘世助太郎、弘世正二郎の項

粕淵武一郎

染吳服商
京都府在籍

妻　と　き　明六、四生、滋賀、藤田秀太郎養妹
男　寺太郎　明三九、八生
女　睦　子　明四二、六生
女　信　子　明四五、一生

君は滋賀縣人粕淵二郎平の長男にして文久二年十二月を以て生れ明治十七年家督を相續す夙に縮緬問屋吉居佐助商店に入り實務を見習ひ後獨立して染吳服商を營む長男武吉郎（明二七、二生）二女瑩（同三二、五生、第一高女出身）は各分家し長女まき（同二九、一〇生、出身校同上）は兵庫縣人芝川又四郎弟又吉に嫁し弟義三郎（元治元、六生）は京都府人堀江フミの養子となれりA一三五七B一一六（京都、中京、東洞院鉛藥師下ル電本局一五二七）

參照＝芝川又四郎の項

粕谷俊介

從五位勳五等、判事、小田原區裁判所判事兼横濱地方裁判所判事
埼玉縣在籍

妻　歌　子　慶應元、一〇生、埼玉、横田茂八二女
男　俊　治　明二七、五生、東京、松室重剛三女
女　一　四、三生
女　君　代　大五、九生

君は埼玉縣人粕谷惣太郎の長男にして明治十六年十二月を以て生れ大正九年家督を相續す明治四十四年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し判事に任じ爾來熊谷區前橋横濱各地方新發田區宇都宮地方同區栃木區各裁判所判事に歷補し昭和四年前記現職に補せらる家族は尙三男俊夫（昭三、八生）あり（神奈川、足柄下、小田原町寺町官舍）

參照＝冰德富猪一郎冰若杉三郎の項

粕谷善一

住友銀行㈱浅草支店長
埼玉縣在籍

母　み　つ　明八、六生、埼玉、加藤幹一養姉
妻　い　と　明三二、九生、埼玉、高橋廣太郎長女
男　義　一　大一二、一一生

君は故衆議院議長粕谷義三の長男にして明治二十六年八月を以て生れ昭和五年家督を相續す大正七年京都帝國大學法科大學政治經濟學科を卒業し住友銀行に入り累進して現に同行淺草支店長たり先代義三は夙に米國ミシガン大學に學び歸朝後自由新聞を發行し其社長となり又入間郡會議員埼玉縣會議員同副議長等に擧げられ明治三十一年以來衆議院議員に當選する事十一回其間議長に擧げらるゝこと二回に及べり家族は尙長女靜子（大一〇、一〇生）二男昭（昭元、一二生）二女文子（同五、四生）の外弟益雄（明三六、五生）同妻米子（同四一、八生、埼玉、岡崎善雄長女）及其一男弟良雄（同四一、一生）妹ひで（大三、九生）同さだ子（同六、一二生）あり同弟代（明二九、四生）は東京府人小川彌次郎四男法學士順之助に同登久（同三二、一生）は埼玉縣人法學士加藤貴彌に同かよ（同三四、三生）は東京府人法學士前橋義雄に同よし（同三八、一〇生）は同府人陶田勝男長男貞一に嫁せりA一一八（東京、牛込、矢來町一五四電牛込一〇一五）

參照＝岡田勝男冰山口嘉三の項

糟谷武節

淺野物產㈱大阪支店長
兵庫縣在籍

妻　東　子　明二一、三生、奈良、西垣浩二女
男　武　輝　大二、六生

君は東京府人糟谷武衛の男にして明治十七年十月を以て生れ同四十五年兄武城方より分れて一家を創立す現時淺野物產會社大阪支店長たりA一六〇（兵庫、武庫、本山村森電青屋三四四〇）

糟谷縫右衛門

愛知縣多額納稅者、明治銀行㈱取締役、福壽生命保險、福壽火災保險各㈱監査役、農業、愛知縣在籍

妻　た　づ　明九、七生、愛知、田島道治姉
男　巖　明二九、六生
婦　み　ね　明三六、一生、二男巖妻、岐阜、岡本太右衛門二女、岐阜縣立高女出身
男　忠四郎　明三四、八生

君は愛知縣人先代縫右衛門の長男にして文久三年八月を以て生れ明治四年家督を相續し襲名す農業を營み傍ら前記銀行會社の重役にして直接國稅二千八百三十七圓を納め縣下の多額納稅者たり家族は尙孫定彥（大一五、一生、二男巖二男同忠雄（昭二、五生、同三男）同清彥（同五、八生、同四男）あり姉たか（萬延元、一一生）は岐阜縣人野々村佐一郎先代久次郎に嫁し妹と（慶應三、八生）は愛知縣人高松定一の母にして弟貞吉（明三、三生）は同妻つね（同七、一一生、三重、諸戸清六姉）と共に分家せり（愛知、轄豆、横須賀村）

參照＝岡本太右衛門、田島道治、高松定一、野々村佐一郎、諸戸清六冰板倉又吉冰遠藤平左衛門冰木村敬義冰鈴木穗一郎冰高橋正彥冰諸戸精太の項

糟谷陽二

山口縣電氣局長
東京府士族

妻　御　糸　明一七、一生、男爵片岡藤太叔母
男　勇　明四〇、三生

君は故錦鶏間祇候進十六の二男にして同經太の弟なり明治七年二月を以て生れ先代トヨの養子となり同二十三年家督を相續す同三十二年東京帝國大學工科大學電氣工學科を卒業し現時山口縣電氣局長たり長女萬佐子（明三八、一二生）は山口縣人植本平之允三男豐吉に嫁せり（山口市縣廳官舍內電一七二）

參照＝男爵片岡藤太、進經太の項

數江雄二

從五位勳六等、社會局技師、工場監督官、勞働部勤務、滋賀縣在籍

妻　千　代　明一二、三生、東京、數江三左衛門庶子

君は東京府人松坂淵の二男にして明治十六年七月を以て生れ大正六年先代千代の入夫となり家督を相續す明治三十八年東京高等工業學校機械科を卒業翌年同校電氣機械科研究科を修了大正三年東北帝國大學理科大學物理學科を卒業し日本製鋼所技師となりしも同六年同社を辭し工場監督官補に任じ農商務技師兼工場監督官

となり同十一年社會局技師に任じ同十三年工場監督官に補し同十五年勞働部勤務を命ぜられ今日に至る（東京市外大崎町上大崎二三二**電高輪二六六〇**）

參照＝※林紀一郎の項

數野賢吉

神奈川縣多額納稅者、横濱取引所取引員、蠶絲貿易商

妻　クニ　明二一、四生、神奈川、小宮健助二女

男　逢次郎　大四、二生

君は山梨縣人數野幸七の二男にして明治十二年五月を以て生れ同四十二年分れて一家を創立す蠶絲貿易商を營み現時横濱取引所取引員にして直接國稅三千七百三圓を納め神奈川縣多額納稅者たり家族は尙三男守五郎（大一四、五生）あり（横濱、中、元濱町三二〇**電本局三九六九**）

春日信市

正五位勳四等、水産試驗場技師兼農林技師、水産試驗場長、東京帝國大學講師、東京府在籍

妻　かめ　明二二、五生、東京、川合晋姉

君は岐阜縣人春日九左衛門の三男にして明治十三年九月を以て生れ同四十二年兄梅太郎方より分れて一家を創立す同四十年東京帝國大學工科大學造船學科を卒業し農商務技師海事局技師水産講習所技師特許局審査官同技師農林技師等を經て現時水産試驗場技師兼農林技師にして水産試驗場長たり傍ら東京帝國大學講師を兼ぬ曩に歐米各國に出張する事三回に及ぶ家族は長女千鶴（大九、一一生）あり（東京、麻布、笄町一三〇**電青山六三九七**）

參照＝川合晋の項

春日政治

正五位勳四等、九州帝國大學教授、法文學部勤務、長野縣在籍

妻　いさを　明二七、三生、長野、有賀春太郎二女

男　和男　大四、二生

君は長野縣人春日彌七郎の二男にして明治十一年四月を以て生る同三十五年東京高等師範學校國語漢文科を卒業し更に同四十四年京都帝國大學文科大學文學科を卒業し奈良女子高等師範學校教授を經て現に九州帝國大學教授にして法文學部勤務たり曩に津山高等女學校今宮中學校教諭たりし事あり家族は尙二男保男（大五、一二生）三男茂男（同一一、七生）兄利彌（明七、一二生、現戸主）同妻かつみ（同二〇、一生、長野、向山銀治郎三女）あり姉りと（同四、一一生）は長野縣人福澤勝治郎に妹ます（同一九、一生）は同縣人向山勘治郎の養子となれり（福岡市外九州帝國大學法文學部）

春日主税

從五位、第七高等學校造士館教授、福井縣在籍

妻　よしを　明二二、九生、福井、上田六藏長女

男　壽　大六、二生

君は福井縣人春日孝安の二男にして明治十二年五月を以て生れ大正十一年兄健治方より分れて一家を創立す明治四十二年東京帝國大學文科大學獨文科を卒業し同四十四年横濱商業學校教諭となり大正三年大阪府今津商業學校教諭たり曩に同十年第七高等學校造士館教授に任ぜられ今日に至る家族は尙三男三郎（大一二、一生）長女和江（昭二、八生）四男四郎（同三、一一生）あり（鹿兒島市長田町一〇五）

參照＝※福島文右衛門の項

春日俊文

東亞耐火工業、東京府物産場各種取締役、松濤織道、大日本土地各種取締役、長野縣在籍

妻　いちの　明一〇、七生、長野、神津又左衛門長女

男　俊一　大四、一〇生

女　としゑ　大三、四生

姜子　きよ子　明四〇、八生、長野、若林薇妹

君は長野縣人春日七郎右衛門の二男にして明治六年四月を以て生れ同四十四年分れて一家を創立す同二十八年法政大學を卒業し現時東亞耐火工業會社專務取締役の外前記會社の重役たり大正九年衆議院議員に選ばる家族は尙二女とも（大六、一二生）あり姜子けさえ（明三二、二生、長野、若林薇姉）は同縣人守矢一太郎に同美都子（同三七、三生、同妹）は長野縣人春日善之助二男民平に嫁せり（東京市外澁谷町大山二〇**電青山二一九〇**）

春日弘

住友伸銅鋼管㈱取締役支配人、長野縣在籍

妻　繁　明二五、三生、大阪、阪本信一妹

男　隆　梅花女學校出身　大五、八生

君は長野縣人春日喜一郎の長男にして明治十八年八月を以て生れ大正六年家督を相續す明治四十四年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し現時住友伸銅鋼管會社取締役支配人たり家族は尙二男芳明（大六、一一生）弟篤（明二〇、一〇生、海軍中佐）同妻より（同二七、一〇生、長野、宮崎善左衛門姉）弟賢（同二二、一一生）同妻ともの（同二九、二生、長野、中澤寅藏二女）及其子女ありA七四三（大阪、住吉、北田邊町三〇六**電天王寺一〇七五**）

春日敏

東京商工會議所議員、欅組工業㈱社長、相互無盡㈱取締役、東京府在籍

繼母　ふつ　元治元、三生、愛知、士、吉田七郎長女

妻　賀陽子　明三〇、七生、佐賀、山内直丸長女

君は宮城縣人春日肅の長男にして明治十九年十一月を以て生れ同三十六年先代祖父快道の跡を承け家督を相續す大正二年明治大學法學部を卒業し大藏省に奉職大臣官房銀行課及銀行局等に勤務せしが後實業界に入り現時前記會社の重役にして東京商工會議所議員に擧げらる家族は尙長女京（大一一、五生）二女欣（同一三、一一生）弟剛（明二一、一一生）同妻清子（同二九、九生）大阪、中谷德恭孫）弟愛（同三四、九生）同妻いと（同三四、四生、東京、大森晃右衛門妹）及各其子女あり（東京市外高田町目白上り屋敷三五五三**電牛込三七九八**）

春日井丈右衛門

春日井商店㈱社長、圖書㈱代表取締役、名古屋銀行㈱取締役、帝國撚絲織物、豐榮土地、港北土地各種取締役、福壽生命保險各種取締役、福壽火災保險各種監査役、春日井產業㈱代表社員、愛知縣在籍

妻　統　明三四、二生、東京、菊池長四郎女

男　九段　精華高女出身

春日井家は愛知縣古知野町土着の農家なりしが先々代丈右衛門に至り吳服商を創め先代丈右衛門更に其後を繼承し名古屋に出でゝ大いに業務の擴張を圖る君は其三男にして明治三十二年月を以て生れ大正十五年家督を相續し前名助三郎を改め襲名す慶應義塾に學び實業界に入り現時前記銀行會社の重役たり姉やゑ（明元、一〇生）同夫豐三郎（同元、九生、愛知、山川茂長衛

弟）は其子女を伴ひ分家し妹あき（同三六、五生）は本家春日井家に入り姉ゆき（同二五、一生）は前記豐三郎の養子となり更に愛知銀行員長尾準一郎に妹きみ（同四〇、八生、名古屋市立第一高女出身）は石川縣士族大家七兵衛に嫁せりA一五〇〇〇（名古屋、中、南吳服町二ノ一八**電中四一**）

參照＝大家七兵衛、菊池長四郎※須田萬右衛門※町田豐千代※三野村安太郎の項

方山正隆

東亞之實業㈱社長、大雄山鐵道㈱取締役、東亞實業協會理事長、東京府在籍

男　正夫　明四三、九生

女　祥子　大三、八生

君は東京府人方山丈八の五男にして明治十年二月を以て生れ後分れて一家を創立し前名瓜吉を改む明治三十七年明治大學を卒業し現時前掲各會社の重役にして又前記の名譽職に推され曩に東京市會議員日本橋區會議員等たり事あり家族は尙二男卓士（大八、三生）二女妙子（同一〇、九生）三男道雄（同一二、一〇生）あり（東京、日本橋、新大阪町七**電浪花七三六**）

片岡淺太郎

字品運送㈱社長、東洋木材防腐㈱取締役、廣島縣在籍

妻　ヨシノ　明一二、二生、廣島、菅和吾助三女

男　峯人　明四一、六生

君は廣島縣人片岡良三郎の二男にして明治四年六月を以て生れ同四十年家督を相續す現時字品運送會社長にして前記會社の重役を兼ぬ家族は尙三男秀人（大元、九生）あり長女コイマ（明三二、一生）は熊本縣人岡部運平に二女コイト（同三五、一生）は廣島縣人小田瀧一に三女ミツヨ（同三九、四生）は同縣人竹内龍雄に嫁し弟多作（同八、一二生）同妻テイ（同一八、五生、廣島武田勝市妹）は其一男二女を伴ひ分家せり（廣島市河原町二六三）

片岡宇太郎

高知縣多額納稅者、土佐電氣㈱取締役、地主、山林業、高知縣在籍

妻　園　安政六、八生、高知、吉村貫治妹

男　武雄　明二二、一〇生

君は高知縣人片岡竹次の長男にして安政四年六月を以て生れ同十二年家督を相續す地主にして山林業を營み傍ら前記會社の重役にして直接國稅千八百十六圓を納め縣下の多額納稅者たり二女庫（明二一、四生）は高知縣人畠中嘉藏三男德三郎に嫁せり（高知、吾川、大崎村）

參照＝片岡武雄の項

片岡音吾

妻　知賀　明二二、七生、岡山、河本民子養母

男　耕一郎　大三、一生

女　道　明四二、一二生

君は岡山縣人片岡篤太郎の二男にして明治十四年分れて一家を創立す同三十九年東京高等商業學校專攻部を卒業し日本興業銀行に入りし現時野村證券會社長たる外前記各會社の重役たり家族は尙二男明子（大九、一生）四女明子（同一一、五生）あり三女新子（同七、四生）は岡山縣人河本民子の養子となれり（大阪、豐能、豐中町岡町壽通一丁目**電岡町四一四**）

片岡和雄

從五位、男爵、東京府華族

當家は先々代利和より其名を揭ぐ利和は舊高知藩士にして明治維新以來宮中に仕へて侍從となり精勤一日の如く明治天皇に扈從し同三十三年勳功に依り華族に列し男爵を授けらる先代丈人は東京府人見新助の二男にして入りて當家を繼ぐ君其後を享く君實は故男爵藤村紫朗の五男當主義朗の弟にして明治二十一年十二月を以て生れ大正十五年選定に因り家督を相續し同十四年製爵被仰付學習院高等科を經て大正四年大學工科大學機械科を卒業し東京石川島造船所に勤務し後實業界に入り曩に平和タクシー自動車會社磐城鐵道會社各社長等に就任せり（東京市外世田ケ谷町若林五一一九）

參照＝男爵藤村義朗の項

片岡久兵衛

京都府多額納稅者、治久銀行㈱頭取、吳服太物商、京都府在籍

妻　かめ　明九、四生、兵庫、河合藤吉妹

男　久彌　明三五、一生、商學士

婿　千代　明三八、六生、長男久彌妻、京都今西嘉兵衛長女

男　辰巳　明三七、三生、商學士

片岡金七

京都製氷㈱取締役、菊水本店、料理業、京都府在籍

妻　ヤエ　明一二、一二生、京都、西村彌吉妹

男　朝太郎　明三二、八生

婿　タマ　明三四、一一生、長男朝太郎妻、京都、飯田政次郎二女

男　悅男　明四一、一〇生

君は京都府人先代金七の長男にして明治十一年七月を以て生れ大正十四年家督を相續し前名吉太郎を改め襲名す菊水本店と稱し料理業を營み傍ら前記會社の重役たり家族は尙三男吉三（大一一、二生）孫さだ（同一二三生、長男朝太郎長女）同邦雄（同一五、二生、同二三男）妹シツ（明二五、一〇生）及其二子あり長女ヶツ（同三六、九生）は京都府人西村彌吉二男吉治郎に妹節（同二六、一二生）は同府人岡本源之助に嫁せりA一九四五B二三八（京都、中京、先斗町四條上ル**電本局九四九**）

參照＝西村彌吉の項

妻　菊　明二六、一一生、神奈川、井上八重吉長女、フエーリス女學校出身
男　一　明四四、二生
女　久　大二、五生、三輪田高女出身
　　貞　大二、三生、三輪田高女出身

君は三重縣士族須崎保慶の二男にして明治十三年三月を以て生れ先代叔父治郎吉の養子となり大正四年家督を相續す明治三十九年東京帝國大學獨法科を卒業し日本興業銀行に入り日本橋支店支配人信託部副長神戸支店支配人鑑定部長檢査課長等を經て現に文書課長にして參事に擧げられ前記各會社の重役を兼ぬ家族は尙二男義夫(大五、六生)二女節(同一一、一二生)四男敬四郎(同一四、三生)ありA三一一(東京市外澁谷町松濤八六電青山八〇〇三)

片岡貞夫

父　赤三郎　明三、六生、京都、京橋やゑ養子
母　のぶ　明三〇、九生、高知、淡中孝八郎長女、東京高女出身
妻　益　男　大五、八生

君は東京府人片岡赤三郎の長男にして明治二十一年十月を以て生る同四十五年東京高等商業學校を卒業し日本製粉會社に入り同社營業部長同支店長たりしが大正十一年大阪製粉會社を創立し現時同社專務取締役たり家族は尙二女和子(大七、一二生)二男浩(同一〇、五生)三男晴彦(同一二、一二生)四男通昭(昭三、二生)弟義雄(明三四、四生、明大出身、豐年製油會社大阪支店員)あり同重夫(同二七、一生、明大出身、春陽堂營業部長)同妻榮子は共に分家し妹珪子(同四三、九生)は東京府人多田英三に嫁せりA一三三(大阪、住吉阿倍野筋一九四電我五二六)

參照＝淡中孝八郎の項

片岡善助

千葉縣多額納稅者、呉服商
千葉縣在籍
男　盛助　明二〇、五生
　　明二五、八生、長男盛助妻、千葉鈴木勘右衛門孫
婿　富士枝
女　みつ　明一二、一生
女　やす　明一四、三生
男　邦三　明二三、六生
　　明二七、九生、二男邦三妻、千葉小林正雄長女
婿　とよ　明二六、一一生、神奈川、井上八重吉長女、フエーリス女學校出身

片岡武雄

父　宇太郎　安政四、六生、現戸主
妻　菊　明二二、一一生、慶大在學
婿　宇吉　明四二、一生、高知、目代春吉妹
男　一郎　明三、三生、高知、目代春吉妹
　　伊三郎　明二七、八生
婿　うめ　明三一、七生、三男伊三郎妻、千葉、諸房半兵衛妹
　　明二八、七生、三女かめ夫、群馬福池庄平四男
養子　幸三郎　明三〇、二生、養子幸三郎妻
女　かめ　明三八、一〇生、長女みつ私生子
　　秀夫　大四、四生、二男邦三長女
孫　與志子

君は千葉縣人高柳吉右衛門の弟にして嘉永三年二月を以て生れ後片岡茂兵衛の養子となり明治十七年分れて一家を創立す呉服商を營み千葉縣多額納稅者にして直接國稅二千四十七圓を納む家族は尙孫榮一(大二、七生、長男盛助長男)同富見江(同七、一生、同二女)同茂樹(同一一、一生、同二男)同東三郎(同一四、二生、同三男)同啓輔(同八、一生、二男邦三長男)同貴藏(同一〇、一〇生、同二男)同潤(同一三、六生、同三男)同喜四朗(昭二、一二生、同四男)同伸一(大一〇、九生、三男伊三郎長男)同道子(同一五、六生、同二女)同久子(昭四、三生、同三女)同照子(大一〇、一〇生、養子幸三郎長女)同雅子(同一二、五生、同二女)同莊三(昭二、八生、同長男)あり四女いと(明三二、五生)は山梨縣人井上富六長男健男に嫁せり(千葉、山武、東金町)

片岡眞

(タツミ)
母　きぬ　從五位勳五等、營繕管財局技師
　　東京府在籍
妻　嘉永二、八生、滋賀、士、青木數之丞妹
養子　雄三郎　明一八、五生、千葉、林久藏長女
　　貞　明三四、八生、滋賀、士、高島敦道三男
婿　可親　明三四、二生、養子雄三郎妻、富山、藤本勝次郎二女

君は滋賀縣人片岡常一郎の長男にして明治六年十一月を以て生れ同十三年家督を相續す夙に警視廳技手司法技手大藏技手等に歷任し大正八年臨時議院建築局技師に任じ後營繕管財局技師に轉じ現に工務部に勤務す姉キミ(明二一、一生)は滋賀縣士族高島敦道に嫁せり(東京、赤坂、臺町六八電青山七〇七九)

片岡辰次郎

妻　ゆき　山二物產、日本均質牛乳、多摩湖鐵道、東北開墾各種社長、富士山麓電氣鐵道、富士山鉱土地、上海亭、江ノ島荷札、金萬證券各種取締役、東京印刷株式取引所取引員、愛知縣在籍役、東京株式取引所取引員
　　明一一、一生、愛知、山本八三郎妹
養子　晴次　明二二、四生、長女きた夫、愛知永田善治弟
女　きた　明二七、九生、養子晴次妻
孫　ユイ　大三、五生、養子晴次長女

君は愛知縣人片岡八郎左衛門の長男にして明治五年四月を以て生れ同十二年家督を相續す東京株式取引所賞物取引員にして同所取引所商議員組合委員たる外前記各會社の重役たり家族は尙孫田鶴(大二二、一〇生、養子晴次三女)同秀之(明五、八生、同二男)ありA九八六三B一一四(東京、日本橋、兜町三電茅場町一一五一)

參照＝永田善治の項

片岡貞喜

妻　マサエ　熊本縣多額納稅者、肥後銀行取締役、熊本縣士族
　　明六、二生、養父武虎長女
男　武定　明三〇、三生
婿　歌　明四〇、一生、二男武定妻、熊本上野景治妹
男　武修　明三五、三生
男　武城　明四一、二生
女　菊　明四四、一一生

君は熊本縣人岡本定親の二男柳瀨松喜の兄にして明治四年八月を以て生れ先代武虎の養子となり同三十四年家督を相續す現時前記銀行の重役にして直接國稅二千四百四十圓を納め縣下の多額納稅者たり家族は尙孫絹

子(昭五、五生、二男武定長女)あり長女ハツメ(明二八、一生)は熊本縣人久保田愿長男豐に二女あやめ(同三二、七生)は同縣人河野佐金太長男旭に三女萩子(同三七、九生)は前記久保田愿二男畯に嫁せり(熊本、阿蘇、山西村)

參照＝上野景治、柳瀨松喜の項

片岡鐵雄

妻　タネ　日本エレベーター製造、東洋木材防腐、高知瓦斯各種取締役、高島屋呉服店經監査役、兵庫縣在籍
　　明三〇、一生、京都、越山吉郎右衛門長女
男　勇吉　大一〇、三生

君は故貴族院議員片岡直輝の二男にして同直方の弟同直溫の甥なり明治十九年五月を以て生れ大正四年分れて一家を創立す現時日本エレベーター製造會社取締役の外前記會社の重役たり家族は尙長女喜久子(大七、一生)二女貞子(同一一、六生)あり(兵庫、川邊、小濱村)

參照＝片岡直方、片岡直溫の項

片岡藤太

男爵
東京府華族
祖母　タマ　元治元、一生、鹿兒島、士、清原崑弓長女

當家は先々代七郎より顯る七郎は舊鹿兒島藩士にして維新後海軍に入り明治十年海軍少尉に任じ同四十三年大將に陞る其間海軍兵學校教官獨逸公使館附浪速橋立八島各艦長常備艦隊參謀長海軍省人事局長吳鎮守府艦政部長竹敷要港部司令官第一第三各艦隊司令長官海軍艦政本部長鎭鶴鎭守府司令長官軍事參議官等に歷補し日露戰役の功に依り功一級に敍し華族に列し男爵を授けらる先代恒太郎は其長男にして早稻田大學商科を卒業し横濱正金銀行に入り獨米英兩國に遊學す君は恒太郎の長男にして大正二年十一月を以て生れ同十二年家督を相續し尙(同七、一一生)同豐子(同一一、一二生)叔父猛次郎(明二三、三生、東京農大出身)同妻都(同三五、三生、東京、士、池田邦助長女)及其一子叔父鶴四郎(同三四、三生、經濟學士)同妻明(同四二、一生、東京、士、澁谷在義長女)及其一子あり叔母御絲(同一七、一生)は東京府士族工學士精谷陽二に嫁せり(東京市外千駄ケ谷穩田一六四電青山一一四〇)

參照＝精谷陽二家池田鐵藏の項

片岡直方

妻　文　大阪、瓦斯各種取締役會長、堺瓦斯各種取締役、阪神電氣鐵道、大阪電氣軌道、參宮急行電鐵各種取締役
　　明二三、五生、高知、士、土屋四郎妹
男　一郎　大四、一〇生

君は故貴族院議員片岡直輝の長男同直溫の甥なり明治十五年九月を以て生れ昭和二年家督を相續す明治四十二年京都帝國大學法科大學を卒業し現時大阪瓦斯會社取締役會社長たる外前記諸會社の重役たり家族は尙二男健二郎(大七、一一生)三男幸三郎(同一一、八生)あり弟鐵雄(明一九、五生)は分家し同茂樹(同二二、九生、醫學博士)同妻輝(同二九、六生、鳥取、士、岡田志紀妹)は其子女を伴ひ分家せり(兵庫、川邊、西谷村)

參照＝片岡鐵雄、正四位勳二等、貴族院議員

片岡直溫

京都府在籍
慶應元、五生、高知、士、松原並枝妹
祝　明九、六生
養子　安　明一〇、八生、大阪、大村龜三郎姉
妻　ゆき　明三七、四生、片岡我當、歌舞伎俳優
男　千代之助　東京俳優協會顧問、十一代松島屋歌舞伎俳優、東京府在籍

片岡仁左衛門

(秀太郎)
いをゑ
原並枝京千頭麓幸の項

君は兵庫縣人片岡平八郎の三男にして明治元年八月を以て生れ同二十七年兄平八郎方より分れて一家を創立す現に但馬合同銀行常務取締役たる外前記銀行會社の重役たり家族は尙三男拙三(大三、一一生)孫なか子(同一五、七生、長男一郎長女)同加代子(昭四、五生、同二女)あり長女馬江(明三九、九生)は兵庫縣人服部磊に妹きし(同一六、八生)は同縣人內橋直三に嫁し二男壽美夫(同四一、一一生)は同縣人片岡郁三の家籍に入

片岡房三

但馬合同銀行取締役、但馬貯蓄銀行取締役、豐岡電氣取締役、兵庫縣在籍
妻　かつ　明一〇、八生、兵庫、士、服部簡長女
男　一郎　明三一、一生
婿　恒　明三九、六生、長男一郎妻、兵庫濱野延藏五女
女　文子　明四四、三生

君は兵庫縣人片岡平八郎の三男にして明治元年八月を以て生れ同二十七年兄平八郎方より分れて一家を創立す現に但馬合同銀行常務取締役たる外前記銀行會社の重役たり家族は尙三男拙三(大三、一一生)孫なか子(同一五、七生、長男一郎長女)同加代子(昭四、五生、同二女)あり長女馬江(明三九、九生)は兵庫縣人服部磊に妹きし(同一六、八生)は同縣人內橋直三に嫁し二男壽美夫(同四一、一一生)は同縣人片岡郁三の家籍に入り

片岡武吉

三井物產取締役三池支店長
福岡縣士族
嘉永六、一二生、福岡、士、佐戸元藏長女
妻　チトセ　明一八、二生、青森、中根直姪
男　太郎　大四、九生
女　文子　明四四、一生
　　豐子　大元、一二生

君は福岡縣士族河野巽の兄にして明治三年四月を以て生れ先代ツタの養子となり同三十三年家督を相續す同二十三年三井鑛山會社三池炭礦總務部に勤務し後三井物產會社に入社し上海支店神戸支店口の津支店等に勤務し次で唐津出張所長若松出張所長等を經て現時同社三池支店長たり家族は尙三女武子(大七、五生)四女千鶴子(同一一、三生)あり養子ミト(明二五、八生、福岡士、永松寬妹)は福岡縣士族田尻常太郎二男義太郎に嫁せり(大牟田、有明町)

れり(兵庫、城崎、城崎町)
参照＝内橋直三、濱野延藏※石谷良造※瀧田清兵衛の項

片岡孫助

地家主
大阪府在籍
嘉永五、八生、大阪、野口理平長女
母　チヘ
妻　ヒサ　明四二、一生
男　潔　明四一、一二生
君は大阪府人片岡孫九郎の長男にして明治十八年四月を以て生れ同三十八年家督を相續す地家主にして義に南海土地建物會社取締役大阪北港會社監査役たり家族は尙二男高示(大三、二生)三男茂(同一五、七生)あり長女秀子(明四〇、五生)は大阪府人吉村良造長男良一に姉シマ(同一五、四生)は同府人片岡孫七に嫁せり(大阪、港、南市岡町二ノ一〇電西四〇三六)
参照＝井原雄吉の項

片岡安

工學博士、日本エレベーター製造單式印刷各種社長、日本生命保險締役、八幡ホテル、夕刊大阪新聞社各種取締役、八幡伸織相談役、關西工學會理事、日本土地商事各種取締役、關西工學會理事、日本建築協會、大阪工業會、日本建築學會各代表者、片岡石本建築事務所長、京都府在籍
養父　直温
妻　盈衛
男　鉄太郎　明三三、二生
婿　さき　明三八、五生、長男鉄太郎妻、貴族院議員高廣次平妹
女　登代子　明四四、一生
君は舊加州前田藩士細野直重の二男にして明治九年六月を以て生れ同三十一年片岡直温の養子となり同三十年東京帝國大學工科大學建築學科を卒業し片岡石本建築事務所を主宰し傍ら日本エレベーター製造會社長の外前記各會社の重役にして又前記の名譽職に擧げらる大正九年工學博士の學位を受く家族は尙二男彰(大二、二生)孫宗一(同一五、一二生、長男鉄太郎長男)同貴美子(昭五、四生、同長女)あり長女喜代子(明三六、二生)は佐賀縣人日影童に嫁せり(京都、紀伊、堀内村)
参照＝片岡直温、高廣次平※久世庸夫の項

片岡

ユカル　正四位勳三等、農林技師、農務局勤務、茨城縣士族
母　まち　元治元、八生、茨城、片岡吉衛門妹
妻　さたよ　明二四、九生、宮城、士、加藤貞太郎長女　大二、三生
男　操吉　大阪府人岡鄰の長男にして明治十二年三月を以て生れ同三十六年東京帝國大學農科大學農學科を卒業し農商務技師農事試驗場技師を經て大正十四年農林技師に任ぜられ現時農務局勤務たり日露の役滿洲利源調査委員として南滿洲に出張し又萬國農事協會第五回總會帝國政府委員としてローマに差遣せられ序を以て歐米各國を巡遊せり長女豐子(明四〇、四生)は醫學博士東北帝國大學助教授彦に同あさ(同二〇、四生)は陸軍少佐吉川規一郎に同きん(同二七、三生)は同縣人橋政藏に嫁し弟四郎(同三〇、四生、慶大理財科出身)は分家せり(東京市外澁谷町松濤七)

片岡弓八

深海工業所※社長、東京潜水工業、川口製紙各※取締役、三重縣在籍
養母　しほ　慶應二、五生、東京、士、平戸顯二女
妻　トミ　明三三、一生、岩手、士、川口浩哉四女
男　義尙　大三、三生
君は香川縣人細谷鈴吉の三男にして明治十七年五月を以て生れ大正二年先代たかの入夫となり家督を相續す明治四十年商船學校航海科を卒業し後海事工業に從事し漸次名聲を增す現に深海工業所社長外前記諸會社の重役たり家族は尙二男弘吉(大四、七生)二女美代子(同一二、一生)三女啓子(昭三、一一生)あり(東京市外武藏野町吉祥寺二六五七)
参照＝※乙部孝吉の項

片岡隆起

大日本蔘酒※取締役經理部長
東京府士族
妻　スミ　明一八、九生、鹿兒島、堀貞彦妹
男　勝彦　明三八、五生、早大出身、大倉商事會社員
女　安子　明四四、三生、聖心女子學院專門部在學
女　信子　大五、一一生
君は舊上田藩士片岡義道の長男にして明治五年十月を以て生れ大正七年家督を相續す明治三十九年法政大學を卒業し現時大日本蔘酒會社取締役經理部長たり家族は尙二男銘夫(大二、一生)三男悌三(同四、二生)あり長女光子(明三九、一〇生)は秋田縣人庄司龜治長男工學士内務技師陸太郎に二女郁子(同四一、一〇生、東京府立第三高女出身)は東京府人山口袈裟治長男法學士地方警視千葉縣特高課長乾治に嫁せり(東京市外大崎町上大崎長者丸二七〇電高輪四一七四)

片岡良助

茨城縣多額納稅者、農業
茨城縣在籍
庶子甚五兵衛　大五、五生、生母、茨城、青木千代
君は茨城縣人片岡杜一郎の二男にして明治二十年六月を以て生れ同四十一年家督を相續す農業を營み直接國稅二千二百七十三圓を納め縣下の多額納稅者たり家族は尙庶子高照(大八、一生、生母、茨城、青木千代)同和(同一〇、六生、生母同上)同秀文(同一二、八生、生母同上)あり兄甚藏(明一四、二生)は分家し姉なか(同一八、二生)は茨城縣人岡田光夫の母たり(茨城、筑波、菅間村)

片岡若太郎

富山縣多額納稅者、金融業
富山縣在籍
妻　ちよ　元治元、三生、富山、楠喜三郎妹
養子　喜太郎　明一八、八生、富山、楠喜三郎弟
養子　かしく　明二四、一生、養子喜太郎妻
君は富山縣人片岡又二の二男にして文久二年四月を以て生れ明治十二年分れて一家を創立す金融業を營み現に富山縣多額納稅者たり家族は尙孫若三(大五、四生、養子喜太郎長男)同若光(同九、七生、同二男)あり(高岡、御旅屋町一二)

片木久吉

從五位勳六等、特許局審査官、大阪府在籍
父　巳之助　安政六、四生
母　むめ　文久元、八生、京都、廣田虎之助姉
妻　壽美　明一九、五生、京都、戸水增雄養母
女　巖　大四、一一生
君は大阪府人片木巳之助の長男にして明治十六年十月

を以て生れ後家督を相續す大正三年京都帝國大學理工科大學電氣工學科を卒業し愛知縣技手同技師工場監督官名古屋高等工業學校講師等を經て現時前記の職に在り交流理論の著述あり家族は尙弟龍藏(明二一、八生、醫學博士)同妻多美(同二六、一一生、岡山、石原富次郎長女)及其子女弟喬(同三〇、四生)あり養子遊龜(同四〇、九生、高知、伊藤龜鹿孫)は大阪府人邦鄕辰左衛門孫健三に妹つる(同一八、一一生)は岐阜縣人邦鄕辰左右衛門長男健次郎に嫁し養子富美子(同三三、八生)妹ハル(同二五、一生)は各分家せり(東京、小石川、茗荷谷町五八電小石川六四六一)

片桐吾郎

兼松商店※取締役兼輪入部長
福岡縣士族
妻　英　明二二、一一生、養父崩吉長女
男　秀　政　明四四、一〇生
女　貞　大二、五生
女　京　大五、一二生
君は大分縣人定留茂一郎の三男にして明治十四年十二月を以て生れ先代崩吉の養子となり大正四年家督を相續す明治四十年神戸高等商業學校を卒業し現時兼松商店取締役兼輪入部長たり家族は尙二男正信(大四、二生)三男直方(同一〇、一生)三女博子(同一一、七生)四男季雄(同一五、九生)あり※九八三(神戸、熊内町二ノ七三電葺合一五三七)

片桐貞央

從三位勳三等、子爵、貴族院議員
舊和州小泉藩
男　貞臣　明四一、二生、從五位
男　貞成　明四四、九生
當家は片切源八爲基八世の孫片桐東市正且元の弟主膳正貞隆の後なり且元豐臣氏に仕へ大阪役後自刄して死す貞隆初め豐臣氏に從ひ封を播州に賜ふ後德川氏に仕へ大和國小泉一萬五千石に封ぜらるる夫より九世を經て先代貞健に至り明治十七年子爵を授けらる君實は男爵水野武の兄にして子爵水野勝邦の叔父なり明治十三年四月を以て生れ先代貞健の養子となり同二十五年家督を相續し襲爵被仰付同四十四年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し貴族院議員に當選すること二回研究會に屬し現に其任に在り義に矢作水力大阪タクシー自動車等諸會社の重役に擧げらる家族は尙庶子節比古(大元、八生、生母、埼玉、星野わか)同靜子(昭二、三生、生母同上)あり長女雪(明三八、一二生、女子學習院出身)は東京府人武藤廉長男能隣に嫁せり(東京、小石川茗荷谷町六四電小石川三〇八〇)
参照＝子爵水野勝邦、男爵水野武※男爵川口武和※鹿子木員信の項

片桐修三

藤本ビルブローカー※廣島支店支配人兼※岡山支店支配人
京都府在籍
妻　カス　明三二、八生、京都、若松信彦妹
男　英夫　大一五、一一生
當家は遠く信濃にあり至り片桐姓に改め後紀州藩に仕へたり君は和歌山藩士族片桐小八郎の二男にして明治二十六年二月を以て生れ大正十二年兄武一郎の養子となり大正十二年分家して一家を創立す家族は尙二男周藏(同一〇、一一生)三女キミ(同一二、八生)四女マサ(同一四、五生)五女玉子(昭三、一〇生)あり(東京市外吾嬬町請地五〇電墨田一〇〇八)

片口安太郎

富山縣多額納稅者、小杉銀行※頭取、富山銀行※取締役、醬油醸造業
富山縣在籍
妻　フヤ　明二七、一生、早大政治科出身
婿　時　明二九、三生、長男安之助妻、石川、岡田外茂久叔母
男　泰二郎　明三二、四生、東京外語出身、日本オデオン※取締役
婿　百合　明三六、一一生、二男泰二郎妻、富山、日南田慶富長女
男　康三　明三六、一二生
婿　ふみ　明四一、七生、三男康三妻、富山正村彌三吉孫
男　靖四郎　明四四、一生
女　やす　大四、一二生
君は富山縣人片口安二郎の長男にして明治五年十月を以て生れ大正二年家督を相續す醬油醸造業を營み傍ら小杉銀行頭取富山銀行取締役にして直接國稅二千五百三十九圓を納め縣下の多額納稅者たり曩に小杉町長に擧げらる家族は尙五男恭吾(大三、四生)孫安史(昭一、一一生、長男安之助長男)同昭(同二、七生、二男泰二郎二男)同實(同三、一二生、三男康三長男)あり三女菊(明三四、九生)は富山縣人並木清七に四女貞(同三八、一一生)は同縣人金禁西吉に嫁し五女清子(同四〇、九生)は分家し姉キク(同二、一生)は富山縣人大間知圓長衛の繼母たり(富山、射水、小杉町)
参照＝大間知圓長衛の項

片桐

妻　フヤ　安政六、四生、東京、田中庄八妹
男　貞夫　大九、二生
君は新潟縣人片桐庄二郎の四男にして明治二十一年三月を以て生れ大正八年兄庄四郎方より分れて一家を創立す夙に東京外國語學校專修科を卒業し安田銀行に入り文書課次長茅町支店副長笠岡支店長を經て現時同行米子支店長たり家族は尙二男利彌(昭三、一生)三男浩(同五、六生)あり(米子、四日市町八〇電三)

片桐與藏

家主
東京府在籍
男　ハル　明二〇、五生、新潟、廣島勝太郎
女　吉藏　大五、一生
女　イク　大二、一二生
君は新潟縣人片桐仁藏の二男にして明治十八年二月を以て生れ大正四年分家して一家を創立す家主たり家族は尙二男堅藏(大六、九生)二女千代(同八、一一生)三男周藏(同一〇、一一生)三女キミ(同一二、八生)四女マサ(同一四、五生)五女玉子(昭三、一〇生)あり(東京市外吾嬬町請地五〇電墨田一〇〇八)

片倉勝衛

妻　ときえ

君は長野縣人片倉俊太郎の長男にして明治十二年七月を以て生れ同十一年家督を相續す製絲業を營み傍ら前記諸會社の重役にして直接國稅千四百十九圓を納め長野縣多額納稅者たり又川岸村長松本商業學校明道館各理事に擧げらる妹みちよ(明一五、一二生)は長野縣人宇治光治に嫁し弟直人(同一八、一一生)は分家せり(長野、諏訪、川岸村)

參照＝片倉直人、小日友龜、金子金吾の項

片倉兼太郎

君は長野縣人先代片倉市介四男今井五介の弟同眞平の叔父なり文久二年十二月を以て生れ先代兼太郎の養子となり大正六年家督を相續し前名佐一を改め襲名す製絲業を營み傍ら諸事業を兼營し現時片倉製絲紡績會社長の外前記銀行會社の重役にして長野縣多額納稅者に列す尙諏訪同業組合長諏訪製絲研究會長長野縣生絲同業組合聯合會評議員蠶絲同業組合中央會議員及其他幾多の公職に在り名望高し大正九年紺綬褒章を賜はり更に昭和三年旭綬褒章を賜ふ二男方平(明二四、八生)三男耕介(同二七、八生)は各分家し二女かず(同三二、一〇生)は長野縣人片倉三平に嫁せり(長野、諏訪、川岸村)

參照＝今井五介、今井眞平、片倉耕介、片倉三平、片倉脩一、片倉方平、尾澤福太郎、熊谷直樹の項

片倉健吉

妻　コウ

正四位勳六等、男爵、陸軍歩兵中將、舊仙臺藩國老　明一五、三生、養父景光長女

勳八等、川岸村長、長野縣多額納稅者、片倉米穀肥料代表取締役、片倉製絲紡績、片倉産業、諏訪瓦斯、片倉江津製絲、昭和興業、佐越生絲取締役、長野縣在籍　業各種監査役、製絲

男　信光　明四二、二生、從五位
女　照　明三九、三生

當家は片倉小十郎景綱の後なり景綱伊達政宗に仕へて戰功を積み白石一萬六千石を食む夫より世々仙臺藩の國老として三萬石に列し男爵伊達宗定の叔父にして明治三年九月を以て生れ景光の養子となり同四十三年家督を相續し襲爵仰付けらる嚢に一年志願兵となり陸軍歩兵少尉に任じ同三十七年同中尉に陞る家族は尙三男孝光(大二、八生)四男健光(同四、六生)五男正光(同七、三生)六男忠光(同九、八生)あり養妹セツ(明一七、一二生)は東京府人兵頭正通弟懲輝に同キヨシ(同二八、五生)は宮城縣士族山崎鄕美二男源二郎に同邦子(同三五、三生)は高知縣士族西山政猪弟雅太郎に嫁し養叔母洋(同元、一生)は同縣人飯田懲の養子となれり(宮城、刈田、白石町)

參照＝子爵伊達宗定、西山政猪、山崎源二郎、男爵伊達宗克の項

片倉孝多

妻　きくよ

日華蠶絲㈱監査役、丸ト組製絲㈱代表社員、長野縣在籍

養子　賢一

女　まさえ　明四三、七生、山脇高女家事專攻科出身
女　梅子　明四〇、一二生、養子賢一妻

君は長野縣人片倉久兵衛の長男同義美の兄にして明治十年二月を以て生れ先代忠兵衛の養子となり同三十一年家督を相續す現時前記各會社の重役たり家族は尙孫光子(大一五、一二生、養子賢一長女)あり妹まきよ(明二二、一生)は長野縣人片倉久登に嫁せり(長野、諏訪、川岸村)

參照＝片倉久登、片倉義美の項

片倉耕介

妻　健

男　基治　大八、六生

君は長野縣人片倉兼太郎の三男同脩一同方平の弟今井五介の甥にして明治二十七年八月を以て生れ大正七年分れて一家を創立す現時松江片倉製絲會社代表取締役たる外前記各會社の重役にして藝に郡山商工會議所副會頭に擧げられ曾て歌米を漫遊す家族は尙四女亮子(大六、七生)五女妙子(同九、一生)六女京子(同一一、九生)二男俊介(同一四、五生)七女君江(昭二、一〇生)三男章雄(同四、一〇生)あり(東京、神田、駿河臺袋町一一電神田六〇三)

參照＝尾澤福太郎、片倉脩一、片倉方平、片倉健吉の項

片倉武雄

妻　さと　萬延元、一一生、長野、士、宮澤保金治長女
妻　かづ　明一〇、八生、長野、士、三村正從長女
男　亮平　明四一、四生

君は長野縣人片倉光治の二男にして明治十五年十一月を以て生れ大正六年家督を相續す現時片倉江津製絲會社長の外前記各會社の重役たり弟三平(明二三、一二生)は分家し同方介(同三三、五生)は長野縣多額納稅者武井覺太郎に同五郎(同三五、一一生)は長野縣人片倉脩一に各養子となり姉つねよ(同一三、一〇生)は同縣人宮澤源十郎に妹槇野(同一九、五生)は同縣人片倉製絲紡績會社員三輪重雄に同いその(同二一、六生)は同縣人片倉合資會社員武居哲太郎に同あい(同二七、四生)は同縣人日華蠶絲會社常務取締役鈴木格三郎に同とも(同三一、三生)は同縣人山中逸に嫁せり(東京、小石川、水道端町二ノ三五電小石川二三五五)

參照＝片倉三平、片倉脩一、鈴木格三郎、武井覺太郎、武居哲太郎の項

片倉直人

妻　織衣　明二一、七生、長野、尾澤福太郎
男　幸平　明四二、一生
女　恒子　明四三、七生
女　貞子　大元、八生

君は長野縣人片倉俊太郎の二男にして明治十八年十一月を以て生れ大正七年兄勝衛より分れて一家を創立す現時松江片倉製絲會社代表取締役たる外前記各會社の重役にして藝に郡山商工會議所副會頭に擧げられ曾て歌米を漫遊す家族は尙四女亮子(大六、七生)五女妙子(同九、一生)六女京子(同一一、九生)二男俊介(同一四、五生)七女君江(昭二、一〇生)三男章雄(同四、一〇生)あり(東京、神田、駿河臺袋町一一電神田六〇三)

參照＝尾澤福太郎、片倉脩一、片倉方平、片倉健吉の項

片倉久登

妻　まきよ　慶應元、一〇生、長野、小澤喜八長女
男　文一　明二二、一生、長野、片倉孝多妹

君は長野縣人片倉淺藏の長男にして明治十六年十一月を以て生れ大正十四年家督を相續す現時片倉滯後製絲會社取締役にして直接國稅二千八百五十八圓を納め長野縣多額納稅者たり家族は尙二女喜和子(大八、一一生)三男清志(同一一、一二生)三女德子(同一五、一一生)妹やすゑ(同二五、八生)弟榮(同三〇、四生)同妻のゆき(同三五、五生、長野、草間喜美惠長女)及其二男一女妹よし子(同四三、四生、山脇高女家事專攻科出身)あり弟賢一(同三二、二生)は長野縣人片倉孝多の養子となり妹あいの(同二七、七生)は同縣人片倉義美に嫁せり(長野、諏訪、川岸村)

參照＝片倉孝多、片倉義美の項

片倉方平

妻　うしえ　明四九、四生、長野、鷹澤丑太郎
男　信吉　大五、二生
女　こう　大三、六生

君は長野縣人片倉兼太郎の二男にして同脩一の弟同耕介の兄今井五介の甥なり明治二十四年八月を以て生れ大正五年分れて一家を創立す現に日東紡績片倉越後製絲會社取締役たる外前記各會社の重役たり嚢に鷹島紡績會社取締役に擧げらる家族は尙二女けい(大七、三生)三女けん(同九、九生)四女德(同一三、二生)五女一(同一四、一二生)二男昭榮(昭三、七生)あり(長野、諏訪、川岸村)

參照＝今井五介、今井眞平、片倉耕介、片倉三平、片倉脩一、片倉健吉、片倉武雄、片倉直人の項

片倉脩一

父　兼太郎
妻　らく
養子　五郎　明三五、一一生、長女てい夫、長野、片倉武雄弟
女　てい　明四四、二生、養子五郎妻
女　くに　大五、八生

君は長野縣人片倉兼太郎の長男同耕介同方平の兄今井五介の甥にして明治十七年九月を以て生る夙に實業界に入り父の諸事業を扶け現時ザヨイント商會取締役會長富國火災海上保險會社長等の外保險事業に關係し前記各會社の重役に擧げらる家族は尙三女廣(大九、七生)四女洋(同一一、九生)五女和惠(同一四、二生)孫千文(昭四、一〇生、養子五郎長女)ありA五四七一

分れて一家を創立す現時前記各會社の重役たり家族は尙二男正義(大一〇、五生)三男庸三(同一二、一生)四男康壽(同一四、五生)五男昭八(昭二、八生)六男久六(同四、九生)あり(長野、諏訪、川岸村)

參照＝今井五介、片倉兼太郎、片倉脩一、片倉方平、片倉三平の項

片倉三平

妻　かず　明三二、一〇生、長野、片倉兼太郎二女
男　清雄　大九、八生

君は長野縣人片倉光治の三男にして明治二十三年十二月を以て生れ大正七年兄武雄方より分れて一家を創立す夙に實業に從事し現時片倉越後製絲會社長たる外前記各會社の重役を兼ぬ家族は尙長女乃壽(大八、五生)二女淑子(同一二、六生)あり(長野、諏訪、川岸村)

參照＝片倉兼太郎、片倉武雄、片倉耕介、片倉脩一、片倉方平、尾澤福太郎、武居哲太郎の項

片倉脩一

父　兼太郎
妻　らく
養子　五郎　明三五、一一生、長女てい夫、長野、片倉武雄弟
女　てい　明四四、二生、養子五郎妻
女　くに　大五、八生

君は長野縣人片倉兼太郎の長男同耕介同方平の兄今井五介の甥にして明治十七年九月を以て生る夙に實業界に入り父の諸事業を扶け現時ザヨイント商會取締役會長富國火災海上保險會社長等の外保險事業に關係し前記各會社の重役に擧げらる家族は尙三女廣(大九、七生)四女洋(同一一、九生)五女和惠(同一四、二生)孫千文(昭四、一〇生、養子五郎長女)ありA五四七一

(東京、小石川、金富町六電小石川一六五三)

參照＝今井五介、片倉兼太郎、片倉耕介、片倉武雄、片倉方平、尾澤福太郎、武居哲太郎の項

片倉武雄

妻　さと　萬延元、一一生、長野、士、宮澤保金治長女
妻　かづ　明一〇、八生、長野、士、三村正從長女
男　亮平　明四一、四生

君は長野縣人片倉光治の二男にして明治十五年十一月を以て生れ大正六年家督を相續す現時片倉江津製絲會社長の外前記各會社の重役たり弟三平(明二三、一二生)は分家し同方介(同三三、五生)は長野縣多額納稅者武井覺太郎に同五郎(同三五、一一生)は長野縣人片倉脩一に各養子となり姉つねよ(同一三、一〇生)は同縣人宮澤源十郎に妹槇野(同一九、五生)は同縣人片倉製絲紡績會社員三輪重雄に同いその(同二一、六生)は同縣人片倉合資會社員武居哲太郎に同あい(同二七、四生)は同縣人日華蠶絲會社常務取締役鈴木格三郎に同とも(同三一、三生)は同縣人山中逸に嫁せり(東京、小石川、水道端町二ノ三五電小石川二三五五)

參照＝片倉三平、片倉脩一、鈴木格三郎、武井覺太郎、武居哲太郎の項

片倉直人

妻　織衣　明二一、七生、長野、尾澤福太郎
男　幸平　明四二、一生
女　恒子　明四三、七生
女　貞子　大元、八生

君は長野縣人片倉俊太郎の二男にして明治十八年十一月を以て生れ大正七年兄勝衛より分れて一家を創立す現時松江片倉製絲會社代表取締役たる外前記各會社の重役にして藝に郡山商工會議所副會頭に擧げられ曾て歌米を漫遊す家族は尙四女亮子(大六、七生)五女妙子(同九、一生)六女京子(同一一、九生)二男俊介(同一四、五生)七女君江(昭二、一〇生)三男章雄(同四、一〇生)あり(東京、神田、駿河臺袋町一一電神田六〇三)

參照＝尾澤福太郎、片倉脩一、片倉方平、片倉健吉の項

片倉久登

妻　まきよ　慶應元、一〇生、長野、小澤喜八長女
男　文一　明二二、一生、長野、片倉孝多妹

君は長野縣人片倉淺藏の長男にして明治十六年十一月を以て生れ大正十四年家督を相續す現時片倉滯後製絲會社取締役にして直接國稅二千八百五十八圓を納め長野縣多額納稅者たり家族は尙二女喜和子(大八、一一生)三男清志(同一一、一二生)三女德子(同一五、一一生)妹やすゑ(同二五、八生)弟榮(同三〇、四生)同妻のゆき(同三五、五生、長野、草間喜美惠長女)及其二男一女妹よし子(同四三、四生、山脇高女家事專攻科出身)あり弟賢一(同三二、二生)は長野縣人片倉孝多の養子となり妹あいの(同二七、七生)は同縣人片倉義美に嫁せり(長野、諏訪、川岸村)

參照＝片倉孝多、片倉義美の項

片倉義美

妻　たみの　明二七、九生、東京、美馬良藏妹
男　實　大九、二生
女　八重　大三、四生
女　靜　大五、一一生

君は德島縣人片田彌九郎の二男にして明治二十三年四月を以て生れ大正十年分れて一家を創立す夙に德島縣立宮岡中學校を卒業し古河銀行に入り山谷支店長代理千住支店長を經て現時元濱町支店長たり家族は尙二男襄(大一二、八生)三女輝(同一五、一一生)四女玲(昭四、一〇生)あり(東京市外戸塚町上戸塚九六七)

片野久治

妻　愛　明二八、一〇生、京都、安盛善兵衛妹
男　義治　大八、一一生
養子　恒子　大五、一二生、兵庫、片野雄二長女

君は兵庫縣人片野喜介の長男にして明治二十六年十月を以て生れ後家督を相續す現時片野汽船會社代表社員にして又前記會社の代理店課長たり妹喜久子(明三〇、二生)叔母やく(同八、五生)は各分家せり(神戸、山本

通四ノ八ノ一電麻合三四〇〇)
参照＝片野堆二郎石丸英一の項

片野重脩

母　トメ　明三〇、一二生、秋田、士、寺田隆造姉
妻　ソノ　助長女

當家は舊秋田藩老臣村家の隷臣にして代々横手町に住す君は先代茂の長男にして明治二十四年一月を以て生れ昭和二年家督を相續す夙に東京帝國大學法科大學政治科に學び農業を替み傍ら秋田銘醸會社取締役たる外前記會社の重役にして又新南新報社を主宰す昭和五年衆議院議員に選ばれ立憲政友會に屬す義に秋田縣會議員に當選する事數回昭和三年同議長に推され又横手織物會社長新秋田新聞社副社長たりし事あり弟復次郎(明二七、六生)は其妻リン(同三二、一一生、秋田、鎌田圓治孫)を伴ひ妹ヒテ(同三、一二生)は同夫忠吉(同三〇、九生、秋田、須藤慶四郎二男)と共に叔母ヒサ(同五、七生)は其妻ソノ(同一九、一一生、秋田、奈良右左衛門妹)を伴ひ各分家し妹タカ(同三六、四生)は前記叔父祐吉の養子となれり(秋田、平鹿、横手町)
参照＝奈良右左衛門氣板谷五郎左衛門氣加賀谷富太郎氣那波三郎右衛門の項

片野滋穂

第一銀行匝札幌支店長
岐阜縣在籍
妻　静子　明三四、七生、兵庫、堀尾晴光二女
男　秀穂　明四二、三生
女　俊子　明四五、二生

君は岐阜縣人河合繁右衛門の二男にして明治十一年一月を以て生れ先代小十郎の養子となり大正五年家督を相續す明治四十年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し第一銀行に入り京都支店副支配人釜山廣島福岡門司各支店支配人を經て現時同行札幌支店長たり家族は尚(札幌、南九條西六丁目)二女壽子(同一五、一生)あり
参照＝氣今西龍の項

片野實之助

妻　ふい　太平洋海上火災保險㈱專務取締役
男　實雄　明一四、一二生、三重、伊藤常七長女
男　實雄　明三六、七生
女　周子　大四、八生

君は東京府人片野清兵衛の四男にして明治九年五月を以て生れ昭和二年家督を相續す明治三十一年東京高等商業學校を卒業し義に大阪高等商業學校長に任じ大阪商業會議所特別議員に擧げらる現時太平洋海上火災保險會社專務取締役たり家族は尚三男元男(大元、一生)二女晴子(同九、四生)あり姪ヒサ(明二八、一生、亡兄千壽郎長女)は東京府人諸岡甲松に同斤子(同三七生、同三女)は滋賀縣人宮脇剛三二男不二男に嫁せり(大阪、天王寺、北山町電南三六五八)

正五位勳四等、今治市長
愛媛縣在籍

君は佐賀縣士族石丸忠英の四男にして同忠實同英一岡崎忠雄の弟なり明治二十五年三月を以て生れ大正五年先代喜久子の入夫となり家督を相續す同七年慶應義塾卒業し現時前記會社の重役にして推されて神戸大學を卒業し現時前記會社の重役にして推されて神戸商工會議所議員たり義に神戸岡崎銀行營業部長たりし事あり家族は尚二女弘子(大一〇、八生)あり長女恒子(同五、一二生)は兵庫縣人片野久治に二男賢二(同一一、九生)は佐賀縣人石丸マツに各養子となり三男三郎(同一四、七生)は奈良縣人松尾七郎の家籍に入れり
A一四七二(神戸、西須磨中今池二一電須磨一〇〇四)
参照＝石丸英一、石丸忠實、岡崎忠雄、片野久治氣草場榮喜氣南部次郎の項

片屋永之助

妻　ヤス　秋田市會議員、秋田商工會議所議員、日東㈱專務取締役、秋田魁新報社、秋田醸造各㈱監査役
男　豐治　明八、八生、秋田、田宮多七三女
嫡　ハル　明三二、九生
女　ヒサ　明三六、一生、三男豐治妻、秋田進藤作之助三女
男　三郎　明三八、五生
女　明四〇、六生

君は秋田縣人片屋佐一郎の長男にして明治三年四月を以て生れ同四十三年家督を相續す現時前記諸會社の重役にして秋田市會議員秋田商工會議所議員たり家族は尚六男七郎(大三、六生)七男龜治(同七、六生)孫悦郎(昭二、四生、三男豐治長男)同惇治(同五、三生、同二男)あり二女ハル(明三〇、三生)は秋田縣人明間岩藏に三女ナチ(同三五、一生)は同縣人小谷部城之助に嫁せり(秋田市茶町菊ノ丁二六電一〇八)

片山宇一

勳八等、大阪市南區長
山口縣在籍
妻　ツチノ　明八、四生、山口、松浦洋繁長女
養子　鼎　明三六、五生、山口、吉富勝三三男

君は山口縣人龍崎吉好の四男にして明治五年十一月を以て生れ先代萬次郎の養子となり同十八年家督を相續す現時大阪市南區長たり(大阪、天王寺、生玉寺町三〇電南一五〇)

片山鬼作

研數學館主
東京府在籍
妻　モミ　明一五、六生、愛媛、越智長太郎妹
男　政男　大元、一〇生
女　義子　明四三、一生

君は愛媛縣人片山房吉の二男にして明治十七年九月を以て生れ同三十一年分れて一家を創立す現時研數學館主たり(東京市外高田町雜司ヶ谷四七八電牛込二八七八)

片山喜三郎

妻　シケ　喜樂堂、噴泉浴場、攝陽土地商事
男　政彰　明一七、一一生、德島、大塚直太郎二女　門司築港各㈱取締役、千日土地建物、新花壇泉土地、大阪毎夕新聞社、大阪土地建物各㈱監査役、帝國馬匹協會、帝國競馬倶樂部各理事、大阪府士族
庶子　博子　明四二、三生
大元、一〇生、生母、大阪、今橋ミヤ

君は香川縣人近藤茂平の二男にして菊野庄三郎の兄なり慶應三年十一月を以て生れ明治十八年先代岩吉の養子となり家督を相續す夙に愛媛縣中教院及法律學院に學び岡山縣に奉職せしが後實業界に入り日韓貿易東京海國生命保險上菱醤油帝國製糖關西汽船各會社及琴平銀行大阪同盟貯蓄銀行等の重役に歴任し現時前記諸會社の重役にして帝國馬匹協會理事其他前掲の職にあり義に香川縣會議員に當選し又巴里萬國大博覽會香川縣出品總代に擧げられ輸出品調査の爲め歐米に出張す家族は尚二男喜三(大六、一一生)あり(大阪、天王寺、伶人町一三九電天王寺一〇二七)
参照＝菊野庄三郎の項

片山金太郎

郡是製絲㈱專務取締役
京都府在籍
妻　正一　明三一、二生
嫡　君代　明三七、二生、二男正一妻、京都内藤元吉長女
男　英二　明三六、一二生
女　とし子　明四二、九生
女　しげ子　明四四、五生

君は京都府人片山卯左衛門の長男にして明治元年十月を以て生れ同二十二年家督を相續す現時郡是製絲會社專務取締役たり家族は尚八男徹(大八、四生)孫眞澄(同一二、七生、二男正一長男)同昭子(昭二、三生、同長女)同英子(同五、一生、同二女)あり三男讓治(明三三、二生)は同妻萩(同三七、一二生、東京、押川方義孫(及其一子を伴ひ弟清吉(同一〇、八生)は同妻テル(同九、八生、廣島、中鹽利平五女)と共に分家し甥德治(同三二、四生、妹とよ三男)も亦分家し六男靜治(大四、九生)は京都府人片山清吉に弟卯之助(明八、三生)は同府人眞下勝藏に各養子となり妹とよ(同五、九生)は同府人林吉之助に同こと(同一八、三生)は同府人眞下新之助に嫁せり(京都、何嶌、吉美村靈綾部一三四)

片山謹一郎

正五位勳四等、東海鋼業㈱取締役
東京府在籍
妻　トモ　明一三、六生、鹿兒島、村田一郎長女
男　國光　明三八、一〇生、明治大學商學部出身
男　國雄　明四三、九生、東京高等音樂學院在學
女　夏子　大四、八生、佛英和高女在學

君は靜岡縣人片山龍庵の三男にして醫學博士片山國嘉の弟に當り明治元年六月を以て生れ同二十九年兄靜市方より分れて一家を創立す同二十九年帝國大學工科大學電氣科を卒業し古河鑛業所に入り水電事業に從事し官立製鐵所の創立せらるゝや其の技師となり進んで勅任官に昇る其の間歐米に遊びし事あり現時前記會社の重役たり家族は尚三男三郎(大九、七生)庶子守泰(同七、八生)あり(東京、麻布、霞町六電青山六七〇一)
参照＝片山國嘉、村田一郎氣野澤武之助の項

片山久壽賴

醫學博士、横濱市十全醫院長、横濱愛記念病院長、醫師
茨城縣在籍
妻　たか　郎妹　明二二、一〇生、茨城、村野金次
男　久春　明四四、四生
女　ひろ　大四、六生

君は高知縣人中ノ内昌儀の二男にして明治十三年七月を以て生れ同三十五年絶家片山家を再興す同四十一年東京帝國大學醫科大學を卒業し熊本廣島各縣立病院外科部長横濱市十全醫院副院長兼外科醫長等に歴任し現大正十年醫學博士の學位を受く義に研究の爲外遊せり家族は尚二女愛子(大七、二生)四男一(同一四、一生)三三、二生)は同妻萩(同三七、一二生、東京、押川方義孫(及其一子を伴ひ弟清吉(同一〇、八生)は同妻テル(同九、八生、廣島、中鹽利平五女)と共に分家し甥德治(同三二、四生、妹とよ三男)も亦分家し六男靜治(大四、九生)は京都府人片山清吉に弟卯之助(明八、三生)は同府人眞下勝藏に各養子となり妹とよ(同五、三女壽子(大七、一生)あり(東京、麻布、霞町六電青山六七〇一)
参照＝片山國嘉、村田一郎氣野澤武之助の項

片山國嘉

正三位勳一等、醫學博士、東京帝國大學名譽教授、日本皇室學會長
東京府在籍
妻　かめ　慶應元、六生、高知、士、山川幸喜二女
男　國寺　明一七、九生、醫學博士、東京慈惠會醫科大學教授、片山病院長
嫡　喜美　明三五、一生、長男國寺妻、北海道、石館友作長女

君は靜岡縣人片山龍庵の二男にして同謹一郎の兄なり安政二年七月を以て生れ明治二十九年分れて一家を創立す同四年大學東校に入り同十二年東京大學醫學部を卒業す同十四年醫科大學御用掛となり翌年内務省衛生局に彙務し同十七年獨逸に留學を命ぜられ法醫學を專攻す同二十一年大學教授に任ぜられ同二十四年醫學博士の學位を受け法醫學の泰斗にして著書多なり現時前記の各名譽職に在り長女よし江(明二二、一〇生)は東京府士族山川勇木長男鱗一郎に嫁し二男國忠(同二五、三生)は分家せり(神奈川、足柄下、小田原町)
参照＝石館友作、片山謹一郎氣中濱東一郎の項

片山桂治郎

片山桂商店㈱專務取締役、京都府在籍
妻　ヒテ　明三四、九生、片山桂商店㈱常務取締役
男　桂一　明三九、一一生、長男桂一妻、京都、檀野卯三郎姉
嫡　千代　明四四、三生
女　静枝

君は京都府人加藤所平の長男にして明治六年十二月を以て生れ片山喜佐太郎の養子となり同三十四年養弟德三郎方より分れて一家を創立す木綿商を營み前記會社の重役たり家族は尚三女寫代(大八、七生)孫千江子(同一四、二生、長男桂一長女)同桂三(昭二、一一生、同長男)同泰子(同四、一〇生、同二女)あり二男國藏(明三六、八生)は其妻綾子(同四〇、一生、京都、福富左衛三長女)を伴ひ分家せり
A三七一(京都、中京、衣棚夷川下ル電上二二六)

片山三郎

從四位勳三等、前臺北州知事
京都府在籍
妻　操　明二一、一一生、東京、士、國分三女長女
男　義雄　大二、一生
女　禮子　大四、九生

君は京都府士族片山龜次郎の二男にして明治十二年六

月を以て生れ大正十年分れて一家を創立す明治三十四年東京專門學校法學部を卒業し同年判檢事登用試驗に合格司法官試補となり次で檢事に任じ大阪區同地方各裁判所檢事を經て同四十年林務官に任じ大阪區同地方各官補同事務官水產講習所教授兼農商務書記官水產局書記官農商務書記官臺灣總督府殖產局長臺南州知事等に歷任し昭和四年臺北州知事に任ぜられ同六年五月退官す家族は尙四女澄子(大九、七生)二男泰二(同一二、三生)三男三產(同一五、九生)五女悅子(昭三、一二生)、あり長女靜子(明四〇、二生)は東京府人笹村吉郎長男寬に二女三重子(同四三、三生)は東京府人青木菊雄二男定雄に嫁せり(京都、久世、淀町)

參照＝青木菊雄、片山義勝、笹村吉郎、國分三亥冫能勢萬冫松岡豐五郎の項

片山茂

大連中央土地㈱大連支店長
愛知縣在籍

母　しげ　慶應元、六生、岐阜、青木林三郎長女

妻　キク　明二一、二生、神奈川、名取信太郎長女

君は愛知縣人片山竹治郎の長男にして明治十六年十二月を以て生れ大正十年家督を相續す夙に愛知第一中學校に學び日本銀行久原鑛業鐵道富士製紙久原商事各銀行會社に勤務し現時大連中央土地會社大連支店長たり(大連、櫻花臺七二)

片山茂樹

從五位、九州帝國大學教授、農學部勤務、岡山縣在籍

母　松野　元治元、一二生、岡山、士、上島泰之妹

妻　米　明三二、四生、愛知、士、伊勢本一郎長女

君は岡山縣人片山才太の二男にして明治二十一年九月を以て生れ大正三年家督を相續す同年東京帝國大學農科大學林學科を卒業し山林技手に任じ爾來山林技師農商務技師營林局技師兼農商務技師九州帝國大學助教授等に歷任し昭和二年獨米瑞各學に留學を命ぜられ歸朝後同四年九州帝國大學教授に任じ現に農學部勤務たり家族は尙長女芳子(大一二、六生)二女博子(同一五、三生)三女美智子(昭五、五生)あり妹シナ(明二三、七生)は京都府人安盛常次郎長男常三郎に嫁せりA一三七〇B四三六(京都、下京、油小路御前角電下八五四)

片山次雄

東洋麻糸紡績㈱取締役
熊本縣士族

父　哲　弘化四、五生
男　次剛　大六、一一生
女　吉子　明四三、一一生
女　雄子　大二、六生

君は熊本縣士族片山哲哉の二男にして明治十年二月を以て生る同三十九年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し現時東洋麻糸紡績會社取締役にして蠶に矢作水力電氣會社監査役たり家族は尙三男次直(大八、一一生)四男次明(同一〇、二生)及庶子次高(昭三、九生、生母、長崎、田中シケ)姪辰子(明四一、四生、亡兄敏彥長女、現戸主)伯母登喜(安政五、三生)あり(東京、小石川、雜司ケ谷町一一二)

片山哲

衆議院議員(神奈川縣選出)、辯護士、和歌山縣士族

父　省三　嘉永五、二生
妻　きくゑ　明二七、一〇生、愛知、清水德太郎長女

男　純　大七、一〇生

君は和歌山縣士族片山省三の長男にして明治二十年七月を以て生れ大正九年家督を相續す先是明治四十五年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し辯護士にして昭和五年神奈川縣より推されて衆議院議員に當選し社會民衆黨所屬たり家族は尙二女文代(大一一、三生)三女澄(同一五、三生)二男民雄(昭三、七生)あり長女照代(大四、九生)は茨城縣人栗生豊藏の養子となり妹鹿子(明三二、一〇生)は東京府人羽田益吉長男誠に同好子(同三六、三生)は和歌山縣人川村常夫四男源四郎に嫁し弟通夫(同二四、九生)は其妻子を伴ひ分家せり(神奈川、鎌倉、川口村片瀨竈片瀨二一二)

一生)は東京府人河田杰に同積子(同三六、一生)は同府人鹽田武に嫁せり(福岡市谷町四)

參照＝伊勢本一郎、河田杰の項

片山繁雄

三井㈱囑託
岡山縣士族

妻　滿壽　明一三、九生、岡山、士、石本於義太妹
男　雄一　明三三、九生、東京外語出身
男　森數樹　明四〇、二生、長男雄一妻、岡山士、森數樹妹
婦　君枝　明三七、一生、理學士、三菱商事會社員
男　龍二　明四二、五生
男　信四郎　大元、一一生
女　壽美　大元、一一生

君は岡山縣士族片山熊太郎の長男にして明治八年六月を以て生れ同三十九年家督を相續す同三十一年東京帝國大學法科大學を卒業し爾來三井銀行支店長同外國課長朝鮮銀行理事三井信託會社副社長朝鮮京南鐵道會社取締役會長等に就任す現時三井合名會社囑託たり家族は尙三女壽榮(大七、六生)孫滿枝(昭二、八生、長男雄一長女)同洋一(同四、六生、同長男)あり長女滿理(明四三、九生)は東京府人千頭暎臣に嫁せりA一二五六(東京市外代々幡町代々木九五電四谷一五三二)

參照＝森數樹冫大築佛郎冫松本健三冫森彥三の項

片山周八

大阪府多額納稅者、片山商店名代表社員、洋反物商、大阪府在籍

妻　コモン　明一三、一一生、大阪、藤井卯三郎長女
養子　友一　明二一、八生、甥片山右一弟
婦　一猶　明二九、二生、養子友一妻、德島片山熊太郎二女

君は德島縣士族片山辰藏の四男にして明治二年十一月を以て生れ同二十八年分れて一家を創立す洋反物商を營み現時片山商店代表社員にして大阪府多額納稅者たり家族は尙孫卓一(大七、九生、養子友一三男)同温之(昭二、二生、同六男)あり養子トメ(明二五、一生、甥片山右一妹)は埼玉縣人細井篤郎に嫁し孫隆行(大一一、一二生、養子友一五男)は大阪府人藤井正雄の養子となれり(大阪、南、心齋橋筋一ノ二〇電南三四一〇)

片山眞五郎

圓佛古賀商店經監査役、三井鑛山㈱三池鑛業所次長、山口縣士族

妻　さだ　明一九、一一生、愛知、大村屯長女
養子　眞一　大四、一二生、愛知、大村有隣四男

君は山口縣人片山友補の二男にして明治九年八月を以て生れ先代中行の養子となり大正十一年家督を相續す明治三十年東京高等商業學校を卒業し現時三井鑛山會社三池鑛業所次長にして傍ら圓佛古賀商店監査役たり(大牟田、山上町七)

參照＝大村有隣の項

片山太郎

奈良縣多額納稅者、農業
奈良縣在籍

妻　こな　明九、七生、奈良、新野陣太郎二女
男　太二　明三六、三生、奈良
女　タム　明四三、四生、縣立高田高女出身
女　タナ子　大四、三生

片山家は代々舊郡山藩配下に在りて藩の金子御用達を勤め苗字帶刀を許さる曾祖父太右衛門の代に至り特に片山姓を賜はり舊姓吉田を廢し今日に及べり君は先代太平の長男にして明治元年四月を以て生れ同十六年家督を相續す祖業を繼ぎ農業を營み直接國稅一千三百四十八圓を納め奈良縣多額納稅者たり曩に衆議院議員に當選す家族は尙六女智江子(大九、三生)あり長女サタ(明三七、八生、縣立五條高女出身)は奈良縣人谷芳三郎長男喜太郎に二女タヨ(同四〇、五生、縣立櫻井高女出身)は岡山縣人佐藤榮八に三女タイ(同四一、九生、縣立奈良高女出身)は奈良縣人菅生善胤長男義男に姉マチ(安政四、五生)は同縣人山岡甚三郎二男豐治郎に同ちよ(同六、五生)は同縣人山岡甚三郎二男重野(同八、二生)は同縣人竹村貞齊長男醫師武治に養子かつ(同六、六生、亡叔父太次郎長女)は大阪府人眞木甚之輔に嫁し弟市太郎(同一〇、二生)は同府人妻鹿友樵に同莊平(同一二、一〇生)は同府人杉山關郎に各養子となれり(奈良、磯城、川西村)

參照＝冫豐田秀次郎の項

片山長兵衛

鍵長、法衣佛具商
京都府在籍

母　りう　萬延元、七生、京都、堤彌兵衛二女
妻　ユキ　明二五、四生、京都、松尾嘉平治三女

男　傳一　大五、四生
女　綾子　大元、八生
女　泰子　大三、八生

君は京都府人先代長兵衛の長男にして明治十七年四月を以て生れ同二十五年家督を相續し前名千代太郎を改む鍵長と稱し法衣佛具商を營む家族は尙三女雅子(大七、一二生)四女敏子(同一〇、八生)二男晃(同一四、七生)五女藤子(昭三、五生)あり妹シナ(明二三、七生)は京都府人安盛常次郎長男常三郎に嫁せりA一三七〇B四三六(京都、下京、油小路御前角電下八五四)

片山次雄

東洋麻糸紡績㈱取締役
熊本縣士族

父　哲　弘化四、五生
男　次剛　大六、一一生
女　吉子　明四三、一一生
女　雄子　大二、六生

君は熊本縣士族片山哲哉の二男にして明治十年二月を以て生る同三十九年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し現時東洋麻糸紡績會社取締役にして蠶に矢作水力電氣會社監査役たり家族は尙三男次直(大八、一一生)四男次明(同一〇、二生)及庶子次高(昭三、九生、生母、長崎、田中シケ)姪辰子(明四一、四生、亡兄敏彥長女、現戸主)伯母登喜(安政五、三生)あり(東京、小石川、雜司ケ谷町一一二)

片山哲

衆議院議員(神奈川縣選出)、辯護士、和歌山縣士族

父　省三　嘉永五、二生
妻　きくゑ　明二七、一〇生、愛知、清水德太郎長女

男　純　大七、一〇生

君は和歌山縣士族片山省三の長男にして明治二十年七月を以て生れ大正九年家督を相續す先是明治四十五年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し辯護士にして昭和五年神奈川縣より推されて衆議院議員に當選し社會民衆黨所屬たり家族は尙二女文代(大一一、三生)三女澄(同一五、三生)二男民雄(昭三、七生)あり長女照代(大四、九生)は茨城縣人栗生豊藏の養子となり妹鹿子(明三二、一〇生)は東京府人羽田益吉長男誠に同好子(同三六、三生)は和歌山縣人川村常夫四男源四郎に嫁し弟通夫(同二四、九生)は其妻子を伴ひ分家せり(神奈川、鎌倉、川口村片瀨竈片瀨二一二)

參照＝片山通夫の項

片山徹吉

從四位勳三等、工業試驗所技師、大阪工業試驗所第二部長
東京府士族

妻　せき　明一五、六生、東京、士、高橋辰次郎妹
女　トシ子　明四一、九生
女　モト子　大三、一二生

君は新潟縣士族南部信近の四男にして友田貞吉の弟なり明治十三年三月を以て生れ後先代本次郎の養子となり同四十五年家督を相續す同三十四年東京帝國大學工科大學應用化學科を卒業し臺灣總督府專賣局技師同府研究所技師研究所化學部長同府技師等に歷任し現時工業試驗所技師にして大阪工業試驗所第二部長たり曩に獨逸に留學す長女よし子(明三六、一二生)は福井縣人古市利三郎養子誠に二女ノア子(同三八、一一生)は熊本縣人梅村榮三郎長男榮に三女シヅ子(同四〇、九生)は德島縣人大浦倉之助二男修一に嫁せり(大阪、西淀川大仁町大阪工業試驗所內)

參照＝高橋辰次郎、友田貞吉の項

片山外美雄

從四位勳三等、農學博士、九州帝國大學教授、農學部勤務
福岡縣在籍

妻　はる　明一四、一生、東京、本鳥正輔姉
養子　外雄　大六、一一生、兄外與作三男

君は東京府士族片山平八の三男にして明治十年二月を以て生れ同三十四年兄外與作方より分れて一家を創立す同三十五年東京帝國大學農科大學農藝化學科を卒業し大學院に入り同大學講師となり次で瓜哇爪蘭島に製茶を研究し又獨逸に留學し製糖法を修む歸朝後同四十一年農事試驗場技師に任じ爾來弘前區八戸區福井區同地方名古屋區同地方德島區同地方宇都宮區同地方長野區同地方上田區千葉區同地方大阪地方同區大津地方同區東京地方同區八王子區各裁判所檢事に歷補し小田原區裁判所檢事沼津區裁判所檢事兼靜岡地方沼津支部檢事を經て昭和五年現職小樽區兼札幌地方各裁判所檢事に補せらる家族は尙三女和(大八、五生)四女扶佐(同一三、一生)五女八重(同一五、五生)兄正秀(明九、六生、現戸主)同妻榮(同一六、六生、石川、谷內良唯女)及其子女あり弟登(同一七、四生)は其妻子女を伴ひ分家し同榮作(同一五、五

年先代カメの入夫となり家督を相續す同四十一年神戸高等商業學校を卒業し同四十四年日本綿花會社に入り本店詰米國テキサス出張所詰船場支店受渡課長を經て大正八年本店受渡課長に進み現時支店課次長たり家族は尙長女喜美子(大一一、七生)あり(大阪、天王寺、小宮町三五電南八三一八)

參照＝佐渡島英祿、鈴鹿昌一冫森耕西廣重の項

片山登

正五位勳二等、海軍少將、海軍々令部出仕、兵庫縣在籍

妻　光　明二三、八生、兵庫、三上豐夷長女、神戸女學院出身

男　博　大二、一〇生
男　道　大二、一〇生

君は石川縣人片山拓の弟にして明治十七年四月を以て生れ大正十年分れて一家を創立す明治三十七年海軍兵學校を卒業し海軍少尉に任じ昭和五年海軍少將に昇進す其間兵學校教官水路部分員艦艇艦長富士教官兼大學校教官間宮特務艦長軍令部出仕平戸艦長吳海軍港務部長等を歷補し昭和五年現職海軍々令部出仕に補せらる家族は尙長女惠美子(大八、七生)二男順也(同一〇、二生)あり(東京市外大崎町上大崎七九〇)

參照＝片山拓、三上豐夷冫三上清一郎の項

片山拓

正五位勳四等、檢事、小樽區裁判所檢事兼札幌地方裁判所檢事
石川縣在籍

妻　サザ　明二五、二生、佐賀、士、關清英長女
男　大元、七生
女　田鶴　大二、一二生
女　幸　大四、一生

君は石川縣人片山喜右衛門の二男にして明治十一年四月を以て生れ前名喜二郎を改む同三十六年明治法律學校を卒業し判檢事登用試驗に合格同三十九年檢事に任じ爾來弘前區八戸區福井區同地方名古屋區同地方德島區同地方宇都宮區同地方長野區同地方上田區千葉區同地方大阪地方同區大津地方同區東京地方同區八王子區各裁判所檢事に歷補し小田原區裁判所檢事沼津區裁判所檢事兼靜岡地方沼津支部檢事を經て昭和五年現職小樽區兼札幌地方各裁判所檢事に補せらる家族は尙三女和(大八、五生)四女扶佐(同一三、一生)五女八重(同一五、五生)兄正秀(明九、六生、現戸主)同妻榮(同一六、六生、石川、谷內良唯女)及其子女あり弟登(同一七、四生)は其妻子女を伴ひ分家し同榮作(同一五、五

生)は石川縣人小槻芳母ニリの養子となり妹美和(同二四、八生)は東京府士族岡百世弟碩人に嫁せり(小樽、匿裁判所檢事局内)

参照＝岡百世、片山登家稿深鱗藏の項

片山寛

妻　トヨ　從四位勳四等、東京外國語學校教授、長野縣士族

男　道雄　明一九、九生、東京、士、井深梶之助二女

女　ゆき　大七、一生

女　ふみ　明四三、二生、東京晉樂學校出身

女　ちづ　大二、一一生　大四、五生、東京女高師附屬高女在學

君は長野縣士族片山和美の二男にして明治十年十一月を以て生れ同三十八年家督を相續す同三十三年東京外國語學校英語科を卒業し同三十八年臨時教員養成所教授兼東京外國語學校教授となり今日に至る大正六年支那及比律賓に出張を命ぜられ外務省囑託として大正十年より同十四年までロンドンに滞在す家族は尚二男久雄(昭二、一生)弟健(明一八、一生)同妻はつ(同一九、六生、長野、田村恕長女)及其子女弟俊(同二〇、一生、大阪商大傳科教授)同妻舒(同二四、四生、神奈川、河原山慥武妹)及其三女弟毅(同二五、一生、第一高等學校教授)同直(同二八、六生、農學士)同妻ほな子(同二八、一〇生、長野、日下部恕叔母)及其二子弟尚(同三四、六生、成蹊高等學校教授)同妻淑子(同四〇、一〇生、宮城、八島紀孫)及其一子あり弟儁(同一五、一一生、東京藥學校出身)は分家し同亮(同二二、七生、工學士)同妻京(同二八、四生、長野、小口米吉長女)は其子女を伴ひ小口家に入籍せり(東京市外井荻町上井草原一四一二電荻窪三七七)

参照＝井深梶之助家荒川文六家眞野文二家和田仙太郎の項

片山眞喜太

安田銀行穂觀音寺支店長　岡山縣在籍

妻　金代　明二〇、一生、岡山、小林長平三女、岡山高女出身

男　英典　大四、一一生

女　美好　明四二、三生、三豐高女出身

君は岡山縣人片山利愛治の三男にして明治十九年十月を以て生れ同四十年分れて一家を創立す同三十三年安田銀行に入り現時同行觀音寺支店長たり家族は尚三男晳元(大八、一一生)二女良子(同一一、九生)四男俊(昭二、一生)あり(香川、三豐、觀音寺町電二二)

片山正夫

從三位勳二等、理學博士、東京帝國大學教授、理學部勤務、理化學研究所研究員、岡山縣在籍

妻　知可雄　明一七、一二生、東京、士、鈴木雄輔姉、御茶水高女出身

男　信夫　明四三、一生、東大理學部在學

女　秀子　明四五、一生、東京府立第二高女出身

女　道子　大四、九生、御茶水高女在學

君は岡山縣人片山精吾の二男にして明治十年九月を以て生れ同三十八年家督を相續す同三十三年東京外國語學校英語科を卒業し同三十八年臨時教員養成所教授兼東京外國語學校教授に任じ同三十九年專任東京外國語學校教授となり今日に至る大正六年支那及比律賓に出張を命ぜられ外務省囑託として大正十年より同十四年までロンドンに滞在す家族は尚二男久雄(昭二、一生)弟健(明一八、一生)同妻はつ(同一九、六生、長野、田村恕長女)及其子女弟俊(同二〇、一生、大阪商大傳科教授)同妻舒(同二四、四生、神奈川、河原山慥武妹)及其三女弟毅(同二五、一生、第一高等學校教授)同直(同二八、六生、農學士)同妻ほな子(同二八、一〇生、長野、日下部恕叔母)及其二子弟尚(同三四、六生、成蹊高等學校教授)同妻淑子(同四〇、一〇生、宮城、八島紀孫)及其一子あり弟儁(同一五、一一生、東京藥學校出身)は分家し同亮(同二二、七生、工學士)同妻京(同二八、四生、長野、小口米吉長女)は其子女を伴ひ小口家に入籍せり(東京市外井荻町上井草原一四一二電荻窪三七七)

参照＝井深梶之助家荒川文六家眞野文二家和田仙太郎の項

片山正雄

正四位勳三等、九州帝國大學教授、法文學部勤務、山口縣士族

妻　ハル　明二、四生、山口、士、吉武唯一姪

男　博明　明四〇、一一生

男　泰雄　明四三、七生

女　フミヨ　大五、四生

女　大ミヨ　大五、一二生

君は山口縣士族片山敬助の二男にして明治十二年八月を以て生れ同三十年先代母タケの後を承けて家督を相續す同三十五年東京帝國大學文科大學獨文科を卒業し獨逸に留學す歸朝後第二第三各高等學校教授に歷任し現時九州帝國大學教授たり家族は尚三女シヅ(大八、一〇生)四女ユカ(同一二、三生)あり(福岡市鳥飼二ノ三一九電一三一八)

参照＝家村信行の項

片山增五郎

米穀商　大阪府在籍

妻　トセ　明一一、六生、大阪、坊野喜八三女

男　增一　明三一、一二生、早大文科出身

男　增一　明三四、九生、長男增一妻、大阪小松伊助妹

婦　千代　明三七、一生

男　增太郎　大二、二生

女　君子　大五、二生

女　芳子

君は福井縣人片山玉吉の弟にして明治六年三月を以て生れ同三十年分れて一家を創立す夙に大阪に出で米穀仲買商安達商店に務め在職十年よく主家の信用を得て遂に獨立同業を開始し今日に至る現時市内一流の店舗たり長女靜子(明三九、六生、大阪市立實科女學校出身)は分家し二女靜江(生年月同上、出身學校同上)は福井縣人岡本重圓に三女富江(同四一、六生、相愛高女出身)は大阪府人京極淨憲長男貞雄に嫁し七女清子(大七、七生)は同府人東新之助の養子となれり(大阪北、天神橋筋二ノ七〇電長北七四七八)

参照＝家島津佐州の項

片山三男三

新潟臨港警察監査役、新潟水力電氣株式會社支配人、新潟縣在籍

妻　ワカノ　明一六、一生、北海道、片山義式長女

男　泰男　明四三、五生

君は新潟縣人澤田可臟の三男にして明治六年十二月を以て生れ同三十年先代キンの入夫となり家督を相續す現時新潟水力電氣會社支配人にして前記會社の重役たり家族は尚三男正男(大元、一〇生)四男彦三(同六、八生)五男讓五(同八、六生)あり(新潟市學校町通二番町電二四九六)

片山通夫

從五位勳五等、判事、大阪地方裁判所部長、大阪府在籍

妻　カネ　明三四、七生、大分、大坪寅太長女

男　健　大一〇、三生

君は和歌山縣人片山省三の二男にして明治二十一年八月を以て生れ大正十五年兄哲方より分れて一家を創立す大正五年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し判事に任じ大阪地方兼同區高知地方兼同區京都區兼同地方各裁判所判事に歷補し大正十三年大阪地方裁判所部長となり今日に至る家族は尚二男潔(大一三、八生)長

女美代子(昭五、五生)あり(大阪、豐能、箕面村電五五)

参照＝片山哲の項

片山貢

十五銀行穂天王寺支店長　山口縣在籍

妻　艶　明二三、九生、山口、士、田中貞輔長女

男　陽二郎　大五、一〇生

君は鹿兒島縣士族田方源次郎の四男にして明治二十三年二月を以て生れ大正二年先代艶の入夫となり家督を相續す同四年京都帝國大學法科大學政治科を卒業し現時十五銀行天王寺支店長たり家族は尚長女道子(大七、一二生)三男章四郎(同一〇、一生)四男讓吉(同一二、八生)あり五男六也(同一四、九生)は外祖父田中貞輔の養子となれり(大阪、豐能、豐中町)

片山雄太郎

高知縣參事會員、宿毛釀造穂代表取締役、高知縣在籍

妻　貞　明三、五生、高知、野亜龜治姉

養子　忠　明三四、六生、高知、竹田熊太郎三男

婿　邦　明三八、一〇生、養子忠妻、高知原林太郎五女

君は高知縣人片山友七の長男にして元治元年十二月を以て生れ明治十七年家督を相續す現時宿毛釀造會社代表取締役にして高知縣參事會員に擧げらる家族は尚孫智津子(昭五、二生、養子忠長女)あり(高知、幡多、後川村)

参照＝野亜龜治の項

片山與太郎

長春商工會議所常議員、長春實業銀行穂專務取締役、長春建物穂監査役、熊本縣士族

妻　初　安政三、四生、熊本、士、上羽彌一郎二女

母　マス　明二三、四生、熊本、門田眞次郎六女

男　紀元　大四、二生

女　アサ子　大二、七生

君は熊本縣士族片山八來の長男にして明治六年七月を以て生れ大正四年家督を相續す現時前記銀行會社の重役にして推されて長春商工會議所常議員たり家族は尚三男勤(大五、八生)五男實(同一〇、四生)叔父次郎湊(元治元、一生)同妻カヅメ(明一五、一生、熊本、士、齋藤才四郎四女)及其二子叔母サチ(萬延元、三生)あり(長春、蓬萊町一ノ五)

片山義勝

正五位勳四等、法學博士、中央大學教授、日本產業、大東海上火災保險各穂監査役、京都府士族

妻　ヲウ　明一八、三生、新潟、片山貞次郎妹

養子　良三　昭三、七生、佐賀、深川七藏三男

女　夏子　大三、七生

君は京都府士族片山龜次郎の長男にして明治十年四月を以て生れ大正七年家督を相續す明治三十七年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し文官高等試驗に合格し農商務大臣祕書官兼參事官同書記官職時保險局長に歷任す其間二回歐米に差遣さる後官を辭し南滿洲鐵道會社に理事たりしも現時中央大學教授にして傍ら前記會社の重役を兼ね囊に朝鮮銀行理事大連整理部長たりし事あり大正八年法學博士の學位を授けらる「株式會社法論」「海商法通義」等の著あり長女文子(明三八、七生、雙葉高女出身)は佐賀縣人深川重吉三男七藏に二女百合子(同四三、二生、女子學習院出身)は山口縣人堀春一に嫁し弟三郎(同一二、六生)は其妻子を伴ひ分家せり(東京市外千駄ヶ谷町五六二電青山一八〇六)

参照＝片山三郎家國分三家の項

片山量平

從六位勳六等、朝鮮無煙炭穂取締役、日本鐵業穂炭油副部長、長崎縣士族

妻　しづ　明三、一〇生、長崎、士、峯忠四郎妹

繼母　マサ　明二三、一二生、靜岡、士、小野邦尚六女

男　尚弘　明四四、一生

君は長崎縣士族片山善三郎の二男にして明治十三年五月を以て生れ昭和五年家督を相續す明治三十九年東京帝國大學理科大學地質學科を卒業し直に陸軍省囑託となり日露戰役占領の南樺太を調査し百萬分の一地質圖を作製し後農商務省鑛山監督署技師となり仙臺鑛山監督署に在勤して大正三年滿蒙調査及山東に出征大正六年久原鑛業會社に入社後直ちに支那シベリヤ調査に從事し同七八年シベリヤ出征軍に從ひてシベリヤ調査をなす現時日本鑛業會社炭油副部長にして前記會社の重役たり家族は尚二男正雄(大三、三生)三男忠男(同五、九生)四男貴雄(同一〇、六生)五男本善(同一三、二生)の外弟弘行(同二、一一生)あり兄淳太郎(明九、一一生)は長崎縣人森豐之丞の養子となり姉ヨシ(同七、二生)は同縣士族松居敬吉に妹ミノ(同一七、五生)は同縣人鮎川武正に同スガ(同二〇、八生)は同縣人峯純香忠太郎に同タケ(同二四、一生)は同縣人峯純太郎に嫁せり(A四三八　東京、小石川、大塚窪町二四電長小石川四一六六)

参照＝家男爵八代五郎造の項

片寄源太郎

住友電線製造所穂副支配人　茨城縣在籍

母　たか　慶應三、七生、茨城、櫻井熊之助妹

妻　けい　明二九、三生、茨城、櫻井富太郎二女

男　愼二郎　大七、一二生

君は茨城縣人片寄寅吉の長男にして明治二十一年八月を以て生れ昭和二年家督を相續す明治四十四年東京高等商業學校を卒業し現時住友電線製造所副支配人たり家族は尚長女溫子(大一〇、八生)三男弘(同一三、八生)弟傳次郎(明二四、四生)同妻ちよ(同三〇、一生、茨城、川瀨昇長女)及其三男二女弟政之助(同二九、二生)同妻よね(同三三、一一生、茨城、八幡喜長衞四女)及其三女弟隆一(同三一、六生)同妻ひさ(同三九、二生、茨城、寺田勝太郎六女)及其一女弟慶次(同三三、五生)同錄郎(同三五、九生)あり(A三二九八、大阪、天王寺、茶臼山町一一一電天王寺一二三二)

参照＝家大河原雄吉の項

交野政邁

從四位、子爵、松坂屋穂取締役　舊公卿家

養父　時正　明一一、一生、從四位

妻　鎖　明三六、一〇生、愛知、伊藤次郎左衞門長女

男　政博　大一五、二生

當家は西洞院時慶の末子大膳大夫時貞の後なり時貞別に一家をなし交野と稱すそれより六世を經て先々代時萬に至り明治四年以來氷川神社日吉神社各大宮司宮中祇候御歌所參候等被仰付同十七年子爵を授けらる君實は子爵內藤政道の兄にして明治二十六年七月を以て生れ先代時正の養子となり大正七年襲爵す同十年京都帝國大學經濟學部を卒業し現時株式會社松坂屋取締役たり家族は尚長女民子(昭二、三生)二女君子(同五、三

生）あり（東京、芝、白金三光町四五〇電高輪五九六七）
參照＝子爵内藤政道、伊藤次郎左衛門家侯爵佐竹義春家伯爵室町公藤家子爵相良頼綱家子爵内藤政光家柏原孫左衛門家梁山茂の項

勝精

男　芳孝　從三位、伯爵、オリエンタル窯業工業株式會社取締役、淺野セメント、石川島飛行機製作所各種監査役、東京府華族
大四、五生
女　道子　明四二、一〇生、女子學習院出身
女　善子　明四四、二生、女子學習院出身
女　靜子　明四五、四生、女子學習院出身
女　中子　大二、七生、東京女學館在學
女　當子　大五、八生、女子學習院在學

當家は物部尾興の苗裔勝冠者季時の後鳳市郎左衛門時直の後なり時直德川氏に仕へ家名を揚ぐ安房舊名鱗太郎又義邦といひ海舟と號す幕末維新の際公武の間に處して大功あり明治以來參議海軍卿元老院議官樞密顧問官等に歴任せしも閑居して多く世に出でず同二十年特旨を以て華族に列し伯爵を授けらる君其後を享く君實は故公爵德川慶喜の十男にして當主慶光の叔父なり侯爵池田仲博男爵德川誠は其兄に伯爵大木喜福伯爵朽木綱博男爵荒尾博正男爵德川喜翰は其甥に當る明治二十一年八月を以て生れ同三十二年先代安房の養子となり家督を相續し翌年慶應義塾理財科に學び實業界に入り現時前記諸會社の重役たり銃獵投網を趣味とす姉妹いつ（萬延元、八生）は男爵目賀田綱美先代種太郎に嫁し亡養兄＝鹿妻たま（明元、二生、靜岡、士、齋藤太郎妹）は其女を伴ひ分家せり A五五〇〇（東京、赤坂、氷川町四電青山五一六七）
參照＝公爵德川慶光、侯爵池田仲博、伯爵大木喜福男爵朽木綱博、男爵荒尾博正、男爵德川喜翰男爵德川誠、男爵目賀田綱美家侯爵西郷從徳家侯爵四條隆愛家伯爵南部利英家伯爵德川達道家子爵池田清氣家子爵大河内輝耕家男爵松平齊光家神野金之助の項

勝正憲

正四位勳三等、衆議院議員（福岡縣選出）、福岡縣士族
明一九、一一生、福岡、飛工守人三女
妻　サダ

勝浦庄次郎

養父　庄平　慶應元、一生
妻　ツネ　明二一、四生、養父庄平長女
男　莊介　大三、六生

君は大阪府入梶山東作の四男にして明治十七年一月を以て生れ同四十二年勝浦庄平の養子となり大正十四年家督を相續し前名俊吉を改め阿波屋と稱し油類商を營む（大阪、港、富島町四六電西一一八三）
參照＝家藤井亥之助の項

勝島仙之介

正三位勳二等、歌舞學博士、東京帝國大學名譽教授、中央獸醫會長
東京府在籍

勝井善次郎

奈良縣多額納稅者、六十八銀行株監査役、農業、奈良縣在籍
明六、九生、大阪、兒山司直妹
明三二、一二生、養子千惠夫、大阪、南萬三郎二男
明三四、五生、養子美晴妻、亡兄貞藏長女
養子　千惠
養子　美晴

君は奈良縣人勝井芳太郎の二男にして明治九年十二月を以て生れ同四十一年姪千惠の後を襲ひ家督を相續す農業を營み傍ら六十八銀行監査役にして縣下の多額納稅者に列し直接國稅千九圓を納む家族は尚孫美惠子（大一〇、七生）二女光子（同一四、四生）あり弟操（明二六、三生、大阪高商出身）同妻宜（同三八、一〇生、京都、吉田義夫妹）は其子を伴ひ分家し弟立夫（同三〇、七生）も亦分家せり（大阪、北、堂島ビル三〇五號北二一一六）

勝田銀次郎

妻　よし
男　郎妹　明一〇、一一生、京都、山崎幸次

君は愛媛縣人勝田林次郎の長男にして明治六年十月を以て生れ同二十四年家督を相續す同二十七年青山學院

男　正信　大元、一一生
女　文子　明四二、四生

君は福岡縣士族勝平八郎の長男にして明治二十年五月を以て生れ大正九年家督を相續す明治三十八年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し大藏省に入り稅務監督官大藏書記官家同省參事官稅關長東京稅務監督局長海外駐在財務官等に歴任し大藏參與官となりしが昭和六年退官す曩に東京市助役に擧げらる衆議院議員に當選する事二回立憲民政黨所屬たり家族は尚從兄信太郎（明六、一〇生、亡叔父匡輔長男、醫師）同妻千代（同八、一生、大阪、燒田俊操二女）及其子女あり三男正智（大六、一一生）は東京府士族小宮次郎の養子となり（東京市外大井町鹿島谷三一五九電高輪一〇三六）
參照＝小宮次郎の項

勝井善次郎

奈良縣多額納稅者、六十八銀行株監査役、農業、奈良縣在籍
明六、九生、大阪、兒山司直妹
明三二、一二生、養子千惠夫、大阪、南萬三郎二男
明三四、五生、養子美晴妻、亡兄貞藏長女
養子　千惠
養子　美晴

君は奈良縣人勝井芳太郎の二男にして明治九年十二月を以て生れ同四十一年姪千惠の後を襲ひ家督を相續す農業を營み傍ら六十八銀行監査役にして縣下の多額納稅者に列し直接國稅千九圓を納む家族は尚孫美惠子（大一〇、七生）二女光子（同一四、四生）あり弟操（明二六、三生、大阪高商出身）同妻宜（同三八、一〇生、京都、吉田義夫妹）は其子を伴ひ分家し弟立夫（同三〇、七生）も亦分家せり（大阪、北、堂島ビル三〇五號北二一一六）

勝田銀次郎

妻　れい　明一三、九生、岐阜、山内富藏長女
養子　恒夫　明四一、三生、廣島、山本幸七四男

君は廣島縣人勝島宗兵衛の二男にして安政五年十月を以て生れ明治十年分れて一家を創立す同十六年農林學校を卒業し後農商務省に出仕し同二十年母校教授に任ぜられ同二十三年歐洲に留學し翌年帝國大學農科大學教授に任じ同三十二年獨學博士の學位を受け家畜內科同外科第一講座を擔任す現時同大學名譽教授及中央獸醫會長たり仙坡と號し詩を能くす（東京市外千駄ヶ谷町原宿一七〇電青山一一七六）
參照＝家日幡繼一の項

勝田永吉

妻　さとゑ
男　和男
女　徽美子
大五、一二生

君は大阪府人勝田悌三郎の二男にして明治二十一年十一月を以て生れ同三十九年明忠一方より分れて一家を創立す大正二年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し辯護士を開業し大阪辯護士會副會長大日本體育協會理事に擧げられ現時前記各會社の重役にして衆議院議員に當選する事二回立憲民政黨に屬す家族は尚二男俊男（大一〇、七生）二女光子（同一四、四生）あり弟操（明二六、三生、大阪高商出身）同妻宜（同三八、一〇生、京都、吉田義夫妹）は其子を伴ひ分家し弟立夫（同三〇、七生）も亦分家せり（大阪、北、堂島ビル三〇五號北二一一六）

衆議院議員（大阪府選出）、臺灣鳳梨栽培株式會社代表取締役、內外食品株式會社代表取締役、加島信託株式會社監査役、辯護士、大阪府在籍
明二八、九生、兵庫、丹山永治長女
大八、七生
妻
男
女

勝田孫彌

正五位勳六等、維新史料編纂官、鹿兒島縣士族
明六、一生、千葉、岩崎善右衛門長女
妻　けい　明三八、一九生、理學士、內務省衛生試驗所勤務
男　泰

君は廣島縣人勝田二三郎の長男にして明治八年六月を以て生れ大正五年家督を相續す現時推されて吳市長に選ばれ同三年分れて一家を創立す明治四十四年東京高等商業學校專攻部銀行科を卒業し直に日本銀行に入り審査部調査役營業局調査役大阪支店調査役秋田支店長を經て現時同行熊本支店長たり（熊本市日本銀行支店內）

勝田登一

吳市長
廣島縣在籍
母　ハル　嘉永六、一生、廣島、兒玉喜右衛門二女
妻　タカ　明一二、九生、廣島、松浦藏之助長女
男　友彦　明三三、三生
婦　俊子　明三九、七生、長男友彦妻、廣島宮崎俊太郎二女

君は廣島縣人勝田二三郎の長男にして明治八年六月を以て生れ大正五年家督を相續す現時推されて吳市長に選ばれ同三年分れて一家を創立す明治四十四年東京高等商業學校專攻部銀行科を卒業し直に日本銀行に入り審査部調査役營業局調査役大阪支店調査役秋田支店長を經て現時同行熊本支店長たり（熊本市日本銀行支店內）

勝田孫彌

正五位勳六等、維新史料編纂官、鹿兒島縣士族
明六、一生、千葉、岩崎善右衛門長女
妻　けい　明三八、一九生、理學士、內務省衛生試驗所勤務
男　泰

君は廣島縣人勝田二三郎の長男にして明治八年六月を以て生れ大正五年家督を相續す現時推されて吳市長に選ばれ同三年分れて一家を創立す明治四十四年東京高等商業學校專攻部銀行科を卒業し直に日本銀行に入り審査部調査役營業局調査役大阪支店調査役秋田支店長を經て現時同行熊本支店長たり（熊本市日本銀行支店內）

勝田孝興

從五位勳六等、同志社大學教授、島根縣士族
父　孫太郎　慶應二、三生、現戸主
母　フミ　明元、七生、島根、士、三浦周行姉
妻　富士子　明三三、九生、島根、大澤威雄妹
男　興洋　大一四、五生

君は島根縣士族勝田孫太郎の長男にして明治十九年九月を以て生る同四十四年東京帝國大學文科大學英文學科を卒業し同四十五年神奈川縣立横須賀中學校教諭に任じ千葉縣立佐倉中學校教諭商船學校教諭同教授山形高等學校教授等に歴任し昭和五年京都同志社大學英文學科教授に任じ現に其職にあり大正十四年歐米各國に留學し翌年歸朝す英語及英文學に關する著述十餘種あり家族は尚長女百合子（大二一、三生）二女明子（昭四、一生）弟民輝（明二四、一生、早大理工科出身）同妻サト（同三〇、七生、熊本、中島大平二女）及其子女弟實（同三〇、八生、神戸高商出身）同妻トミ（同四〇、二生、島根、松本寛之助五女）及其二子弟新豐（同三六、一生、神戸高等商船出身）同勝年（同三七、一生、國學院大學出身）妹清子（同三五、一生）あり妹奇鷹子（同三三、四生）は鳥取縣人柴田俊太郎養叔父誠一に嫁せり（京都、左京、下鴨中川原町五二）
參照＝三浦周行家眞先啓太郎の項

勝田竹松

壽賀竹、魚類商
東京府在籍
男　貞次郎　明三三、五生
婦　志津　明三八、七生、二男貞次郎妻、千葉、川島豐吉二女

な卒業し海運業を營む大正五年勝田商會を改めて勝田汽船會社を創立し其社長となりて今日に至り傍ら前記諸會社の重役にして實業界の重鎮たり兵庫縣多額納稅者に列す昭和五年衆議院議員に當選し立憲政友會所屬たり尚神戸市會議員神戸商工會議所議員に擧げられ又日本放送協會關西支部理事の要職に在り大正七年貴族院議員に互選せられ又義に神戸市會議長神戸商業會議所特別議員海運業組合長日本船主同盟會理事神戸市參事會員戰時船舶管理局評議員臨時財政經濟調査會臨時委員等に擧げらる姉ヨネ（慶應三、八生）は廣島縣人中川周吉の母たり A一六七二（神戸、上野四四六電葺合二九）

勝田孝興

從五位勳六等、同志社大學教授、島根縣士族
父　孫太郎　慶應二、三生、現戸主
母　フミ　明元、七生、島根、士、三浦周行姉
妻　富士子　明三三、九生、島根、大澤威雄妹
男　興洋　大一四、五生

君は島根縣士族勝田孫太郎の長男にして明治十九年九月を以て生る同四十四年東京帝國大學文科大學英文學科を卒業し同四十五年神奈川縣立横須賀中學校教諭に任じ千葉縣立佐倉中學校教諭商船學校教諭同教授山形高等學校教授等に歴任し昭和五年京都同志社大學英文學科教授に任じ現に其職にあり大正十四年歐米各國に留學し翌年歸朝す英語及英文學に關する著述十餘種あり家族は尚長女百合子（大二一、三生）二女明子（昭四、一生）弟民輝（明二四、一生、早大理工科出身）同妻サト（同三〇、七生、熊本、中島大平二女）及其子女弟實（同三〇、八生、神戸高商出身）同妻トミ（同四〇、二生、島根、松本寛之助五女）及其二子弟新豐（同三六、一生、神戸高等商船出身）同勝年（同三七、一生、國學院大學出身）妹清子（同三五、一生）あり妹奇鷹子（同三三、四生）は鳥取縣人柴田俊太郎養叔父誠一に嫁せり（京都、左京、下鴨中川原町五二）
參照＝三浦周行家眞先啓太郎の項

勝田竹松

壽賀竹、魚類商
東京府在籍
男　貞次郎　明三三、五生
婦　志津　明三八、七生、二男貞次郎妻、千葉、川島豐吉二女

勝田信

日本銀行株熊本支店長
東京府在籍
明三一、一二生、東京、士、中島恭藏長女、三輪田高女出身
大六、六生

君は東京府士族勝田保の五男にして明治二十一年八月を以て生れ大正十三年分れて一家を創立す明治四十四年東京高等商業學校專攻部銀行科を卒業し直に日本銀行に入り審査部調査役營業局調査役大阪支店調査役秋田支店長を經て現時同行熊本支店長たり（熊本市日本銀行支店內）

勝田信

日本銀行株熊本支店長
東京府在籍
明三一、一二生、東京、士、中島恭藏長女、三輪田高女出身
大六、六生

君は東京府士族勝田保の五男にして明治二十一年八月を以て生れ大正十三年分れて一家を創立す明治四十四年東京高等商業學校專攻部銀行科を卒業し直に日本銀行に入り審査部調査役營業局調査役大阪支店調査役秋田支店長を經て現時同行熊本支店長たり（熊本市日本銀行支店內）

勝田登一

吳市長
廣島縣在籍
母　ハル　嘉永六、一生、廣島、兒玉喜右衛門二女
妻　タカ　明一二、九生、廣島、松浦藏之助長女
男　友彦　明三三、三生
婦　俊子　明三九、七生、長男友彦妻、廣島宮崎俊太郎二女

君は廣島縣人勝田二三郎の長男にして明治八年六月を以て生れ大正五年家督を相續す現時推されて吳市長に選ばれ同三年分れて一家を創立す明治四十四年東京高等商業學校專攻部銀行科を卒業し直に日本銀行に入り審査部調査役營業局調査役大阪支店調査役秋田支店長を經て現時同行熊本支店長たり（熊本市日本銀行支店內）

勝沼精藏

正五位勳四等、名古屋醫科大學教授、靜岡縣在籍
母　けん　明元、靜岡、士、茂木銅之妹
妻　美代　明二六、七生、東京、士、高木玉太郎二女
男　晴雄　大五、三生
女　哲子　明三九、八生

君は靜岡縣士族勝沼五郎の長男にして明治十九年八月を以て生れ同三十一年家督を相續す同四十四年東京帝國大學醫科大學を卒業し大正八年愛知醫學專門學校教授となり愛知醫科大學教授を經て昭和六年名古屋醫科大學教授に任ぜらる家族は尚長女嘉都（大六、一〇生）二女陽子（同九、五生）三女昊子（同一一、五生）の外弟六郎（明三一、六生）同妻シヅ（同三九、三生、長崎、小島榊太郎四女）及其一男一女あり弟武男（同二二、一〇生）は栃木縣士族津田鐵之助に同新吾（同二九、四生）は東京府士族辻新太郎に各養子となれり（名古屋、東、七小町四電東三九三〇）
參照＝家川村多實二の項

勝沼精藏

正五位勳四等、名古屋醫科大學教授、靜岡縣在籍
母　けん　明元、靜岡、士、茂木銅之妹
妻　美代　明二六、七生、東京、士、高木玉太郎二女
男　晴雄　大五、三生
女　哲子　明三九、八生

君は靜岡縣士族勝沼五郎の長男にして明治十九年八月を以て生れ同三十一年家督を相續す同四十四年東京帝國大學醫科大學を卒業し大正八年愛知醫學專門學校教授となり愛知醫科大學教授を經て昭和六年名古屋醫科大學教授に任ぜらる家族は尚長女嘉都（大六、一〇生）二女陽子（同九、五生）三女昊子（同一一、五生）の外弟六郎（明三一、六生）同妻シヅ（同三九、三生、長崎、小島榊太郎四女）及其一男一女あり弟武男（同二二、一〇生）は栃木縣士族津田鐵之助に同新吾（同二九、四生）は東京府士族辻新太郎に各養子となれり（名古屋、東、七小町四電東三九三〇）
參照＝家川村多實二の項

勝野博三

中津川銀行、中津電氣各株監査役、勝野商店名代表社員、岐阜縣在籍
繼母　よしを　明元、九生、長野、大平三造三女
妻　よしの　明二四、五生、長野、黑田忠一四女
男　達郎　大一〇、一〇生
女　すま子　大三、七生
女　奈嘉子　大五、一生

君は岐阜縣人勝野七兵衛の長男にして明治十三年八月を以て生れ同三十五年家督を相續す夙に家業を繼ぎ生絲製造業に從事し後業務組織を變更して合名會社勝野商店と稱し其代表社員として傍ら前記銀行會社の重役たり家族は尚三女喜久子（大七、一〇生）三男道郎（同

一三、一生）四男恒三郎（同一四、二生）五男昭（昭一二、五生）六男茂雄（同四、九生）の外弟俊介（明二三、一二生、大井電氣會社員）同妻秀（同二九、五生、岐阜、田口百三長女）弟廉吉（同三〇、二生、經濟學士）同妻富（同三八、一一生、京都、飯田藤二郎四女、お茶の水高女出身）及び其一男弟直一（同三一、一〇生）あり妹まさ（同一六、一〇生）は東京府人篠崎都香佐に同もと（同二一、一生）は岡山縣人横山昌次郎に嫁し弟三平（同二六、一一生、慶大出身、株式仲買商）は同縣人妹尾與志夫の養子となれり（岐阜、惠那、中津町）

參照＝飯田藤二郎、篠崎都香佐、妹尾與志夫、田口百三※鮎川義介※飯田新太郎※飯田直次郎※飯田政之助※日比谷祐藏の項

勝野正魚（オサナ）

從四位勳二等功五級、陸軍中將、陸軍造兵廠火工廠長、東京府士族

母　みつ　嘉永六、一二生、茨城、士、關辰三郎二女

妻　清　明一八、一生、男爵平山洋三郎從姉

男　正治　明四四、一一生

君は東京府士族勝野正滿の長男にして明治十三年四月を以て生れ同三十八年家督を相續す同三十三年陸軍士官學校を卒業し陸軍砲兵第一聯隊附として從軍し第三軍司令部管理部副官に轉じ同三十九年軍事研究の爲獨逸に滯在し更に歐洲戰役狀況調査の爲墺太利に出張し陸軍省兵器局課員山砲兵第二聯隊長陸軍砲工學校教官同校砲兵科長等に補せられ昭和三年現職に轉す家族は尙二男泰正（大二、一〇生）あり妹まつ（明一九、六生）は東京府人南保愚次郎弟晋三郎に嫁し同なつ（同二五、七生）は分家せり（東京府外大久保町西大久保二七電四谷九〇）

參照＝男爵平山洋三郎※神戸德太郎の項

勝部重右衛門

地主　兵庫縣在籍

妻　ひで　明一四、八生、兵庫、三木半四郎二女

男　十逸　明三九、三生

當家は代々西宮に定住して古くより清酒醸造を業とし傍ら鹽販賣業を營む君は兵庫縣人武内紹進の長男にして明治六年十月を以て生れ先代重右衛門の養子となり同二十七年家督を相續して襲名す初め祖業を繼ぎしが後之を廢し地主たり二女綽（明三六、一一生、梅田高女出身）は廣島縣人三宅清人に嫁し二男十治（同四一、八生）は兵庫縣人勝部芳太郎の死跡を相續せり（西宮、東町三ノ四四）

勝部兵助

從五位勳六等、商工書記官兼臨時產業合理局事務官、貿易局貿易課長、東京府在籍

妻　てい　明三四、一〇生、東京、佐久間定吉長女

男　秀夫　大一二、一生

君は島根縣人勝部國之助の四男にして明治二十三年七月を以て生れ大正十一年兄善次郎方より分れて一家を創立す同五年文官高等試驗に合格し同六年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し愛知縣屬鐵務監督官臨時產業調査局事務官兼工場監督官鐵務官山林事務官國勢院事務官同書記官農商務事務官商工事務官特許局事務官兼商工事務官等に歷任し昭和二年商工書記官に任じ工務局工業課長を經て現時貿易局貿易課長にして臨時產業合理局事務官を兼ぬ家族は尙二男孝（昭四、三生）長女綾子（同一五、一一生）あり（東京、芝、二本榎西町二電高輪七五〇二）

勝部本右衛門

島根縣多額納稅者、松陽新報社副社長兼營業局長事業部長、農業島根縣在籍

妻　ミチ子　明三一、六生、島根、野田菅麿長女

男　暢浩　大四、二生

君は島根縣人勝部又一郎の四男岡崎國臣の弟にして明治二十二年七月を以て生れ先代本右衛門の養子となり大正二年家督を相續し前名義彰を改め襲名す夙に中央大學經濟科に學び同十三年松陽新報社に入り支配人兼營業局長となり現時同社副社長たり農を營み直接國稅千二百五十六圓を納め縣下の多額納稅者たり嘗て支那各地を視察し「南支那に遊びて」の著書あり家族は尙二女伊津子（大九、一一生）あり（松江、殿町電平田一三〇）

參照＝岡崎國臣の項

勝間田二見

中原村長、肥後蠶絲組合理事役、熊本縣士族

妻　エイ　明三〇、五生、鹿兒島、綾部俊夫叔父

男　勳　明三四、八生

婦　イヲ　明三七、八生、長男勳妻、宮崎、堀與恒三女

男　功　明三九、六生

君は熊本縣士族勝間田長次の長男にして明治二年二月を以て生れ同三十年家督を相續す中原村長にして前記各會社の重役たり家族は尙孫恭子（昭二、三生、長男勳長女）あり長女スナ（明二八、一二生）は熊本縣人宮崎政吉に三女文（同四四、一二生）は同縣人山本博に嫁し三男勝美（大八、二生）は島根縣人湯淺長輝に四男成人（同一二、一二生）は鹿兒島縣人大平ヒデに各養子となれり（熊本、球磨、中原村）

勝又春一

岳南組、土木建築請負業　靜岡縣在籍

妻　禮子　明四〇、五生、鳥取、佐藤元次郎養子

男　岩男　大一四、三生

養子　虎一　明三五、二生、養子あき夫、和歌山、星田小三郎二男

養子　あき　明四一、一〇生、養子虎一妻、靜岡、大石主計妹

君は靜岡縣人勝又甚四郎の四男にして明治二十五年三月を以て生れ大正九年兄喜太郎方より分れて一家を創立す岳南組と稱し土木建築請負業を營む家族は尙三男敏夫（昭二、二生）あり※A二四六七B五六〇（東京、麹町、永田町二ノ一電長銀座四八三六）

勝又松四郎

勳七等、千代田生命保險（互）北海道支部長、北海道在籍

妻　みさほ　明一四、一二生、新潟、勝又勝長女、廳立小樽高女囑託

養子　雄二　明二八、七生、宮城、山崎勘兵衛四男、陸軍歩兵大尉

婦　三枝　明三六、二生、養子雄二妻、北海道、藤野亮之助姉

君は秋田縣人加藤余之助の三男にして明治七年一月を以て生れ同三十五年先代勝の養子となり家督を相續す夙に若年より兵役に入り日清日露の兩役に出征し累進して特務曹長となり勳七等に敍せらる早稻田大學專門部法律科に學び明治三十九年千田代生命保險會社に入り大正六年北海道出張所長に任じ現に同社北海道支部長にして秋田縣人會長に推さる曩に小樽市會議員同參事會員に擧げらる書畫骨董を趣味とす家族は尙妻妹テルコ（明三二、六生）あり（小樽、花園町西四ノ一一電二一一三）

勝本忠兵衛

鋼鐵商　大阪府在籍

妻　エン　明六、一一生、大阪、小田儀兵衛二女

男　鼎一　明二九、三生、神戸商業大學講師、慶應義塾理財科出身

婦　ひさ　明三一、三生、長男鼎一妻、東京士、八田三郎二女、東京府立第三高女出身

君は大阪府人勝本吉兵衛の二男にして明治七年三月を以て生れ同二十四年家督を相續す鋼鐵商を營む家族は尙孫智子（大九、三生、長男鼎一長女）同郁子（同一一、一生、同二女）あり※A一五二五B八四（大阪、西、南堀江通一ノ三〇電櫻川七二九）

參照＝八田三郎の項

勝森達之助

廣島市參事會員、廣島商工會議所議員、大正信用組合理事、海產物商、廣島縣在籍

妻　カメヨ　明一五、八生、廣島、奥田左一郎二女

養子　豐一　明二六、四生、長女フミコ夫、廣島、新玉清次郎五男

女　フミコ　明三四、一〇生、養子豐一妻

君は廣島縣人先代達之助の長男にして明治十二年四月を以て生れ同四十二年家督を相續し前名四方吉を改め襲名す海產物商を營み傍ら大正信用組合理事廣島市參事會員廣島商工會議所議員たり家族は尙孫幸江（大一三、一〇生、養子豐一二女）同洋子（昭二、七生、同三女）弟信一（明二二、一一生）同妻義子（同二七、二生、廣島、山岡儀三郎二女）及其子女あり弟壓太郎（同一七三生）同妻キミ（同二一、二生、廣島、新玉勝吉妹）は其一子を伴ひ分家し弟亮市（同一九、一二生）も亦分家せり※A六九四（廣島市猫尾町七三電六五〇）

勝屋平三郎

正五位勳五等、鐵道局技師、東京鐵道局電氣課長、福岡縣在籍

妻　フジ　明二六、二生、福岡、石津和風長女

男　平一　大四、一生

女　ひさゑ　大二、五生

君は福岡縣人勝屋茂彦の三男にして明治十七年十月を以て生れ大正十一年兄茂太郎方より分れて一家を創立す明治四十二年京都帝國大學理工科大學電氣工學科を卒業しシーメンスシュケルト電氣會社門司支店筑紫水力電氣會社簿多電氣軌道會社等に入り同四十五年鐵道院技師に任じ大正十五年鐵道技師となり現に東京鐵道局電氣課勤務を經て昭和四年鐵道局技師となり現に東京鐵道局電氣課長たり同二年歐米各國に出張を命ぜらる家族は尙二男登（大八、五生）三男秀夫（同一一、九生）二女スミ（同一四、一生）四女智子（昭四、一〇生）あり（東京市外千駄ヶ谷町新町裏官舍）

勝山勝司

神榮生絲㈱專務取締役、帝國蠶絲倉庫、帝國蠶絲各㈱取締役、横濱取引所㈱理事、長野縣在籍

妻　キク　明二二、一〇生、東京、香川鉦次郎長女

女　濱子　明四三、一二生

女　洋子　大四、九生

君は長野縣人勝山忠兵衛の長男にして明治十二年十月を以て生れ大正八年家督を相續す明治三十九年京都帝國大學法科大學獨法科を卒業し日本郵船會社に入り累進して紐育支店長に擧げられしが後辭し現時前記各會社の重役たり家族は尙三女澄子（大六、九生）弟知森（明二四、九生）同妻幸子（同二八、一二生、長野、小林儀八妹）及其子女あり妹なゑ（同三一、四生）は栃木縣人岡田康次郎に嫁せり※A二五五三（兵庫、武庫、夙川村電西宮二七八）

勝山秀尾

正五位勳五等、特許局技師、特許局審査官、福井縣士族

妻　千百里　安政元、三生、現戸主文久三、二生、福井、士、高島仲二女

父　千百里　明二四、一生、福井、青木彌三右衛門二女

母　ステ　大七、二生

妻　タケチ

男　恒久

君は福井縣士族勝山千百里の長男にして明治十六年一月を以て生る同三十九年東京帝國大學實驗物理科を卒業し同四十二年特許局審査官補に任ぜられ現時特許局技師にして同審査官たり家族は尙ほ長女康子（大一〇、一一生）弟鐘美（明三三、七生）同妻トシ（同四一、一二生、福井、山本文香養子）及其一男あり妹淑（同一八、一二生）は福井縣人山田留太郎に同小里（同二四、五生）は同縣人前田數馬に同豐香（同三〇、七生）は同縣人青山秀三郎兄莊に同小積（同三六、一一生）は奈良縣人西本寛一に嫁せり（東京市外中野町桃園三三四三）

參照＝青山秀三郎、前田數馬の項

勝山益太郎

群馬縣多額納稅者、前橋商工會議所常議員、前橋牛乳、數鳥織物、上毛電燃組、上毛電氣鐵道、群馬無盡各㈱取締役、機業、群馬縣在籍

妻　たけ　明一一、六生、先々代善三郎長女

男　太郎　明三九、一一生

婿　智子　明四三、一一生、長男太郎妻、東京、篠崎甚太郎三女

男　壽郎　明四一、一一生

女　ふい　明四三、七生

女　喜與子　大四、三生

君は埼玉縣人木村忠二の長男にして明治十年三月を以て生れ同三十七年先代たけの入夫となり家督を相續す機業を營み群馬縣多額納稅者にして前橋商工會議所常議員に推され傍ら前記各會社の重役たり家族は尙孫昭五（昭五、二生、長男太郎長男）あり長女こう（明三七、三生）同夫憲夫（同三五、四生、群馬、原紋太郎四男）は其一女を伴ひ分家せり（前橋、曲輪町）

參照＝※荒井政太郎の項

葛城茂麿

從四位勳一等、伯爵、陸軍歩兵少將、山階宮家御一門

君は故大勳位山階宮菊麿王の第五王子にして山階宮武彦王殿下侯爵山階芳麿侯爵筑波藤麿伯爵鹿島萩麿の弟なり明治四十一年四月を以て生れ昭和四年十二月情願を允され臣籍に降下し葛城の家名を賜り華族に列し伯爵を授けらる（東京、麹町、富士見町五ノ三電九段一二三）

參照＝山階宮家、侯爵筑波藤麿、侯爵山階芳麿、伯爵鹿島萩麿の項

葛西勝彌

從五位勳六等、農學博士、北海道帝國大學教授、農學部勤務、滿鐵獸疫研究所々長、朝鮮總督府獸疫血清製造所囑託、北海道廳囑託、岩手縣士族

妻　はる　明二七、四生、東京、水谷初太郎妹

男　晴雄　大六、三生

女　卯多　大四、七生

君は岩手縣人出淵勝次の弟なり明治十八年一月を以て生れ先代精一の養子となり同三十二年家督を相續す同四十三年東京帝國大學農科大學獸醫科を卒業し大正六年東北帝國大學助教授となり同十三年更に北海道帝國大學教授に任ぜられ今日に至る同六年米佛英各國に留學を命ぜられ同十年歸朝昭和六年再度歐米に出張を命ぜらる竟に農學博士の學位を受く家族は尙二男武雄（大一一、一生）あり養父精一（明八、七生）は東京府人鹿島岩藏の養子となれり（札幌、北五條西一八ノ一）

参照＝出淵勝次の項

葛西孝章

従五位勳六等、仙臺高等工業學校教授、生徒主事、宮城縣在籍

安政元、二生、宮城、山内今朝治二女

母　しめ　明二四、二生、宮城、阿部六之助三女

妻　まつよ

男　純孝　明四二、九生

君は宮城縣人葛西吳牛の長男にして明治十四年三月を以て生れ大正十三年家督を相續す明治四十二年東京帝國大學文科大學哲學科を卒業し大正四年東北帝國大學工學部專門部教授に任じ現時仙臺高等工業學校教授にして昭和三年同校生徒主事に補せらる家族は尙二男龍郎（大四、一〇生）二女綾子（同八、五生）の外弟憲道（明二八、一二生）同妻ヒサシ（同三七、二生、宮城、千葉秋男妹）あり（仙臺、琵琶首新丁一五）

葛西豐吉

日支商事㈱專務取締役、千代田商行㈱監査役、青森縣在籍

明二二、五生、青森、葛西岩太郎長女

妻　ヒサ　大八、一〇生

男　恒一

女　義枝　大三、一二生

君は青森縣人吉田由太郎の二男にして明治十九年九月を以て生れ大正三年先代ヒサの入夫となり家督を相續す明治四十五年慶應義塾を卒業し現時日支商事會社專務取締役たり家族は尙二女幸（大六、九生）あり（東京市外淀橋町柏木一〇五七）

葛西萬司

工學博士、工事設計監督業

岩手縣士族

安政三、一一生、岩手、士、神岩太郎姉

養母　キヨ

養子　堅三郎　明二二、一〇生、長女フミ夫、宮城、菱沼清吉二男

女　フミ　明二四、七生、養子堅三郎妻

養子　重子　大二、三生、東京、山田はる私生子

葛西家は先代重雄に至り家名を揚ぐ重雄は稀南部藩士にして夙に工部省に入り次で古河鑛業部に聘せられ各地の銅山及銀山に勤務し採鑛製煉其他に新規軸を出し傍ら殖林事業を創む後古河家管事に擧げられ家政相談役を兼ぬ君實は岩手縣人鴨澤恒の弟にして文久三年七月を以て生れ先代重雄の養子となり大正十四年家督を相續す明治二十三年帝國大學工科大學建築科を卒業し大正四年工學博士の學位を授けらる工事設計監督業を營み現時丸ノ内二ノ一四に建築設計事務所を經營す家族は尙孫けい子（大七、五生、養子堅三郎長女）同庸子（同一三、二生、同二女）同重哉（同九、五生、同長男）同庸子（同一三、二生、同二女）同文夫（昭二、七生、同堅二（同一四、九生、同二男）同文夫（昭二、七生、同三男）あり（東京市外瀧野川町中里二七五電小石川八七七）

参照＝氣佐々木重兵衛氣長岡寛統の項

葛西勇一郎

松坂屋㈱査部長、岐阜縣在籍

明二五、三生、東京、猿橋儀太郎妹　ちよう

妻

君は岐阜縣人葛西勇次の三男にして明治十二年三月を以て生れ大正七年兄勇作方より分れて一家を創立す夙に松坂屋に入り累進し現時上野支店營業部次長兼調査部長たり（東京、小石川、駕籠町九二電大塚二三二〇）

葛西麟平

福島釀造㈱社長、富名釀造㈱監査役、青森縣在籍

明七、一生、青森、葛西林兵衛長女　スナ

妻

君は青森縣人千葉多吉の二男にして明治九年一月を以て生れ後葛西家に入り同四十五年家督を相續す現時前記各會社の重役たり叔母ヤシ（弘化四、一二生）は青森縣人葛西政五郎の母たり（青森、西津輕、木造町）

葛野春雄

日本鋼製建具㈱取締役會長

東京府士族

明八、六生、東京、水島尙妹　こう

妻

明三四、四生、東京、藤田誠一郎三男、工學士

養子　五郎

君は東京府士族鵜飼守三の長男にして文久二年七月を以て生れ先代定睦の養子となり家督を相續す現に前記會社の重役たり家族は尙孫篤子（大一五、一二生、養子五郎長女）同房弘（昭三、一二生、同長男）あり（東京本郷、弓町一二ノ六電小石川二三八九）

参照＝氣上妻理人の項

桂久藏

北海道多額納稅者、繩莚商並漁業

北海道在籍

明七、一生、北海道、士、江口仲太郎妹　トヨ

妻

明三〇、三生　武太郎

明三三、五生、長男武太郎妻、東京、土肥竹次郎長女　幸

婿

明三二、六生　あい

女　敦子　明三九、九生

女

明四二、四生　鐵藏

男

君は北海道人先代久藏の長男にして明治五年一月を以て生れ同三十三年家督を相續し前名貫五郎を改め襲名す繩莚商並漁業を營み直接國稅六千三百四十一圓を納め北海道多額納稅者たり家族は尙孫哲郎（大一〇、七生、長男武太郎長男）同悅郎（同一三、八生、同二男）同寛（同一五、一一生、同三男）あり長女イト（明二四、一〇生）は北海道人魚井邦太郎二男幸吉に嫁し二女マサ（同二六、一二生）は其七女を伴ひ從弟善五郎（同八、八生）同妻ジン（同一〇、二生、北海道、兒島直太郎二女）は共に各分家せり（函館、辨天町三九電五五〇）

桂孝齋

廣島縣多額納稅者、農業

廣島縣在籍

明一三、一〇生、廣島、世良靜一妹　アサ

妻

明三八、一一生　男　克巳

明四〇、一〇生　男　博子

明四二、一二生　女

君は廣島縣人桂良兵衛の三男にして明治七年十二月を以て生れ同三十五年家督を相續す農業を營み現に廣島縣多額納稅者たり曩に郡參事會員比婆銀行專務取締役其他各種の公職に擧げらる家族は尙三男充協（大二、一生）四男文三（同四、二生）五男大三（同九、一生）あり長女史子は天野進作に二女榮は梶本金平に三女英子

嬉　喜美江　明三八、五生、養子五郎妻、東京小山以德長男、東洋高女出身

君は東京府士族鵜飼守三の長男にして文久二年七月を以て生れ先代定睦の養子となり家督を相續す現に前記會社の重役たり家族は尙孫篤子（大一五、一二生、養子五郎長女）同房弘（昭三、一二生、同長男）あり（東京本郷、弓町一二ノ六電小石川二三八九）

参照＝氣上妻理人の項

桂久藏

北海道多額納稅者、繩莚商並漁業

北海道在籍

明七、一生、北海道、士、江口仲太郎妹　トヨ

妻

明三〇、三生　武太郎

明三三、五生、長男武太郎妻、東京、土肥竹次郎長女　幸

婿

明三二、六生　あい

女　敦子　明三九、九生

女

明四二、四生　鐵藏

男

君は北海道人先代久藏の長男にして明治五年一月を以て生れ同三十三年家督を相續し前名貫五郎を改め襲名す繩莚商並漁業を營み直接國稅六千三百四十一圓を納め北海道多額納稅者たり家族は尙孫哲郎（大一〇、七生、長男武太郎長男）同悅郎（同一三、八生、同二男）同寛（同一五、一一生、同三男）あり長女イト（明二四、一〇生）は北海道人魚井邦太郎二男幸吉に嫁し二女マサ（同二六、一二生）は其七女を伴ひ從弟善五郎（同八、八生）同妻ジン（同一〇、二生、北海道、兒島直太郎二女）は共に各分家せり（函館、辨天町三九電五五〇）

桂孝齋

廣島縣多額納稅者、農業

廣島縣在籍

明一三、一〇生、廣島、世良靜一妹　アサ

妻

明三八、一一生　男　克巳

明四〇、一〇生　男　博子

明四二、一二生　女

逸人

君は廣島縣人桂良兵衛の三男にして明治七年十二月を以て生れ同三十五年家督を相續す農業を營み現に廣島縣多額納稅者たり曩に郡參事會員比婆銀行專務取締役其他各種の公職に擧げらる家族は尙三男充協（大二、一生）四男文三（同四、二生）五男大三（同九、一生）あり長女史子は天野進作に二女榮は梶本金平に三女英子は木原德に四女節子（明三六、八生）は廣島縣人向西兵庫養子幹造に嫁せり（廣島市日島西中町六二）

参照＝世良靜一、向西兵庫家金田平長衛の項

桂貞陽

十五銀行㈱京都支店長兼堀川支店長、京都府在籍

安政四、一生、現戸主　父　吉之丞

文久三、一生、京都、石川助一郎二女　母　きく

明二四、六生、京都、杉本米三郎女　妻　アサ

大一二、七生　爲

男

君は京都府人桂吉之丞の長男にして明治十四年十二月を以て生る同四十一年京都帝國大學法科大學經濟學科を卒業し京都商工銀行に入り商工貯蓄銀行支配人を經て現時十五銀行京都支店長たり家族は尙長女京子（大八、三生）妹こま（明二二、三生）あり同八重（同一七、七生）は京都府人田中善之助に嫁せりA一〇六（京都、南桑田、保津村）

桂重孝

安田銀行㈱岩國支店長

山口縣士族

明一五、五生、山口、三上好右衛門三女　マツ

妻

明四三、一一生　重臣　男

君は山口縣士族桂重華の庶子にして明治十一年六月を以て生れ同三十三年家督を相續す夙に日本商業銀行に入り岩國門司各支店次長等に歷任せしが安田銀行に合併後昭和二年同行岩國支店長となり今日に至る妹ヨネ（明一四、九生）は廣島縣人中井倉吉に嫁せり（山口、玖河、岩國町）

桂善助

こい善、醬油商

大阪府在籍

嘉永六、七生、大阪、入江芳兵衛長女　イイ

妻

明一〇、三生、大阪、高橋惣助養子　ヨネ

男　善治郎

明二八、一一生　婿　菅子

明三四、一生、長男善治郎妻、大阪、小山定助長女

明三八、八生　勇　俊藏

明四一、六生、生母、大阪、福原テル　庶子　鑑

君は大阪府人先代善助の長男にして明治七年一月を以て生れ同二十五年家督を相續し襲名して前名善次郎を改むこい善と稱し醬油商を營む家族は尙孫良子（大九、一〇生、長男善治郎長女）あり姉シナ（明四、一一生）は其一女を伴ひ弟龍造（同一九、二生）は同妻鷹（同二五、三生、大阪、菊田藤七妹）と共に各分家し庶子善藏（大四、一〇生、生母、大阪、福原テル）は其生母の家籍に入り同茂（明四〇、二生、生母同上）は大阪府人星田治夫に嫁せり（大阪、南、鹽町通三ノ四電船場一〇五〇）

参照＝菊田藤七、小山定助氣梅本利右衛門の項

桂蘇一郎

福津海上火災保險㈱取締役兼支配人、熊本縣士族

安政六、八生、現戸主　父　猪八郎

萬延二、五生、熊本、士、西郷次郎七長女　母　キヨユ

明二八、七生、熊本、士、村上又次郎三女　妻　チカ

大八、三生　男　正昭

君は熊本縣士族桂猪八郎の長男にして明治二十二年一月を以て生る大正二年東京帝國大學法科大學經濟學科を卒業し現に福津海上火災保險會社取締役兼支配人たり家族は尙長女百合（大一〇、一生）三女曾子（昭三、七生）二男正立（同五、八生）弟秀雄（明二四、一〇生）同妻ツユキ（同三二、二生、熊本、今川興長女）及其三男弟昌俊（同三〇、四生）同正美（同四〇、三生）あり姉タツ（同一九、一二生）は熊本縣人金子重彦長男重寛に妹マツ（同三一、四生）は同縣人廣瀨哲夫に嫁せりA四四二（大阪、港、五條通二ノ二五電西二五九九）

桂秀三

醫學博士、桂整形外科病院長、西池袋病院長、慶應義塾大學醫學部講師、東京府在籍

明三一、九生、男爵古市公威三女　和歌子　妻

明三、一生　男　秀威

昭二、一二生

君は東京府人桂秀馬の長男にして新潟縣の素封家桂恕佑家の支流なり明治二十二年九月を以て生れ同四十四年家督を相續す大正六年東京帝國大學醫學部を卒業し後醫學博士の學位を授けらる同十一年渡歐佛國巴里に於て御遣藤の朝香宮鳩彦王北白川宮妃房子內親王兩殿下の御治療に從事し歸朝後慶應義塾大學醫學部整形外科教授となりしも後之を辭し專心桂病院を經營し傍ら慶應義塾大學醫學部講師たり「實用整形外科學」「レントゲン圖譜」の著あり家族は尙長女幾子（大一〇、八生）二女信子（同一三、一二生）あり妹糸（明三二、九生）は故男爵三宮錫馬の選定相續人となり夫周六を迎ふ（東京、小石川、大塚窪町二九電小石川四八二）

参照＝男爵古市公威氣子爵瀧脇宏光氣瀨川昌世氣野田俊作の項

桂恕佑

新潟縣多額納稅者、農業

新潟縣士族

明一五、七生、新潟、高澤省悟妹　譽子　セ

男　譽逢

明四四、八生

君は新潟縣士族桂譽恕の二男にして明治八年一月を以て生れ同三十七年兄譽輝の後を承け家督を相續す累代舊新發田藩の大庄屋たり縣下屈指の大地主にして農業を營み現に新潟縣多額納稅者に列し直接國稅二萬二千二百八十三圓を納む家族は尙三男佑寧（大五、三生）二女サチ（同七、九生）亡兄譽輝妻エク（明一六、八生、新潟、佐藤佐平次三女）あり長女サト（同四一、六生）は新潟縣人村山佐久良に嫁し弟宗佑（同九、一生）同妻カウ（同二〇、七生、新潟、大森佐七郎二女）は其一子を伴ひ弟恕憲（同一〇、五生）同妻キク（同二三、一一生、新潟、士、堀川重治妹）も亦其一子を伴ひ各分家し叔母トイ（安政元、三生）は新潟縣人田澤孝次の家籍に入り妹アツ（明一四、一生）は同縣人目黒文平兄孝平の未亡人たり（新潟、中蒲原、新津町）

参照＝堀川重治、目黒文平氣石塚發一の項

桂廣太郎

正五位、公爵

東京府華族

明八、二生、侯爵井上三郎繼母　繼母　かな

明二〇、九生　男爵新田義美姉　母　てい

當家は先代太郎より驅る太郎は舊由日藩士にして戊辰の役奥羽鎭撫總督となり後爵逸に留學し歸朝後陸軍大尉に任ぜられ大將に累進す太政官書記官同大書記官參謀本部管西局長陸軍省總務局長陸軍次官第三師團長臺灣總督陸軍大臣內閣總理大臣（三回）兼大藏大臣兼拓殖局總裁侍從長兼內大臣等に歷任し日清戰役の功に依り華族に列し子爵を授けられ日英同盟締結の功に依り伯爵に日露戰役の功に依り侯爵に韓國併合の功に依り公爵に陞され從一位大勳位功三級に敍す大正二年立憲同志會を組織す君は太郎の孫にして故與一の長男なり明